

首都圏中央連絡自動車道
戸田高架橋耐震補強工事

設 計 図

【東金IC Aランプ橋】

令和8年9月

東日本高速道路株式会社
関東支社市原管理事務所

図 面 目 次

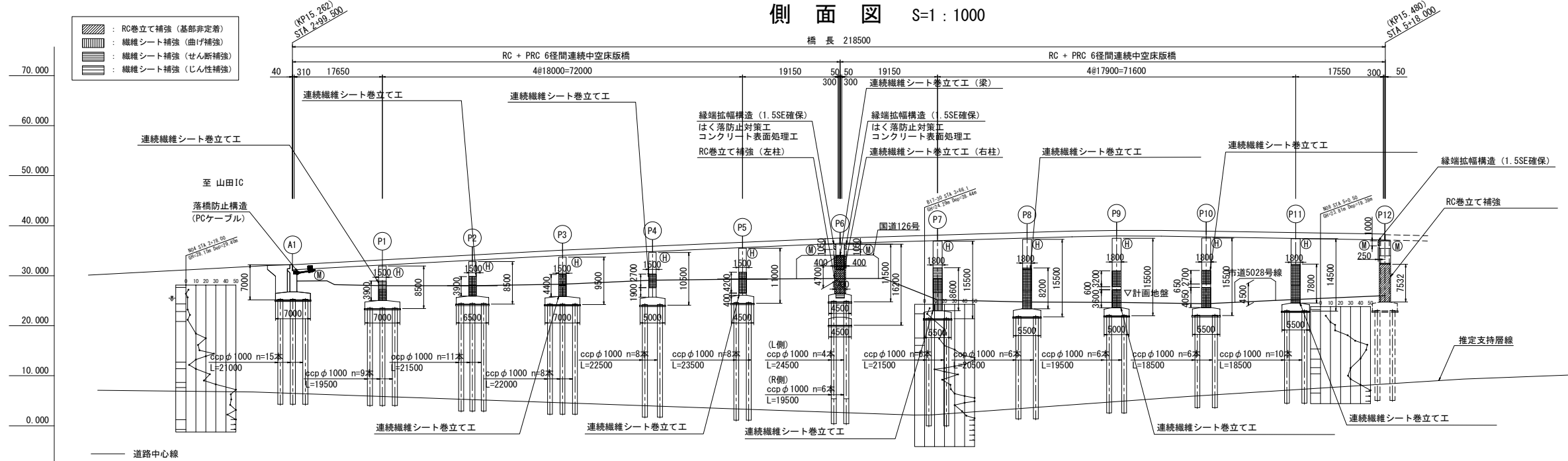
図 面 名	図 番	図 面 名	図 番
1 . 東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図(その1～9)	1 ～ 9	31 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図	42
2 . 東金IC Aランプ橋 P1橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	10	32 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚(終) 縁端拡幅工B詳細図	43
3 . 東金IC Aランプ橋 P2橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	11	33 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図	44
4 . 東金IC Aランプ橋 P3橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	12	34 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図	45
5 . 東金IC Aランプ橋 P4橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	13	35 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 縁端拡幅工B詳細図	46
6 . 東金IC Aランプ橋 P5橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	14	36 . 東金IC Aランプ橋 A2橋台 縁端拡幅工B詳細図	47
7 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	15	37 . 東金IC Aランプ橋 A1橋台 落橋防止構造P1配置図	48
8 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 RC巻立て補強一般図	16	38 . 東金IC Aランプ橋 A1橋台 落橋防止構造P1構造図(その1)(参考図)	49
9 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 RC巻立て補強配筋図	17	39 . 東金IC Aランプ橋 A1橋台 落橋防止構造P1構造図(その2～3)	50 ～ 51
10 . 東金IC Aランプ橋 P7橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	18	40 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 落橋防止構造P1配置図	52
11 . 東金IC Aランプ橋 P8橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	19	41 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 落橋防止構造P1構造図(その1)(参考図)	53
12 . 東金IC Aランプ橋 P9橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	20	42 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 落橋防止構造P1構造図(その2～3)	54 ～ 55
13 . 東金IC Aランプ橋 P10橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	21	43 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 落橋防止構造P1配置図	56
14 . 東金IC Aランプ橋 P11橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	22	44 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 落橋防止構造P1構造図(その1)(参考図)	57
15 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚 RC巻立て補強一般図	23	45 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 落橋防止構造P1構造図(その2～3)	58 ～ 59
16 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～2)	24 ～ 25	46 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3配置図	60
17 . 東金IC Aランプ橋 P13橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	26	47 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3構造図(その1)(参考図)	61
18 . 東金IC Aランプ橋 P14橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	27	48 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3構造図(その2～4)	62 ～ 64
19 . 東金IC Aランプ橋 P15橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	28	49 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図(その1～2)	65 ～ 66
20 . 東金IC Aランプ橋 P16橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	29	50 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 横変位拘束構造M詳細図(その1～2)	67 ～ 68
21 . 東金IC Aランプ橋 P17橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	30	51 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図(その1～2)	69 ～ 70
22 . 東金IC Aランプ橋 P18橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	31	52 . 東金IC Aランプ橋 A2橋台 横変位拘束構造M詳細図(その1～2)	71 ～ 72
23 . 東金IC Aランプ橋 P19橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	32	53 . 東金IC Aランプ橋 下部工施工要領図(参考図)(その1～3)	73 ～ 75
24 . 東金IC Aランプ橋 P20橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	33	54 . 東金IC Aランプ橋 上部工施工要領図(参考図)(その1～3)	76 ～ 78
25 . 東金IC Aランプ橋 P21橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	34	55 . 東金IC Aランプ橋 コンクリート打設要領図(参考図)	79
26 . 東金IC Aランプ橋 P22橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図	35	56 . 東金IC Aランプ橋 P1橋脚 構造物掘削図	80
27 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚 RC巻立て補強一般図	36	57 . 東金IC Aランプ橋 P2橋脚 構造物掘削図	81
28 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～2)	37 ～ 38	58 . 東金IC Aランプ橋 P3橋脚 構造物掘削図	82
29 . 東金IC Aランプ橋 P24橋脚 RC巻立て補強一般図	39	59 . 東金IC Aランプ橋 P4橋脚 構造物掘削図	83
30 . 東金IC Aランプ橋 P24橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1～2)	40 ～ 41	60 . 東金IC Aランプ橋 P5橋脚 構造物掘削図(特殊部)	84

図 面 目 次

図 面 名	図 番	図 面 名	図 番
61 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 構造物掘削図(特殊部)	・ ・ ・ ・ 85	91 . 東金IC Aランプ橋 P9橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 115
62 . 東金IC Aランプ橋 P7橋脚 構造物掘削図(特殊部)	・ ・ ・ ・ 86	92 . 東金IC Aランプ橋 P10橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 116
63 . 東金IC Aランプ橋 P8橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 87	93 . 東金IC Aランプ橋 P11橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 117
64 . 東金IC Aランプ橋 P9橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 88	94 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 118
65 . 東金IC Aランプ橋 P10橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 89	95 . 東金IC Aランプ橋 P13橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 119
66 . 東金IC Aランプ橋 P11橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 90	96 . 東金IC Aランプ橋 P14橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 120
67 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 91	97 . 東金IC Aランプ橋 P15橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 121
68 . 東金IC Aランプ橋 P13橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 92	98 . 東金IC Aランプ橋 P16橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 122
69 . 東金IC Aランプ橋 P14橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 93	99 . 東金IC Aランプ橋 P17橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 123
70 . 東金IC Aランプ橋 P15橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 94	100 . 東金IC Aランプ橋 P18橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 124
71 . 東金IC Aランプ橋 P16橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 95	101 . 東金IC Aランプ橋 P19橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 125
72 . 東金IC Aランプ橋 P17橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 96	102 . 東金IC Aランプ橋 P20橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 126
73 . 東金IC Aランプ橋 P18橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 97	103 . 東金IC Aランプ橋 P21橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 127
74 . 東金IC Aランプ橋 P19橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 98	104 . 東金IC Aランプ橋 P22橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 128
75 . 東金IC Aランプ橋 P20橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 99	105 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 129
76 . 東金IC Aランプ橋 P21橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 100	106 . 東金IC Aランプ橋 P24橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 130
77 . 東金IC Aランプ橋 P22橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 101	107 . 東金IC Aランプ橋 A1橋台 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 131
78 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 102	108 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 132
79 . 東金IC Aランプ橋 P24橋脚 構造物掘削図	・ ・ ・ ・ 103	109 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 133
80 . 東金IC Aランプ橋 P5橋脚 仮設構造物詳細図	・ ・ ・ ・ 104	110 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 134
81 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 仮設構造物詳細図(参考図)	・ ・ ・ ・ 105	111 . 東金IC Aランプ橋 A2橋台 上部工施工用足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 135
82 . 東金IC Aランプ橋 P7橋脚 仮設構造物詳細図	・ ・ ・ ・ 106	112 . 東金IC Aランプ橋 塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図(その1～6)	・ ・ ・ ・ 136 ～ 141
83 . 東金IC Aランプ橋 P1橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 107	113 . 東金IC Aランプ橋 桁端切欠き工図	・ ・ ・ ・ 142
84 . 東金IC Aランプ橋 P2橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 108	114 . 東金IC Aランプ橋 交通保安要員配置図(参考図)(その1～4)	・ ・ ・ ・ 143 ～ 146
85 . 東金IC Aランプ橋 P3橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 109	115 . 東金IC Aランプ橋 P12橋脚 既設炭素巻立て撤去工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 147
86 . 東金IC Aランプ橋 P4橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 110	116 . 東金IC Aランプ橋 A1橋台 補修図	・ ・ ・ ・ 148
87 . 東金IC Aランプ橋 P5橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 111	117 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 補修図	・ ・ ・ ・ 149
88 . 東金IC Aランプ橋 P6橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 112	118 . 東金IC Aランプ橋 P14橋脚 補修図	・ ・ ・ ・ 150
89 . 東金IC Aランプ橋 P7橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 113	119 . 東金IC Aランプ橋 P23橋脚 補修図	・ ・ ・ ・ 151
90 . 東金IC Aランプ橋 P8橋脚 足場工図(参考図)	・ ・ ・ ・ 114		

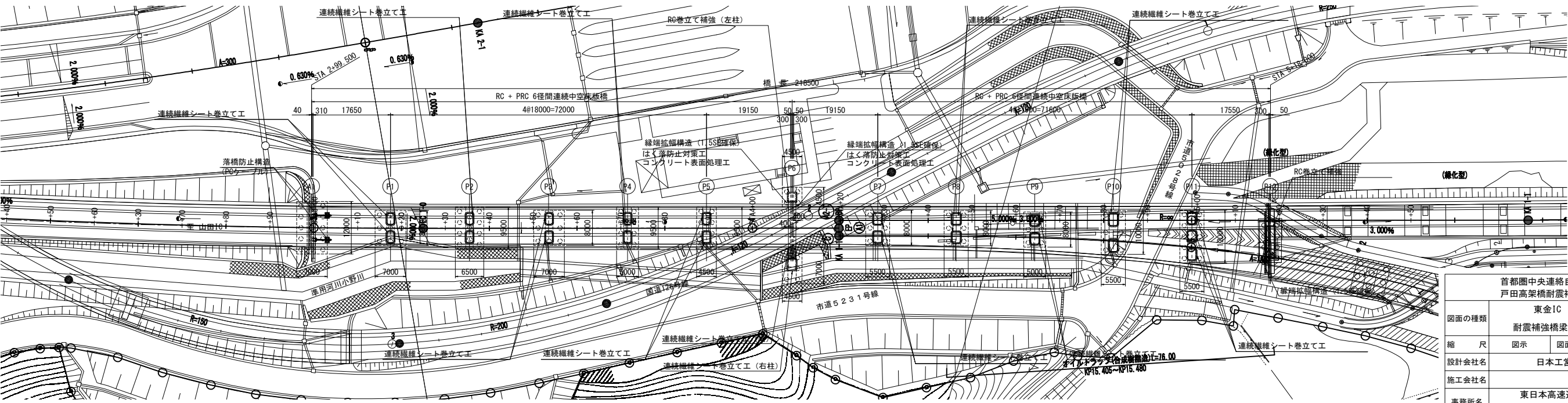
東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図 (その1)

側 面 図 S=1 : 1000



平面線形曲率図	R=2000 L=215.612																																						
片勾配すり付図	2.0% 0.005% 4.19.681 0.045% 2.0%																																						
測点	+70-	+80-	+90-	(A1) +99.5 8.500 299.500 0.500 300.000	+10-	(P1) +17.5- 7.500 317.500 2.500 320.000	+20-	+30-	(P2) +35.5- 5.500 335.000 4.500 340.000	+40-	+50-	(P3) +53.5- 3.500 353.000 6.500 360.000	+60-	+70-	(P4) +71.5- 1.500 371.500 8.500 380.000	+80-	(P5) +89.5 9.500 389.500 0.500 390.000	+90-	+400-	(P6) +9.0- 9.000 409.000 1.000 410.000	(P7) +19.681 9.681 419.681 0.319 420.000	(P8) +46.4- 6.400 446.400 3.600 450.000	(P9) +64.3- 4.300 464.300 5.700 470.000	(P10) +82.2- 2.200 482.200 10.000 500.000	(P11) +0.1 0.100 500.100 9.900 510.000	(P12) +18- 8.000 518.000 2.000 520.000	+30-	+40-											
累加距離	10.000	10.000	10.000	8.500	10.000	2.500	10.000	3.500	4.500	10.000	3.500	6.500	8.500	9.500	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000												
地盤高	28.70	28.70	28.70	28.70	26.90	25.20	25.20	25.20	25.50	25.50	25.50	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10	25.10												
計画高	30.716	31.216	31.716	32.191	32.716	33.091	33.216	33.716	34.216	34.716	35.216	35.716	36.216	36.716	37.116	37.456	37.491	37.806	37.841	37.881	38.053	38.128	38.351	38.434	38.526	38.651	38.689	38.726	38.751	38.750	38.726	38.651	38.650	38.526	38.351	38.330	38.351	38.126	37.851
計	交点 交点																																						

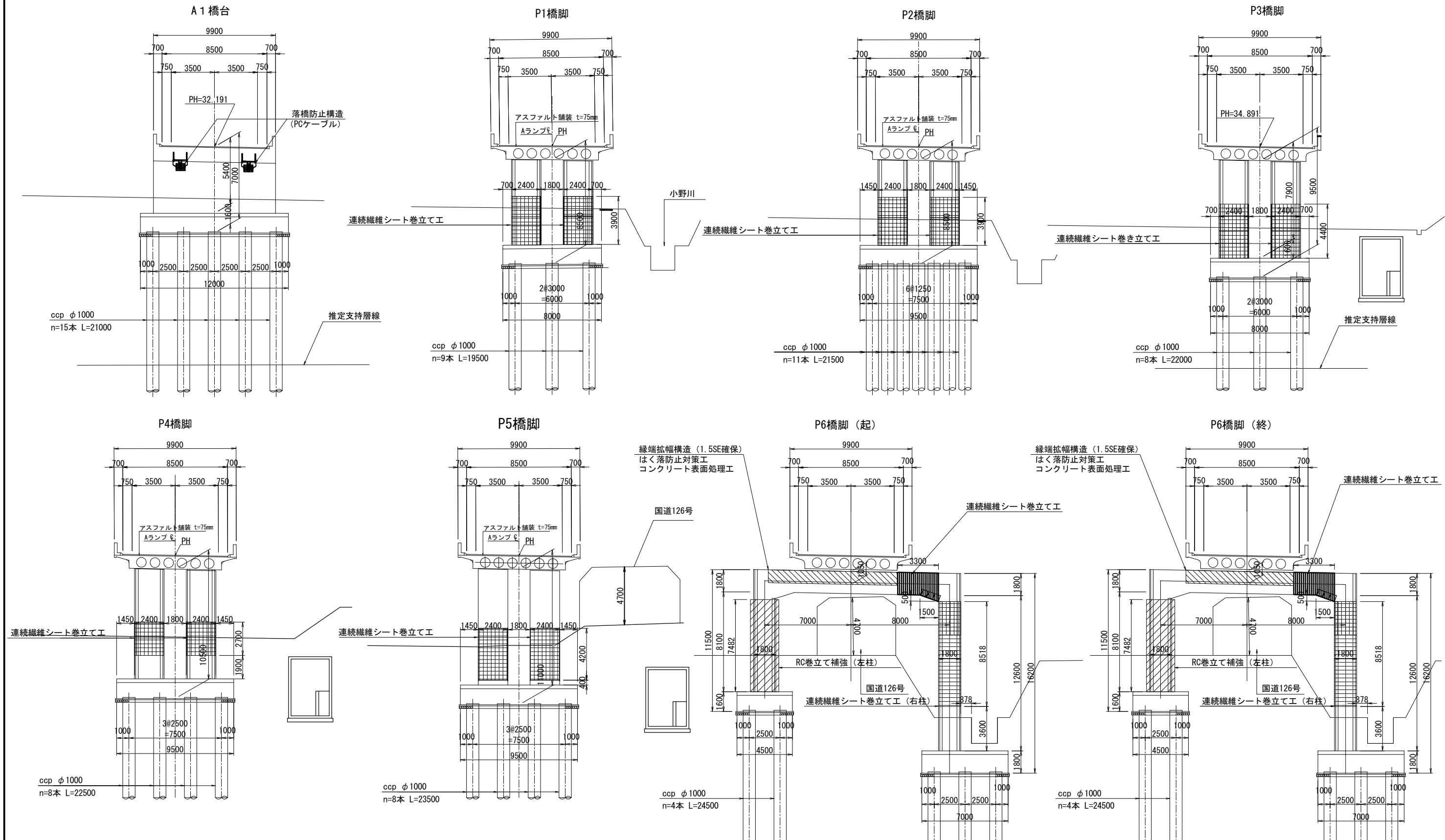
平 面 図 S=1 : 1000



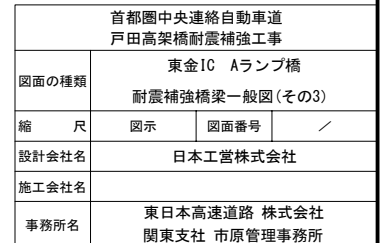
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事	東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図(その1)		
図面の種類	縮 尺	図示	図面番号
設計会社名	施工会社名	事務所名	
日本工営株式会社	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図 (その2)

正面図 S=1:300

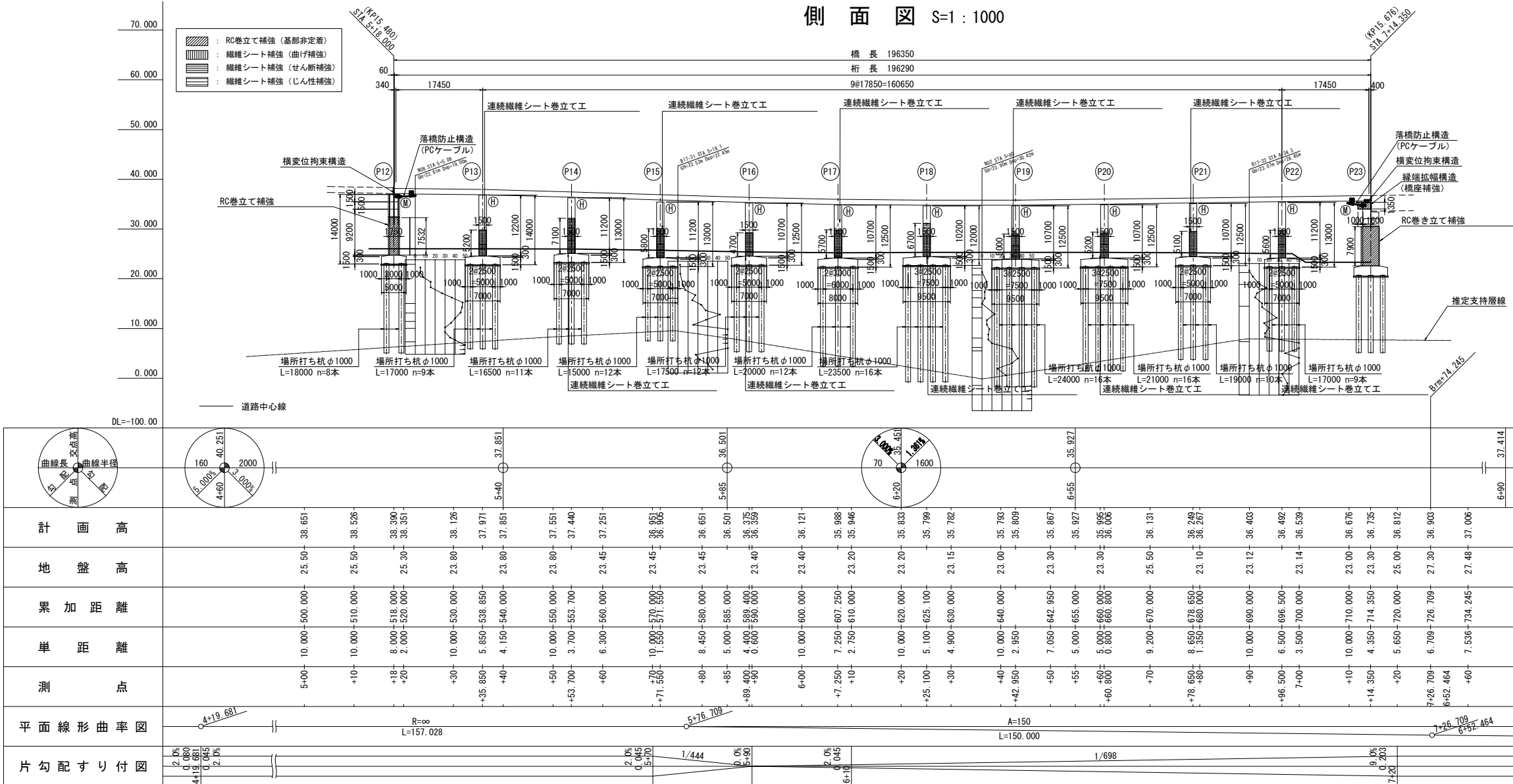


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図 (その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

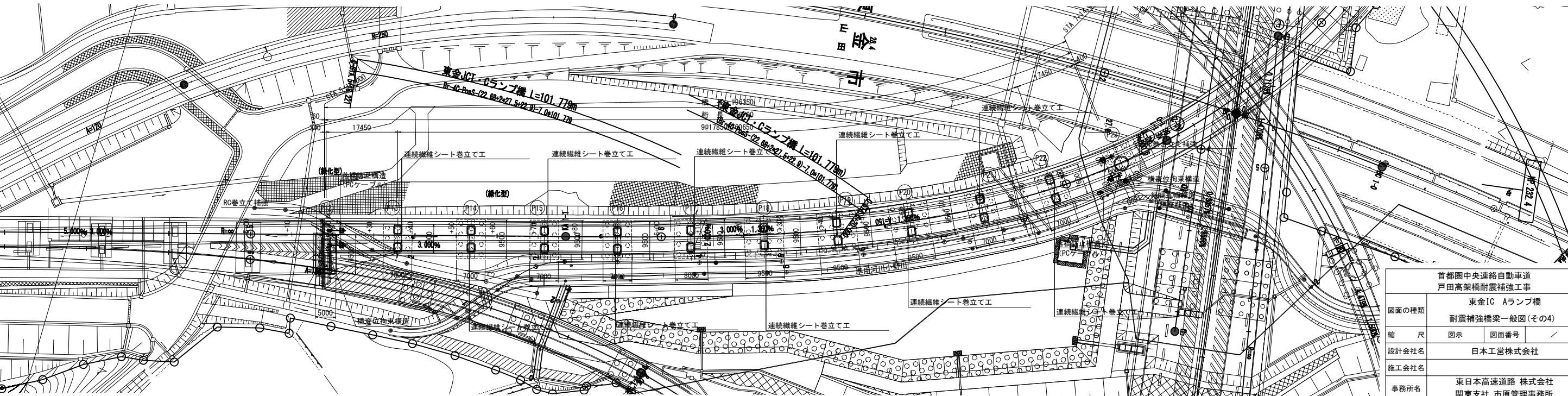


東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図（その4）

側 面 図 S=1 : 1000

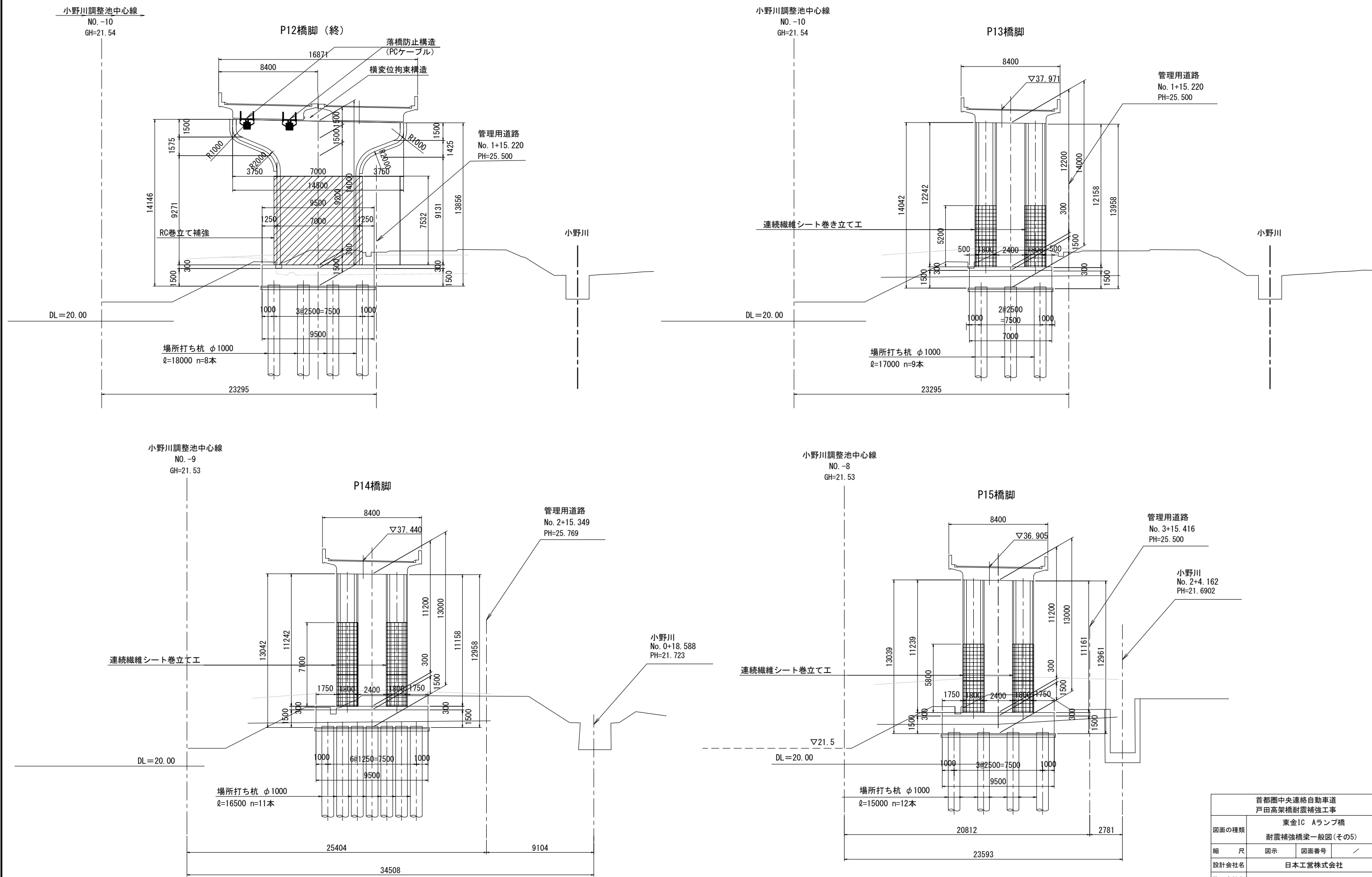


平面图 S=1 : 1000



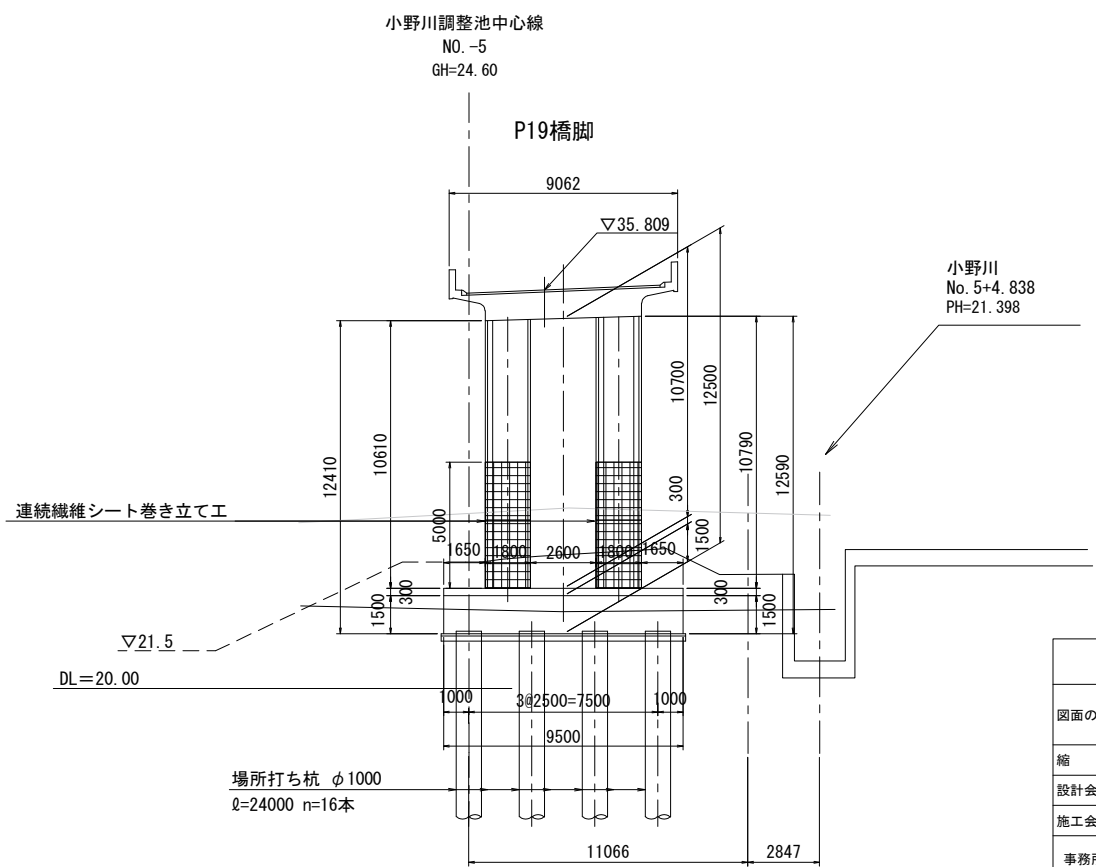
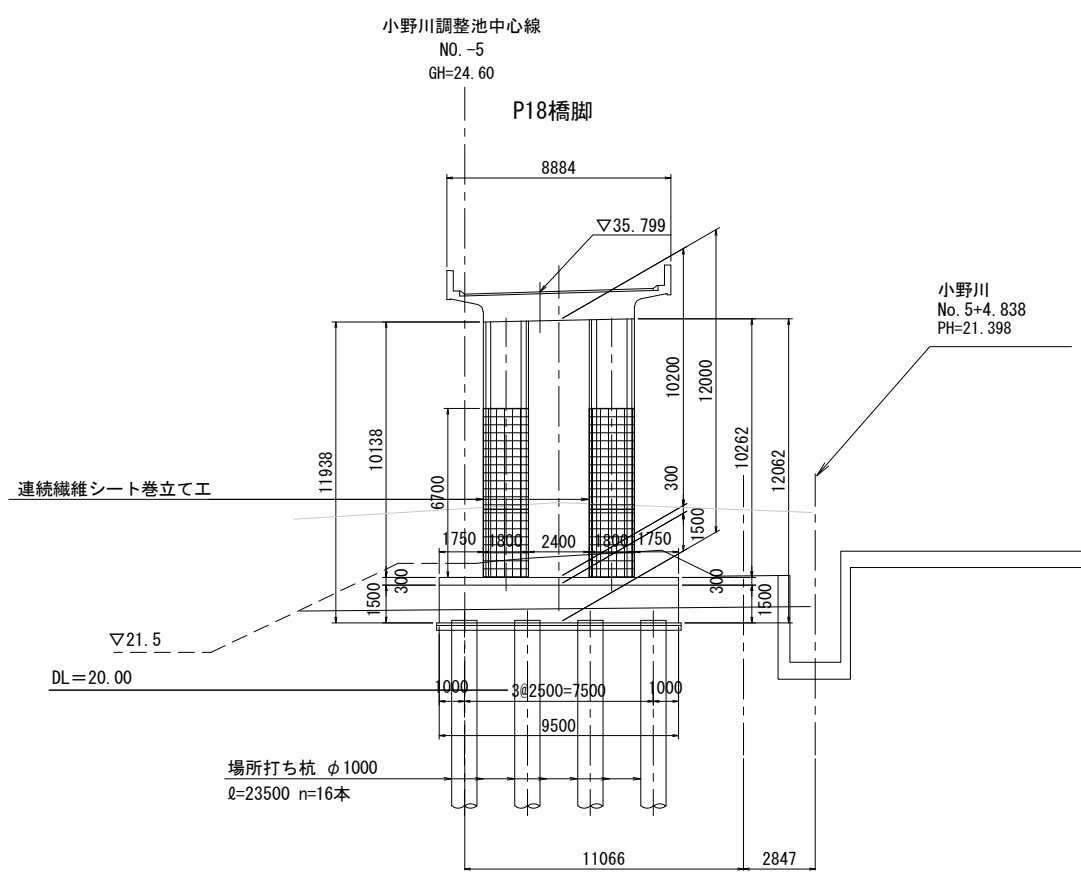
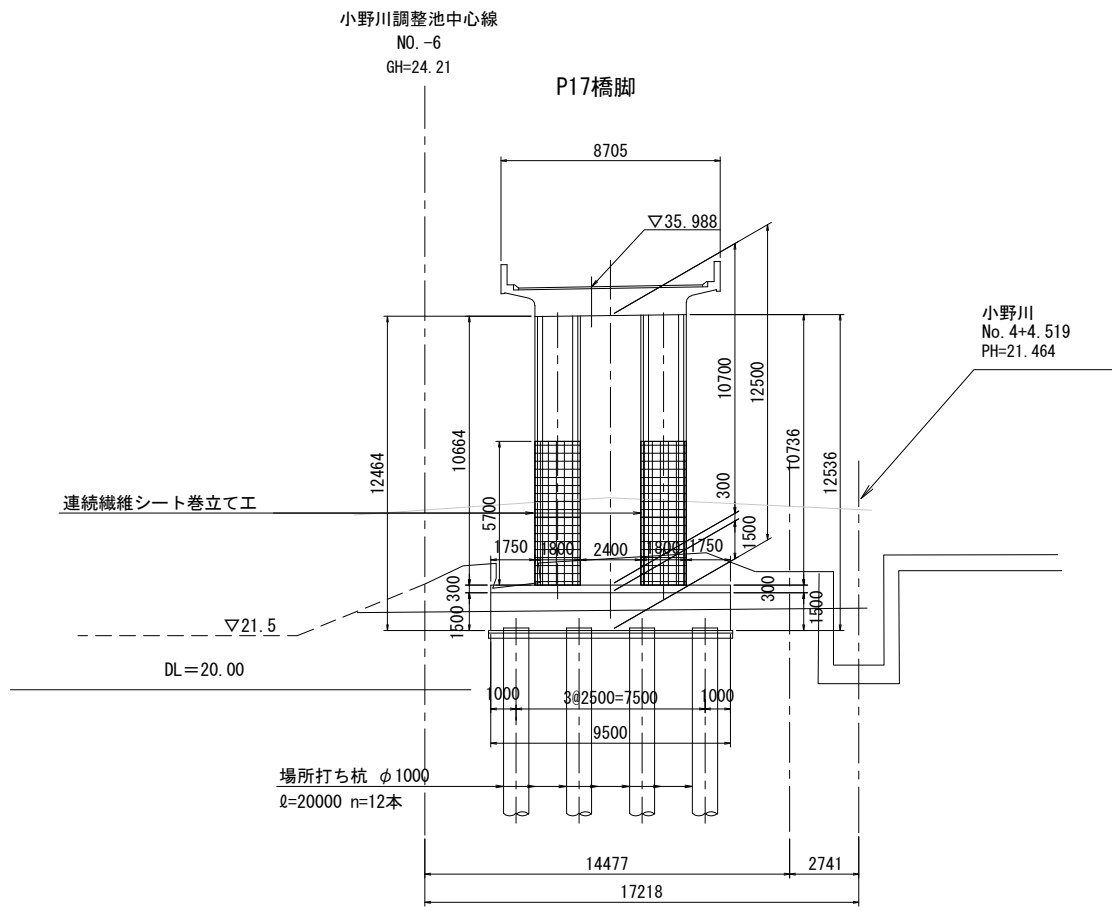
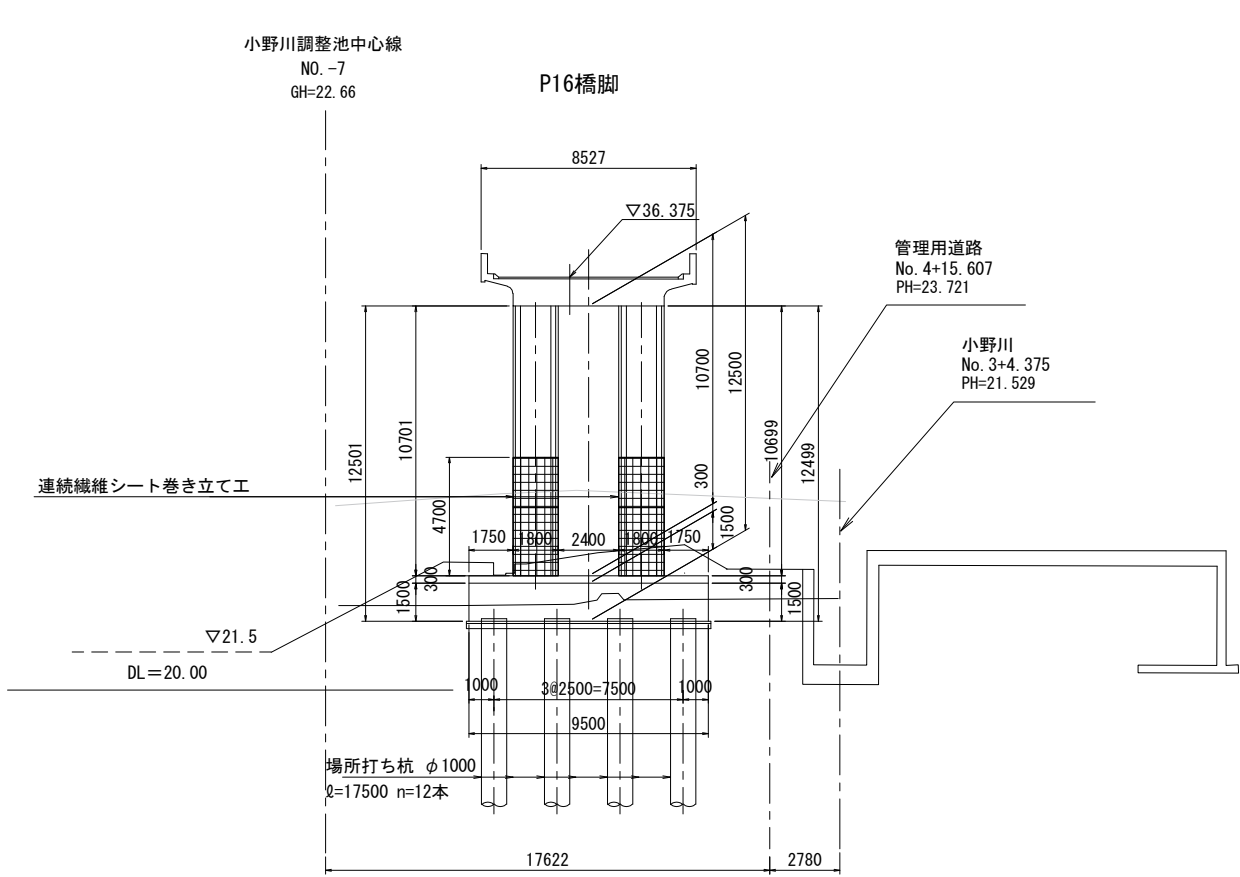
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC アランプ橋 耐震補強橋梁一般図(その4)		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市川管理事務所		

正面図 S=1 : 300



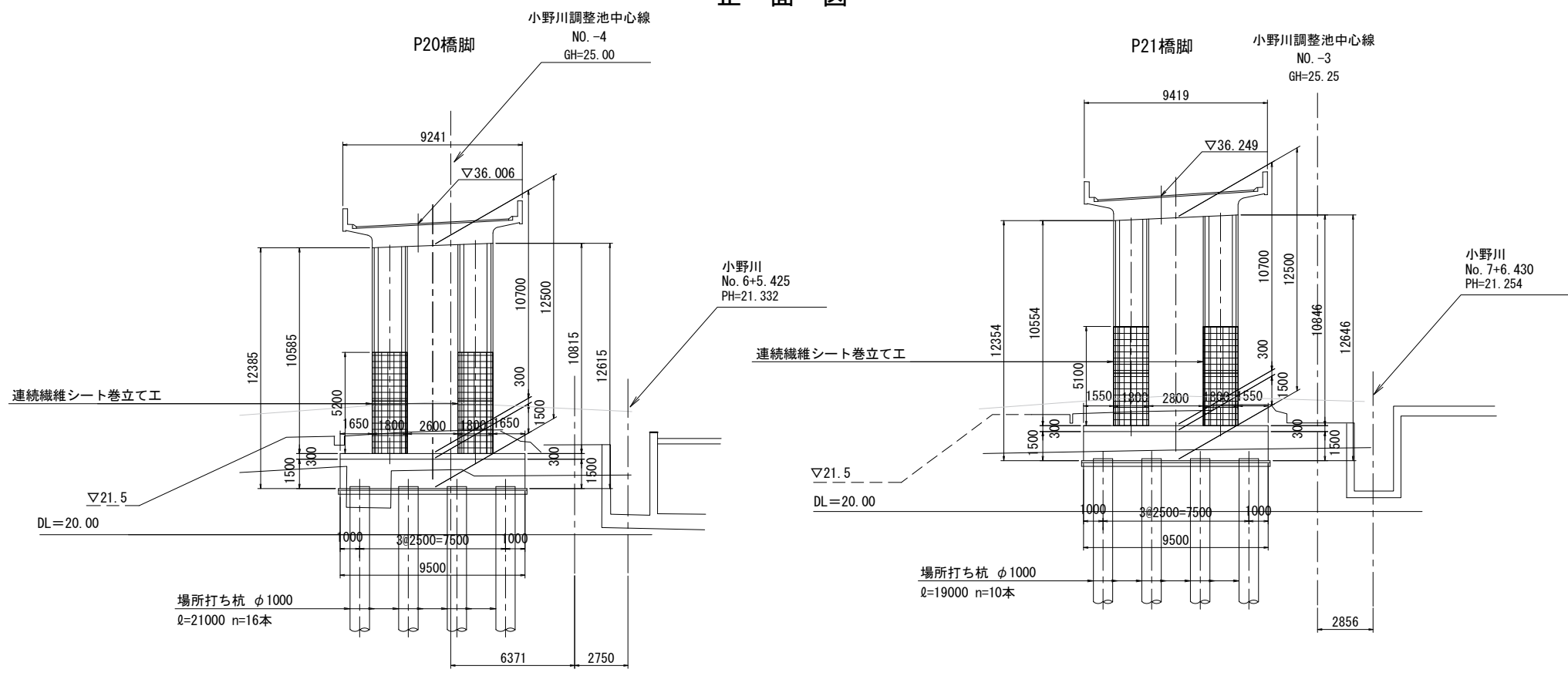
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図(その5)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

正 面 図 S=1 : 300

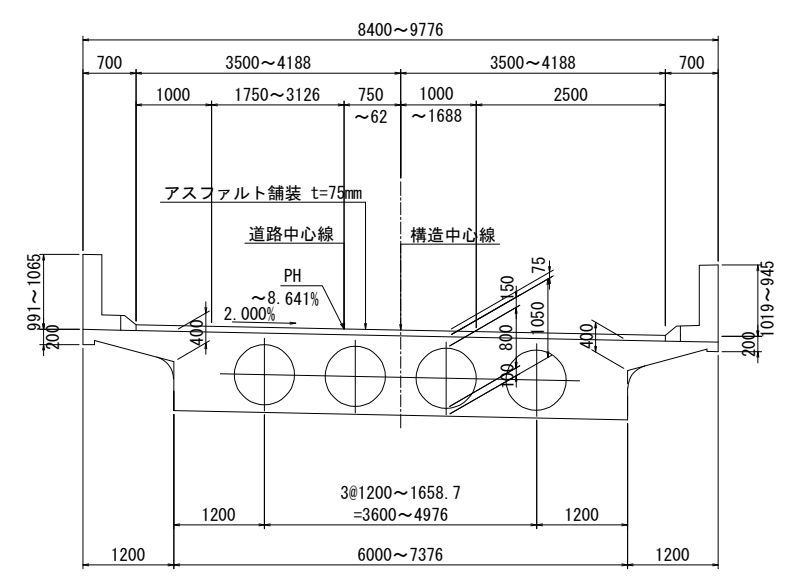
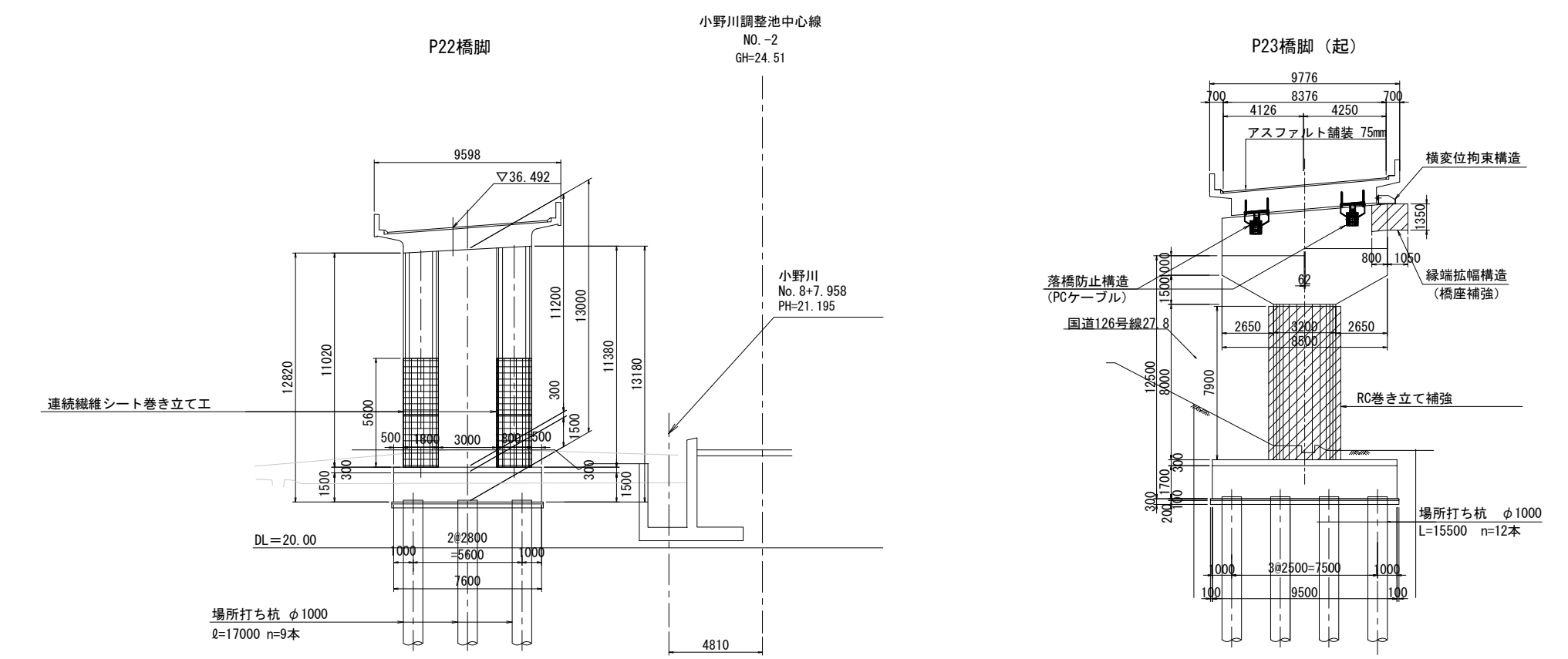


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	耐震補強橋梁一般図(その6)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図 S=1 : 300



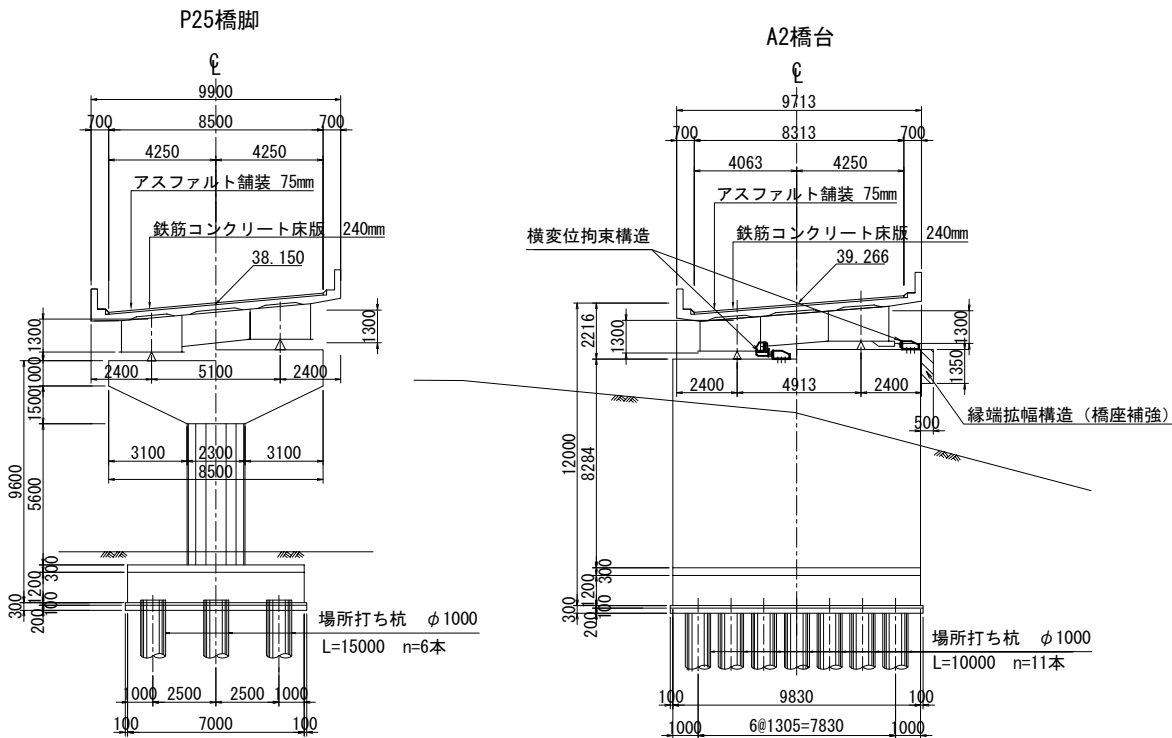
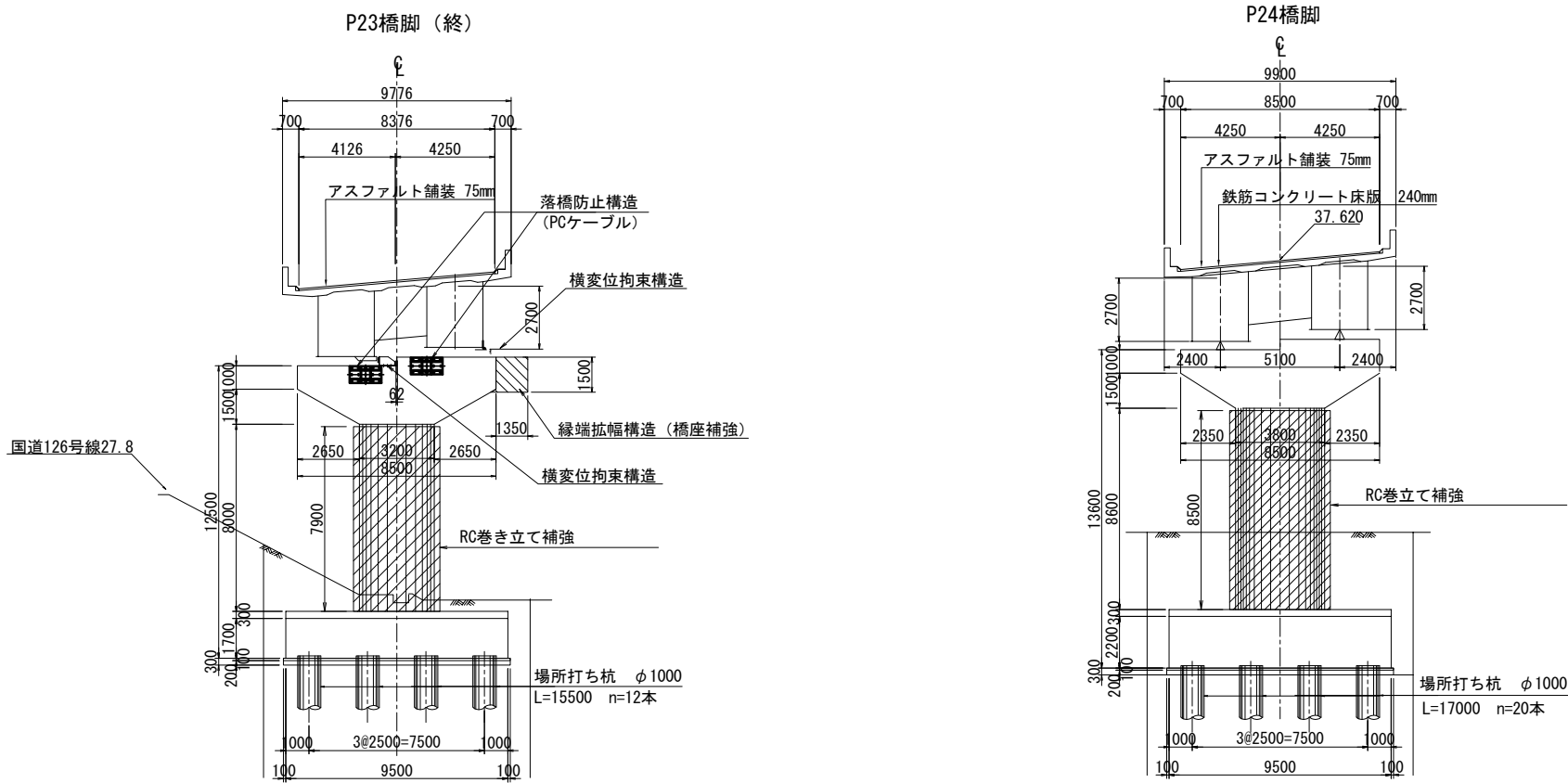
上部工標準断面図 S=1 : 100



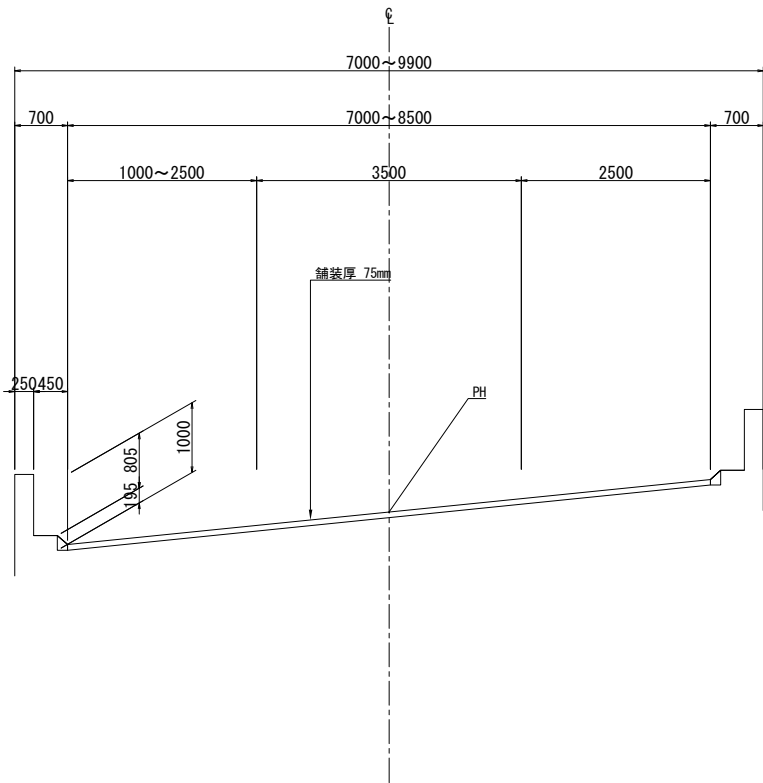
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図(その7)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図（その9）

正面図 S=1：300



標準横断面図 S=1：100



設計条件表（補強設計時）			
設計年次	令和8年4月		
橋 長	総延長544.900m	桁 長	---
道路規格	ジャンクション 2級 A規格	設計速度	V= 100km/h
荷 重	B活荷重		
補強形式	上部工	---	
	下部工	RC巻き立て補強、炭素繊維巻き立て補強	
	基礎工	---	
支 間	64.450m + 32.250m + 32.200m		
有効幅員	7.000m ～ 8.500m		
幅員構成	A1～P6：0.750m+3.500m+3.500m+0.750m、P6～P12：2.500～2.750m+3.500～8406m+2500～4299m P12～P23：1.000m+1.750～3.126m+62～750m+1000～1688m+2500m、P23～A2：1.000～2500m+3500m+2500m		
斜 角	90° -00' -00°		
横断勾配	7.917% ～ 9.000%	縦断勾配	1.360% ～ 5.000%
架設工法	---		
舗 装	アスファルト舗装 t = 80mm		
床 版	鋼箱桁部：RC床版 t=240mm		
壁高欄	RC壁高欄		
添加物	---		
使用材料	上 部 工	鋼 材	---
		コンクリート	---
		鉄 筋	---
		PC鋼材	---
	下 部 工	連続繊維シート	炭素繊維シート；引張強度3400N/mm2
		コンクリート	σ _{ck} =30N/mm2
	基 礎 工	鉄 筋	SD345
		鋼 材	---
		コンクリート	---
		鉄 筋	---
重要度区分	B種		
地域区分	レベル1	A2地域(C _z =1.0)	
	レベル2	タイプⅠ	A2地域(CⅠ _z =1.00)
		タイプⅡ	A2地域(CⅡ _z =1.00)
地盤種別	A1～P5：Ⅲ種地盤、P6～A2：Ⅱ種地盤		
支承条件	形 式	A1,P6,P12,P23起：バット嵩+アンカーバー、P23終～A2：鋼製支系 P1～P5,P7～P11,P13～P22：メナーゼヒンジ	
	橋軸方向	A1,P6,P12,P23,P25,A2：可動 P1～P5,P7～P11,P13～P22：メナーゼヒンジ P24：固定	
	直角方向(レベル1)	全支点：固定	
橋脚柱補強	直角方向(レベル2)	全支点：固定	
	RC巻き立て補強	P6,P12,P23,P24	
	炭素繊維巻き立て補強	P1～P11,P13～P22	
落橋防止システム	落橋防止構造	PCケーブル	A1：H-PLG P12終、P23起、P23終：H=1.5×R _d
	横変位拘束構造	鋼製ブラケット	P12終：3×kh×R _d P23起、P23終、A2：H=1.5×R _d
	縁端拡幅	RC縁端拡幅	P6起、P6終、P12起：1.5SE確保 P23起、P23終：橋座補強
固有周期 ※各連毎に記載する	レベル1	---	
	レベル2(タイプⅠ)	A1～P6：0.527s P6～P12：0.969s P12～P23：0.657s P23～A2：0.670s	
	レベル2(タイプⅡ)		
耐震性能	レベル1	---	
	レベル2	耐震性能2 主たる塑性化を考慮する部位：橋脚柱基部	
設計水平震度	レベル1	---	
	レベル2(タイプⅠ)	動的照査法を適用	
	レベル2(タイプⅡ)	動的照査法を適用	
適用基準等	道路標示方書・同解説(平成24年3月)		
	道路標示方書・同解説(平成14年3月)		
	設計要領第二集 橋梁保全編（東日本高速道路株式会社：令和6年7月）		

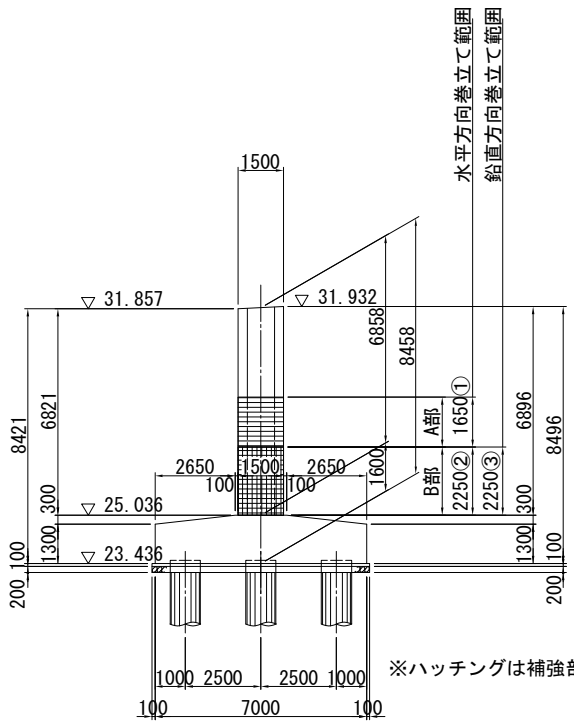
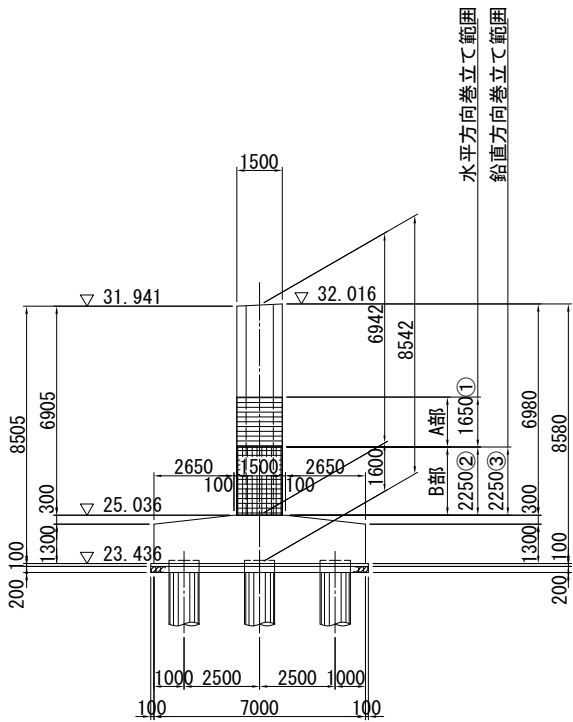
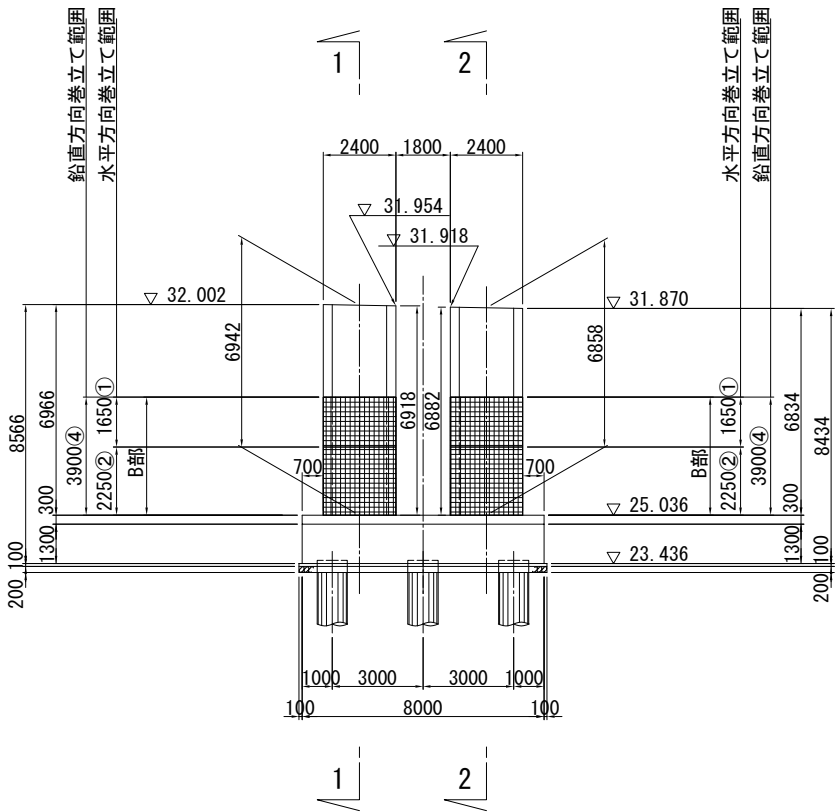
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 耐震補強橋梁一般図（その9）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

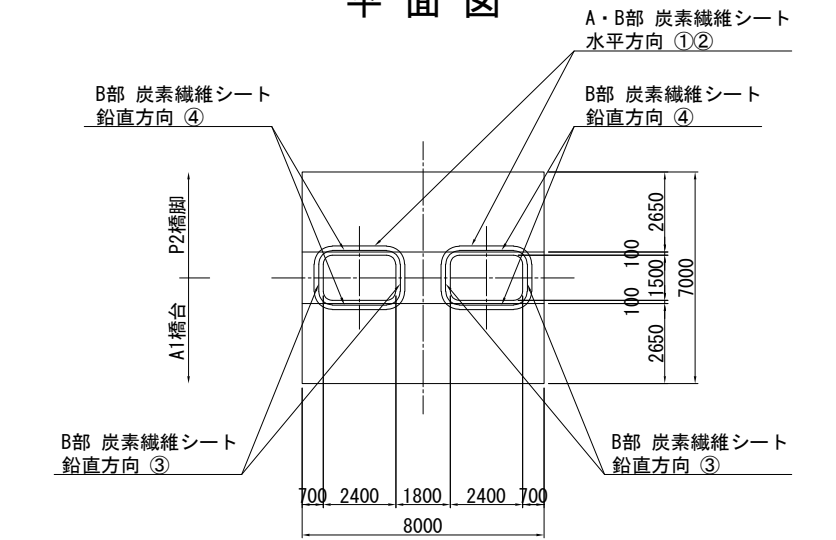
2 - 2



炭素繊維シート施工断面図

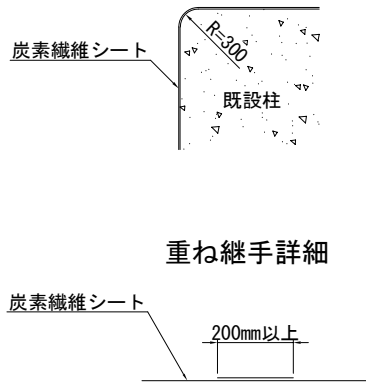
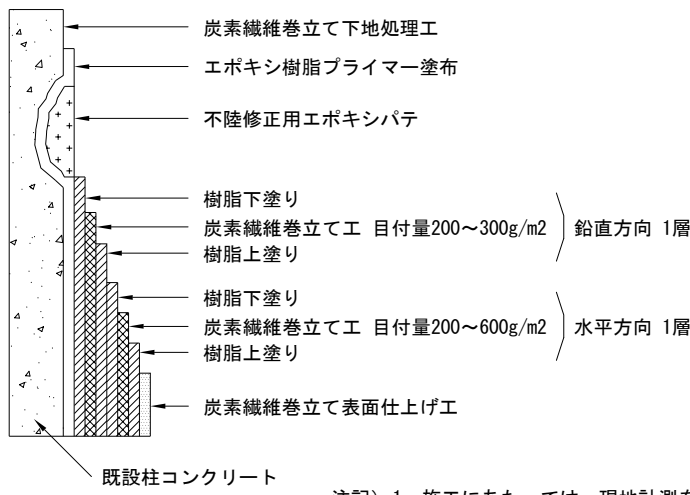
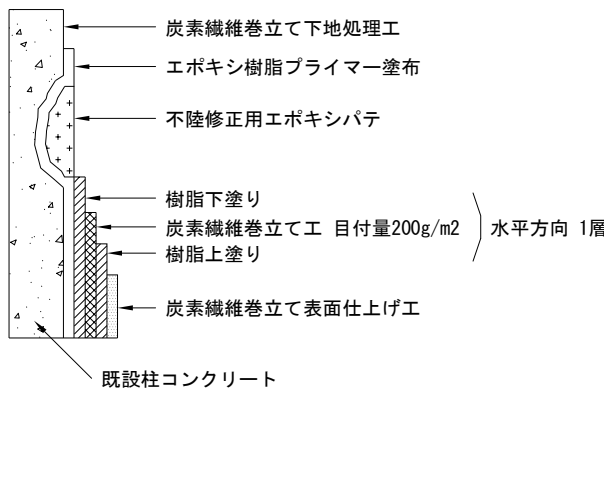
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
④	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

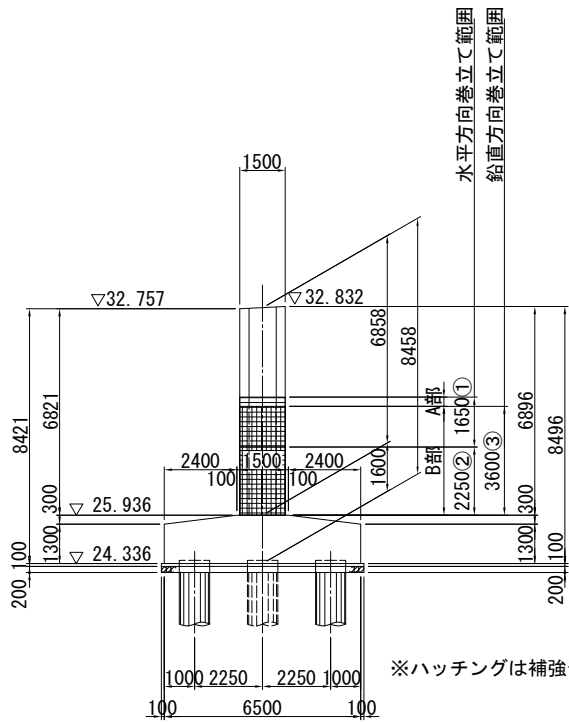
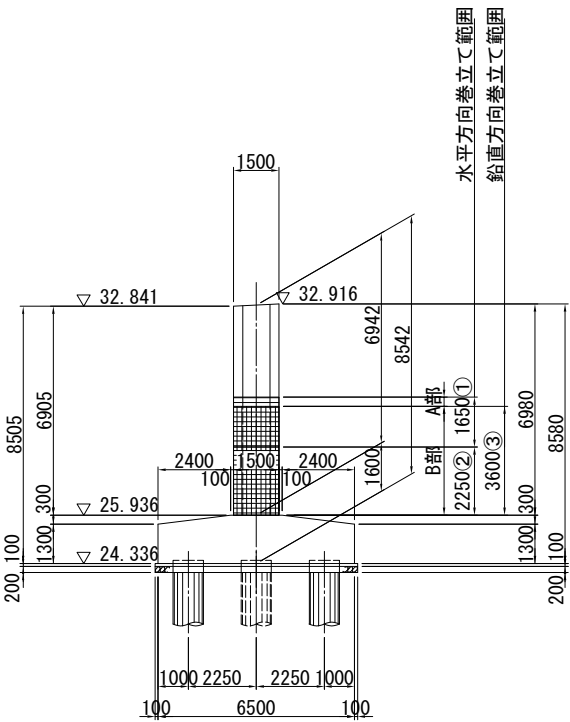
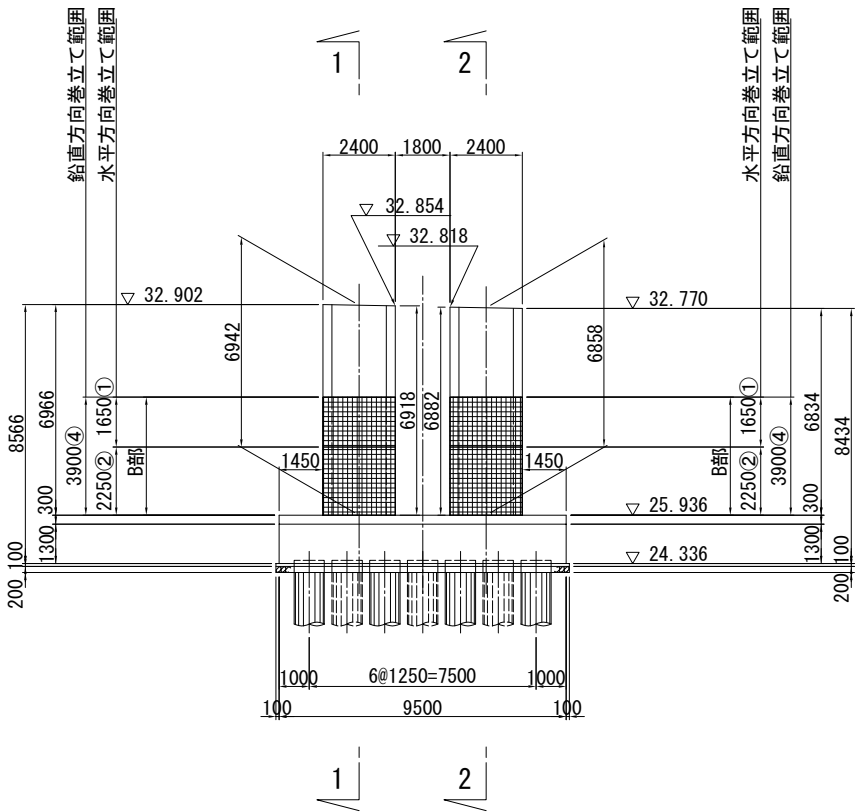
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P1橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2

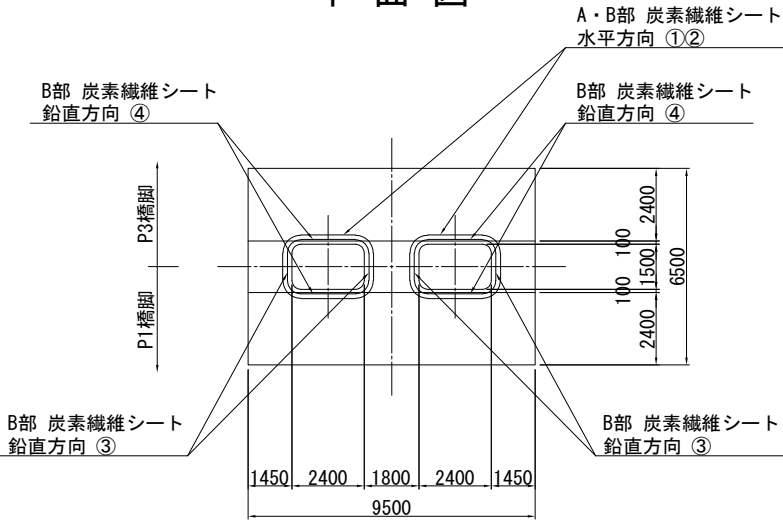


※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

炭素繊維シート施工断面図

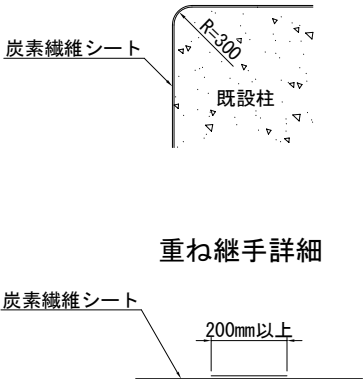
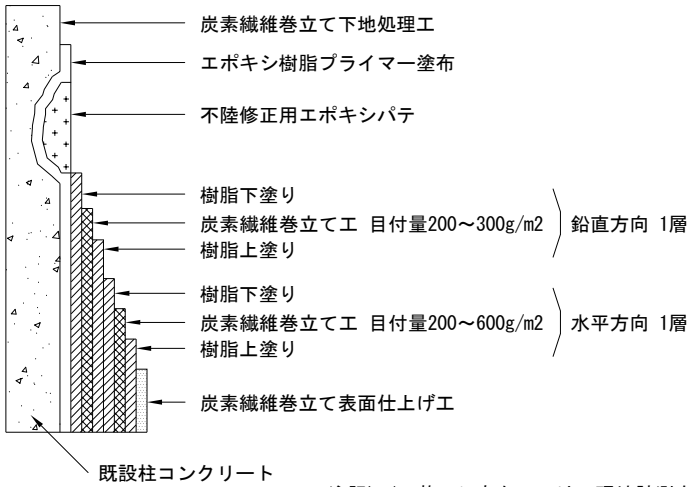
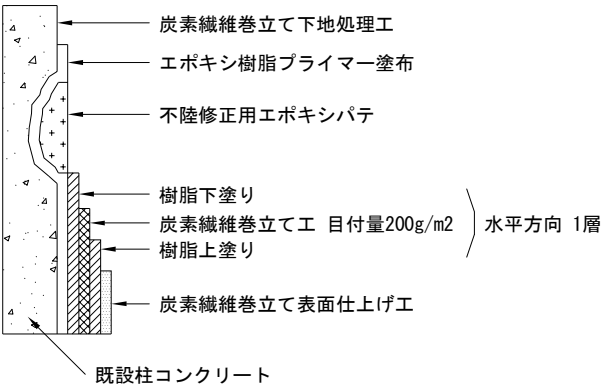
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
④	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

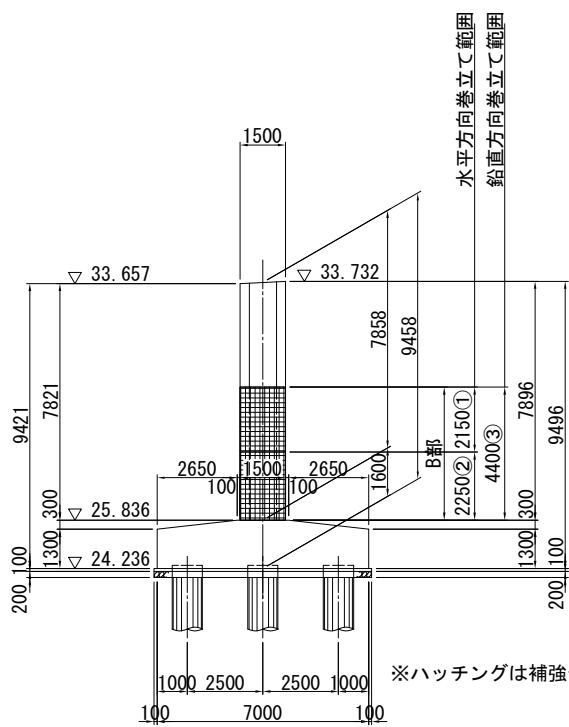
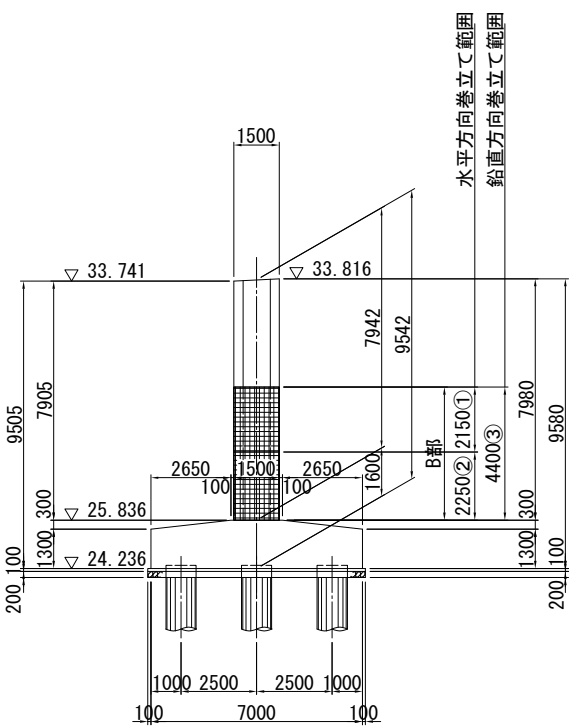
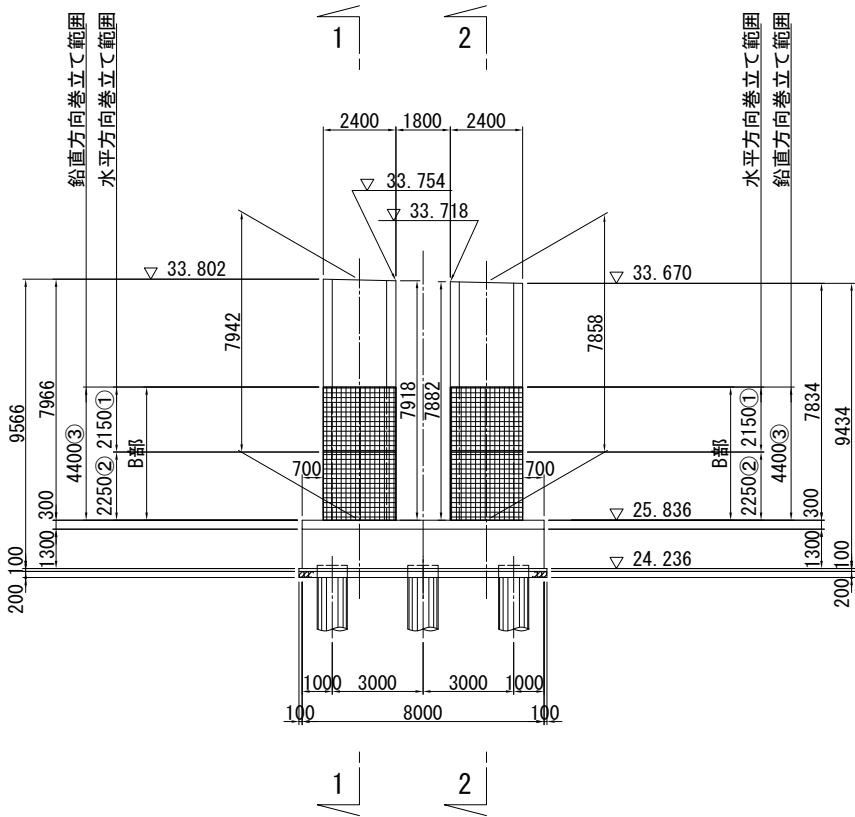
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P2橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2

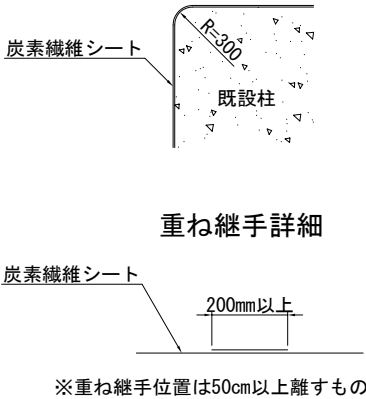
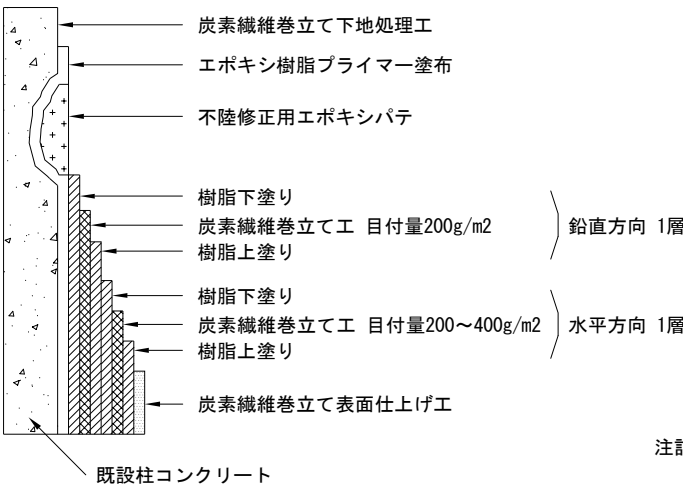
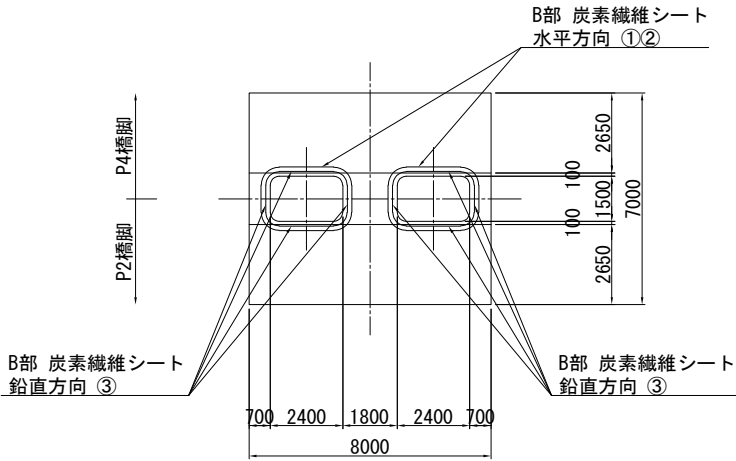


平面図

炭素繊維シート施工断面図

柱面曲り部詳細図 S=1:125

B部



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

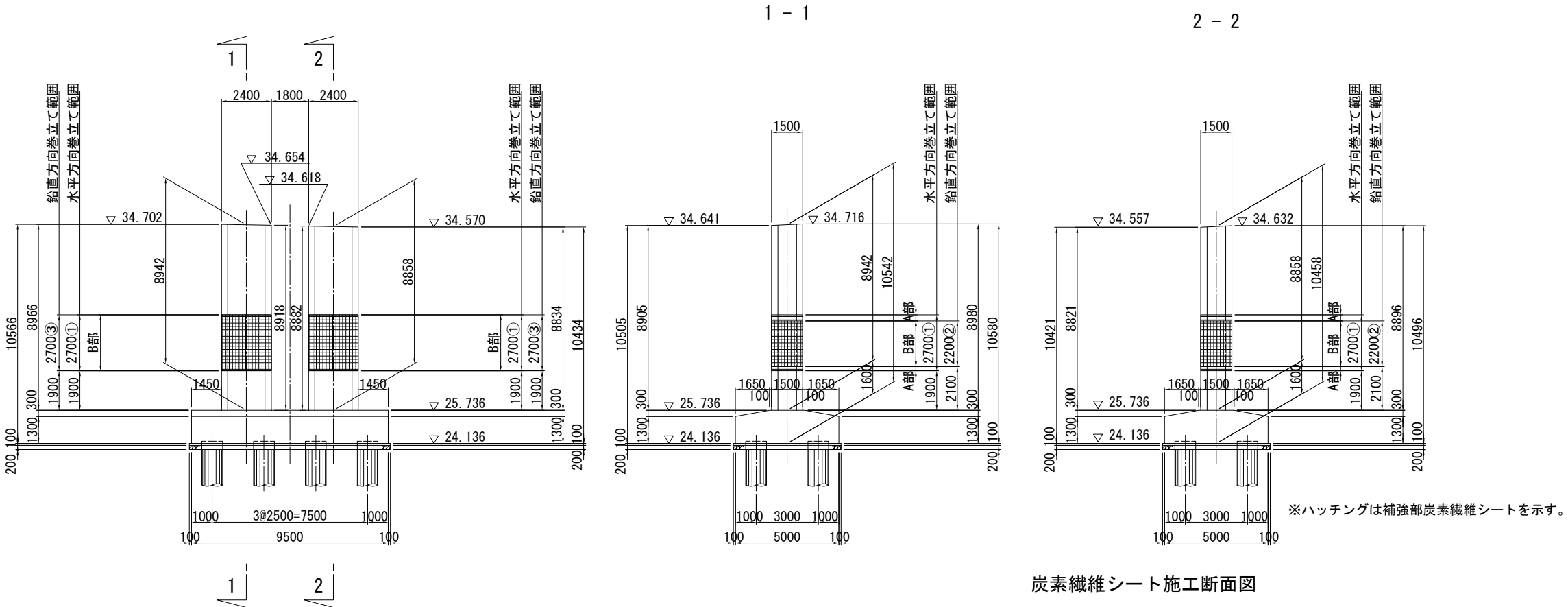
炭素繊維シート							
	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	400g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型

使用材料		
既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P3橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

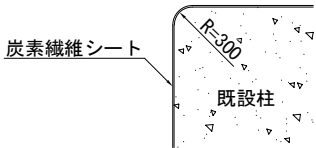
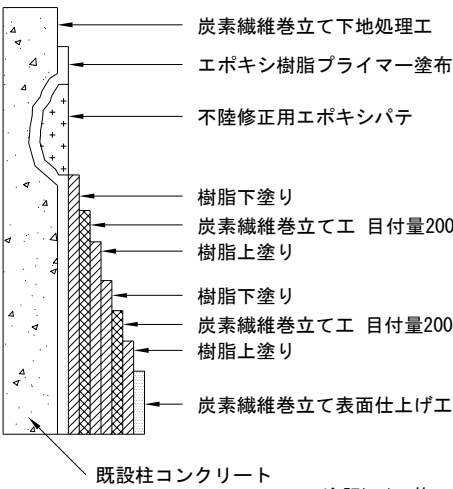
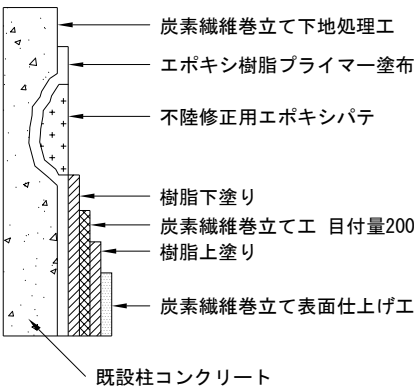


炭素繊維シート施工断面図

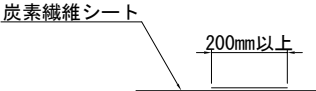
柱面曲り部詳細図 S=1:125

A部

B部

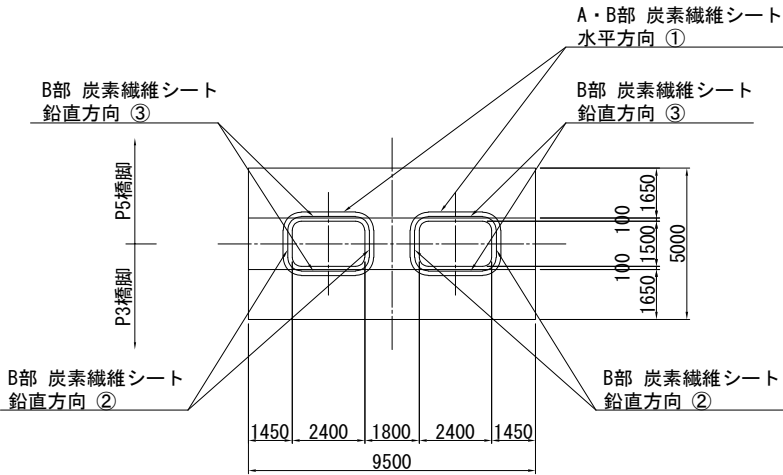


重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

平面図



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
③	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型

使用材料

工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

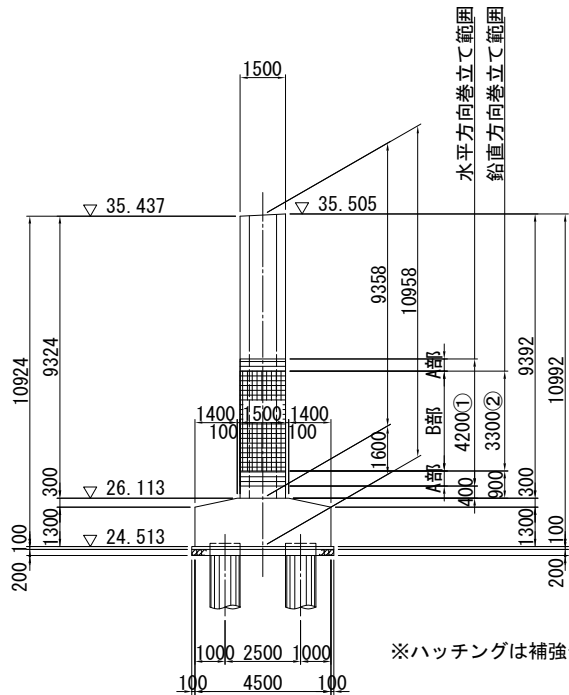
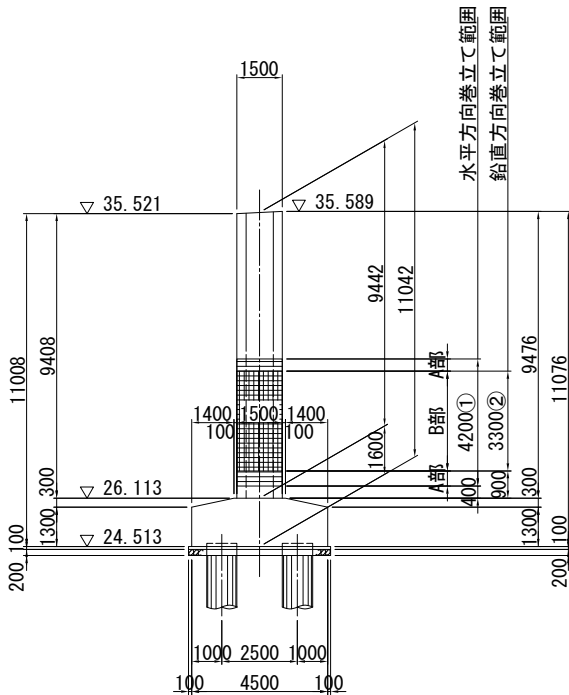
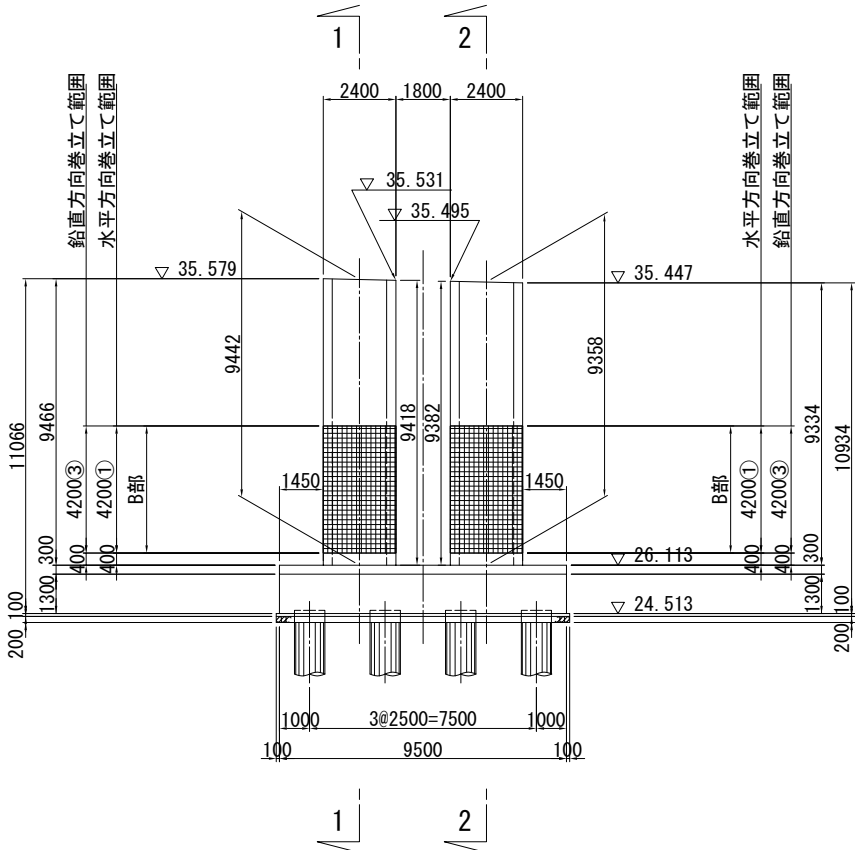
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P4橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2

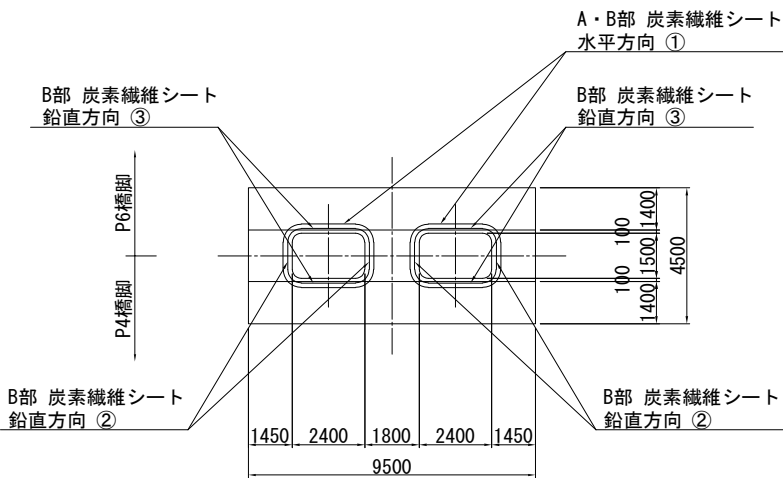


※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

炭素繊維シート施工断面図

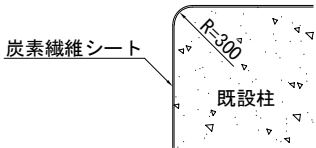
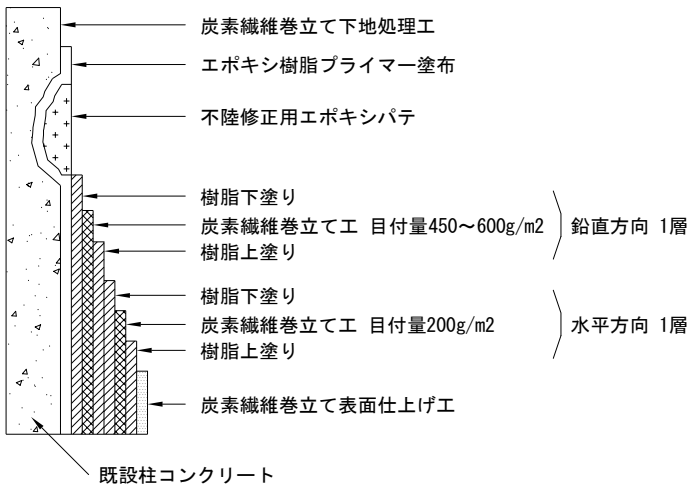
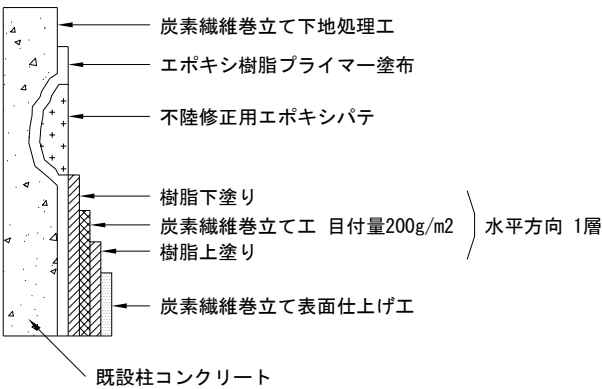
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図

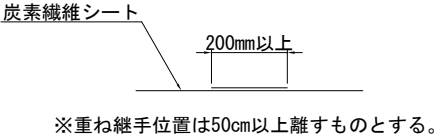


A部

B部



重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

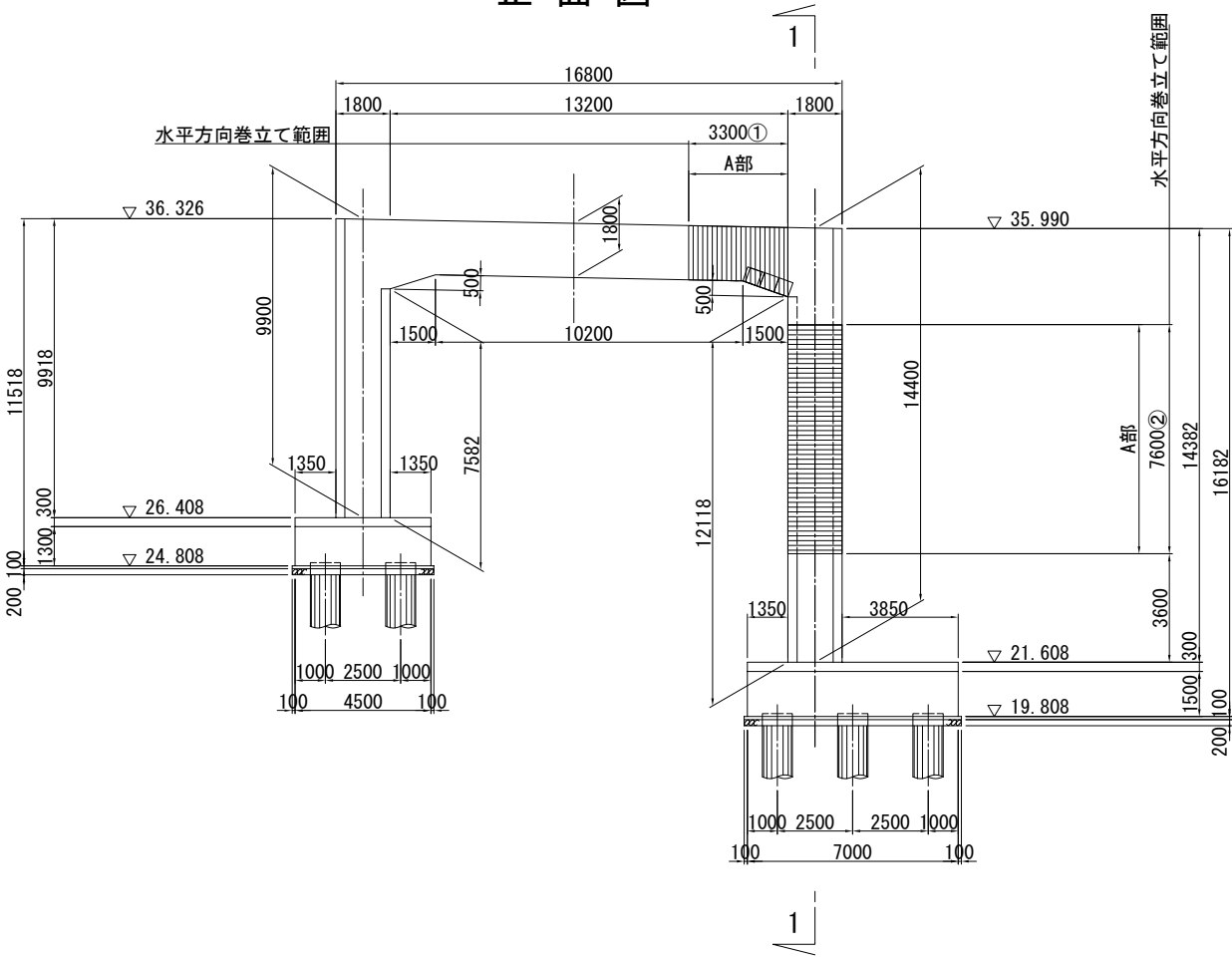
	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	450g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.250mm	高強度型
③	600g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型

使用材料

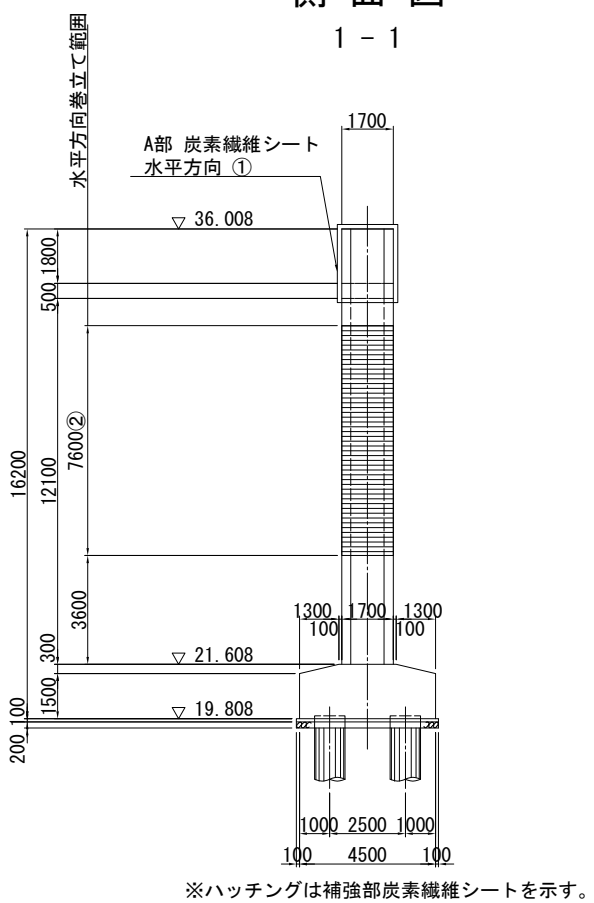
工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P5橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

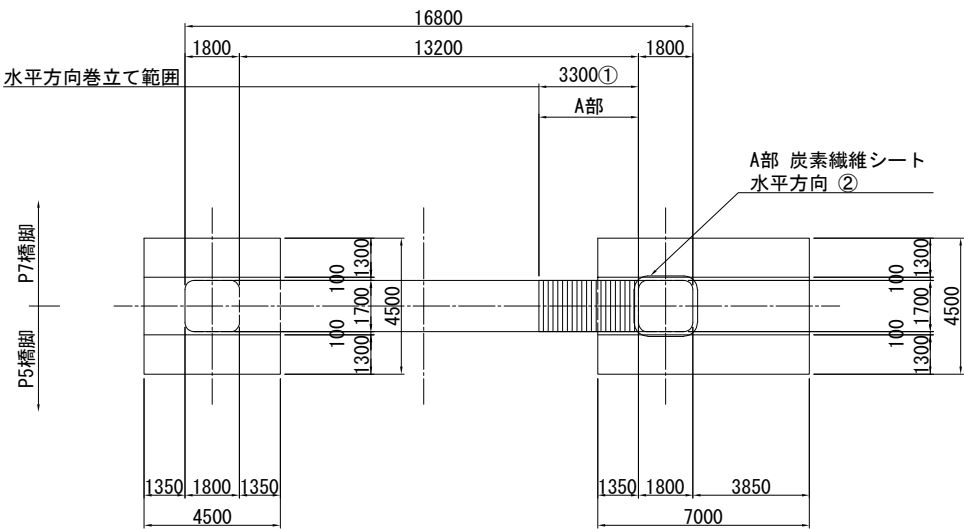


側面図

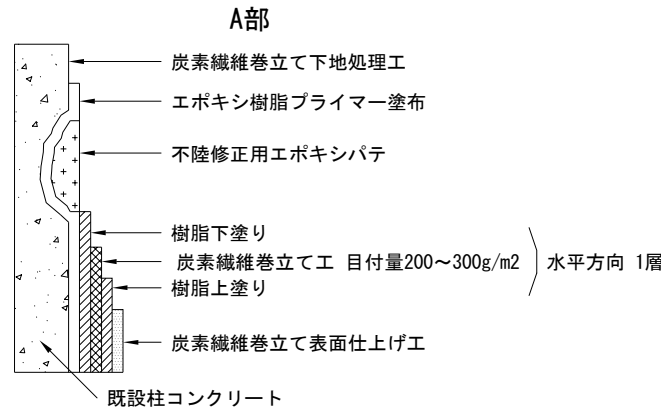


※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

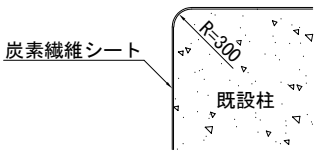
平面図



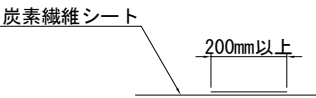
炭素繊維シート施工断面図



柱面曲り部詳細図 S=1:125

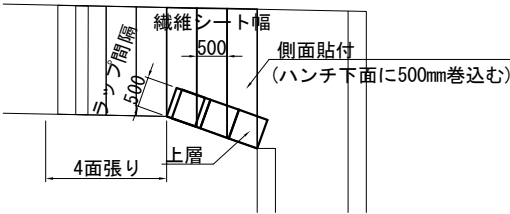


重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

ハンチ部詳細図 S=1:125



炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	300g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型

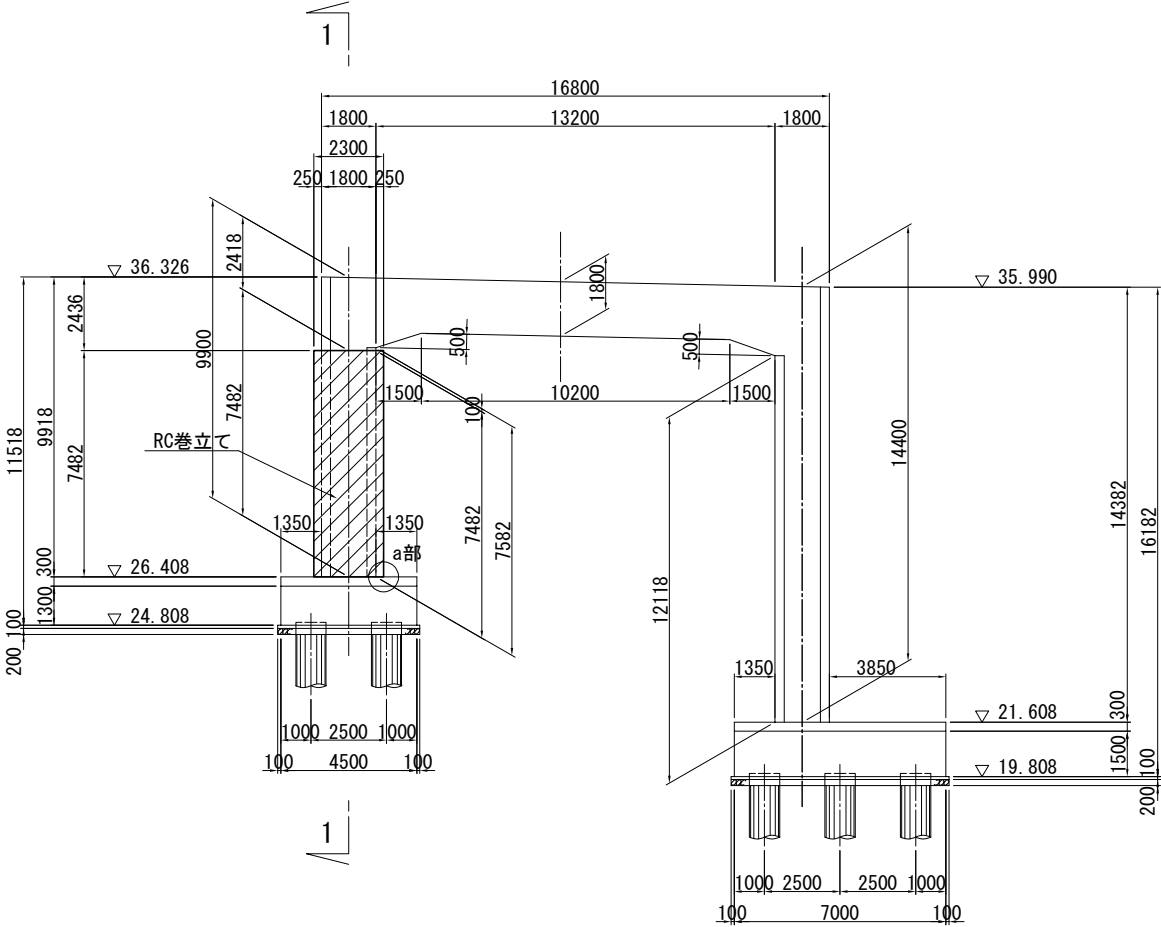
使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

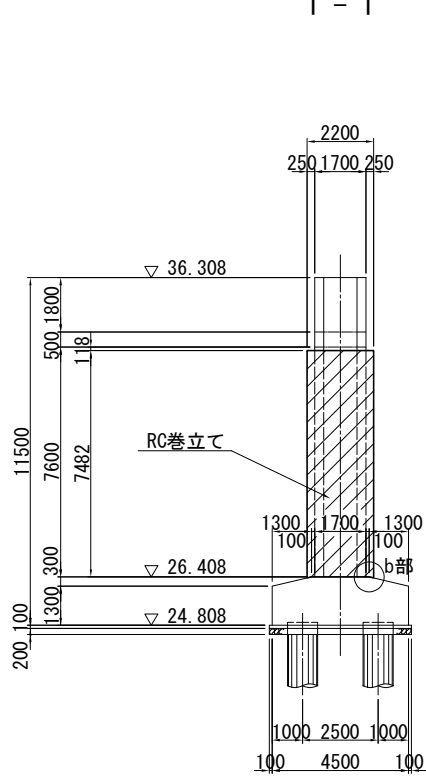
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材 (エポキシパテ) の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分 (既設面) は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A (ポリマーセメントモルタルt=1mm) とする。
5. 補強時吊り足場設置に伴い、P6梁下面の繊維シートが断面欠損する
が直角時せん断補強であることから、補強量には影響しない。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

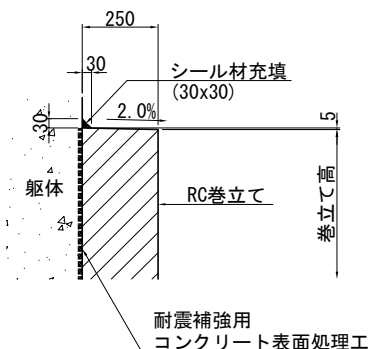


側面図

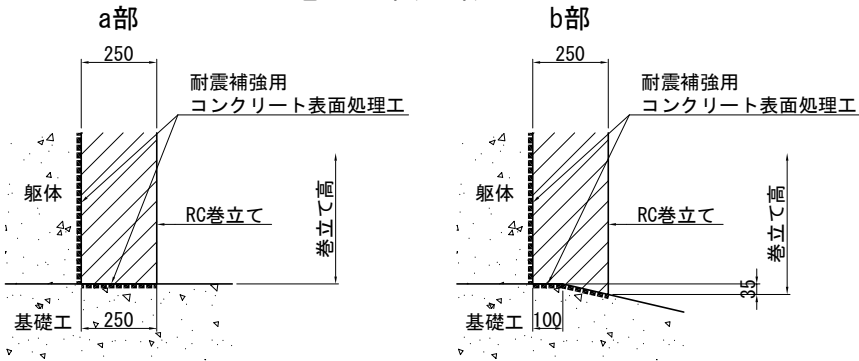


巻立て部詳細図 S=1:25

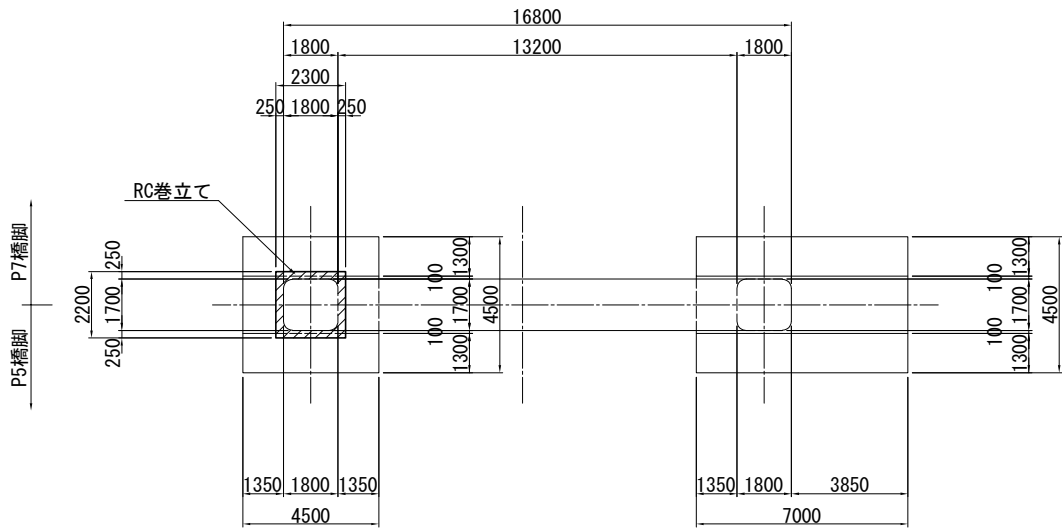
巻立て部(上部)



巻立て部(下部)



平面図



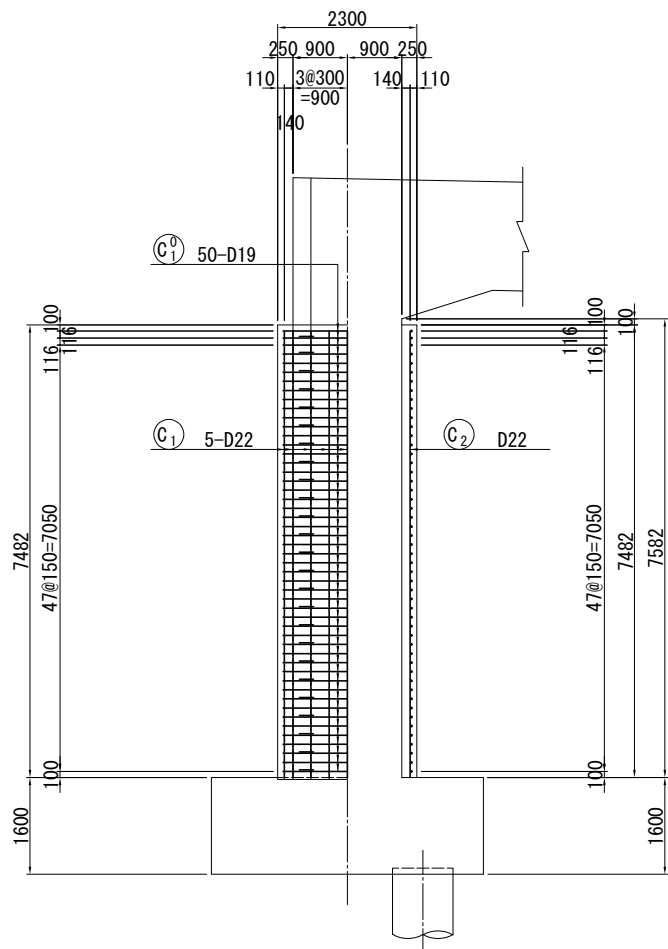
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

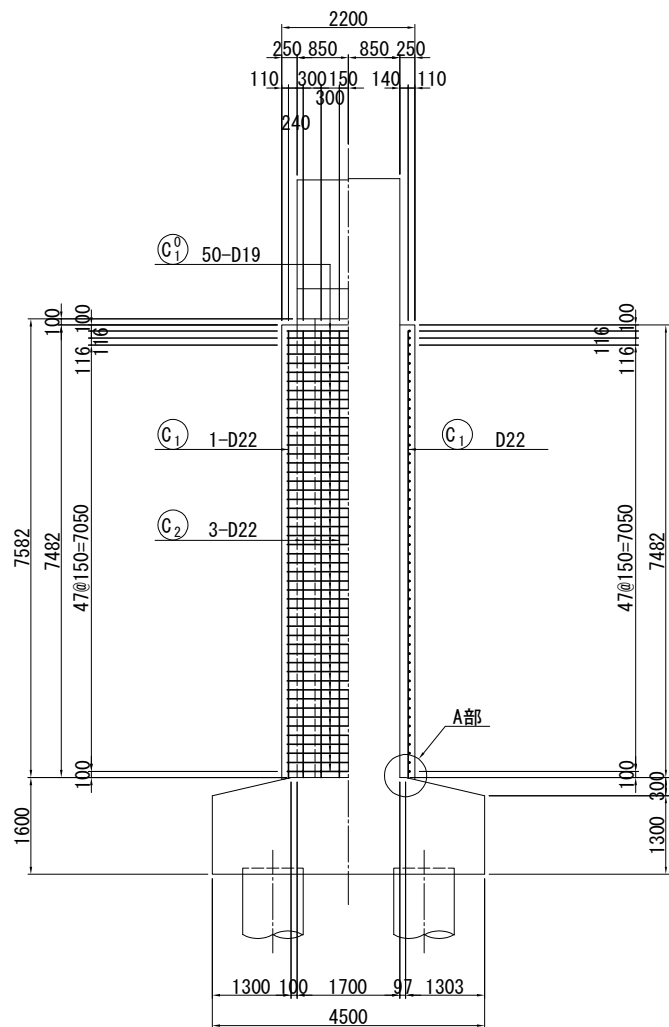
工種	仕様	
	コンクリート	鉄筋
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄筋	SD345
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 RC巻立て補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

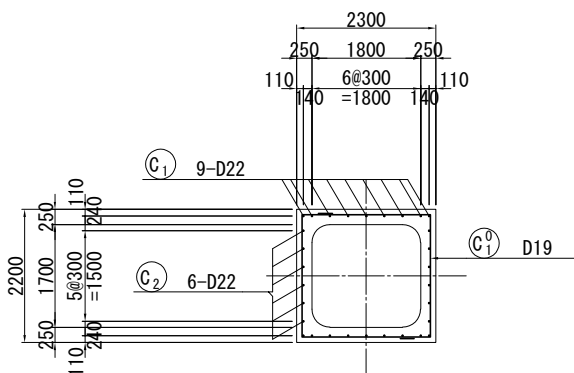
1 - 1 2 - 2



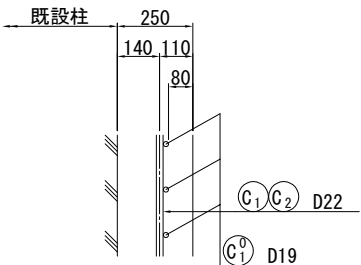
3 - 3 4 - 4



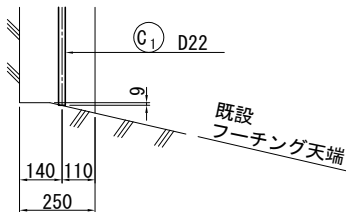
5 - 5



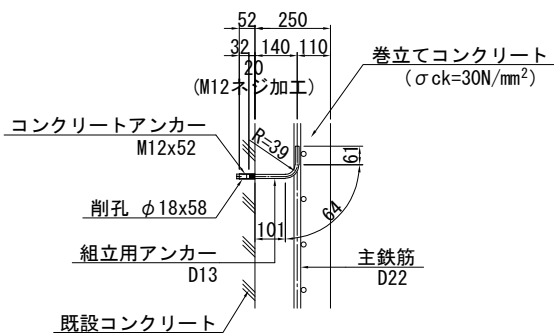
かぶり詳細図 S=1:25



A部詳細図 S=1:25



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)



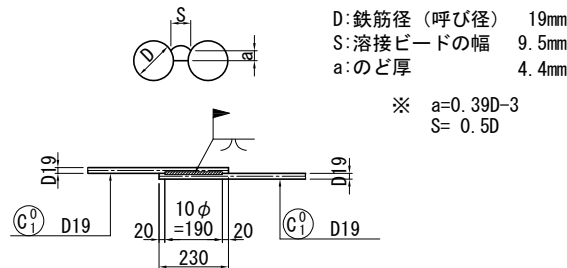
※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

組立用アンカー数量表

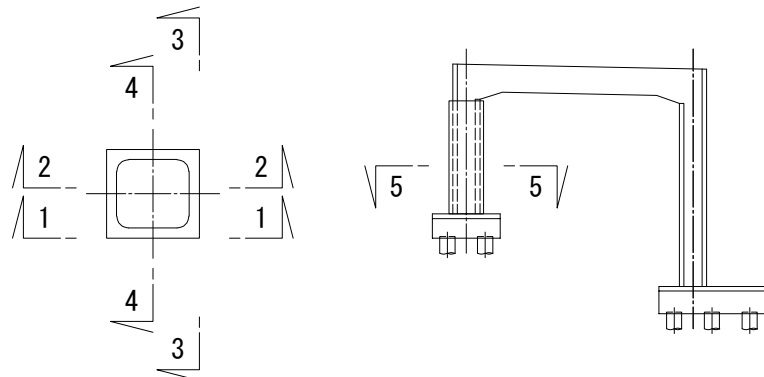
L (mm)	本数	質量 (kg)
250	52	13

※組立用アンカー本数
N= 52.4m²/1本/m²=52本

フレアー溶接詳細図 S=1:25



位置図



鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C ₁	D22	7400	18	3.04	22.5	405	
C ₂	D22	7390	12	3.04	22.5	270	
675 kg							
C ₁ ⁰	D19	4330	100	2.25	9.74	974	└ [100]
974 kg							
T			フレアー溶接箇所数				
D22		675 kg		-			
D19		974 kg		[100]			
合 計		1649 kg		[100]			
コンクリートアンカー					M12x52	52	個
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

$$\Delta L=2L-a$$

径	$\theta \leq 90^\circ$ R=3.0φ	$\theta > 90^\circ$ R=5.5φ	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

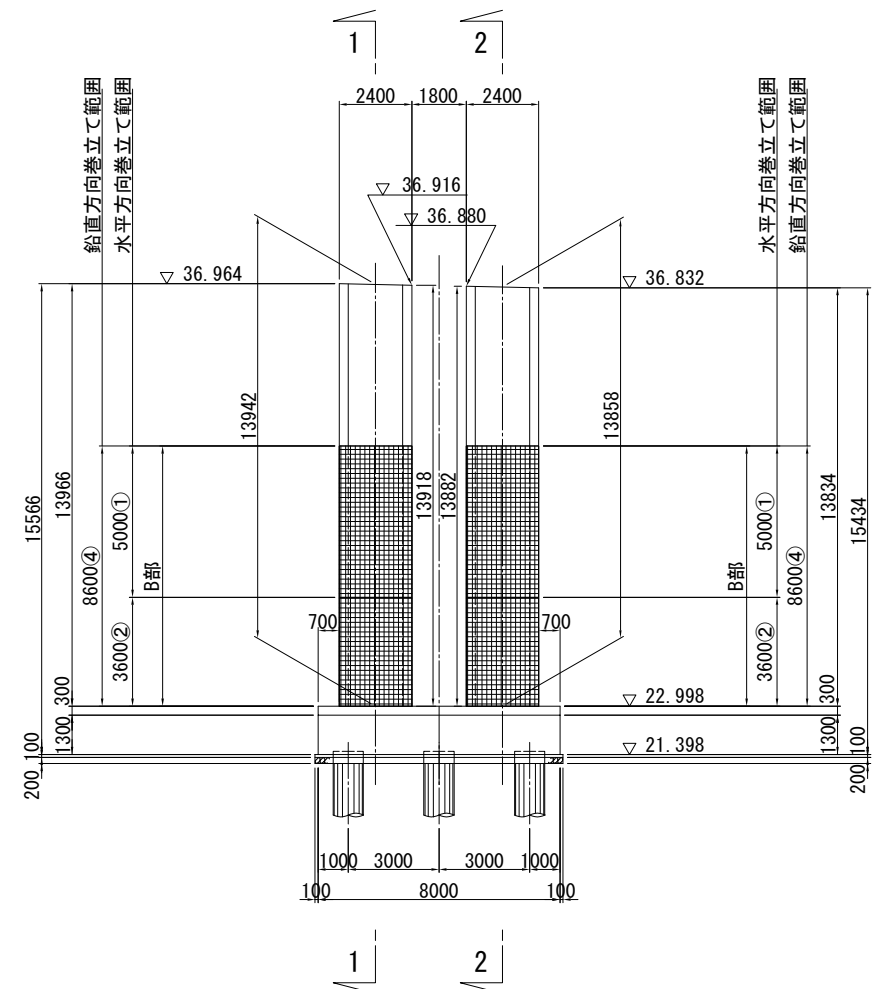
- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
4. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
5. 鉄筋質量表内の[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

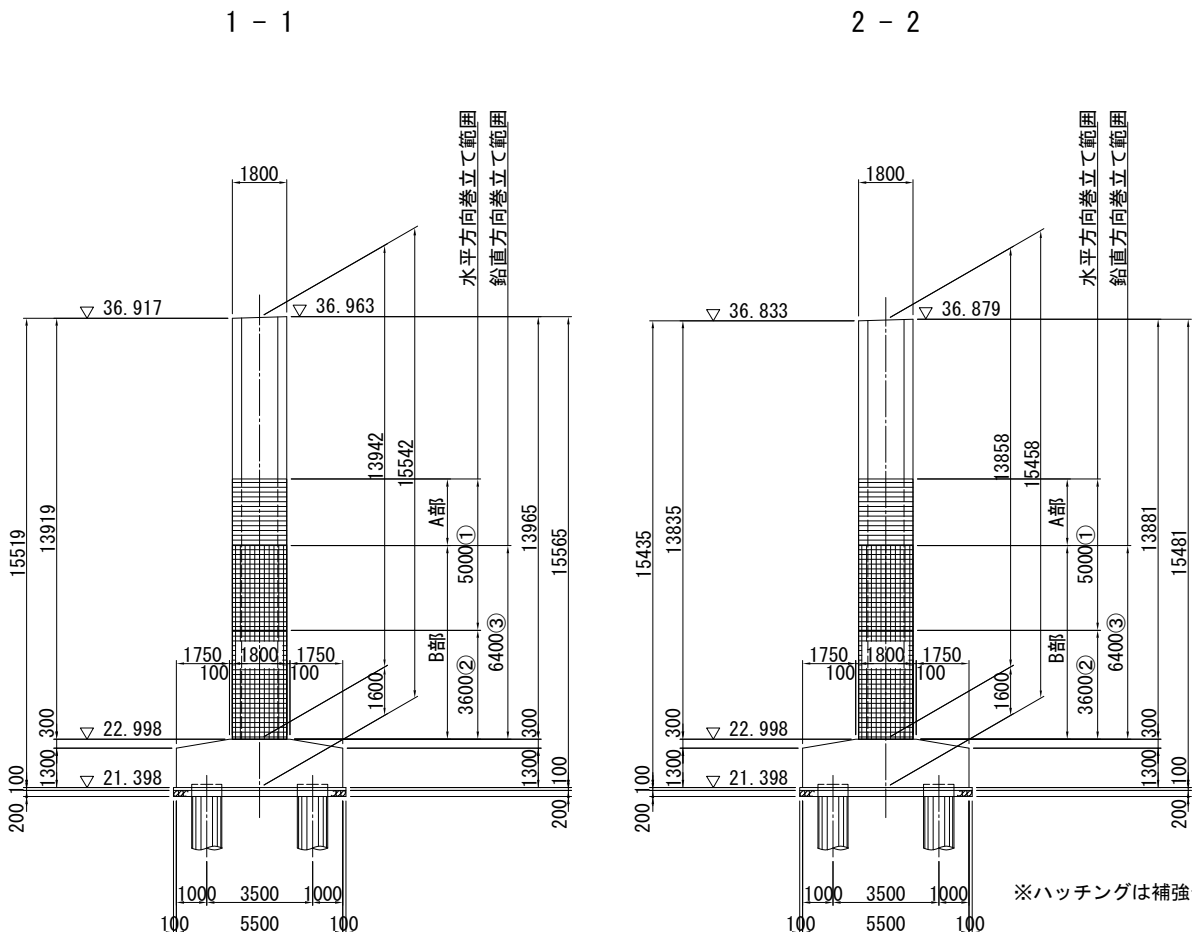
工 種	仕 様
補強部	コンクリート 30 N/mm ² 鉄 筋 SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 RC巻立て補強配筋図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図



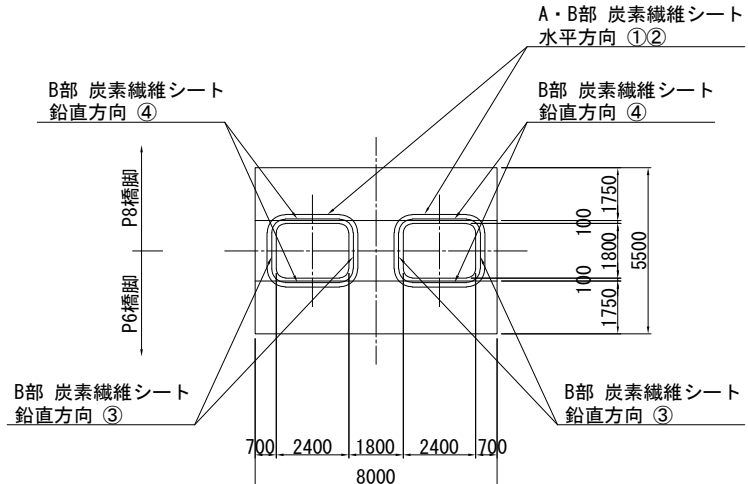
側面図



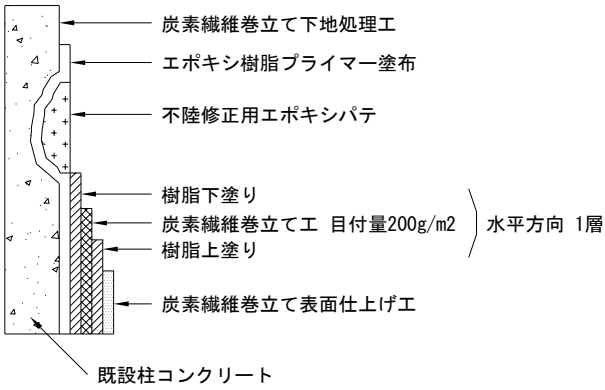
炭素繊維シート施工断面図

柱面曲り部詳細図 S=1:125

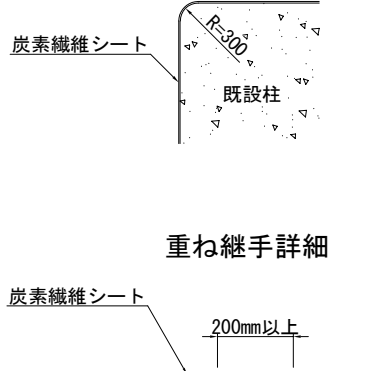
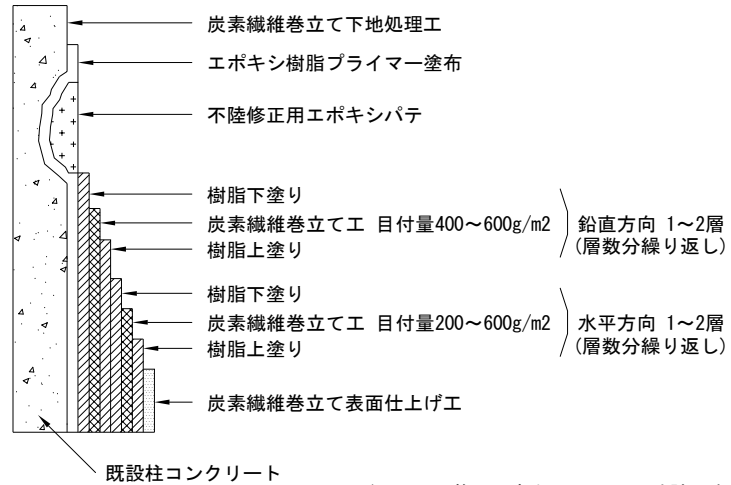
平面図



A部



B部



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	400g/m2	鉛直	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型
④	600g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型

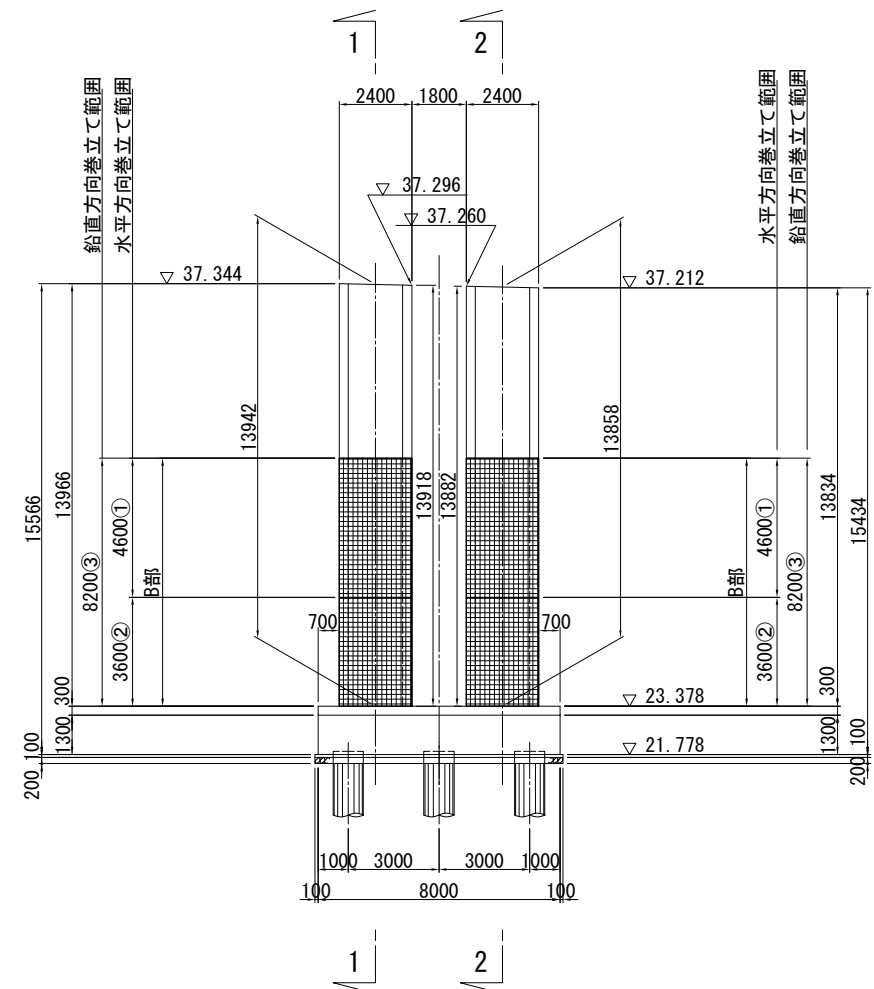
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

使用材料

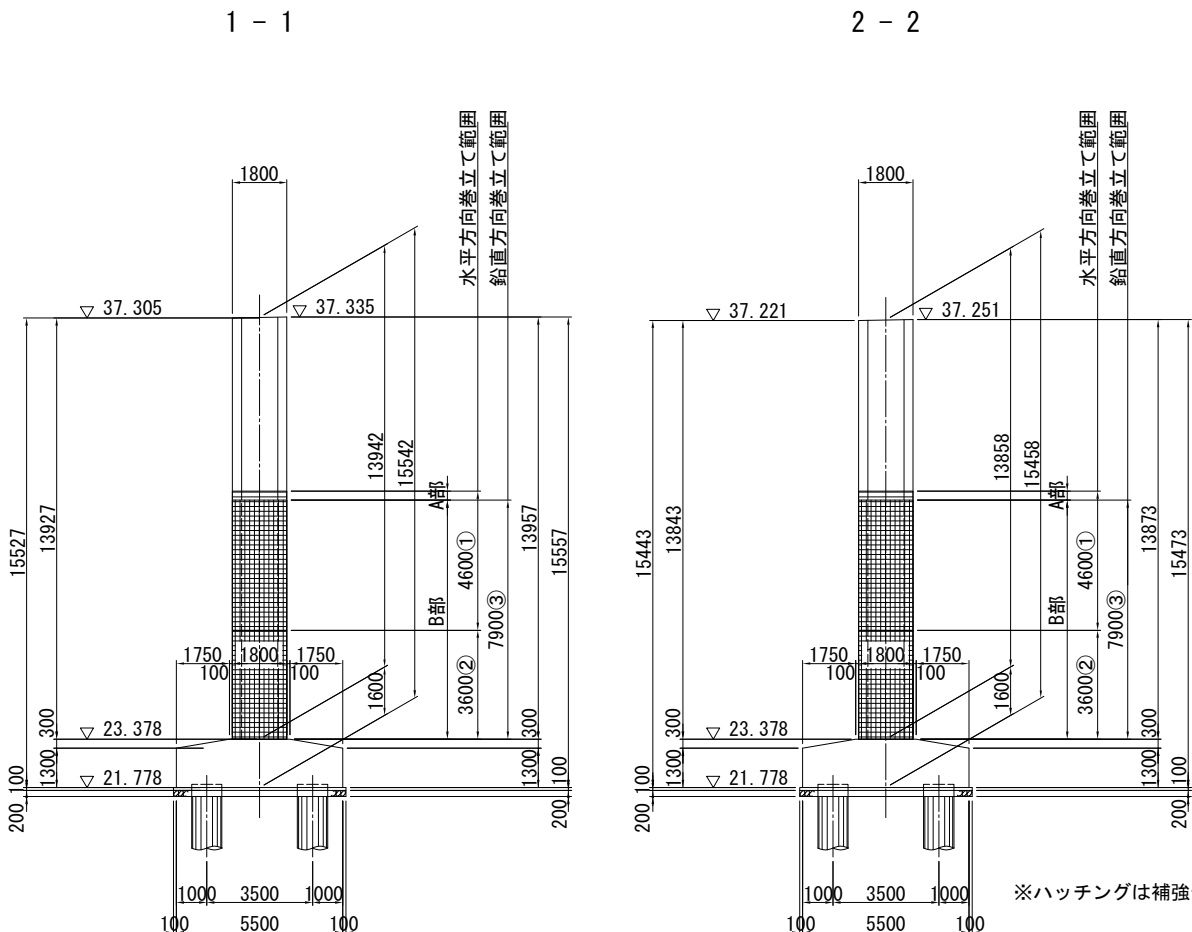
既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P7橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

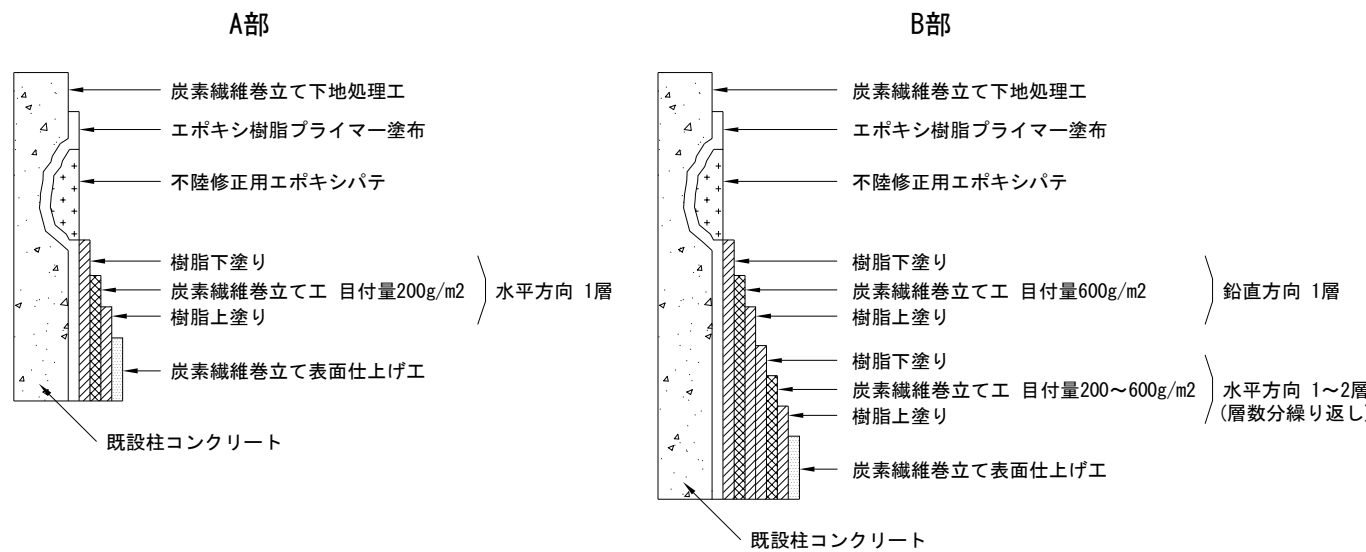
正面図



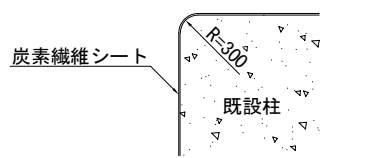
側面図



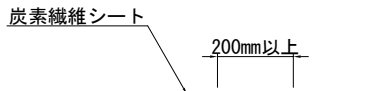
炭素繊維シート施工断面図



柱面曲り部詳細図 S=1:125

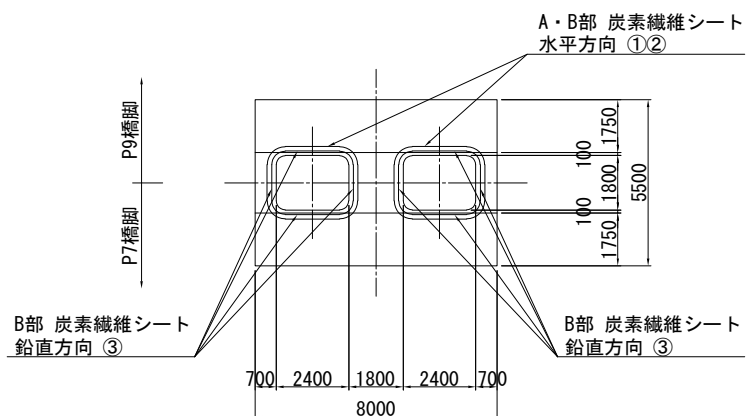


重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

平面図



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

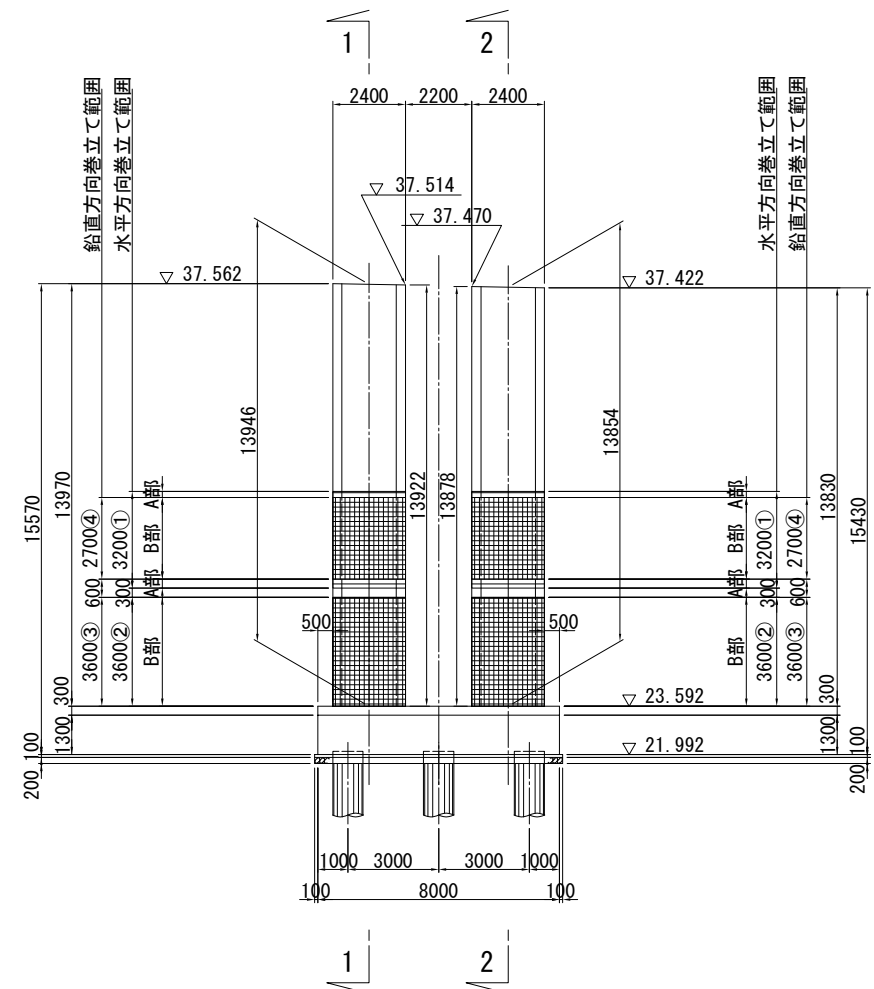
	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	600g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型

使用材料

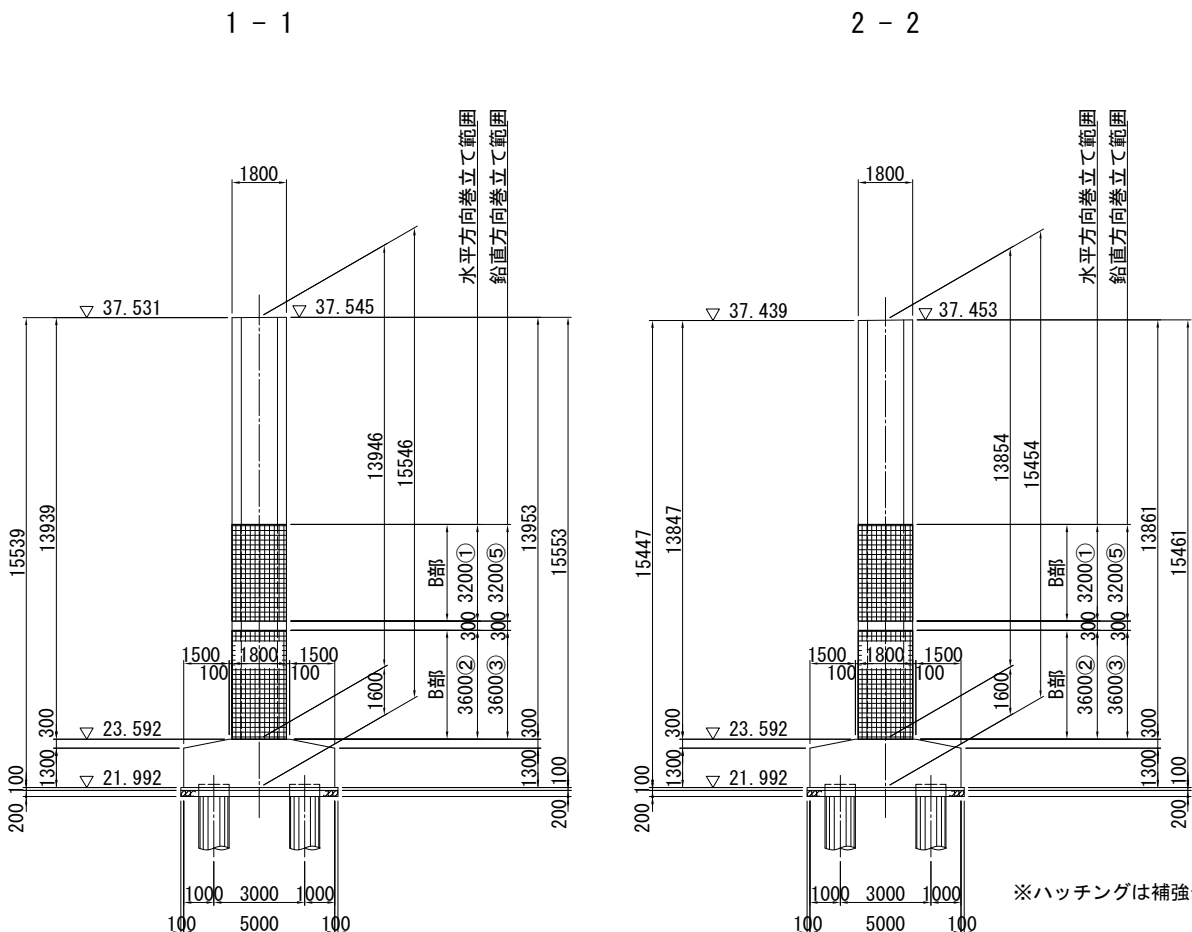
工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
東金IC Aランプ橋 P8橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図				
図面の種類				
縮	尺	図示	図面番号	／
設計会社名		日本工営株式会社		
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図



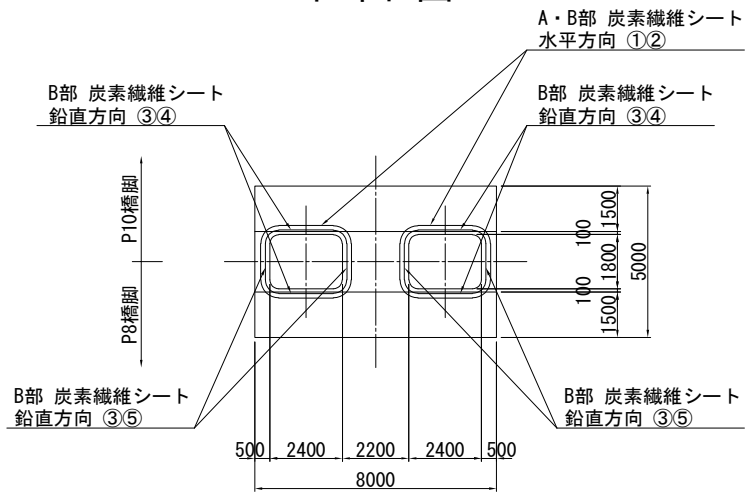
側面図



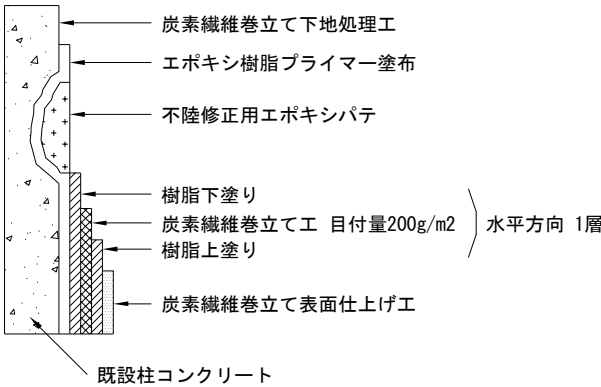
炭素繊維シート施工断面図

柱面曲り部詳細図 S=1:125

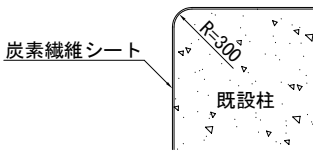
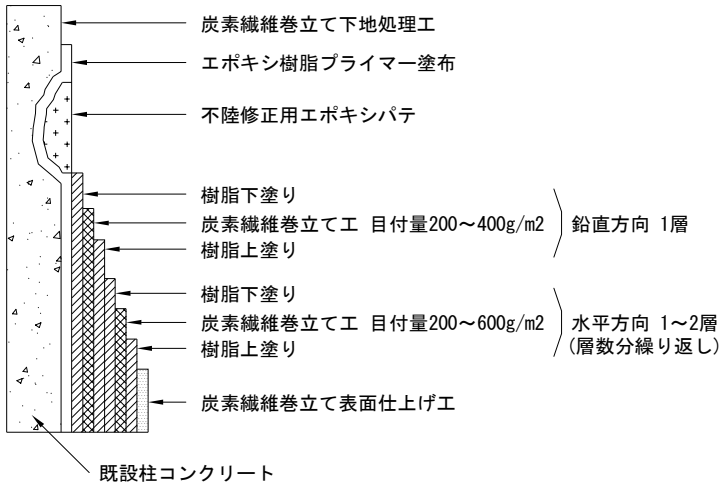
平面図



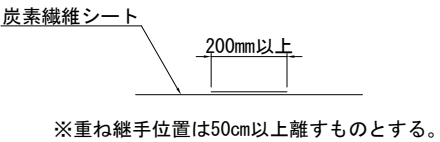
A部



B部



重ね継手詳細



炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
④	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型
⑤	400g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

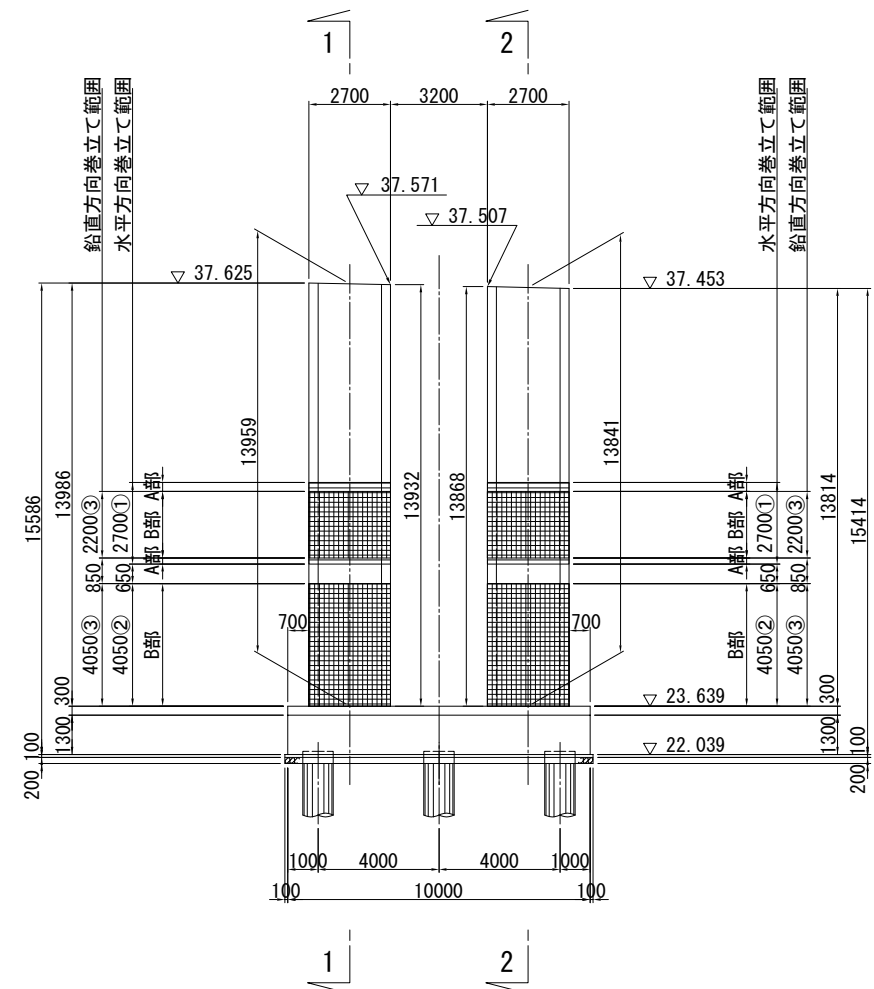
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

使用材料

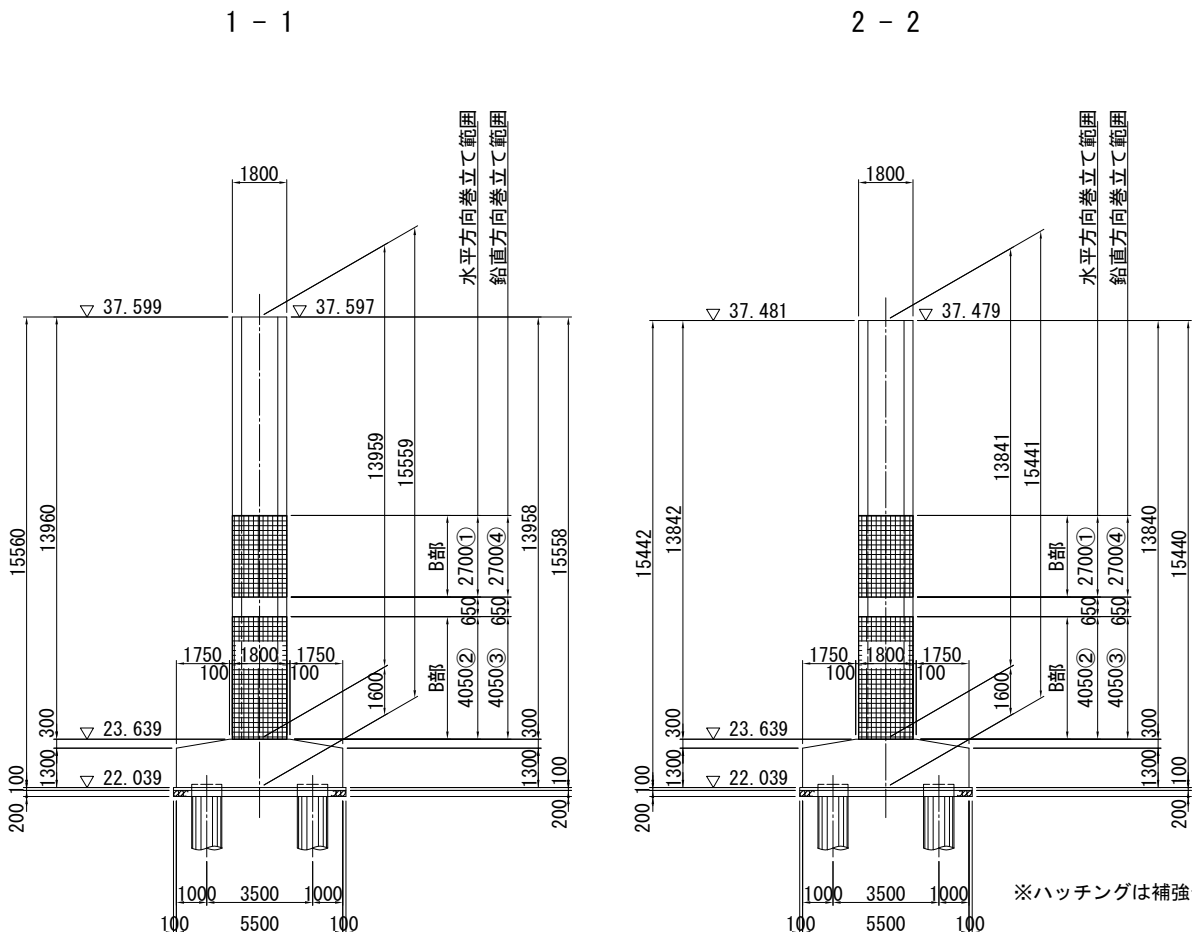
既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類		東金IC Aランプ橋 P9橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮	尺	図示	図面番号	／
設計会社名		日本工営株式会社		
施工会社名				
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

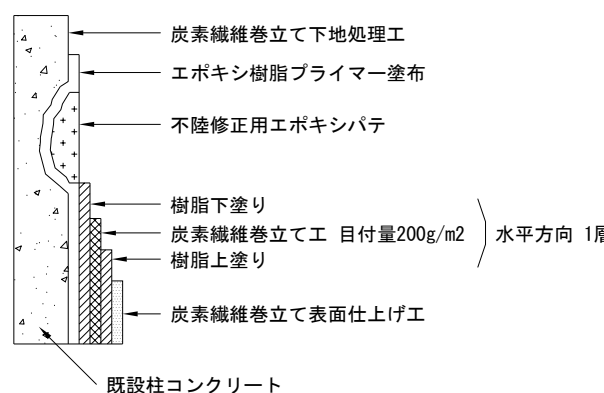


側面図

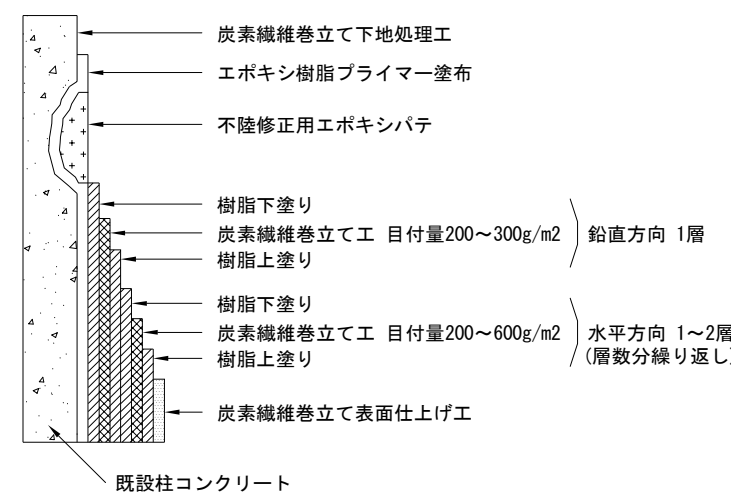


炭素繊維シート施工断面図

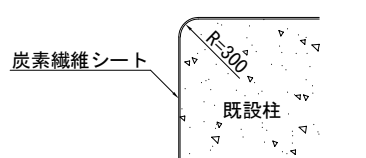
A部



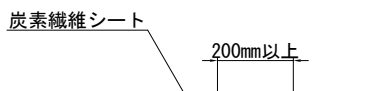
B部



柱面曲り部詳細図 S=1:125

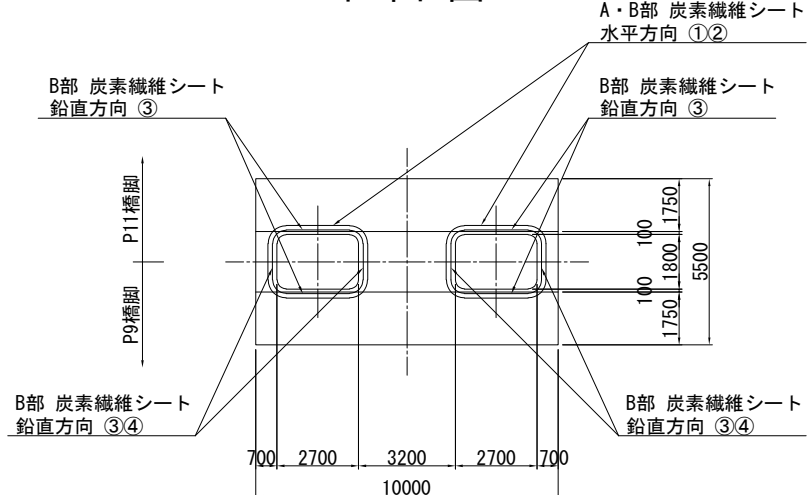


重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

平面図



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

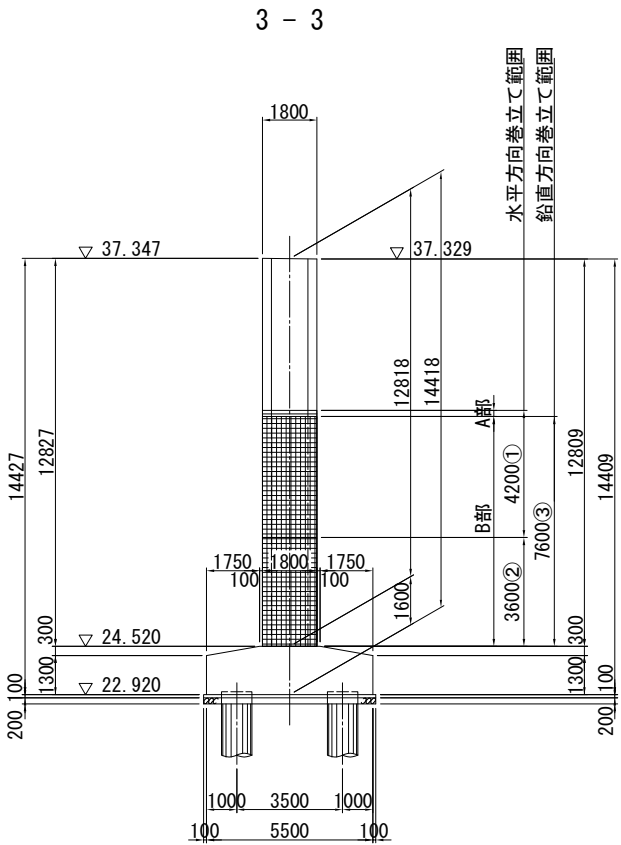
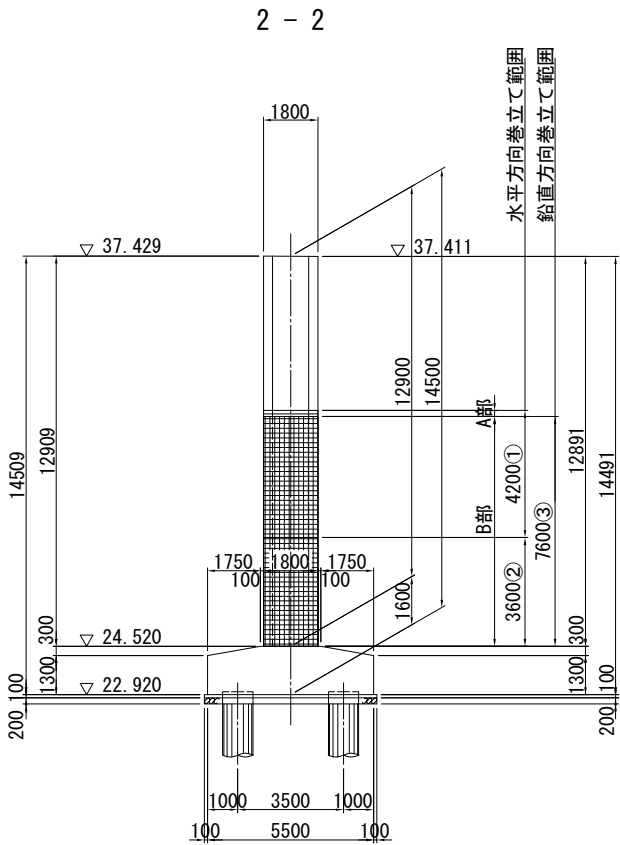
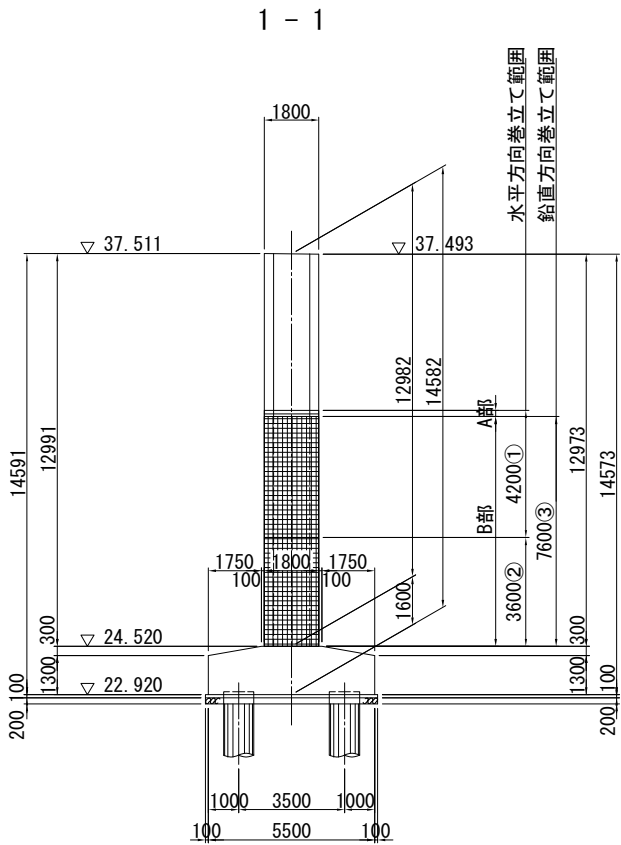
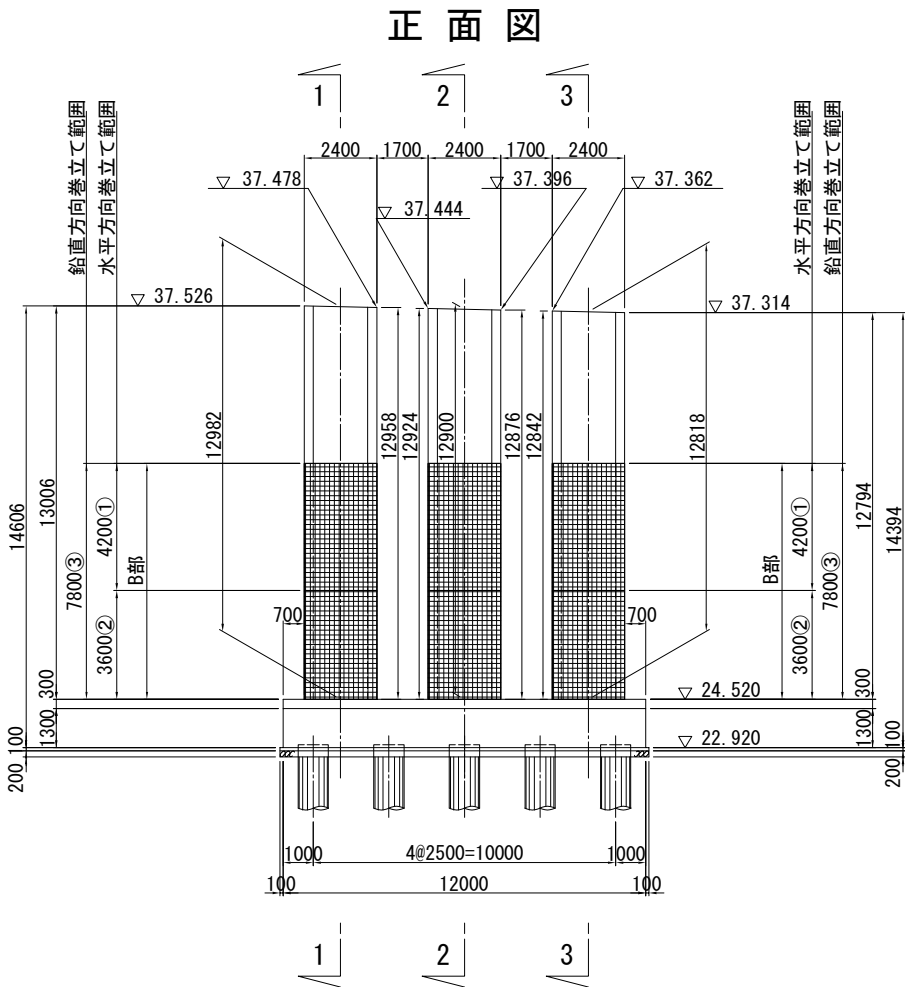
炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
④	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型

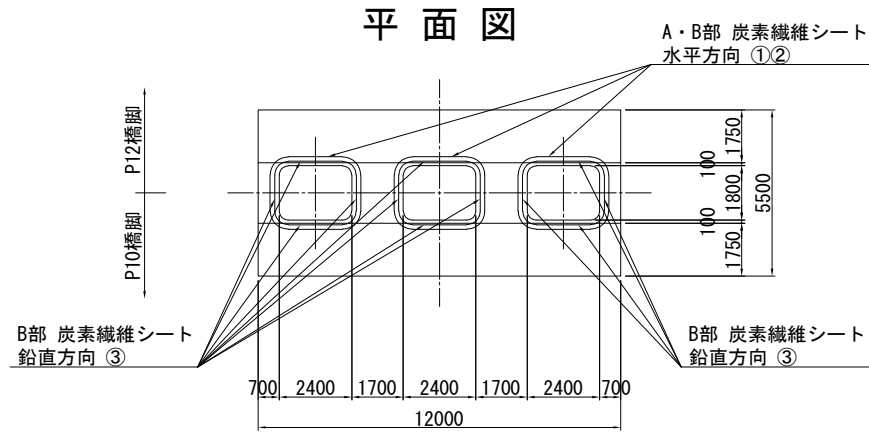
使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

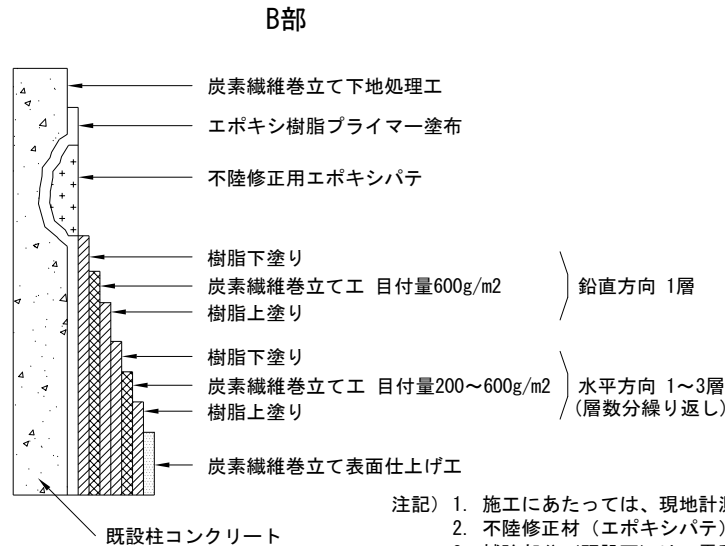
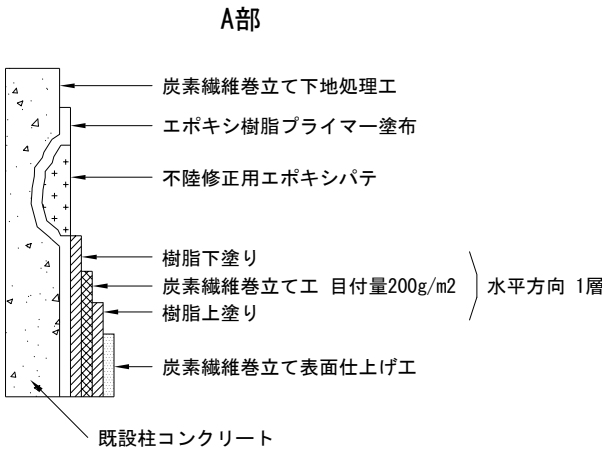
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P10橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



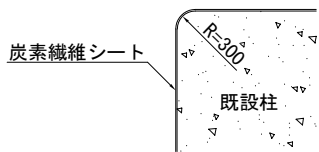
※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。



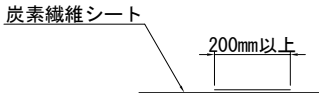
炭素繊維シート施工断面図



柱面曲り部詳細図 S=1:125



重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

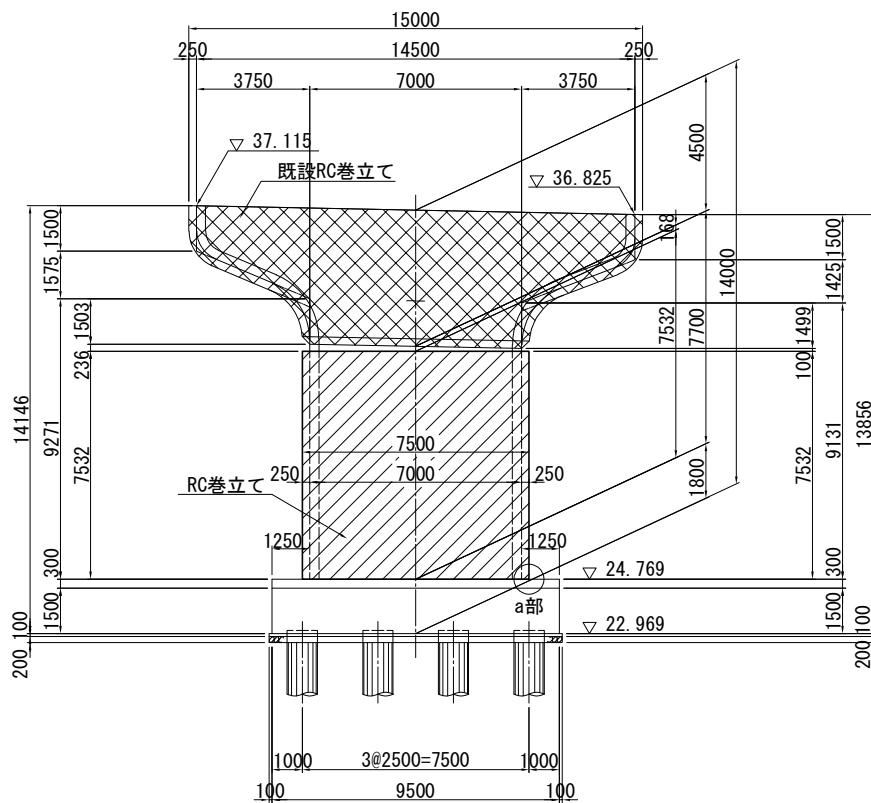
	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	3 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	600g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型

使用材料

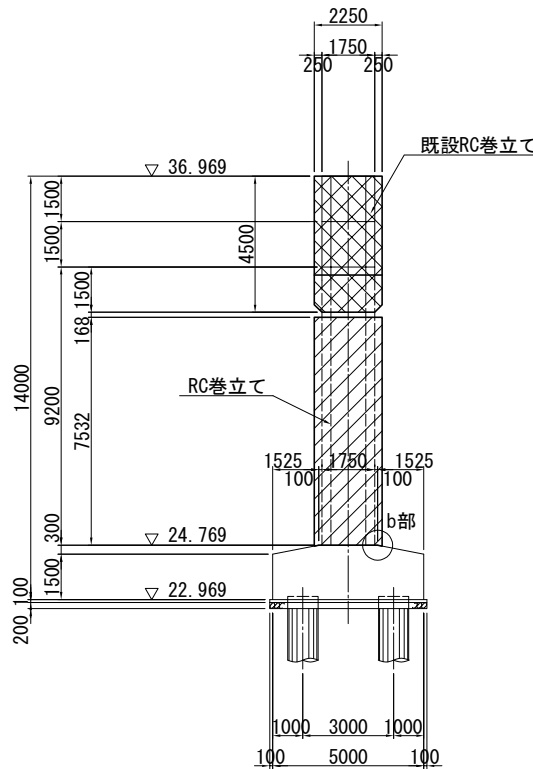
工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P11橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

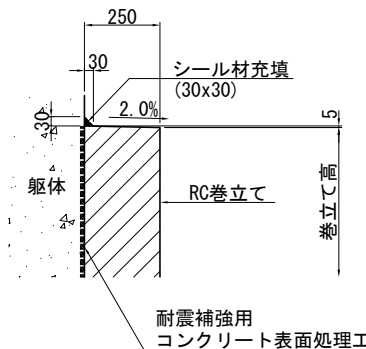


側面図

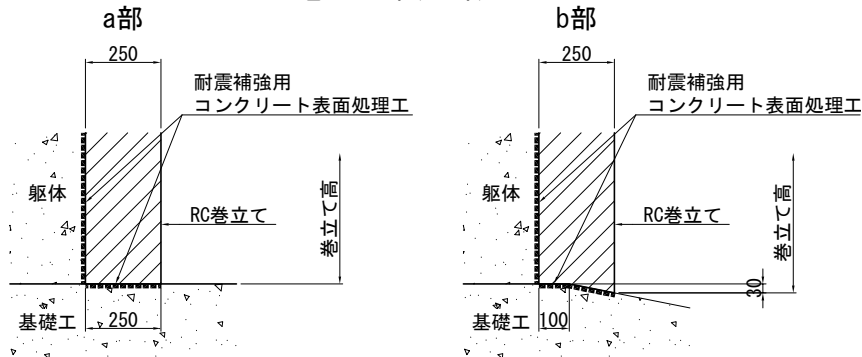


側面図
巻立て部詳細図 S=1:25

巻立て部(上部)

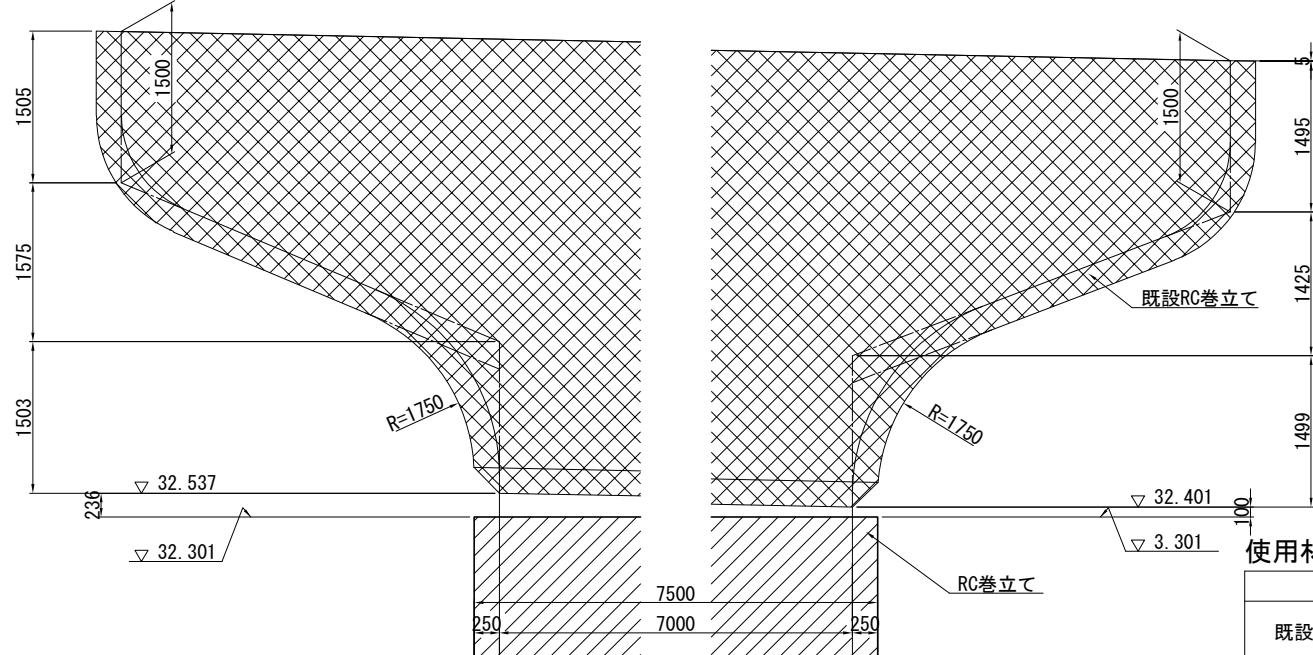
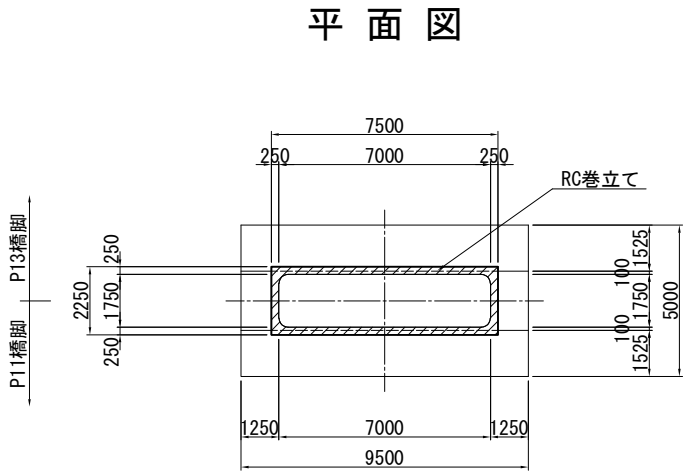


巻立て部(下部)



巻立て部天端拡大図 S=1:75

平面図



凡例
既設RC巻立て補強
RC巻立て補強

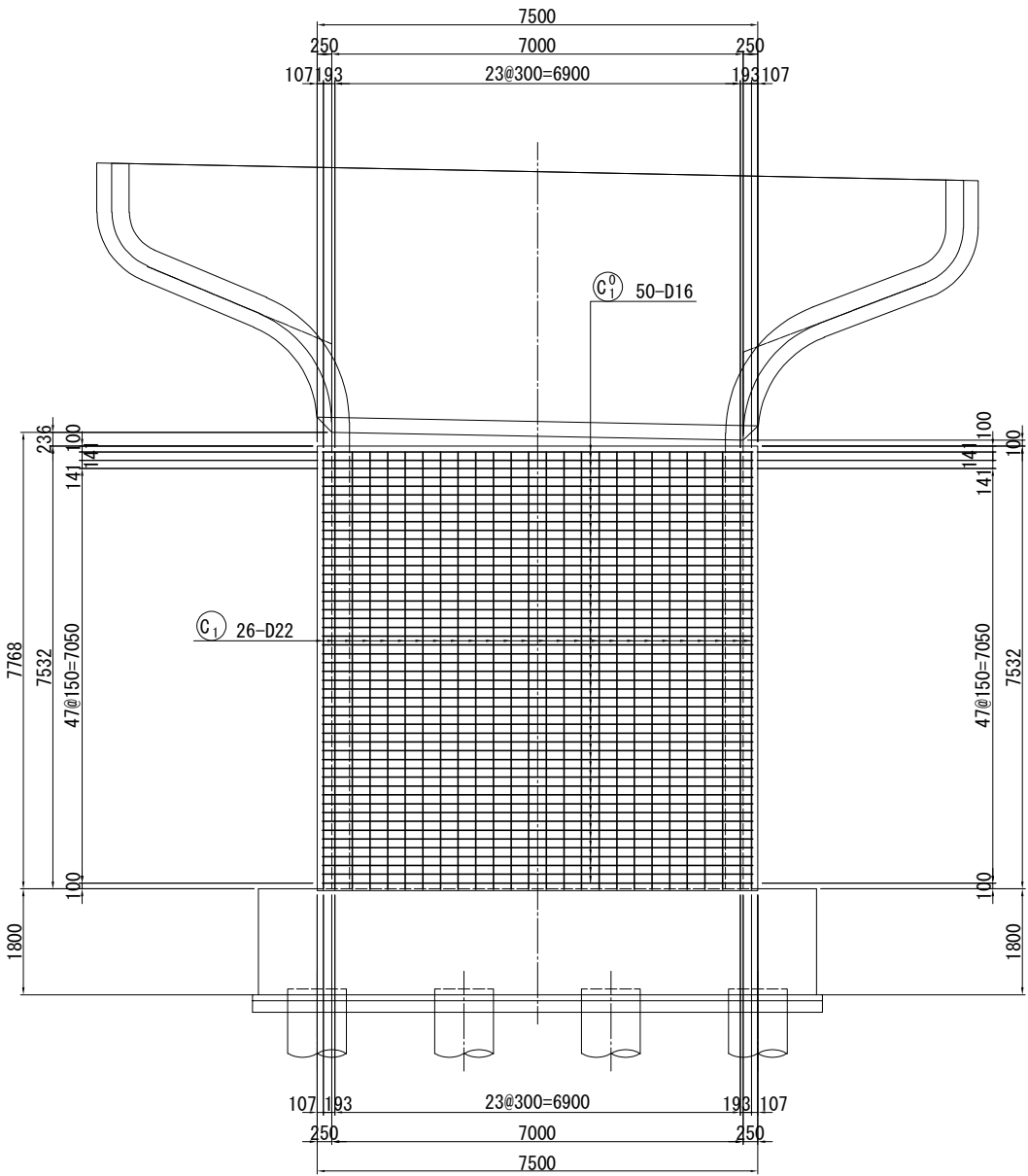
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、炭素繊維を撤去し、WJによる表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

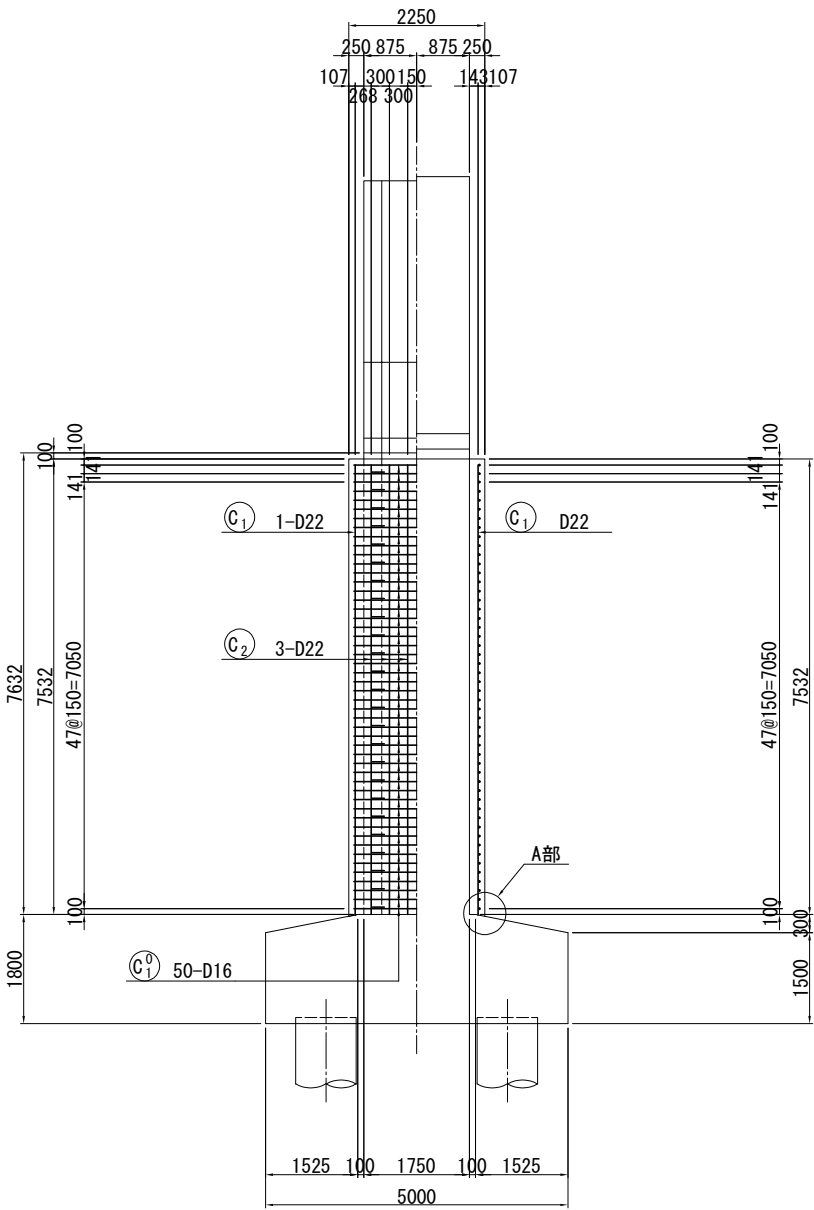
工種	仕様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄筋	SD345
	コンクリート	30 N/mm ²
補強部	鉄筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚 RC巻立て補強一般図		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

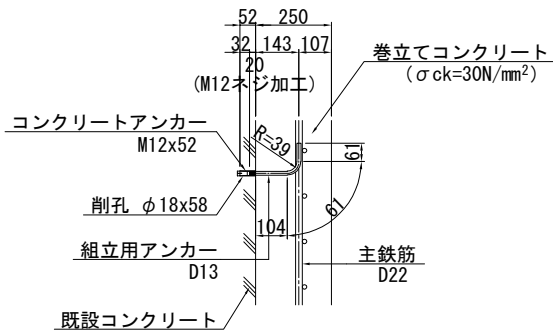
1 - 1



2 - 2 3 - 3



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)



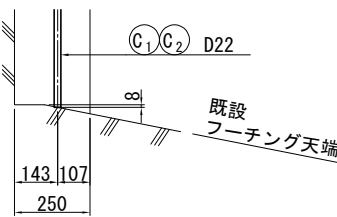
※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

組立用アンカー数量表

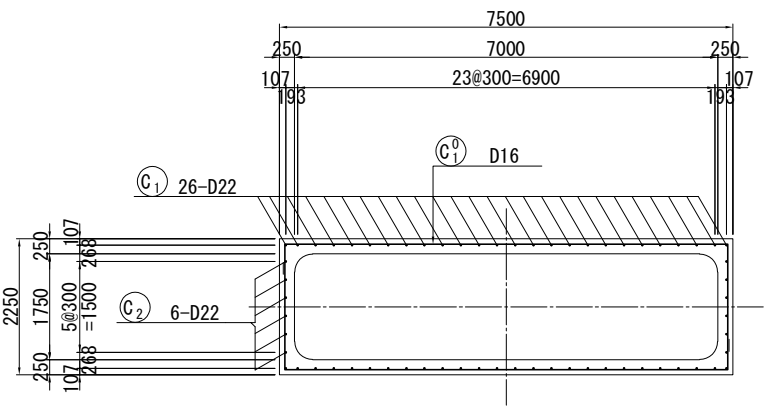
L (mm)	本数	質量 (kg)
250	132	33

※組立用アンカー本数
N=131.8m²/1本/m²=132本

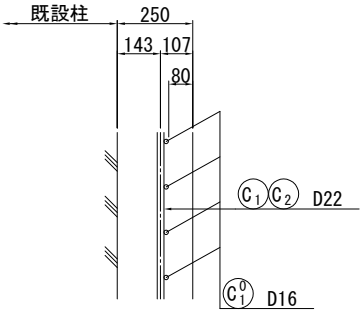
A部詳細図 S=1:25



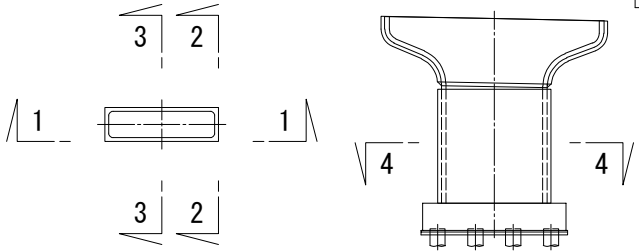
4 - 4



かぶり詳細図 S=1:25



位置図



- 注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
4. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。

使用材料

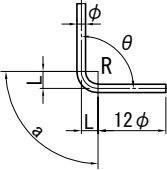
工 種	仕 様
補強部	コンクリート 30 N/mm²
	鉄 筋 SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

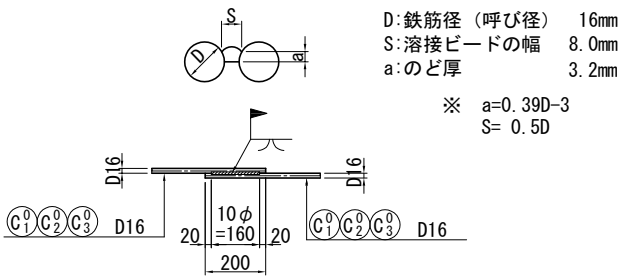
鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C 1	D22	7440	52	3. 04	22. 6	1175	
C 2	D22	7440	12	3. 04	22. 6	271	
1446 kg							
C 1 0	D16	9560	100	1. 56	14. 9	1490	┐ [100]
1490 kg							
T フレアー溶接箇所数							
D22			1446 kg	-			
D16			1490 kg	[100]			
合 計			2936 kg	[100]			
コンクリートアンカー M12x52 132 個							
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

										
径	$\theta \leq 90^\circ$	$\theta > 90^\circ$	$\theta = 45^\circ$		$\theta = 60^\circ$		$\theta = 90^\circ$		$\theta = 135^\circ$	
	$R=3. 0 \phi$	$R=5. 5 \phi$	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71. 5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104. 5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137. 5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159. 5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192. 5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225. 5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280. 5	360	379	320	210	240	66	220	12

フレアー溶接詳細図 S=1:25



注記) 1. 鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように交互に配置すること。
2. 鉄筋質量表内の[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

補強部	工 種	仕 様
	コンクリート 鉄 筋	30 N/mm ² SD345

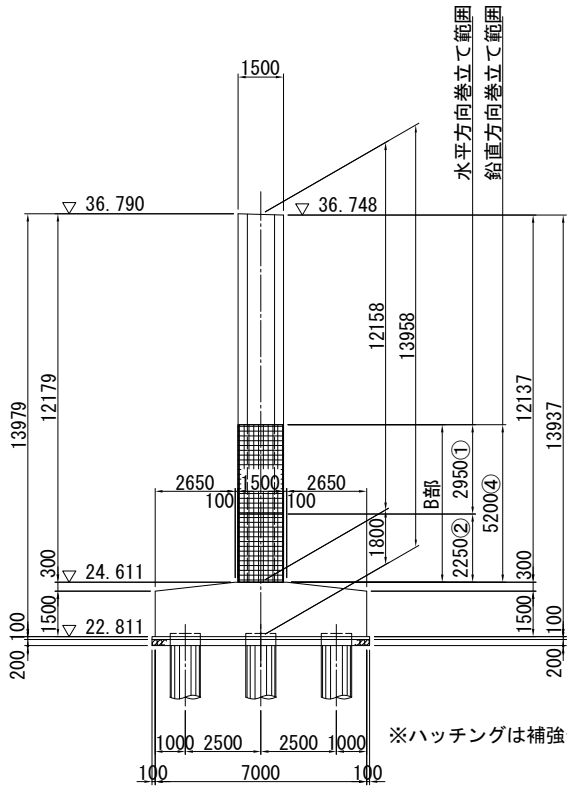
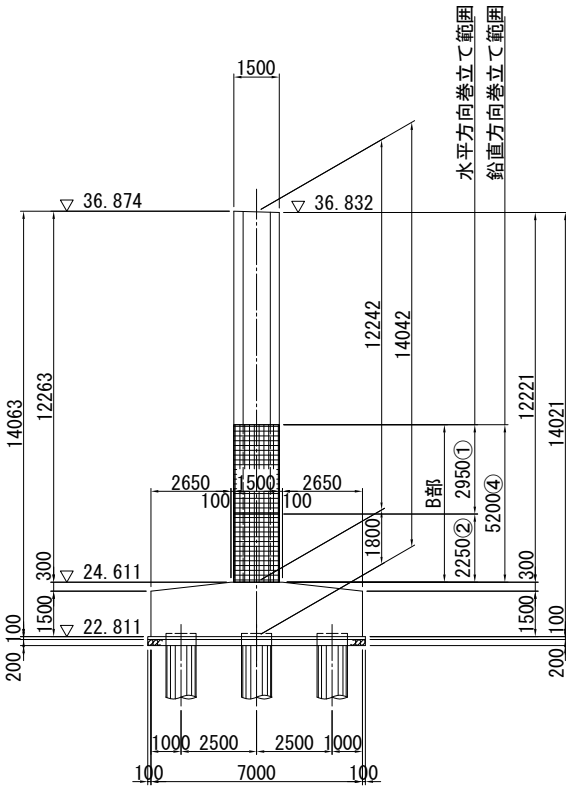
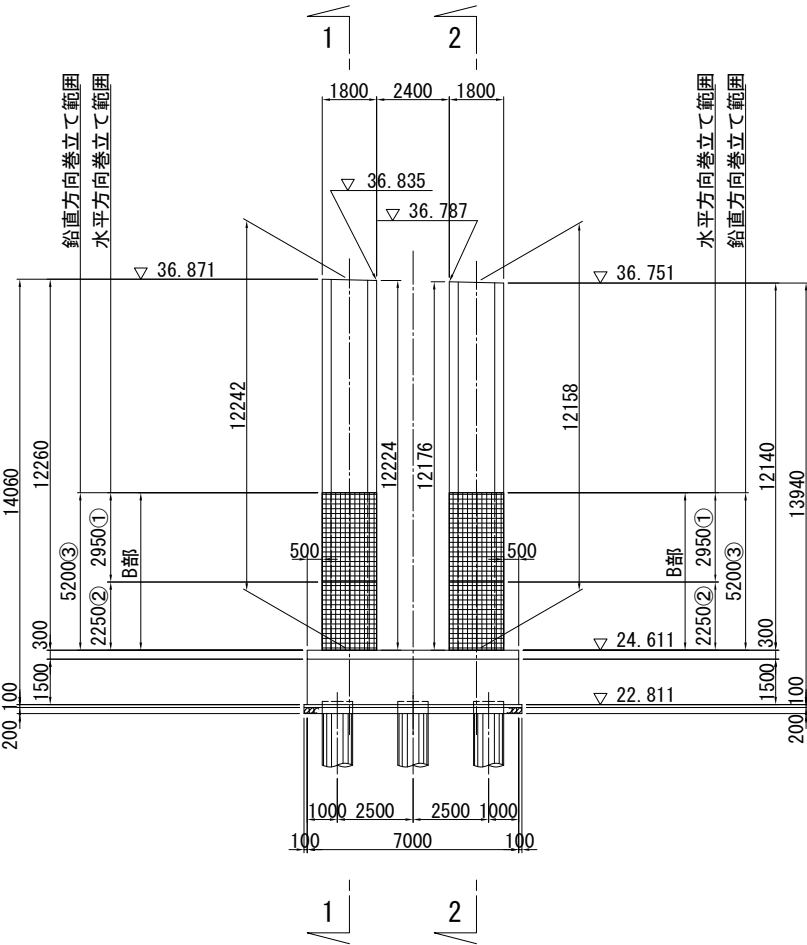
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2



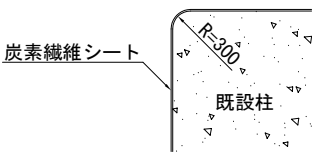
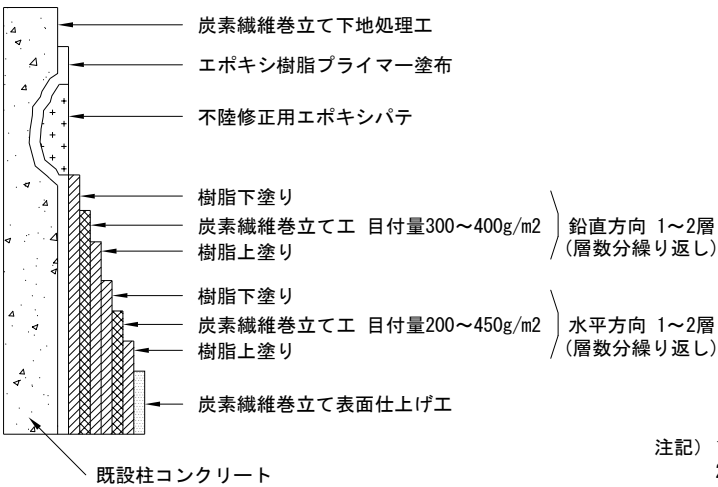
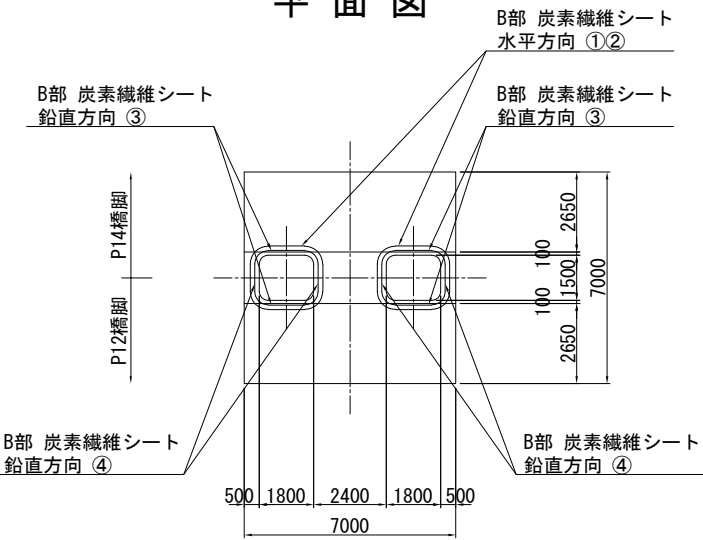
※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

平面図

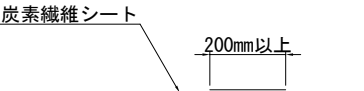
炭素繊維シート施工断面図

柱面曲り部詳細図 S=1:125

B部



重ね継手詳細



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	450g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.250mm	高強度型
③	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型
④	400g/m2	鉛直	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

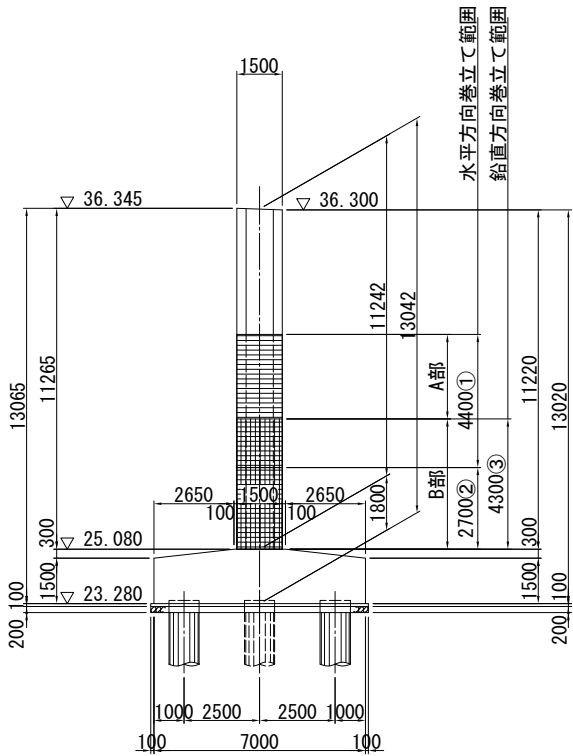
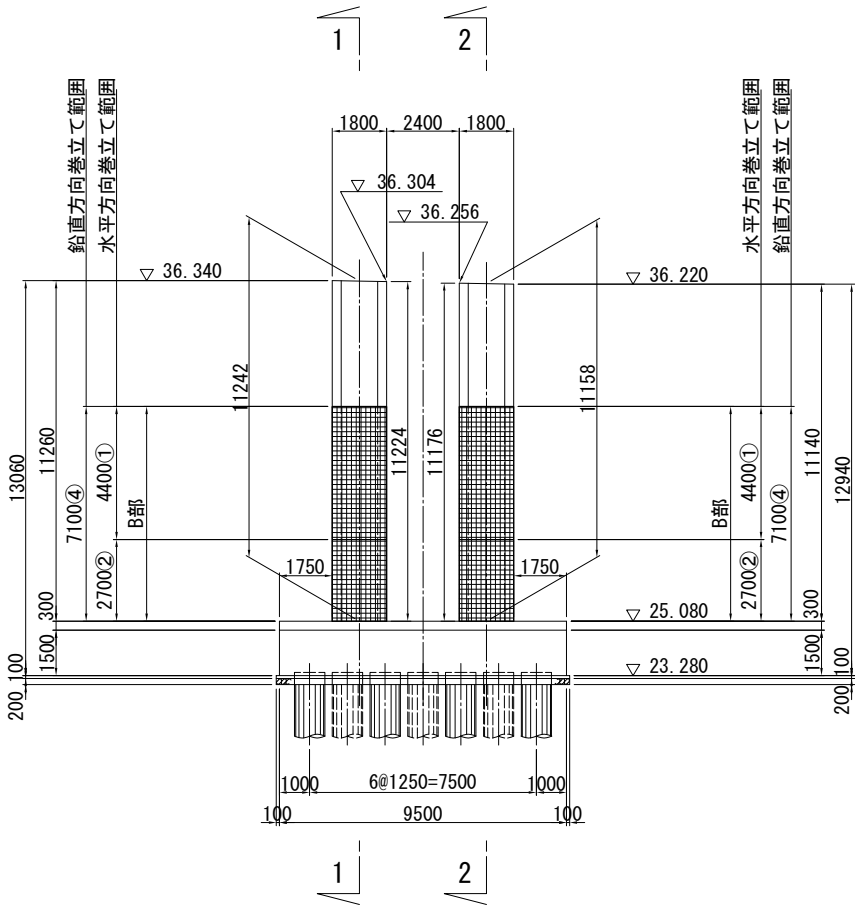
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P13橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

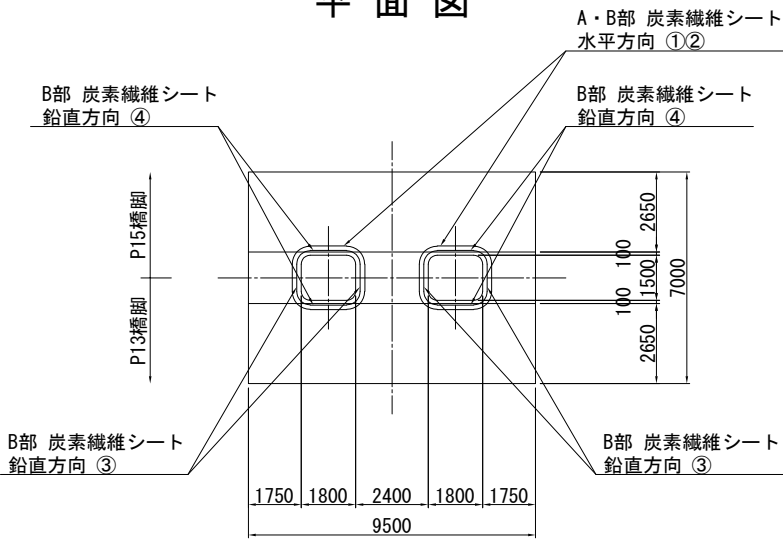
2 - 2



炭素繊維シート施工断面図

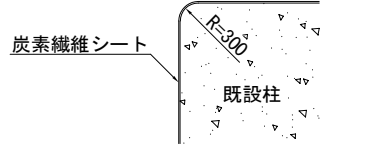
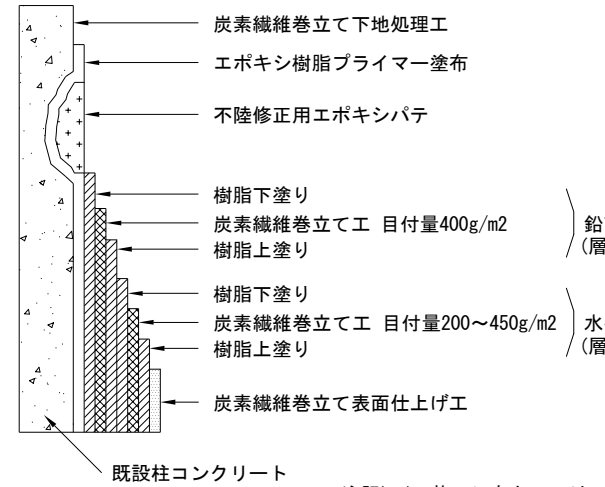
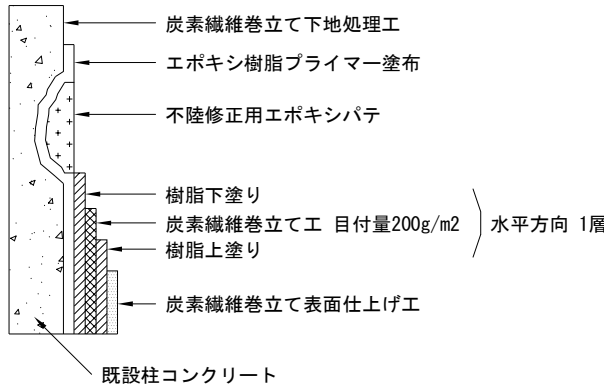
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



重ね継手詳細

※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	450g/m2	水平	3 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.250mm	高強度型
③	400g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型
④	400g/m2	鉛直	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

使用材料

工 種	仕 様
既設部	コンクリート 鉄 筋
補強部	炭素繊維 図 示

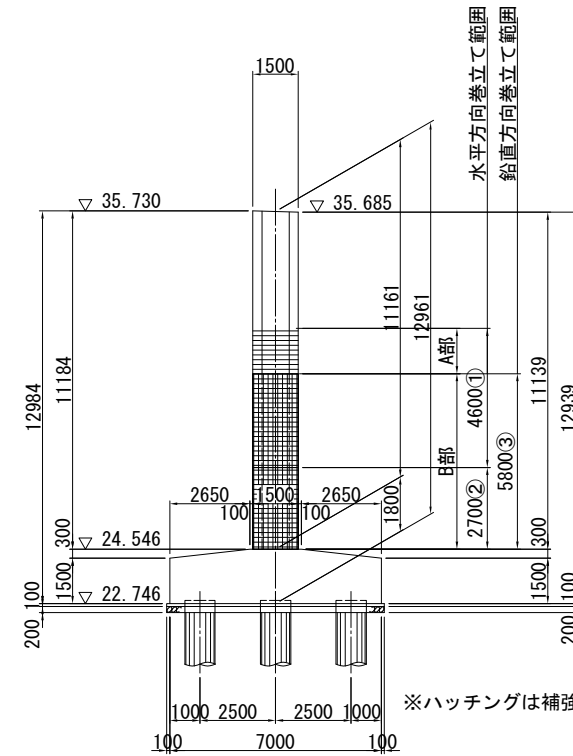
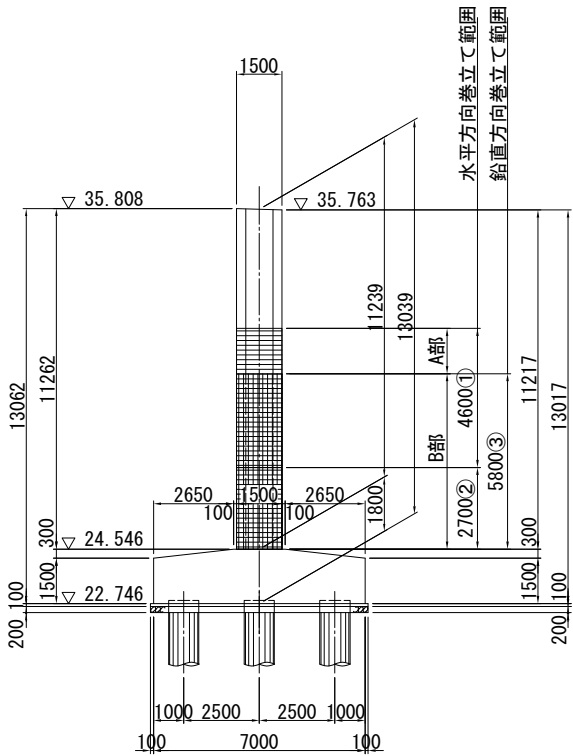
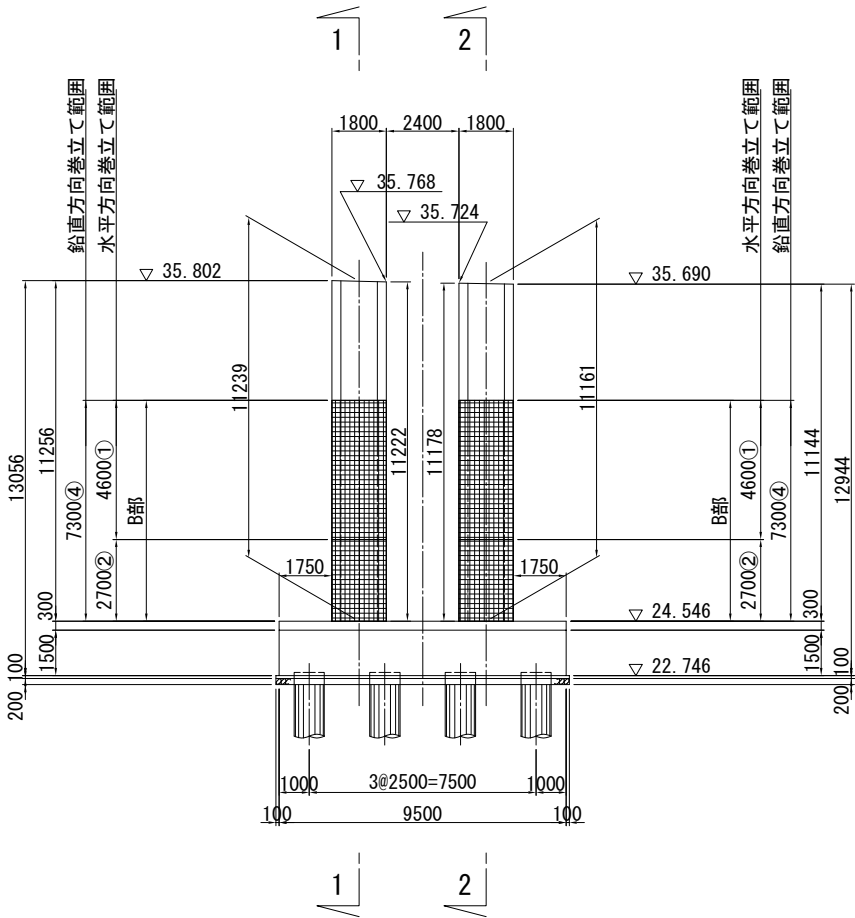
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P14橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2

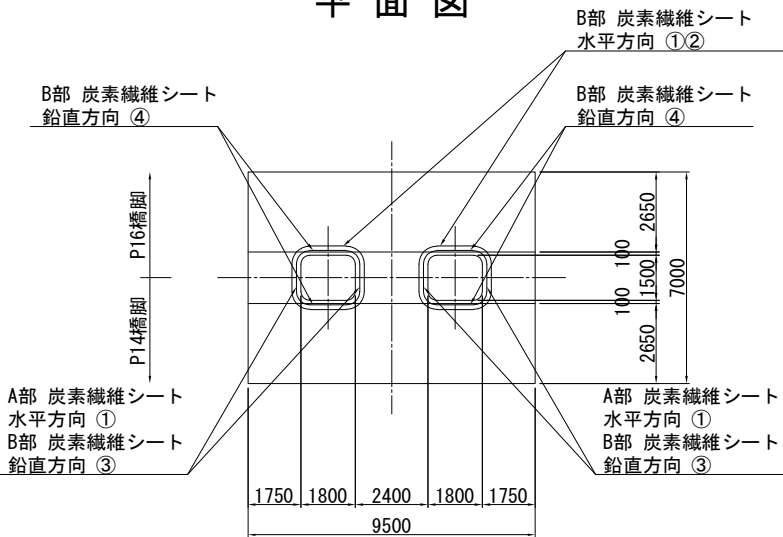


※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

炭素繊維シート施工断面図

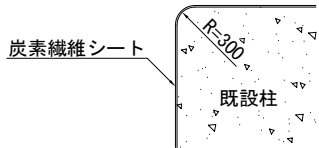
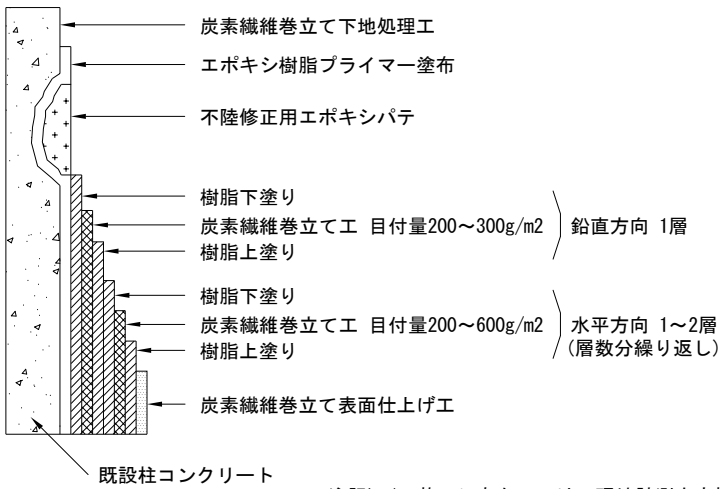
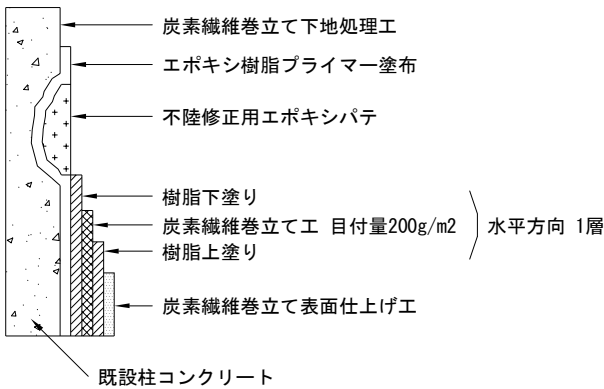
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



重ね継手詳細

炭素繊維シート
200mm以上
※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
④	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

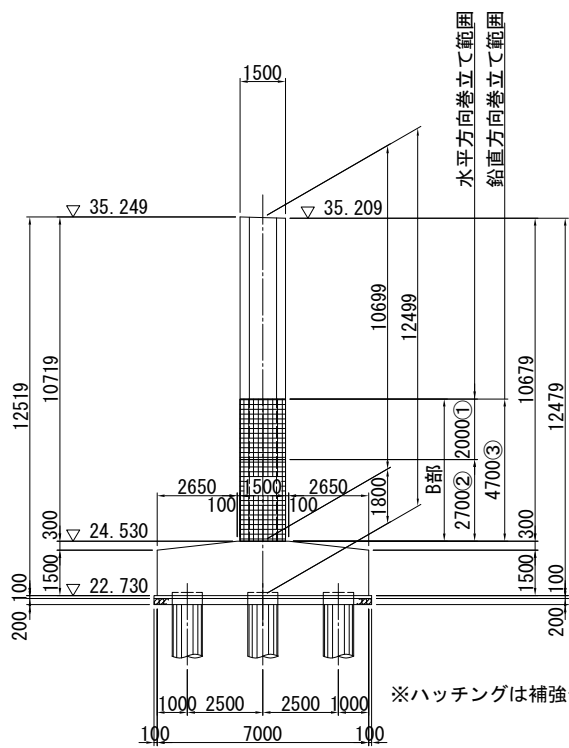
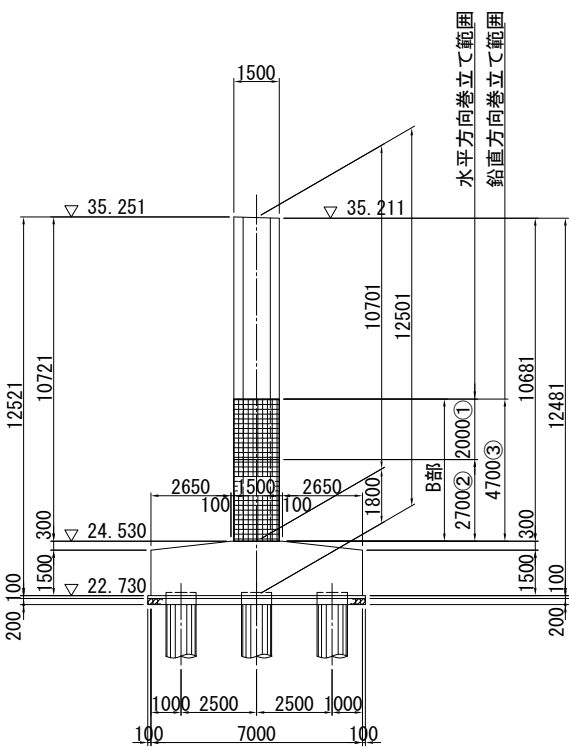
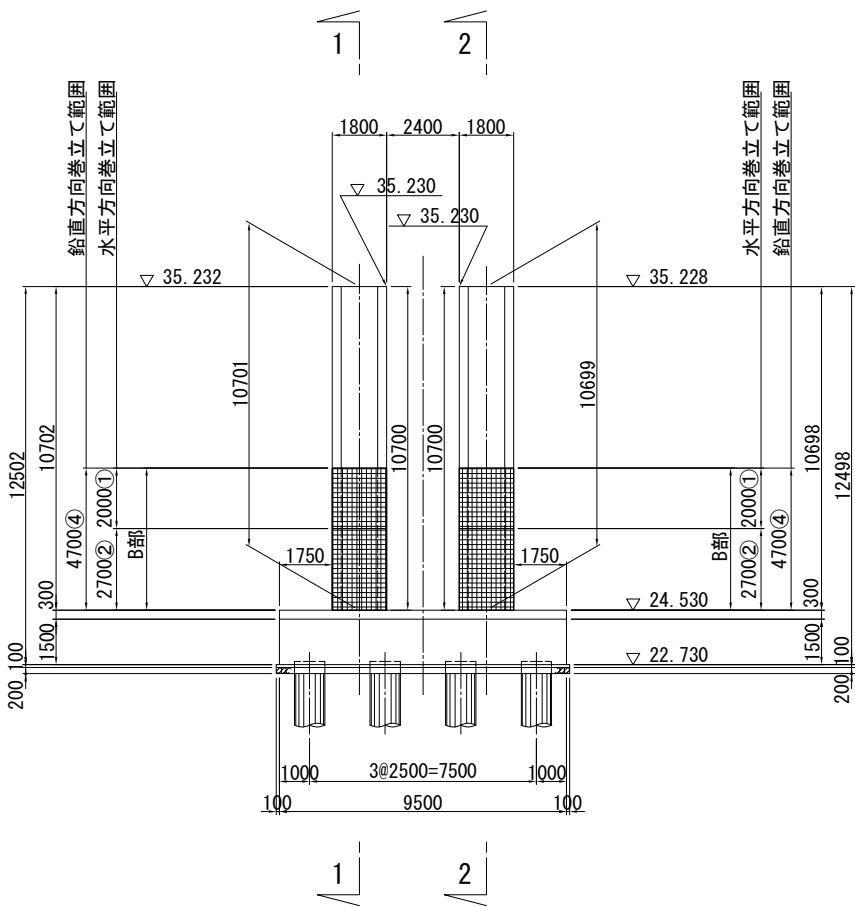
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P15橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

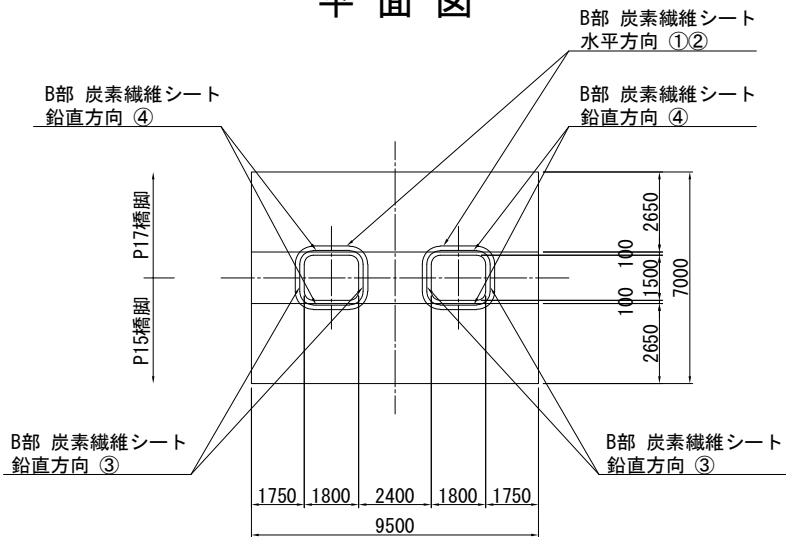
1 - 1

2 - 2



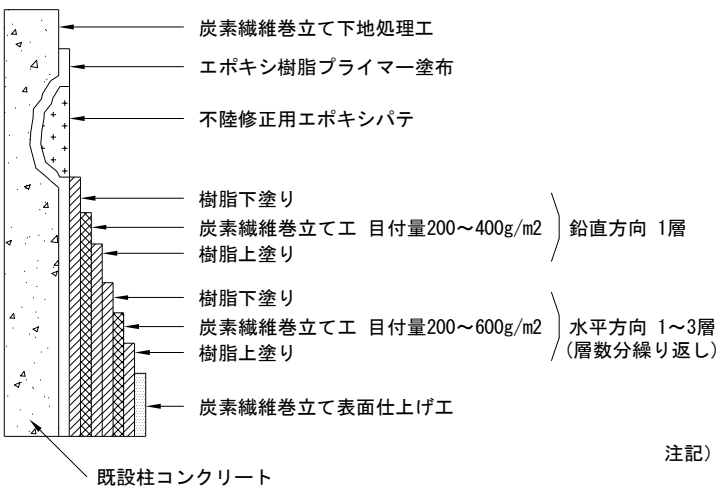
※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

平面図

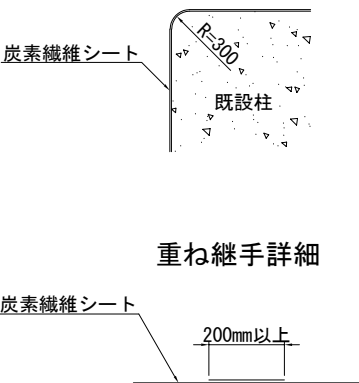


炭素繊維シート施工断面図

B部



柱面曲り部詳細図 S=1:25



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	3 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
④	400g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

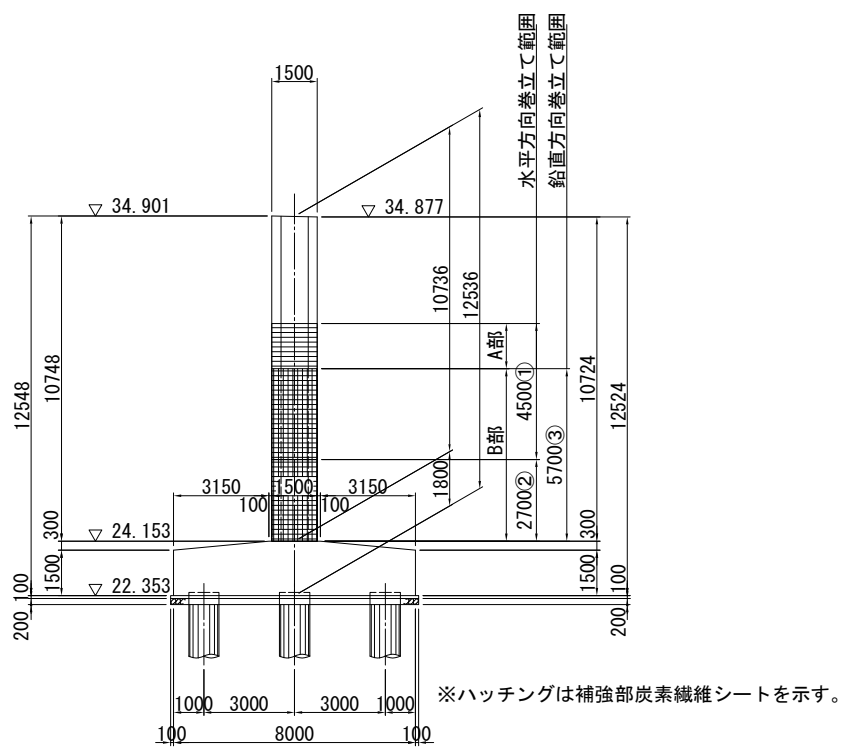
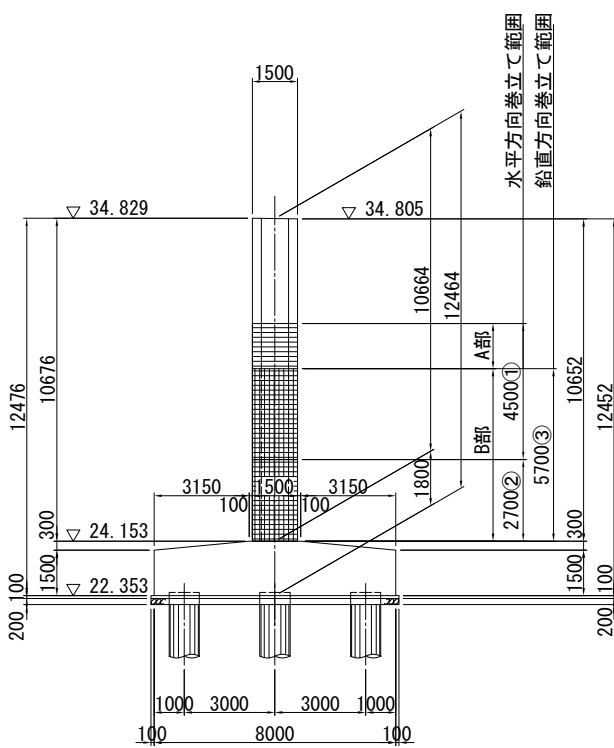
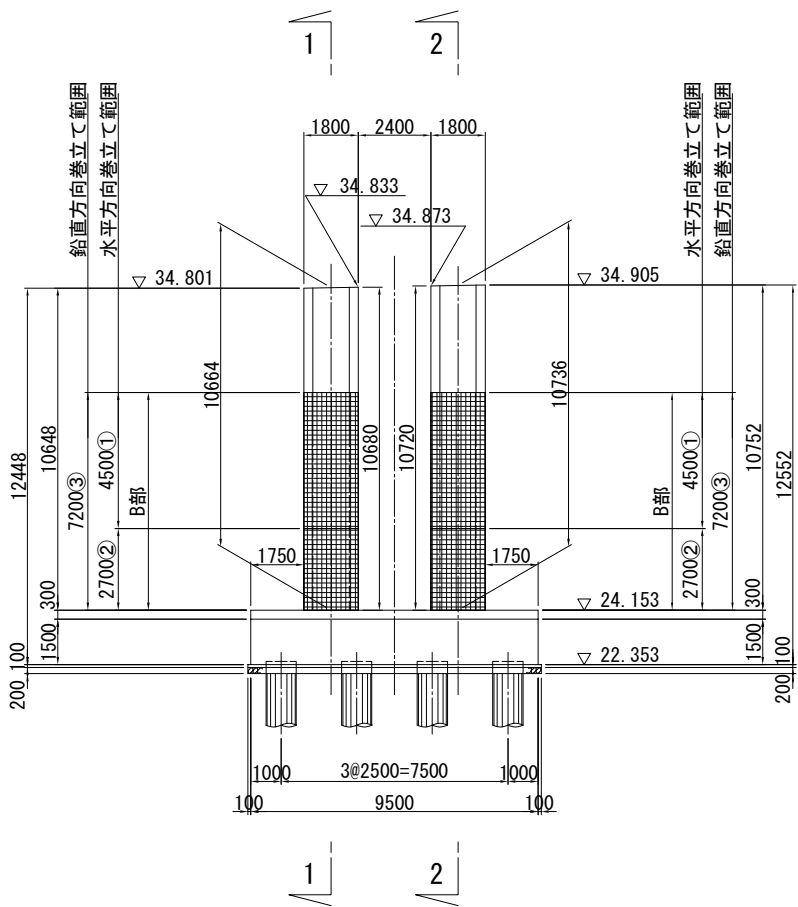
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P16橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

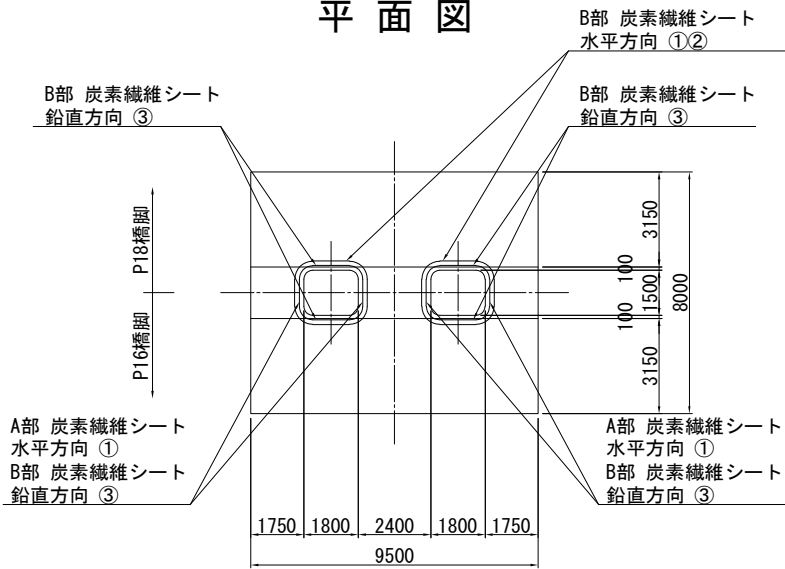
2 - 2



炭素繊維シート施工断面図

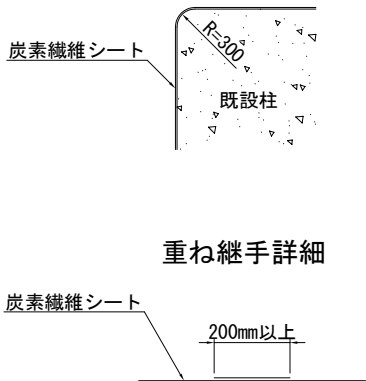
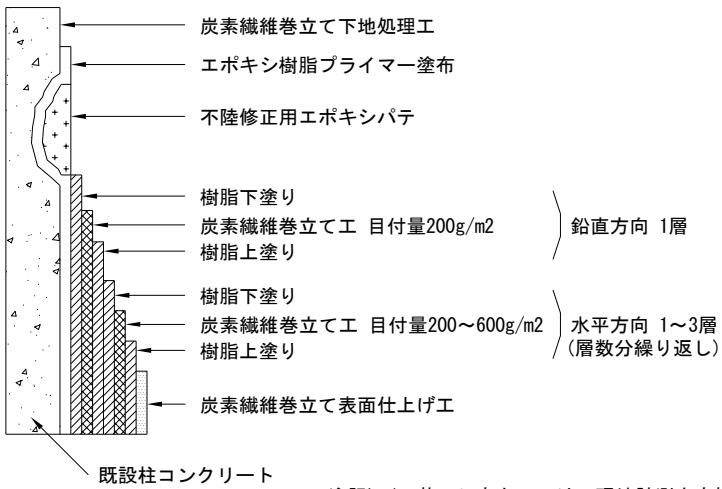
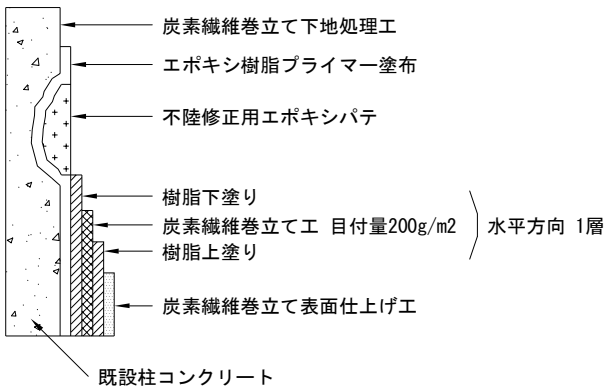
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	3 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

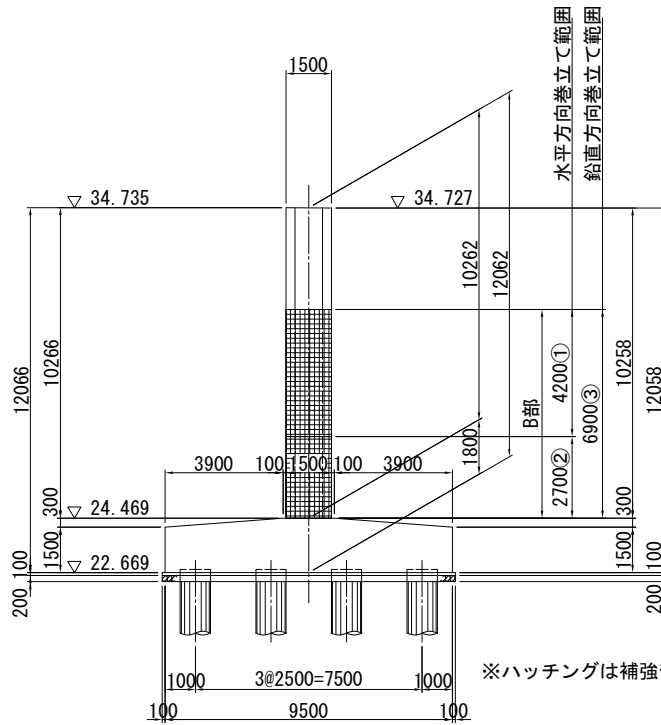
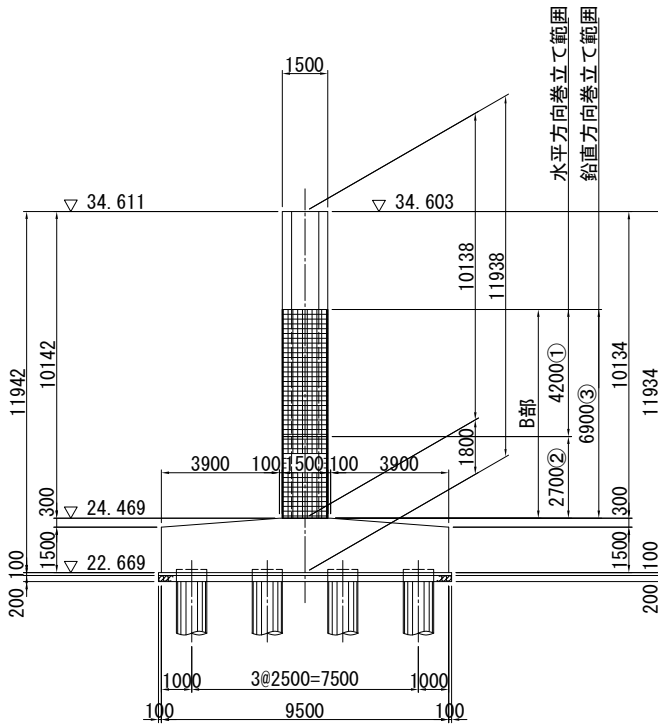
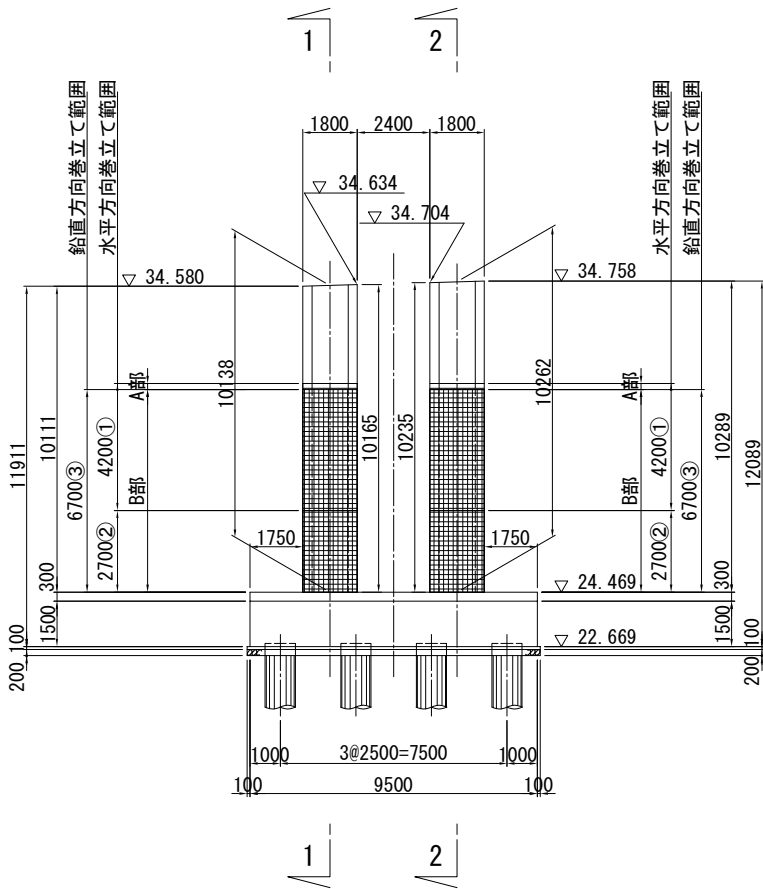
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P17橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図			
縮 尺	図示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所			

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2

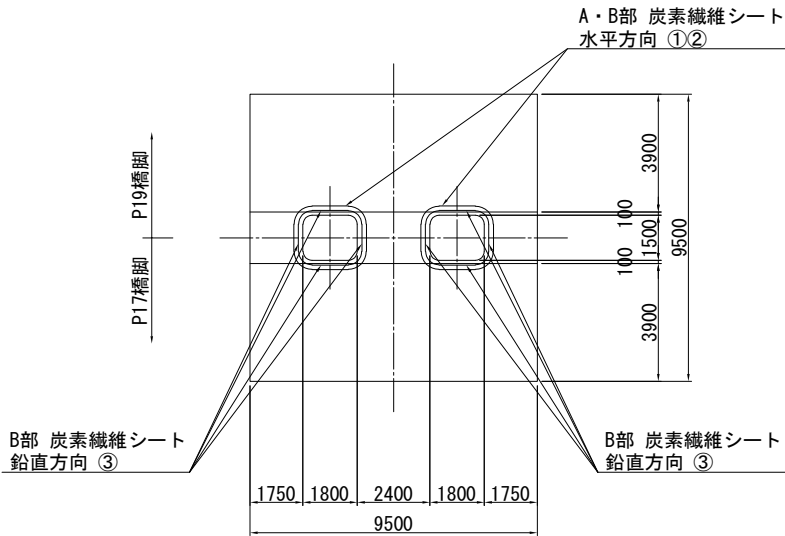


※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

炭素繊維シート施工断面図

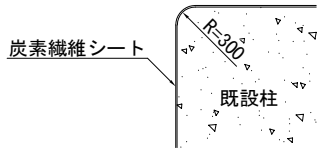
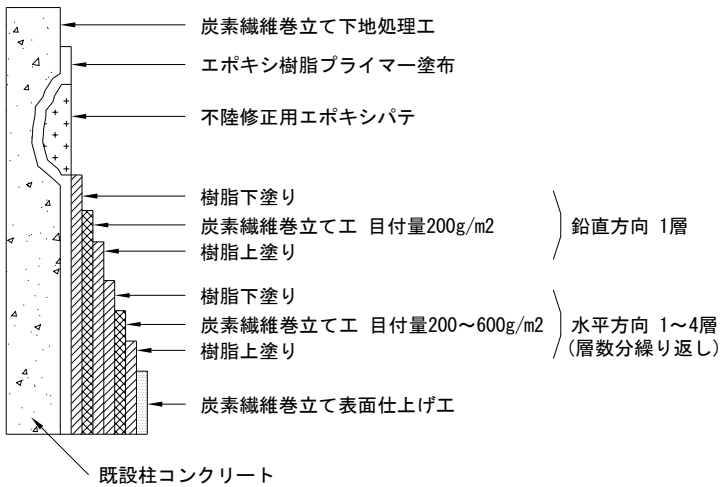
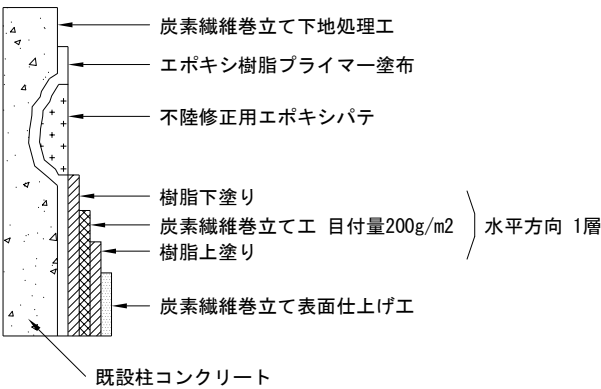
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



重ね継手詳細

炭素繊維シート 200mm以上
※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

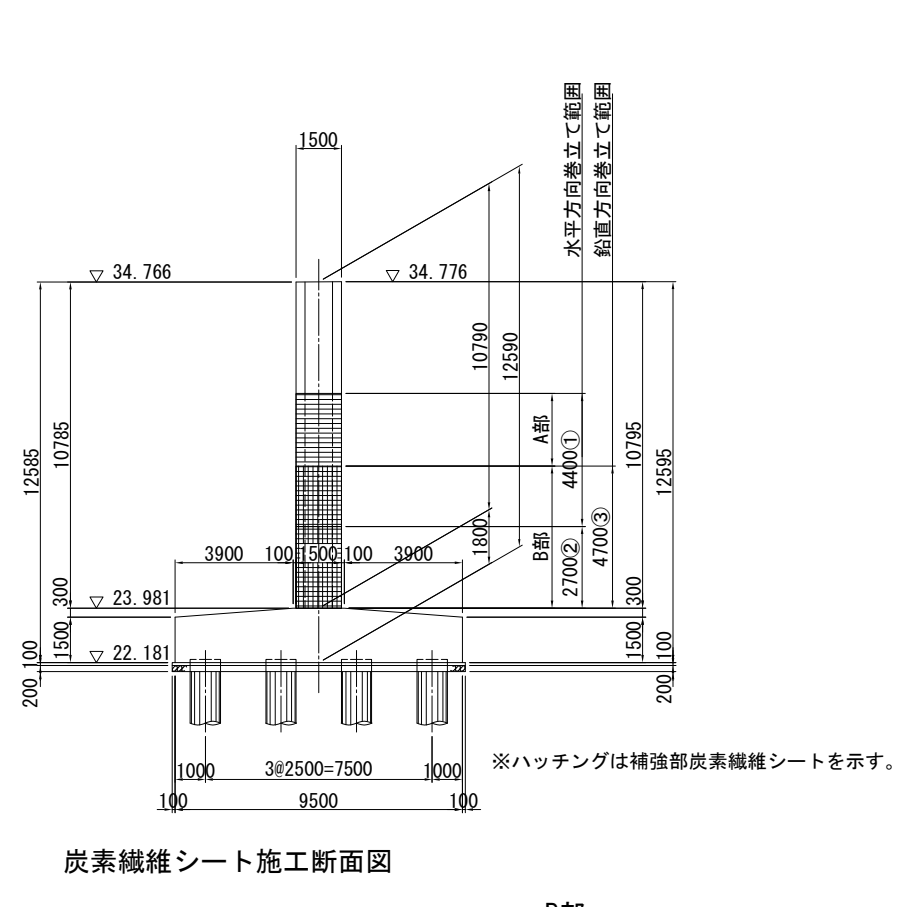
	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	4 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	200g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型

使用材料

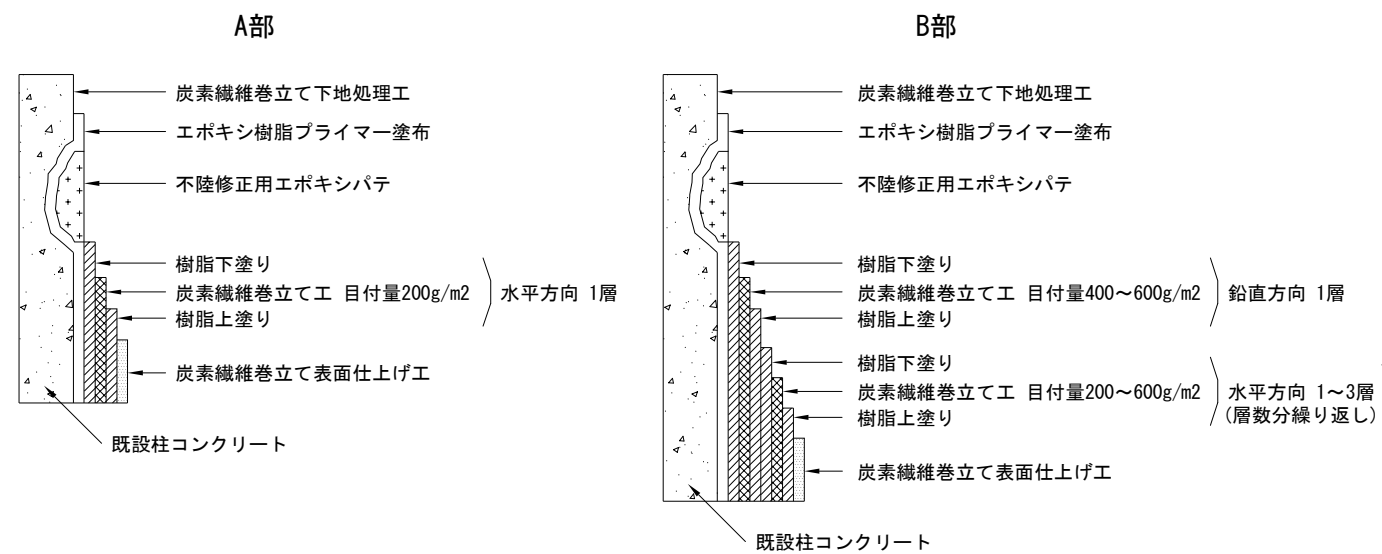
工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P18橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

2 - 2



柱面曲り部詳細図 S=1:125



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材（エポキシパテ）の使用量は、地下状況確認後決定する。
3. 補強部分（既設面）は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A（ポリマーセメントモルタル $t=1mm$ ）とする。

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm ²)	設計厚さ	種別
①	200g/m ²	水平	1 層	3400N/mm ²	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m ²	水平	3 層	3400N/mm ²	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	400g/m ²	鉛直	1 層	3400N/mm ²	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型
④	600g/m ²	鉛直	1 層	3400N/mm ²	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型

工 種		仕 様
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

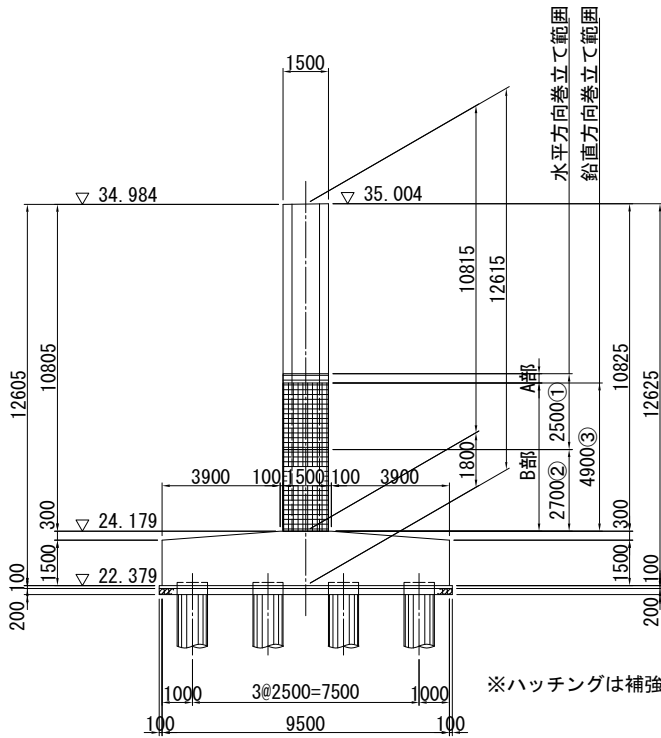
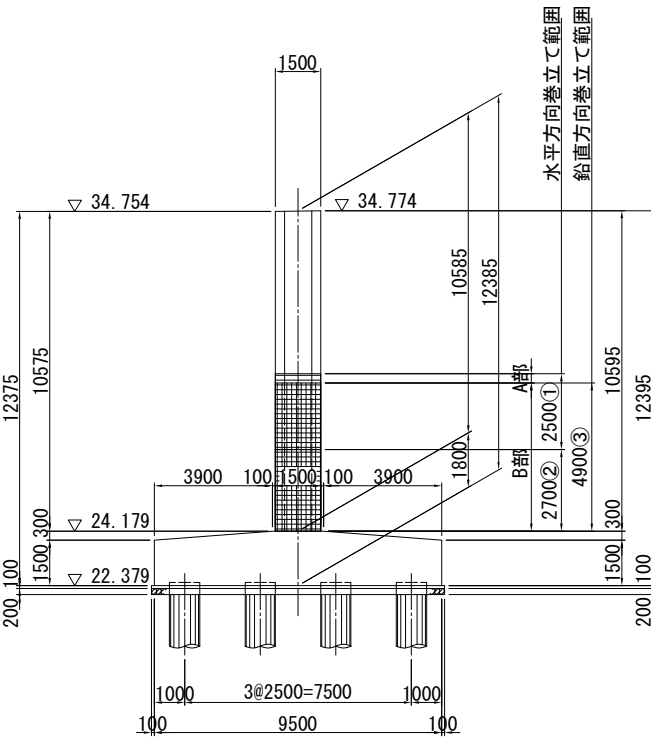
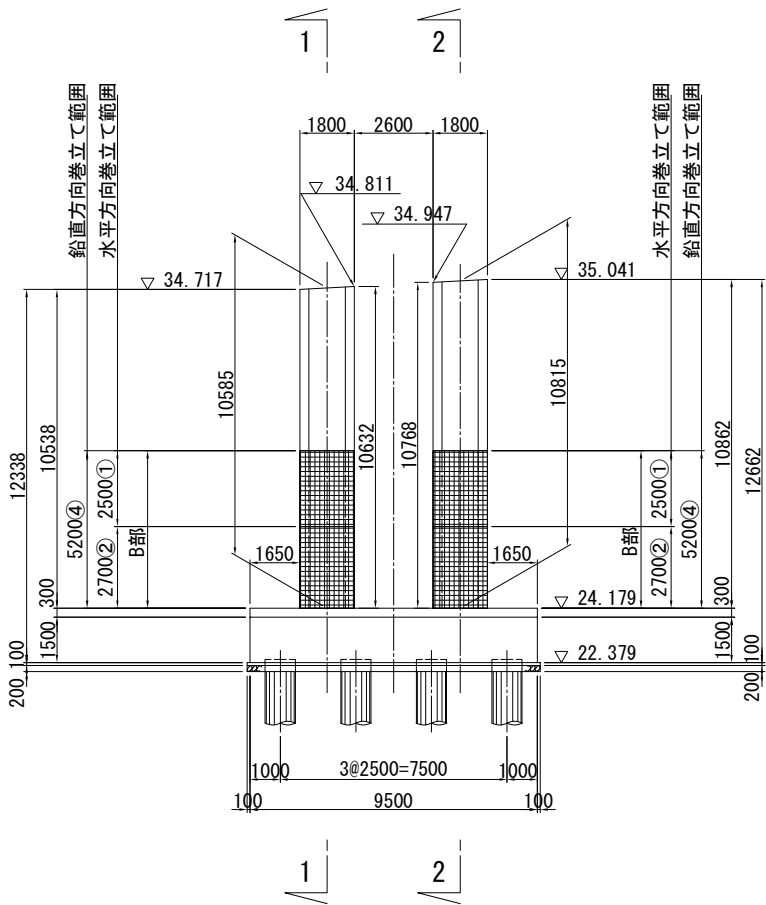
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P19橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2

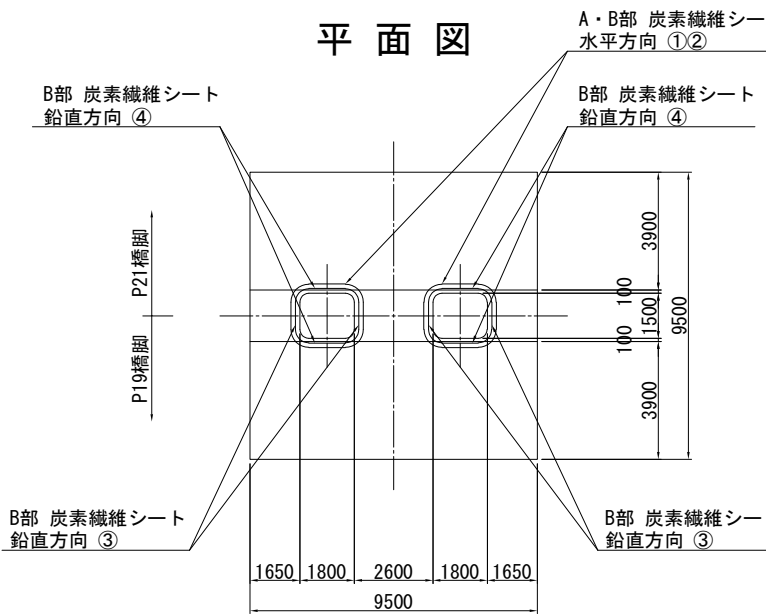


※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

炭素繊維シート施工断面図

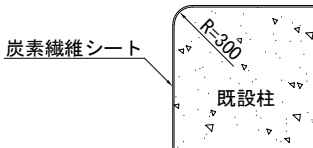
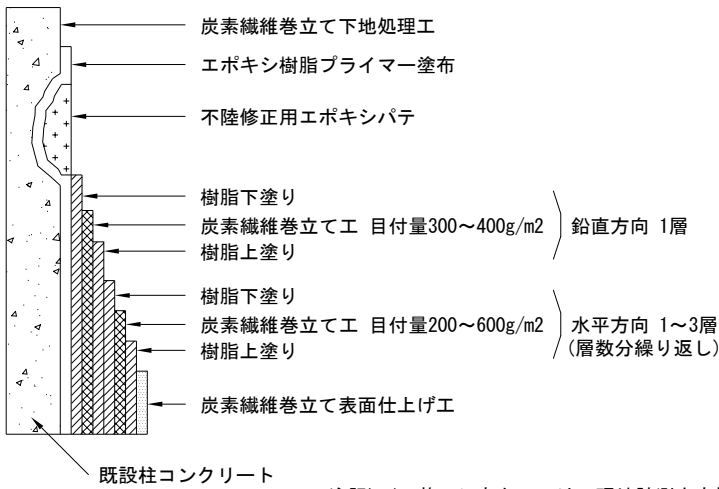
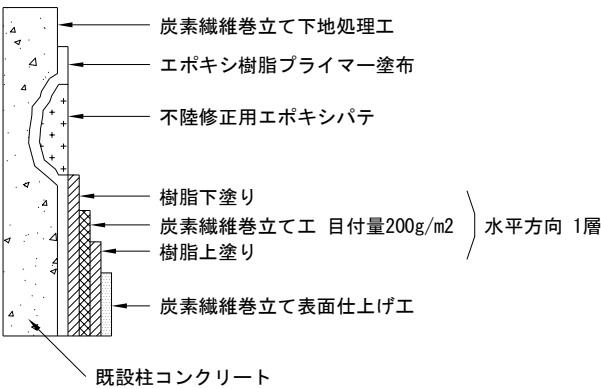
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



重ね継手詳細

炭素繊維シート 200mm以上
※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	3 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	300g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.167mm	高強度型
④	400g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

使用材料

既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

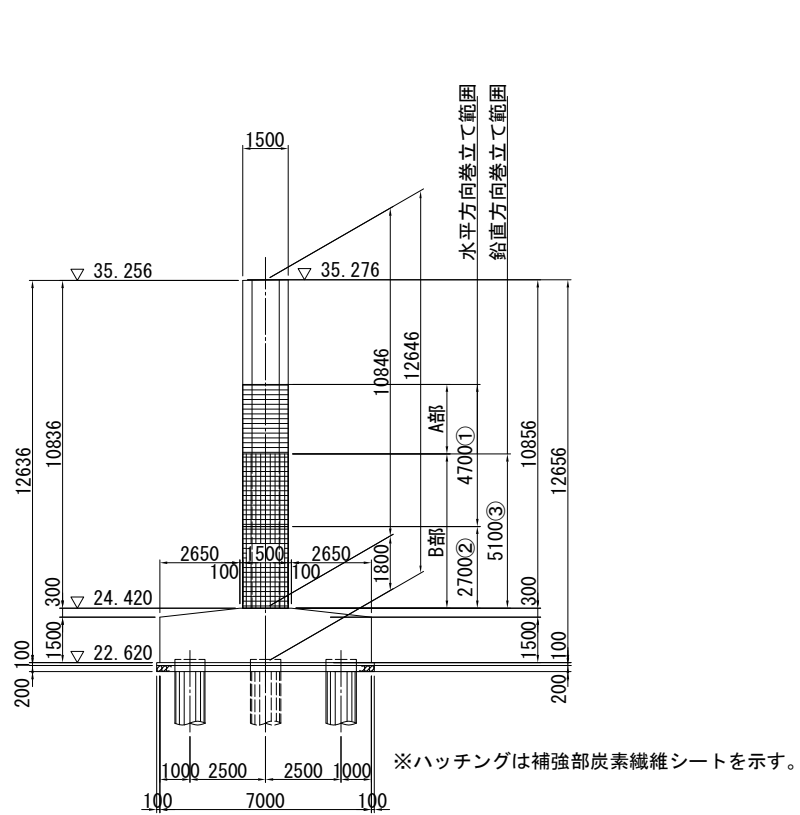
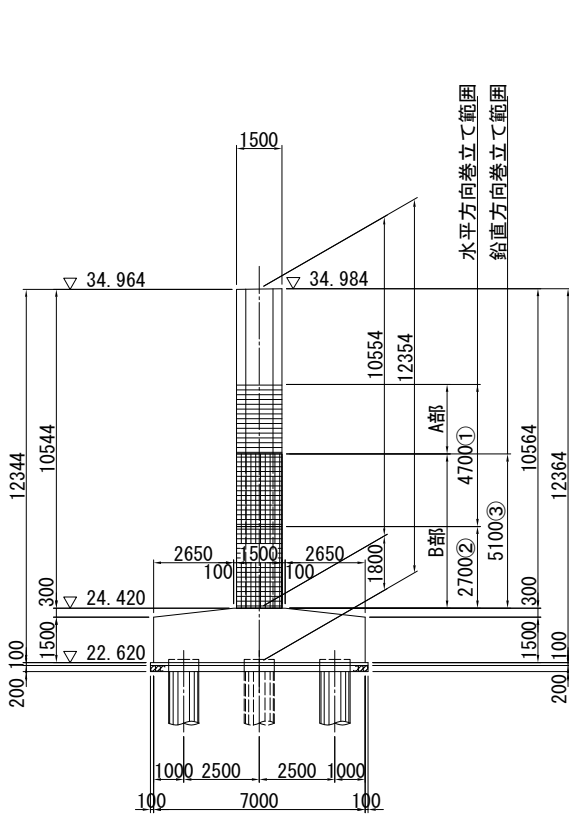
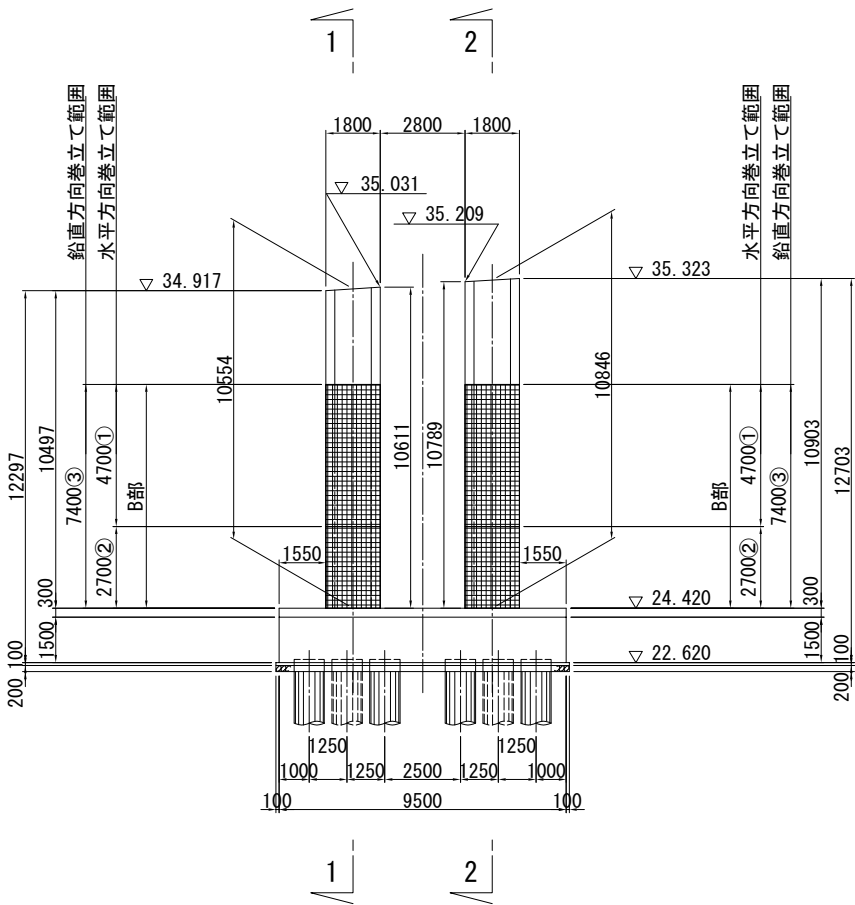
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P20橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

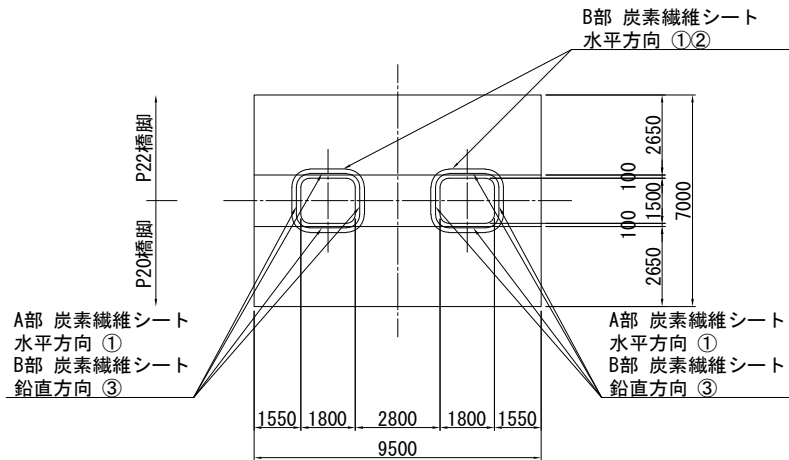
2 - 2



炭素繊維シート施工断面図

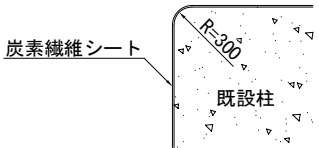
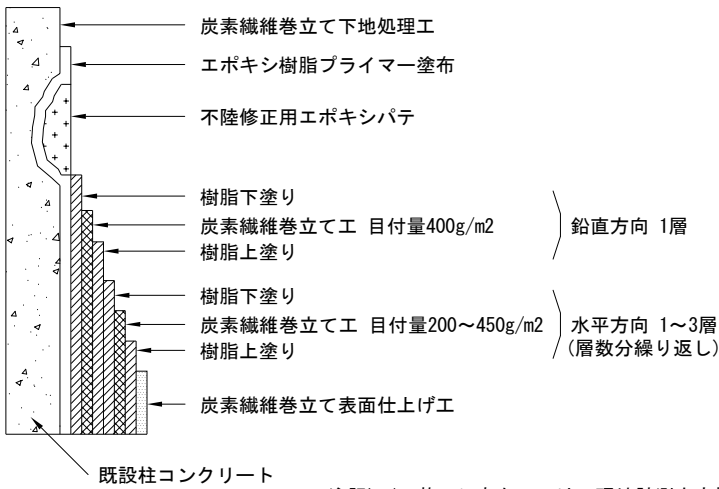
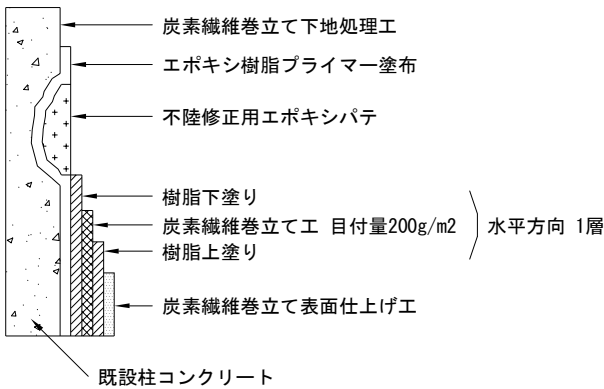
柱面曲り部詳細図 S=1:125

平面図



A部

B部



重ね継手詳細

炭素繊維シート
200mm以上
※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	450g/m2	水平	3 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.250mm	高強度型
③	400g/m2	鉛直	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

使用材料

工 種	仕 様	
	コンクリート	24 N/mm ²
既設部	鉄 筋	SD345
補強部	炭素繊維	図 示

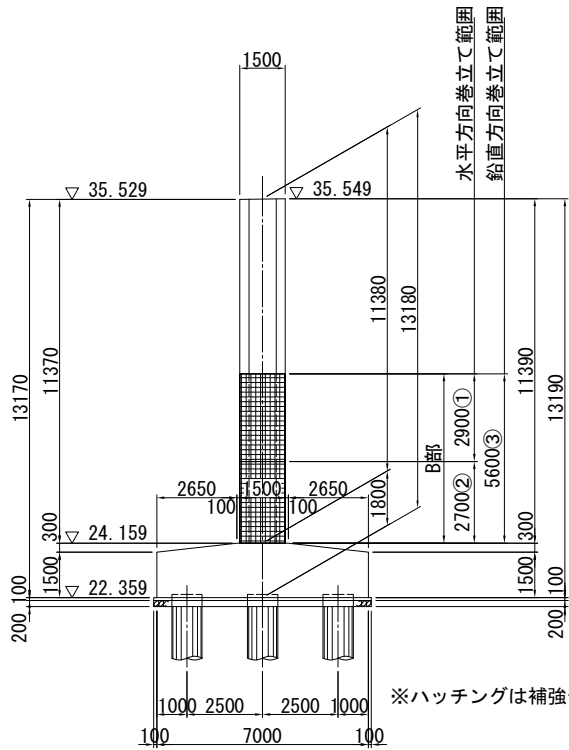
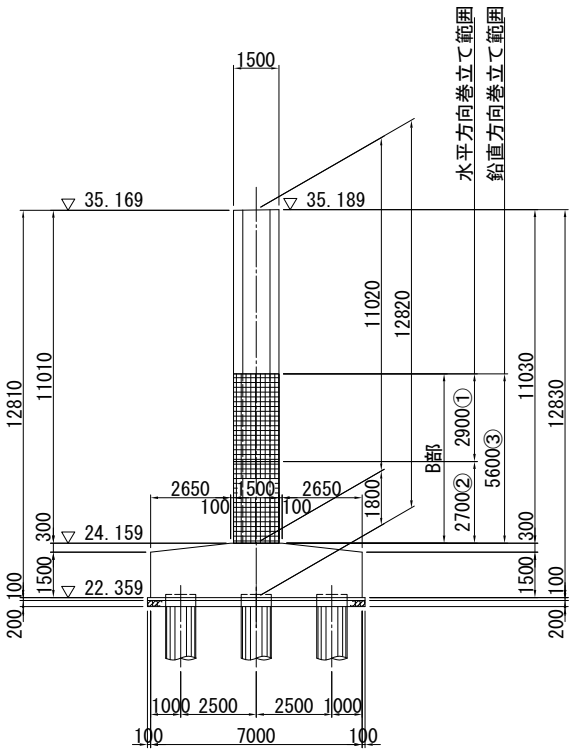
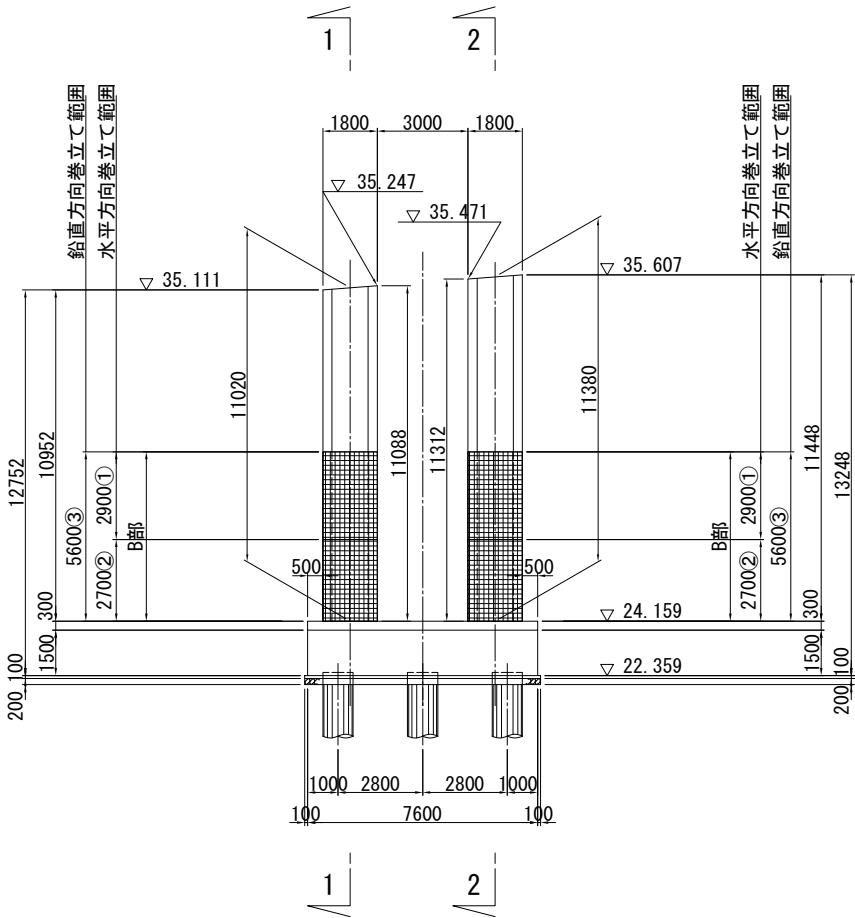
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P21橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

側面図

1 - 1

2 - 2



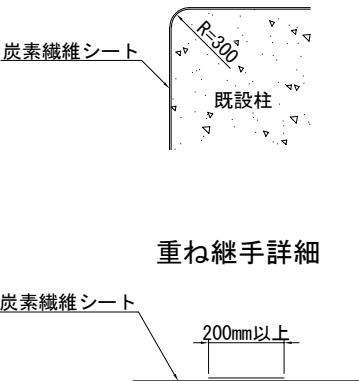
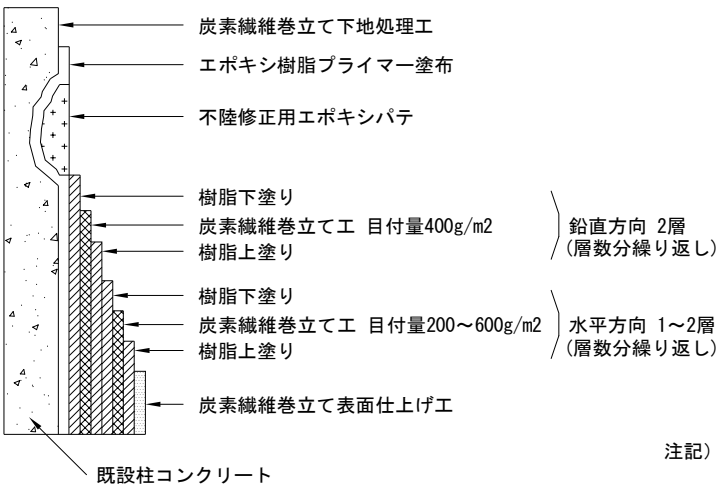
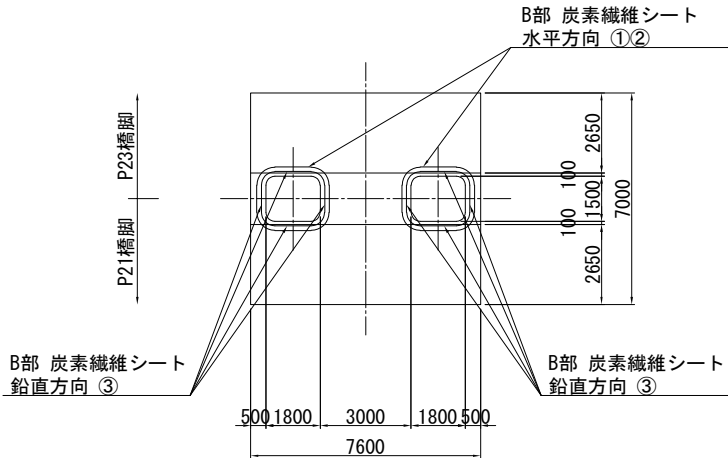
※ハッチングは補強部炭素繊維シートを示す。

平面図

炭素繊維シート施工断面図

柱面曲り部詳細図 S=1:125

B部



※重ね継手位置は50cm以上離すものとする。

- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 不陸修正材(エポキシパテ)の使用量は、下地状況確認後決定する。
3. 補強部分(既設面)は、電動工具による表面処理を行うこと。
4. 炭素繊維巻立て表面仕上げ工は、仕上げ材A(ポリマーセメントモルタルt=1mm)とする。

炭素繊維シート

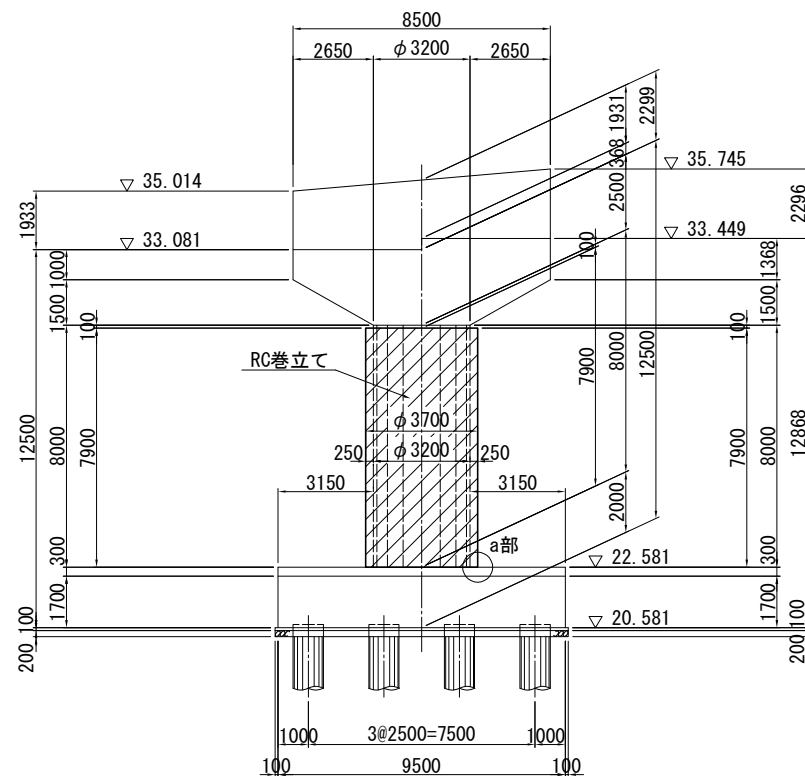
	目付量	方向	層	引張強度	引張弾性率 (N/mm2)	設計厚さ	種別
①	200g/m2	水平	1 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.111mm	高強度型
②	600g/m2	水平	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.333mm	高強度型
③	400g/m2	鉛直	2 層	3400N/mm2	(2.45±0.36) × 10 ⁵	0.222mm	高強度型

使用材料

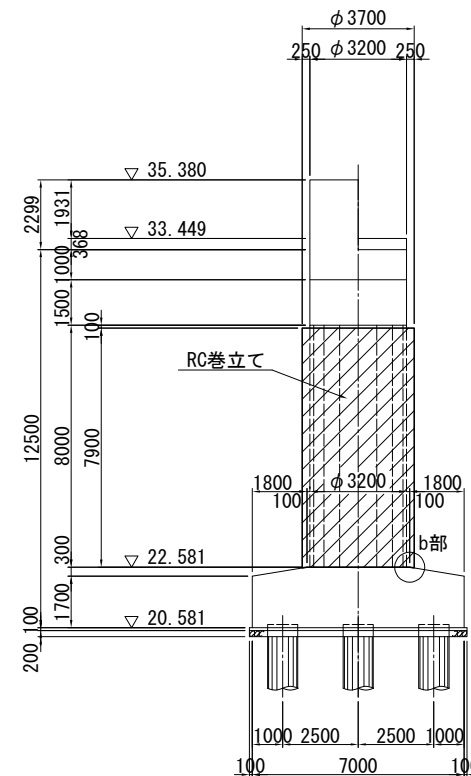
既設部	工 種	仕 様
	コンクリート	24 N/mm ²
補強部	鉄 筋	SD345
	炭素繊維	図 示

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P22橋脚 炭素繊維巻立て補強詳細図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

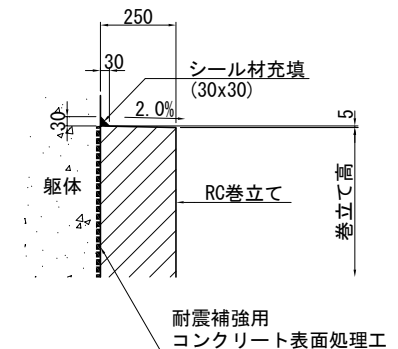


側面図

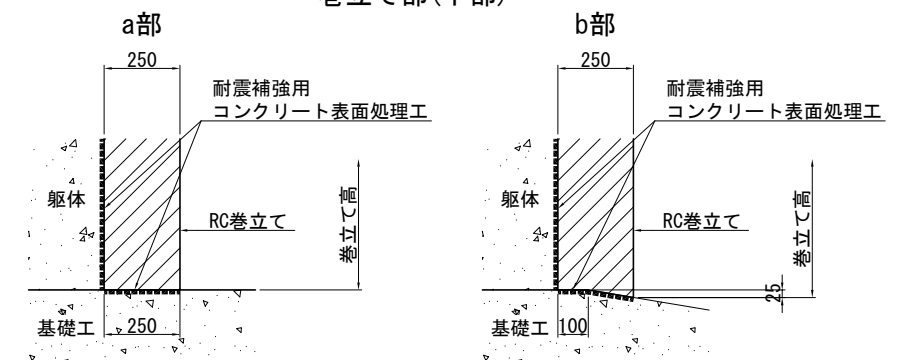


巻立て部詳細図 S=1:25

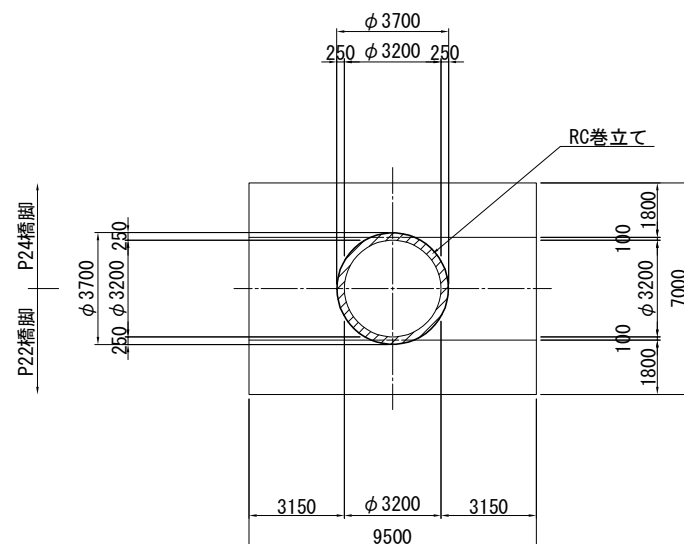
卷立て部(上部)



卷立て部(下部)



平面图



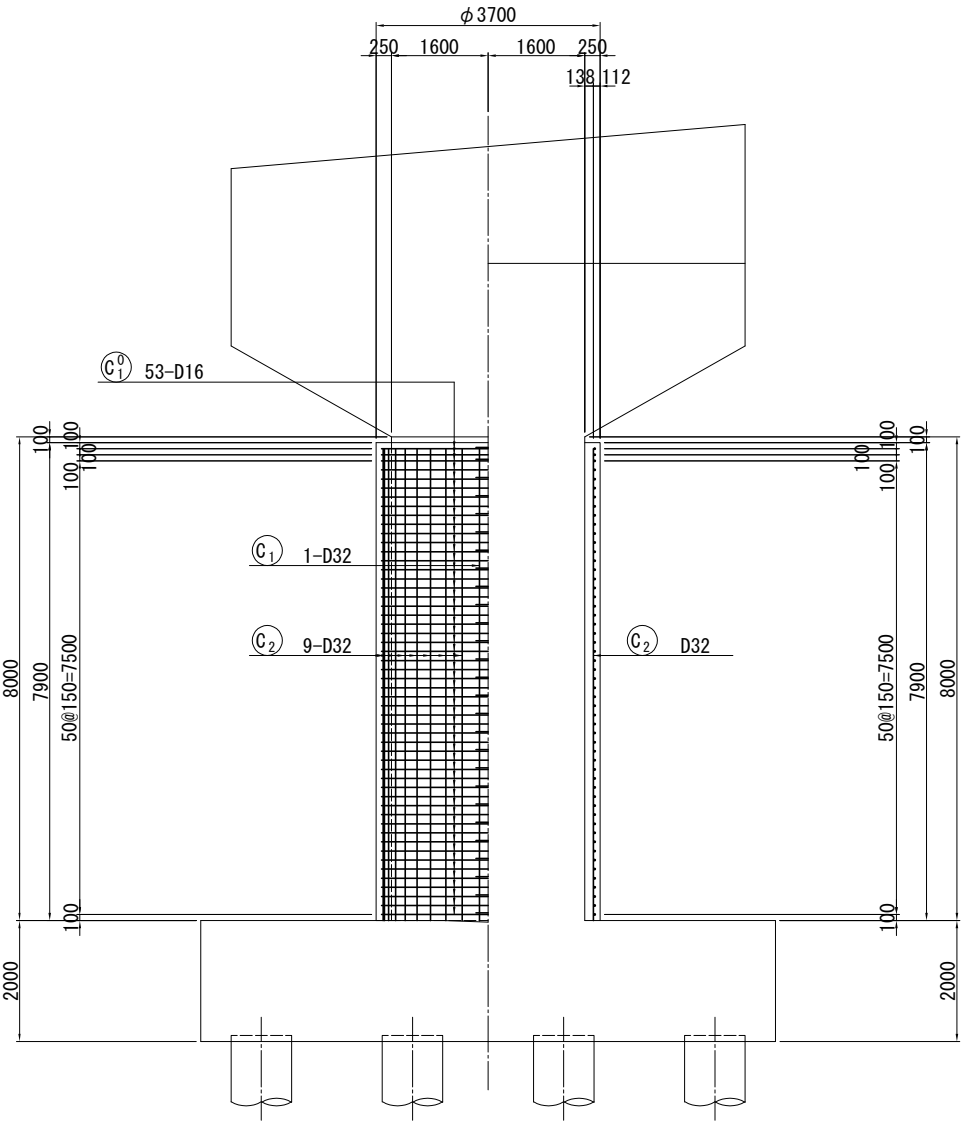
- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

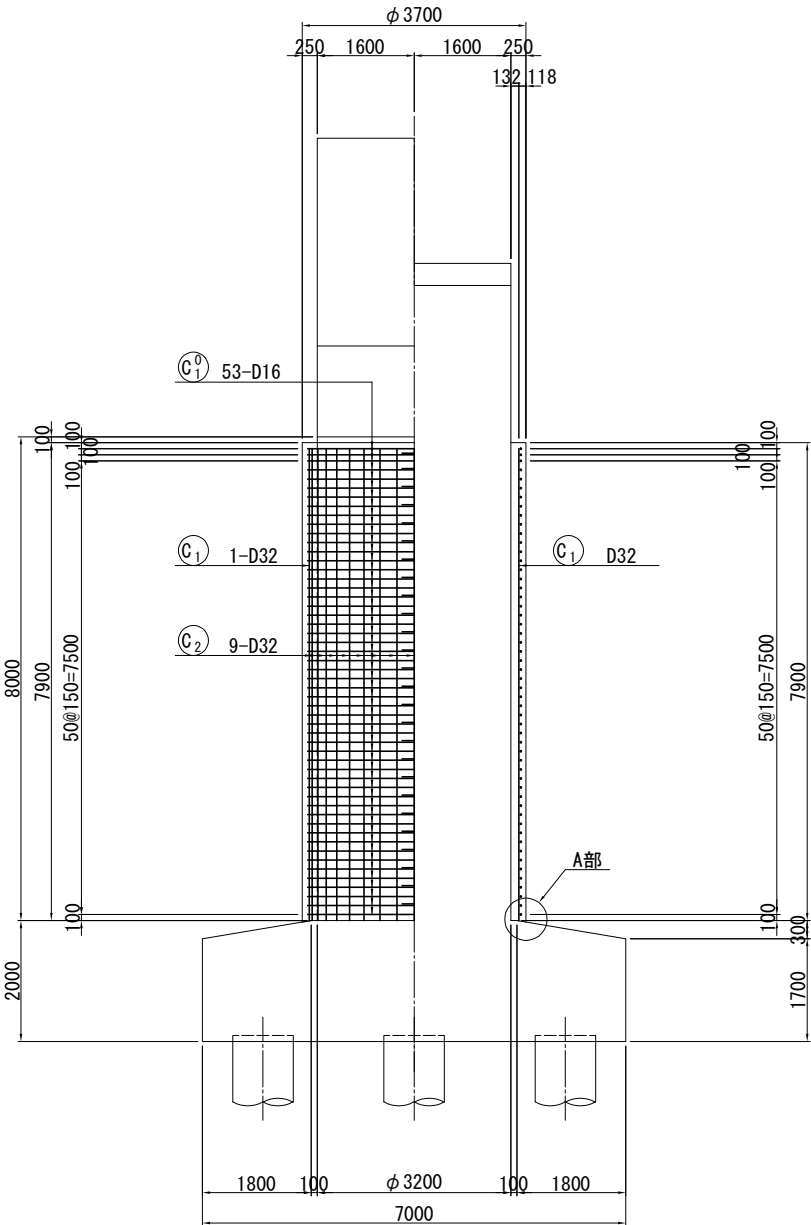
工 種		仕 様
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄 筋	SD345
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC アランプ橋 P23補脚 RC巻立て補強一般図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

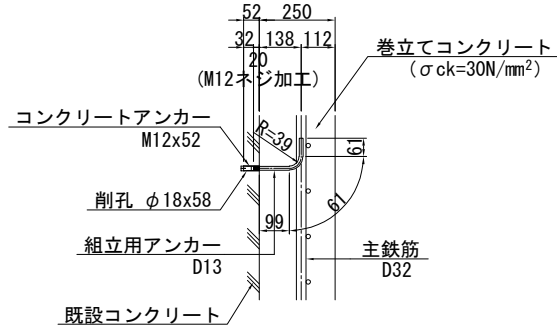
1 - 1 2 - 2



3 - 3 4 - 4



組立用アンカー詳細図 S=1:25
(参考図)



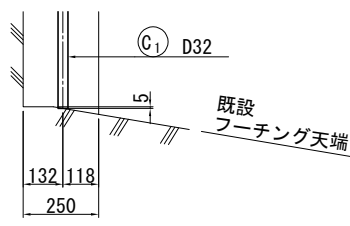
※ 組立用アンカーは1本/m²程度配置する。

組立用アンカー数量表

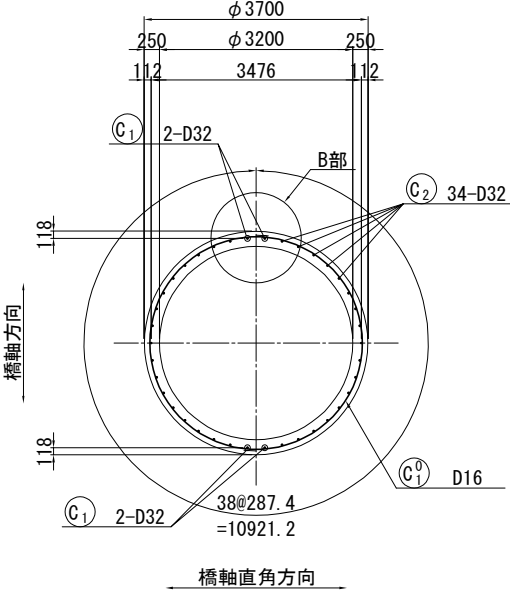
L (mm)	本数	質量 (kg)
250	92	23

※組立用アンカー本数
N= 91.9m²/1本/m²=92本

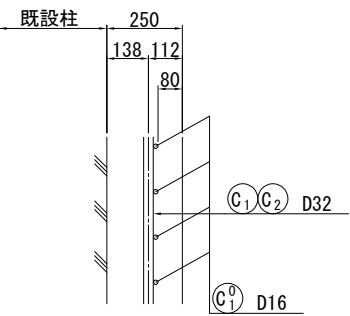
A部詳細図 S=1:25



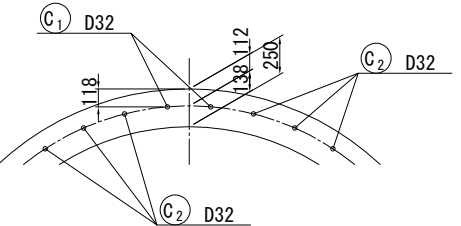
5 - 5



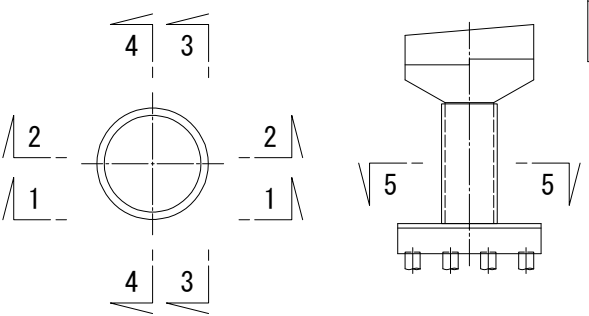
かぶり詳細図 S=1:25



B部詳細図 S=1:50



位置図

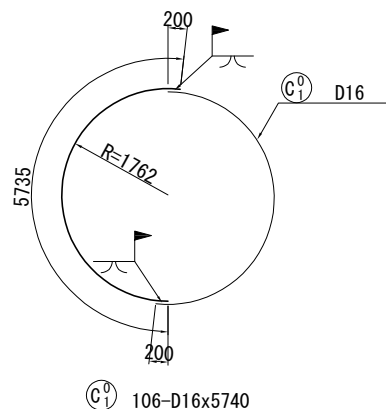
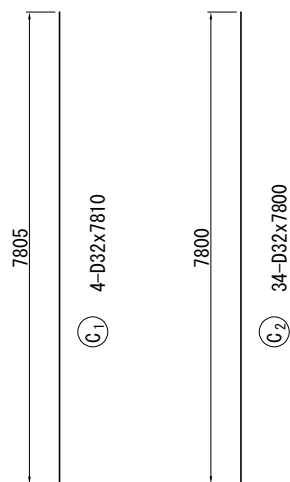


- 注記) 1. 帯鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように1段毎に90°ずらして配置すること。
2. 施工前に既設形状寸法を確認すること。
3. 補強部分(既設面)は、WJによる表面処理を行うこと。
4. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。

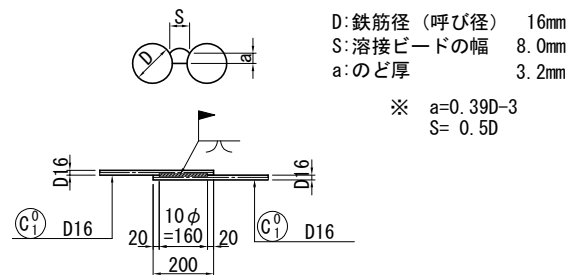
使用材料

工種	仕様
補強部	コンクリート 30 N/mm ² 鉄筋 SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚 RC巻立て補強配筋図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		



フレアー溶接詳細図 S=1:25



鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C ₁	D32	7810	4	6.23	48.7	195	
C ₂	D32	7800	34	6.23	48.6	1652	
						1847 kg	
C ₁ ⁰	D16	5740	106	1.56	8.95	949	⌋ [106]
						949 kg	
T フレアー溶接箇所数							
D32			1847 kg	-			
D16			949 kg	[106]			
合 計			2796 kg	[106]			
コンクリートアンカー M12x52						92 個	
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

径	$\theta \leq 90^\circ$ $R=3.0\phi$	$\theta > 90^\circ$ $R=5.5\phi$	$\theta=45^\circ$		$\theta=60^\circ$		$\theta=90^\circ$		$\theta=135^\circ$	
	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

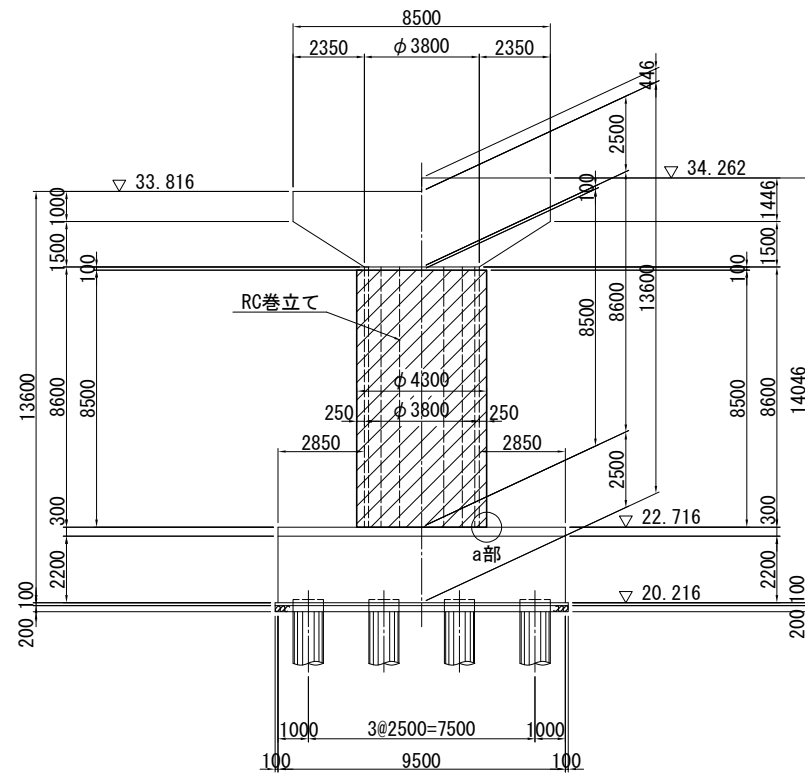
注記) 1. 帯鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように1段毎に90°ずらして配置すること。
2. 鉄筋質量表内の[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

使用材料

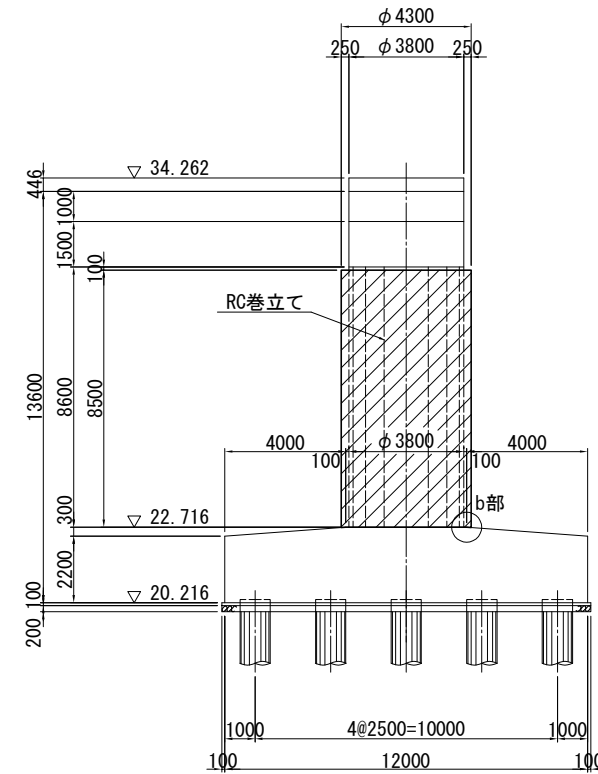
補強部	工 種	仕 様
	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

正面図

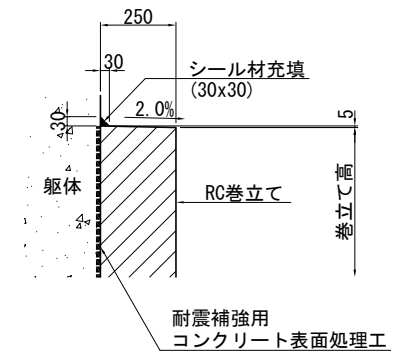


側面図

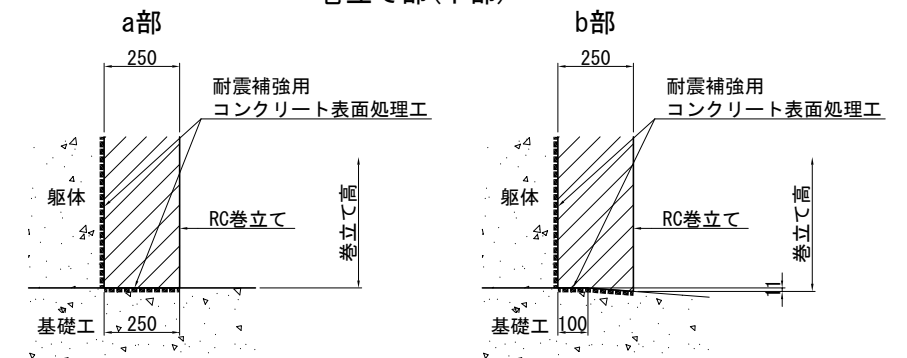


巻立て部詳細図 S=1:25

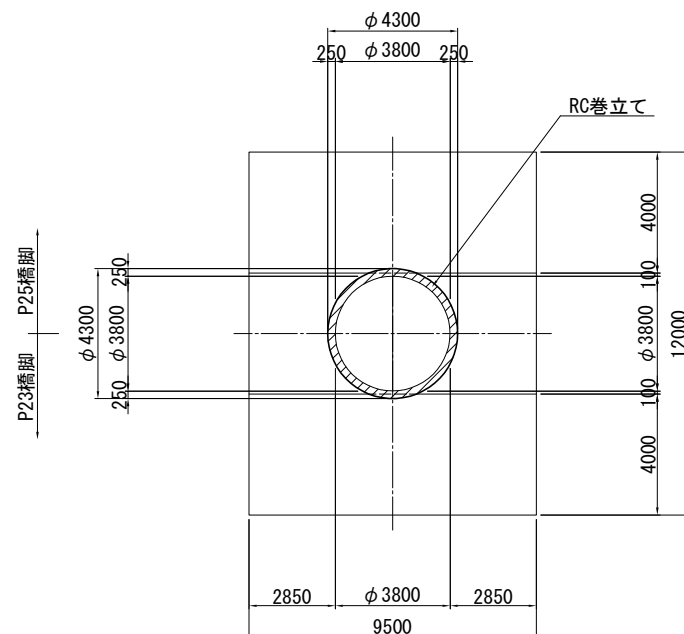
卷立て部(上部)



卷立て部(下部)



平面图

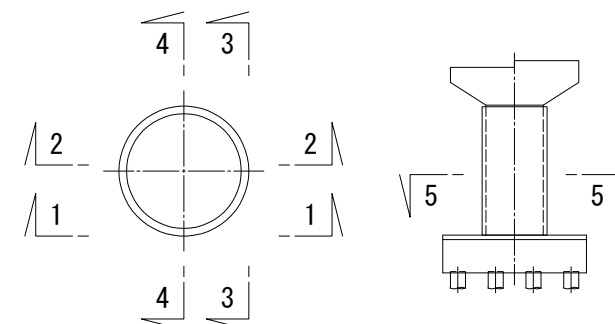
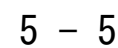


- 注記) 1. 施工にあたっては、現地計測を実施して既設構造寸法を再確認すること。
2. 補強部分(既設面)は、WJ による表面処理を行うこと。
3. 張出梁部のある橋脚においては、施工性を考慮して張出梁から巻立ての下がり位置を設定すること。
4. RC巻立ての天端は排水用の勾配(2.00%)を付すこと。

使用材料

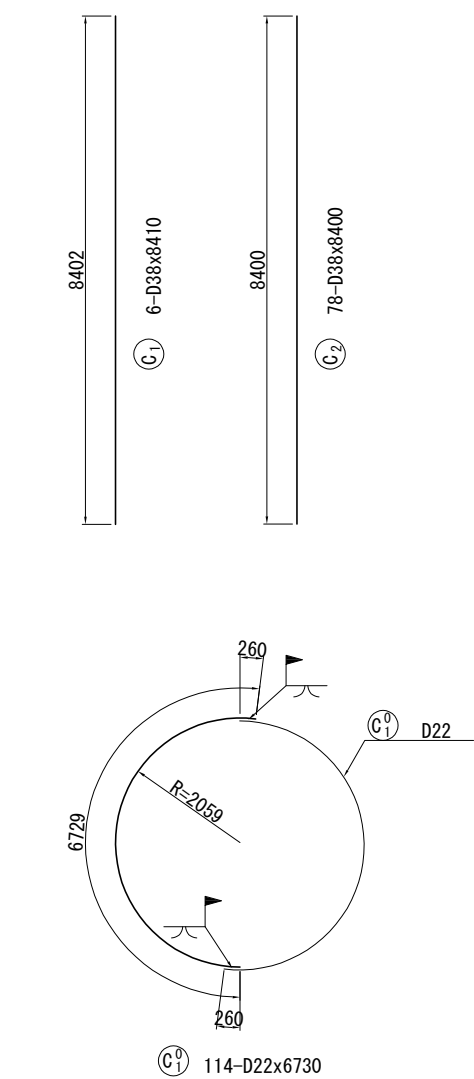
工 種		仕 様
既設部	コンクリート	24 N/mm ²
	鉄 筋	SD345
補強部	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC アランプ橋 P24橋脚 RC巻立て補強一般図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



Technical drawing of a wall section showing a vertical reinforcement bar (D38) and a horizontal reinforcement bar (D38) with a 2mm gap. The drawing is labeled "既設フーチング天端" (Existing Footing Top) and includes dimensions 129, 121, and 250.

- | | | |
|----------------------------|-------------------------------------|--------|
| 首都圏中央連絡自動車道
戸田高架橋耐震補強工事 | | |
| 図面の種類 | 東金IC Aランプ橋 P24橋脚
RC巻立て補強配筋図(その1) | |
| 縮 尺 | 図示 | 図面番号 / |
| 設計会社名 | 日本工営株式会社 | |
| 施工会社名 | | |
| 事務所名 | 東日本高速道路 株式会社
関東支社 市原管理事務所 | |



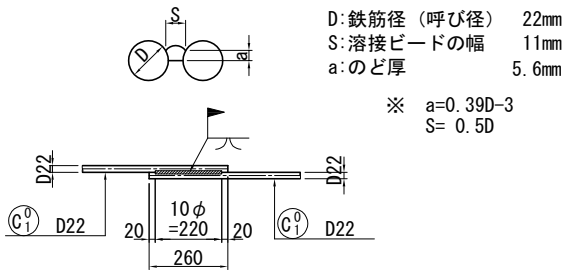
鉄筋質量表

種別	径	長さ (mm)	本数 (本)	単位質量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
C ₁	D38	8410	6	8.95	75.3	452	
C ₂	D38	8400	78	8.95	75.2	5866	
						6318	kg
C ₁ ⁰	D22	6730	114	3.04	20.5	2337	⌋ _[114]
						2337	kg
T フレアー溶接箇所数							
D38		6318	kg	-			
D22		2337	kg	[114]			
合 計		8655	kg	[114]			
コンクリートアンカー					M12x52	115	個
(削孔 φ18x58)							

鉄筋加工寸法表

ΔL=2L-a										
径	θ ≤ 90° R=3.0φ	θ > 90° R=5.5φ	θ = 45°		θ = 60°		θ = 90°		θ = 135°	
			a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL	a	ΔL
D13	39	71.5	92	96	82	53	61	17	56	3
D16	48	88	113	119	100	66	75	21	69	4
D19	57	104.5	134	141	119	78	89	25	82	5
D22	66	121	155	164	138	91	104	28	95	5
D25	75	137.5	177	185	157	103	118	32	108	6
D29	87	159.5	205	215	182	119	137	37	125	7
D32	96	176	226	237	201	132	151	41	138	8
D35	105	192.5	247	260	220	144	165	45	151	8
D38	114	209	269	281	239	156	179	49	164	9
D41	123	225.5	290	304	258	168	193	53	177	10
D51	153	280.5	360	379	320	210	240	66	220	12

フレアー溶接詳細図 S=1:25

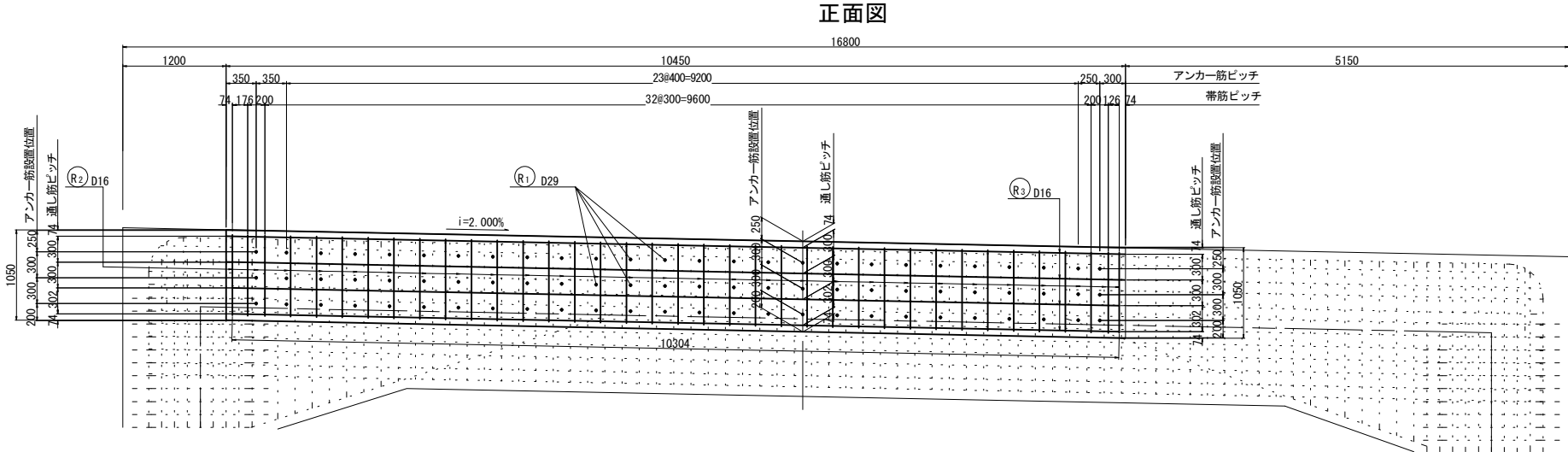
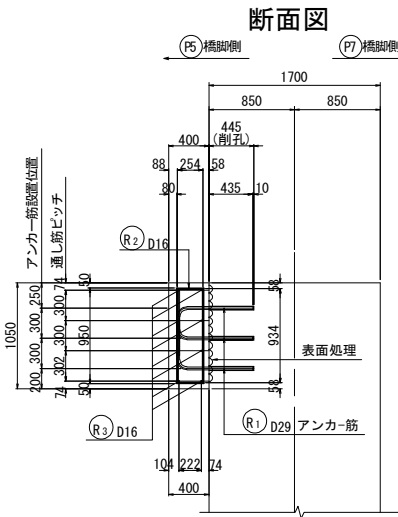


注記) 1. 帯鉄筋の継手位置は1断面に集中させないように1段毎に90°ずらして配置すること。
2. 鉄筋質量表内の[]はフレアー溶接の箇所数を示す。

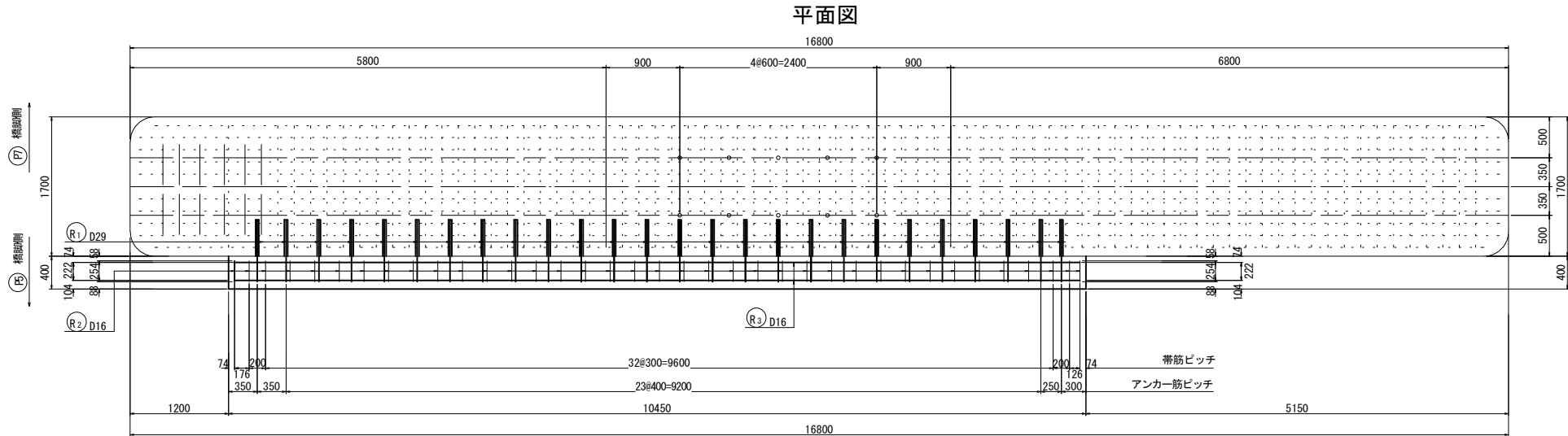
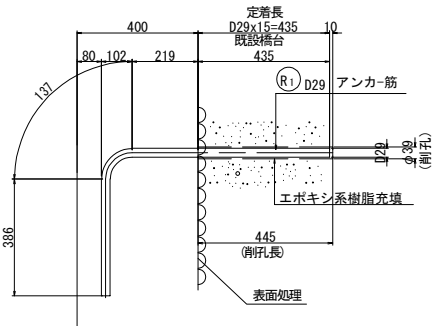
使用材料

補強部	工 種	仕 様
	コンクリート	30 N/mm ²
	鉄 筋	SD345

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P24橋脚 RC巻立て補強配筋図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



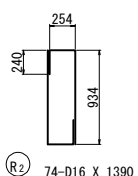
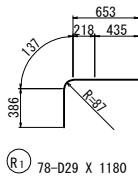
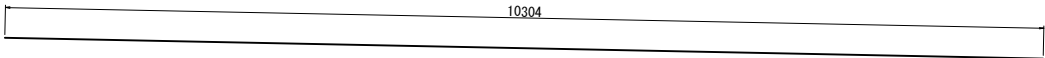
アンカー埋込み詳細図 S=1:10



鉄筋質量表

種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
R1	D 29	1180	78	5.04	5.95	464	アンカー筋
R2	D 16	1390	74	1.56	2.17	161	帯筋
R3	D 16	10310	8	1.56	16.1	129	通し筋
SD345 D29							464 kg
SD345 D16							290 kg
総質量							754 kg
削孔 φ39×445 78 箇所							

鉄筋加工図



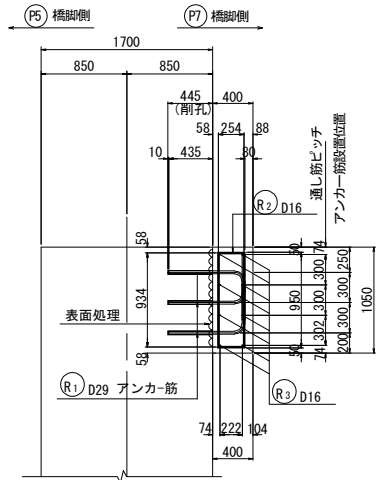
鉄筋曲げ加工表

φ	θ=90°			θ=135°			スターラップ		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3	32.5	51	14
D16	48	75	21	88	69	4	40	63	17
D19	57	89	25	104.5	82	5	47.5	75	20
D22	66	104	28	121	95	5	55	86	24

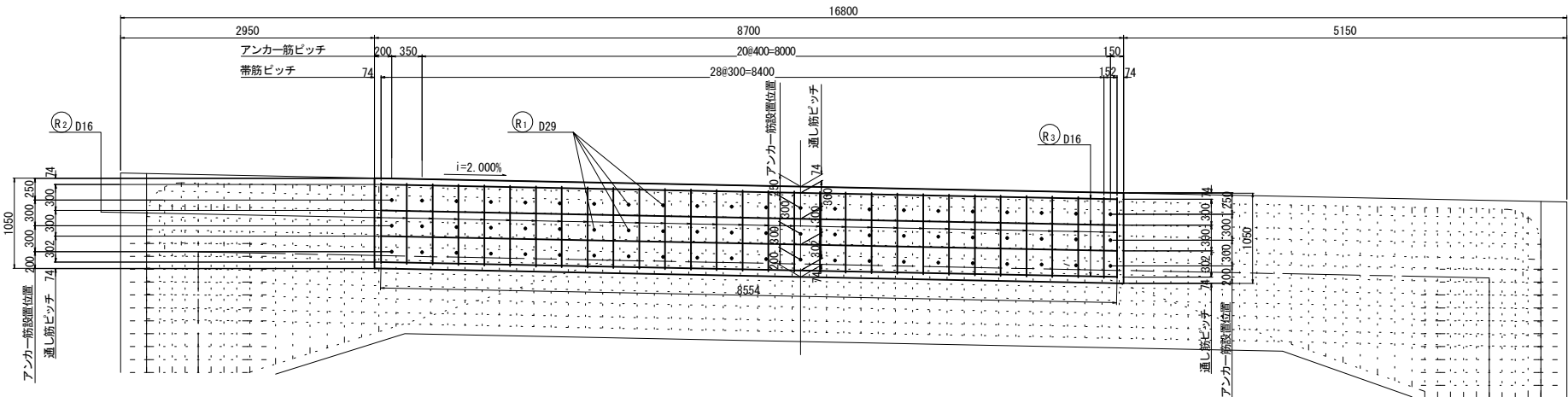
注記
1. コンクリート強度 σ_{ck} 30N/mm²
2. 鉄筋(SD45) σ_s 300N/mm²
3. 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
4. 縁端拡幅部の既設橋台面は、WJによる表面処理を行うこと。
5. 施工にあたっては、鉄筋探査を行い、既設鉄筋の切断は避けるようにすること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

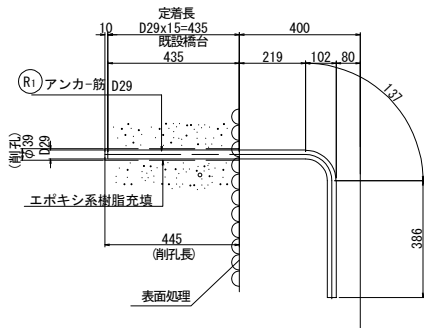
断面図



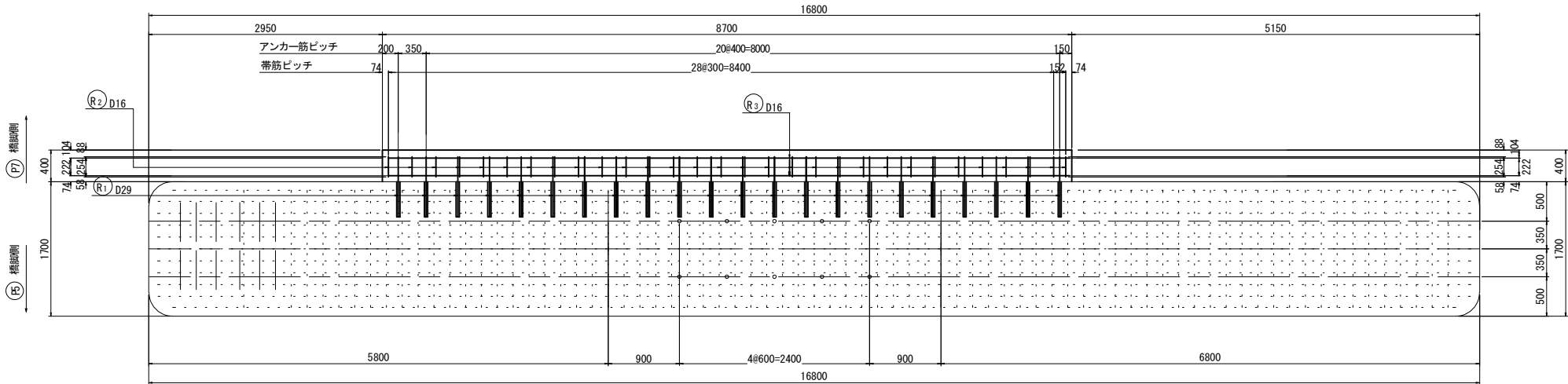
正面図



アンカー埋込み詳細図 S=1:10



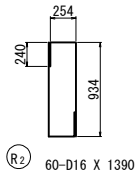
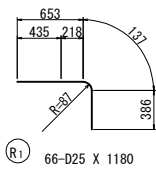
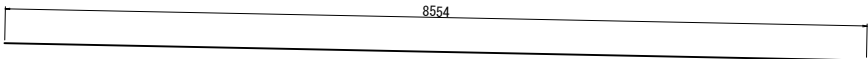
平面図



鉄筋質量表

種 別	径	長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質 量	摘 要
R1	D29	1180	66	5.04	5.95	393	アンカー筋
R2	D16	1390	60	1.56	2.17	130	帯 筋
R3	D16	8560	8	1.56	13.4	107	通し筋
SD345 D29							393 kg
SD345 D16							237 kg
総質量							630 kg
削孔φ39×445							66箇所

鉄筋加工図



鉄筋曲げ加工表

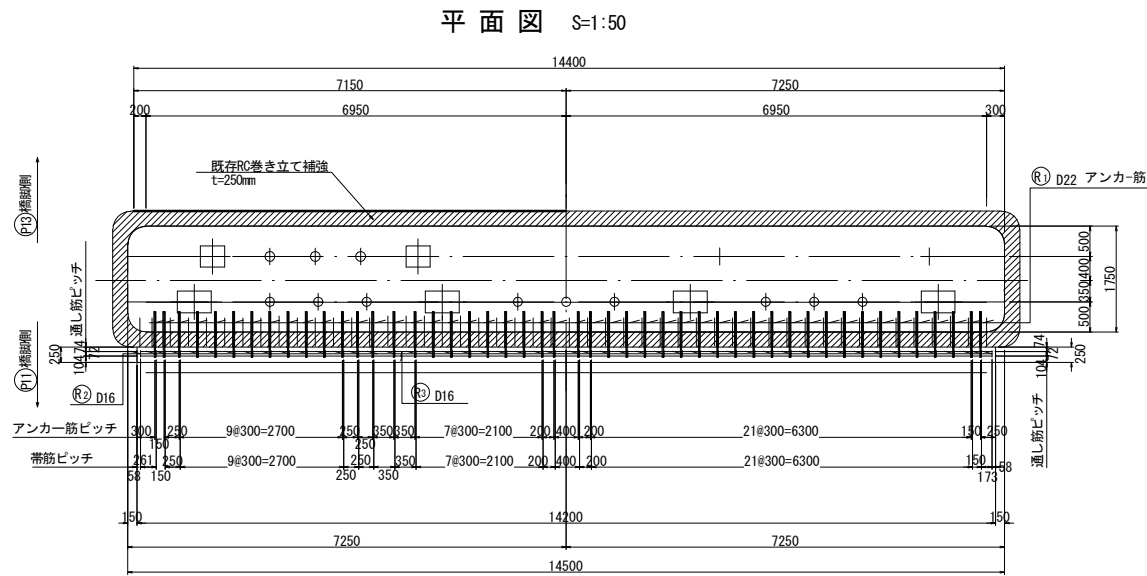
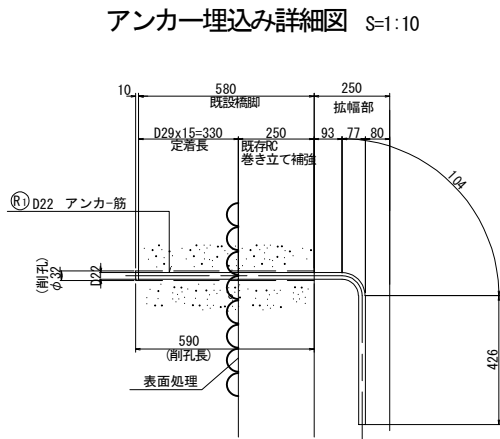
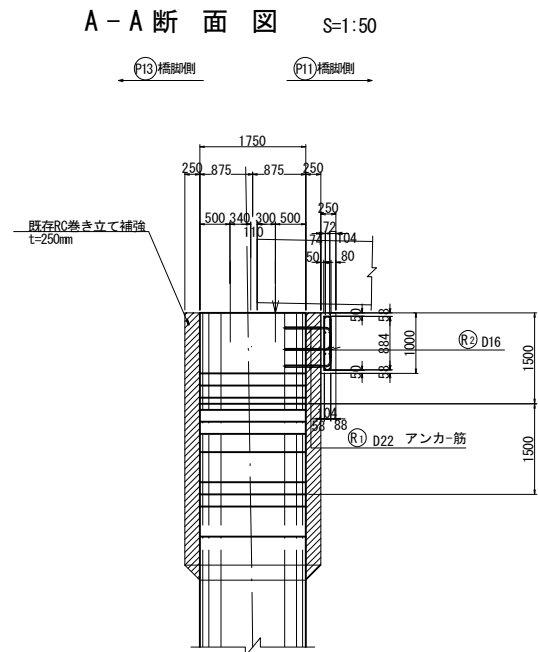
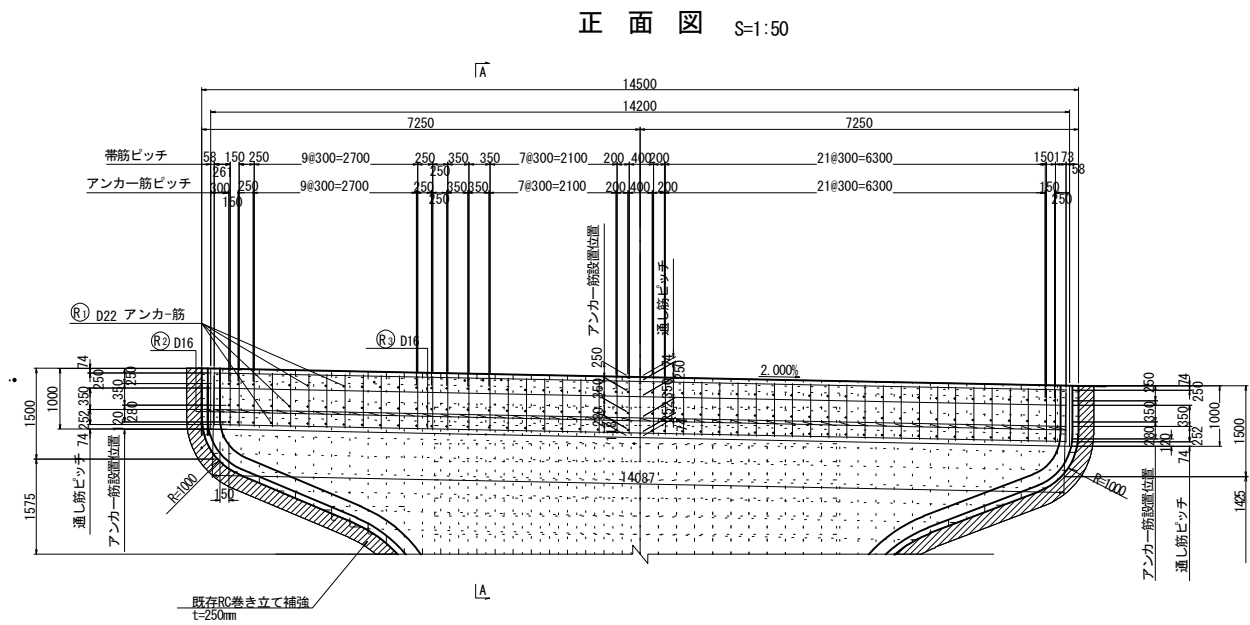
$\theta \leq 90^\circ$
 $\theta > 90^\circ$
 スターラップ
 $\Delta L = \text{減長}$

$R = 3\phi$
 $R = 5\phi$
 $R = 2.5\phi$
 $2X = a$

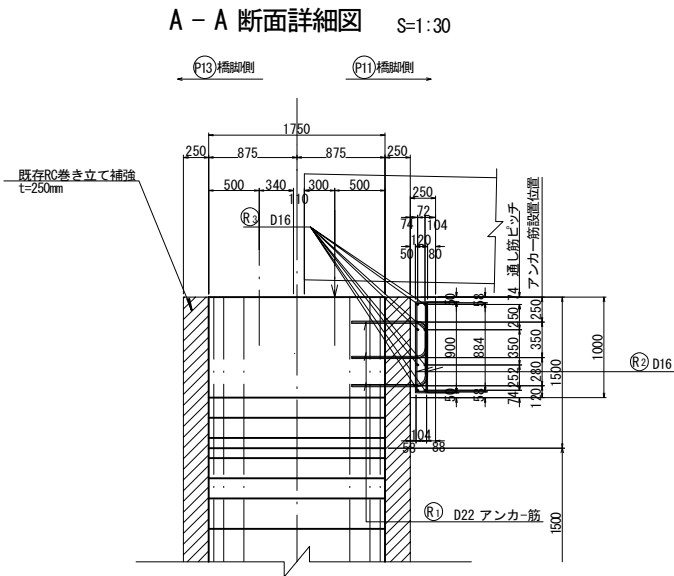
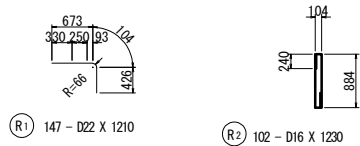
ϕ	$\theta = 90^\circ$			$\theta = 135^\circ$			スターラップ		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71	5	56	3	32	5
D16	48	75	21	88	6	69	4	40	6
D19	57	89	25	104	7	82	5	47	7
D22	66	104	28	121	9	95	5	55	8

注記
1.コンクリート強度 σ_{ck}<30N/mm²
2.鉄筋(SD45) σ_s<300N/mm²
3.施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
4.縁端拡幅部の既設橋台面は、WJによる表面処理を行うこと。
5.施工にあたっては、鉄筋探査を行い、既設鉄筋の切断は避けるようにすること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚(終) 縁端拡幅工B詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		



鉄筋加工図 S=1:50



鉄筋質量表

種別	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
R1	D 22	1210	147	3.04	3.68	541	アンカー筋
R2	D 16	1230	102	1.56	1.92	196	帯筋
R3	D 16	14090	8	1.56	22.0	176	通し筋
						SD345 D22	541 kg
						SD345 D16	372 kg
						総質量	913 kg
						削孔φ32×590	147箇所

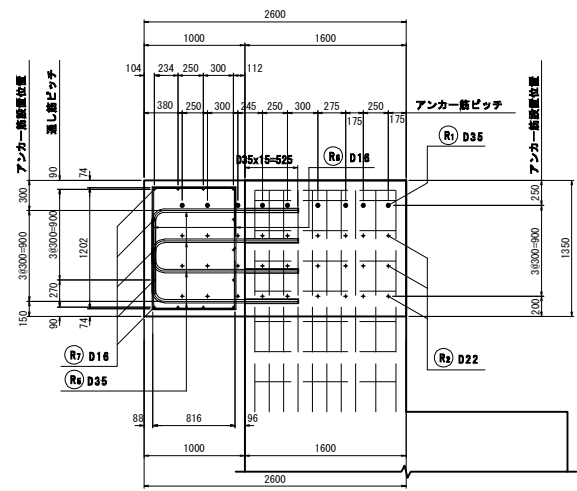
- 注記)
- コンクリート強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
 - 鉄筋(SD345) $\sigma_a=200\text{N/mm}^2$
 - 施工にあたっては現地計測を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
 - 縁端拡幅部の既設橋台面は、WJによる表面処理を行うこと。
 - 施工にあたっては、鉄筋探査を行い、既設鉄筋の切断は避けるようにすること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

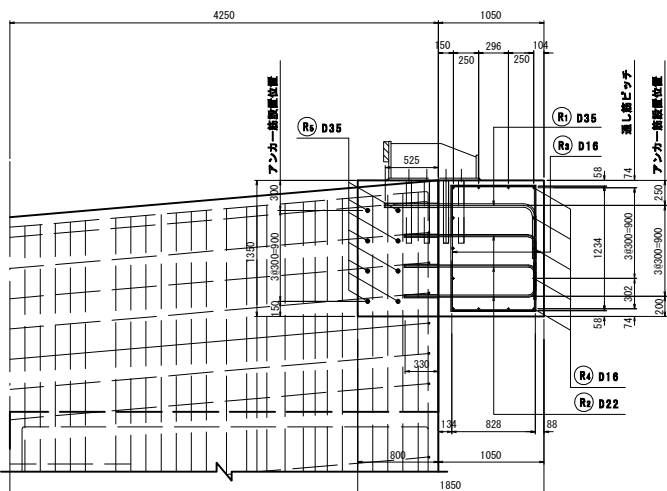
東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図

S=1:30

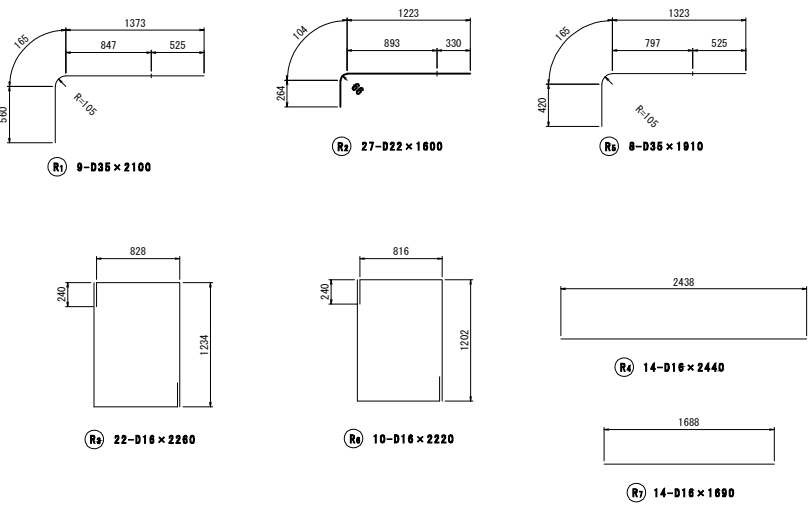
C - C 断面図



A - A 断面図



鉄筋加工図



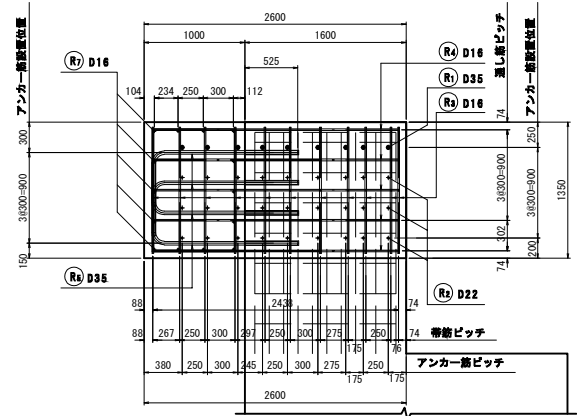
鉄筋曲げ加工表

φ	θ=90°			θ=135°			スターラップ		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.5	56	3	32.5	51	14
D16	48	75	21	88	69	4	40	63	17
D19	57	89	25	104.5	82	5	47.5	75	20
D22	66	104	28	121	95	5	55	88	24

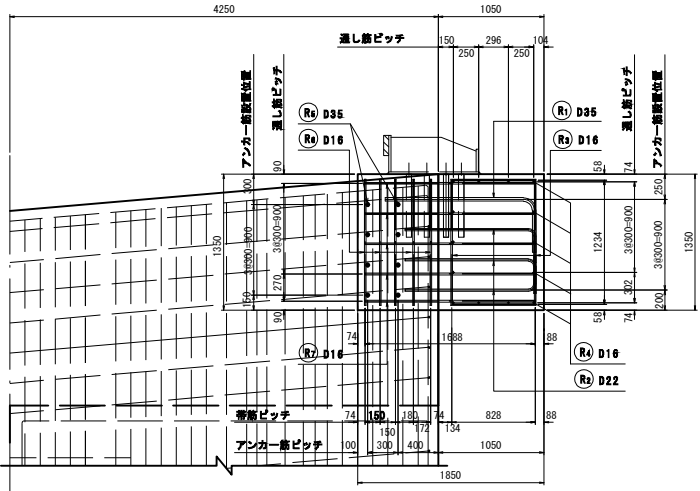
鉄筋質量表

種別	径	長さ	本数	単位質量	1本当り質量	質量	摘要
R 1	D 35	2100	9	7.51	15.8	142	アンカー筋
R 2	D 22	1600	27	3.04	4.86	131	アンカー筋
R 3	D 16	2260	22	1.56	3.53	78	帯筋
R 4	D 16	2440	14	1.56	3.81	53	帯筋
R 5	D 35	1910	8	7.51	14.3	115	アンカー筋
R 6	D 16	2220	10	1.56	3.46	35	帯筋
R 7	D 16	1690	14	1.56	2.64	37	帯筋
SD345 D35						257	kg
SD345 D22						131	kg
SD345 D16						203	kg
総質量						591	kg
附孔φ45×535						17	箇所
附孔φ32×340						27	箇所

D - D 断面図



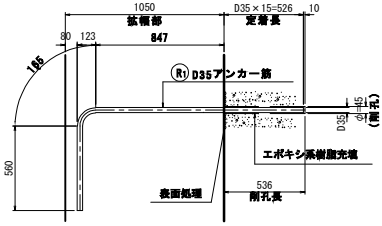
B - B 断面図



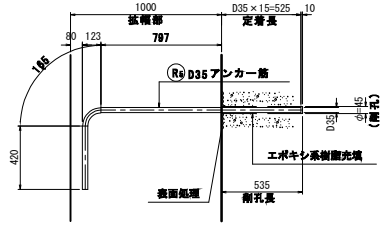
アンカー埋込み詳細図

S=1:20

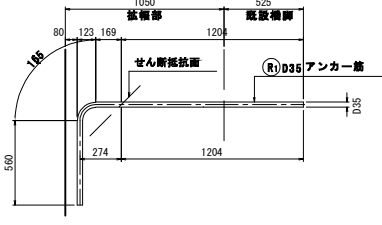
D35 (橋軸直角方向1段目)



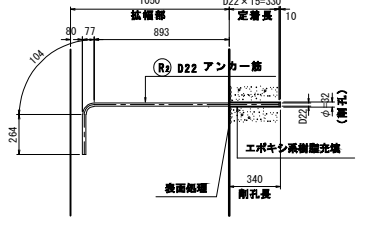
D35 (橋軸方向)



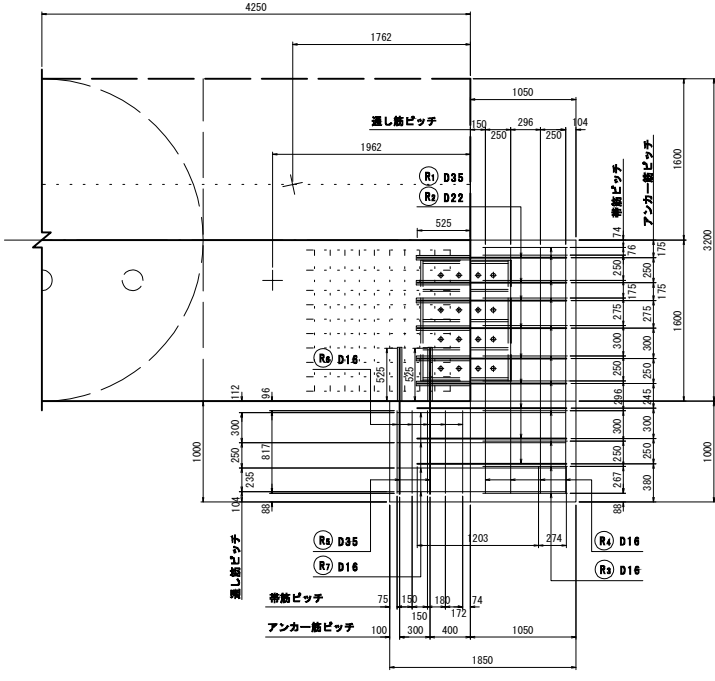
D35 (橋軸直角方向1段目 非削孔部)



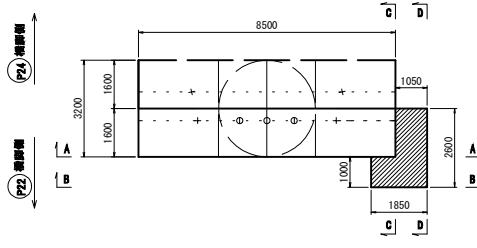
D22 (2~4段目)



平面図

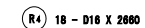
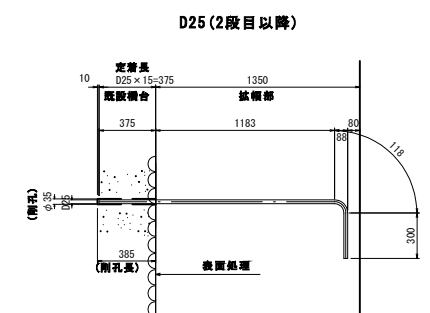


位置図 S=1:100



- 注記)
- コンクリート強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
 - 鉄筋 (SD345) $\sigma_s=200\text{N/mm}^2$
 - 施工にあたっては現場計画を行い、施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
 - 縁端拡幅部の既設構造物は、HJによる後面処理を行うこと。
 - 施工にあたっては、鉄筋測定を行い、既設鉄筋の切筋は避けるようにすること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高根橋耐震増強工事				
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 縁端拡幅工B詳細図			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所			

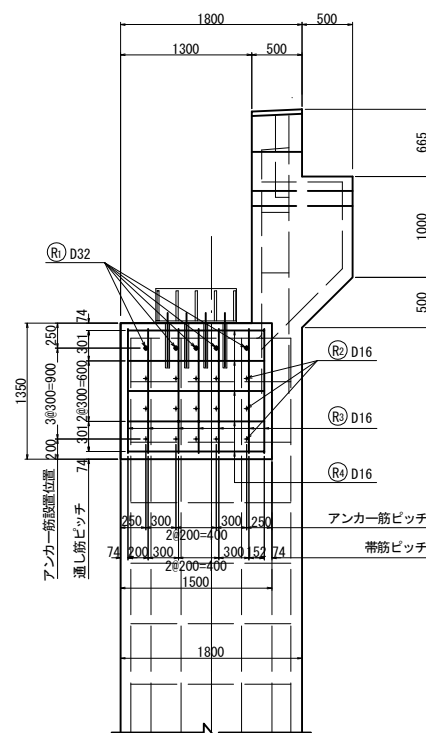


注意)

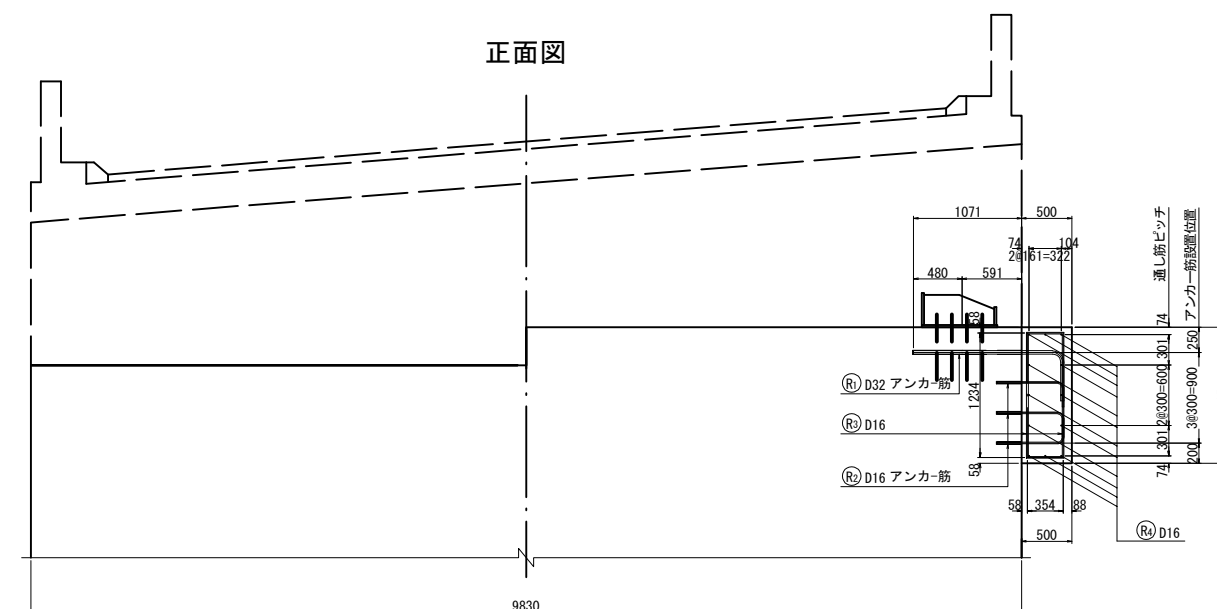
1. コンクリート強度 $\sigma_{\text{c}}=30\text{N}/\text{mm}^2$
2. 鉄筋 (SD345) $\sigma_{\text{s}}=200\text{N}/\text{mm}^2$
3. 施工にあたっては地形調査を行い、
施工箇所及び施工範囲の確認を行うこと。
4. 雄雄橋桁筋の既設側面は、削による表面処理を行うこと。
5. 施工にあたっては、鉄筋探索を行い、既設鉄筋の
切断は避けるようにすること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高尾橋南側増設工事			
東金IC アランプ橋 P23橋脚(終)			
緑地拡幅E8詳細図			
図面の種類			
縮 尺	圖 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 京東支社 市原管理事務所		

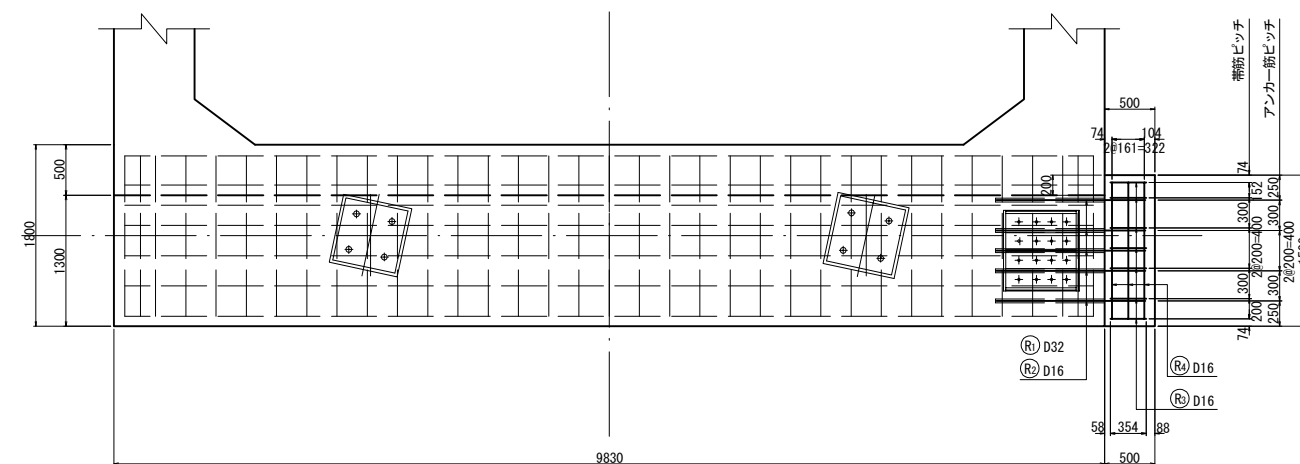
断面図



正面図



平面図



鉄筋曲げ加工表

$\theta \leq 90^\circ$
 $\theta > 90^\circ$
 スターラップ
 $\Delta L = \text{減長}$

ϕ	$\theta = 90^\circ$			$\theta = 135^\circ$			スターラップ		
	R	a	ΔL	R	a	ΔL	R	a	ΔL
D13	39	61	17	71.8	56	3	32.5	51	14
D16	48	75	21	88.5	59	4	40	63	17
D17	57	89	25	104.5	82	5	47.5	75	20
D22	66	104	28	121	95	5	55	86	24

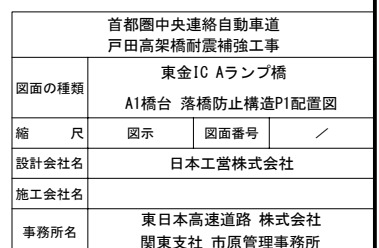
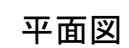
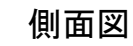
種 別	径 長 さ	本 数	単位質量	1本当り質量	質量	摘 要
R 1	D 32	1920	5	6.23	11.96	60  アンカー筋
R 2	D 16	880	15	1.56	1.37	21  "
R 3	D 16	1790	14	1.56	2.79	39  帯 筋
R 4	D 16	1360	12	1.56	2.12	25  通し筋
					SD345 D32	60 kg
					SD345 D16	85 kg
					総質量	145 kg
					削孔 φ42×1081	5 箇所
					削孔 φ26×250	15 箇所

注記)

1. コンクリート強度 $\sigma_{ck}=30\text{N/mm}^2$
2. 鉄筋 (SD345) $\sigma_s=200\text{N/mm}^2$
3. 施工にあたっては現地勘测を行い、
施工箇所及び施工範囲の計画を行うこと。
4. 縁端拉幅部の既設橋台面は、WJによる表面処理を行うこと。
5. 施工にあたっては、鉄筋探査を行い、既設鉄筋の
切断は避けるようにすること。

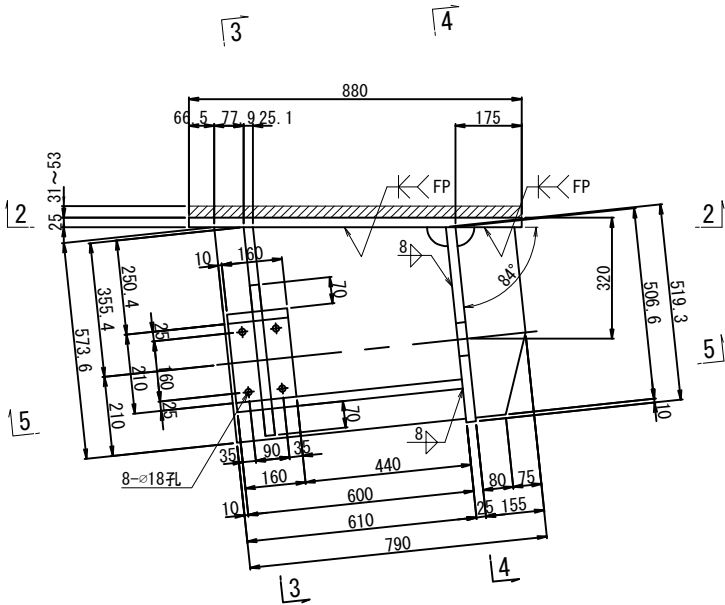
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	東金ICランプ橋 A2橋台 縁端拡幅工詳細図			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所			

正面図

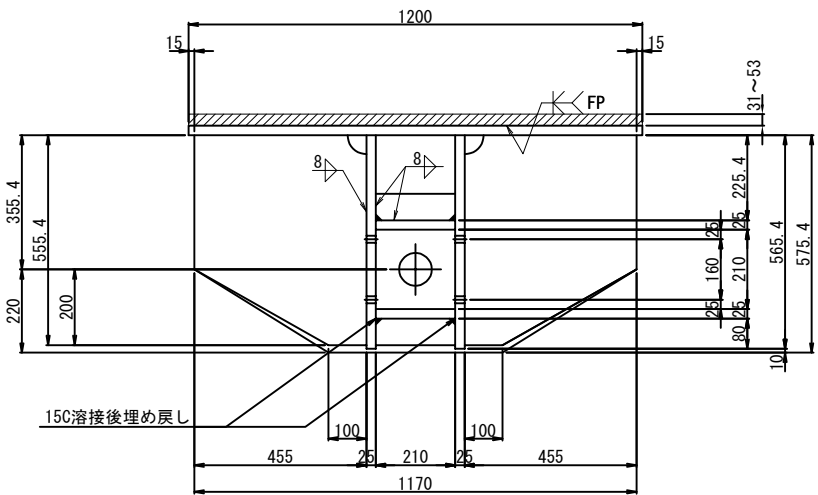


P1-1013 (250)
上部エブラケット詳細図
A1橋台

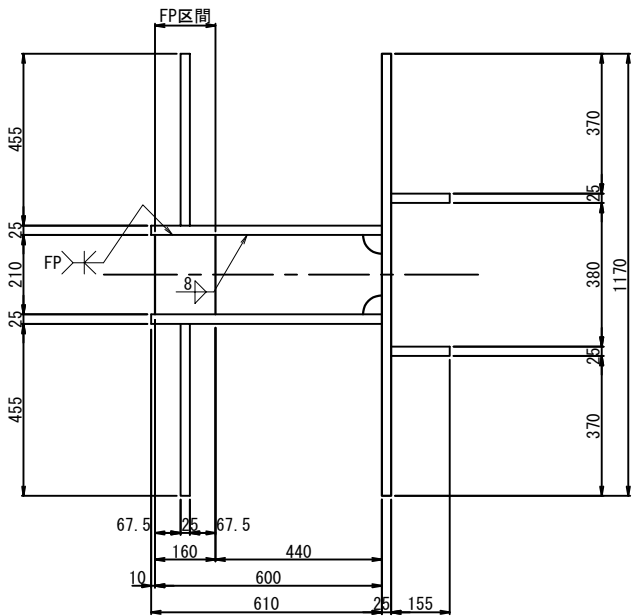
1 - 1



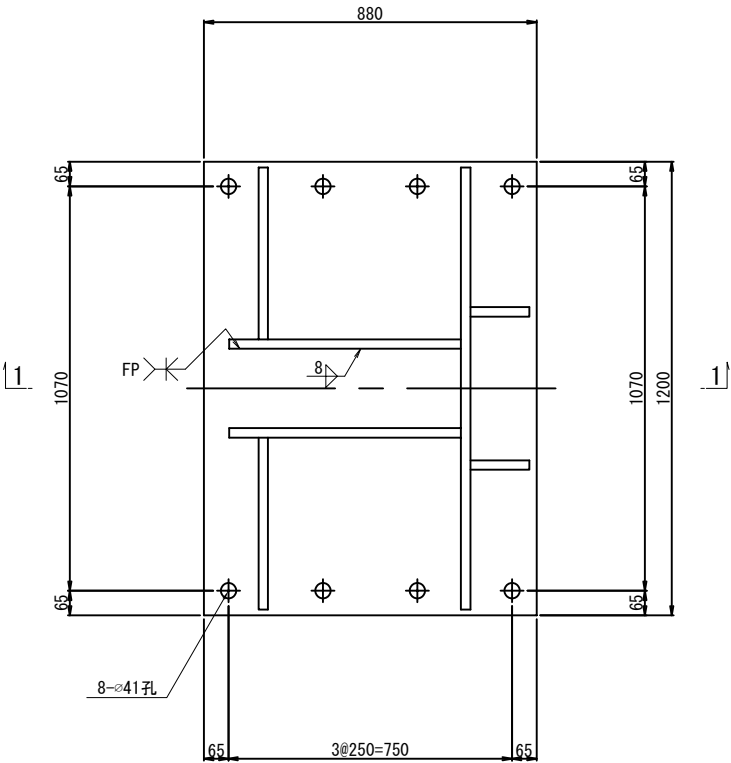
3 - 3



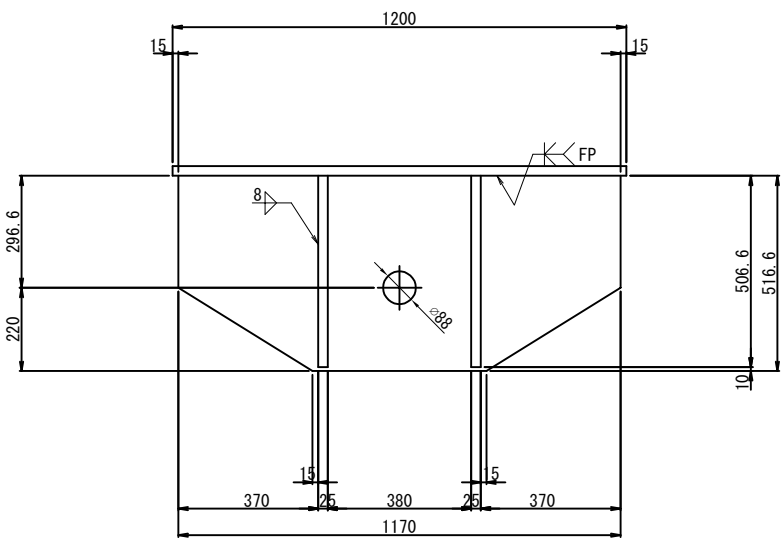
5 - 5



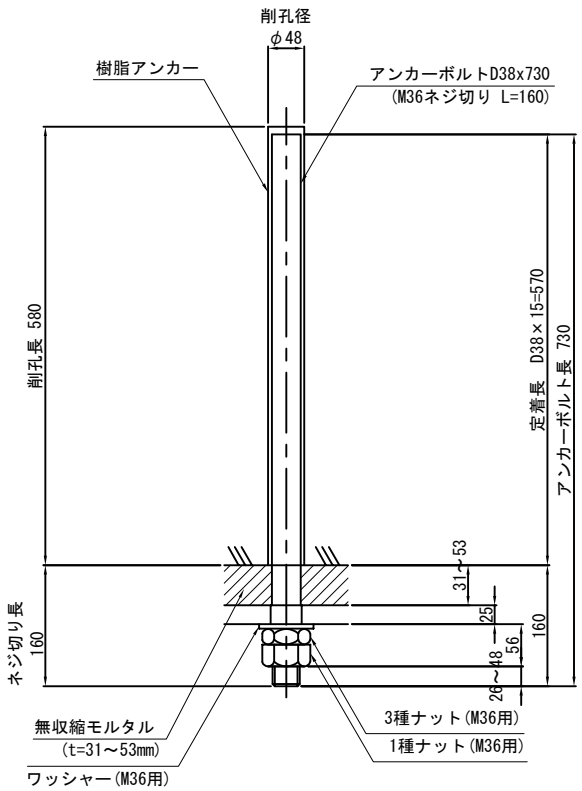
2 - 2



4 - 4



アンカーボルト詳細図 S=1:10



ブラケット1基当り（製作数：2基）

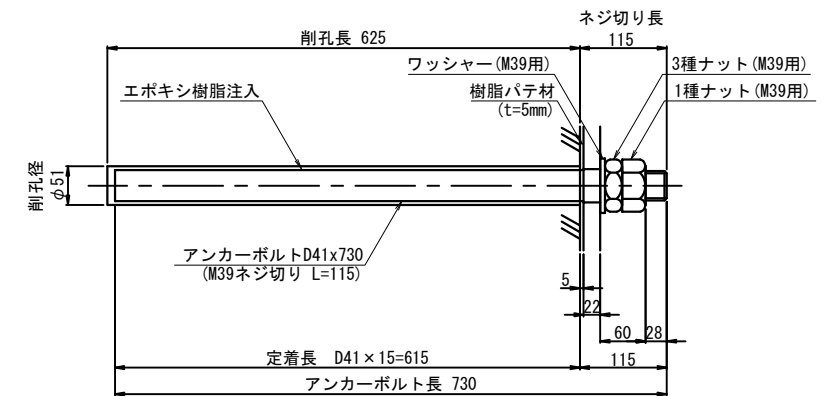
- 2-PL 155x25x507
- 2-PL 610x25x574
- 2-PL 455x25x556
- 2-PL 70x25x210
- 1-PL 210x25x600
- 1-PL 160x25x210
- 1-PL 520x25x1170
- 1-PL 880x25x1200
- 8-Anc. Bolt D38x730 (SD345)
- 8-1種 Nut M36用 (SS400)
- 8-3種 Nut M36用 (SS400)
- 8-Washer M36用 (SS400)

- 注記
- 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 - 特記なきスカーラップは50Rとする。
 - 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上とする。
付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - 工場製作は、現場実測確認のうえ行う。
 - 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 - 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

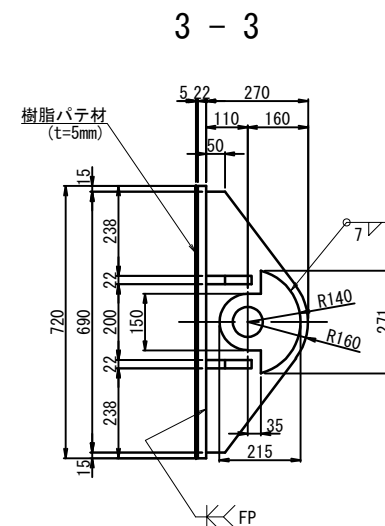
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 A1橋台 落橋防止構造P1構造図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

アンカーボルト詳細図 S=1:10

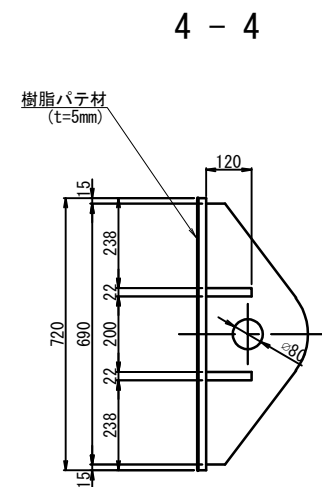


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。



ブラケット1基当り(製作数: 2基)

- 2-PL 215x12x271 (SM490YA)
2-PL 270x22x690
4-PL 120x22x124
2-PL 120x22x218
1-PL 720x22x540
6-Anc Bolt D41x730 (SD345)
6-1種 Nut M39用 (SS400)
6-3種 Nut M39用 (SS400)
6-Washer M39用 (SS400)



- (注記)
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
 2. 特記なきスカラーラップは全て50Rとする。
 3. 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕仕上げとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZT777とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. プラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 5. 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 6. 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

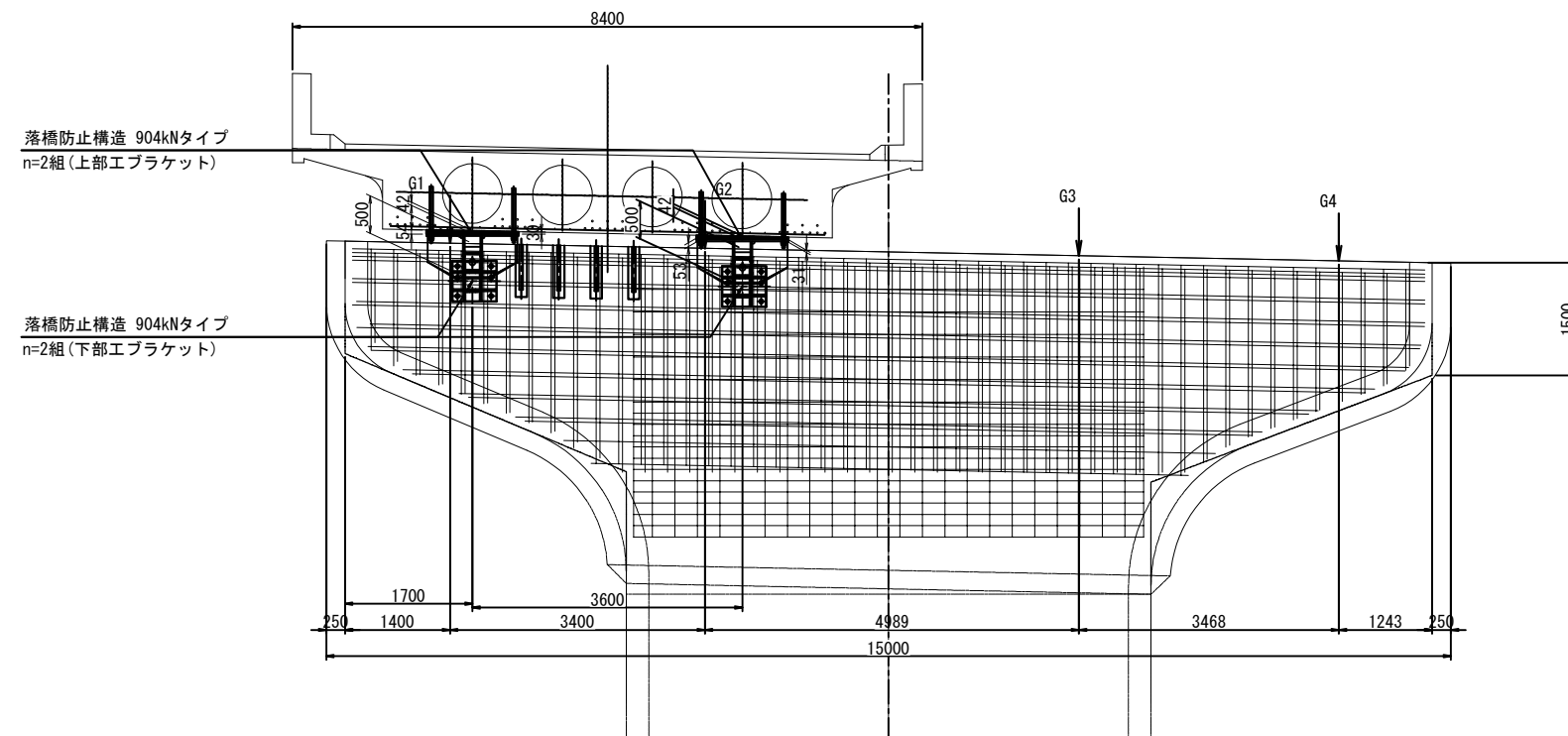
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 A1橋台 落橋防止構造P1構造図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 落橋防止構造P1配置図
P1-904 (300)

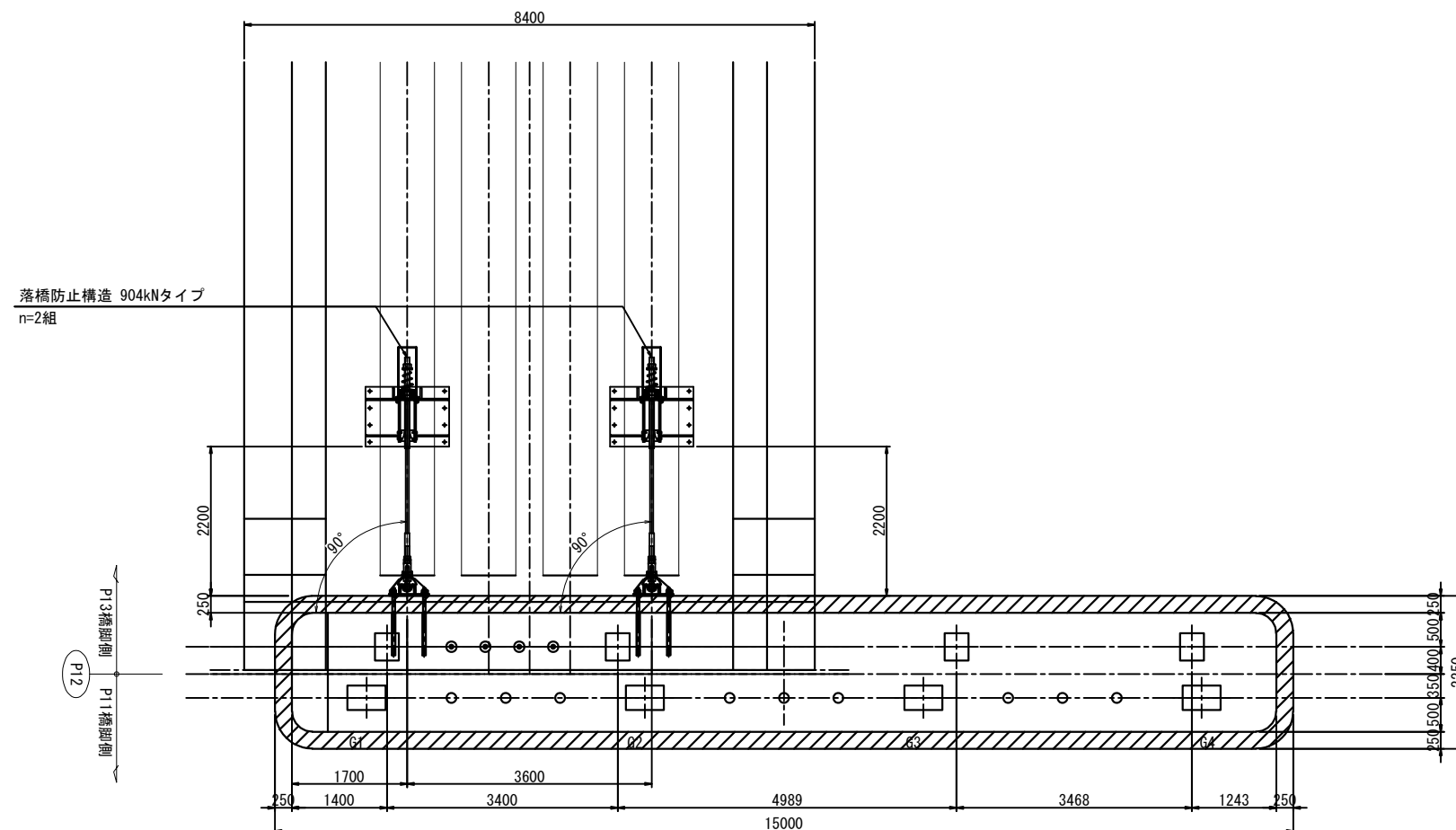
S=1:100

52 / 151

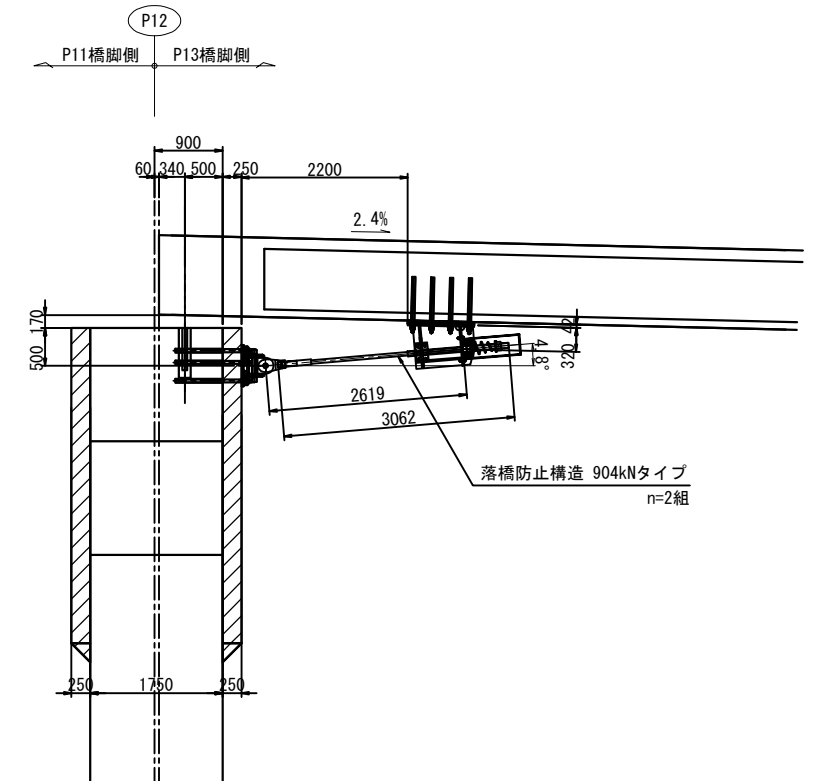
正面図



平面図



側面図



設計条件

死荷重反力 (R_d)	1200kN
設計反力 (HF)	1800kN
1本あたりの設計反力 (P)	904kN
設計遊間量	300mm

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 落橋防止構造P1配置図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

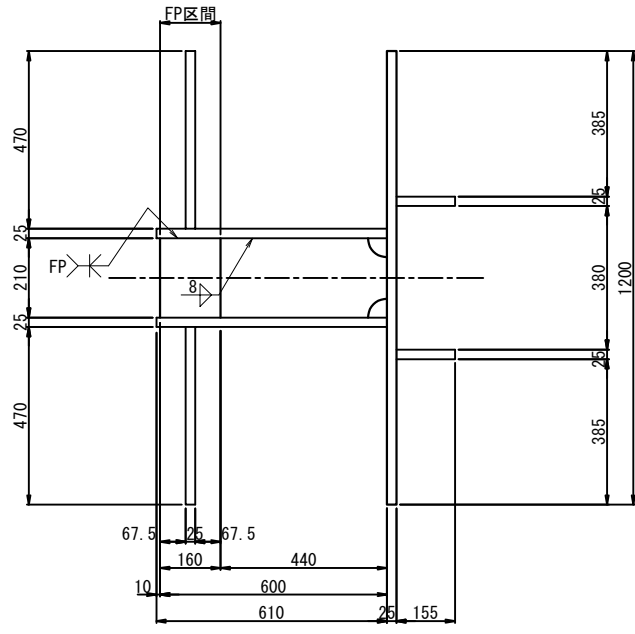
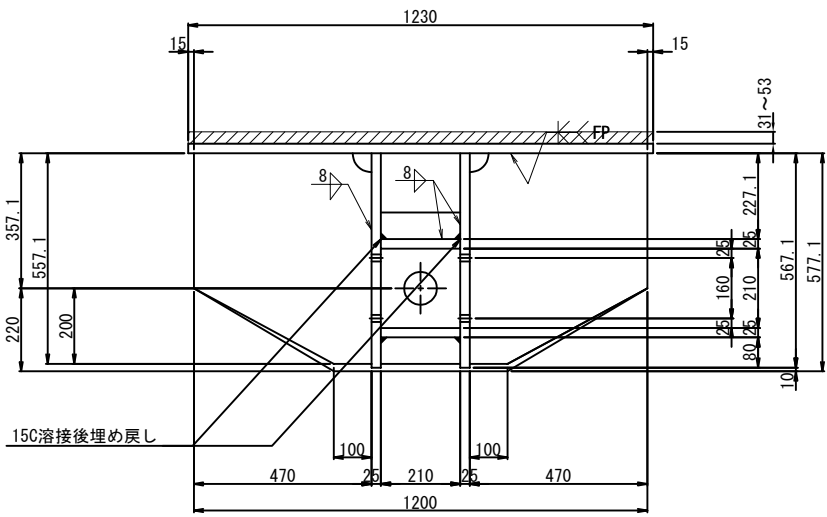
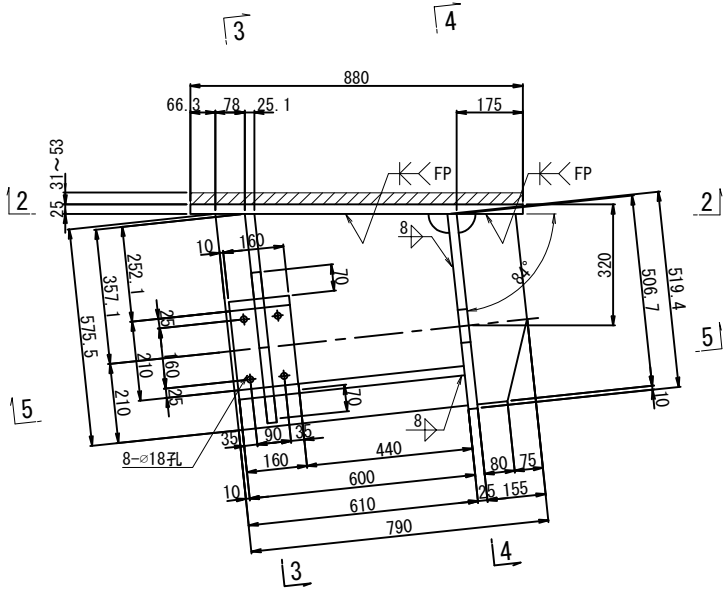
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚（終） 落橋防止構造P1構造図（その1）（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P1-904 (300)
上部エブラケット詳細図
P12橋脚 P13側

1 - 1

3 - 3

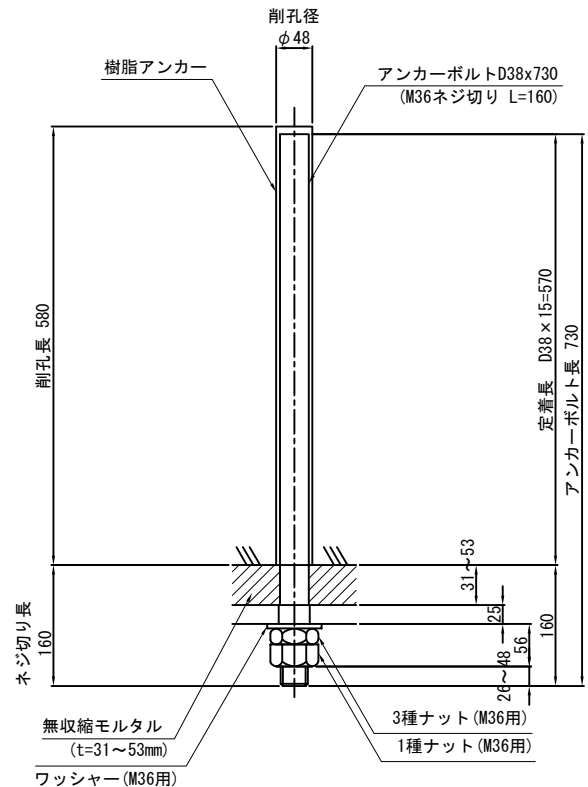
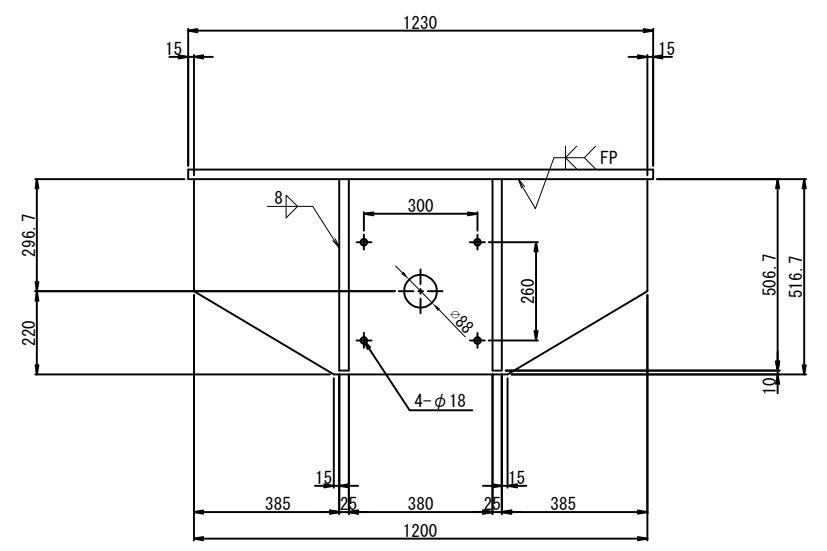
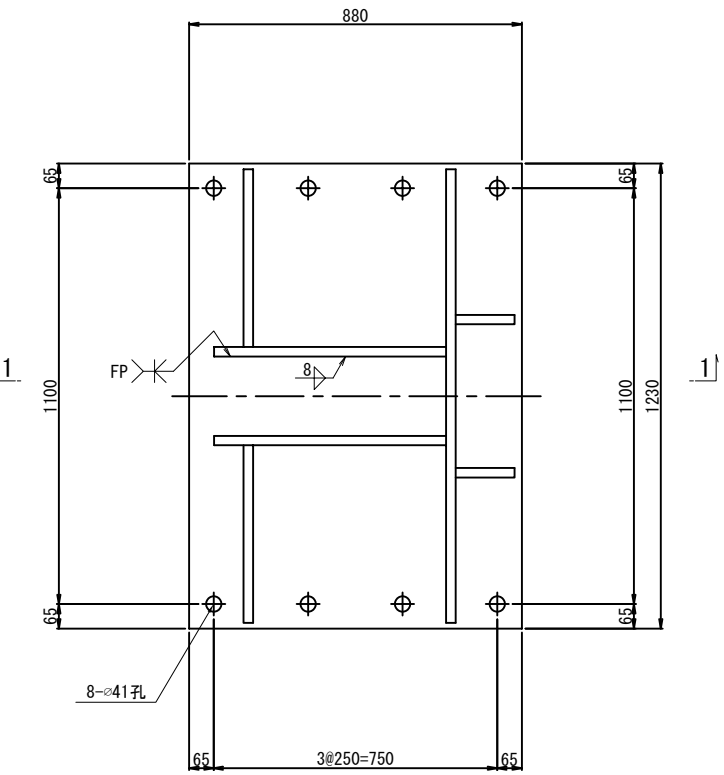
5 - 5



2 - 2

4 - 4

アンカーボルト詳細図 S=1:10



ブラケット1基当たり (製作数: 2基)

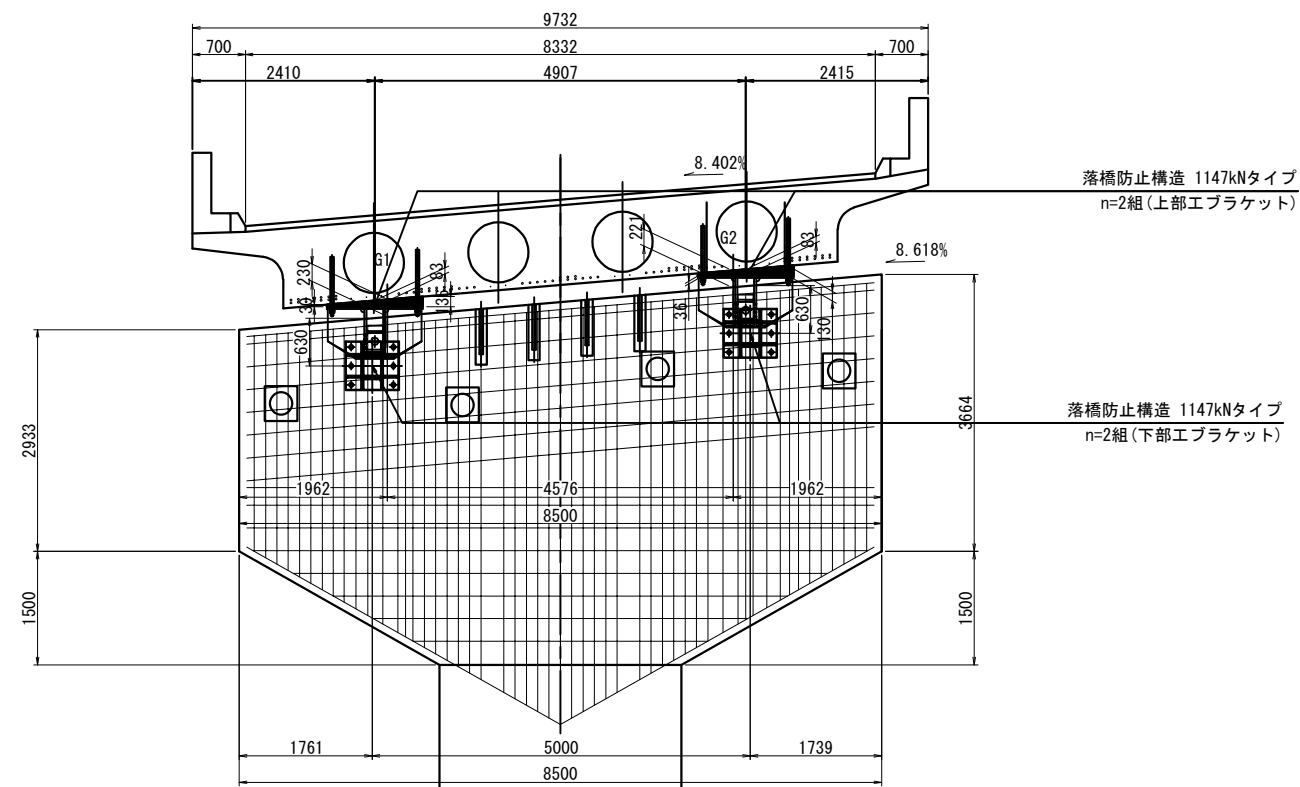
- 2-PL 155x25x507
- 2-PL 610x25x576
- 2-PL 470x25x558
- 2-PL 70x25x210
- 1-PL 210x25x600
- 1-PL 160x25x210
- 1-PL 520x25x1200
- 1-PL 880x25x1230
- 8-Anc. Bolt D38x730 (SD345)
- 8-1種 Nut M36用 (SS400)
- 8-3種 Nut M36用 (SS400)
- 8-Washer M36用 (SS400)

- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは50Rとする。
 3. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
付着量は、JIS H8641 HDZT77とする。
ただし、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. 工場製作は、現場実測確認のうえ行う。
 5. 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 6. 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

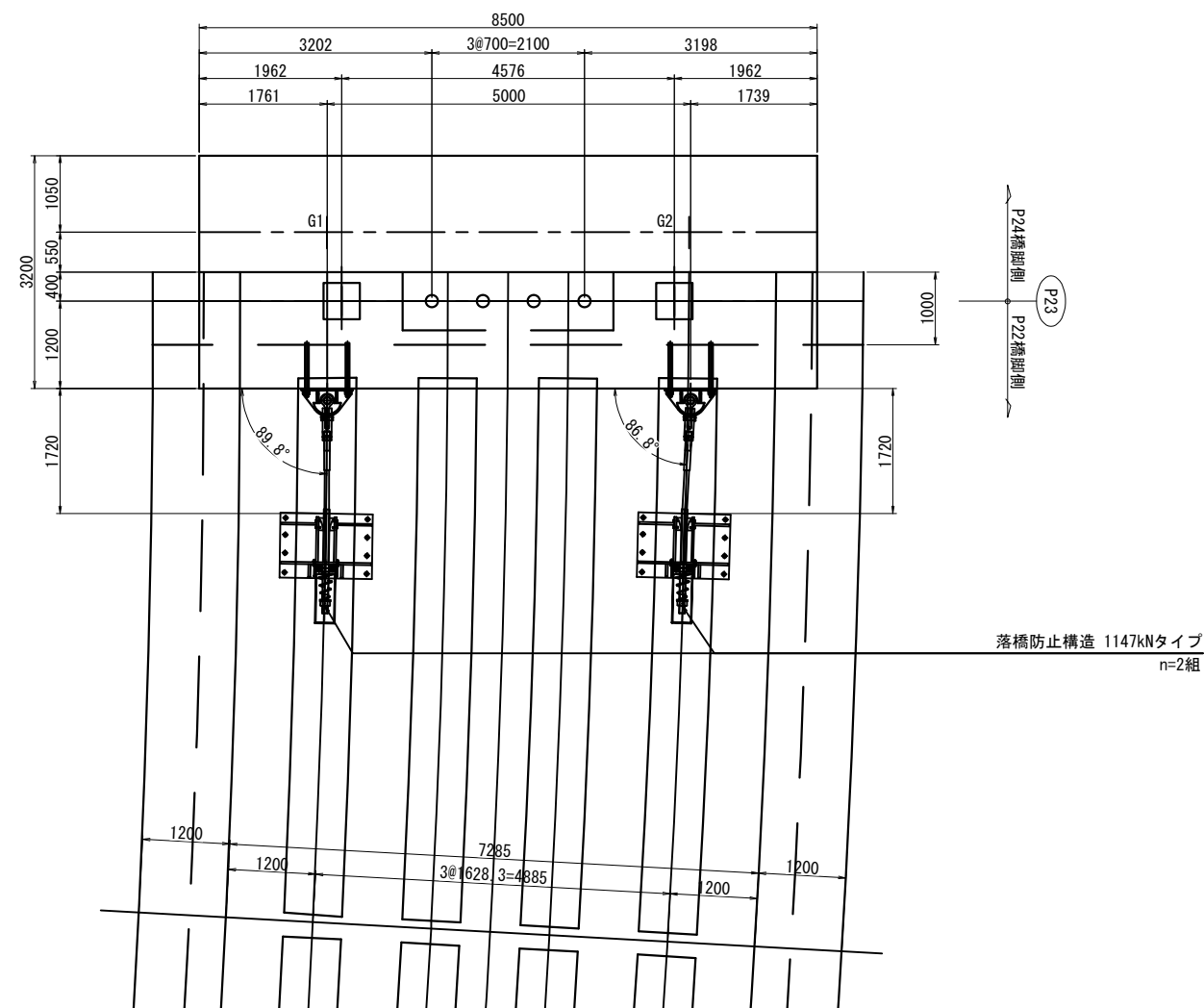
※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 落橋防止構造P1構造図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

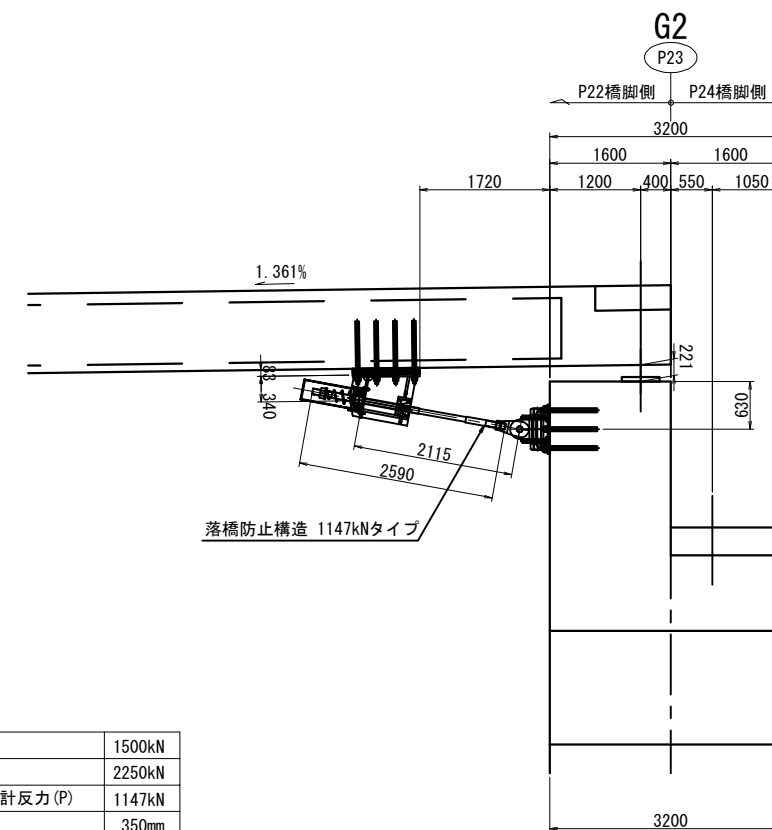
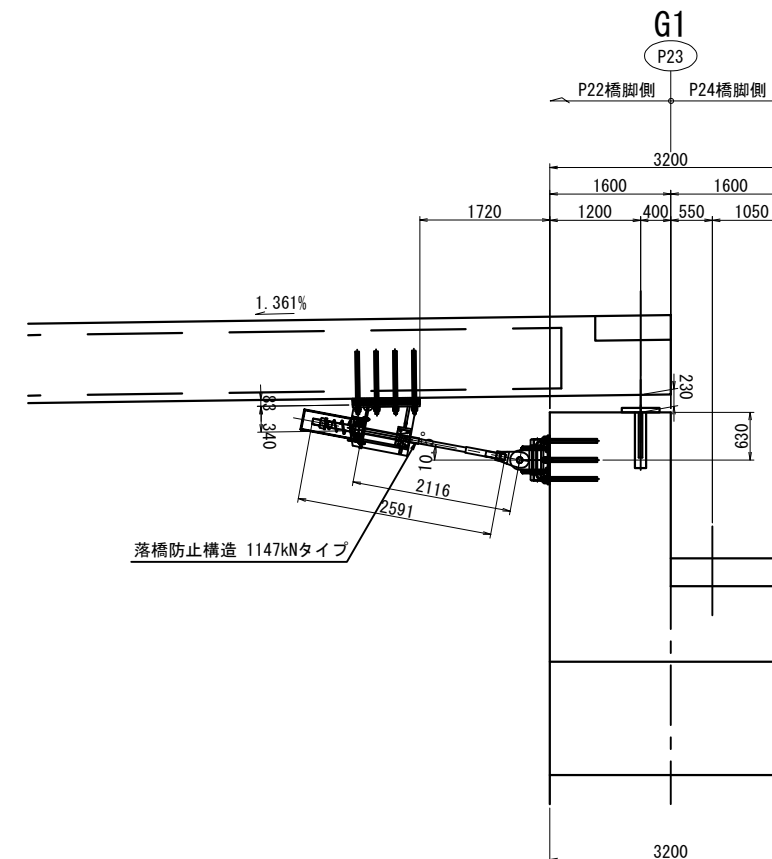
正面図



平面図



側面図



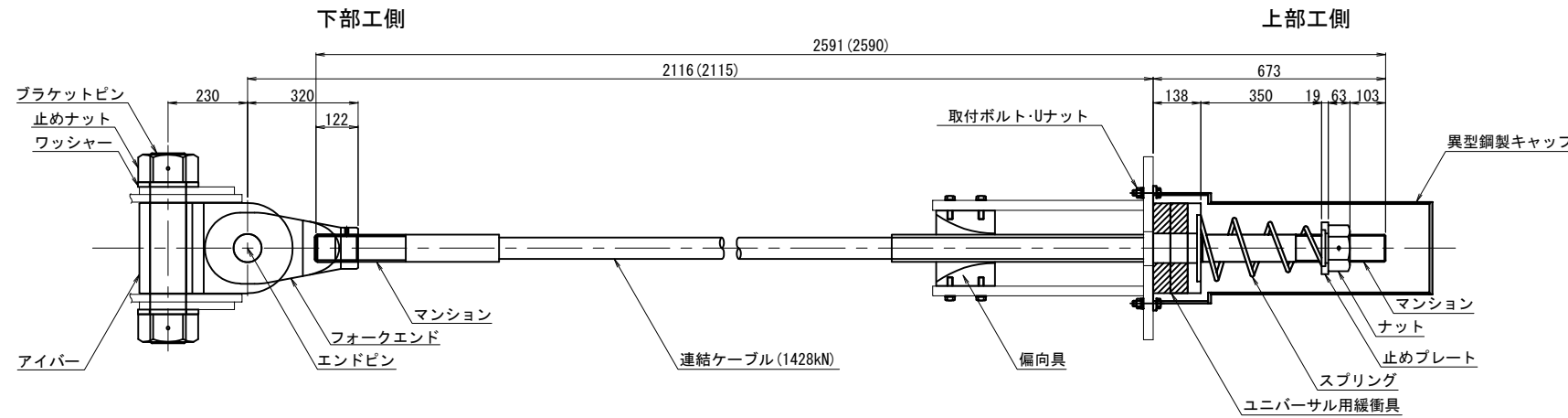
設計条件

死荷重反力 (R_d)	1500kN
設計反力 (HF)	2250kN
1本あたりの設計反力 (P)	1147kN
設計遊間量	350mm

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	東金ICランプ橋 P23橋脚(趾) 落橋防止構造P1配置図	
縮 尺	図示	図面番号
設計会社名	日本工営株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

P1-1147 (350)
取付詳細図及び部品図

取付詳細図

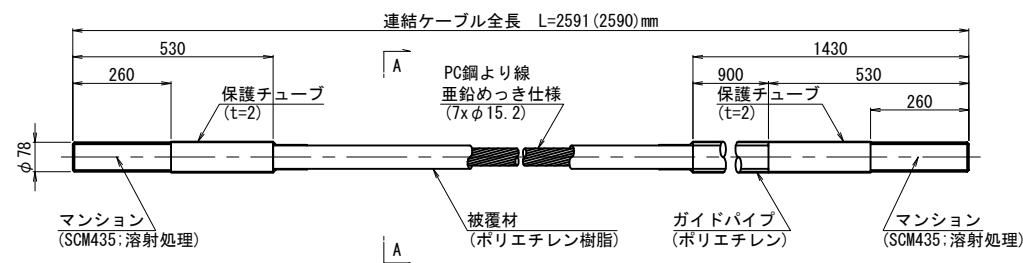


材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

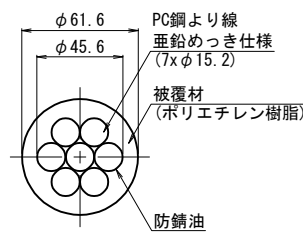
全2組

名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル (マンション) (ガイドパイプ)	1428kN L=2591 (2590)mm 1428kN用 標準 1428kN用 900mm	本 個 本	1 2 1	PC鋼より線, 垂鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆 SCM435, 垂鉛アルミ溶射, ねじきり標準 <ケーブルに組込> ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	1428kN用	個	1	S45C: 垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	1428kN用	個	1	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	1428kN用 L=500	個	1	SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理
ユニバーサル用緩衝具	1428kN用	個	1	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	1428kN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x55 1W付	本	16	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
異型鋼製キャップ	1428kN用 L=800	個	1	SS400, STK400: 垂鉛めっき (HDZT77, t=6未満HDZT70)
取付ボルト・Uナット	M16x65 2W付	本	4	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT49)
ユニバーサルシステム ブラケットピン	1428kN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
止めナット	1428kN用	個	2	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	1428kN用	個	2	SS400相当品, 垂鉛めっき (HDZT77)
アイバー	1428kN用	個	1	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	1428kN用	個	1	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	1428kN用	本	1	SCM435, ダクロダイズド処理, DMコート
(止めプレート)	1428kN用	個	1	SS400相当品, 垂鉛めっき (HDZT77)

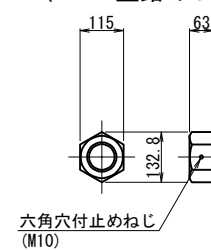
連結ケーブル



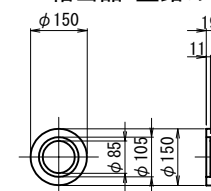
A-A断面図 S=1:4



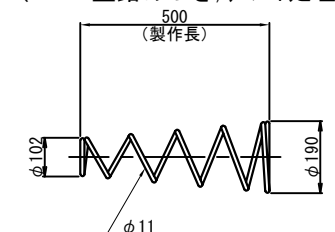
ナット
(S45C: 垂鉛めっき)



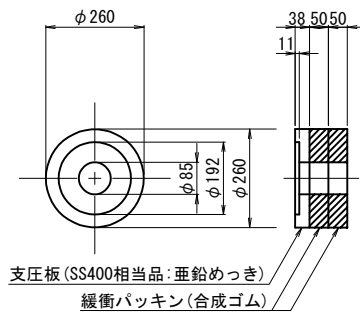
止めプレート
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



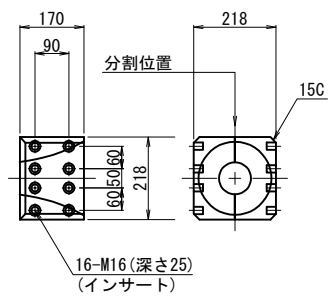
スプリング
(SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



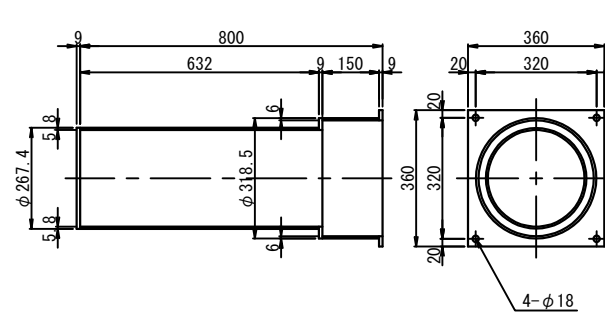
ユニバーサル用緩衝具
(支圧板+緩衝パッキン)



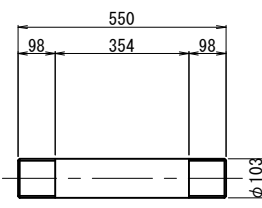
偏向具
(ポリエチレン)



異型鋼製キャップ
(SS400, STK400: 垂鉛めっき)



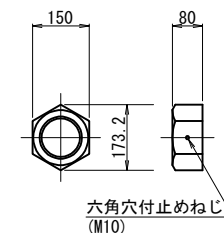
ブラケットピン
(SCM435: DMコート)



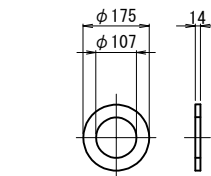
設計条件

1本あたりの設計反力 (P)	1147kN
設計遊間量	350mm

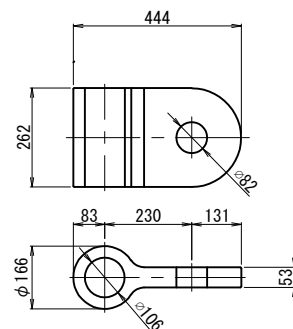
止めナット
(S45C: 垂鉛めっき)



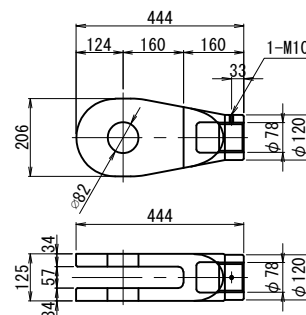
ワッシャー
(SS400相当品: 垂鉛めっき)



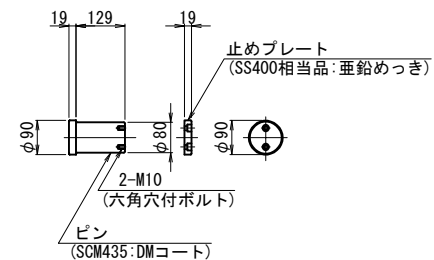
アイバー
(S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド
(S45C: 垂鉛めっき)



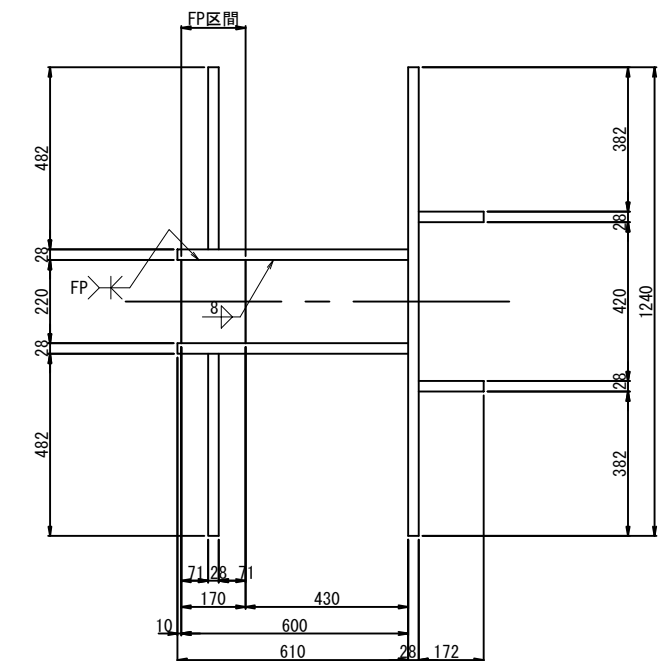
エンドピン
(ピン+止めプレート)



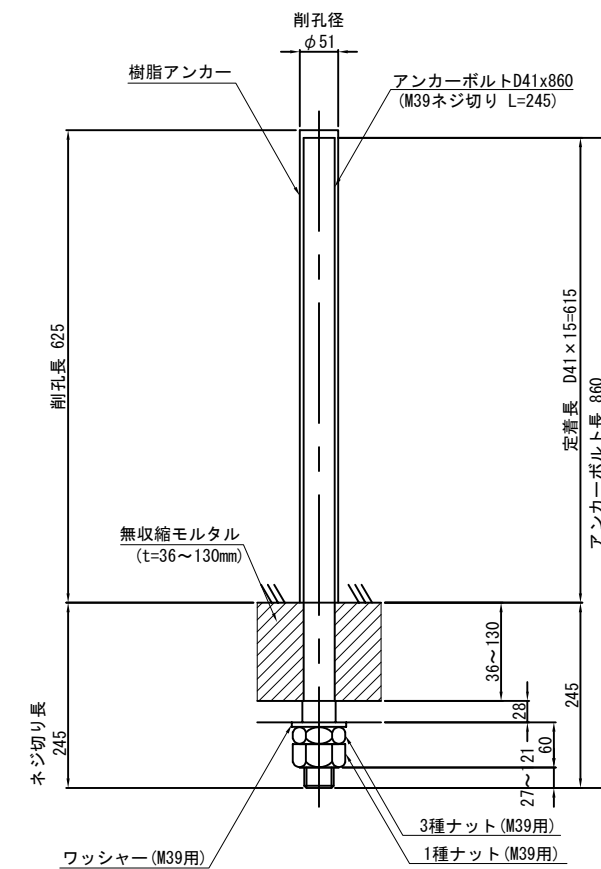
注記
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間
距離を確認のうえ、おこなうこと。
2. () 内の数値はG2桁を示す。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起) 落橋防止構造P1構造図(その1) (参考図)
縮 尺	図示 図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社
施工会社名	
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所

5 - 5



アンカーボルト詳細図 S=1:10



2-PL 172x28x539
2-PL 610x28x666
2-PL 477x28x638
2-PL 70x28x220
1-PL 220x28x600
1-PL 170x28x220
1-PL 554x28x1240
1-PL 890x28x1270
8-Anc. Bolt D41x860 (SD345)
8-1種 Nut M39用 (SS400)
8-3種 Nut M39用 (SS400)
8-Washer M39用 (SS400)

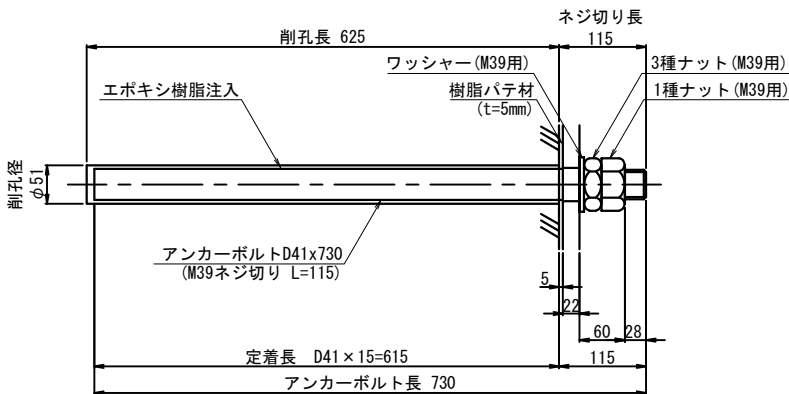
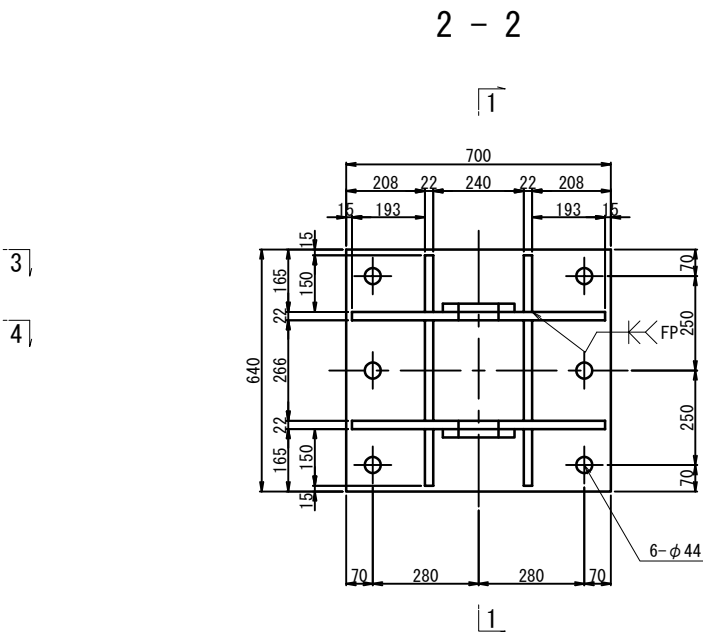
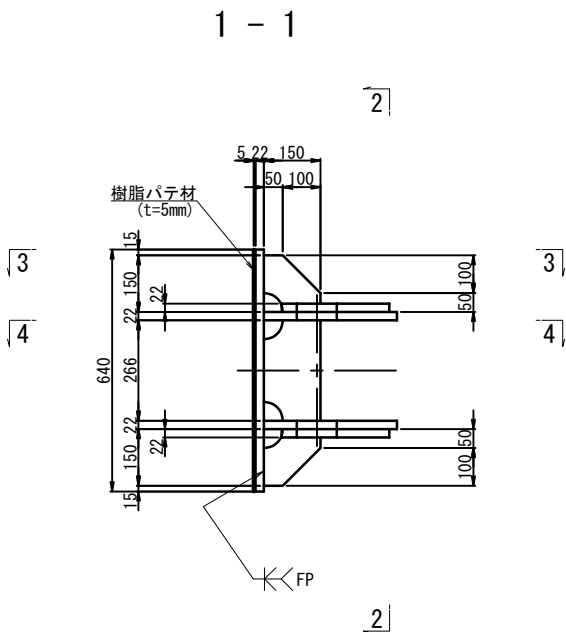
1. 特記なき材質は全てSM400Aとする。
2. 特記なきスカラーは50Rとする。
3. 部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕掛けとする。
付着量は、HIS J8641 HDZ777とする。
ただし、ポルト・ナット類はHDZ749とする。
4. 工場製作は、現場実測確認のうえ行う。
5. 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
6. 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	東金ICランプ橋 P23橋脚(起) 落橋防止構造P1構造図(その2)	
縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

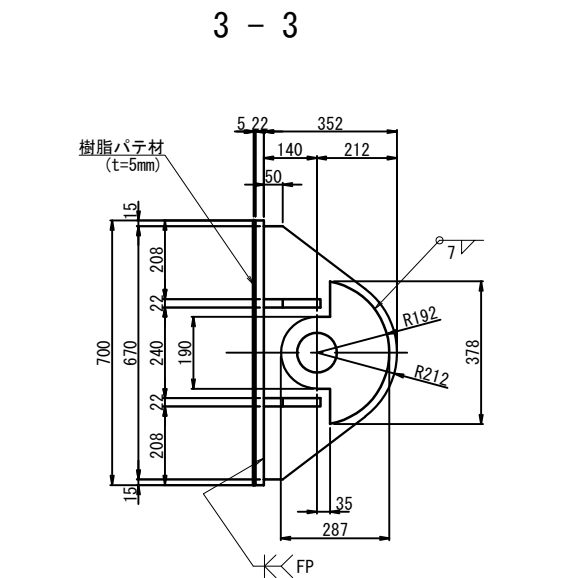
P1-1147 (350)
下部エブラケット詳細図
P23橋脚P22側

下部エブラケット詳細図

アンカーボルト詳細図 S=1:10

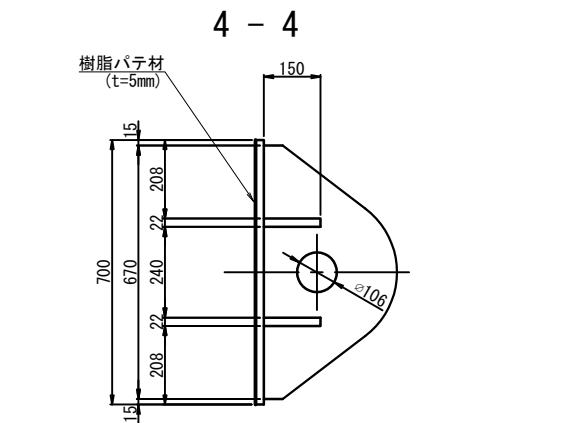


※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。



ブラケット1基当り(製作数:2基)

- 2-PL 287x22x378
- 2-PL 352x22x670
- 4-PL 150x22x150
- 2-PL 150x22x266
- 1-PL 640x22x700
- 6-Anc Bolt D41x730 (SD345)
- 6-1種 Nut M39用 (SS400)
- 6-3種 Nut M39用 (SS400)
- 6-Washer M39用 (SS400)

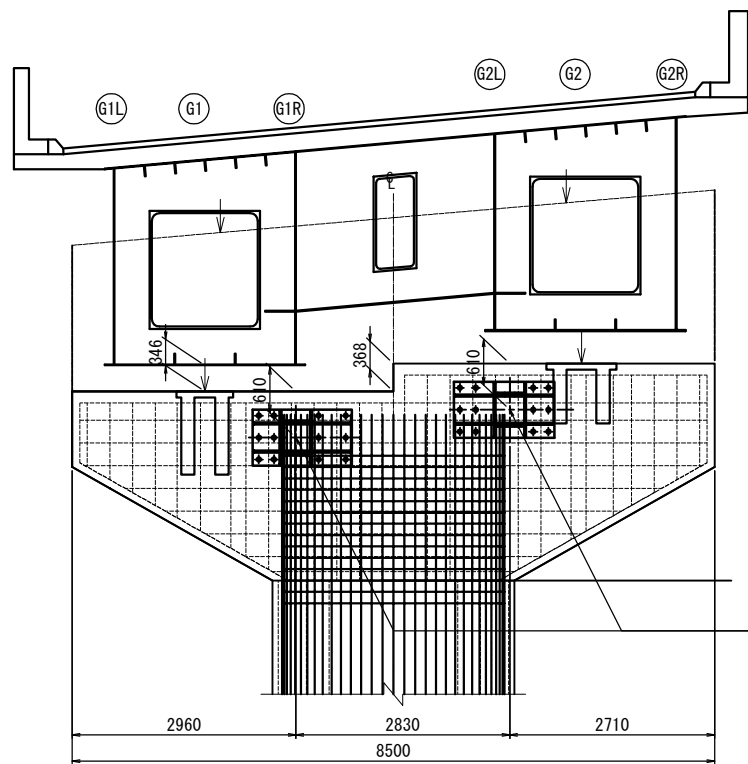


- 注記)
1. 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 3. 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上げとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 4. ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 5. 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 6. 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チャッピングによる表面処理を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(起)		
	落橋防止構造P1構造図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

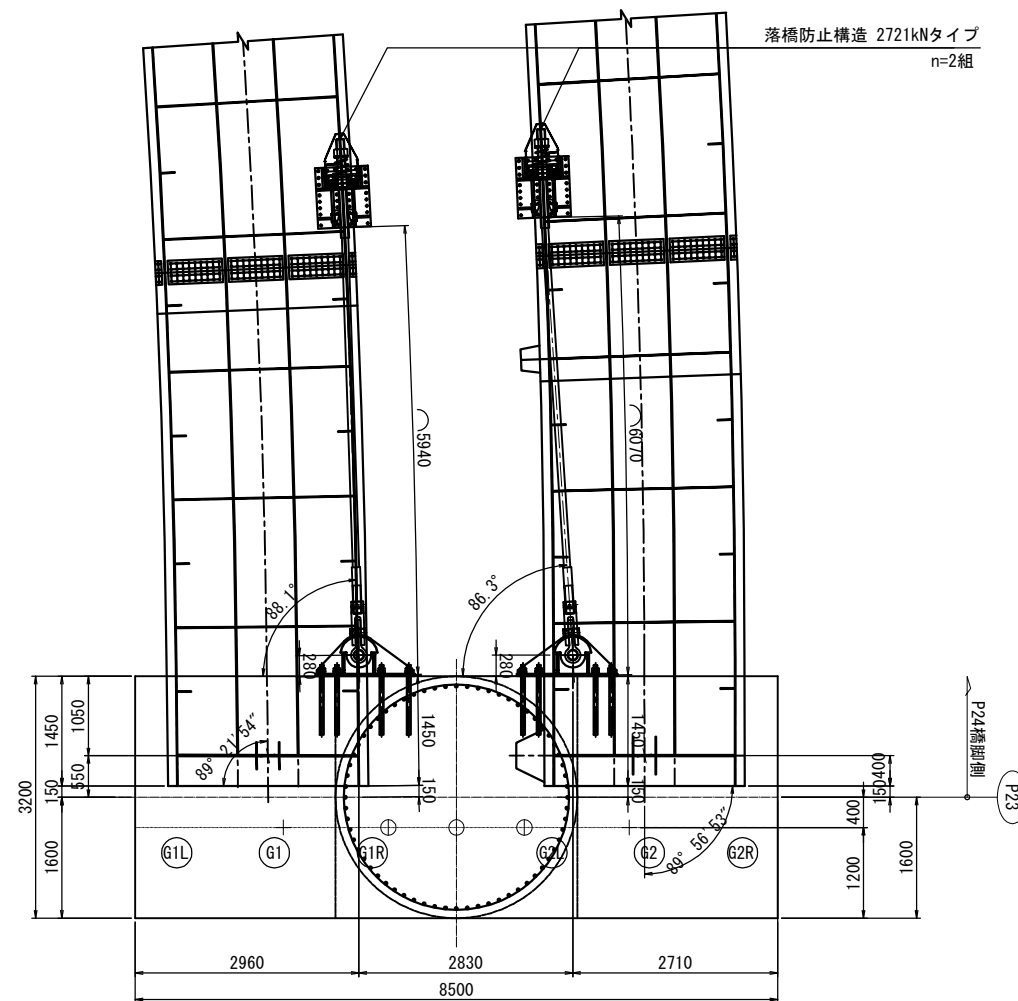
東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3配置図 S=1:100
P3-2721 (250)

正面図



落橋防止構造 2721kNタイプ
n=2組

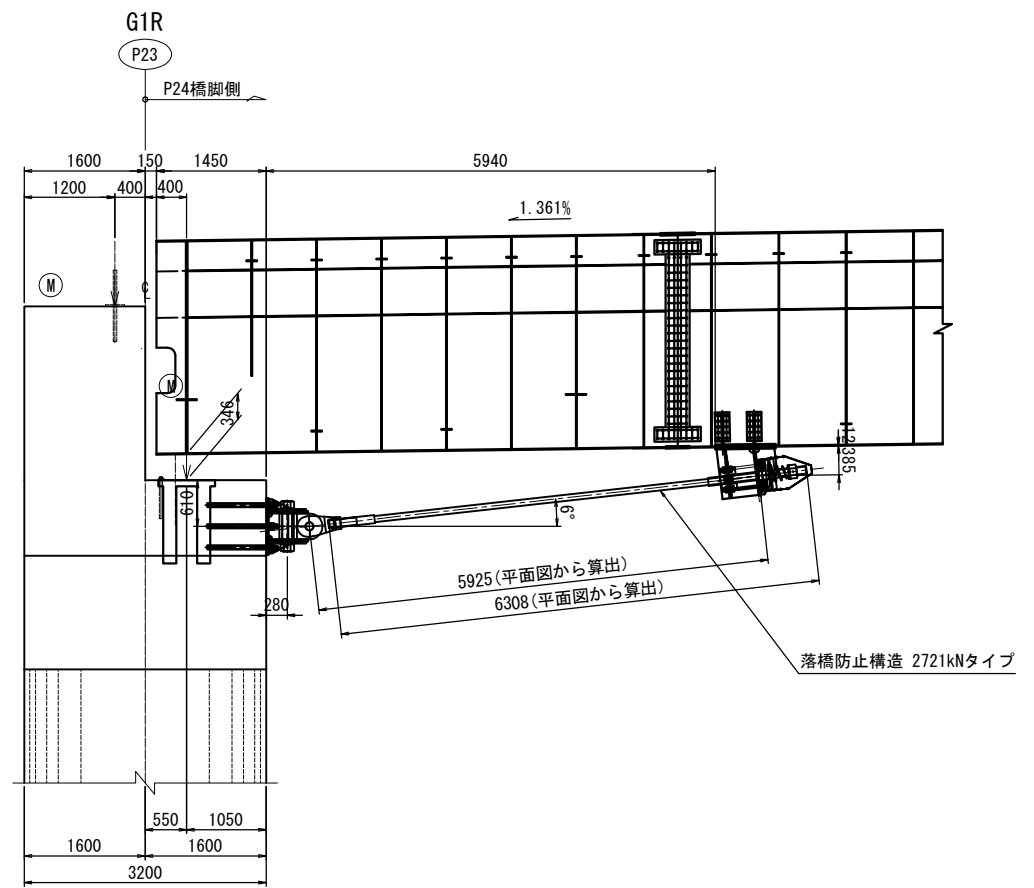
平面図



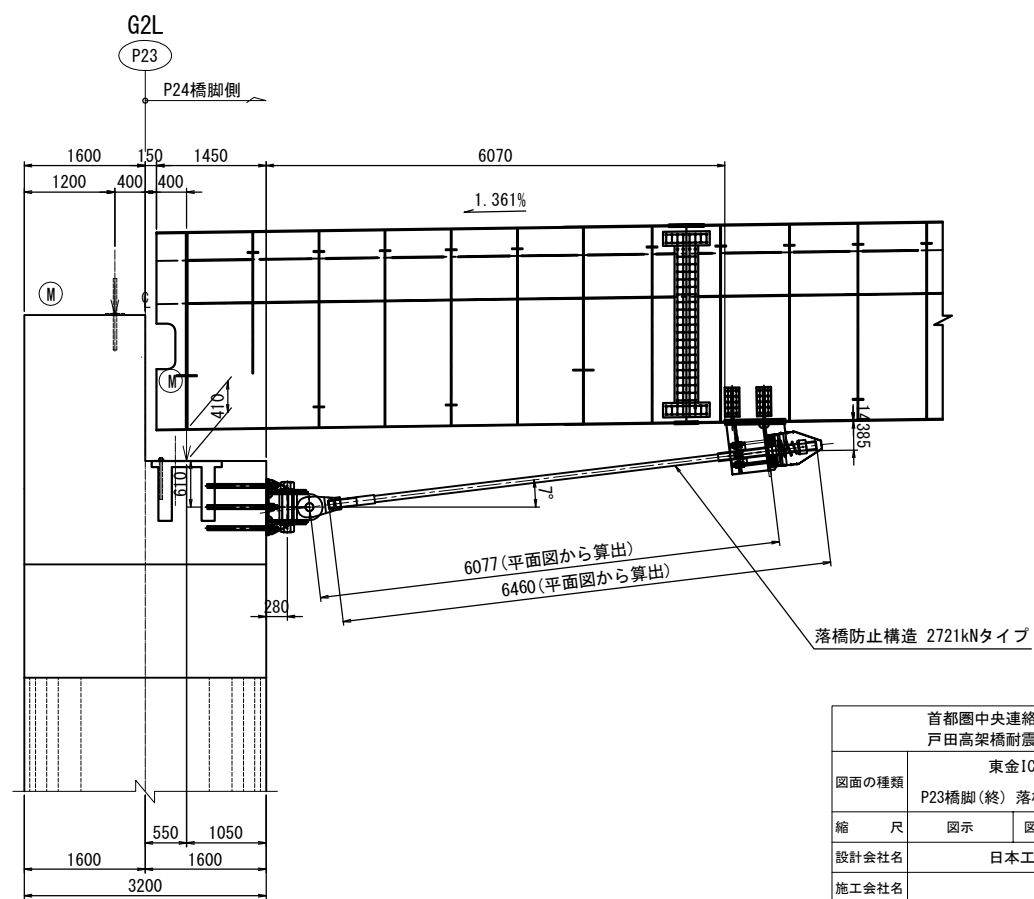
落橋防止構造 2721kNタイプ
n=2組

設計条件	
死荷重反力 (R _d)	3600kN
設計反力 (H _r)	5400kN
1本あたりの設計反力 (P)	2721kN
設計遊間量	250mm

側面図



落橋防止構造 2721kNタイプ



落橋防止構造 2721kNタイプ

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3配置図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

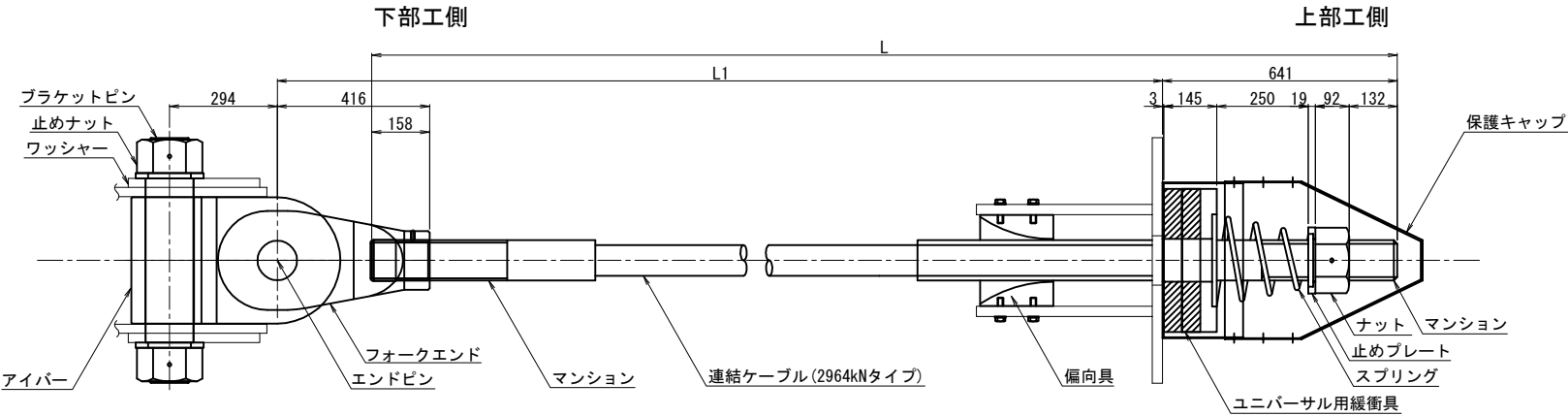
P3-2721 (250)
取付詳細図及び部品図

取付詳細図

材 料 表 (落橋防止構造1組当たり)

全2組

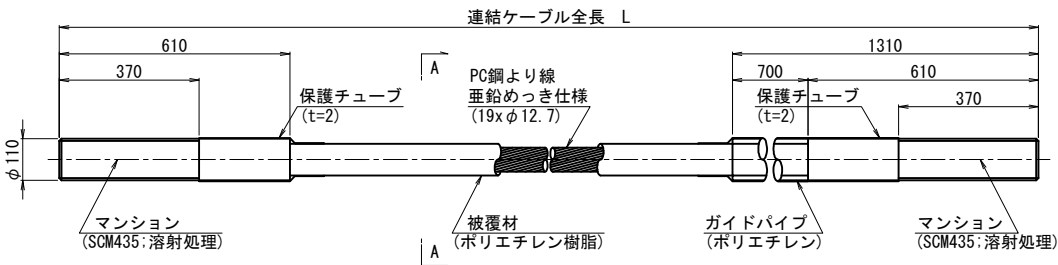
名 称	規 格	単位	数量	摘 要
連結ケーブル	2964kN L mm	本	1	PC鋼より線, 垂鉛めっき仕様, ポリエチレン被覆
(マンション)	2964kN用 標準	個	2	SCM435, 垂鉛アルミ溶射, ねじきり標準 <ケーブルに組込>
(ガイドパイプ)	2964kN用 700mm	本	1	ポリエチレン <ケーブルに組込>
ナット	2964kN用	個	1	S45C: 垂鉛めっき (HDZT77)
止めプレート	2964kN用	個	1	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT77)
スプリング	2964kN用 L=400	個	1	SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理
ユニバーサル用緩衝具	2964kN用	個	1	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT77) + 合成ゴム
偏向具	2964kN用	個	1	ポリエチレン
(取付ボルト)	M16x55 1W付	本	16	SS400相当品: 垂鉛めっき (HDZT49) 接着剤付
保護キャップ	2964kN用	組	1	ポリエチレン: 6-止めビス付
ブラケットピン	2964kN用	本	1	SCM435, ダクロダイズ処理, DMコート
止めナット	2964kN用	個	2	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
ワッシャー	2964kN用	個	2	SS400相当品, 垂鉛めっき (HDZT77)
アイバー	2964kN用	個	1	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
フォークエンド	2964kN用	個	1	S45C, 垂鉛めっき (HDZT77)
エンドピン (ピン)	2964kN用	本	1	SCM435, ダクロダイズ処理, DMコート
(止めプレート)	2964kN用	個	1	SS400相当品, 垂鉛めっき (HDZT77)



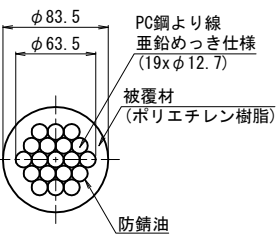
寸法表

	L	L1
G1R	6308	5925
G2L	6460	6077

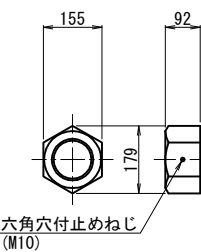
連結ケーブル



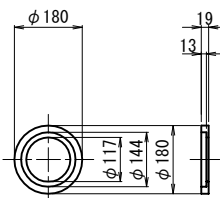
A-A断面図 S=1:6



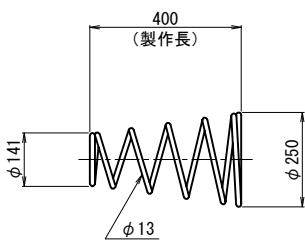
ナット (S45C: 垂鉛めっき)



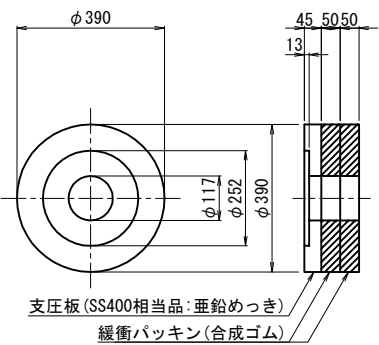
止めプレート (SS400相当品: 垂鉛めっき)



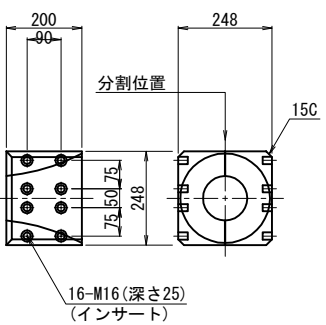
スプリング (SW-C: 垂鉛めっき, クロメート処理)



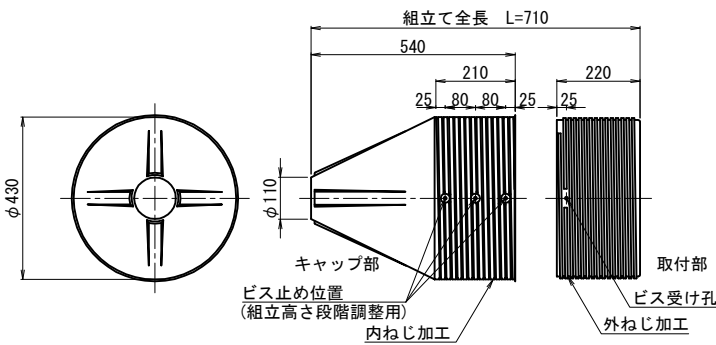
ユニバーサル用緩衝具 (支圧板+緩衝パッキン)



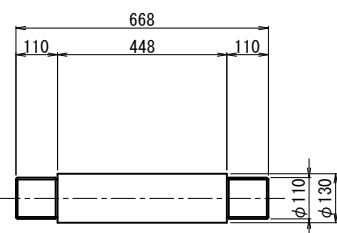
偏向具 (ポリエチレン)



保護キャップ (ポリエチレン)



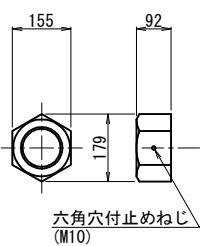
ブラケットピン (SCM435: DMコート)



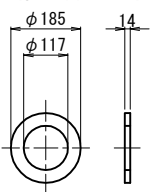
設計条件

1本あたりの設計反力(P)	2721kN
設計遊間量	250mm

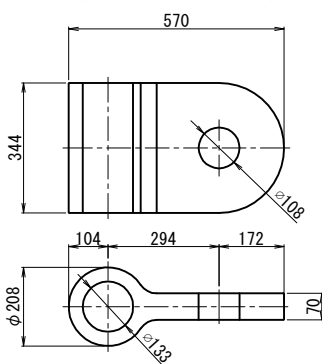
止めナット (S45C: 垂鉛めっき)



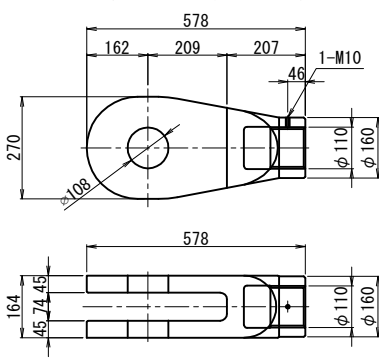
ワッシャー (SS400相当品: 垂鉛めっき)



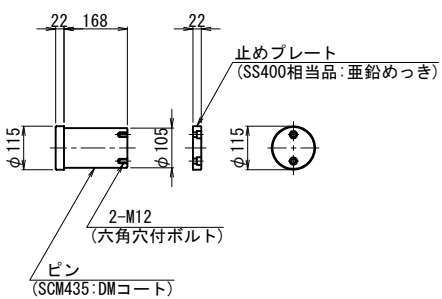
アイバー (S45C: 垂鉛めっき)



フォークエンド (S45C: 垂鉛めっき)



エンドピン (ピン+止めプレート)



注記

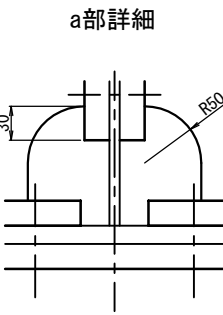
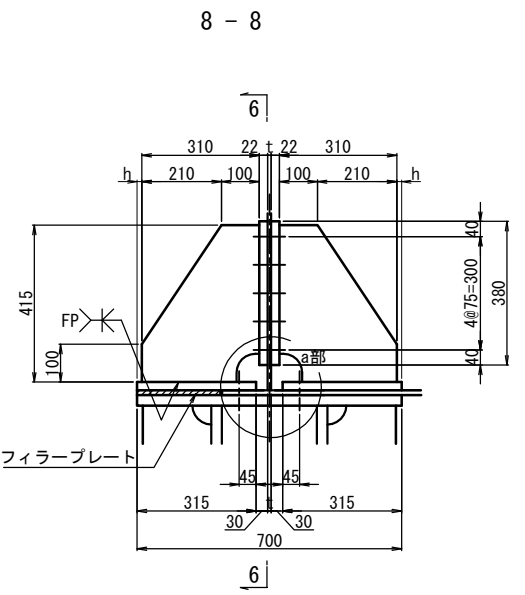
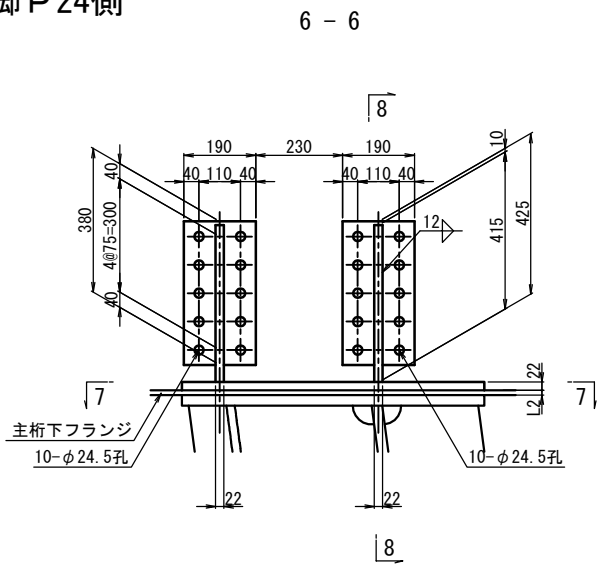
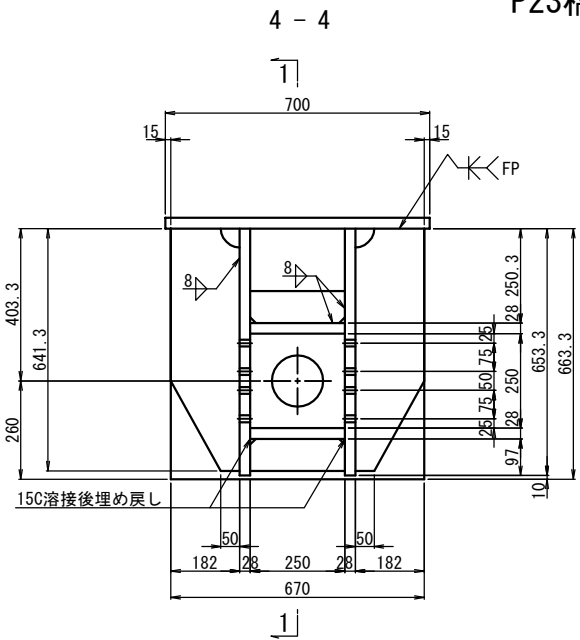
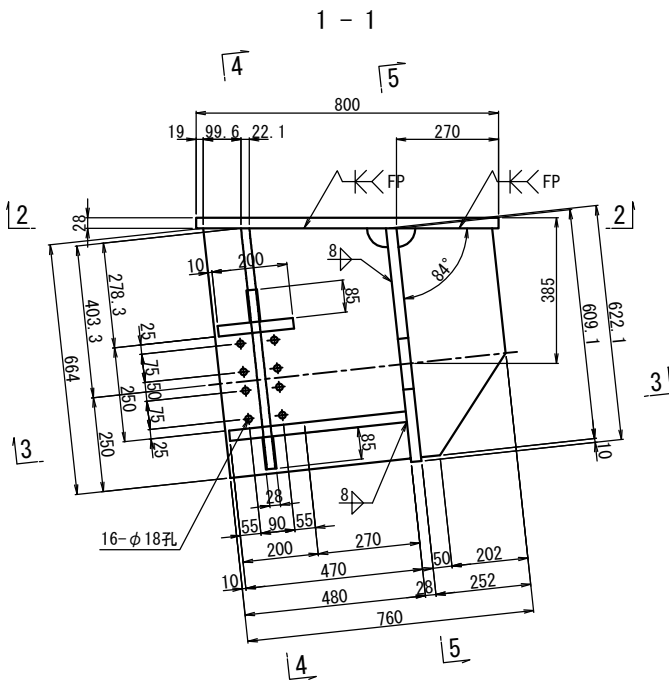
1. 連結ケーブルの製作は、現場にて取付間距離を確認のうえ、おこなうこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3構造図(その1)(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

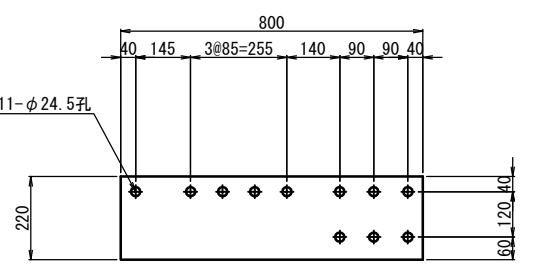
ブラケット詳細図

P3-2721 (250)
上部エブラケット詳細図
P23橋脚P24側

桁補強詳細図



フィラープレート詳細図



寸法表

	L2	t	h
G1R	12	10	13
G2L	14	11	12.5

注記)

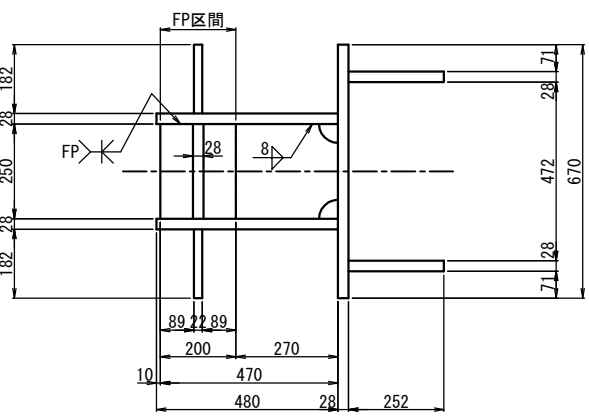
1. 特記なき材質は全てSM490YBとする。
2. 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
3. 工場製作は現場実測確認のうえ行うものとする。
4. 上部エブラケット及び、桁補強は主桁と同等以上の防錆塗装を施すものとする。
5. ★の高力ボルトは頭部側にも座金を用いるものとする。
6. 「FP」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いること。

ブラケット1基当り(製作数:2基)

- 2-PL 252x28x610
- 2-PL 480x28x664
- 2-PL 182x22x642
- 2-PL 85x28x250
- 1-PL 250x28x470
- 1-PL 200x28x250
- 1-PL 623x28x670
- 1-PL 800x28x700
- 22-TCB M22x105 (S10T) [+1W]
- 16-TCB M22x100 (S10T)

ブラケット1基当り(製作数:2基)

- 2-PL 315x22x800 (SM400A)
- 4-PL 310x22x415 (SM400A)
- 4-PL 190x22x380 (SM400A)
- 20-TCB M22x90 (S10T)
- 1-Fill PL 220xL2x800 (SS400)



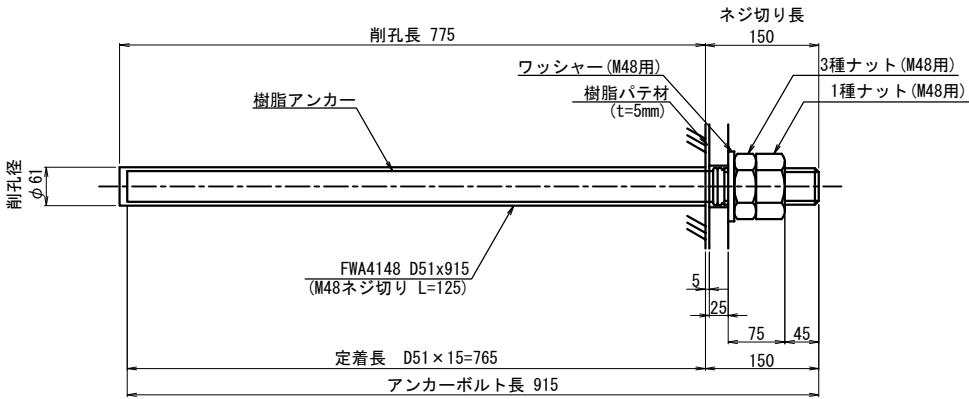
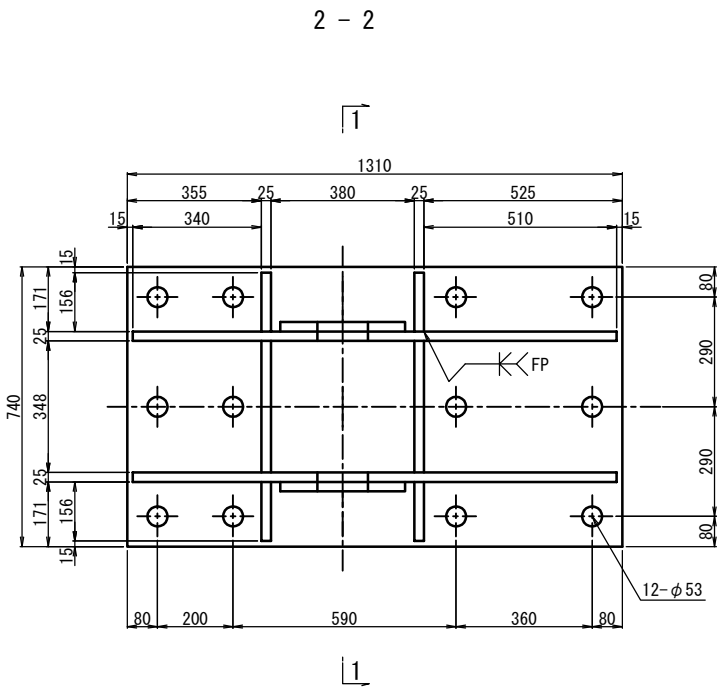
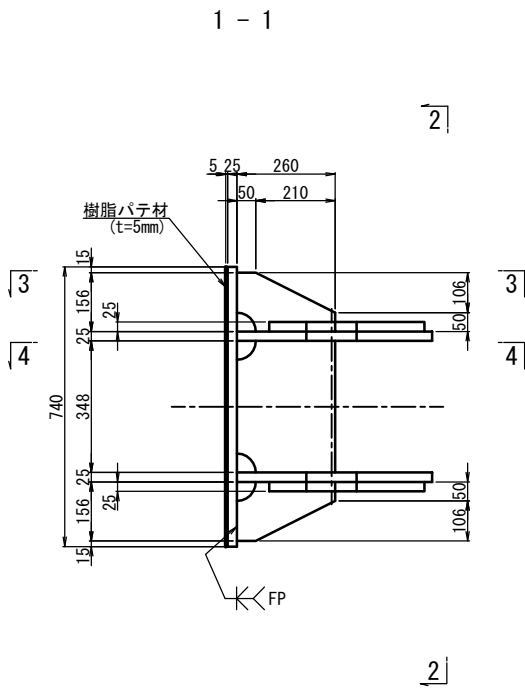
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 落橋防止構造P3構造図(その2)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P3-2721 (250)
下部エブラケット詳細図
P23橋脚P24側

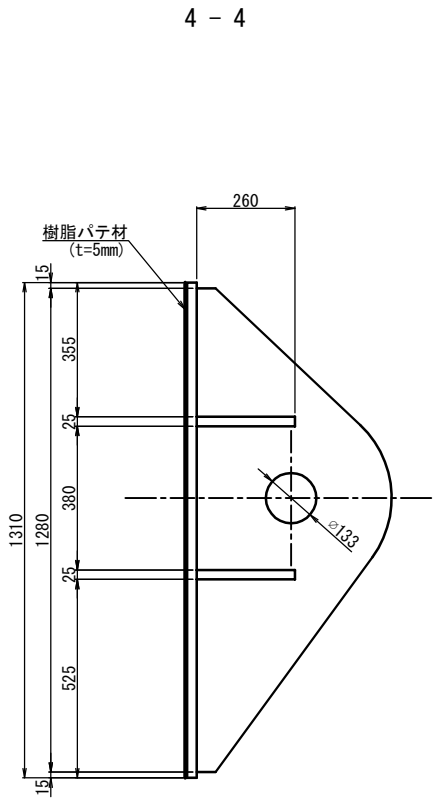
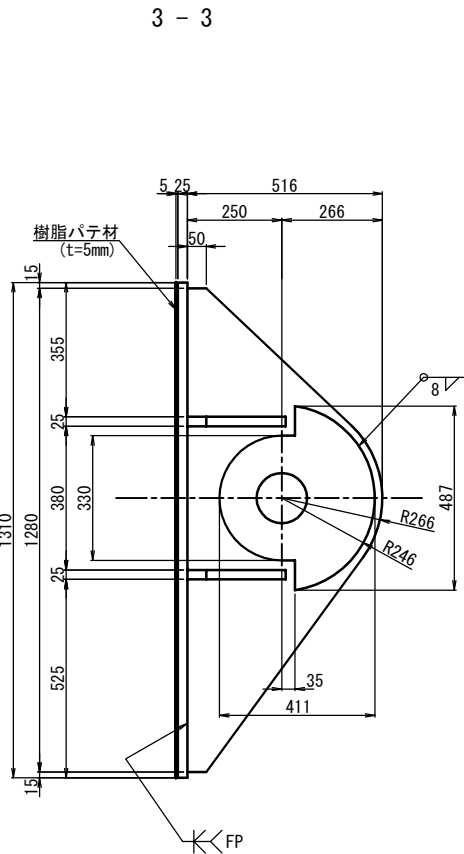
下部エブラケット詳細図

G1R

FW アンカーボルト詳細図 S=1:10



※アンカーボルトはネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。



ブラケット1基当り (製作数: 1基)

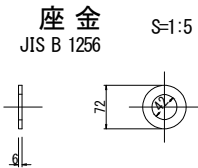
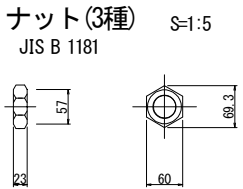
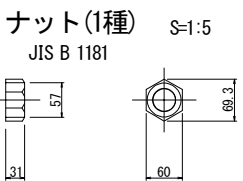
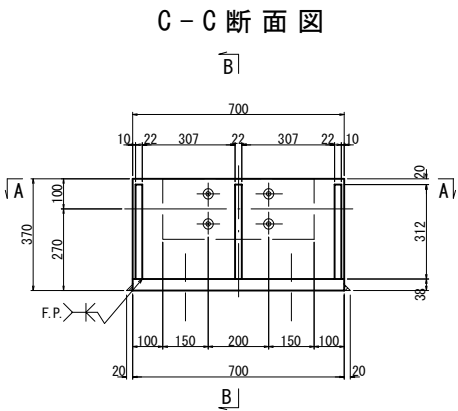
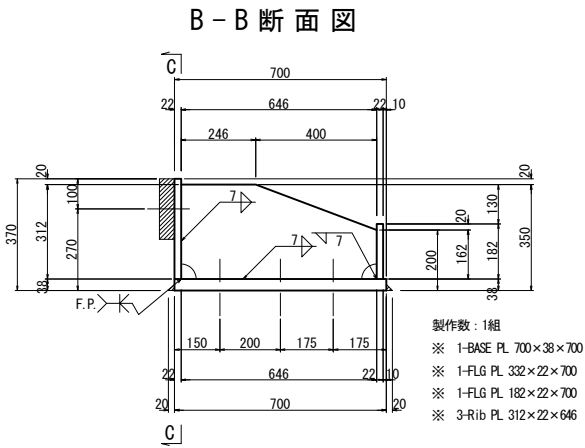
- 2-PL 411x25x487
- 2-PL 516x25x1280
- 4-PL 260x25x156
- 2-PL 260x25x348
- 1-PL 740x25x1310
- 12-FWAnchBolt FWA4148 D41x915 (SD345)
- 12-1種 Nut M48用 (SS400)
- 12-3種 Nut M48用 (SS400)
- 12-Washer M48用 (SS400)

- 注記)
- 特記なき材質は全てSM490Aとする。
 - 特記なきスカーラップは全て50Rとする。
 - 部材は、全て溶融亜鉛めっき仕上りとする。
付着量は、JIS H 8641 HDZT77とする。
但し、ボルト・ナット類はHDZT49とする。
 - ブラケットは、現場実測確認のうえ、製作をおこなうこと。
 - 「FP」の表記がある箇所は
完全溶け込み溶接を用いること。
 - 鋼製部材とコンクリートの接触面は、
チッピングによる表面処理を行うこと。

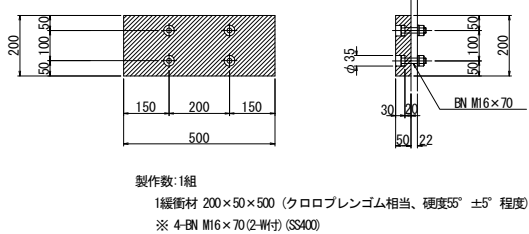
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終)		
	落橋防止構造P3構造図(その3)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図 (その1)

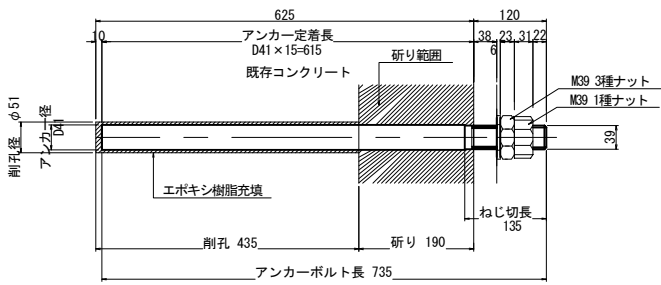
下部エブラケット詳細図 S=1:10



緩衝材詳細図 S=1:10

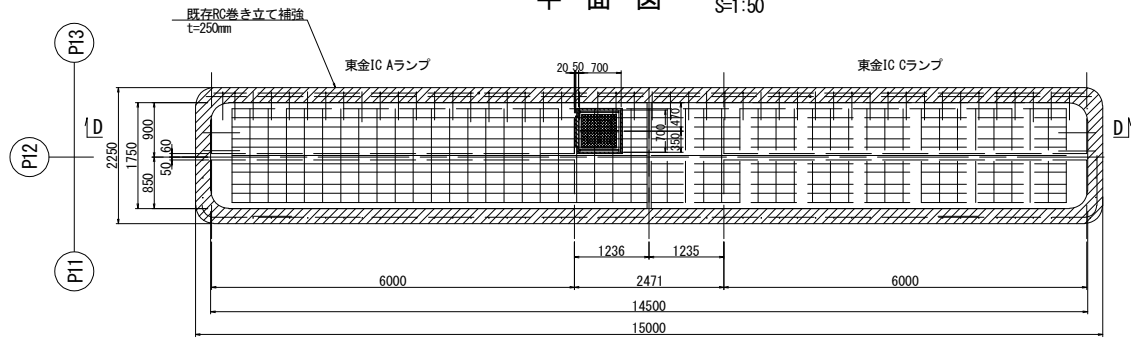


アンカーボルト詳細図(既設部) S=1:5

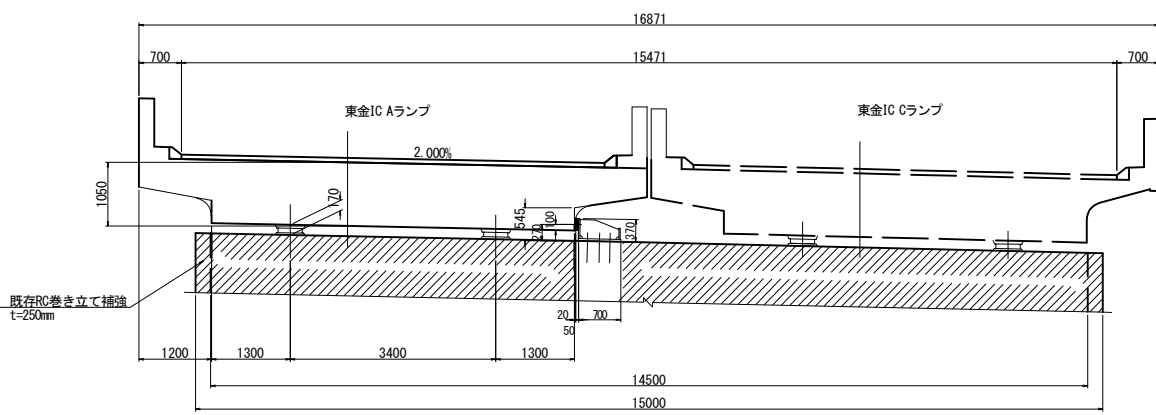


- 注記
1. 既存鉄筋コンクリートは取壊す。
 2. 既存鉄筋は残す。
 3. アンカーボルト設置後、コンクリート(σ_{ck}≧30N/mm²)を打設する。
 4. アンカーボルトはネジ切部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。
- 1基あたり(製作数: 1組)
※ 6-Anc. BN D41×735 (SD345) (M39用 6-1種Nut, 6-3種Nut, 6-座金付) (SS400)

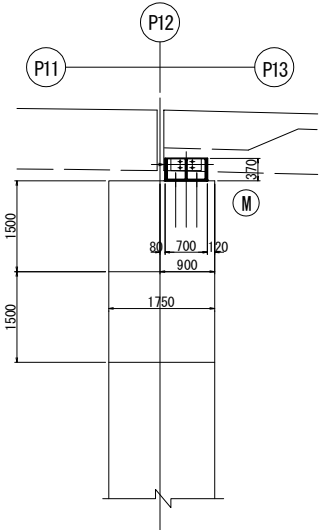
平面図 S=1:50



D-D断面図 S=1:50



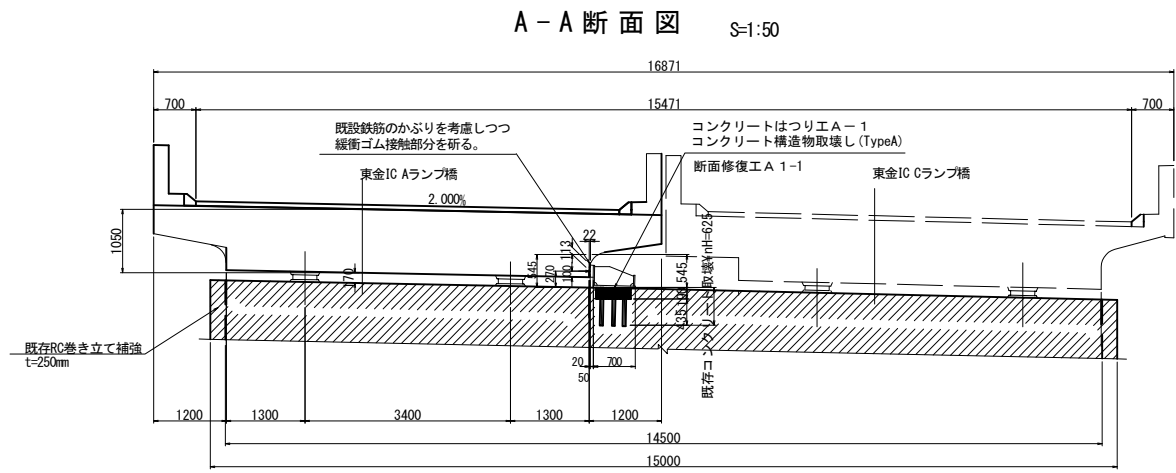
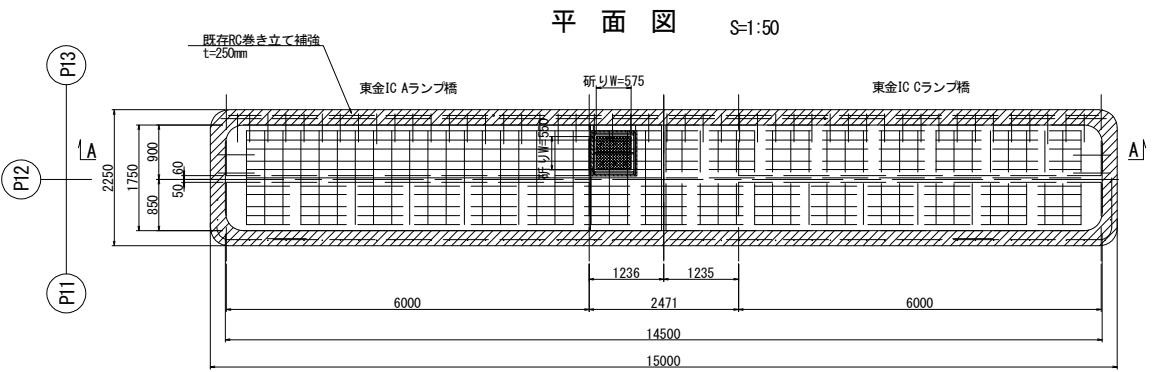
側面図 S=1:50



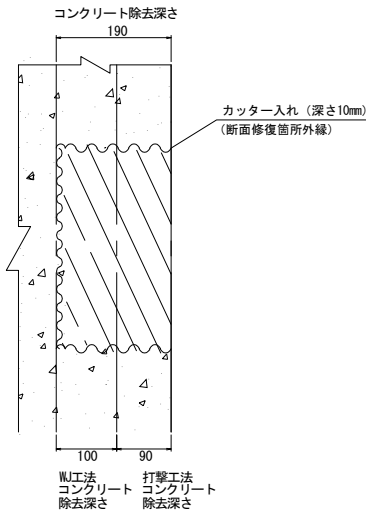
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと
 2. 特記なき鋼材の材質はすべてSM490とする。
 3. 特記なきスカーラップはR50とする。
 4. アンカーボルト設置時に既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 5. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移設する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 6. ※印刷材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上とする。ただし、ボルト・ナット類はHIZI4とする。
 7. 「F.P.」の表記がある箇所は、完全溶け込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金Aランプ橋 P12橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図 (その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

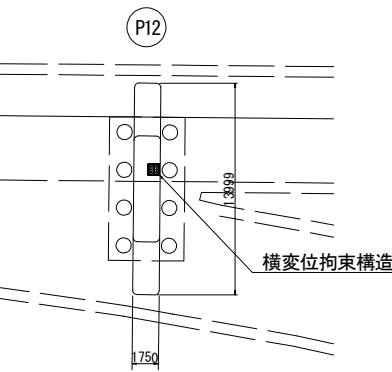
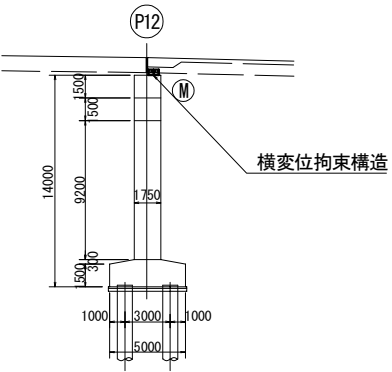
東金IC Aランプ橋 P12橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図 (その2)



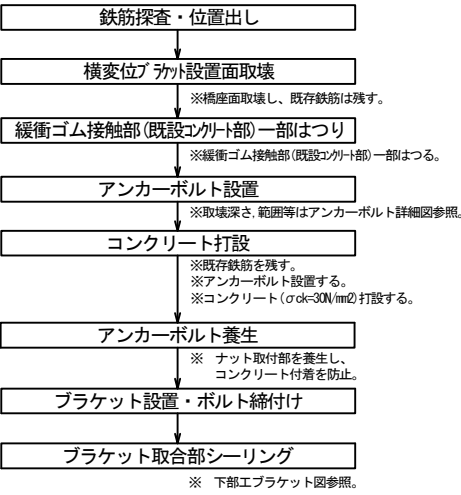
断面修復工 詳細図



配置図



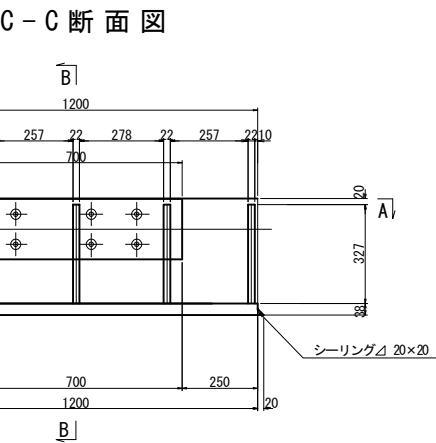
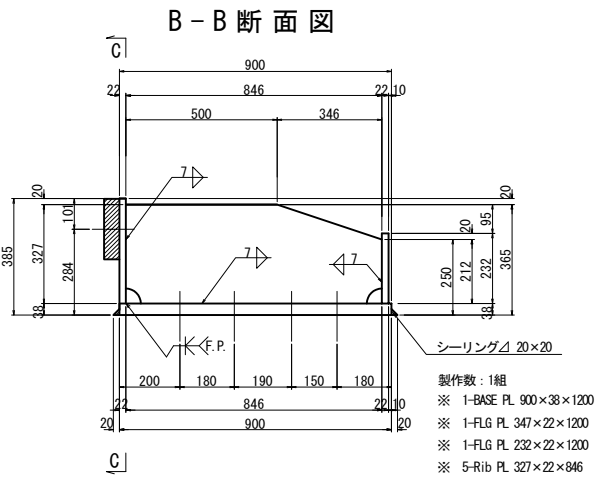
施工フロー図



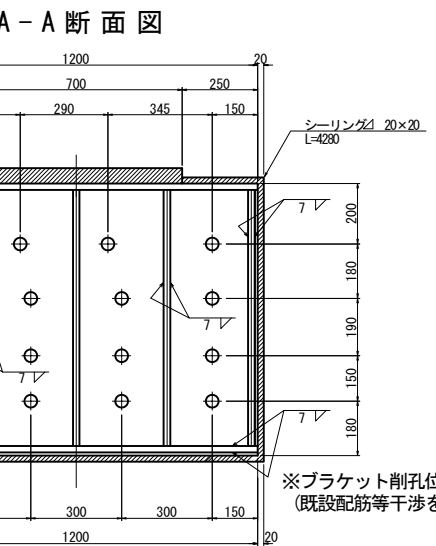
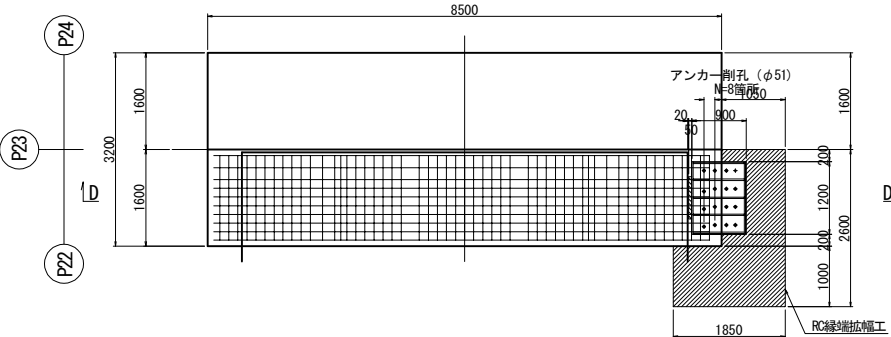
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと
 2. アンカーボルト設置時に既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 3. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移設する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金Aランプ橋 P12橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

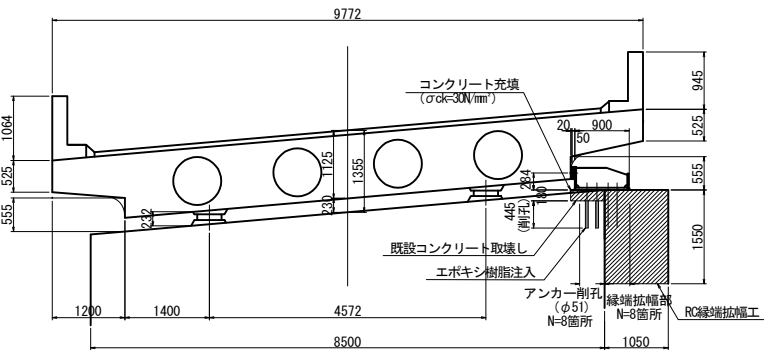
下部エブラケット詳細図 S=1:10



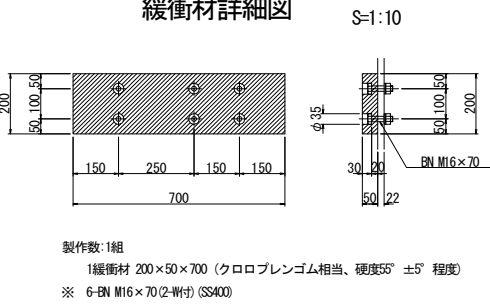
平面図 S=1:50



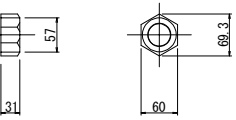
D-D断面図 S=1:50



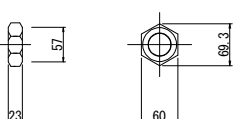
緩衝材詳細図



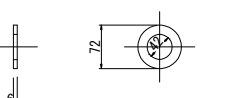
ナット(1種) S=1:5



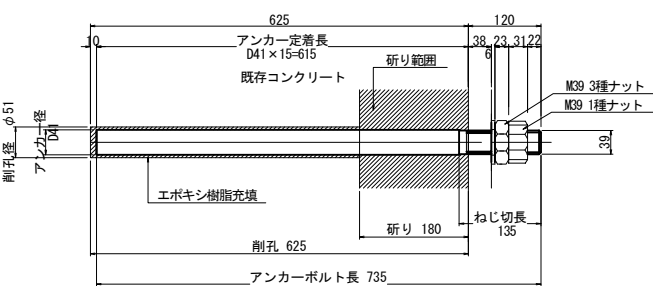
ナット(3種) S=1:5



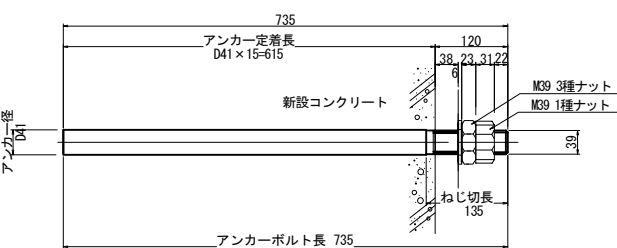
座金 S=1:5



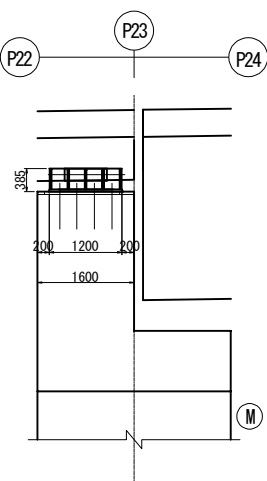
アンカーボルト詳細図(既設部) S=1:5



アンカーボルト詳細図(縁端拡幅部) S=1:5

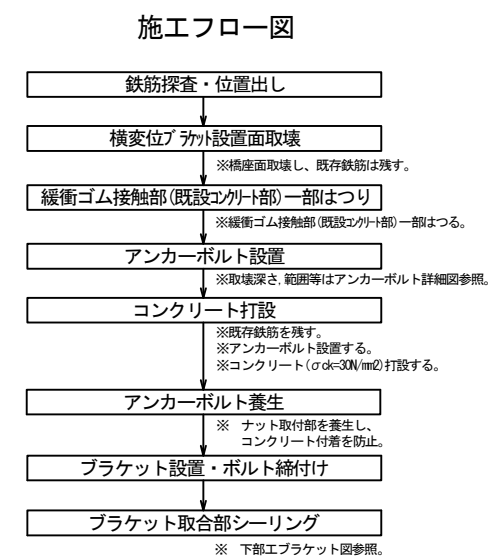
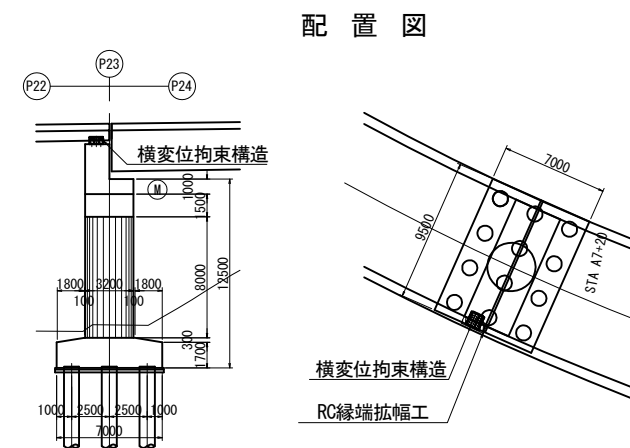
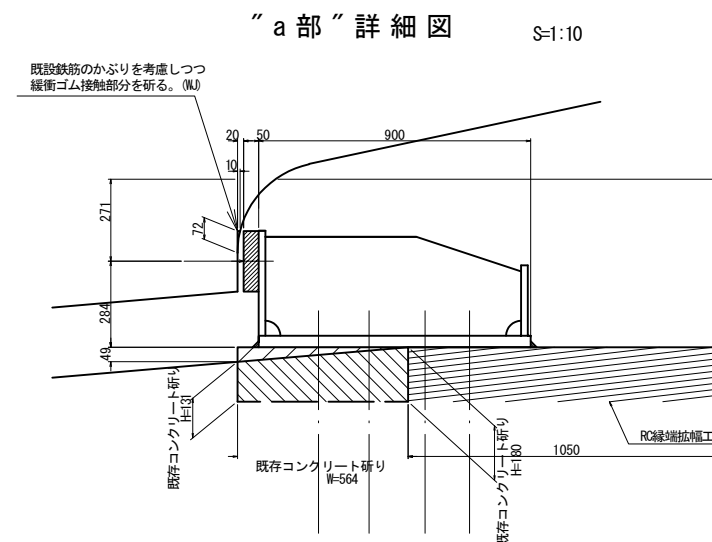
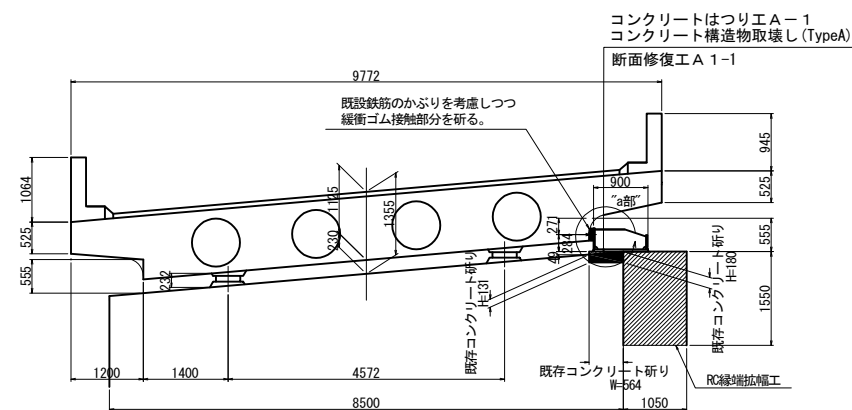
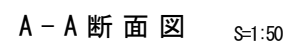
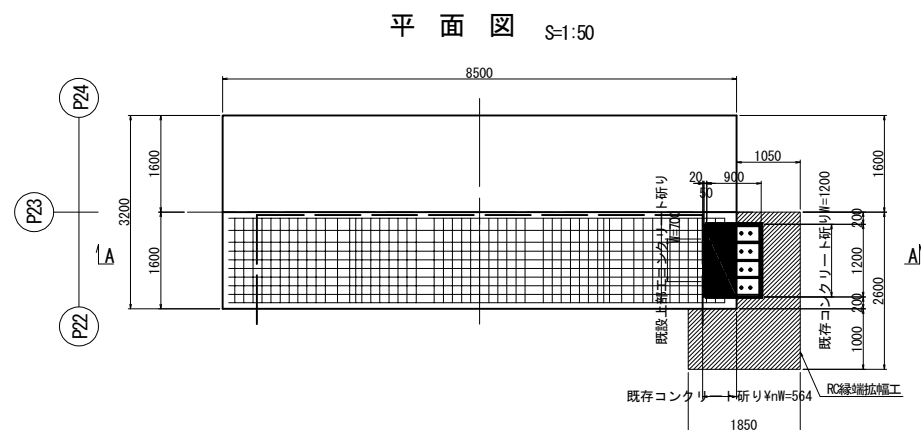


側面図 S=1:50



- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと。
 2. 特記なき鋼材の材質はすべてSM490Yとする。
 3. 特記なきスカーラップはR50とする。
 4. アンカーボルト設置時に既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 5. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移設する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 6. ※印部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上とする。付着量は、JIS H2777とする。ただし、ボルト・ナット類はH2749とする。
 7. RC縁端拡幅工部については別途図面(東金Aランプ橋 縁端拡幅工図)にて示す。
 8. 「F.P.」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いること。
 9. アンカーボルト後に新りを行う計画とする。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金Aランプ橋 P23橋脚(起) 横変位拘束構造M詳細図 (その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		



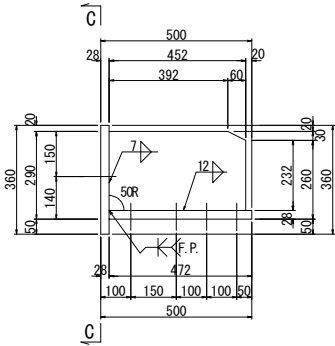
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと
 2. アンカーボルトを削削する際に鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 3. 鉄筋干渉率によりアンカーボルトを移送する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 4. R線路拡幅工部については別途図面（東金Aランプ橋 緑線拡幅工図）にて示す。

	首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	東金ランプ橋 P23橋脚(起) 橋架立拘束構造詳細図 (図②)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 P23橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図(その1)

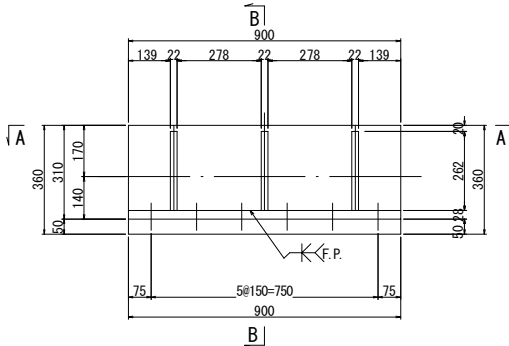
上部エブラケット 詳細図 S=1:10

B-B断面図

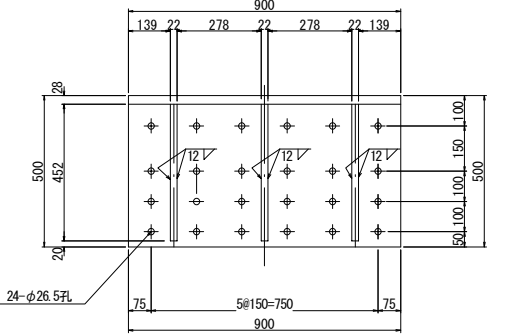


製作数：1組
1-BASE PL 472×28×900
1-FLG PL 360×28×900
3-Rib PL 262×22×452
36-TCB M22×90 (S10T)

C-C断面図

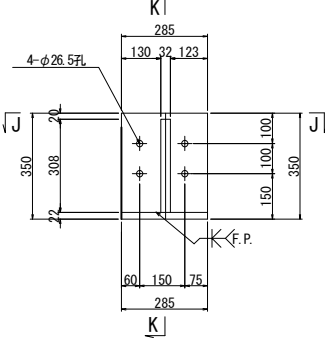


A-A断面図

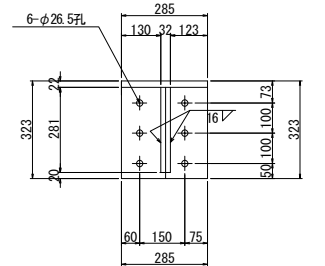


補剛材"b-2" 詳細図 S=1:10

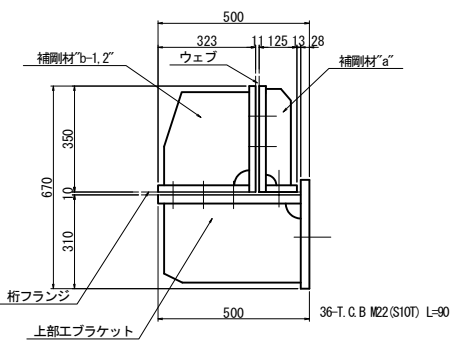
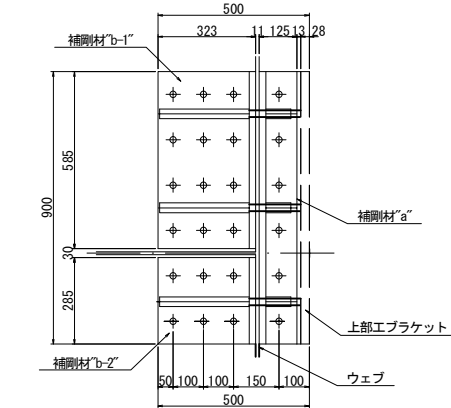
L-L断面図



J-J断面図

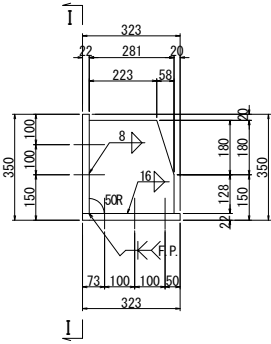


組立図



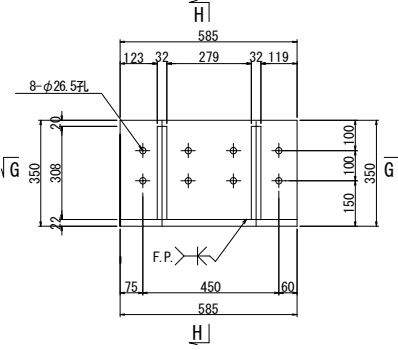
補剛材"b-1" 詳細図 S=1:10

H-H断面図

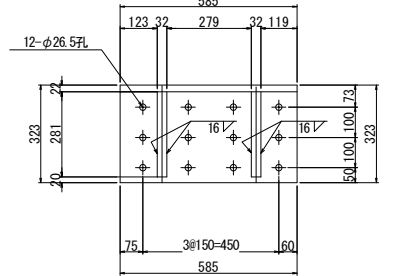


製作数：1組
1-BASE PL 323×22×585
1-FLG PL 328×22×585
2-Rib PL 308×32×281

I-I断面図

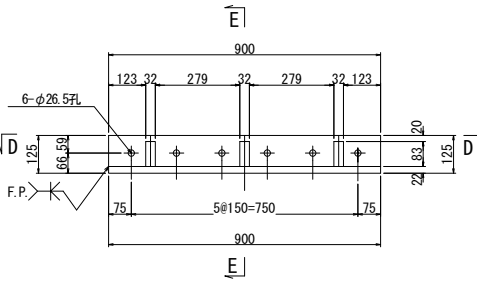


G-G断面図

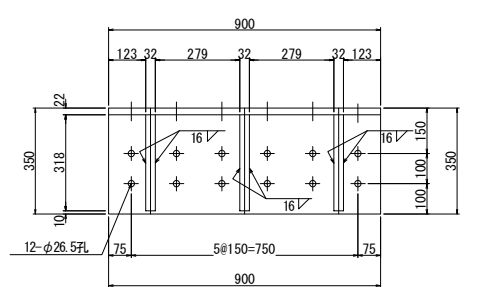


補剛材"a" 詳細図 S=1:10

F-F断面図

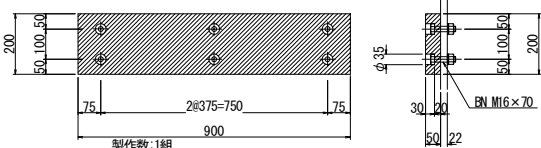


D-D断面図



緩衝材詳細図

S=1:10

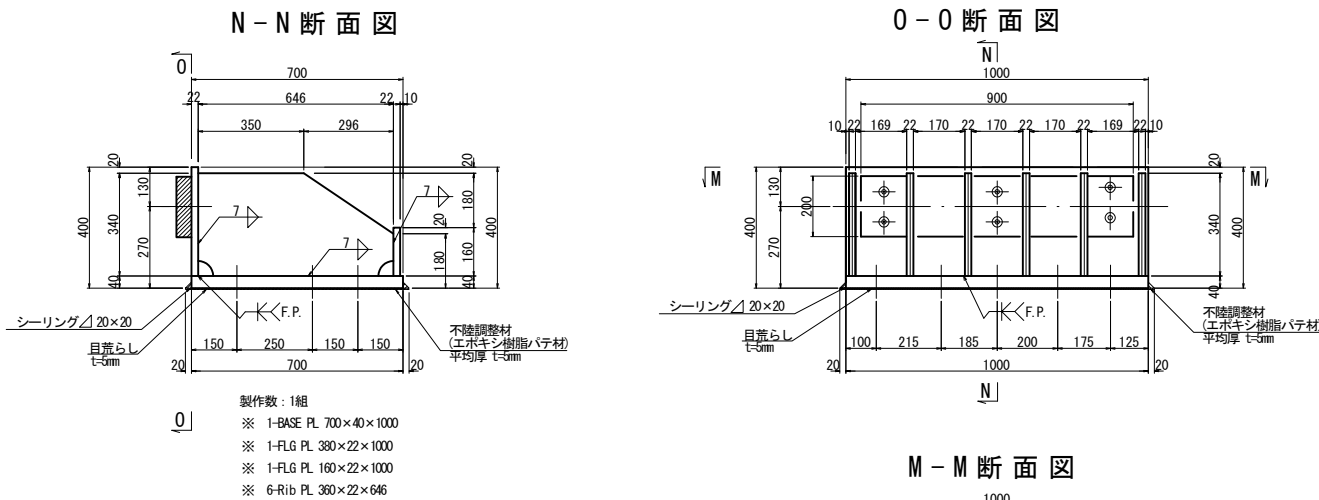


製作数：1組
1-緩衝材 200×50×900
(クロロブレンゴム相当、硬度55° ±5° 程度)
※ 6-BN M16×70 (2-W付) (SS400)

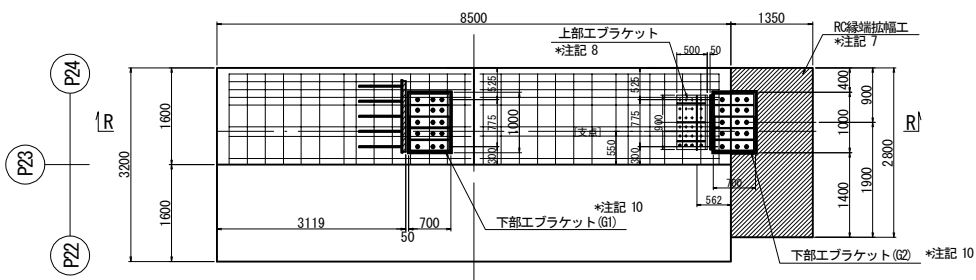
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと。
 2. 鋼材の材質は上部エブラケット・補剛材:SM400、下部エブラケット:SM490Yとする。
 3. 特記なきスカーラップはR50とする。
 4. アンカーボルトを削孔する際に鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 5. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移設する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 6. ※印部材は、全て溶融垂鉛メッキ仕上とする。付着量は、JIS H2777とする。ただし、ボルト・ナット類はH2740とする。
 7. 上部工側の塗装数量は上部工と同等以上の塗装を別途計上する。
 8. TCB取付用の孔明けは、既設φ24.5、新設φ26.5とする。
 9. 「F.P.」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金Aランプ橋 P23橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

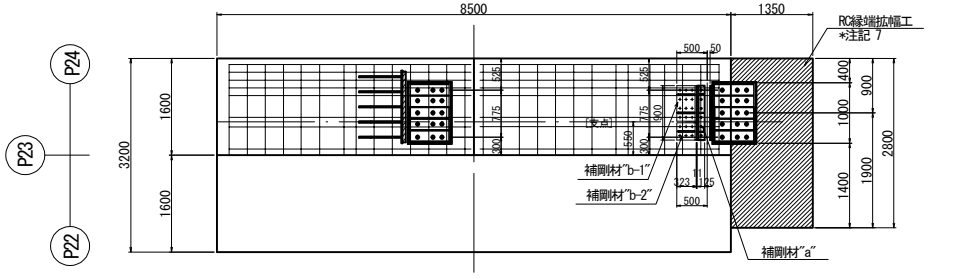
下部エブラケット詳細図 S=1:10



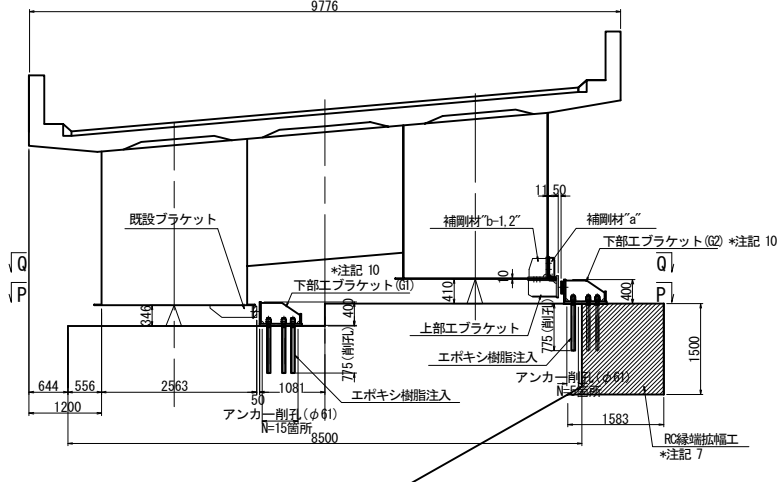
P-P平面図 S=1:50



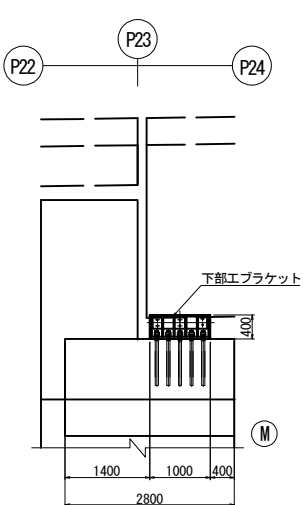
Q-Q平面図



R-R断面図 S=1:50

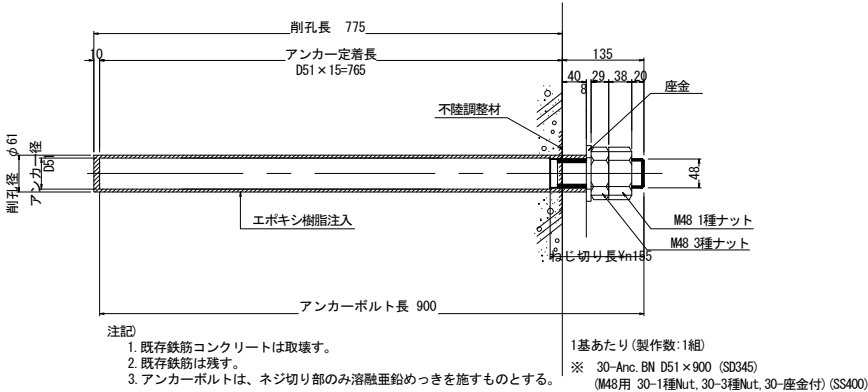


側面図 S=1:50



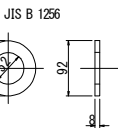
アンカーボルト詳細図 S=1:5

※縁端拡幅部は部材のみ

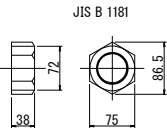


- 注記
1. 既存鉄筋コンクリートは取壊す。
 2. 既存鉄筋は残す。
 3. アンカーボルトは、ネジ切り部のみ溶融亜鉛めっきを施すものとする。
- 1基あたり(製作数:1組)
※ 30-Anc. BN D51×900 (SD345)
(M48用 30-1種Nut, 30-3種Nut, 30-座金付) (SS400)

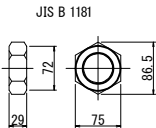
座金 S=1:5



ナット(1種) S=1:5

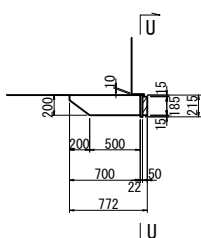


ナット(3種) S=1:5

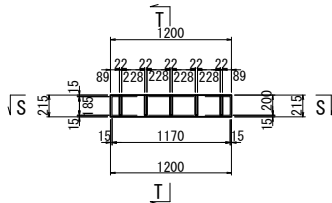


既設上部エブラケット詳細図 S=1:30

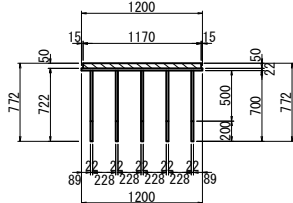
T-T断面図



U-U断面図



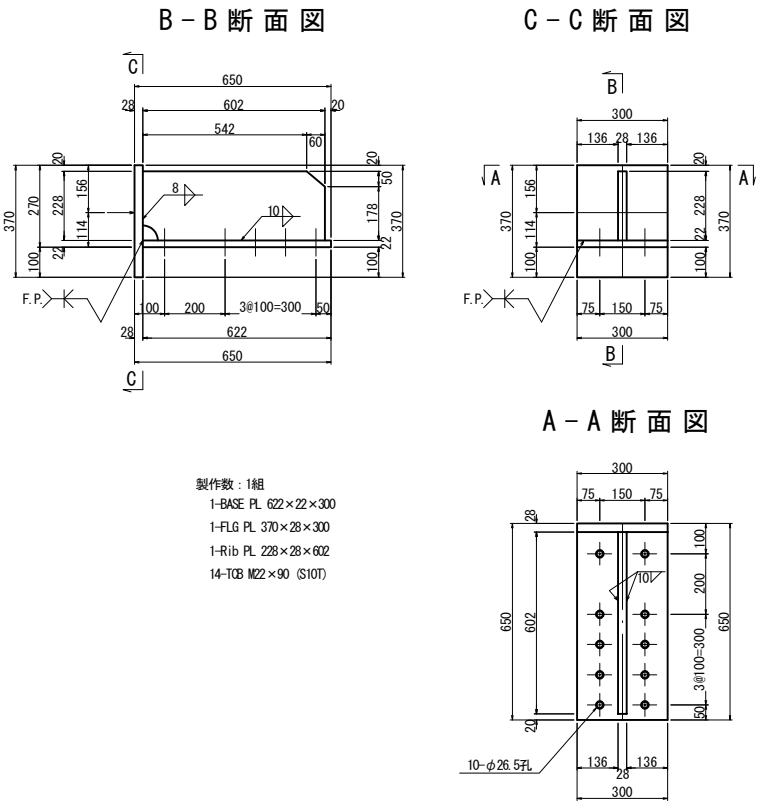
S-S断面図



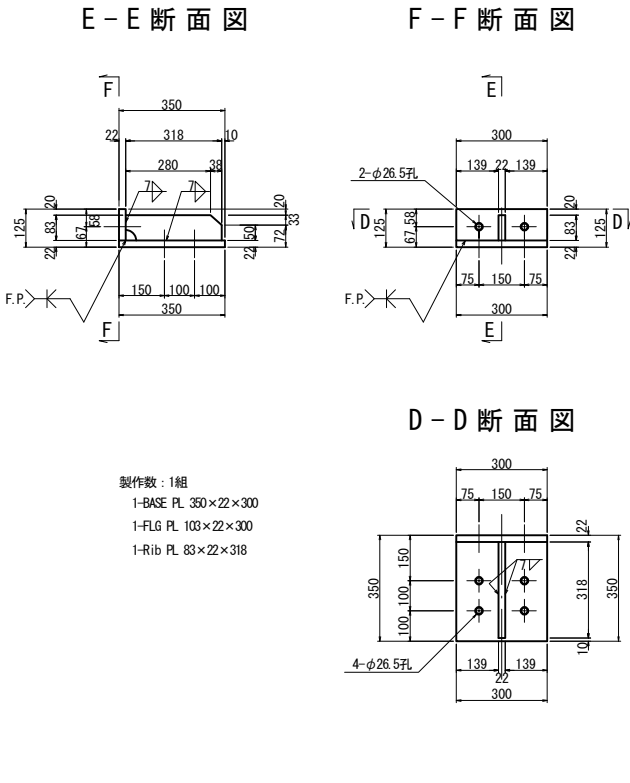
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと。
 2. 鋼材の材質は上部エブラケット・補剛材:SM400、下部エブラケット:SM490Yとする。
 3. 特記なきスカーラップはR50とする。
 4. アンカーボルトを削孔する際に鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 5. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移動する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 6. ※印刷部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。付着量は、JIS HXZ177とする。ただし、ボルト・ナット類はHXZ140とする。
 7. RC縁端拡幅工部については別途図面(東金Aランプ橋 縁端拡幅工図)にて示す。
 8. ブラケット間の間隔は現地計測を行い、既設の間隔に合わせて示す。(竣工図面読み取り値:131mm)
 9. 「F.P.」の表記がある箇所は完全溶け込み溶接を用いること。
 10. 「下部エブラケット」はG1、G2で同様のブラケットを用いる。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	東金Aランプ橋 P23橋脚(終) 横変位拘束構造M詳細図(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所			

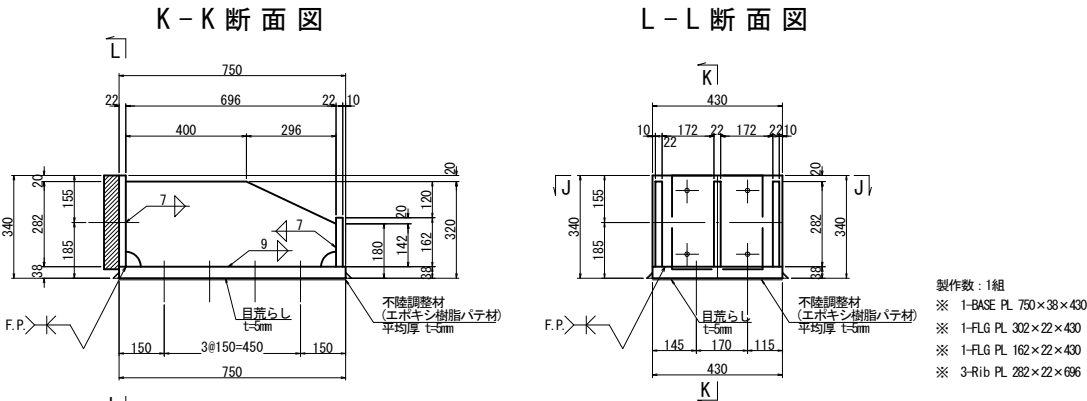
上部エブラケット 詳細図 S=1:10



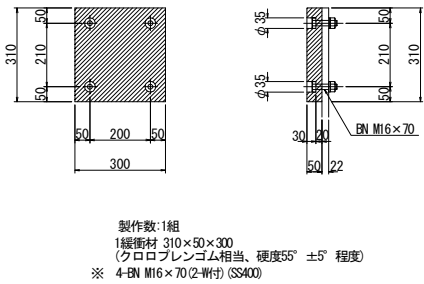
補剛材"a" 詳細図 S=1:10



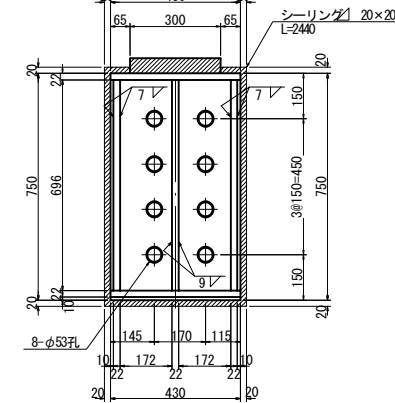
下部エブラケットG1詳細図 S=1:10



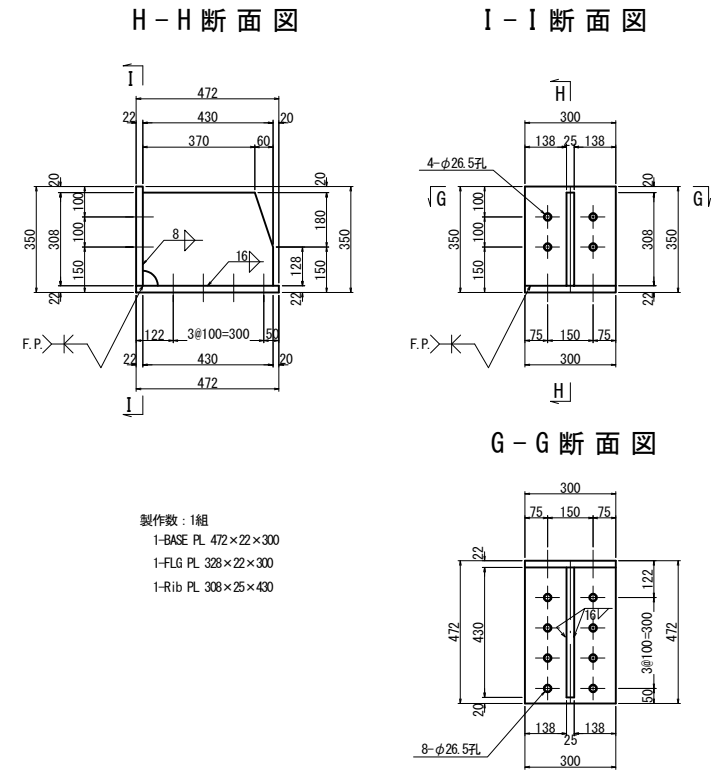
緩衝材詳細図 S=1:10



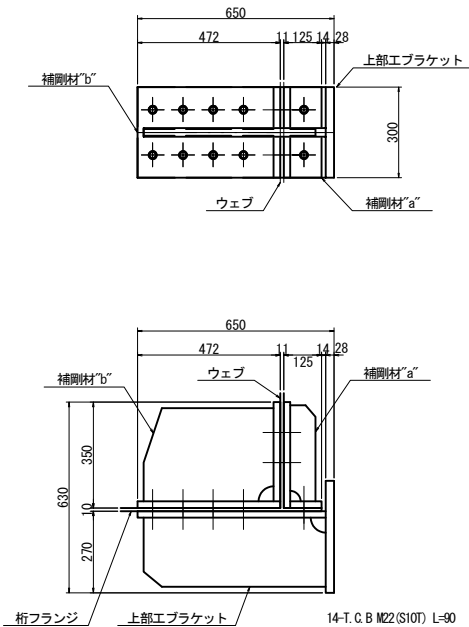
J-J断面図



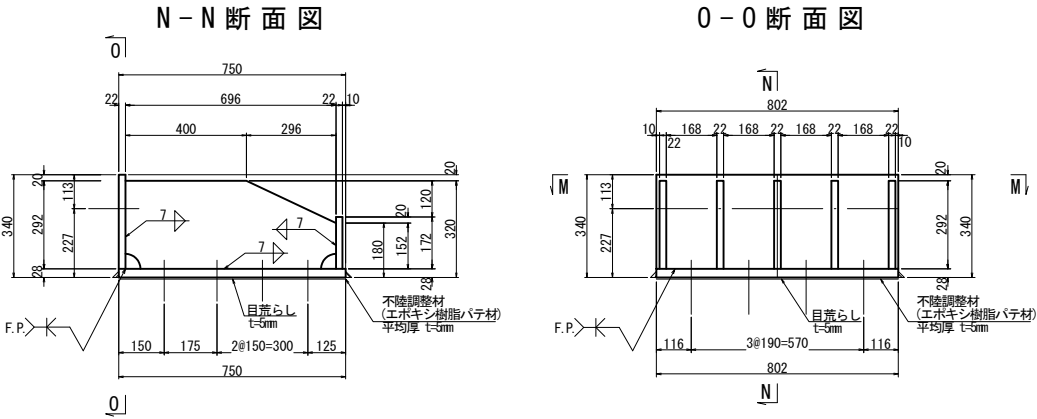
補剛材"b" 詳細図 S=1:10



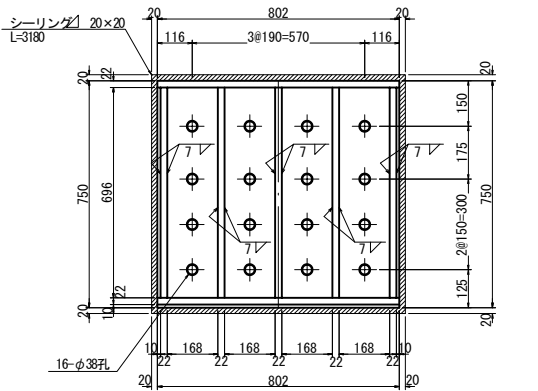
組立図 S=1:10



下部エブラケットG2詳細図 S=1:10



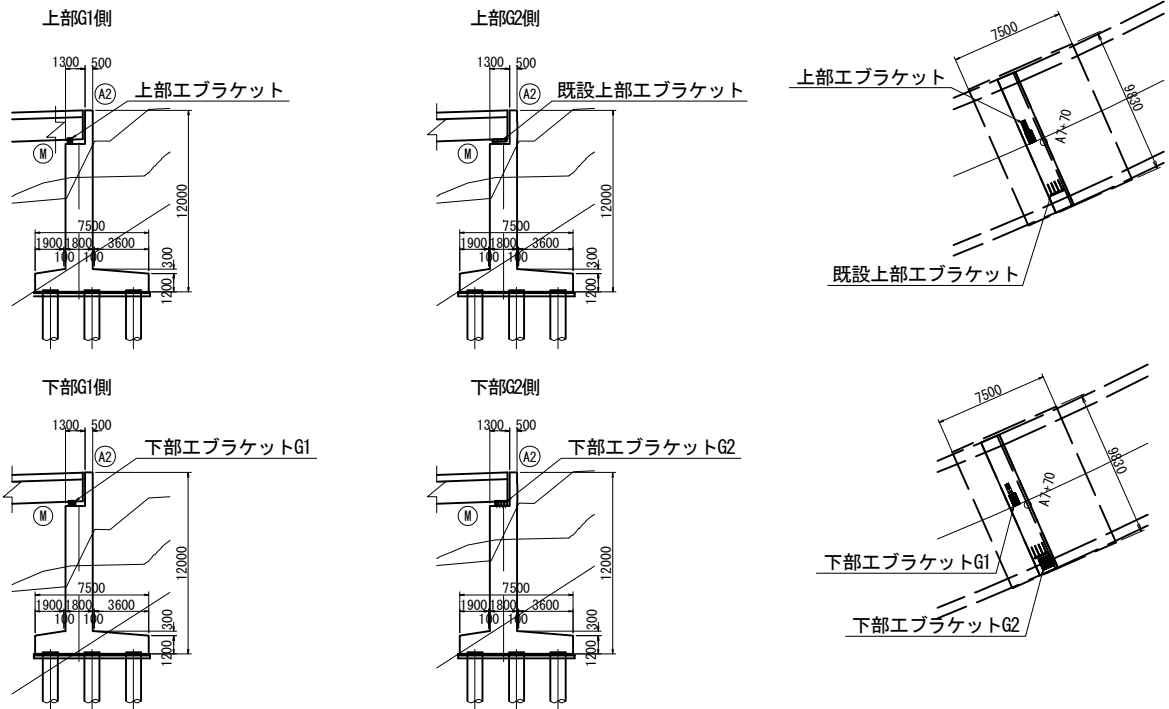
M-M断面図



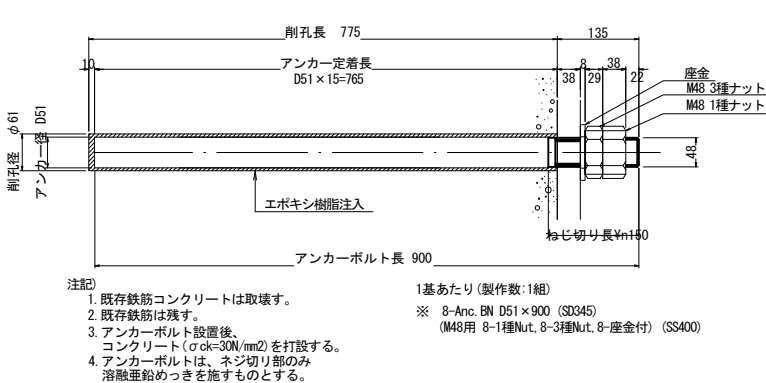
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと。
 2. 鋼材の材質は上・下部エブラケット：SM40Y、補剛材：SM40Yとする。
 3. 特記なきスカーラップはR50とする。
 4. アンカーボルトを削孔する際に鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 5. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移動する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 6. ※印部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。
 7. 付着量は、JIS H4277とする。
 8. 部材・ナット類はDZT40とする。
 9. プラケット間の間隔は現地計測を行い、既設の間隔に合わせる。
 10. (竣工図面読み取り値：100mm)
 11. 上部工側の塗装数量は上部工と同等以上の塗装を別途計上する。
 12. TCB取付用の孔明けは、既設部φ24.5、新設部φ26.5とする。
 13. 「F.P.」の表記がある箇所は、完全溶け込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC A2橋台 横変位拘束構造M詳細図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

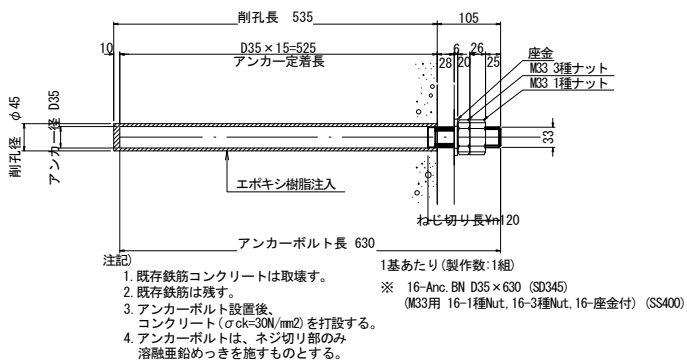
配置図 S=1:200



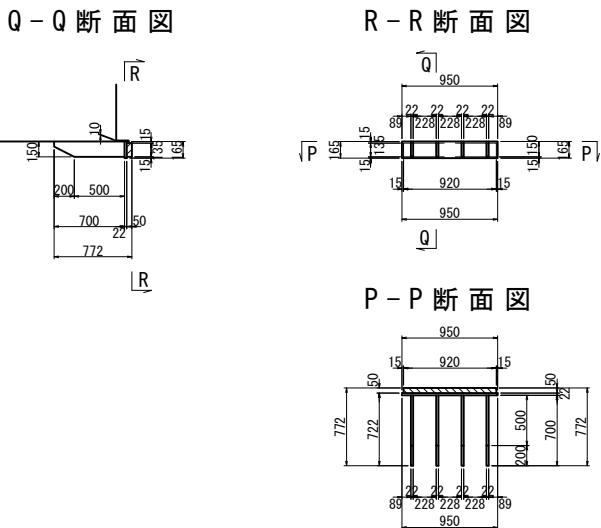
アンカーボルト詳細図 (D51) S=1:5



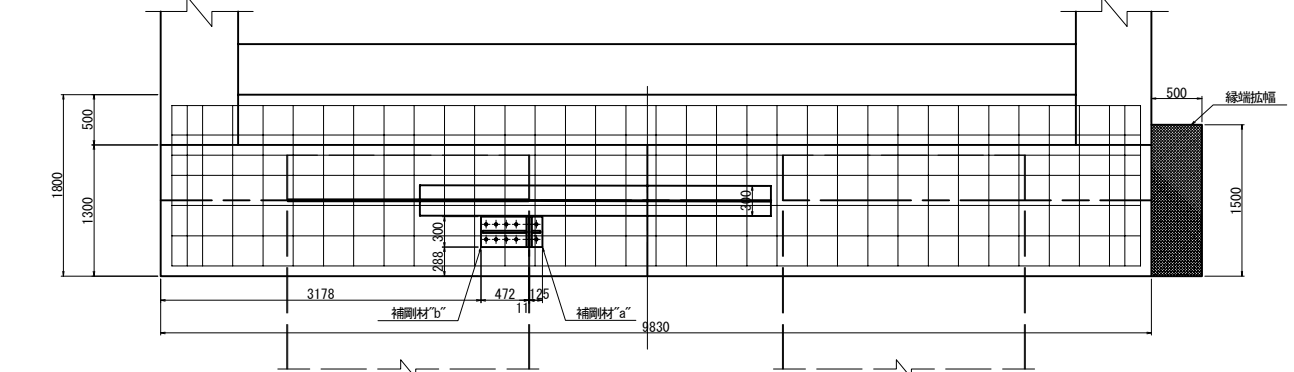
アンカーボルト詳細図 (D35) S=1:5



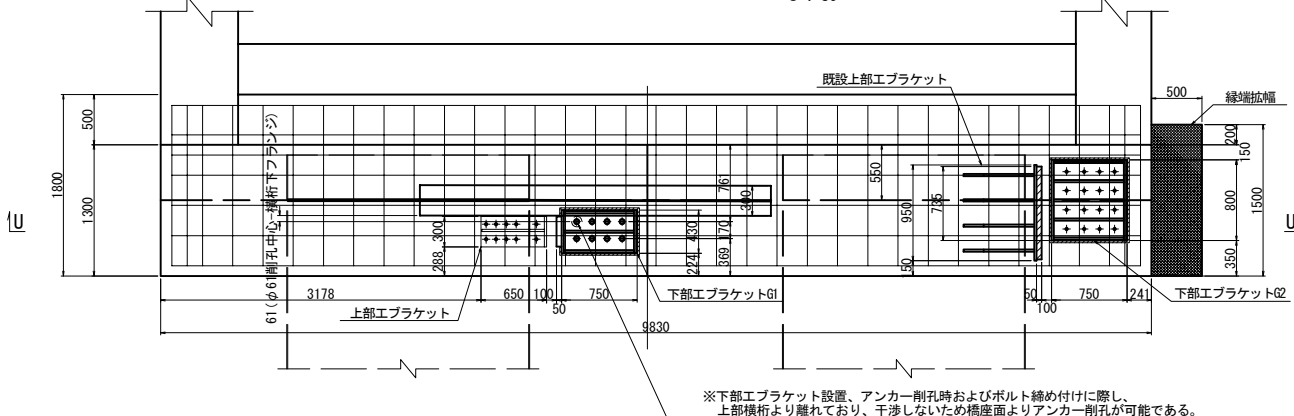
既設上部エブラケット詳細図 S=1:30



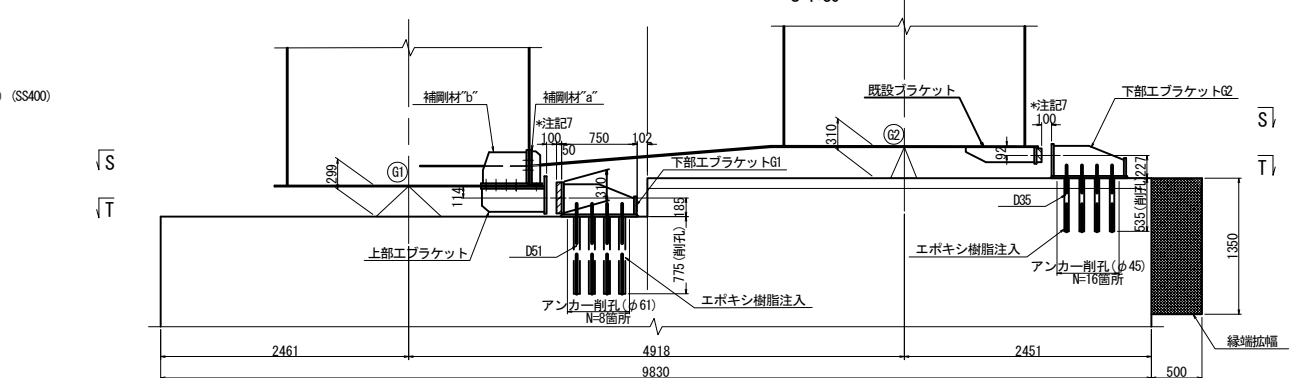
S-S平面図 S=1:30



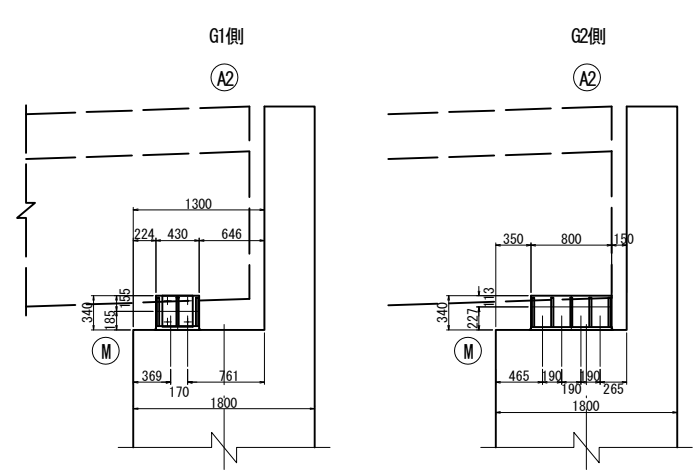
T-T平面図 S=1:30



U-U断面図 S=1:30



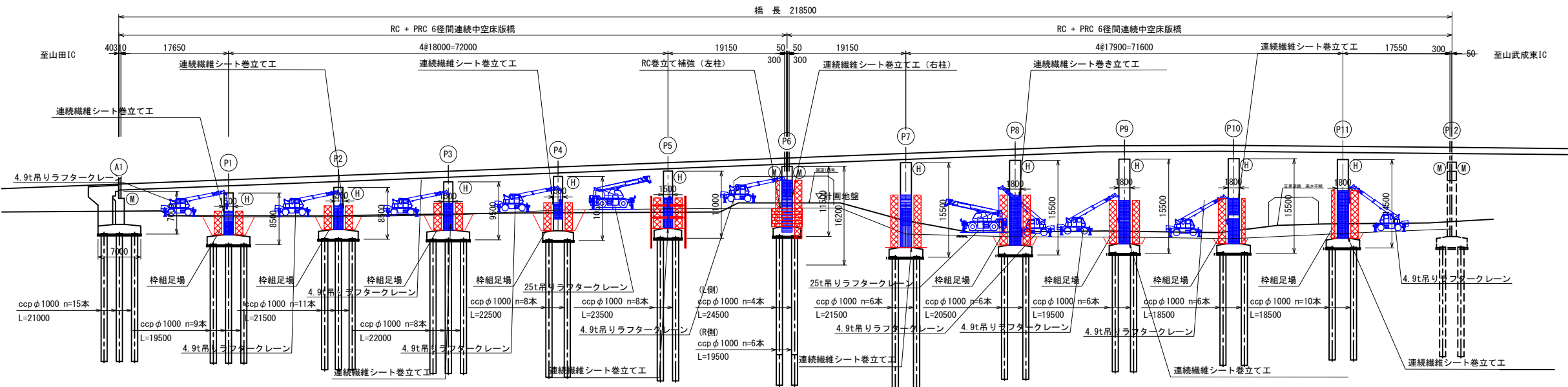
側面図 S=1:30



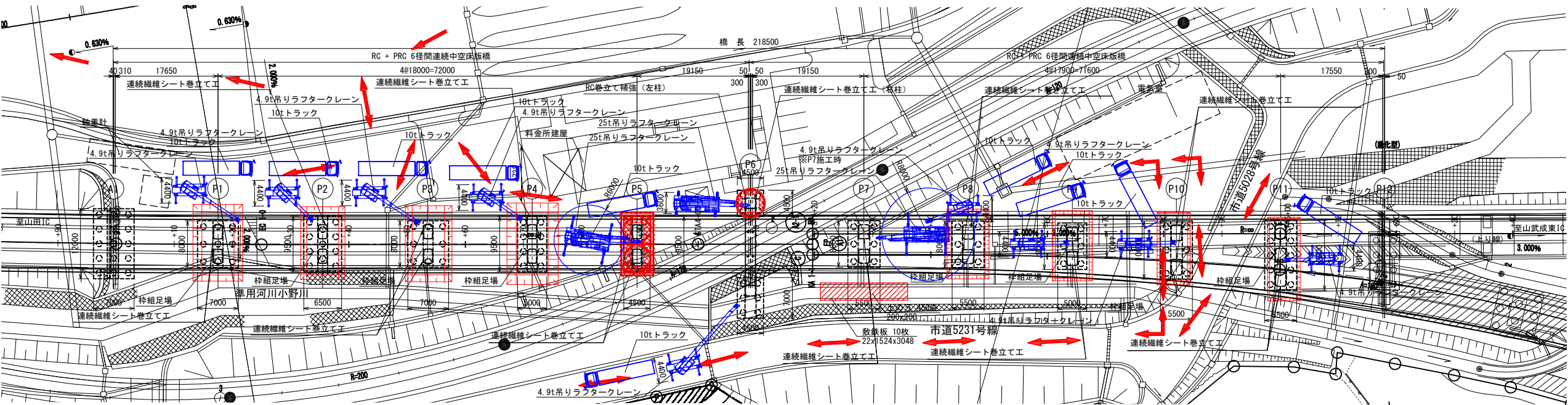
- 注記
1. 施工に当たっては現地計測を行い、寸法の確認を行うこと。
 2. 鋼材の材質は上・下部エブラケット:SM40Y、補剛材:SM40とする。
 3. 特記なきスカーラップは50とする。
 4. アンカーボルトを削孔する際に鉄筋探索を行い、既設部の鉄筋に干渉しないように注意すること。
 5. 鉄筋干渉等によりアンカーボルトを移設する場合は、アンカーボルトの設計照査を行うこと。
 6. ※印部材は、全て溶融亜鉛メッキ仕上げとする。ただし、ボルト・ナット類はHDZT4とする。
 7. ブラケット間の間隔は現地計測を行い、既設の間隔に合わせる。ただし、(竣工図面読み取り値:100mm)
 8. TC8取付用の孔明けは、既設部φ24.5、新設部φ26.5とする。
 9. 「F.P.」の表記がある箇所は、完全溶け込み溶接を用いること。

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	東金Aランプ A2橋台 横変位拘束部詳細図(その2)			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所			

側面図 S=1:800



平面図 S=1:800



- P1橋脚～P4橋脚、P8橋脚～P11橋脚
- ①下部補強施工 :炭素繊維巻立て
 - ②補強材設置方法:下から施工(杵組足場設置)、オープン掘削
 - ③搬入方法 :バックホウにて掘削を行い、杵組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
 - ④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。

- A1～P6進入路
国道126号線からP1～P6橋脚へ進入する

- P7～P10進入路
市道5231号線から電気施設へ進入し、P7～P10橋脚へ進入する

- P11進入路
市道5028号線からP11橋脚へ進入する

- P5橋脚、P7橋脚
- ①下部補強施工 :炭素繊維巻立て
 - ②補強材設置方法:下から施工(杵組足場設置)、土留め工(切梁式)
 - ③搬入方法 :先行して土留め工を設置しバックホウにて掘削を行い、杵組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
 - ④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。
※土留め工施工時は市道に通行規制を行い設置する計画としている
※P7橋脚については均等土圧に設定するため抑え盛土を設置する

- P6橋脚
- ①下部補強施工 :炭素繊維巻立て、RC巻立て
 - ②補強材設置方法:下から施工(杵組足場設置)、土留め工(ライナープレート)
 - ③搬入方法 :先行して土留め工を設置しバックホウにて掘削を行い、杵組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
 - ④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。
※平面下側の柱は水路に近接しており、足場工設置のため土のう敷き鉄板にて養生する

- P5、P7橋脚 圧入機設置・撤去時
- 【定格総荷重量表:25tラフタークレーン】
●主ブーム定格総荷重表(アウトリガー最大張出6.3m)
単位(t)

ブーム長さ(m)	9.5	16.5
作業半径		
6.0	16.3	14.40
8.0		10.55
10.0		6.90

- 吊り可能重量 : ①吊上げ能力 10.55t
②吊り具・フック(主巻) 0.22t
③補強材 7.0t(圧入機)

- ①～②
10.55-0.22
 $\Sigma=10.33t \times 0.9=9.297t$
7.0t<9.2t...ok

凡例

—	施工中
—	重機、補強
■	足場工

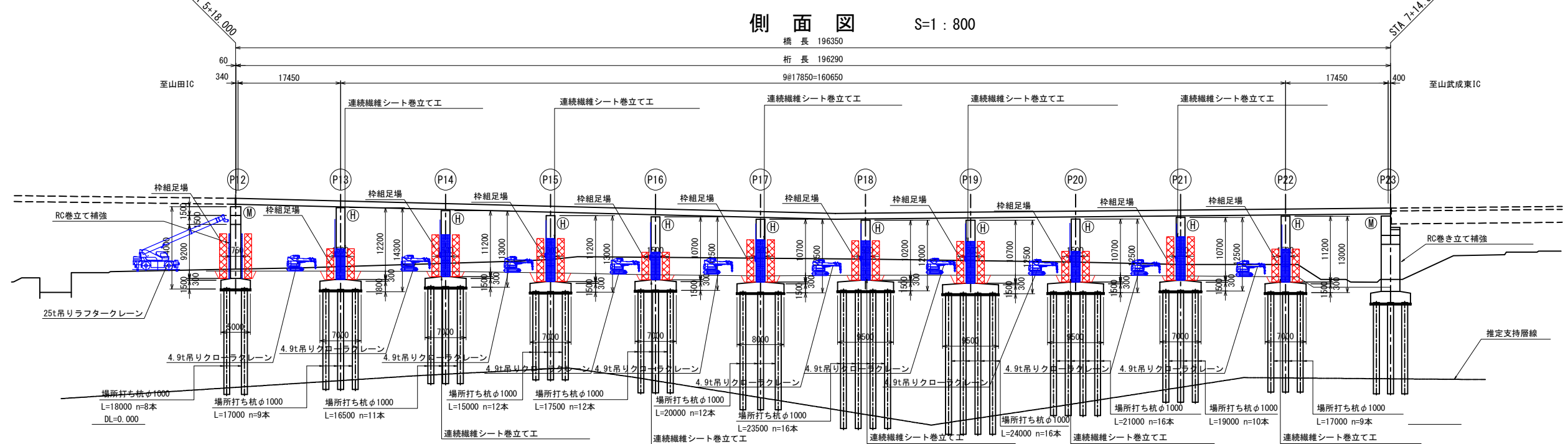
注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、地盤の状況、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 下部工施工要領図(その1)(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 下部工施工要領図(その2)(参考図)

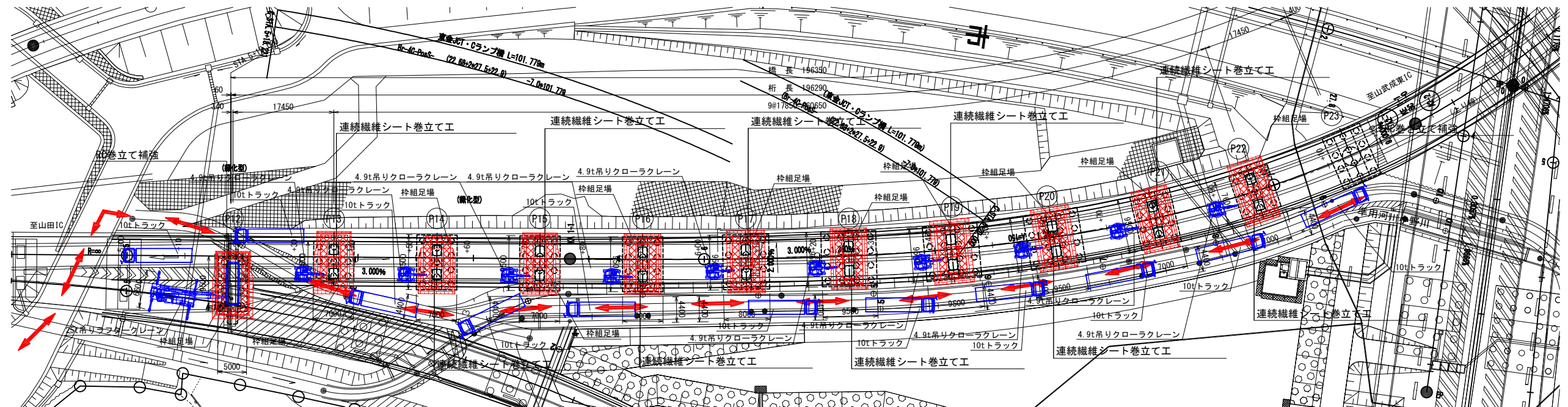
側 面 図

S=1 : 800



平面図

S=1 : 800



P12橋脚

- ① 下部補強施工 : RC巻立て
- ② 補強材設置方法 : 下から施工 (杵組足場設置)、オープン掘削 (余裕幅標準)
- ③ 搬入方法 : バックホウにて掘削を行い、杵組足場を設置し
クレーンにて補強材を搬入する。
- ④ 搬入～設置まで : 補強材を設置位置まで搬入し、設置する。

P13橋脚～P22橋脚

- ① 下部補強施工 : 炭素繊維巻立て
- ② 補強材設置方法 : 下から施工 (杵組足場設置)、オープン掘削 (余裕幅標準)
- ③ 搬入方法 : バックホウにて掘削を行い、杵組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
- ④ 搬入～設置まで : 補強材を設置位置まで搬入し、設置する。

■P12～P22進入路

市道から側道へ進入し、
P12～P22橋脚へ進入する

凡例

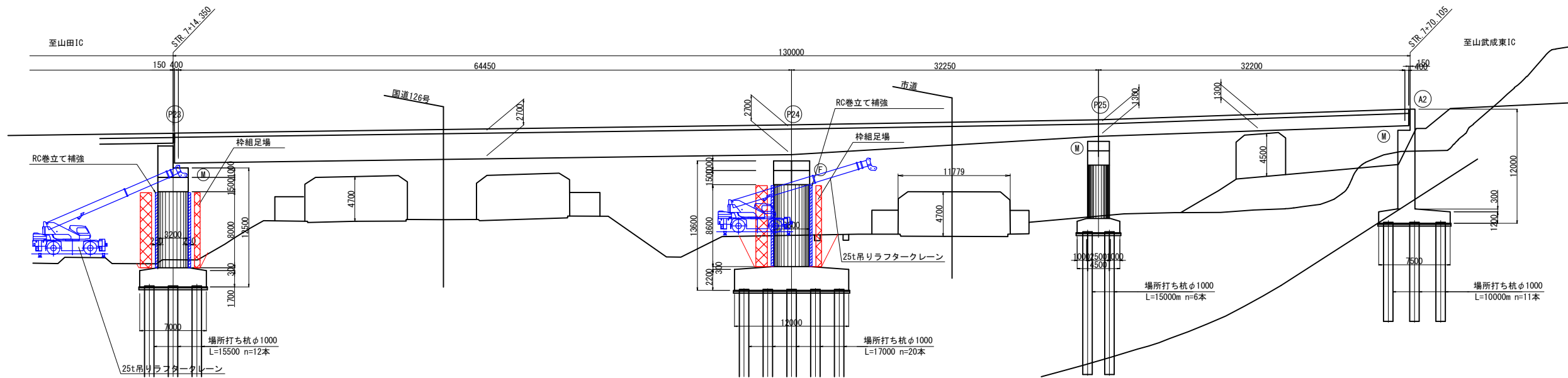
- 施工中
 重機, 補強
 足場工

注記

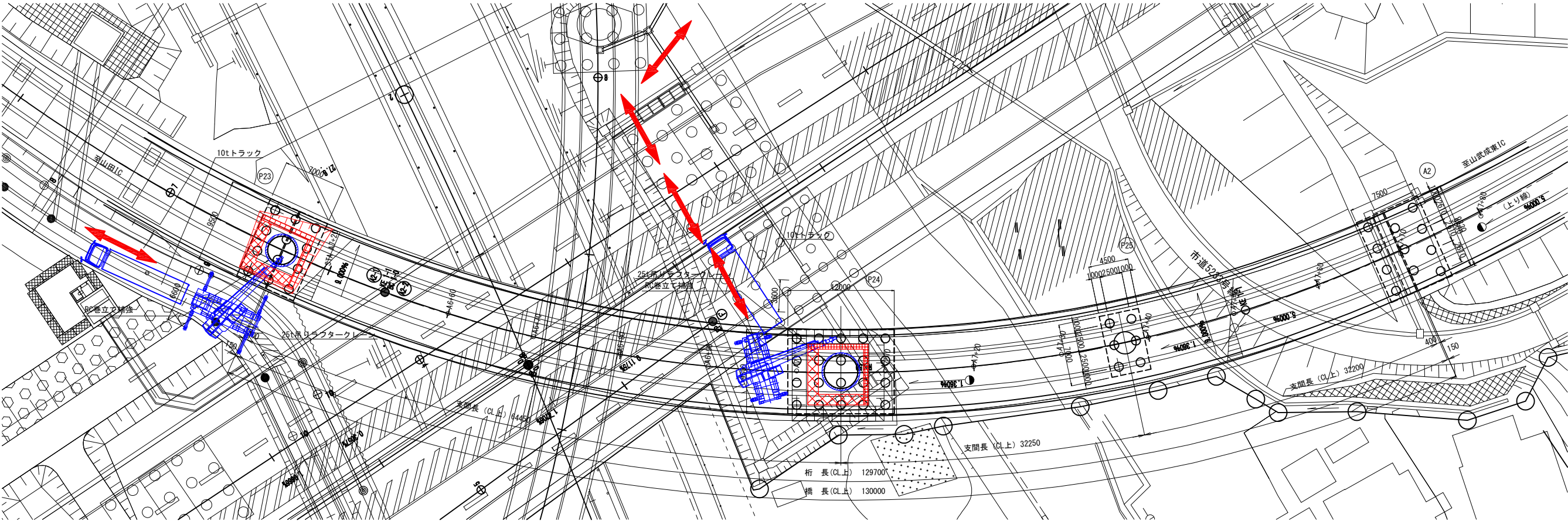
- 1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の変状、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		東金IC Aランプ橋 下部工施工要領図(その2)(参考図)	
縮	尺	図示	図面番号
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

断面図 S=1:500



平面図 S=1:500



P23橋脚
①下部補強施工 :RC巻立て
②補強材設置方法:下から施工(枠組足場設置)、オープン掘削
③搬入方法 :バックホウにて掘削を行い、枠組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。
※側道に重機を配置する必要があるため、施工時は通行止めとする

■P23進入路
市道から側道へ進入し、P23橋脚へ進入する

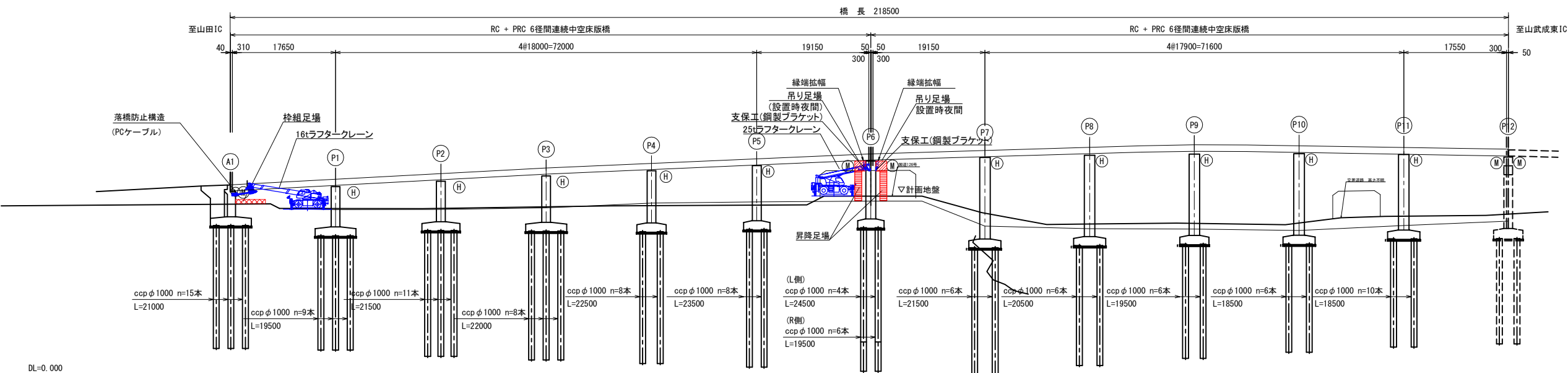
■P24～25進入路
市道0147から進入し、P24～25橋脚へ進入する

P24橋脚
①下部補強施工 :RC巻立て
②補強材設置方法:下から施工(枠組足場設置)、オープン掘削
③搬入方法 :バックホウにて掘削を行い、枠組足場を設置し、クレーンにて補強材を搬入する。
④搬入～設置まで:補強材を設置位置まで搬入し、設置する。
※水路、現道が近接しており、影響を抑えるため掘削余裕幅を縮小している
※掘削が既設水路に干渉するため、施工前に水路を切廻す必要がある⇒コルゲートにて養生

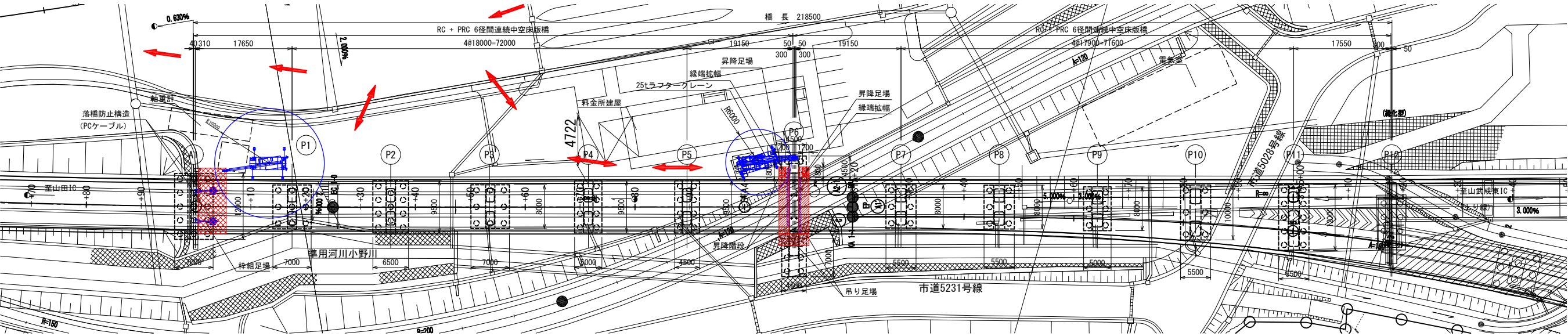
注記
1) 施工時に必要に応じ現地壁を確認し、地盤の状況、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 下部工施工要領図(その3)(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

側 面 図 S=1 : 800



平 面 図 S=1 : 800



【定格総荷重量表: 16tラフタークレーン】
●主ブーム定格総荷重量表(アウトリガー最大張出5.2m)
単位(t)

ブーム長さ (m)	14.9	19.1
作業半径		
7.0	6.50	5.80
8.0	4.95	5.25
10.0	3.25	3.50

吊り可能重量: ①吊上げ能力 3.50t
②吊り具・フック(主巻) 0.14t
③補強材 0.7t

①-②
3.5-0.14
Σ=3.36t×0.9=3.024t
0.7t<3.0t…ok

A1橋台

- ①上部補強施工: 落橋防止構造(PCケーブル)
- ②補強材設置方法: 下から施工(吊り足場設置)
- ③補強材最大重量: 0.7t
- ④吊り上げ重機: 4.9tクローラークレーン
- ⑤搬入～設置まで: 現道より重機配置位置に進出し車線規制を行い吊り足場を設置、その後、重機を配置しクレーンにて桁外の足場上に搬入横移動は軌上設備(レール)+チルホールにて横移動、その後、チェーンブロックにて上に吊り上げ補強材設置を行う

【定格総荷重量表: 25tラフタークレーン】
●主ブーム定格総荷重量表(アウトリガー中間張出3.6m)
単位(t)

ブーム長さ (m)	9.35	16.4
作業半径		
5.5	17.80	17.00
6.0	16.30	16.00
6.5	15.10	15.00

吊り可能重量: ①吊上げ能力 16.30t
②吊り具・フック(主巻) 0.22t

①-②
16.30-0.22
Σ=16.08t×0.9=14.472t
※資材搬入時は14.4t程度の吊り重量にて搬入させること

P6橋脚

- ①上部補強施工: 縁端拡幅
- ②補強材設置方法: 下から施工(吊り足場設置)
- ③吊り上げ重機: 25tラフタークレーン(アウトリガー幅3.6m)(中間張り出し)
- ④搬入～設置まで: 現道より進出し吊り足場を設置、その後、重機を配置しクレーンにて桁外の足場上に搬入横移動は軌上設備(レール)+チルホールにて横移動、その後、チェーンブロックにて上に吊り上げ補強材設置を行う

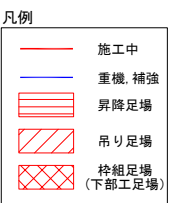
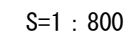
凡例

—	施工中
—	重機・補強
—	昇降足場
—	吊り足場
—	枠組足場(下部工足場)

注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、地盤の状況、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

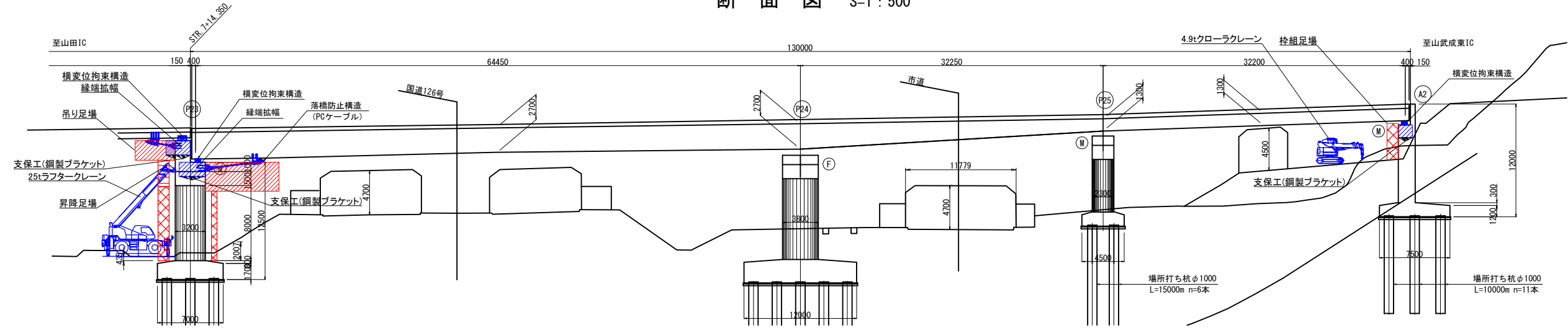
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 上部工施工要領図(その1) (参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

S=1 : 800

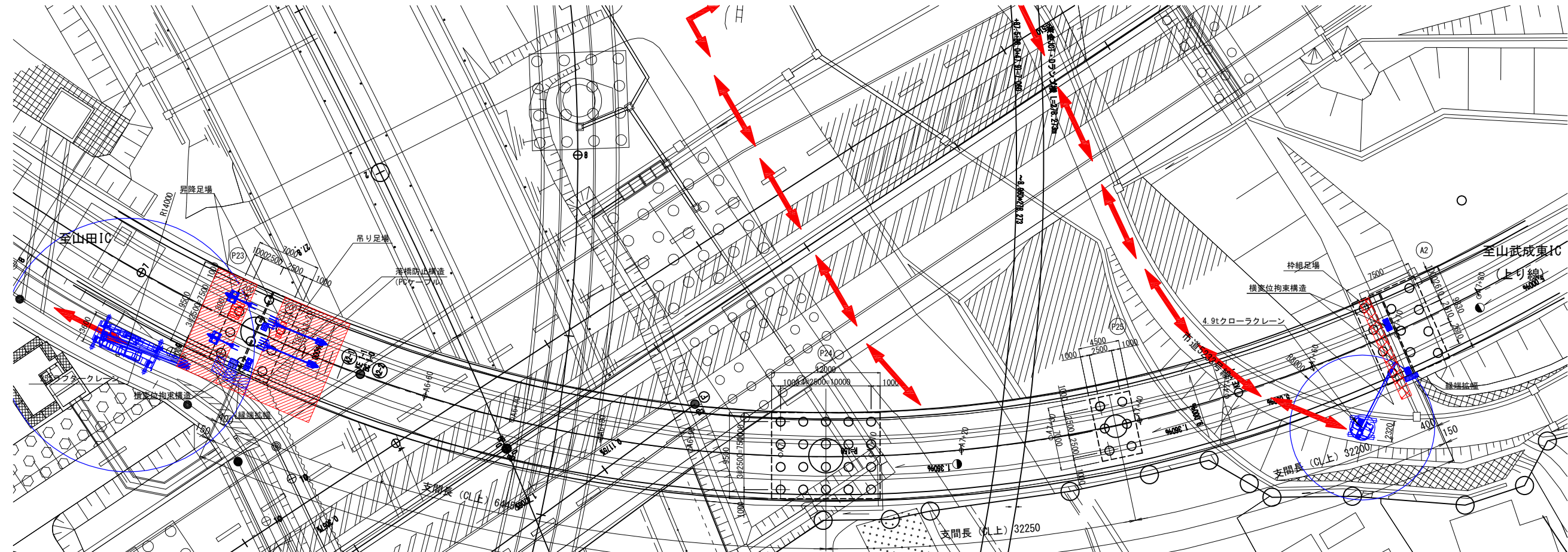


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	東金IC アランプ橋 上部工施工要領図(その2)(参考図)	
縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	

断面図 S=1:500



平面図 S=1:500



【定格総荷重量表:25tラフタークレーン】
●主ブーム定格総荷重表(アウトリガー中間張出3.6m)
単位(t)

ブーム長さ (m)	23.45	30.5
作業半径		
13.5	1.60	1.70
14.0	1.45	1.55
15.0	1.20	1.30

吊り可能重量: ①吊上げ能力 1.55t
②吊り具・フック(主巻) 0.22t
③補強材 0.8t
①~②
1.55-0.22
Σ=1.33t×0.9=1.197t
0.8t<1.197t…ok
※資材搬入時は1.6t程度の吊り重量にて搬入させること

A2橋台

①上部補強施工:横変位拘束構造
②補強材設置方法:下から施工(吊り足場設置)
③補強材最大重量:0.4t
④吊り上げ重機:4.9tクローラークレーン
⑤搬入~設置まで:現道より進入し吊り足場を設置。
その後、重機を配置しクレーンにて桁外の足場上に搬入
横移動は軌上設備(レール)+チルホールにて横移動、
その後、チェーンブロックにて上に吊り上げ補強材設置を行う

【定格総荷重量表:4.9tクローラークレーン】
●主ブーム定格総荷重表
単位(t)

ブーム長さ (m)	14.9	19.1
作業半径		
8.0	0.65	0.72
9.0	0.52	0.59
10.0	0.41	0.47

吊り可能重量: ①吊上げ能力 0.72t
②吊り具・フック(主巻) 0.06t
③補強材 0.4t
①~②
0.72-0.06
Σ=0.66t×0.9=0.594t
0.4t<0.594t…ok
※資材搬入時は0.5t程度の吊り重量にて搬入させること

凡例

—	施工中
—	重機、補強
—	昇降足場
—	吊り足場
—	枠組足場(下部工足場)

注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の状況、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

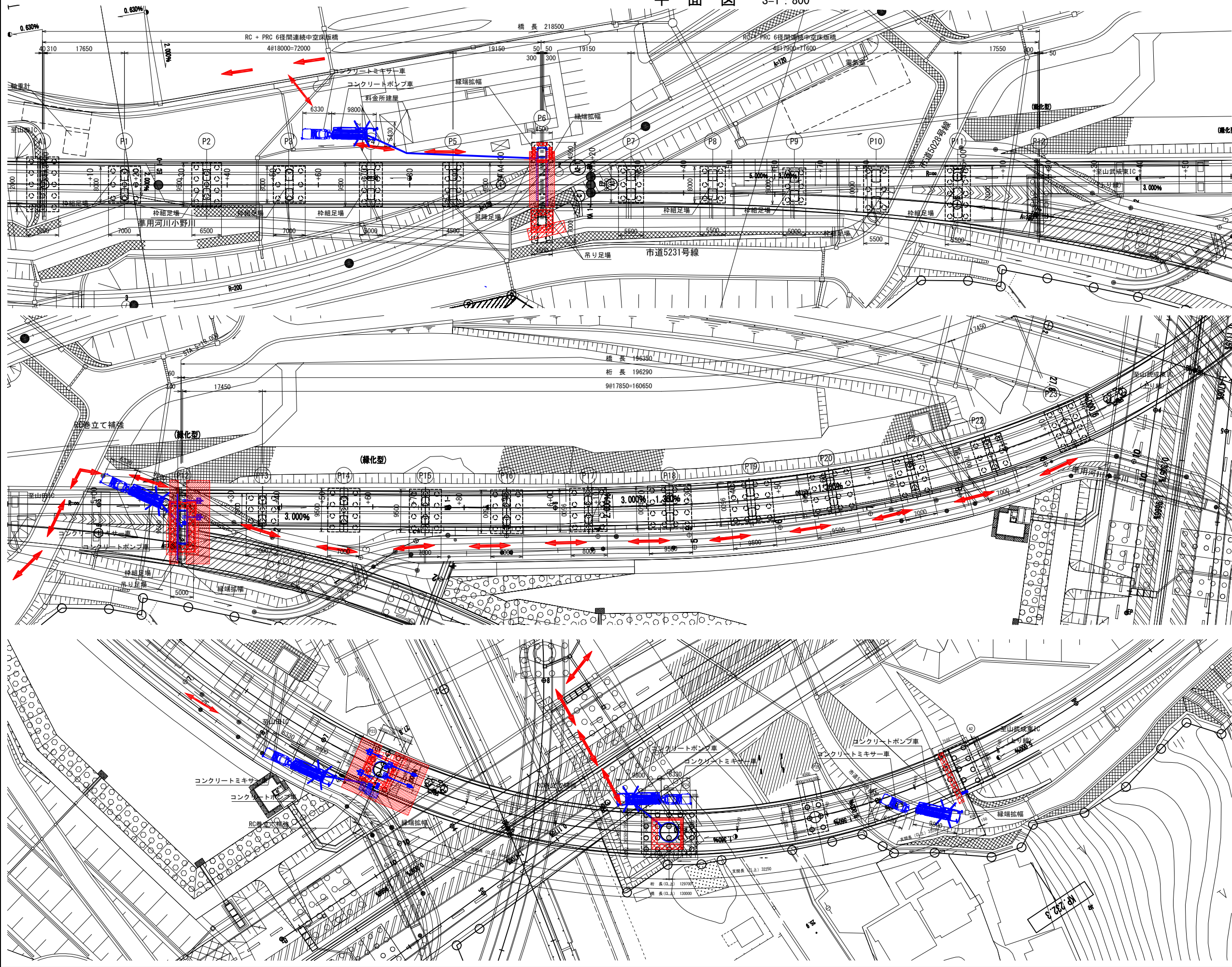
P23橋脚

①上部補強施工:落橋防止構造(PCケーブル)、緑端拡幅、横変位拘束構造
②補強材設置方法:下から施工(吊り足場設置)
③補強材最大重量:0.8t
④吊り上げ重機:25tラフタークレーン(アウトリガー幅3.6m)(中間張り出し)
⑤搬入~設置まで:現道より進入し吊り足場を設置、
その後、重機を配置しクレーンにて桁外の足場上に搬入
横移動は軌上設備(レール)+チルホールにて横移動、
その後、チェーンブロックにて上に吊り上げ補強材設置を行う

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 上部工施工要領図(その3) (参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 コンクリート打設要領図（参考図）

平面図 S=1：800

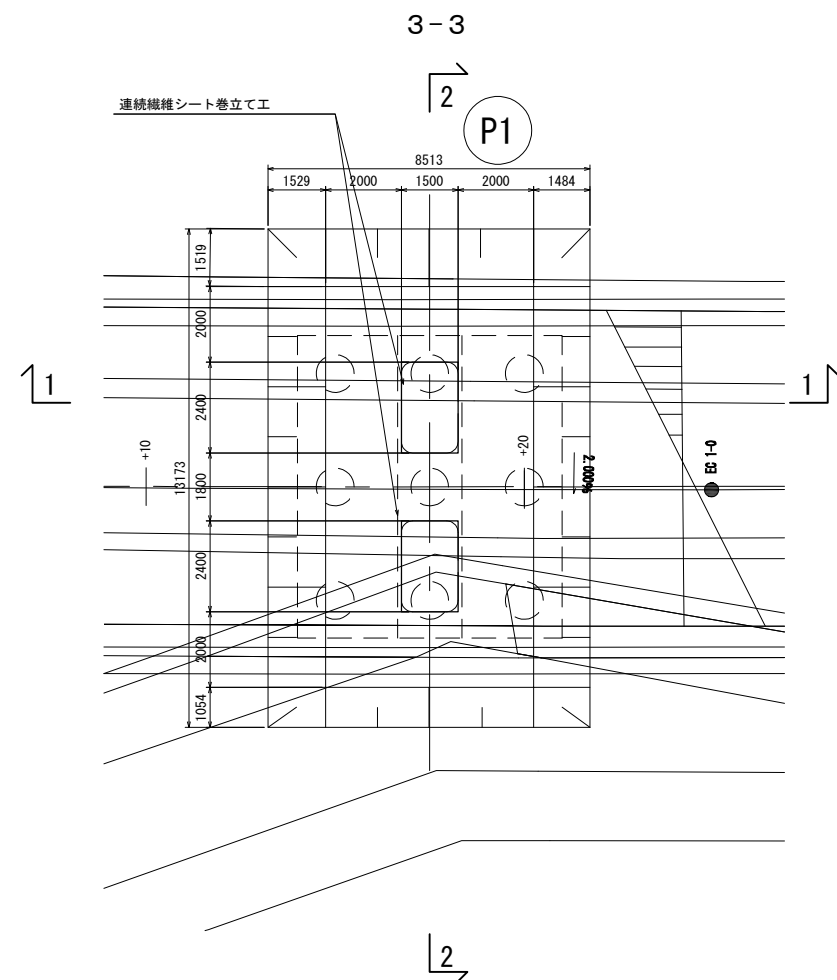
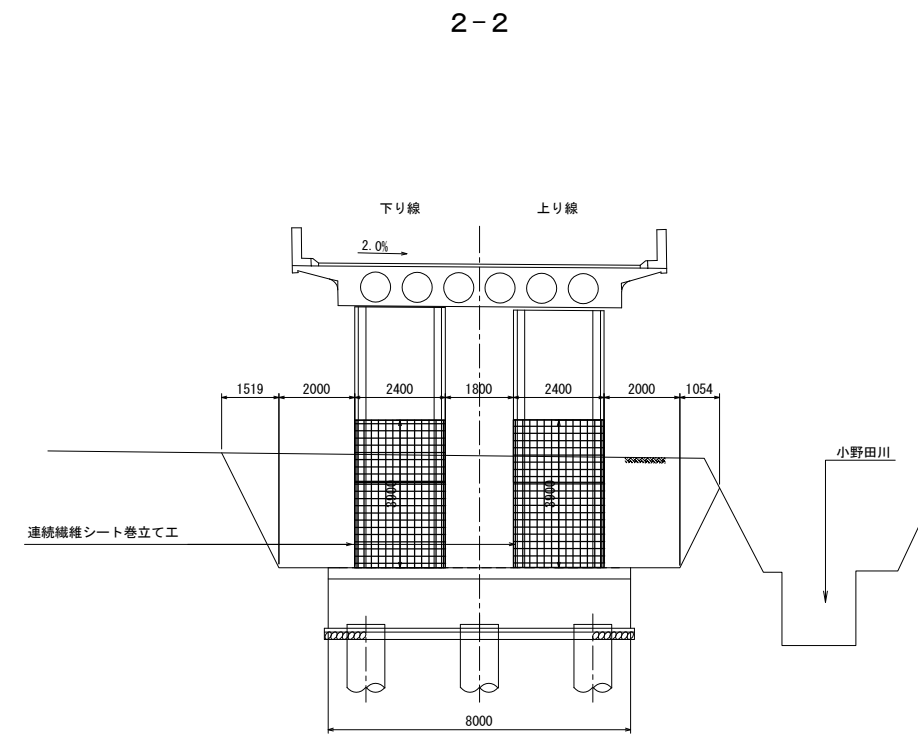
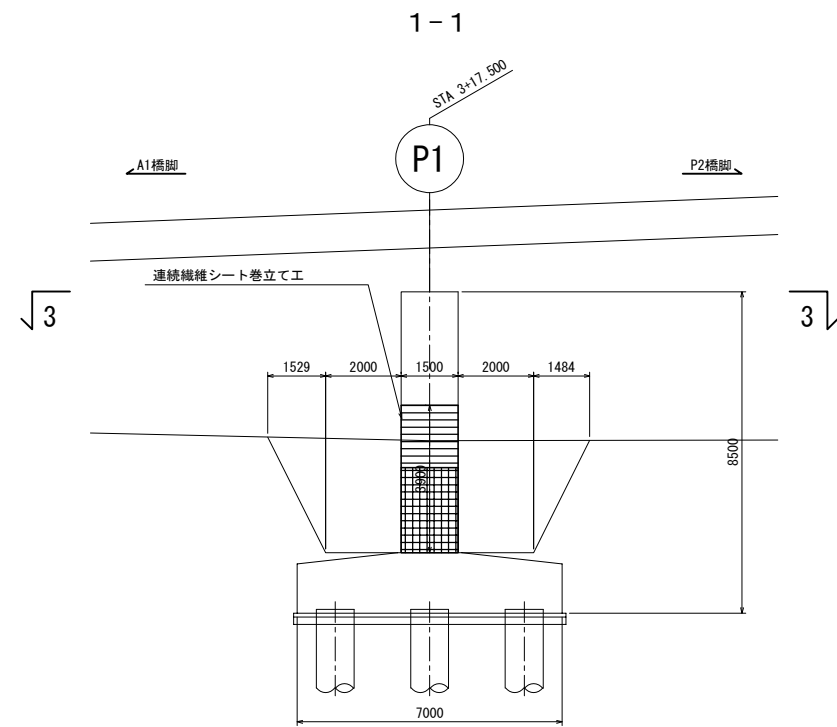


凡例

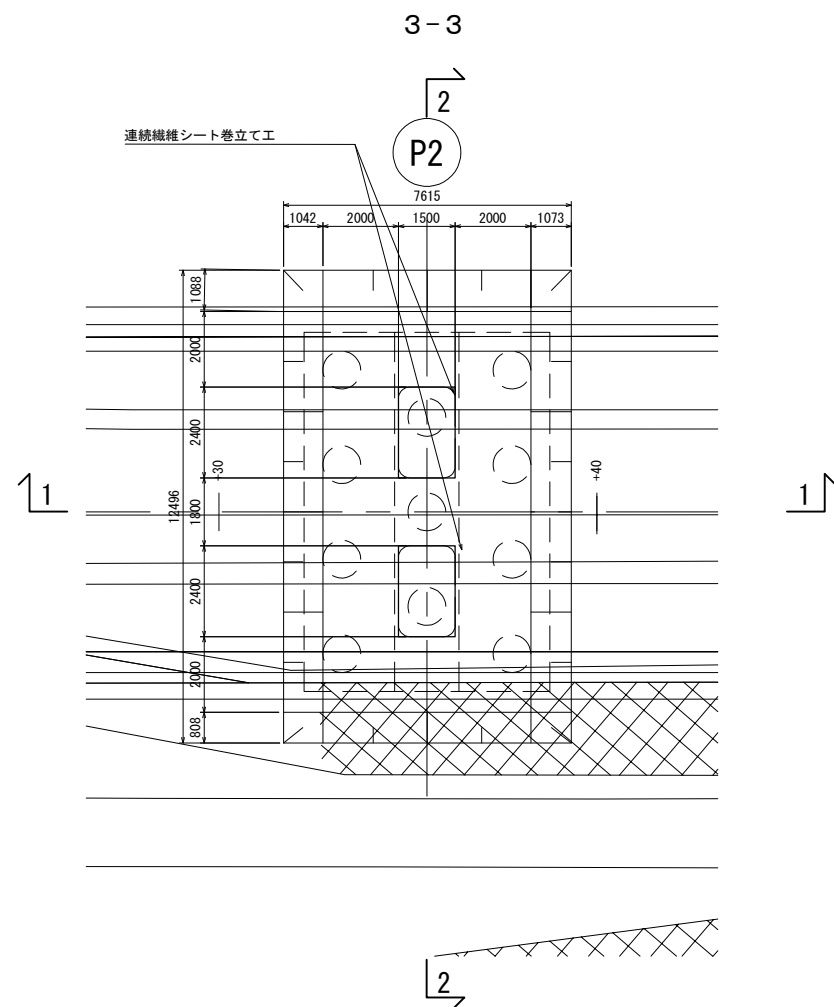
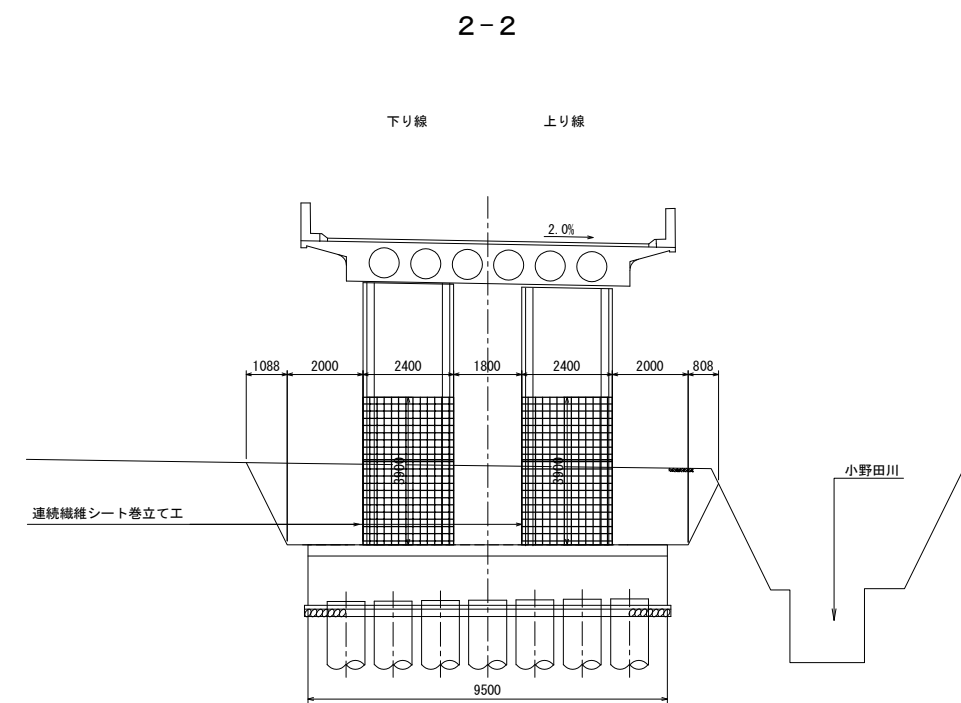
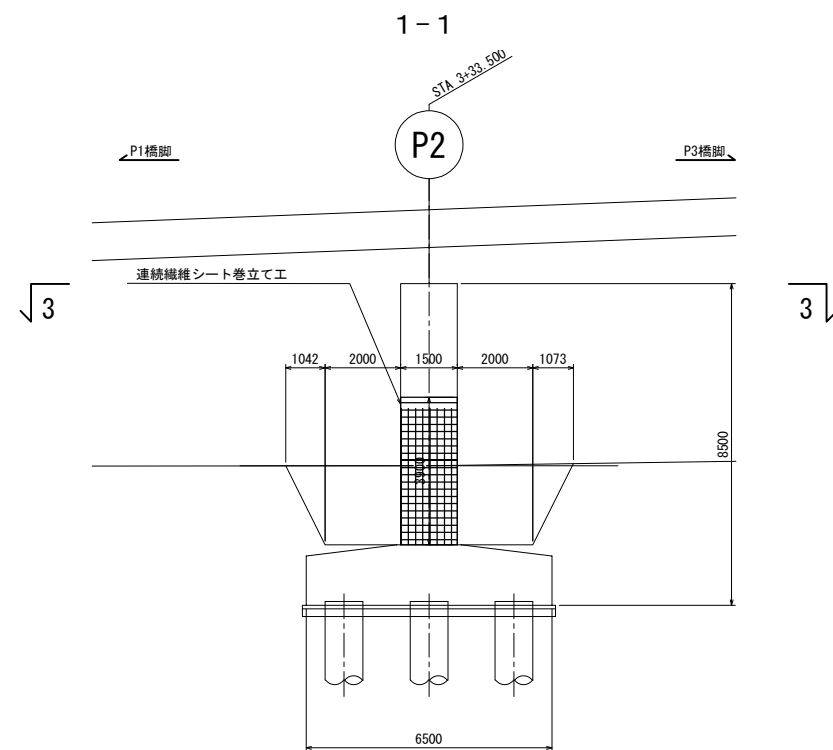
—	施工中
—	重機、補強
■	足場工

注記
1) 施工時に必要に応じ現地盤を確認し、
地盤の状況、支障物等がある場合は適宜修正を行うこと

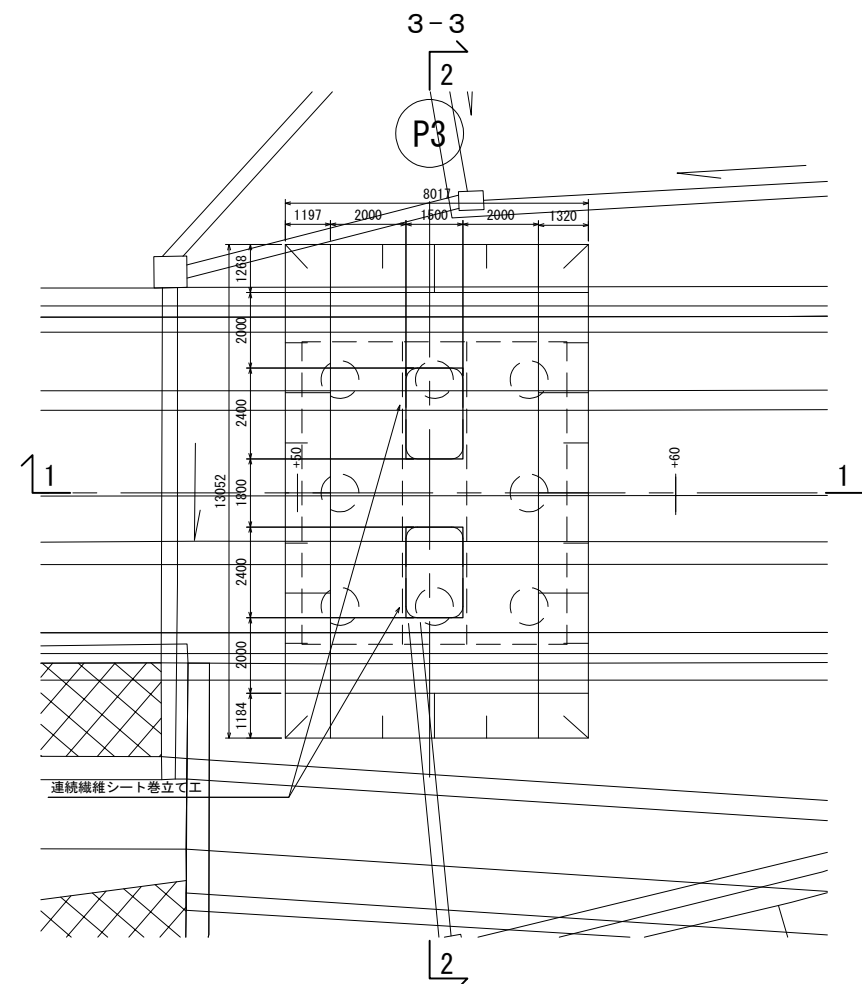
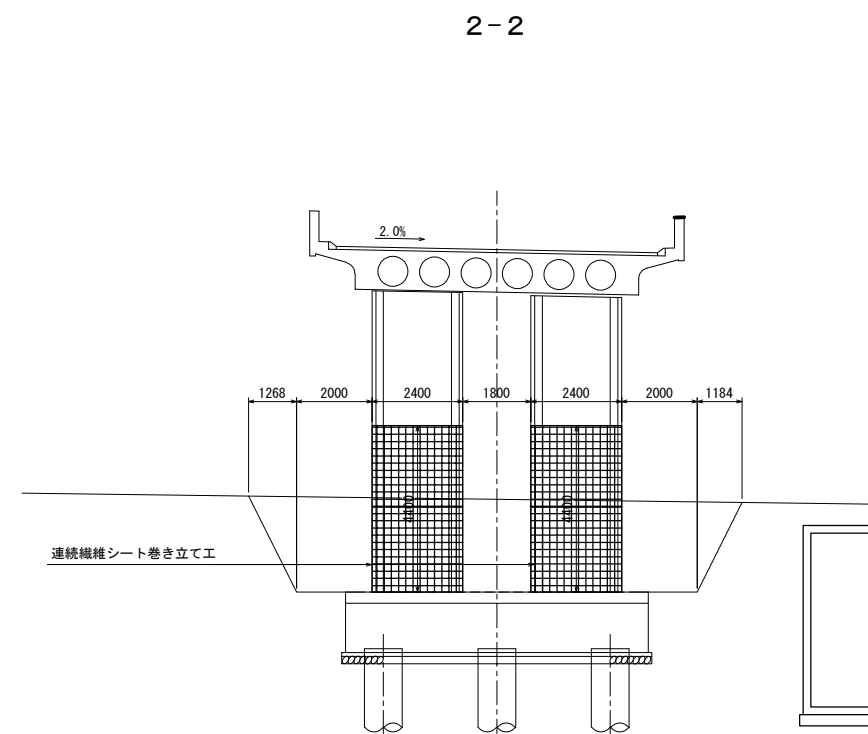
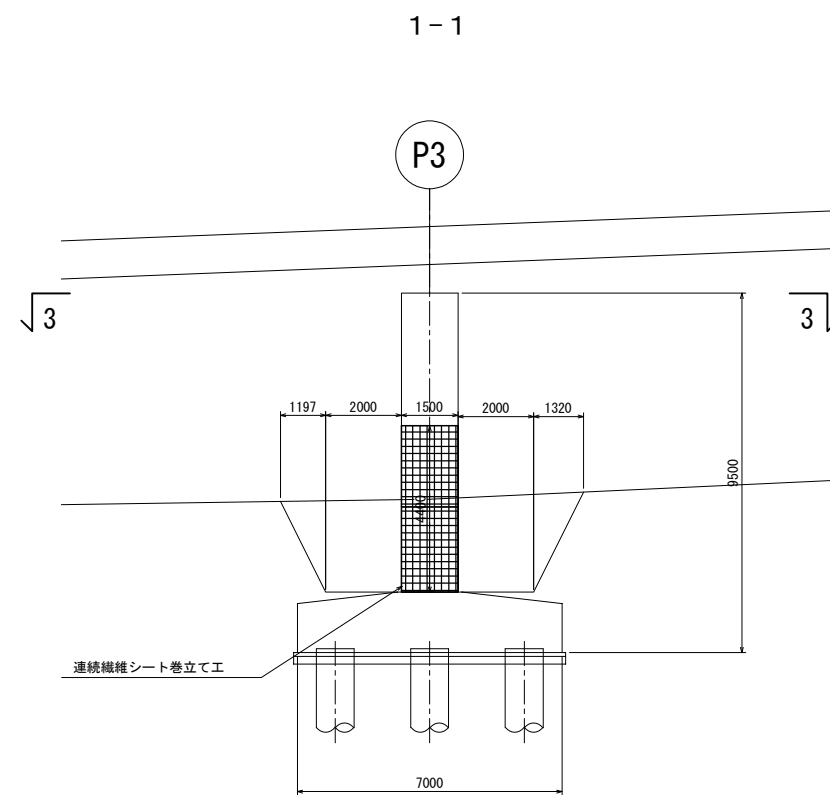
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
東金IC Aランプ橋			
図面の種類	コンクリート打設要領図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		



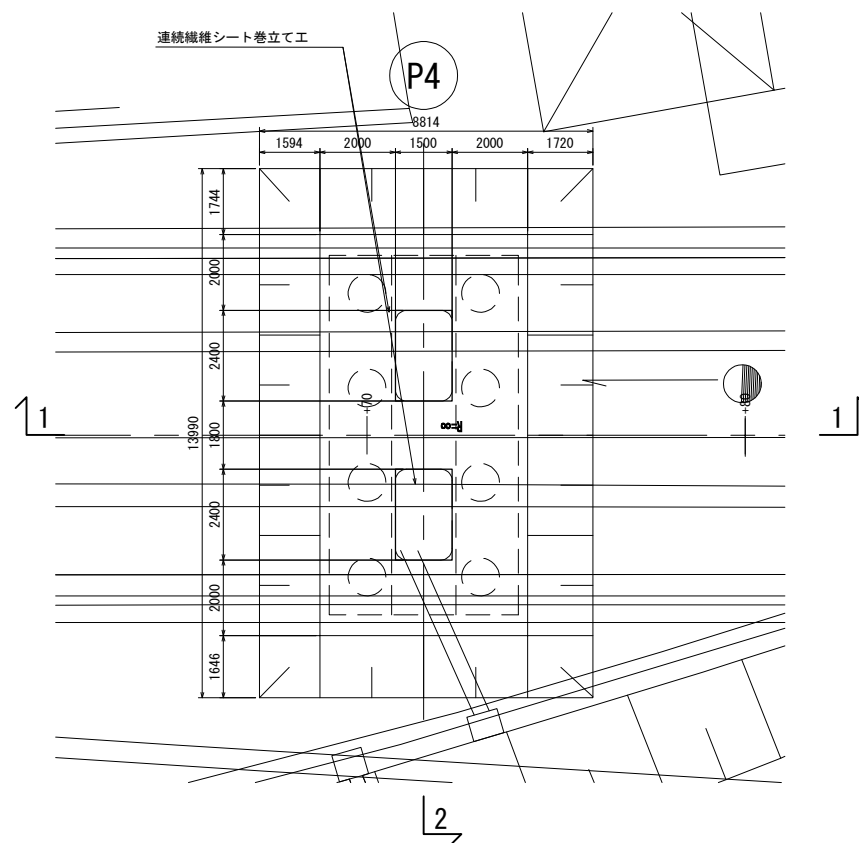
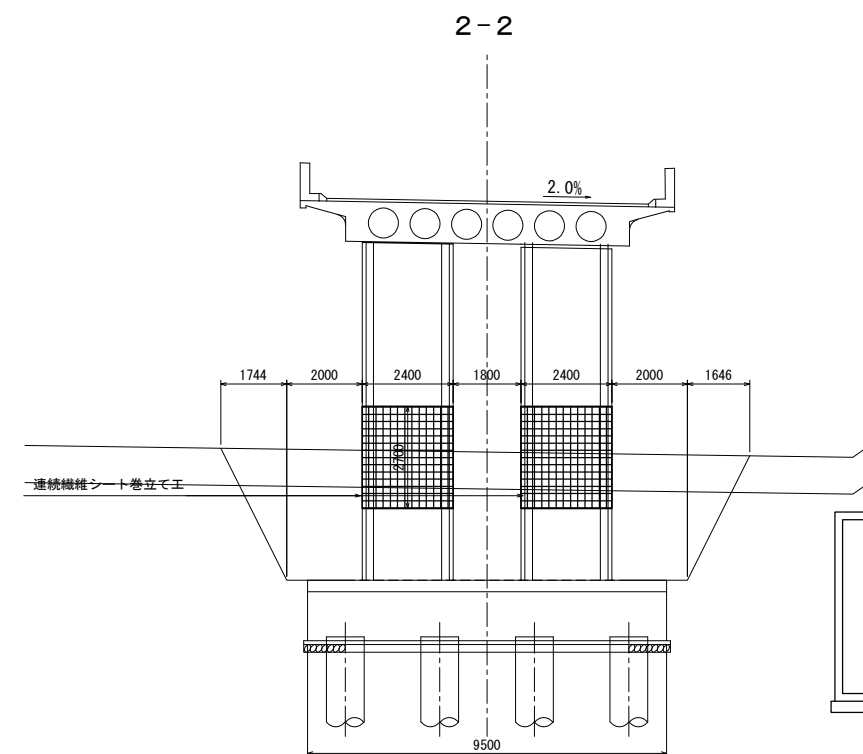
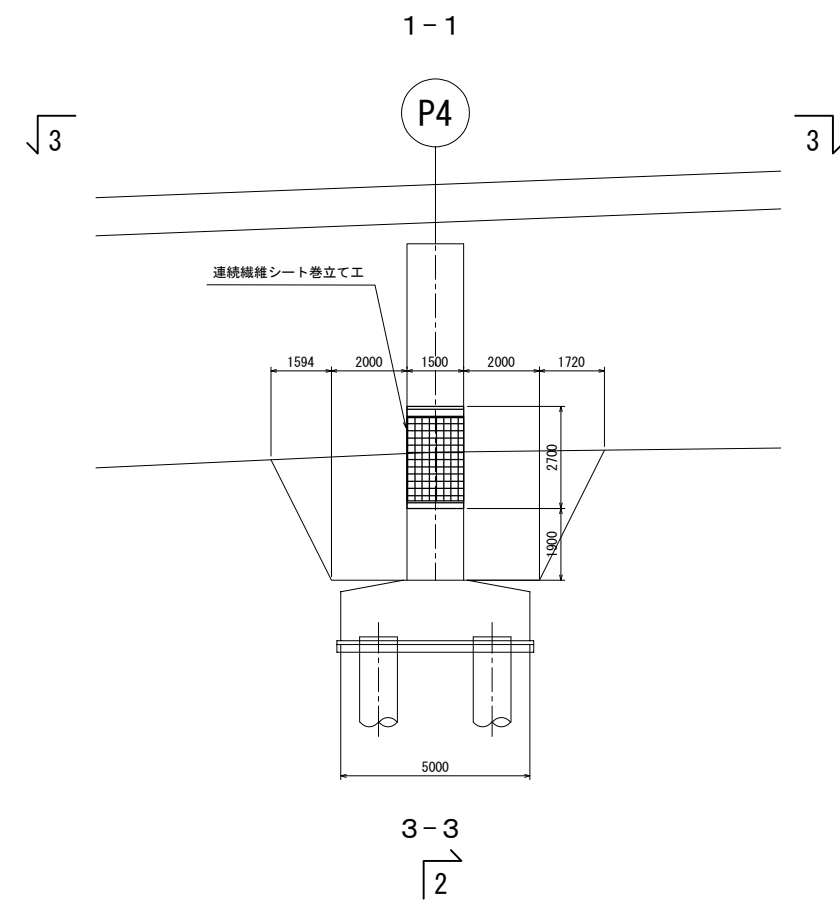
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P1橋脚		
	構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P2橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

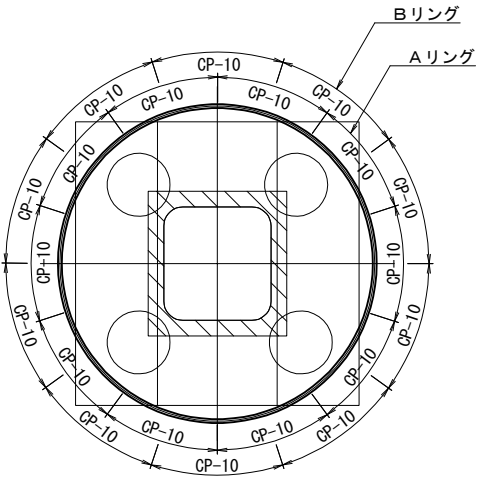


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P3橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

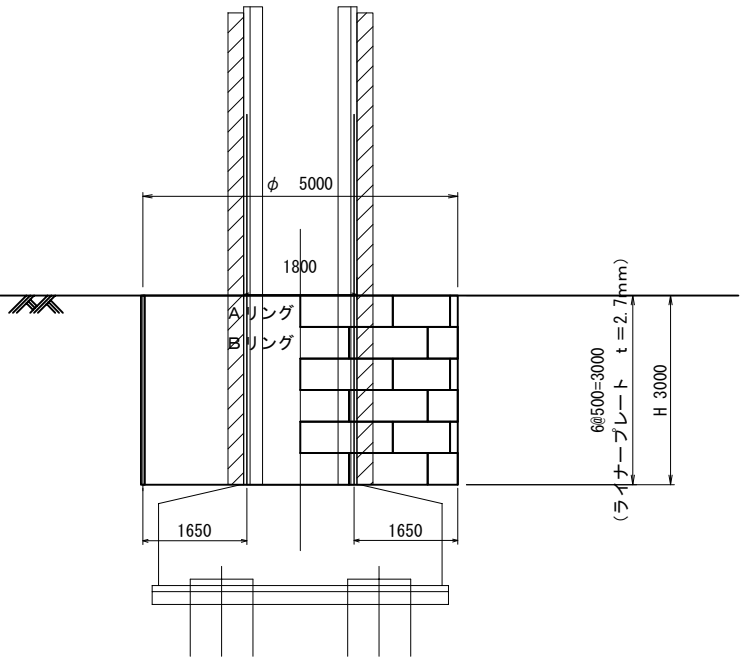


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P4橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

平面図 S=1:60

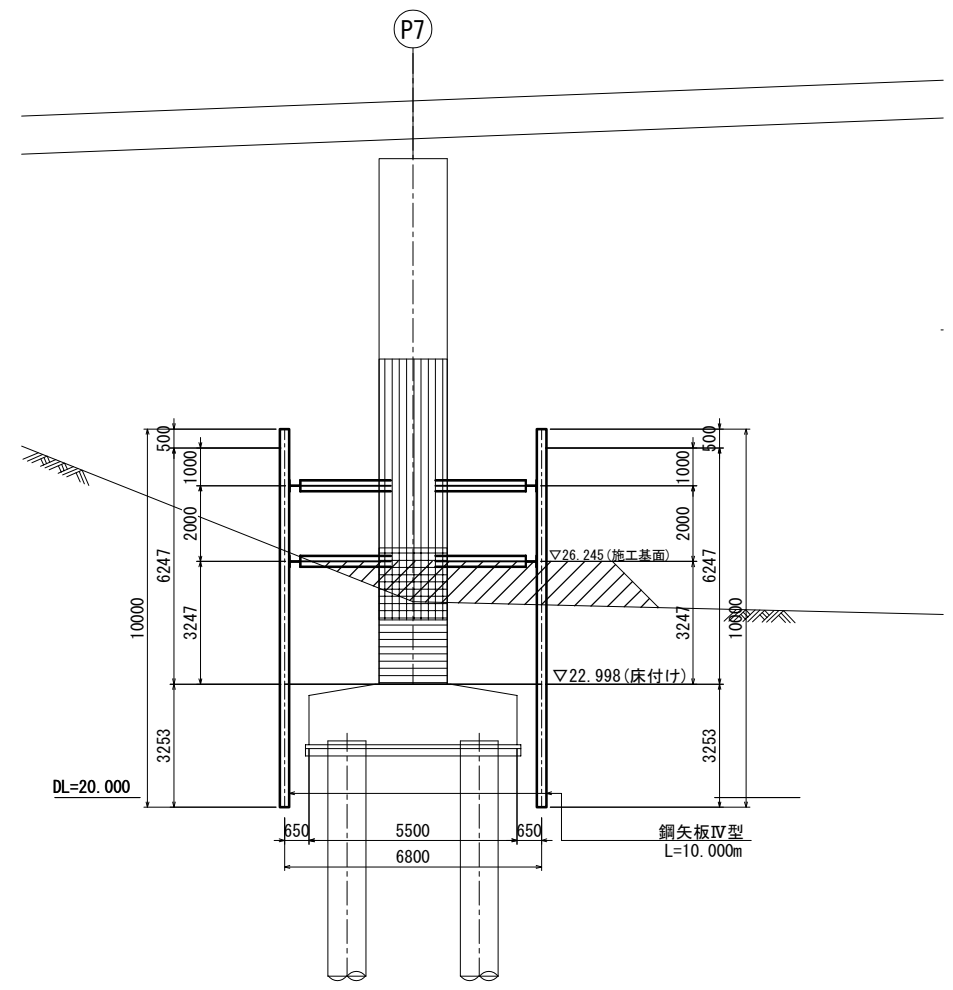


断面図、側面図 S=1:60

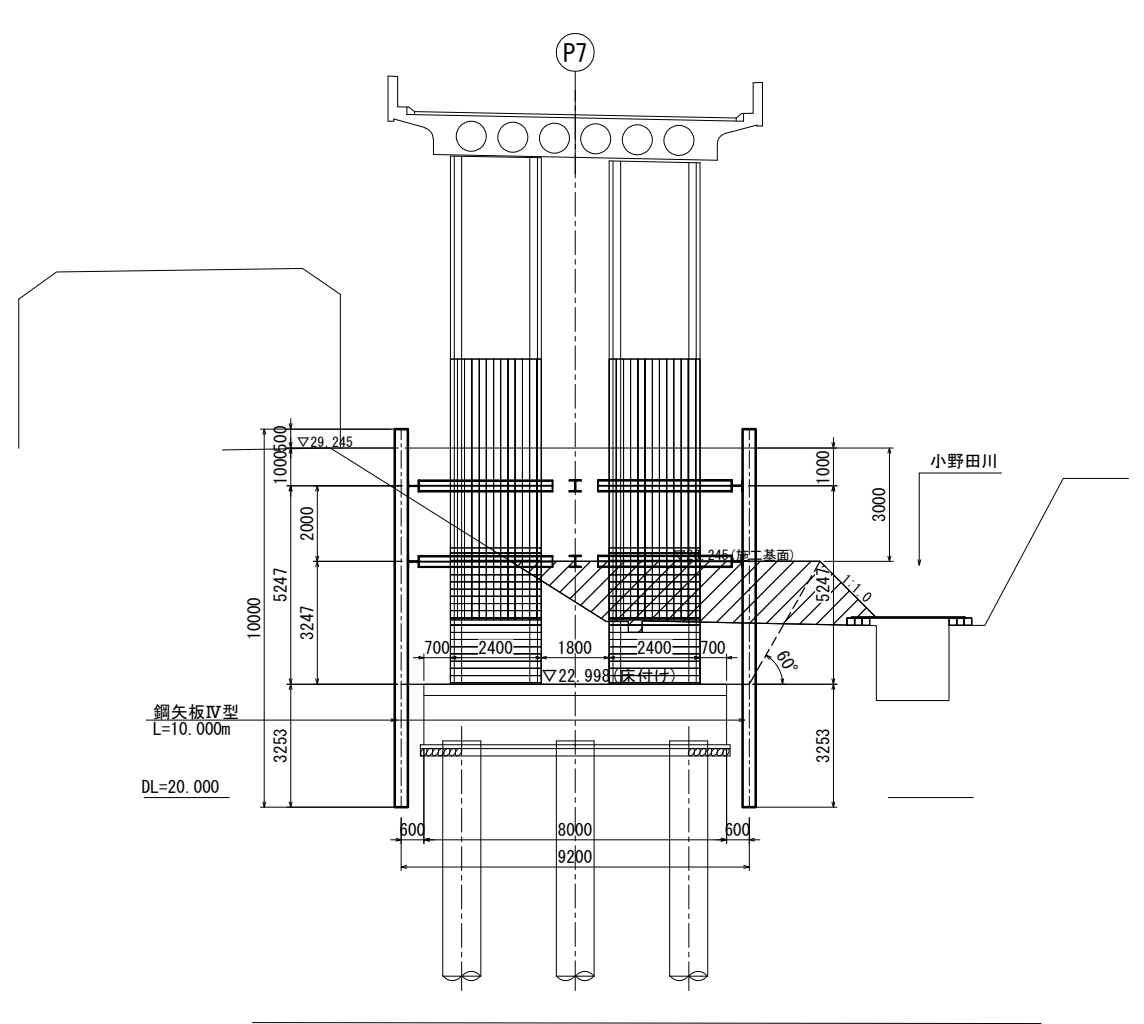


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 構造物掘削図(特殊部)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

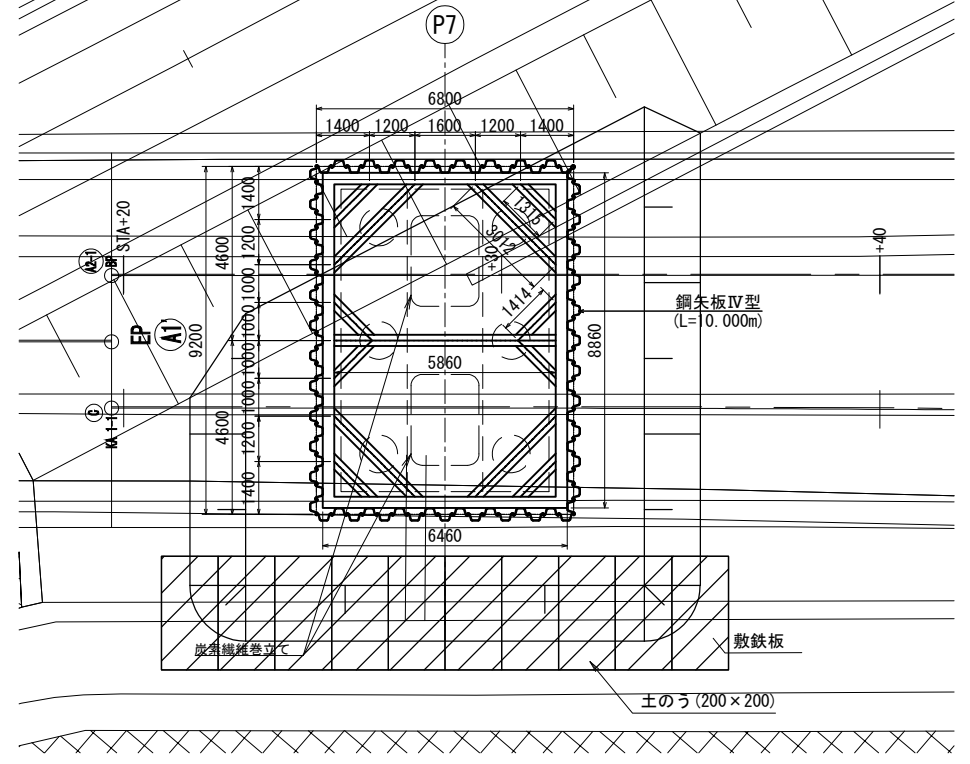
側面図



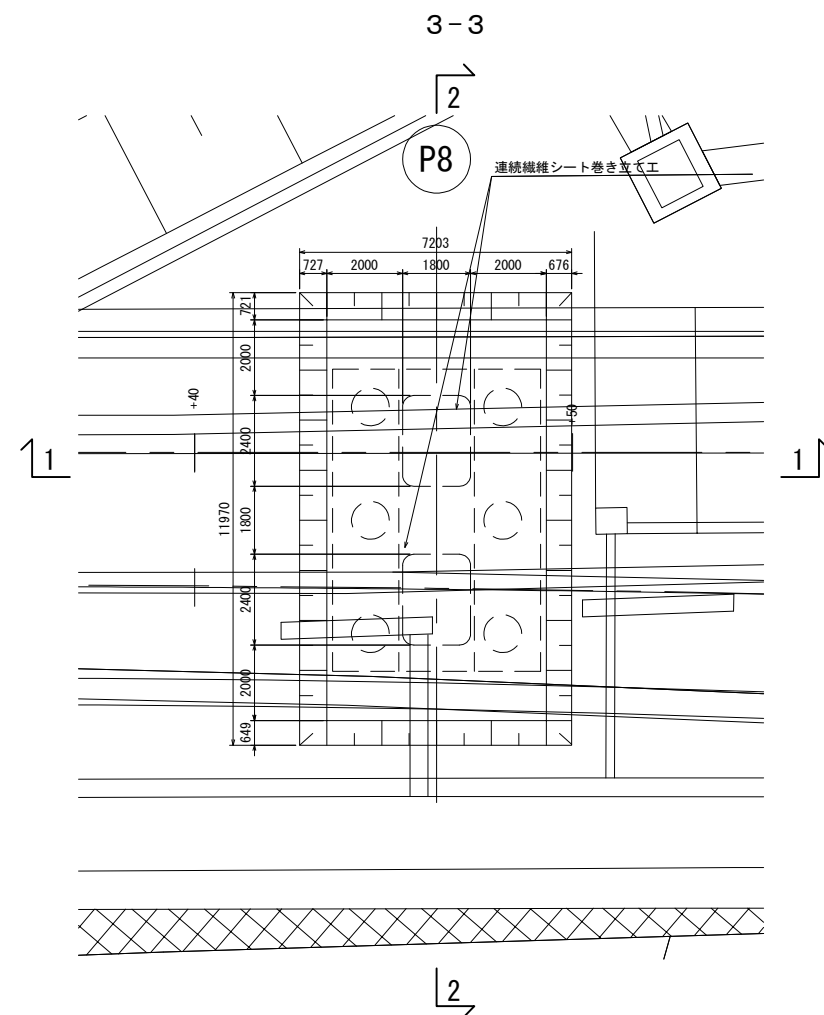
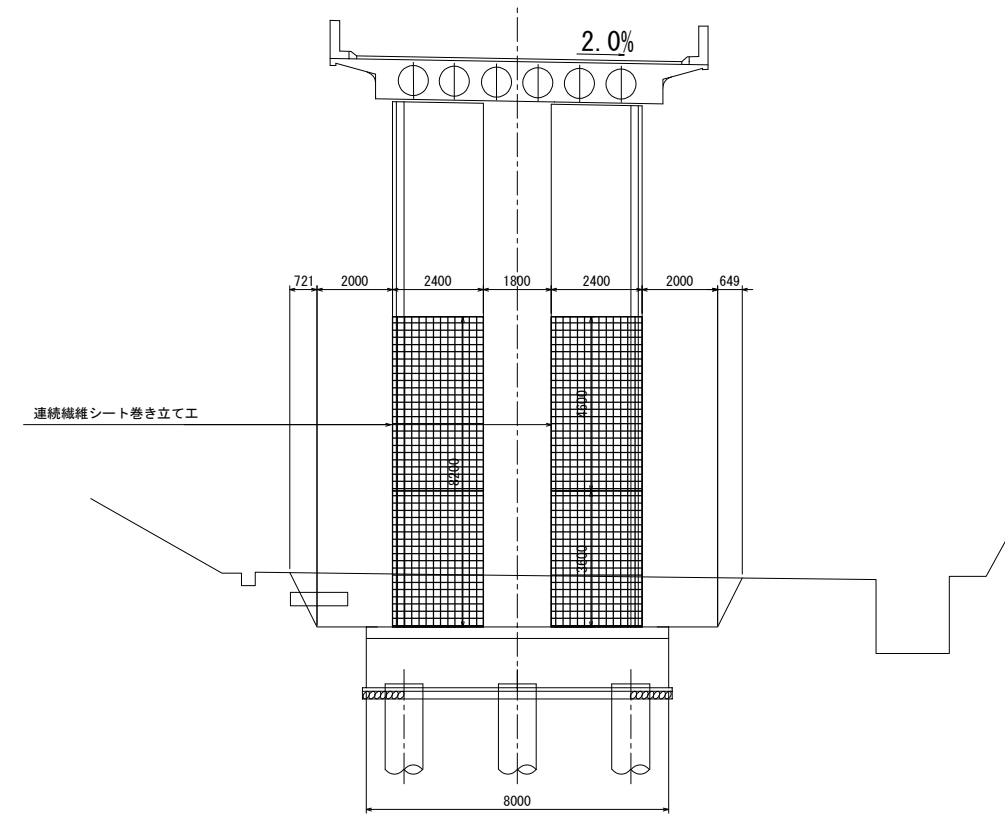
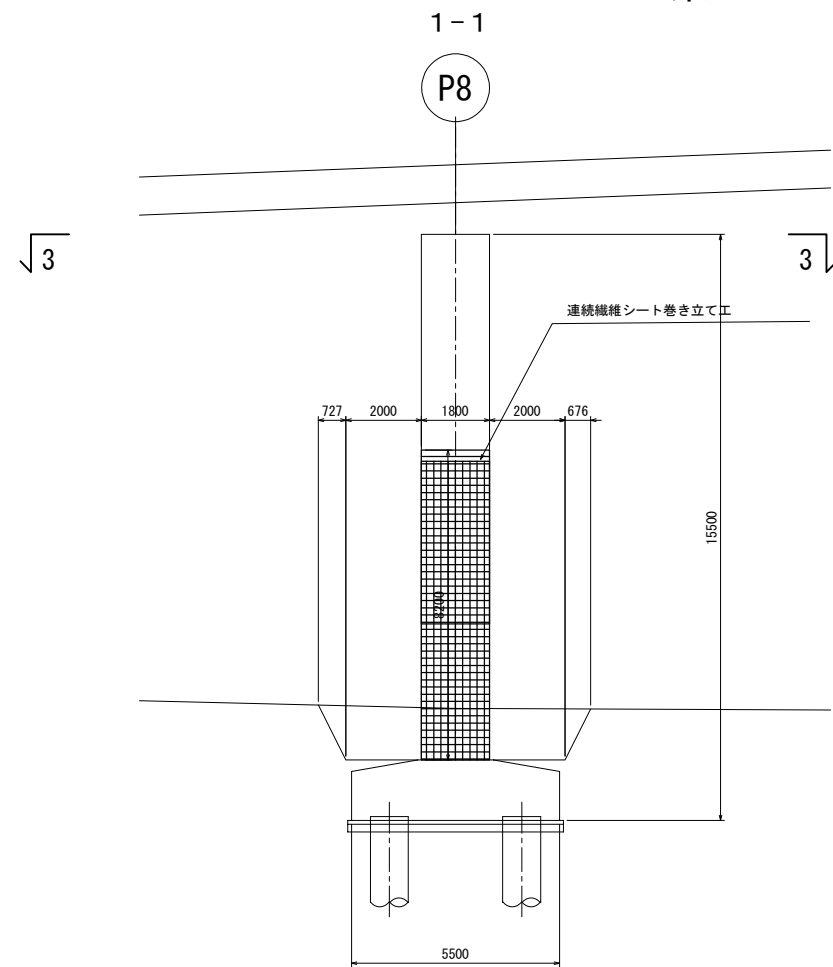
正面図



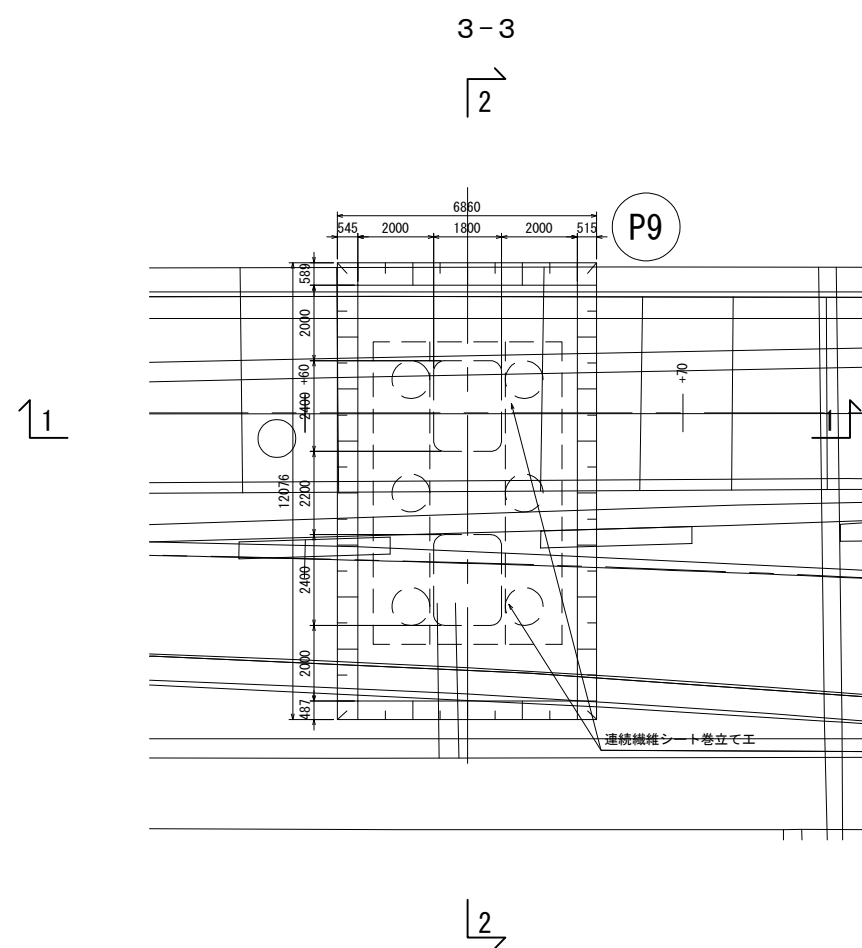
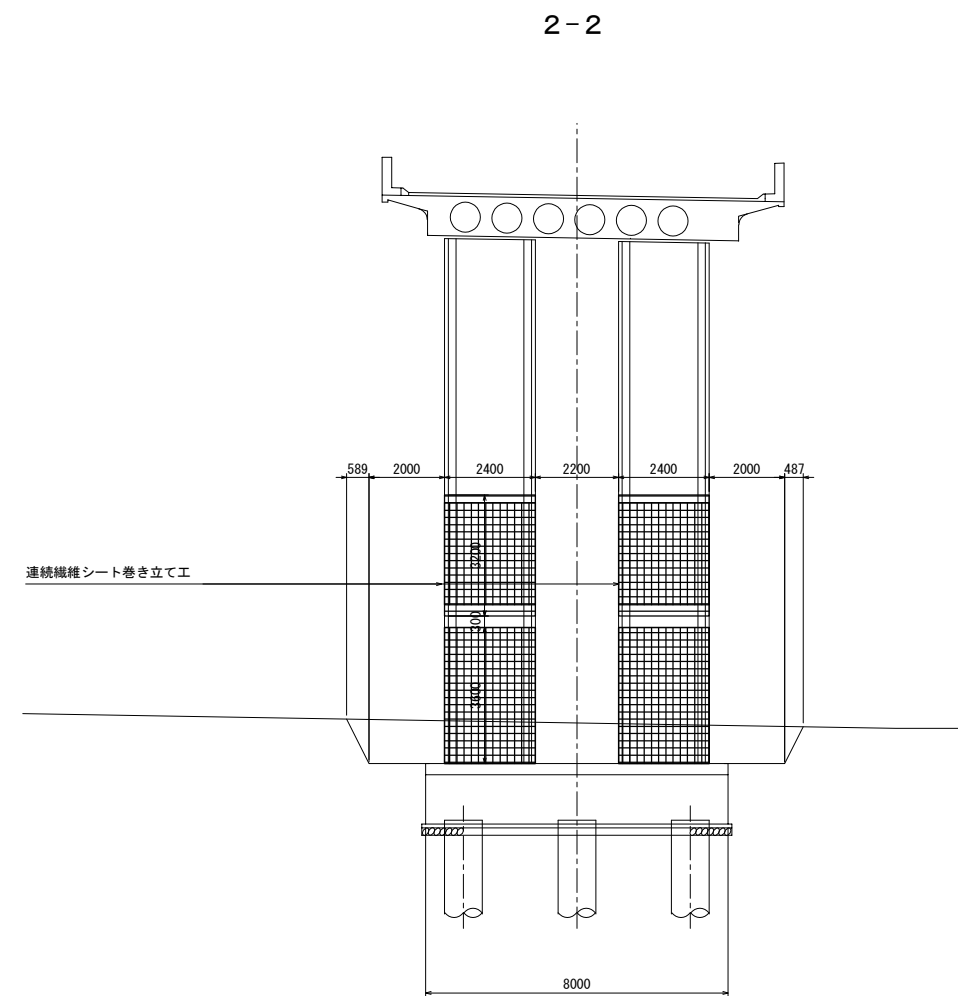
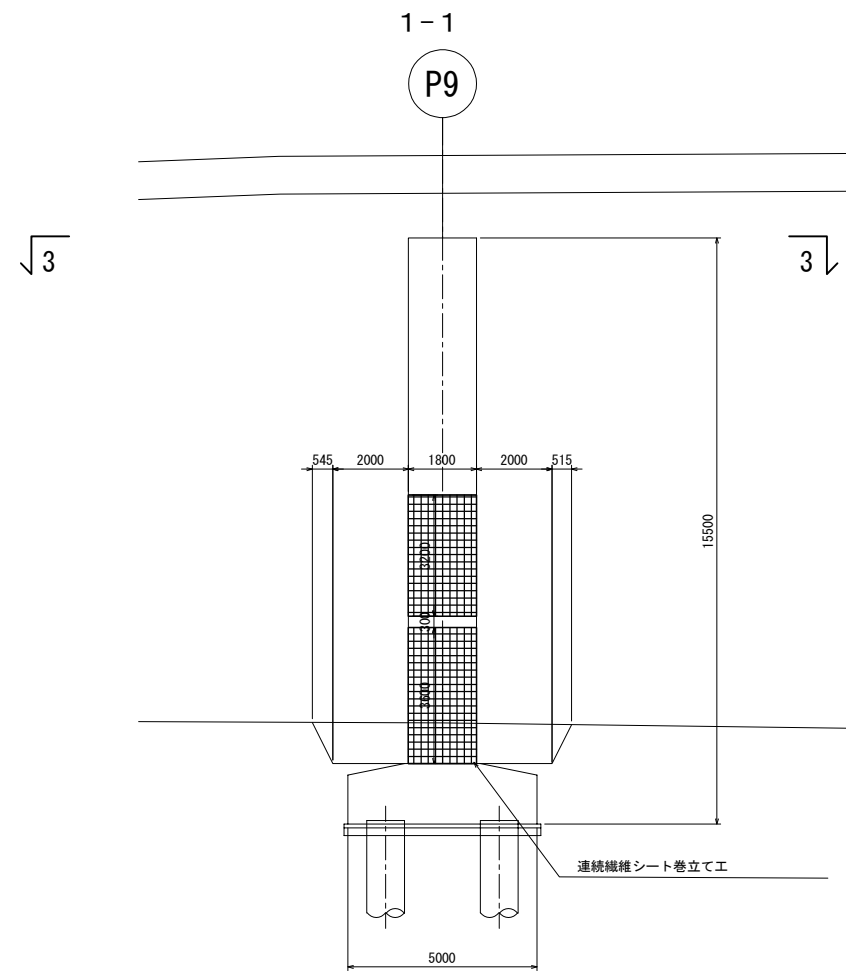
平面図



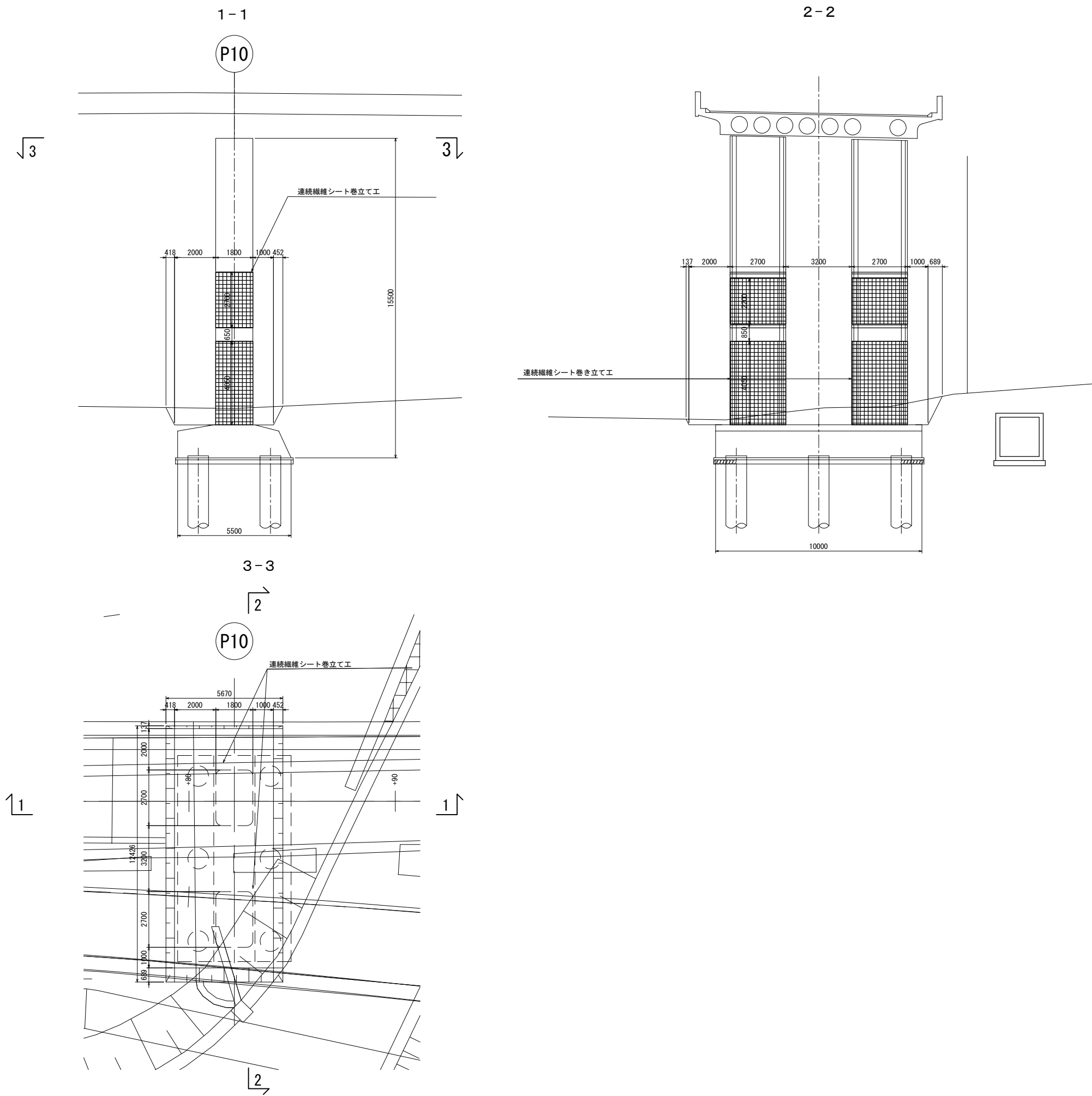
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P7橋脚 構造物掘削図(特殊部)		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



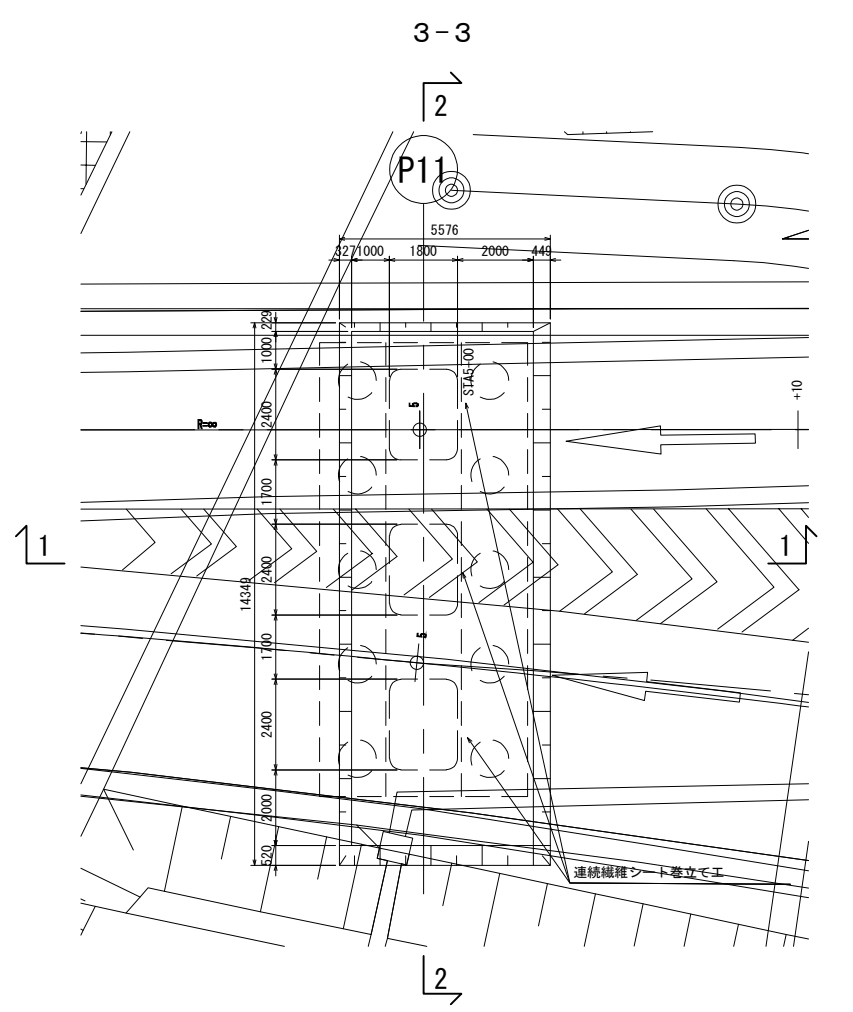
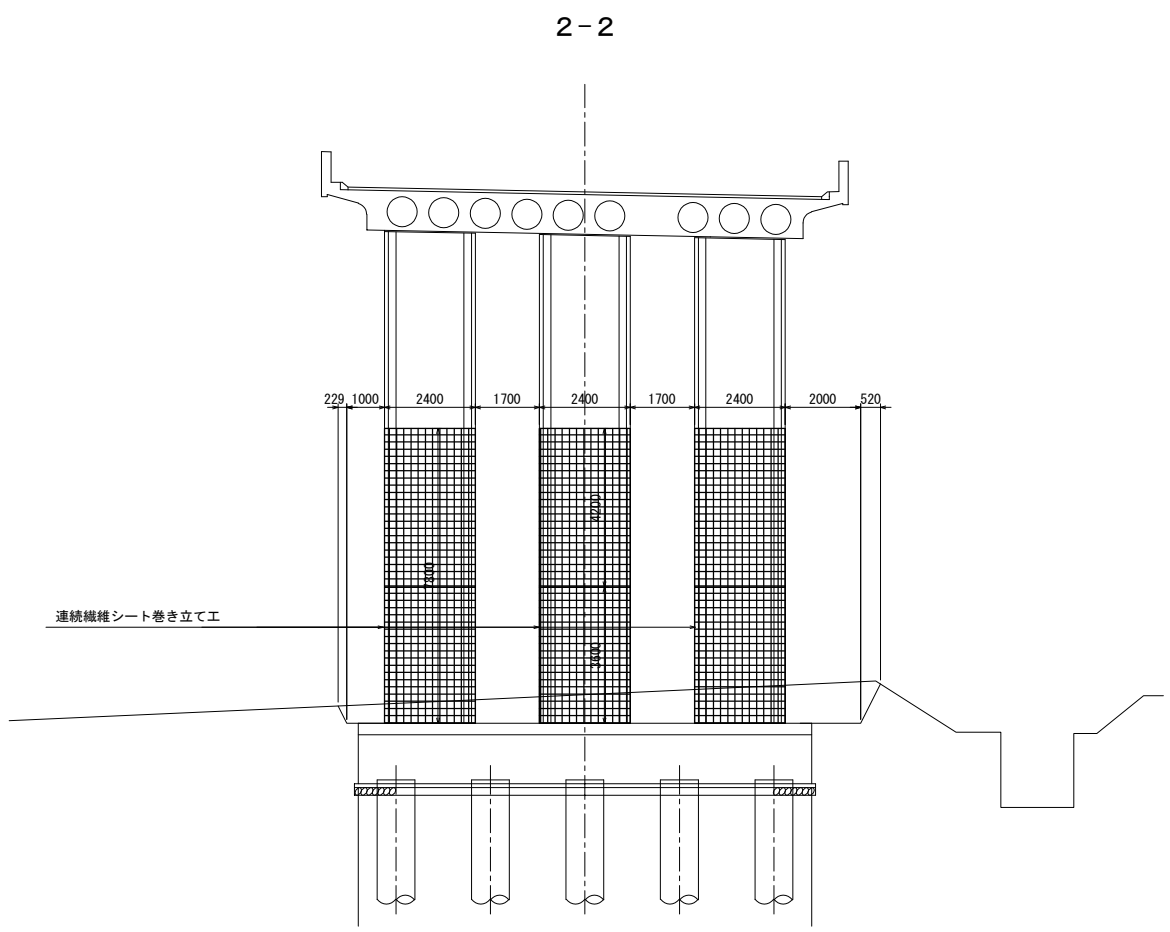
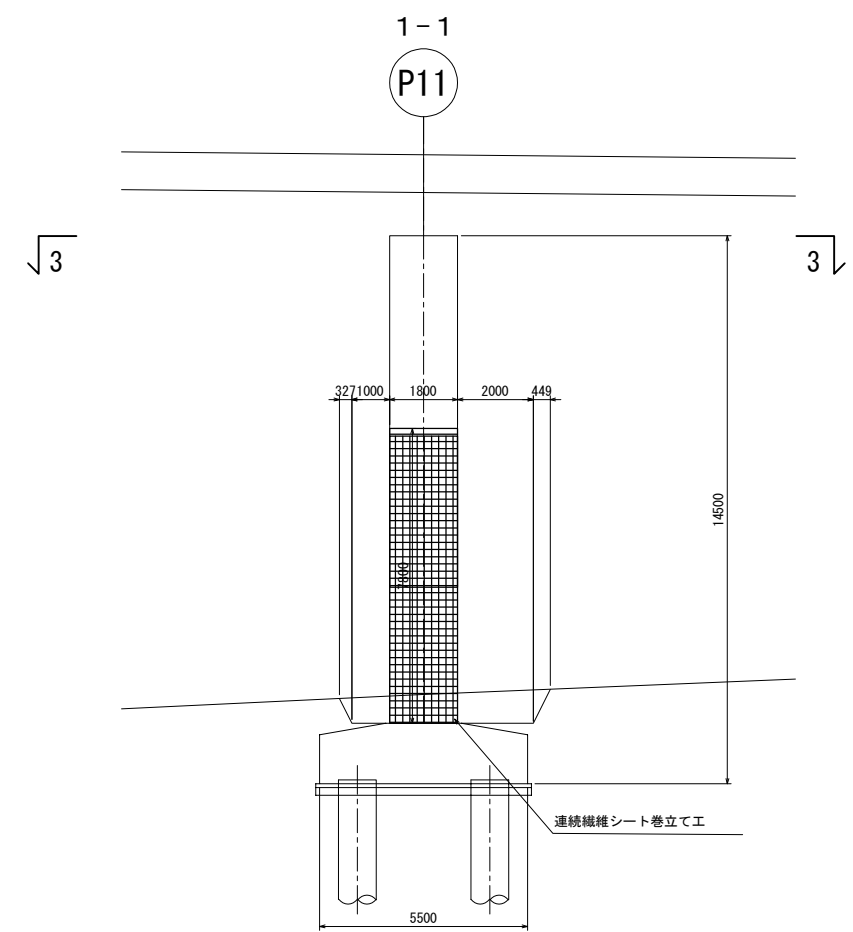
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P8橋脚		
	構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



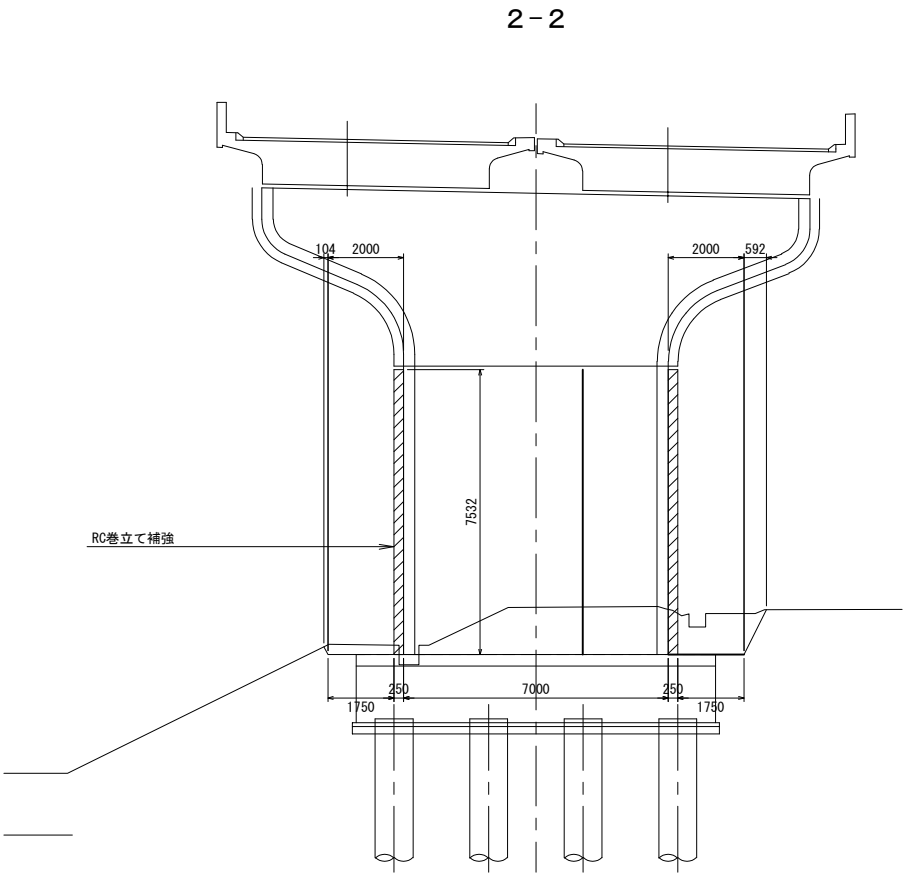
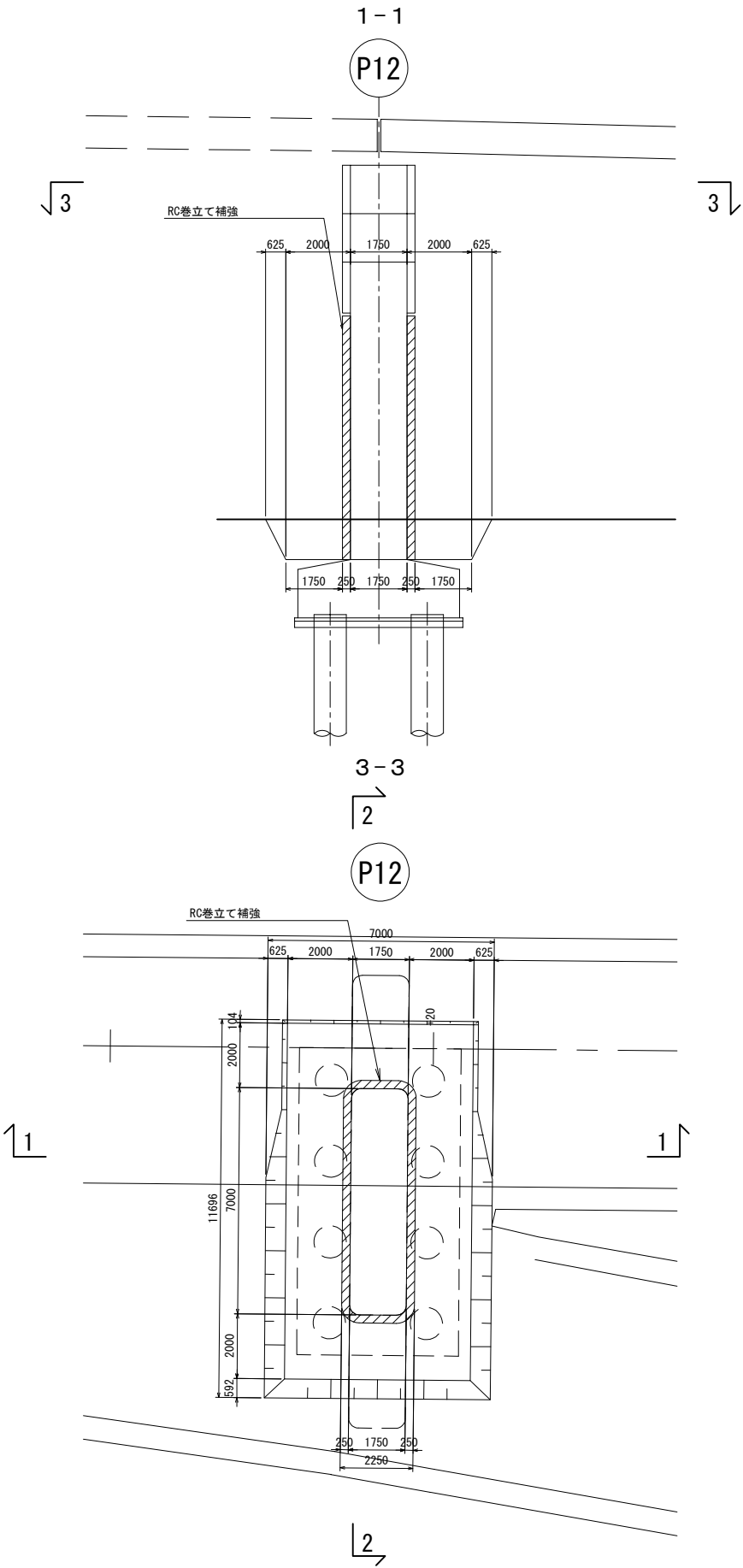
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P9橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



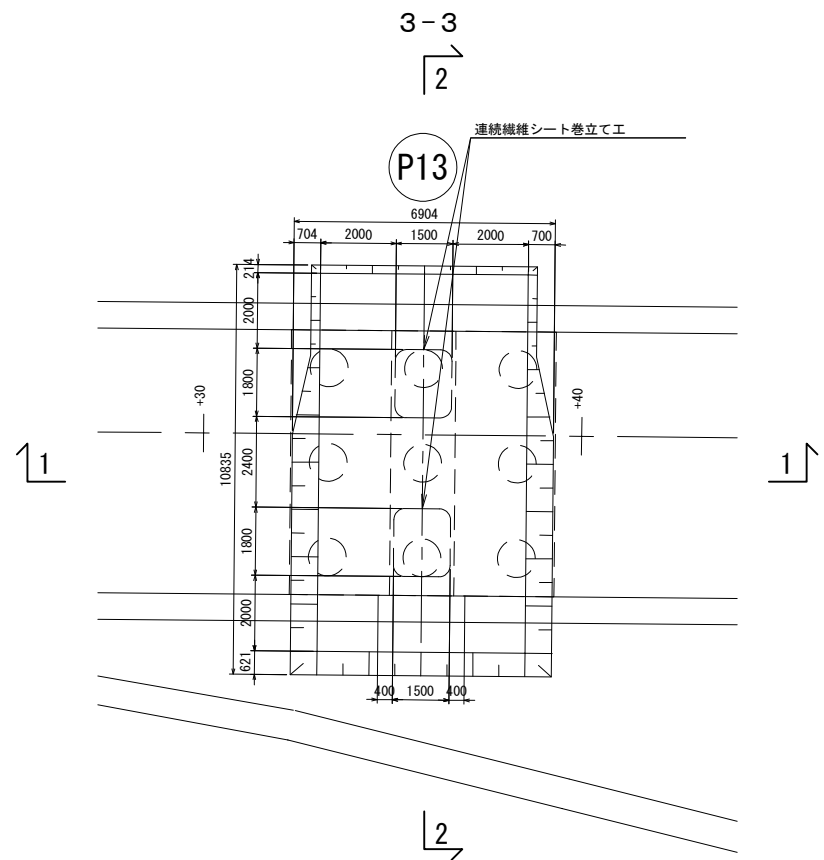
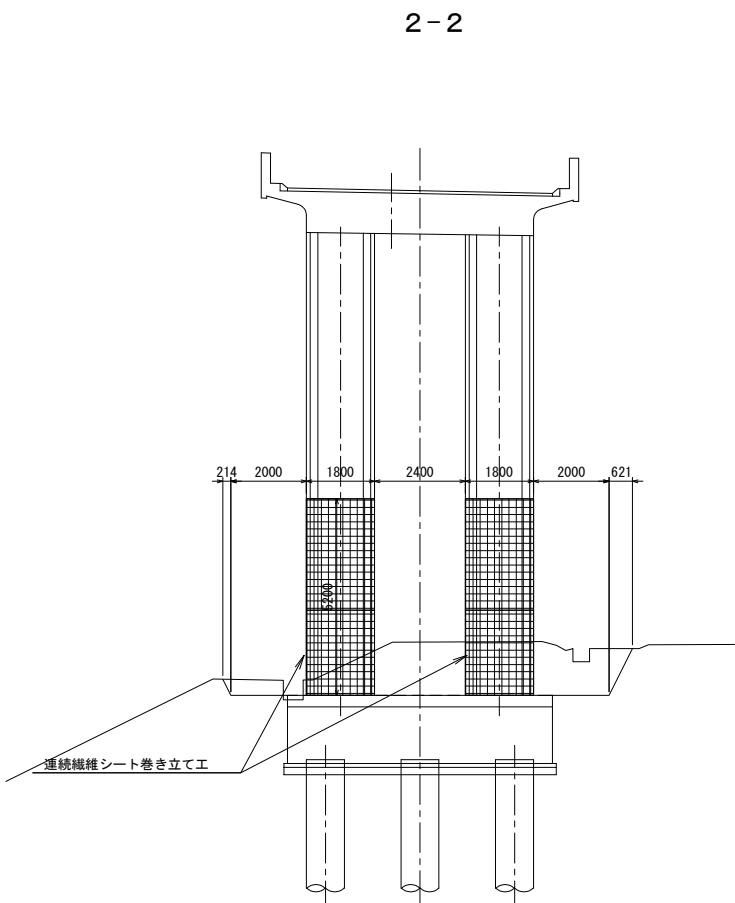
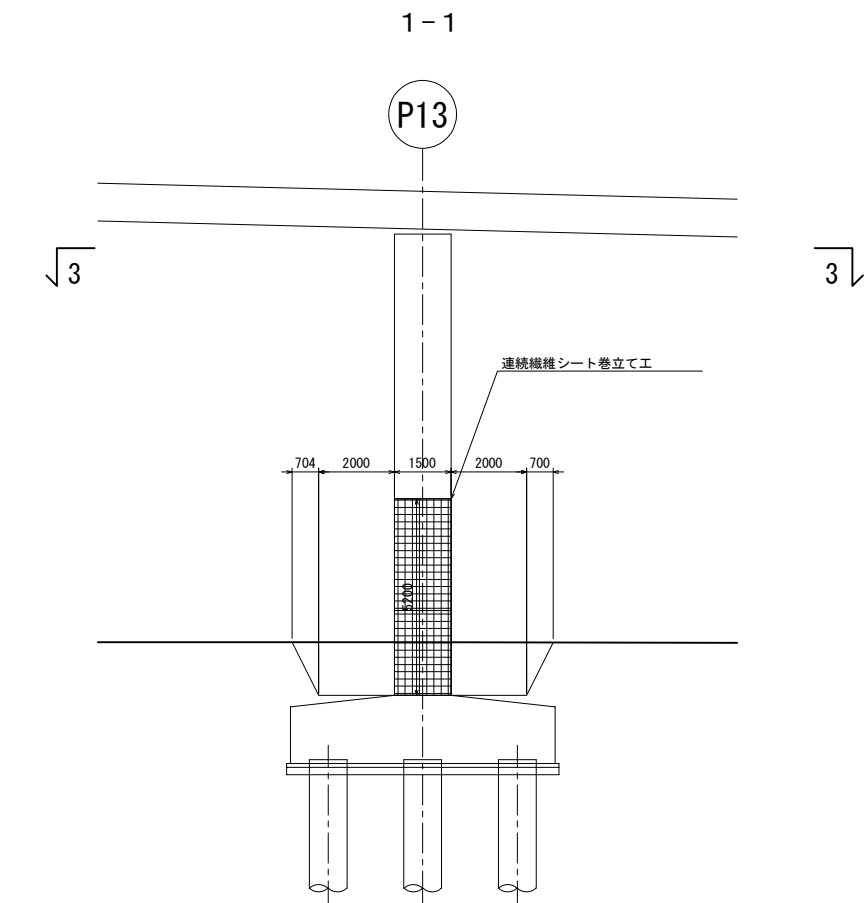
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P10橋脚 構造物掘削図		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



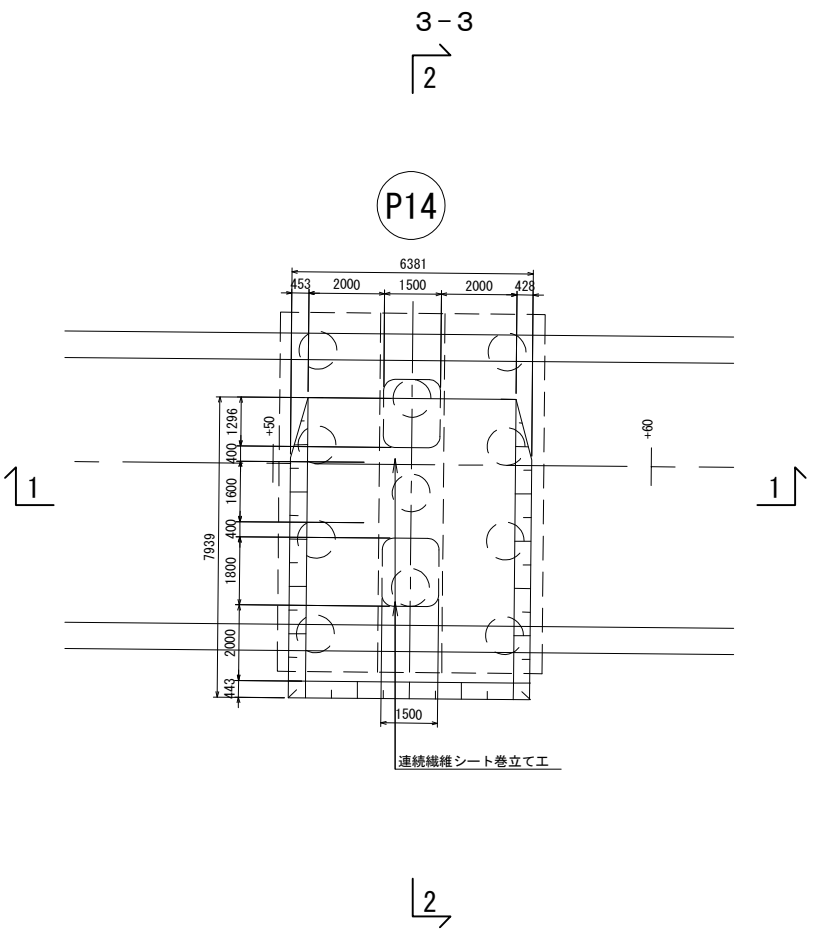
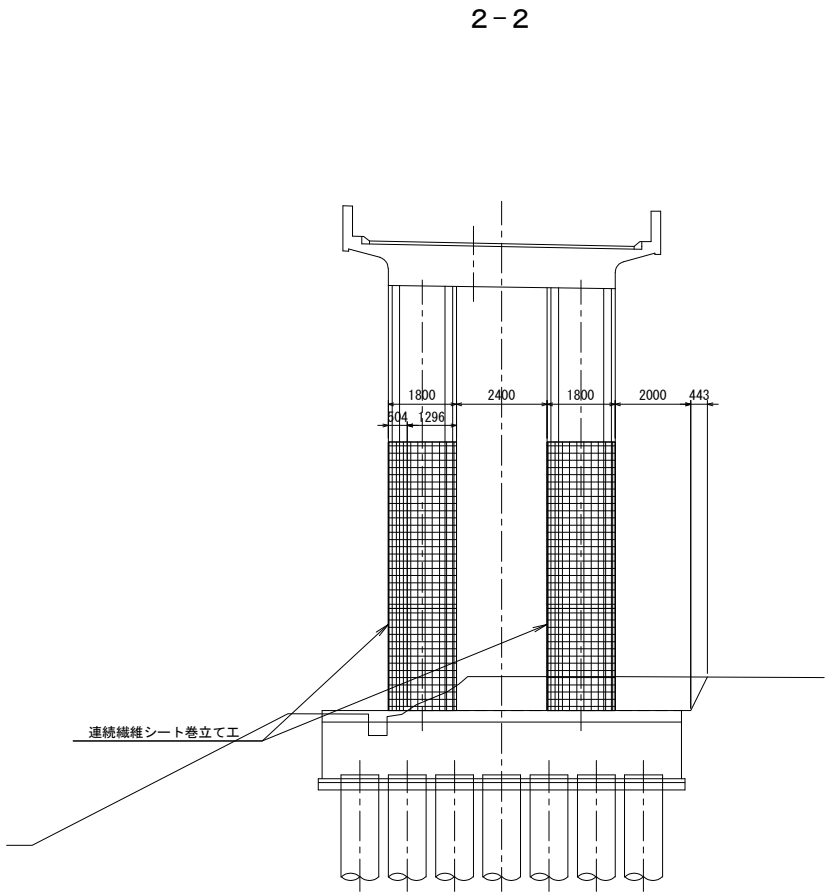
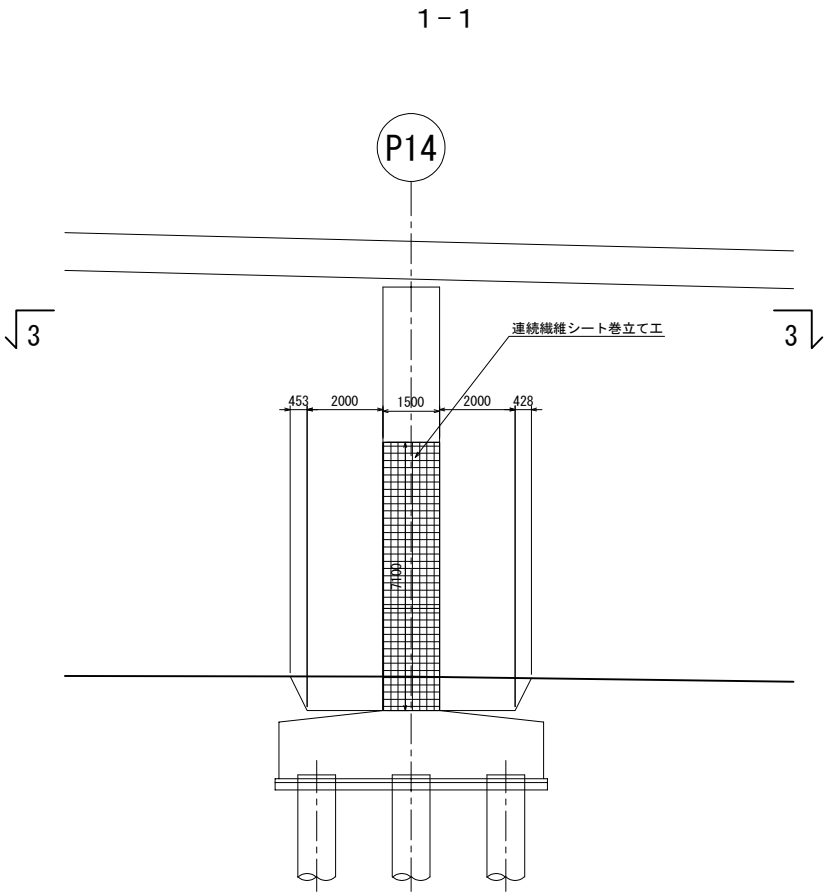
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P11橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



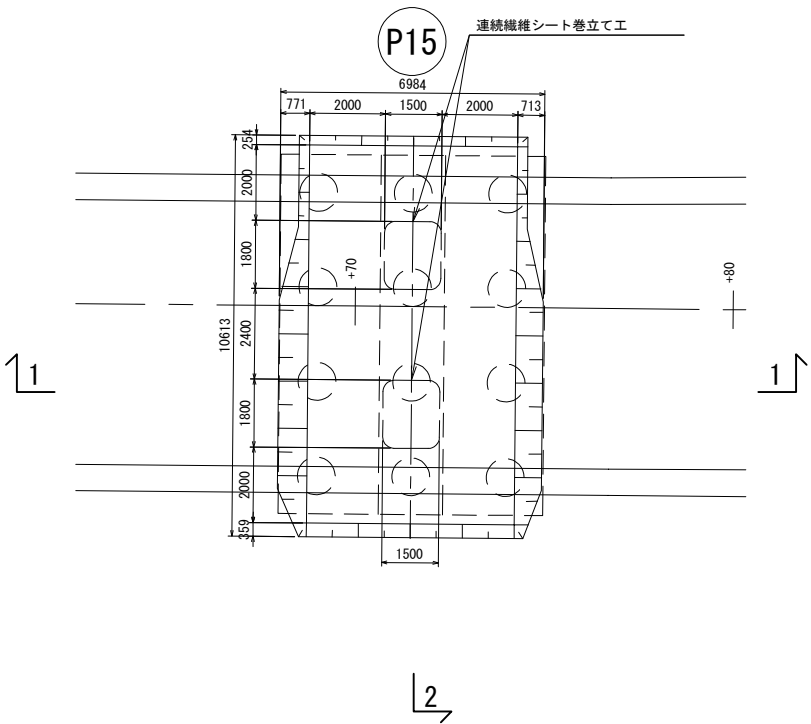
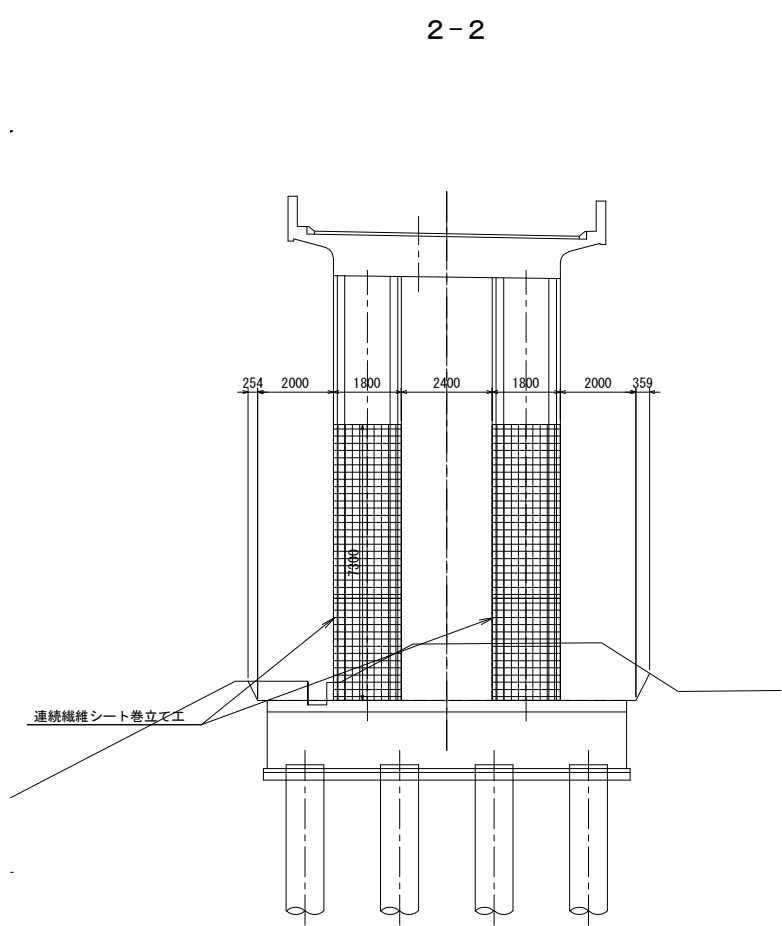
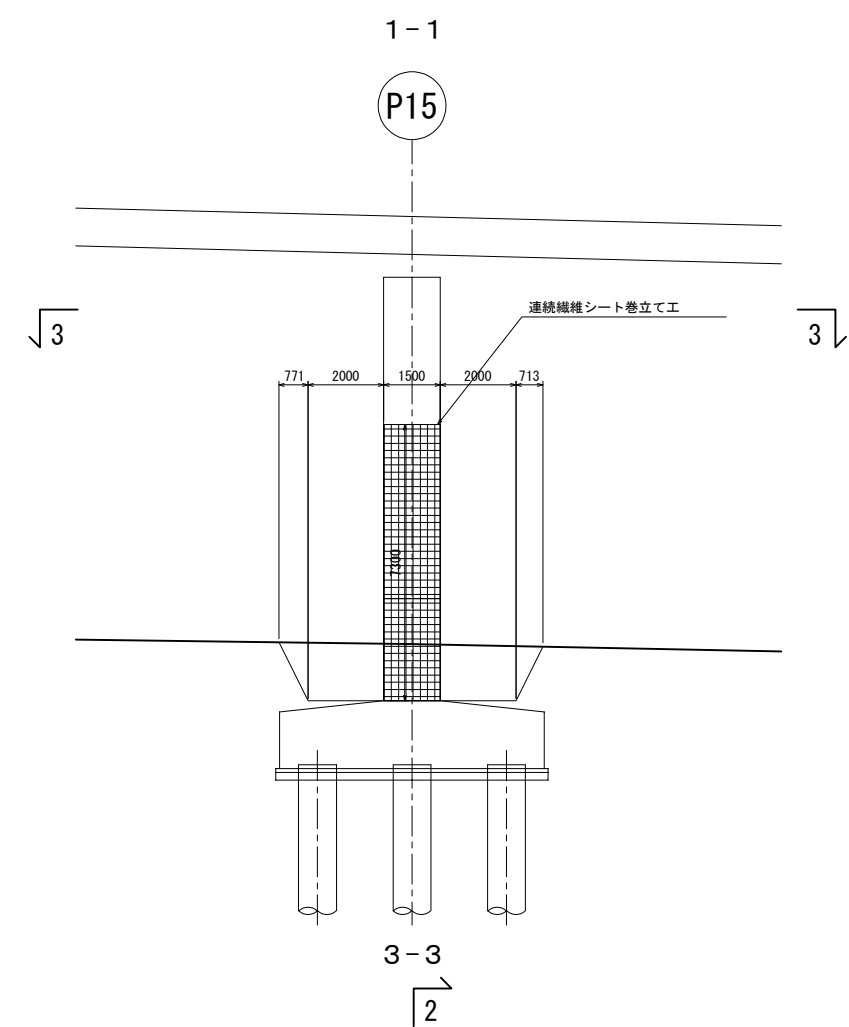
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚 構造物掘削図		
	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



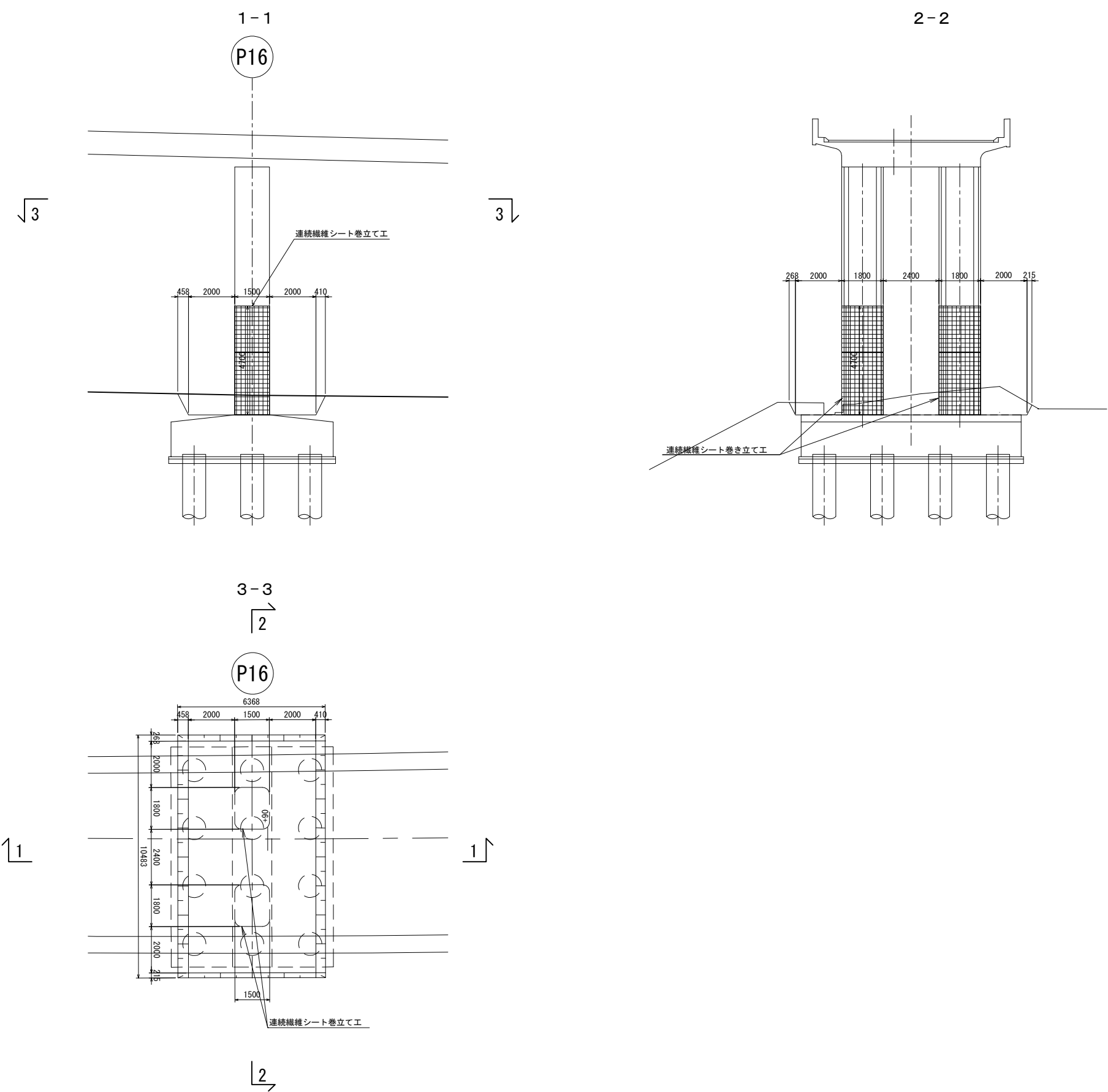
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P13橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



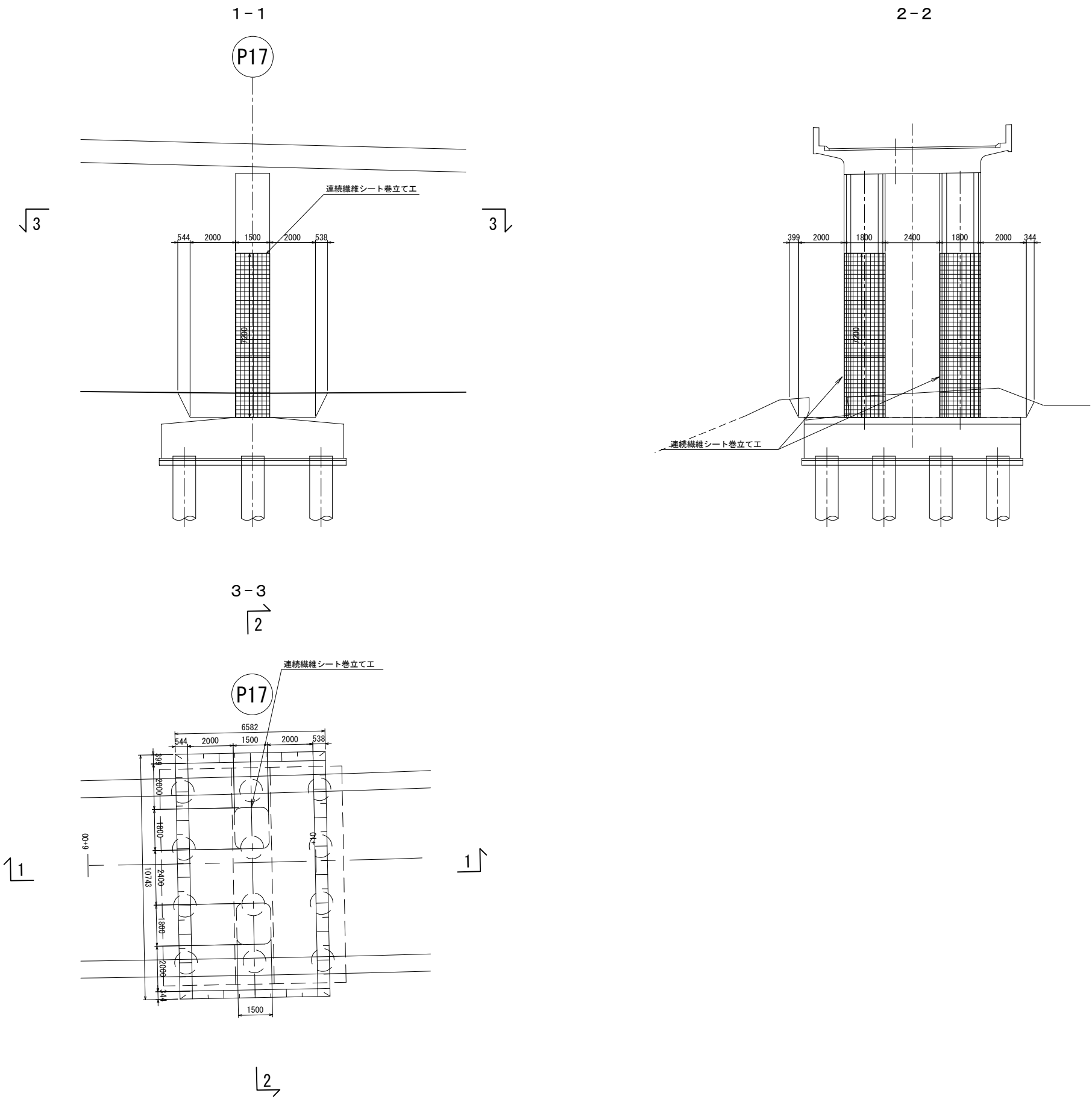
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P14橋脚 構造物掘削図		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



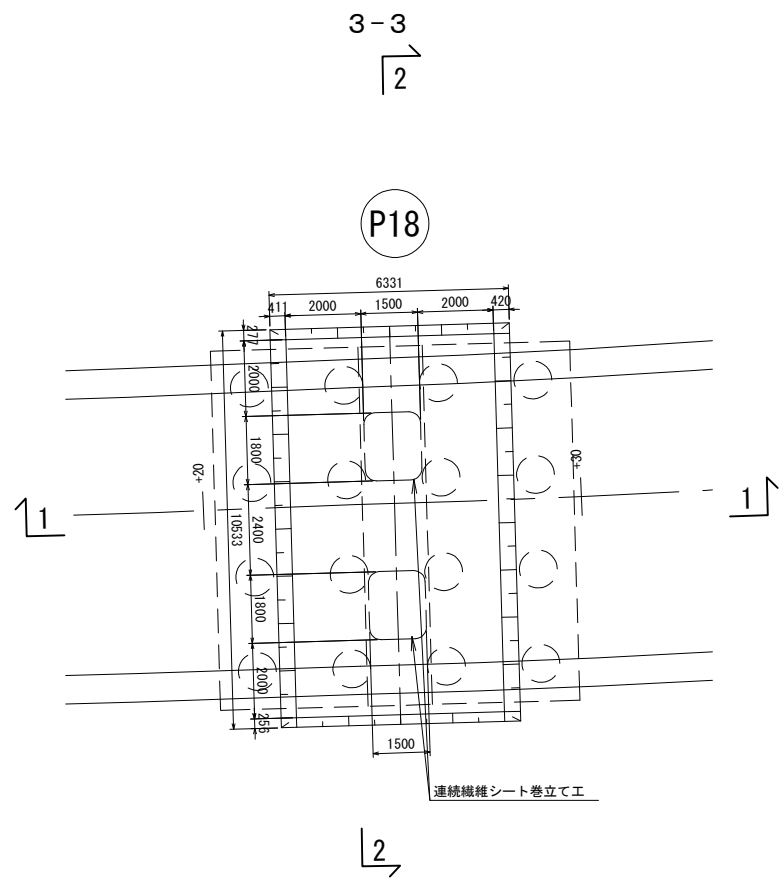
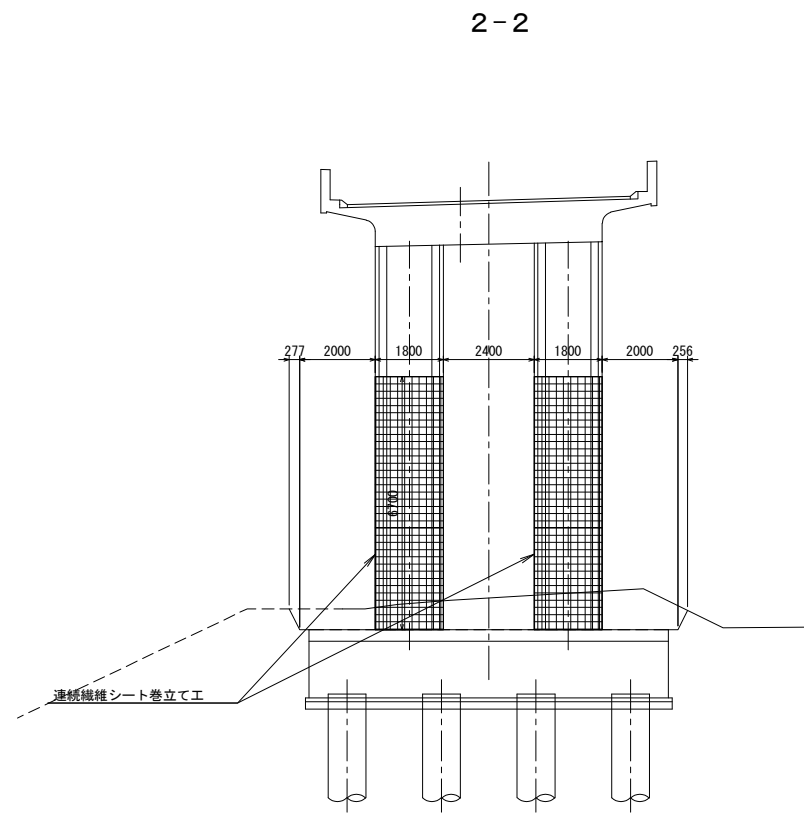
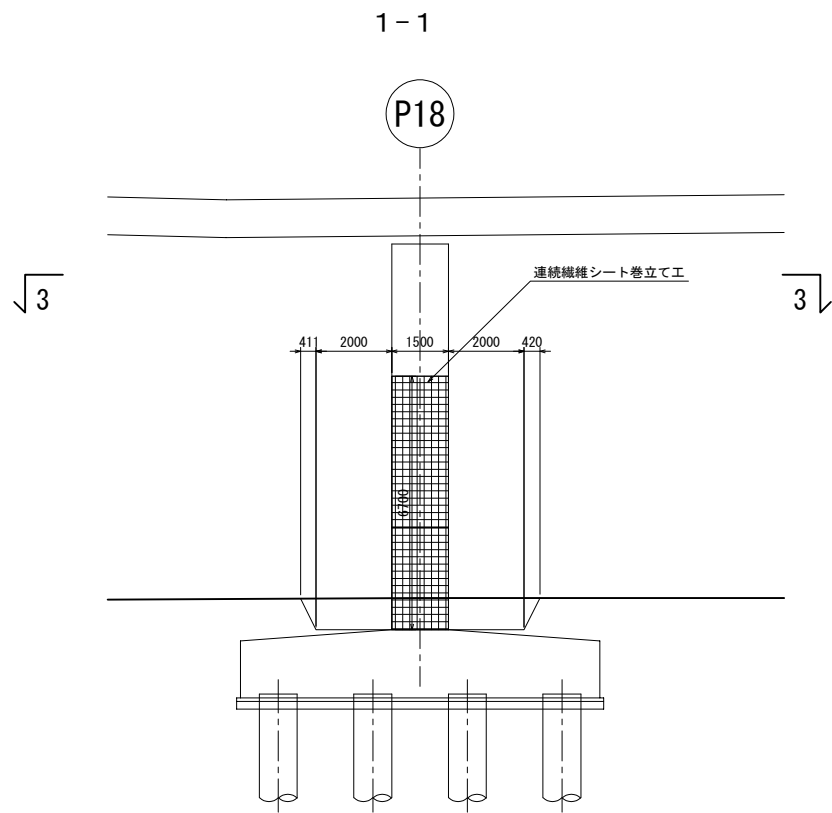
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P15橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



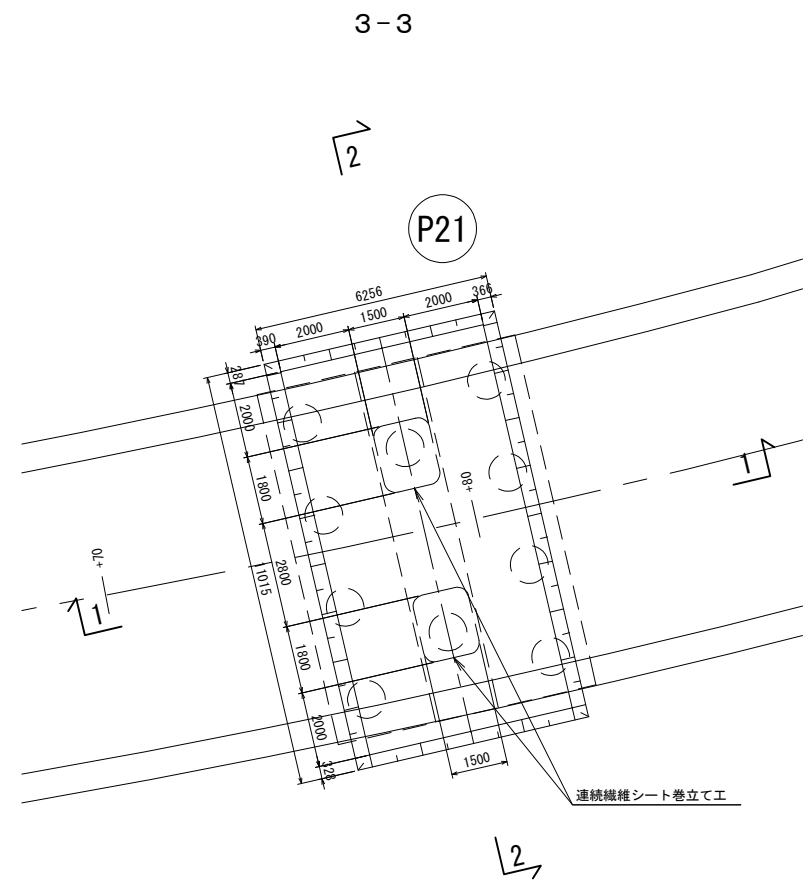
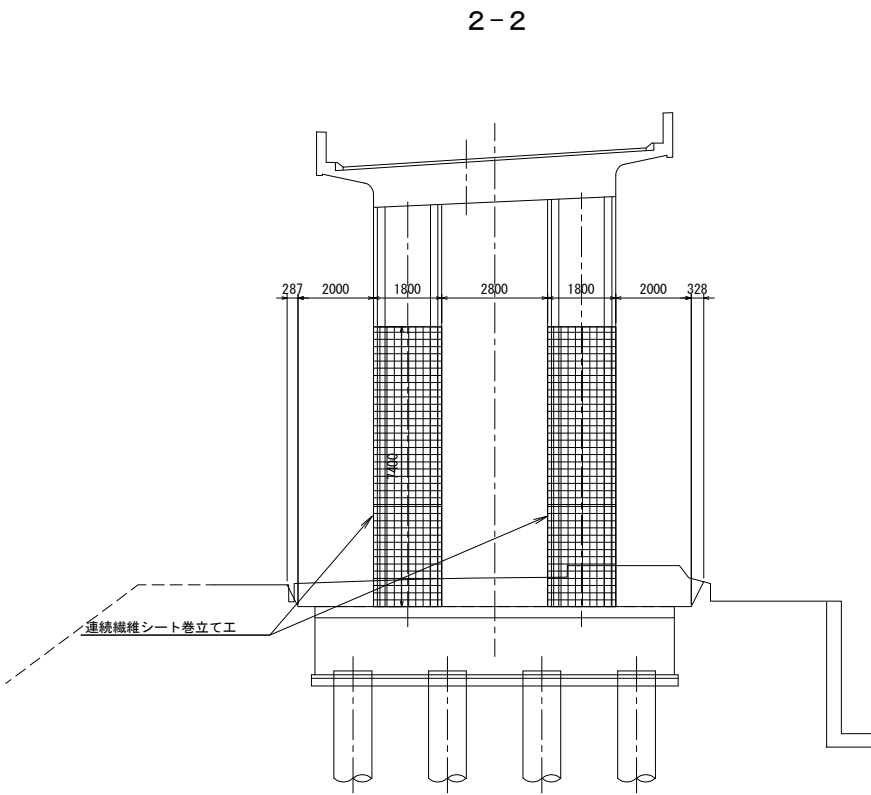
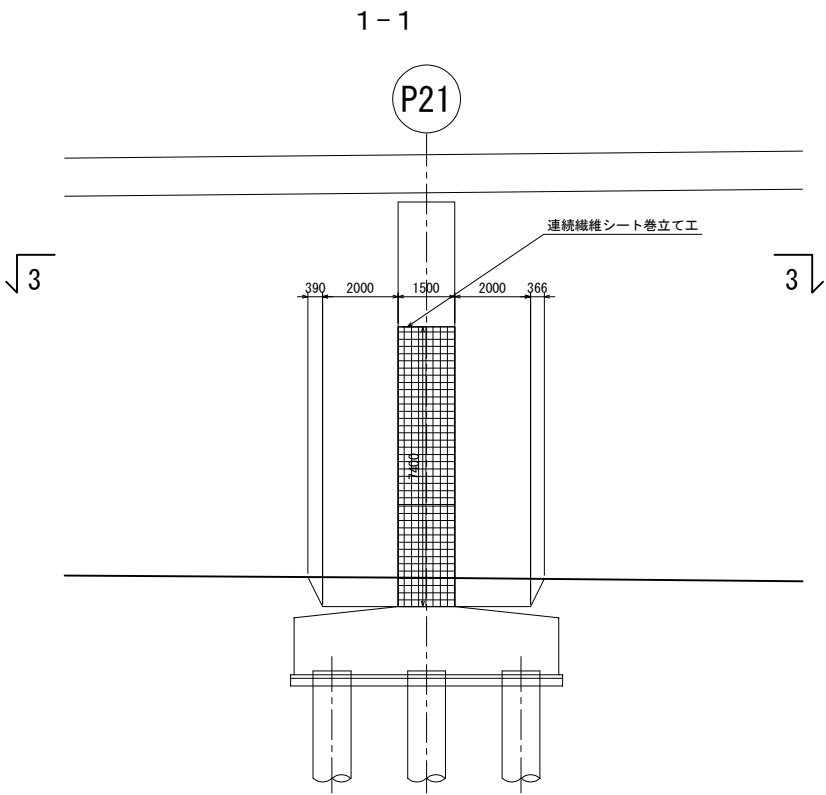
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P16橋脚 構造物掘削図		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



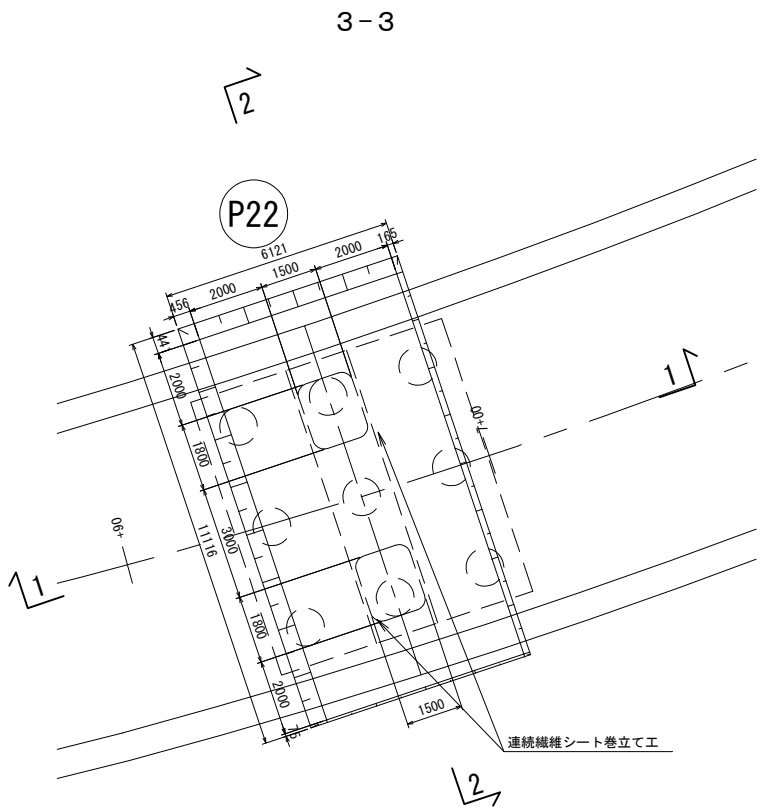
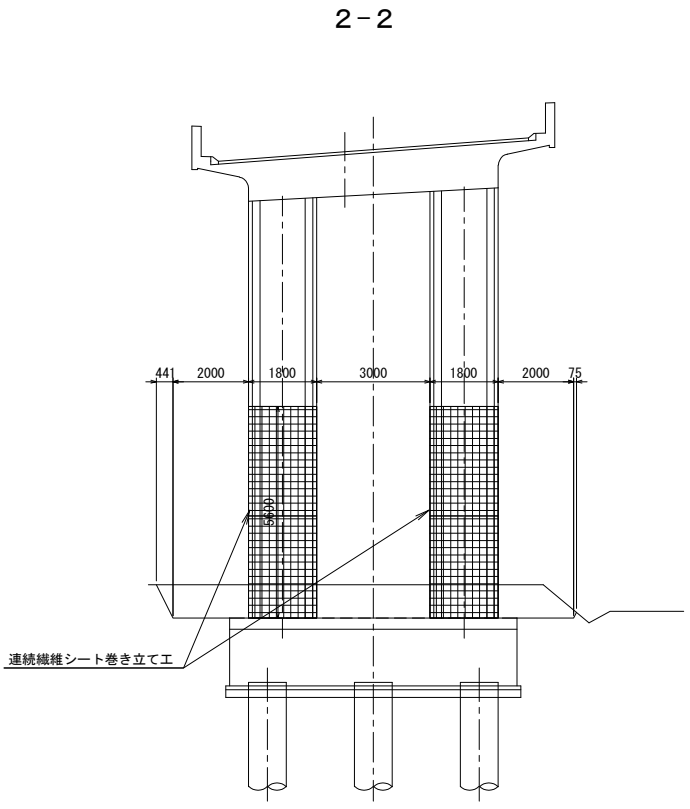
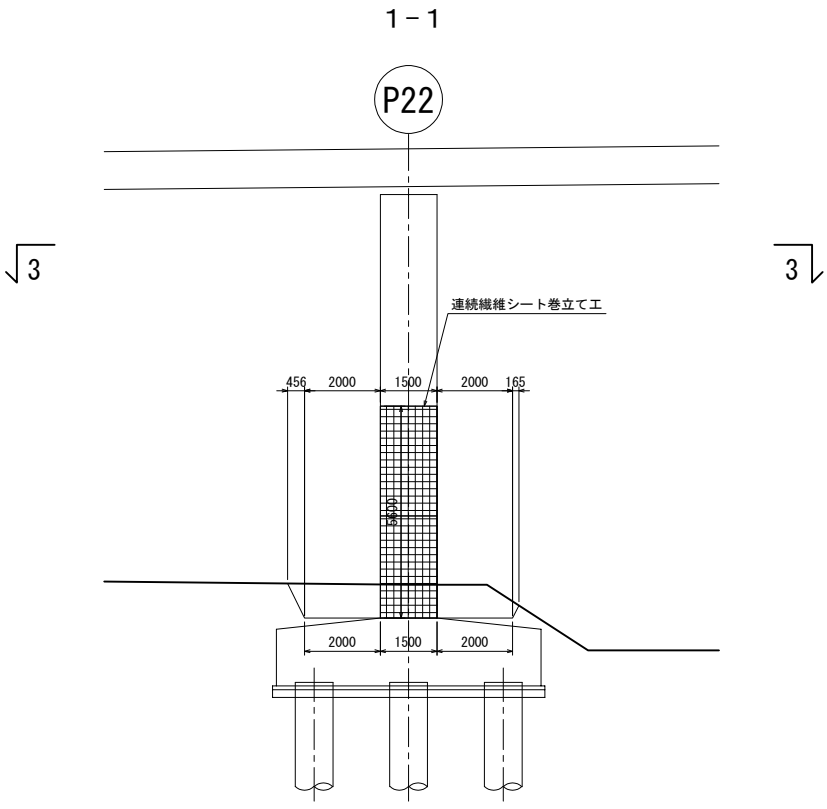
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P17橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



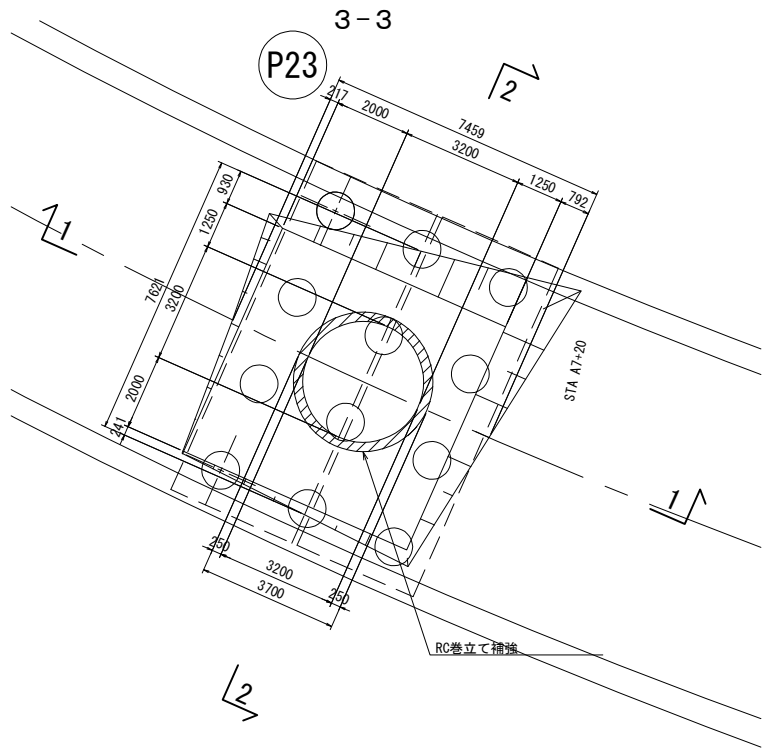
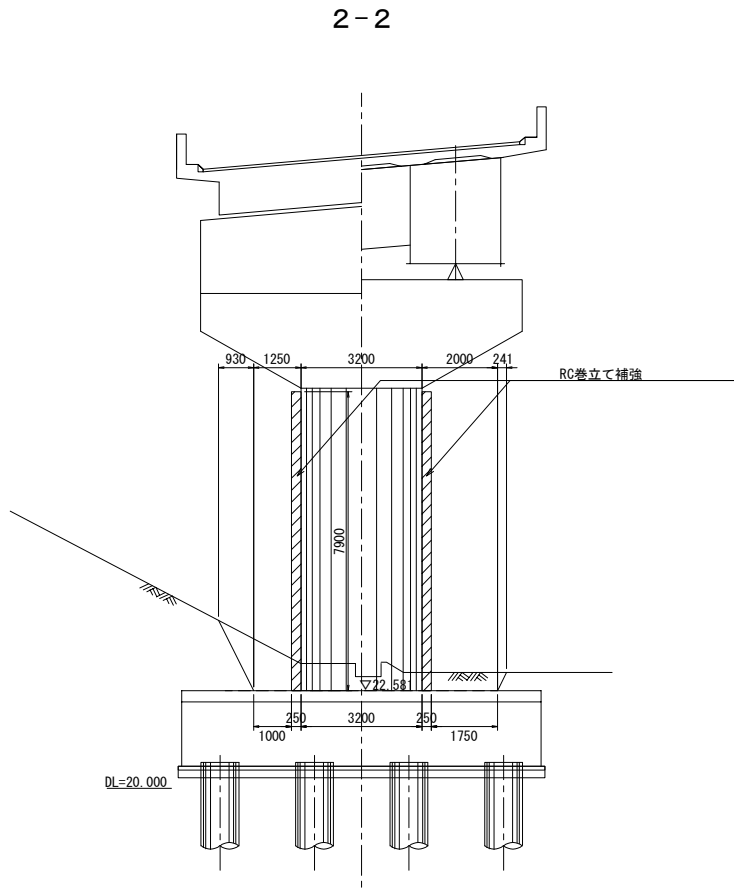
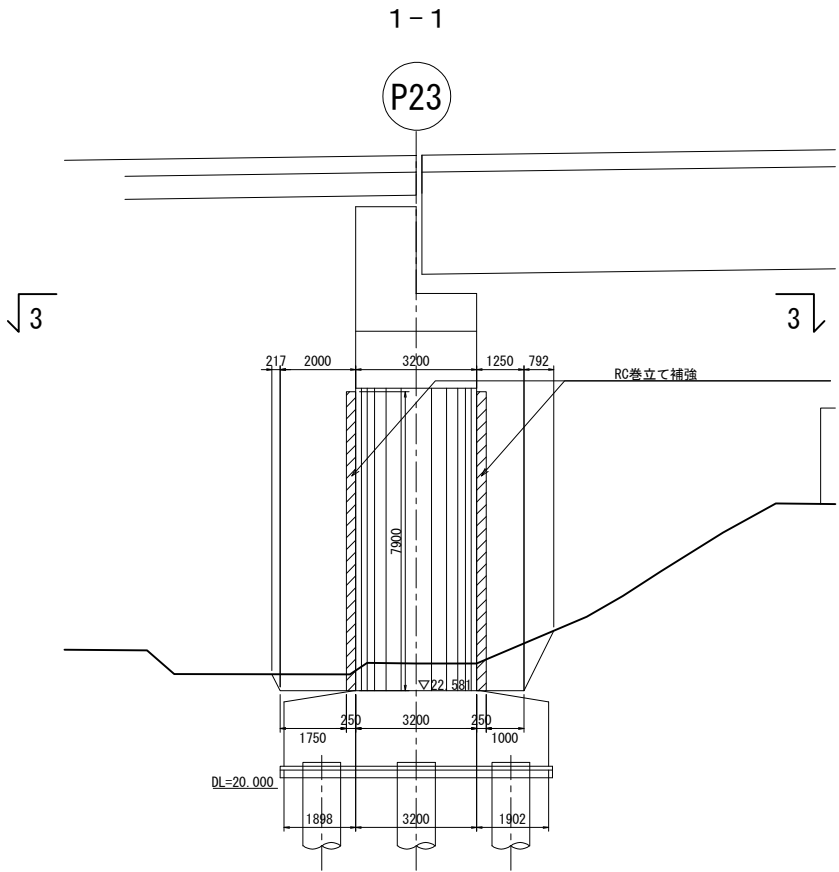
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P18橋脚 構造物掘削図		
	縮	尺	図示 図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



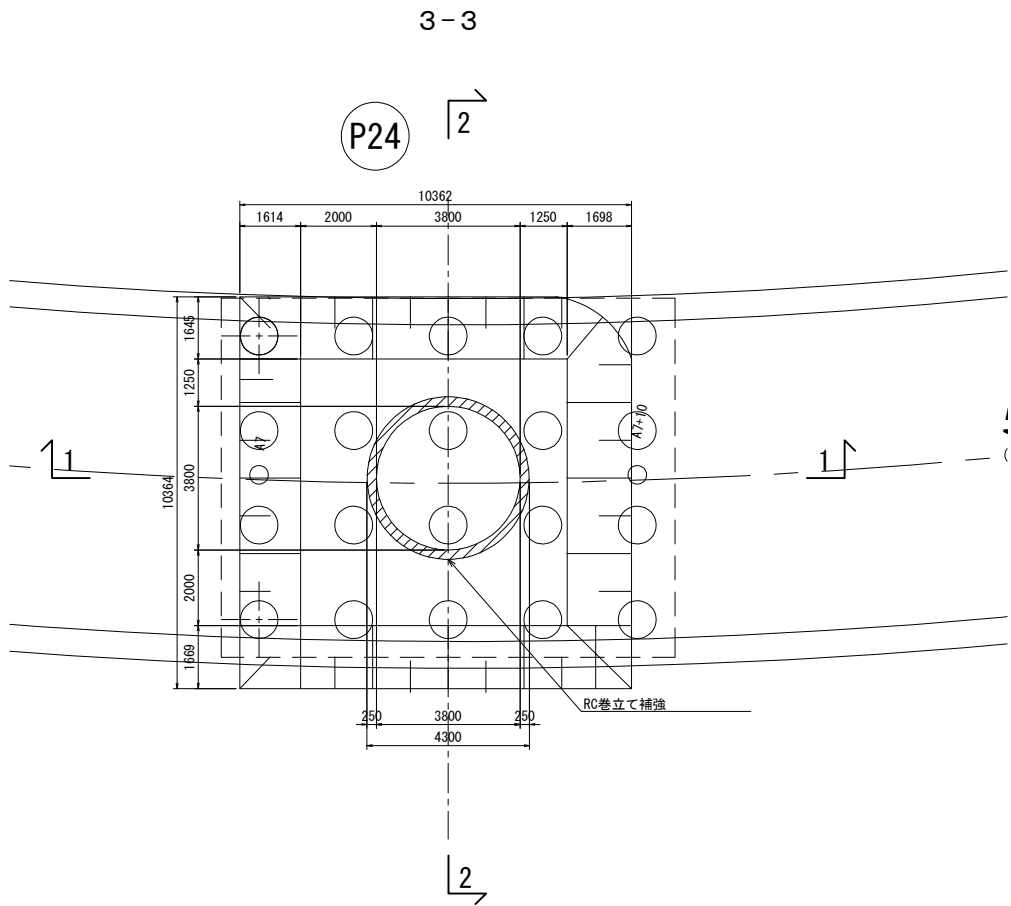
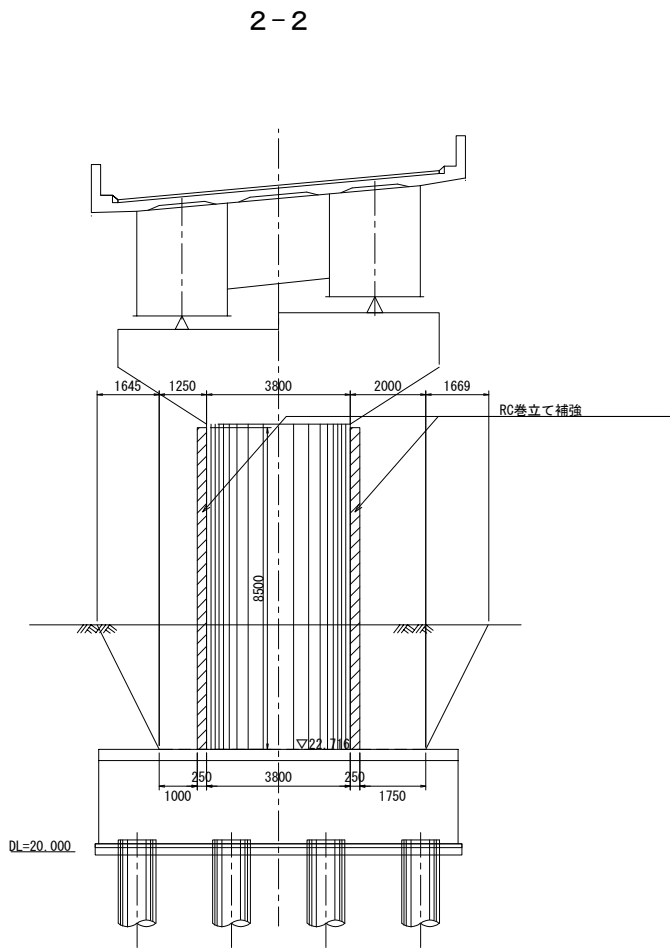
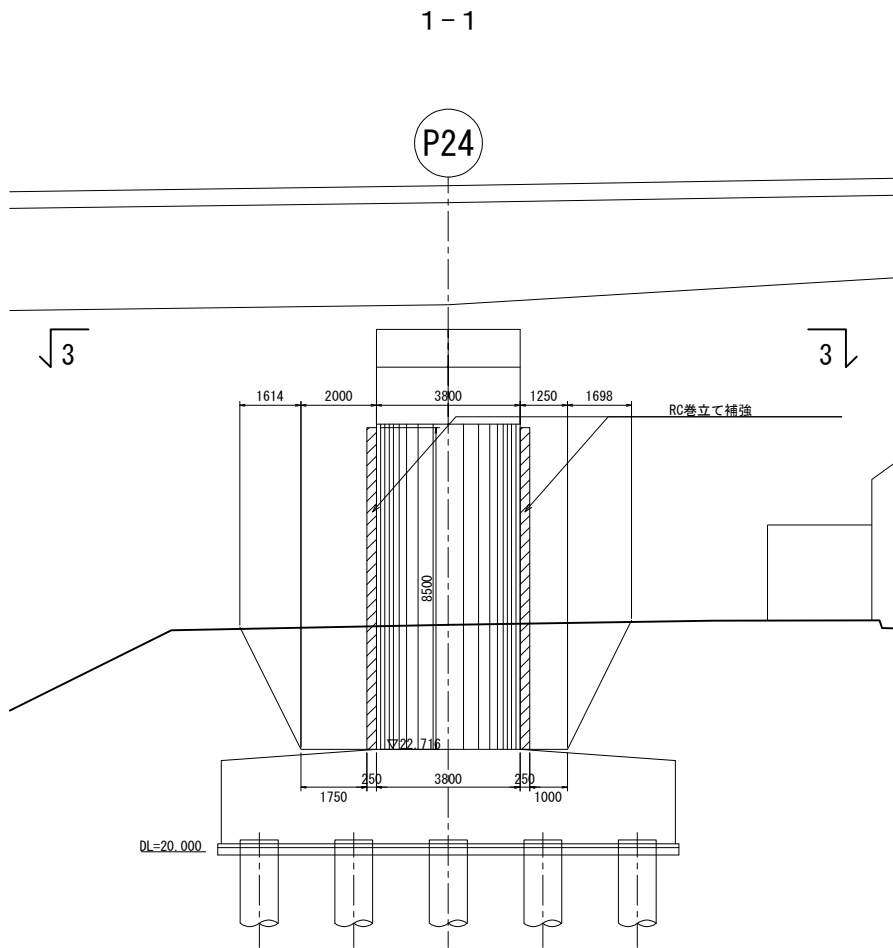
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P21橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P22橋脚 構造物掘削図		
	縮	尺	図示
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

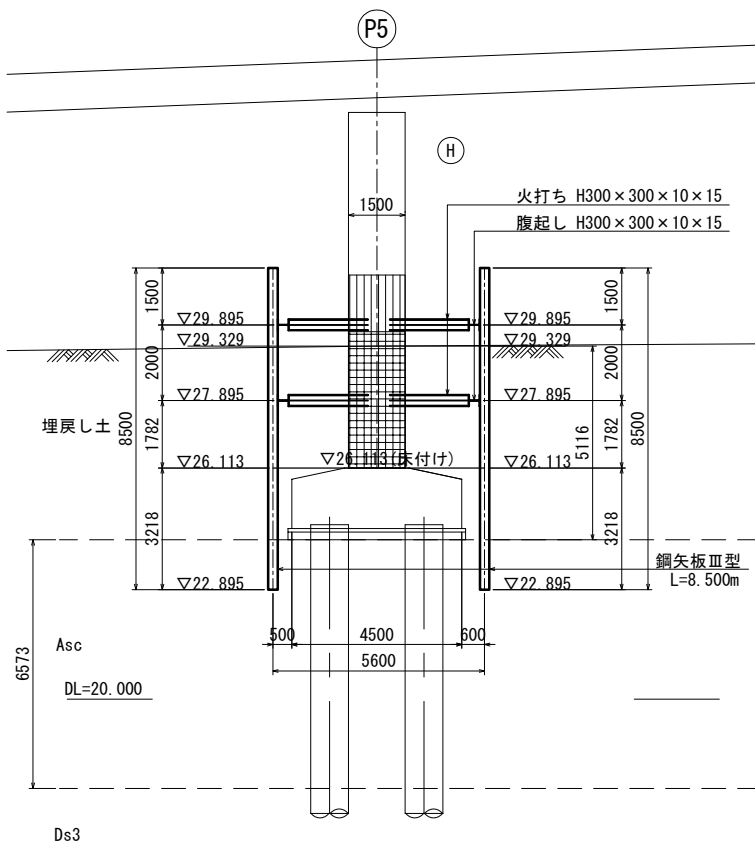


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

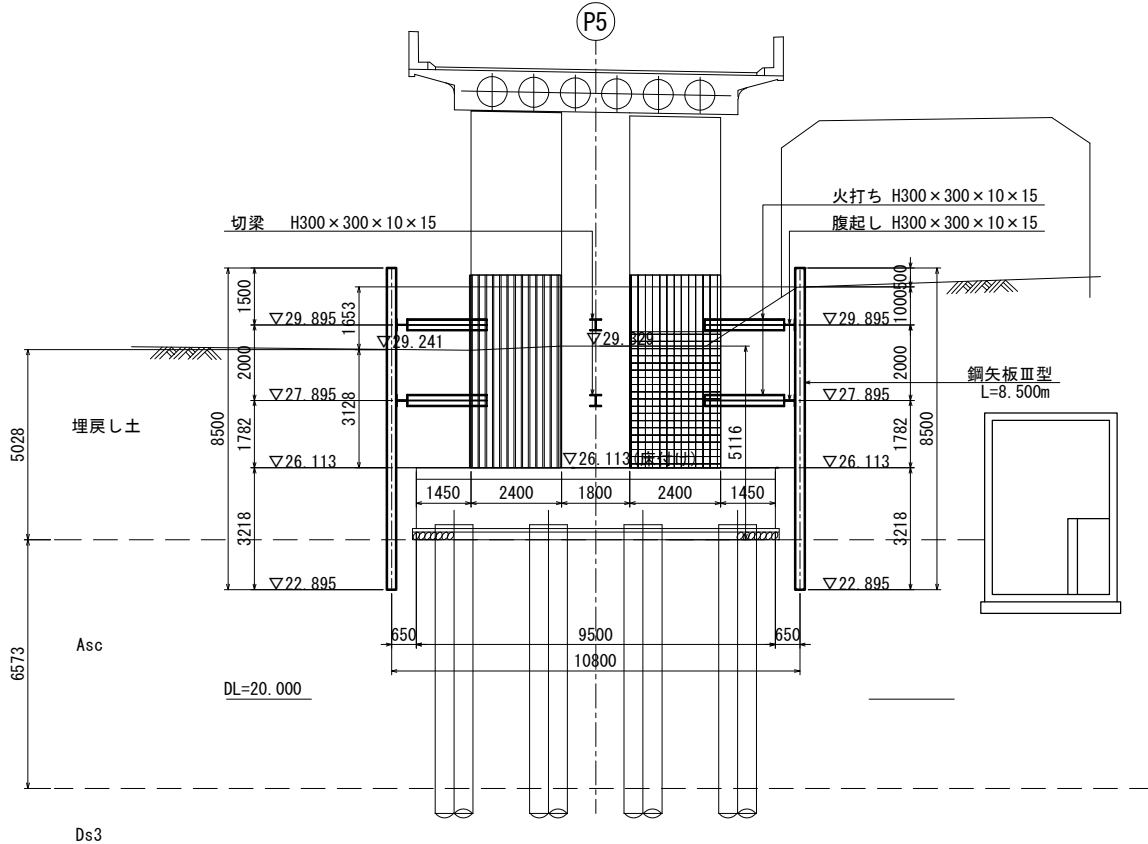


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P24橋脚 構造物掘削図		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

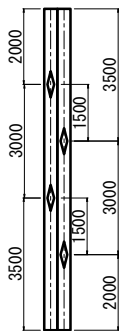
側 面 図



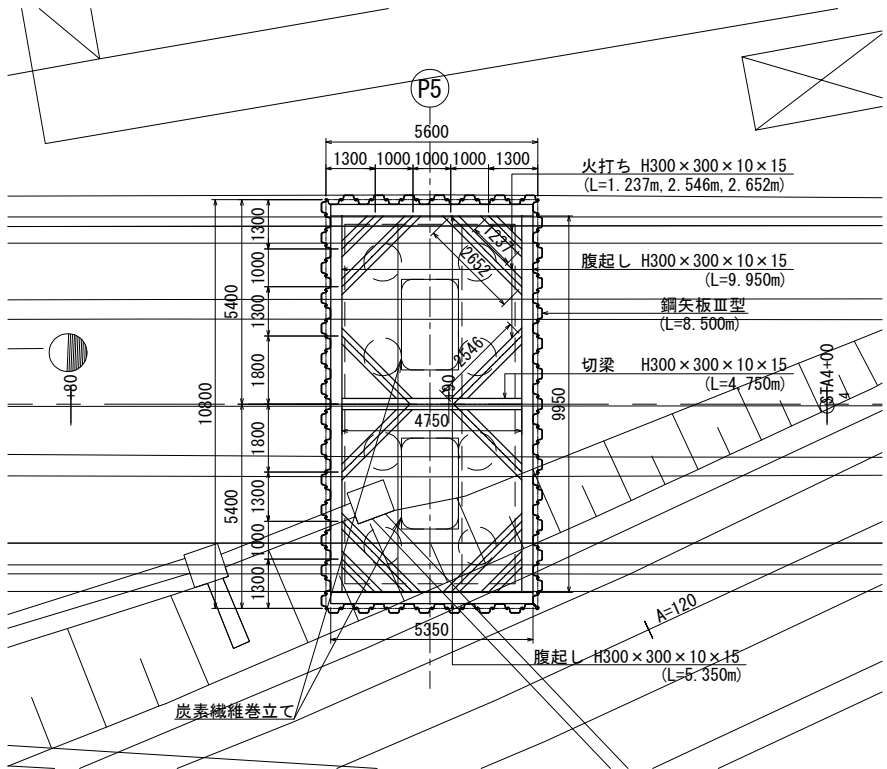
正 面 図



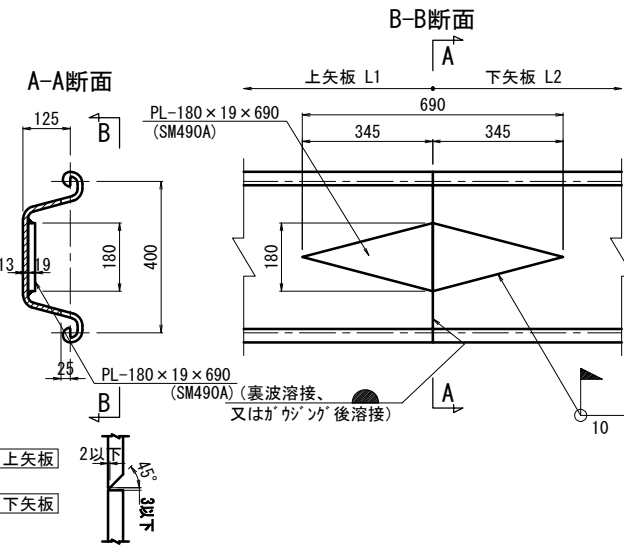
鋼矢板継手位置図



平 面 図 (1, 2段目)



継手工詳細図 S=1:20



- ※施工上の留意点
1. 内側菱形補強板は、隅肉サイズ10mmで全周溶接する。
 2. 上図斜線部は突合せ溶接する。

材料表

名称	規格・寸法	長さ (m)	枚数 (枚)	単位重量	質量 (kg)	備考
鋼矢板	Ⅲ型 (上空制限あり)	8.500	82	60.0	41,820	(新材)、SY295
合 計					41,820 kg	

名称	規格・寸法	長さ (m)	本数 (本)	単位重量	質量 (kg)	備考
腹起し	H-300×300×10×15	9.950	4	100.0	3,980	(リース材)、SS400
	H-300×300×10×15	5.350	4	100.0	2,140	(リース材)、SS400
切梁	H-300×300×10×15	4.750	2	100.0	950	(リース材)、SS400
	H-300×300×10×15	0.500	2	100.0	▲ 100	(控除分)、SS400
火打ち	H-300×300×10×15	2.652	8	100.0	2,122	隅火打ち (リース材)、SS400
	H-300×300×10×15	2.546	8	100.0	2,037	" (リース材)、SS400
	H-300×300×10×15	1.237	8	100.0	990	" (リース材)、SS400
	H-300×300×10×15	0.500	48	100.0	▲ 2,400	(控除分)、SS400
ジャッキ	H-300用		2	130.0	260	
ジャッキパー	H-300用		2	5.5	11	
火打ち受けベース	H-300用		48	60.0	2,880	

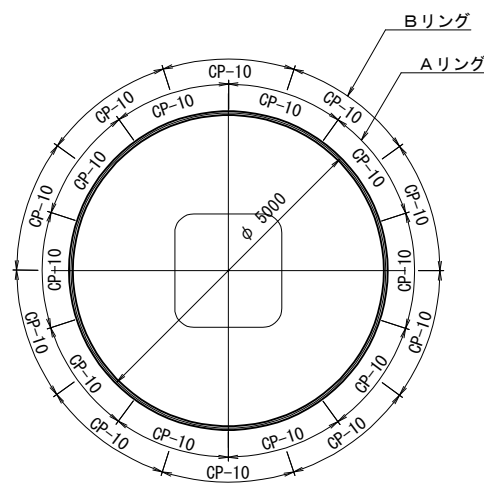
主部材合計				9,719 kg	
消耗部材		9,719	×	0.04=	389 kg
副部材合計				3,151 kg	
合 計					13,259 kg

※控除分は火打ち受けベースを示す。

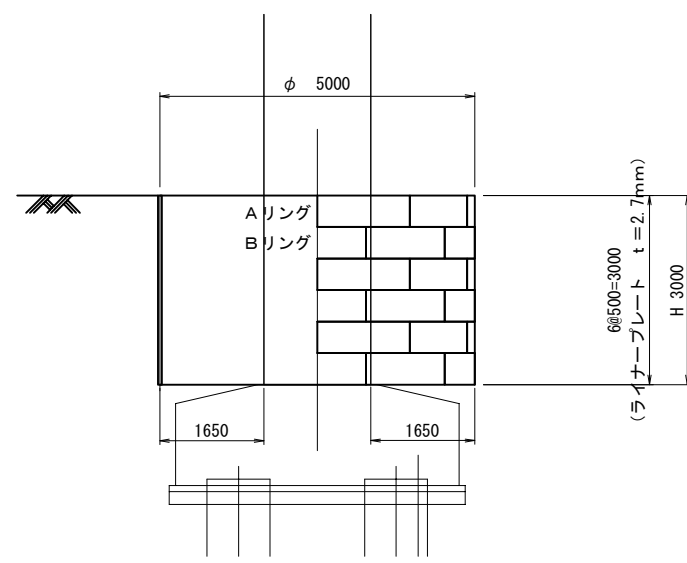
鋼矢板枚数 n=10.8/0.4=27×2=54
n=5.6/0.4=14×2=28 計 82枚

名称	規格・寸法	細別	Nmax	圧入・引抜き長	単位	数量	備考
鋼矢板継手箇所	鋼矢板Ⅲ型				箇所	82	
鋼矢板打設	油圧圧入機	Ⅲ型、L=8.5m、2箇所継	Nmax≤25	18m以下	枚	82	
鋼矢板引抜き	油圧圧入機	Ⅲ型、L=8.5m、2箇所切断		18m以下	枚	82	

ライナープレート平面割付図 S=1:60



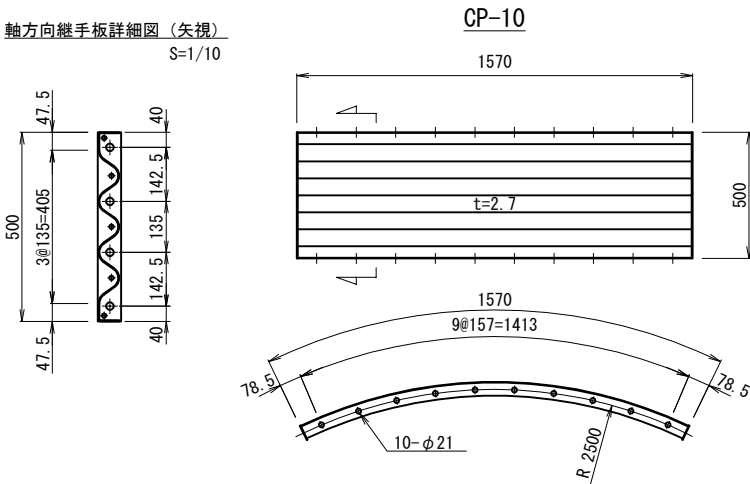
ライナープレート断面図、側面図 S=1:60



材料表

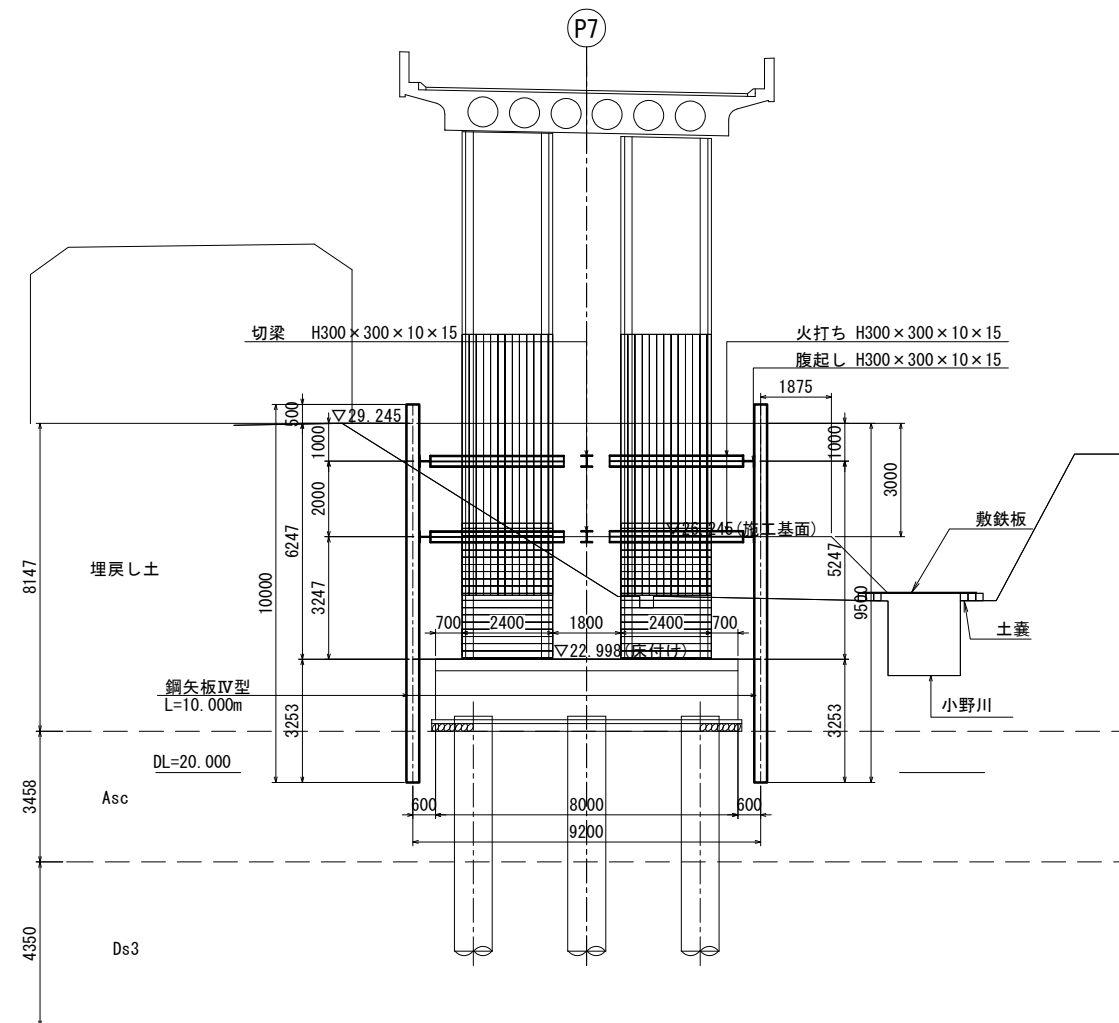
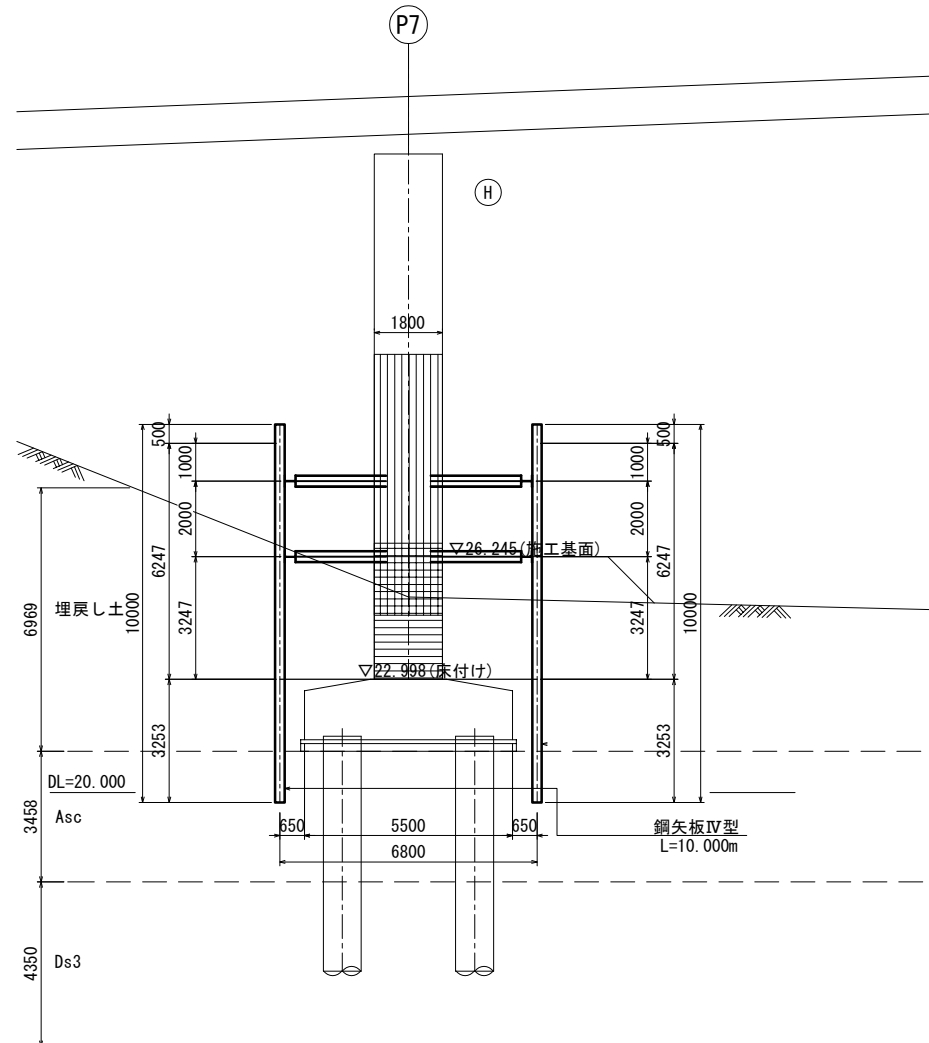
名 称	寸 法 (mm)	単体質量 (kg)	数 量	質 量 (kg)	備 考
ライナープレート (t=2.7mm)・・・H=3.0m					
ライナープレート	2.7×500×1570 (CP-10)	26.0	60	1560.0	黒皮
組立ボルト	M16×30 (4.6, LP用)	0.137	740	101.4	
合 計				1661.4 kg	

ライナープレート詳細図 S=1:15

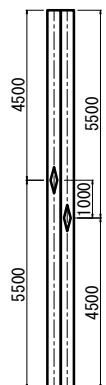


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 仮設構造物詳細図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

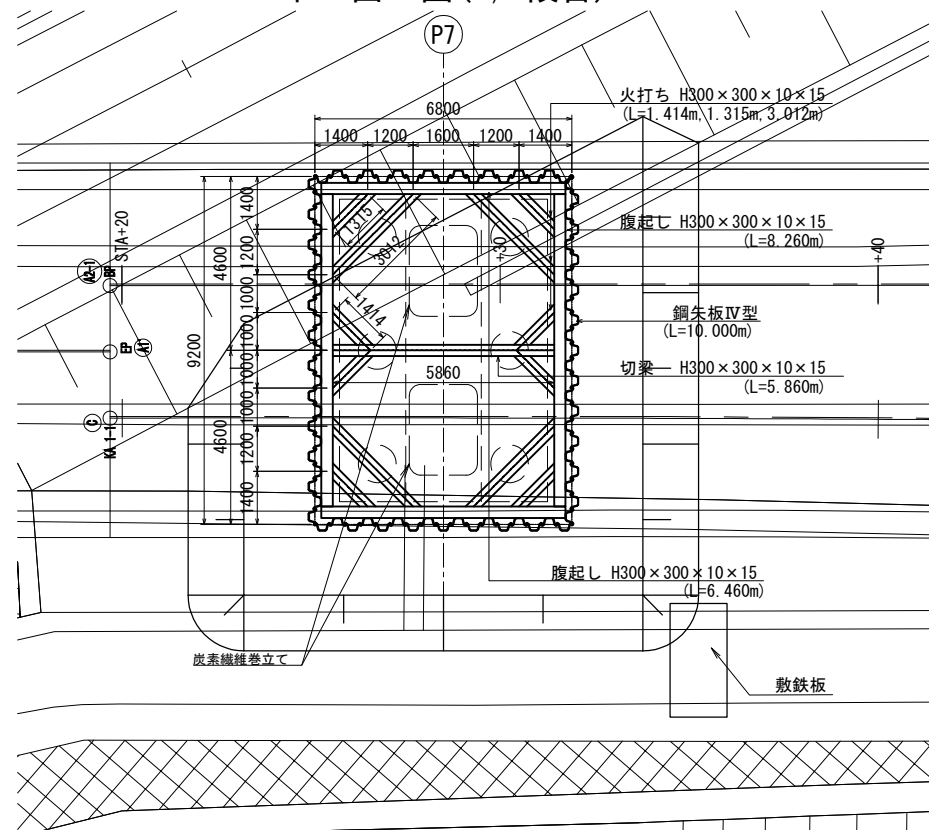
正 面 図



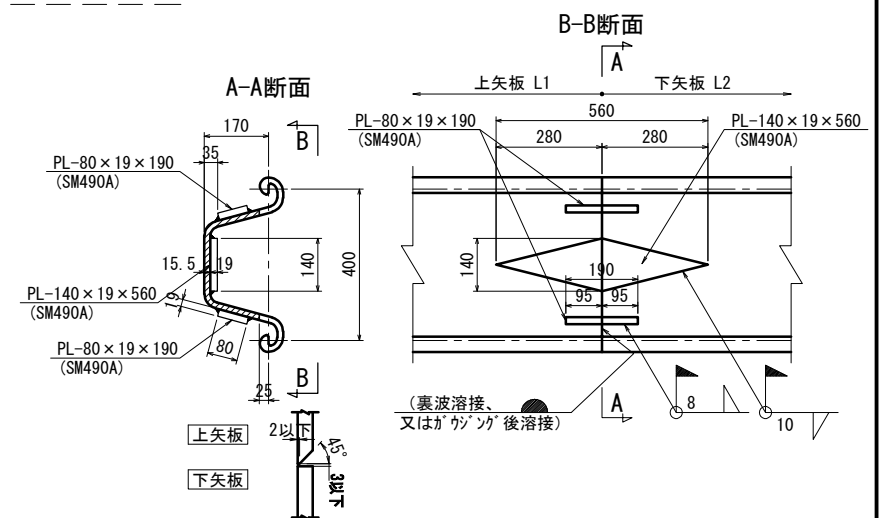
鋼矢板継手位置図



平 面 図(1, 2段目)



継手工詳細図 S=1:20



- ※施工上の留意点
1. 内側菱形補強板は、隅肉サイズ10mmで全周溶接する。
 2. 外側矩形補強板は、隅肉サイズ8mmで全周溶接する。
 3. 上図斜線部は突合せ溶接する。

材料表

名称	規格・寸法	長さ(m)	枚数(枚)	単位重量	質量(kg)	備考
鋼矢板	Ⅳ型	10.000	80	76.1	60.880	(新材)、SY29
合 計					60.880 kg	

名称	規格・寸法	長さ(m)	本数(本)	単位重量	質量(kg)	備考
腹起し	H-300×300×10×15	8.260	4	100.0	3,304	(リース材)、SS40
	H-300×300×10×15	6.460	4	100.0	2,584	(リース材)、SS40
切梁	H-300×300×10×15	5.860	2	100.0	1,172	(リース材)、SS40
	H-300×300×10×15	0.500	2	100.0	▲ 100	(控除分)、SS40
火打ち	H-300×300×10×15	3.012	8	100.0	2,410	隅火打ち (リース材)、SS40
	H-300×300×10×15	1.414	8	100.0	1,131	〃 (リース材)、SS40
	H-300×300×10×15	1.315	8	100.0	1,052	〃 (リース材)、SS40
	H-300×300×10×15	0.500	48	100.0	▲ 2,400	(控除分)、SS40
ジャッキ	H-300用		2	130.0	260	
ジャッキバー	H-300用		2	5.5	11	
火打ち受けボス	H-300用		48	60.0	2,880	

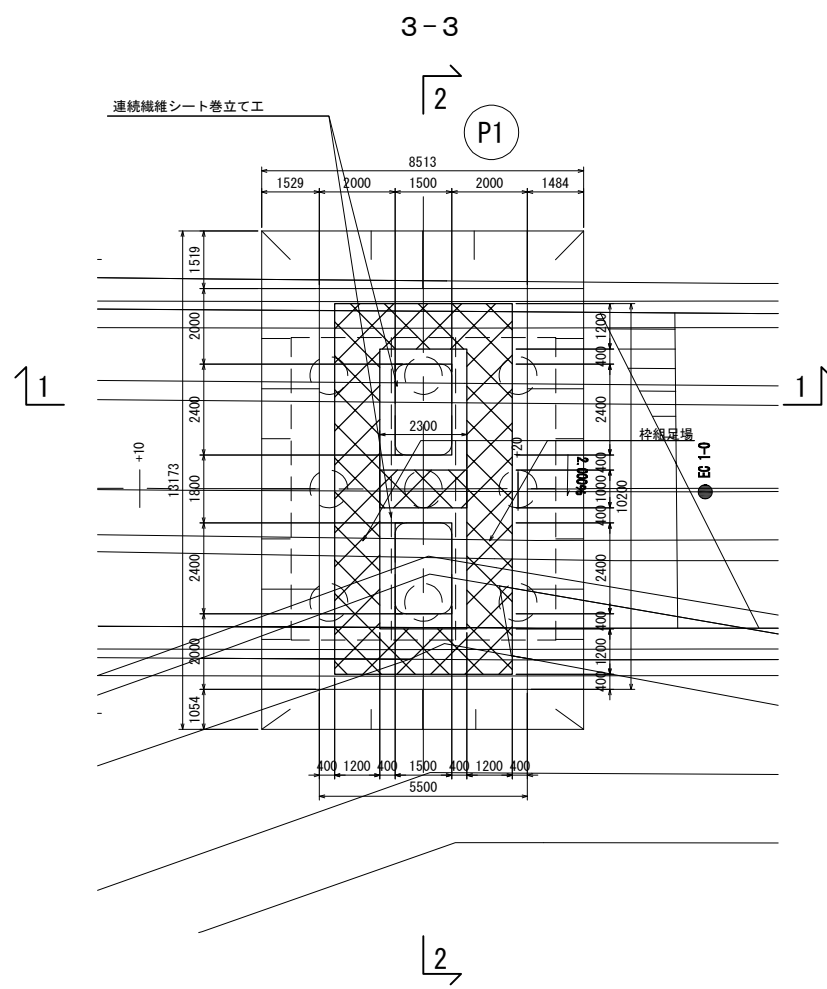
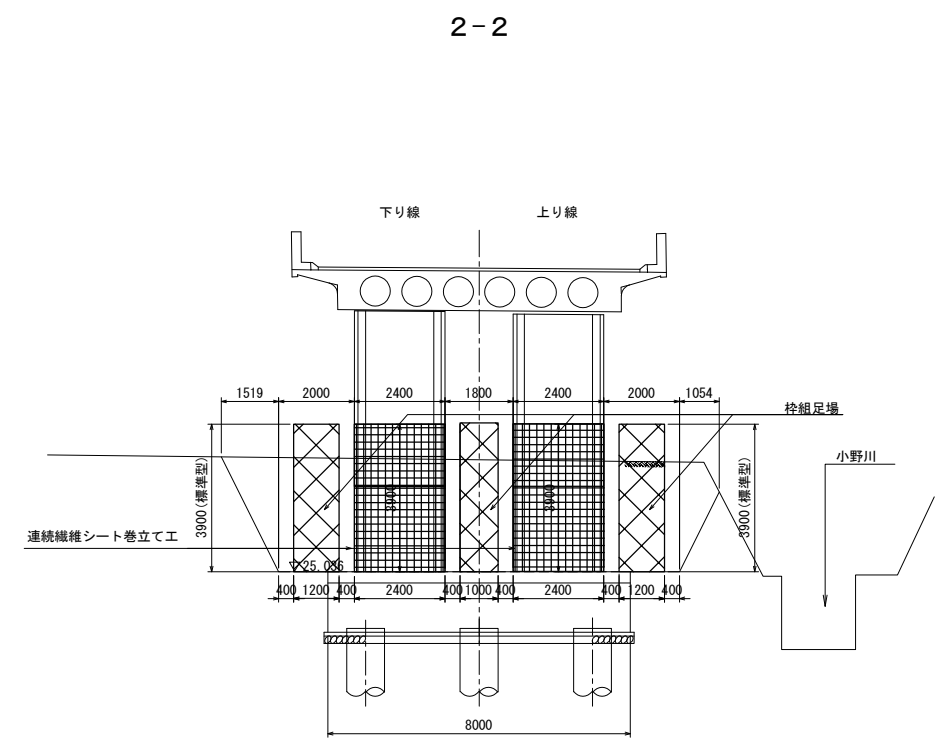
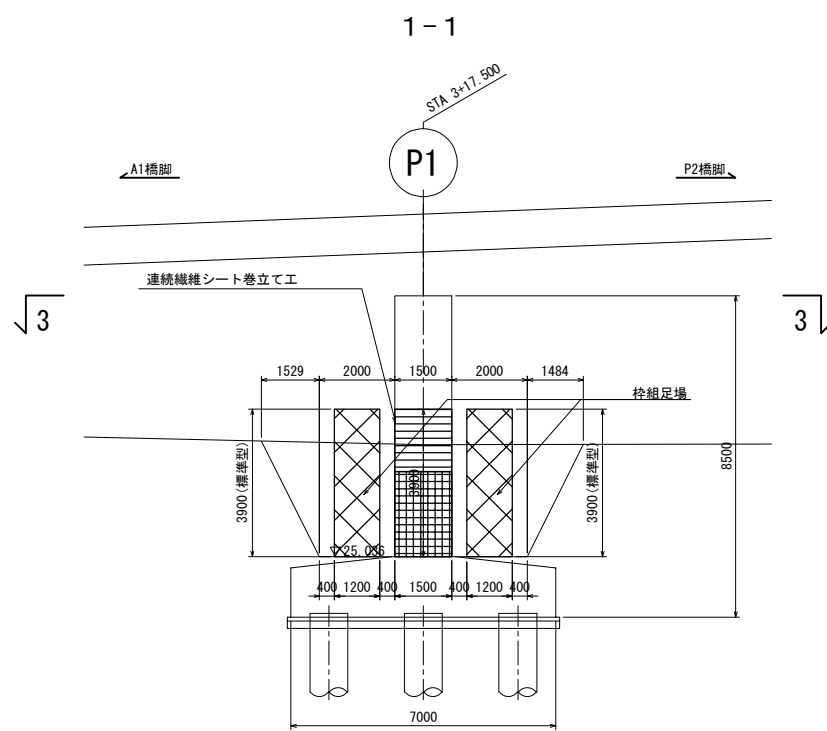
主部材合計				9,153	kg
消耗部材	9,153	×	0.04=	366	kg
副部材合計				3,151	kg
			合 計	12,670	kg

※控除分は火打ち受けピースを示す。

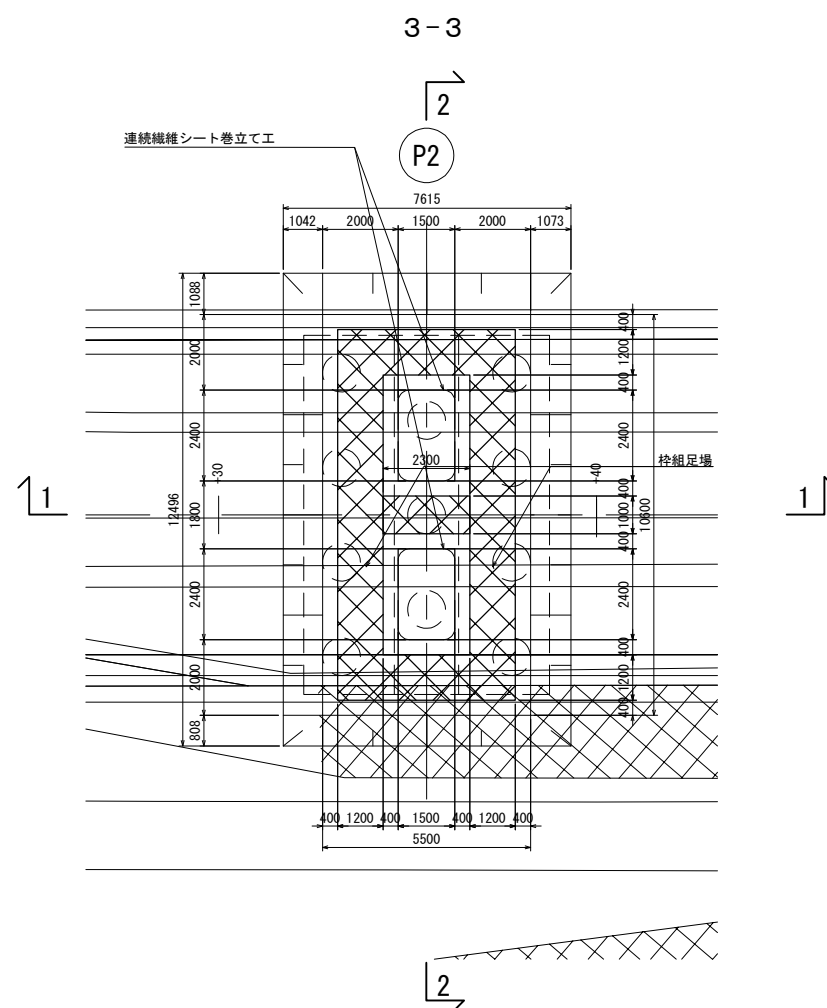
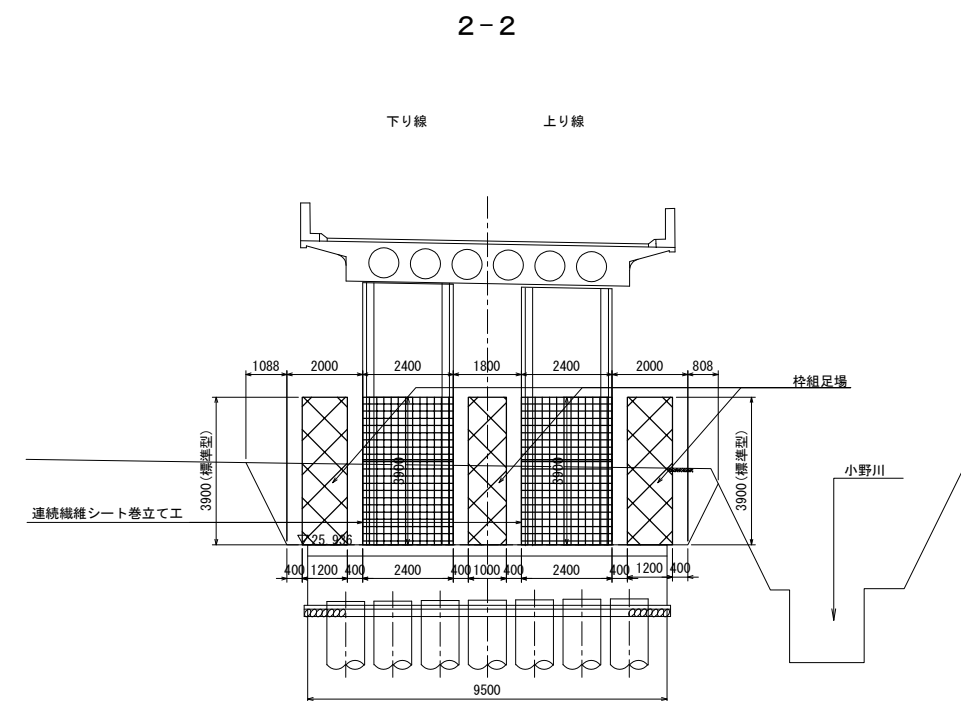
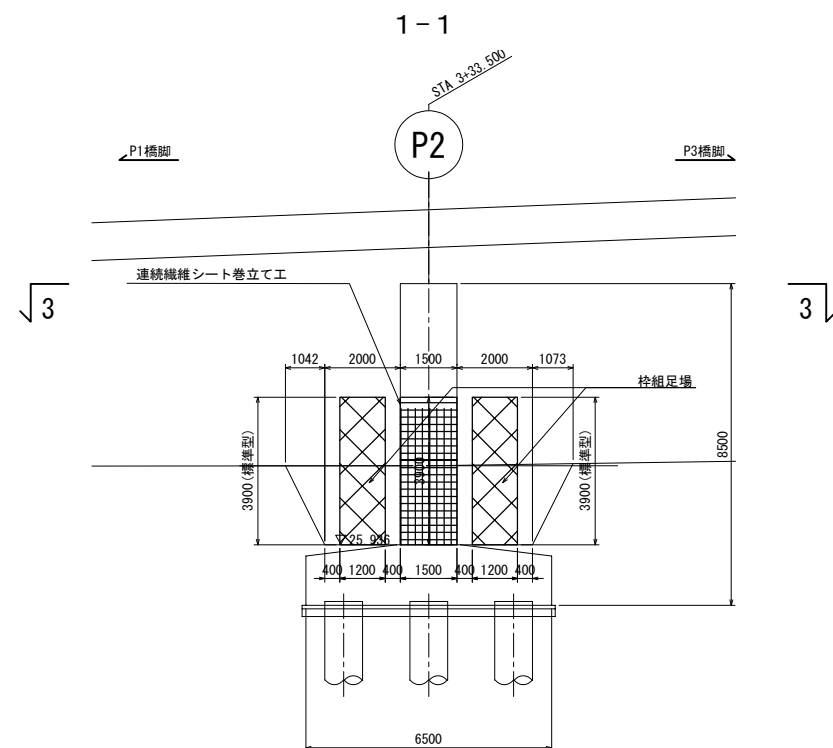
鋼矢板枚数 $n=9.2/0.4=23 \times 2=46$
 $n=6.8/0.4=17 \times 2=34$ 計 80枚

名称	規格・寸法	細別	Nmax	圧入・引抜き長	単位	数量	備考
鋼矢板継手箇所	鋼矢板Ⅳ型				箇所	80	
鋼矢板打設	油圧圧入機	Ⅳ型、L=10.0m、1箇所継	$N_{max} \leq 25$	20m以下	枚	80	
鋼矢板引抜き	油圧圧入機	Ⅳ型、L=10.0m、1箇所切断		20m以下	枚	80	

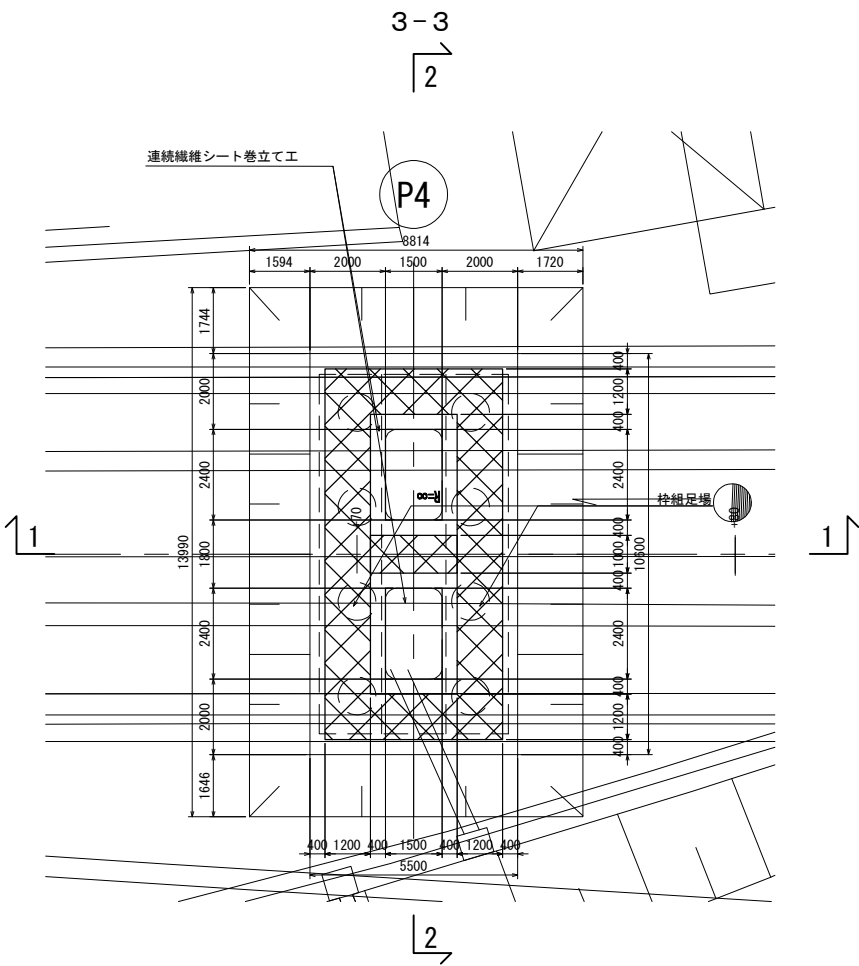
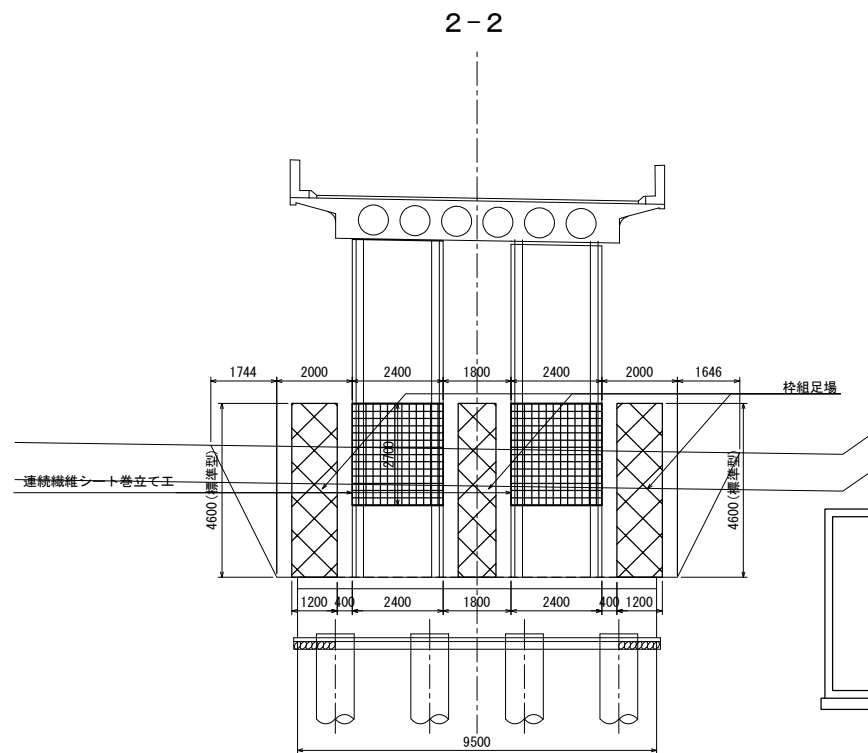
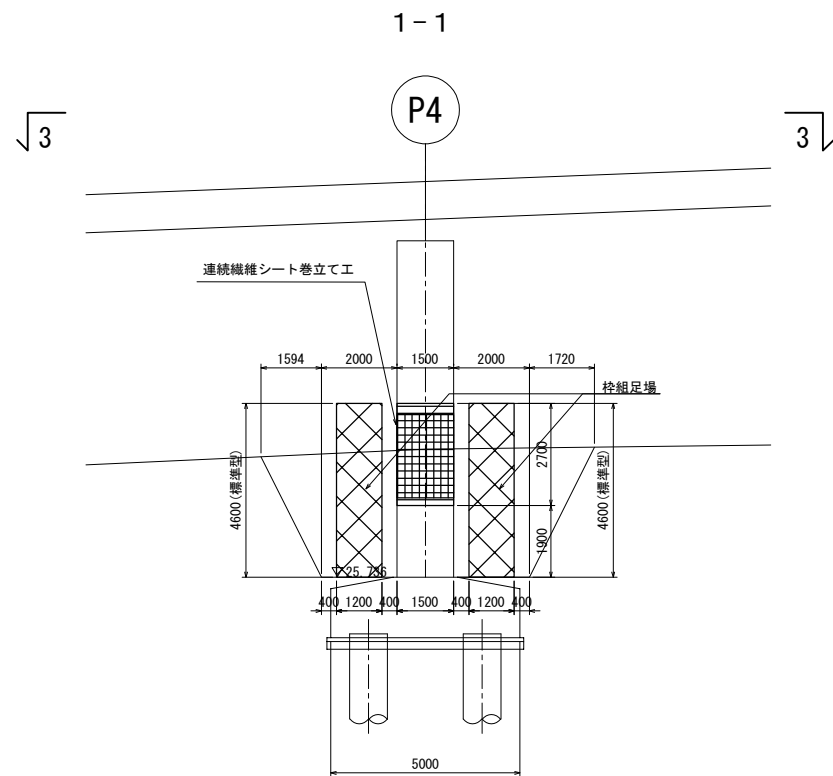
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		東金IC Aランプ橋 P7橋脚 仮設構造物詳細図	
縮	尺	図示	図面番号
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	



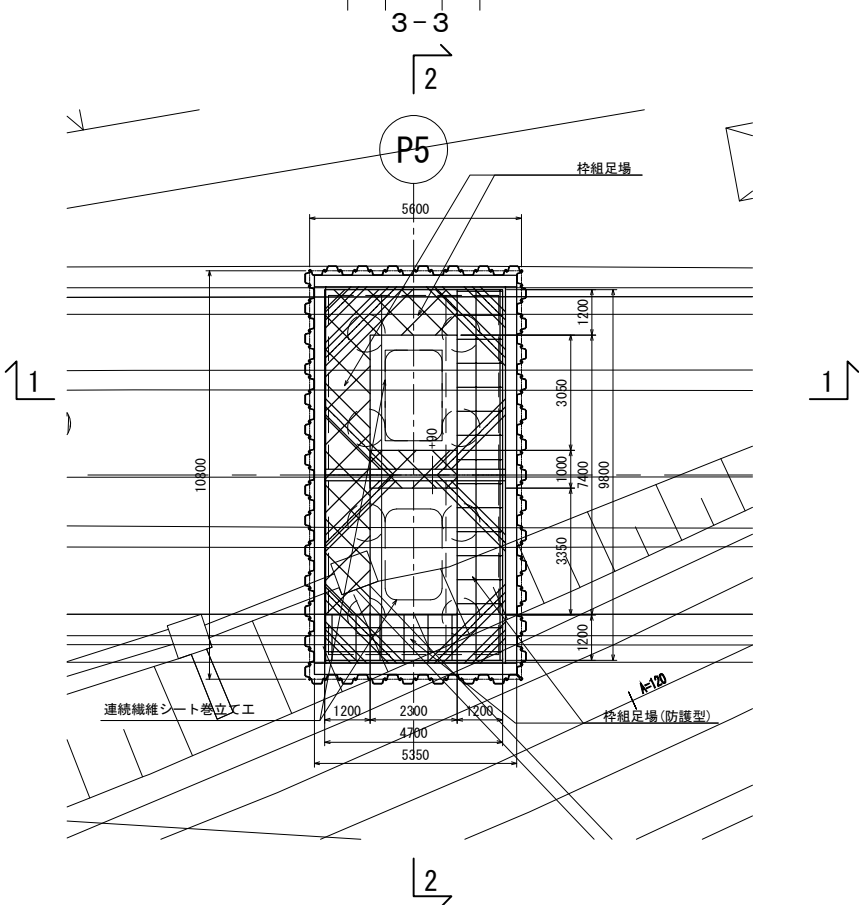
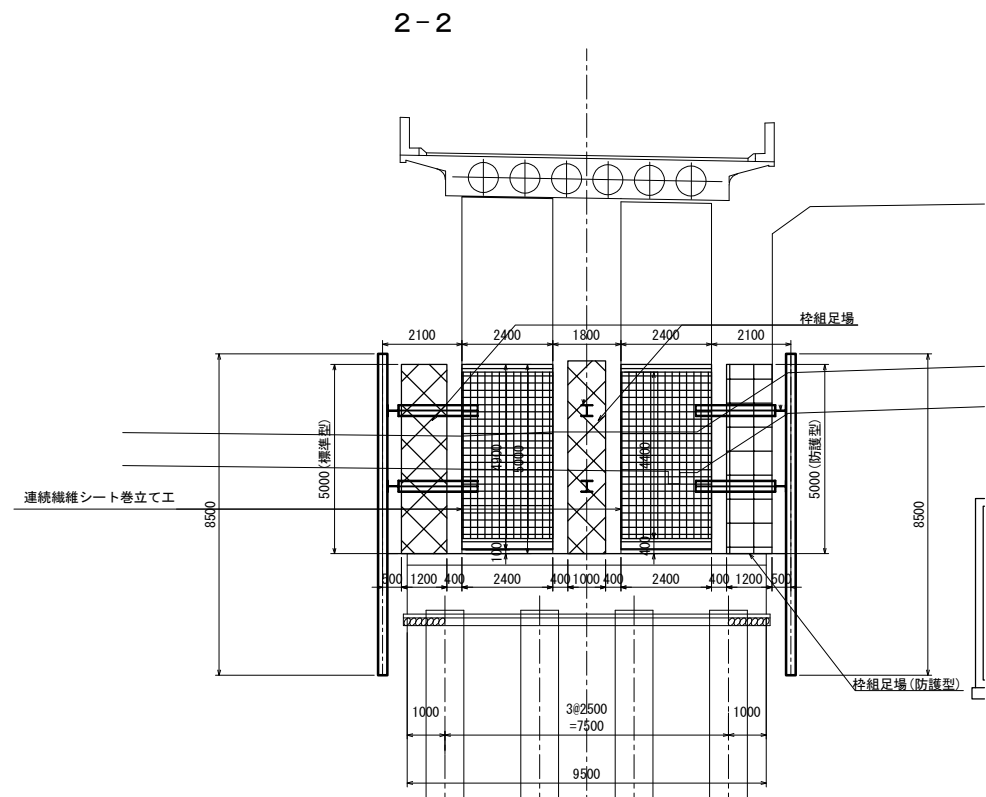
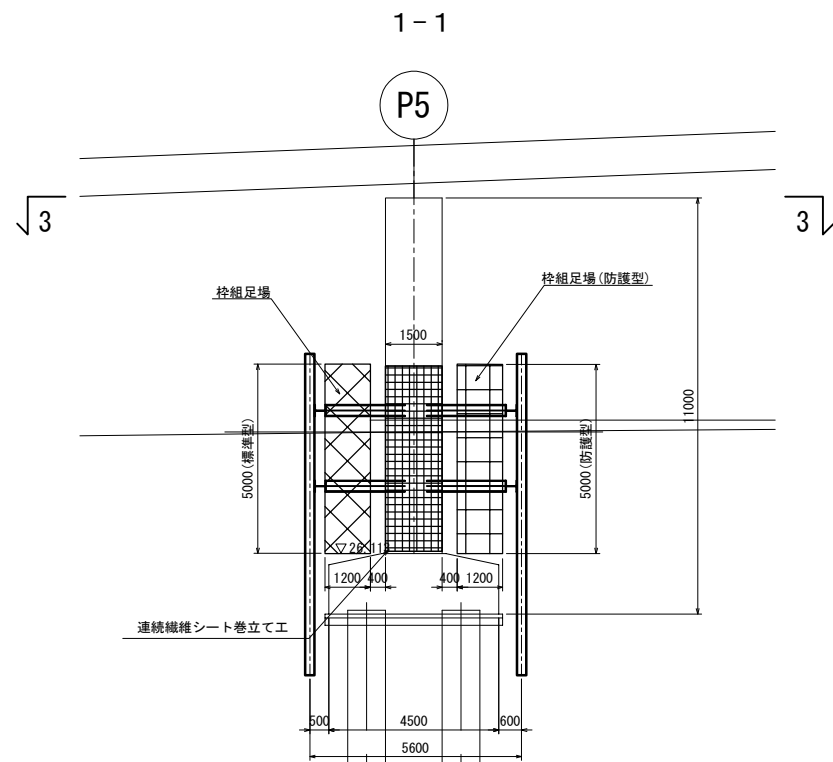
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P1橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類		東金IC アランプ橋 P2橋脚 足場工図（参考図）	
縮	尺	図示	図面番号
設計会社名		日本工営株式会社	
施工会社名			
事務所名		東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所	



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P4橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

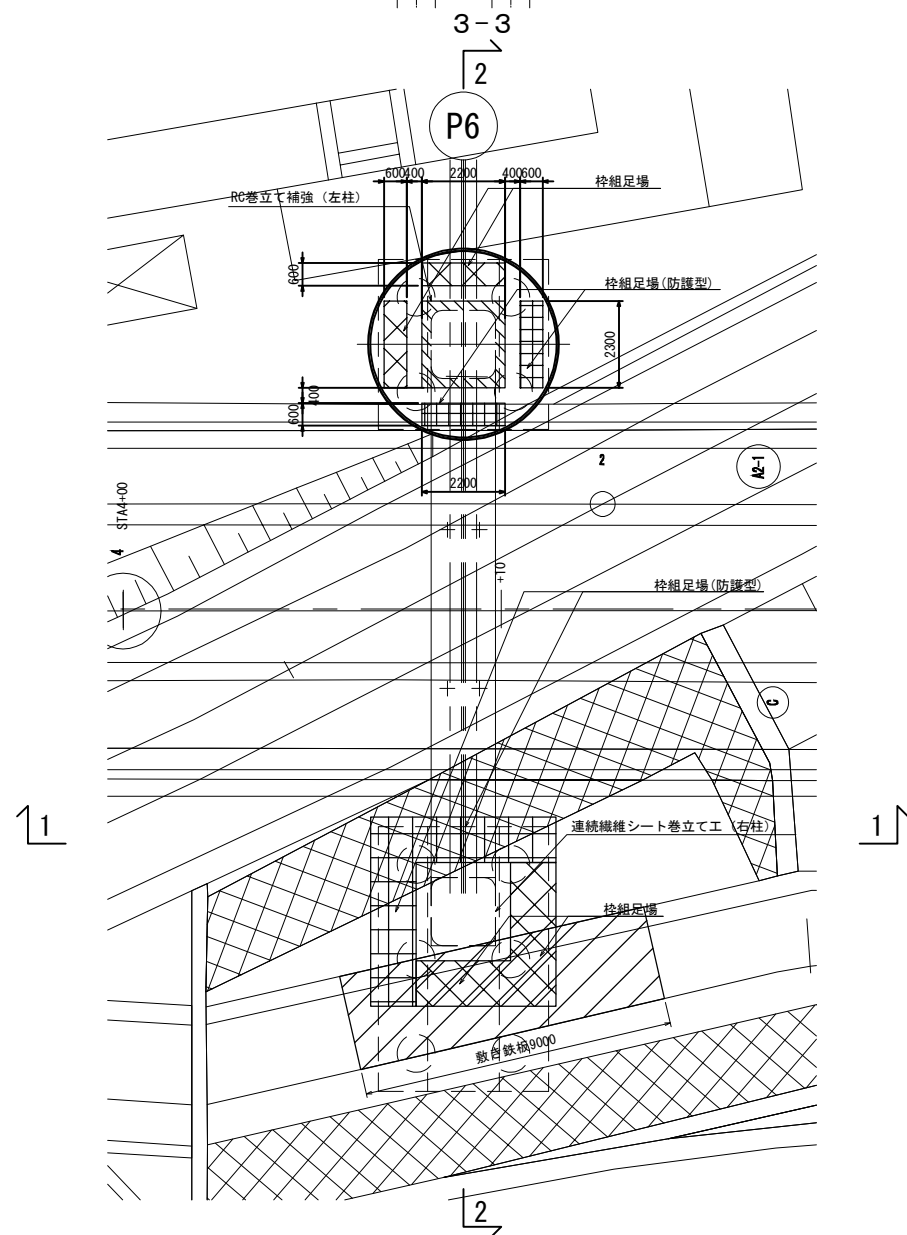
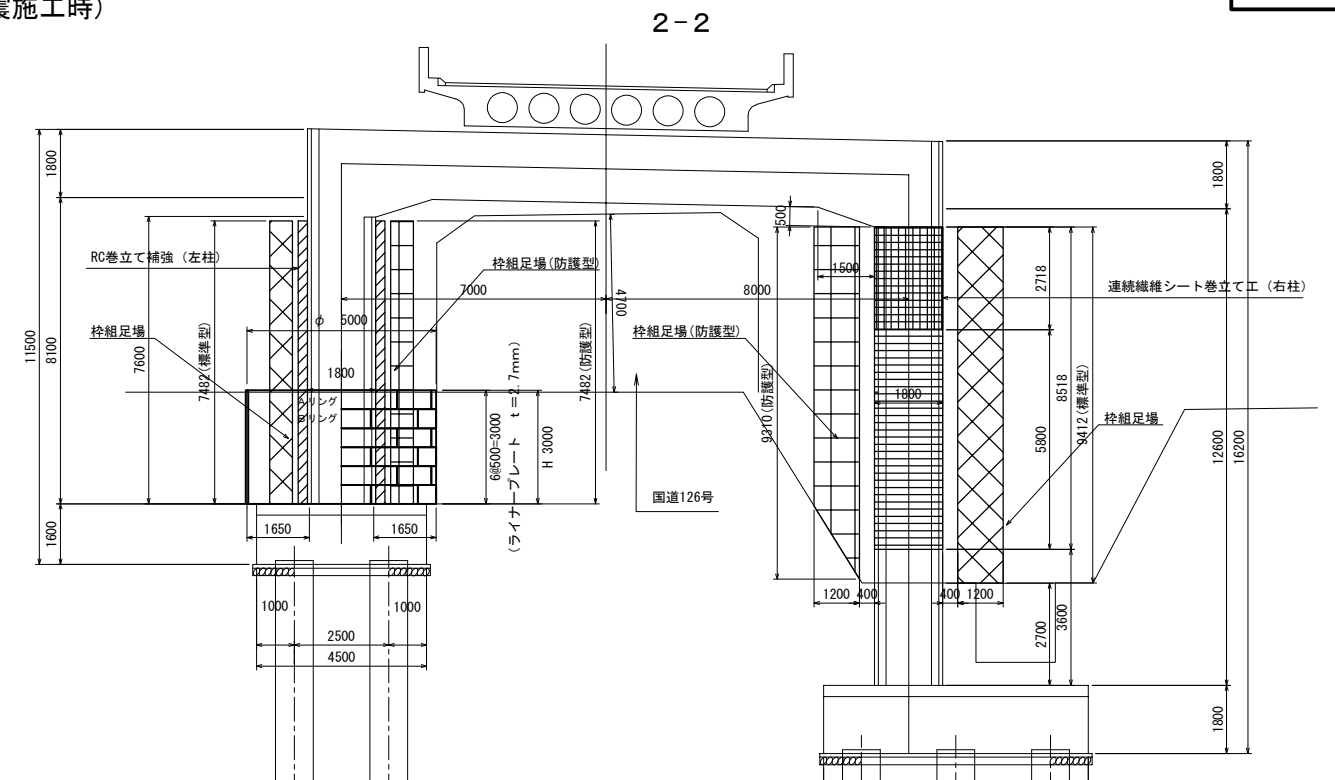
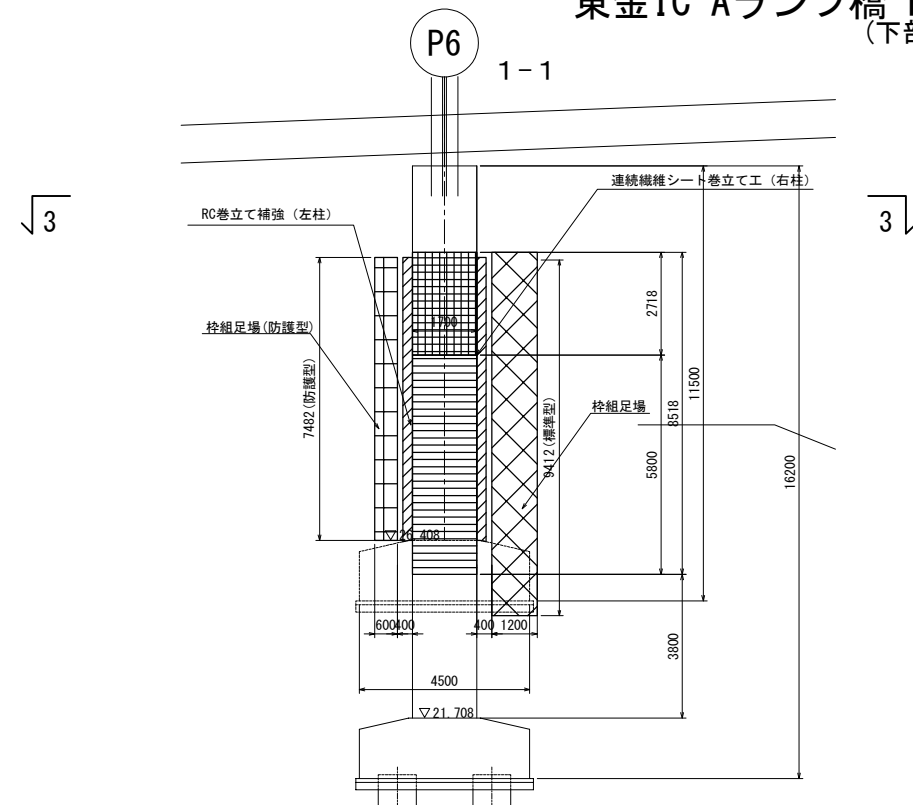


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P5橋脚 足場工図（参考図）			
	縮	尺	図示	図面番号
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名	東日本高速道路 株式会社			
事務所名	関東支社 市原管理事務所			

東金IC Aランプ橋 P6橋脚 足場工図（参考図）
（下部工耐震施工時）

S=1 : 200

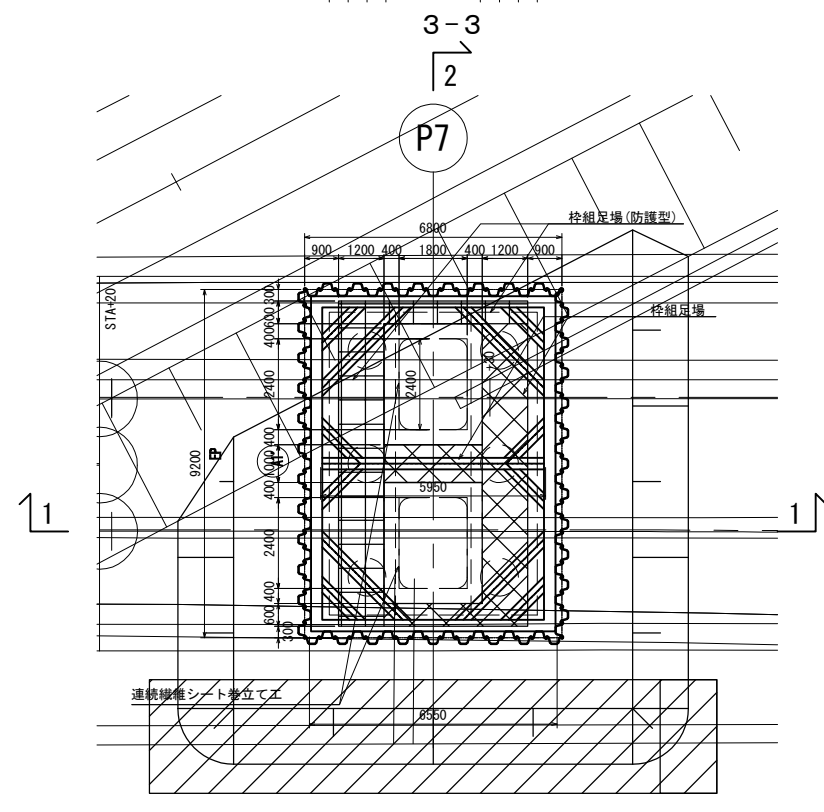
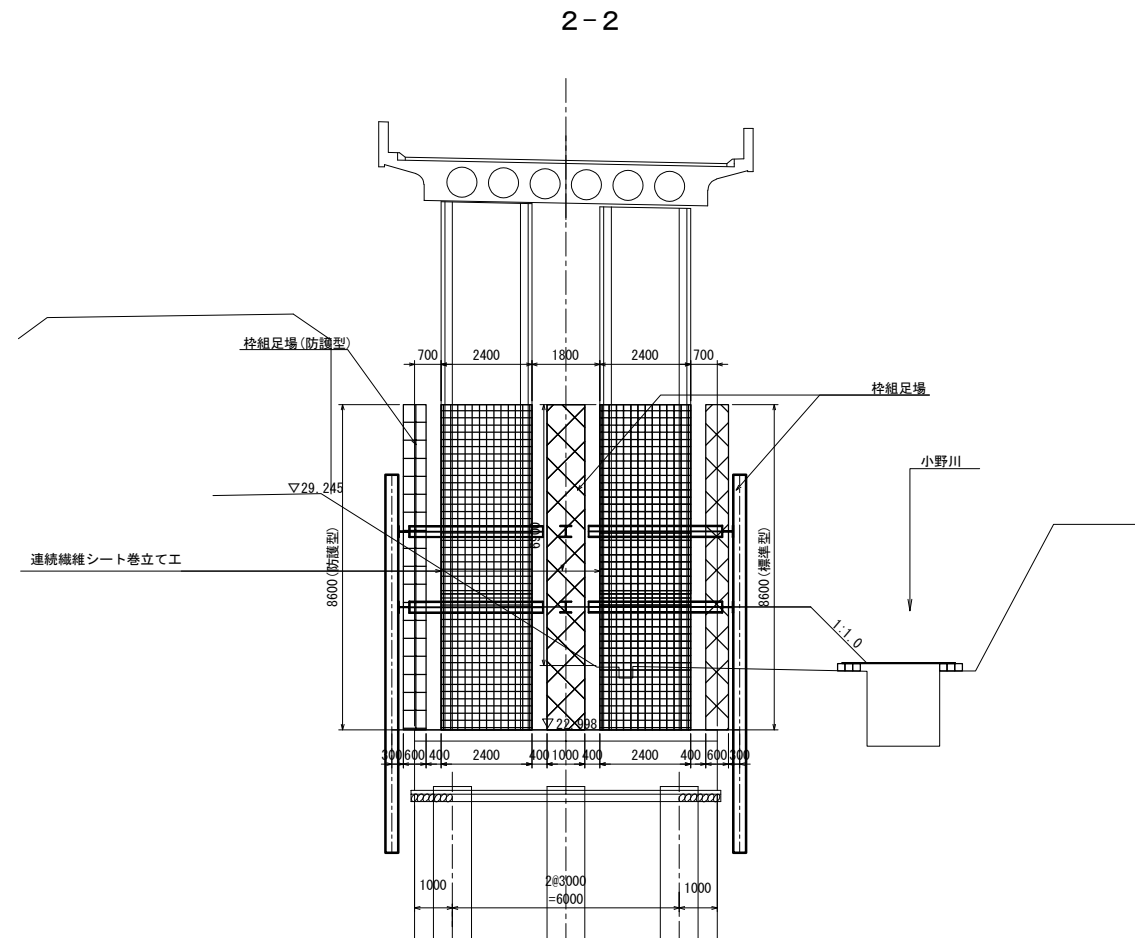
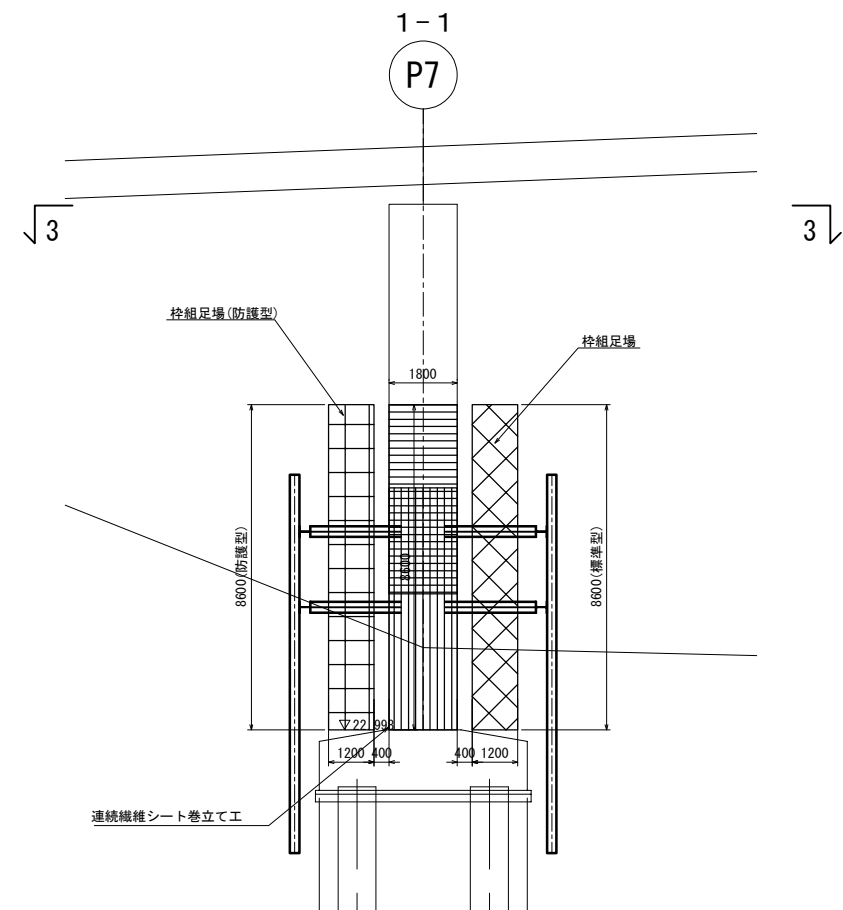
112 / 151



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 P7橋脚 足場工図（参考図）
（下部工耐震施工時）

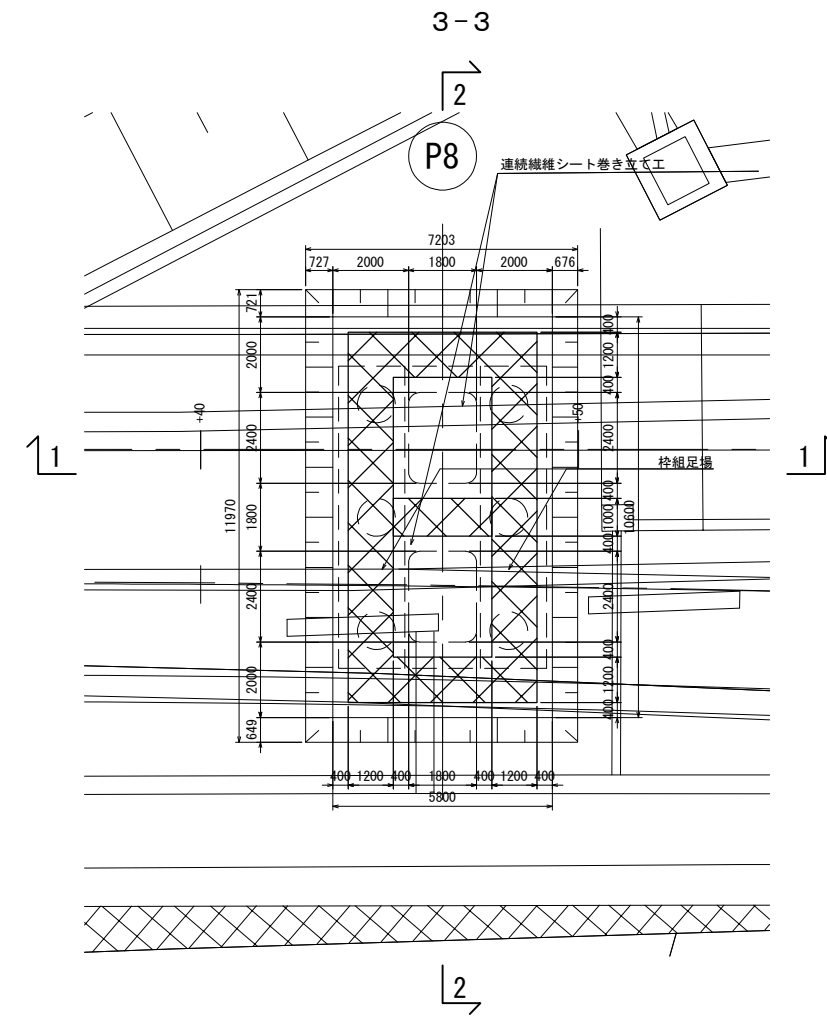
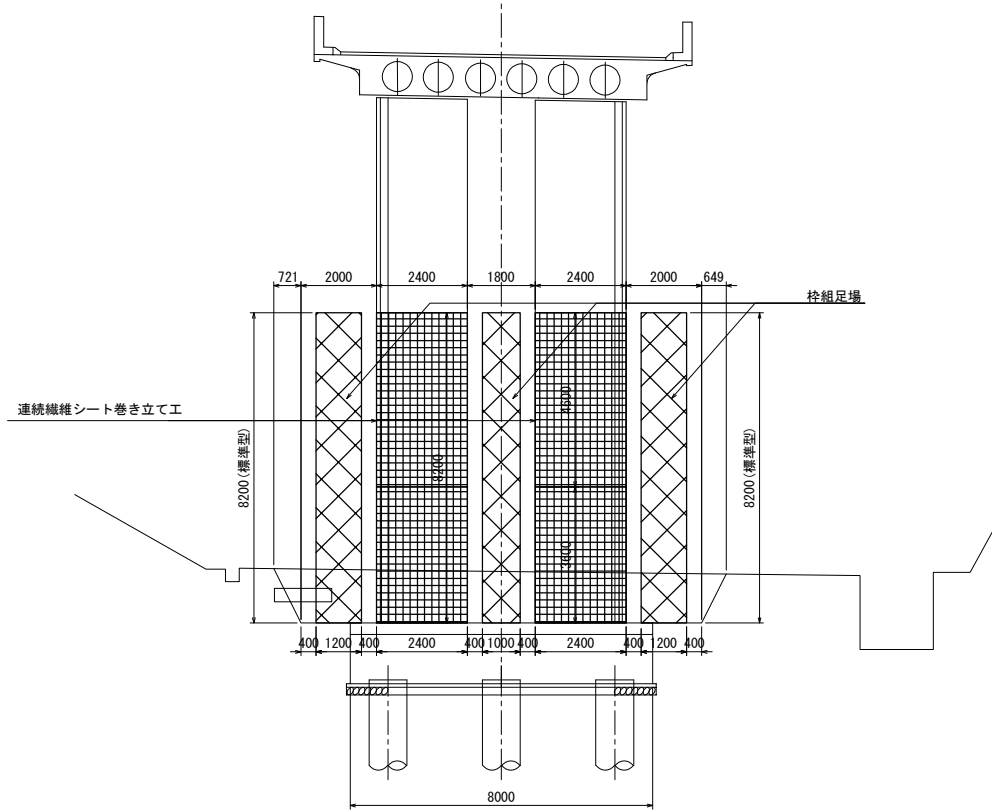
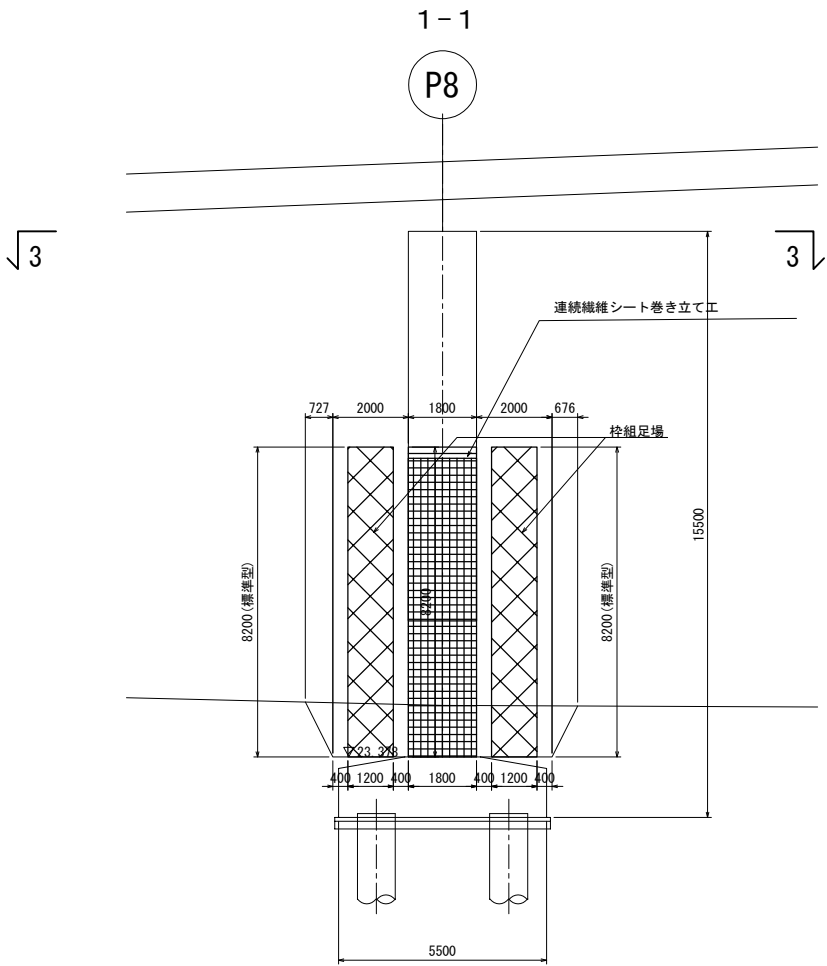
S=1 : 200



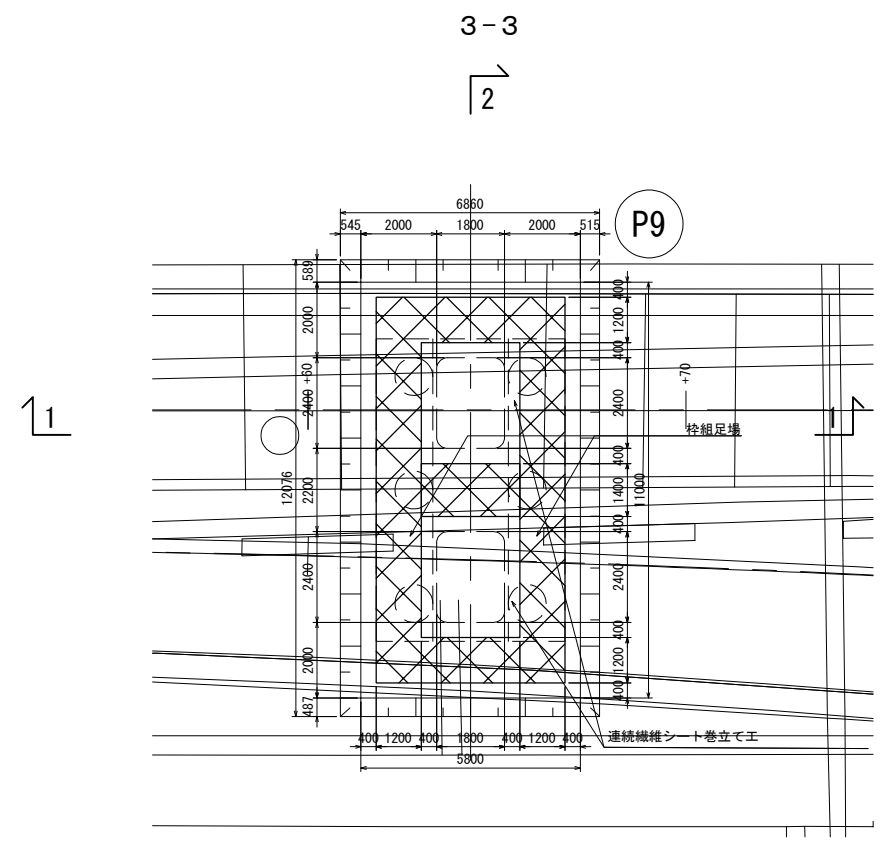
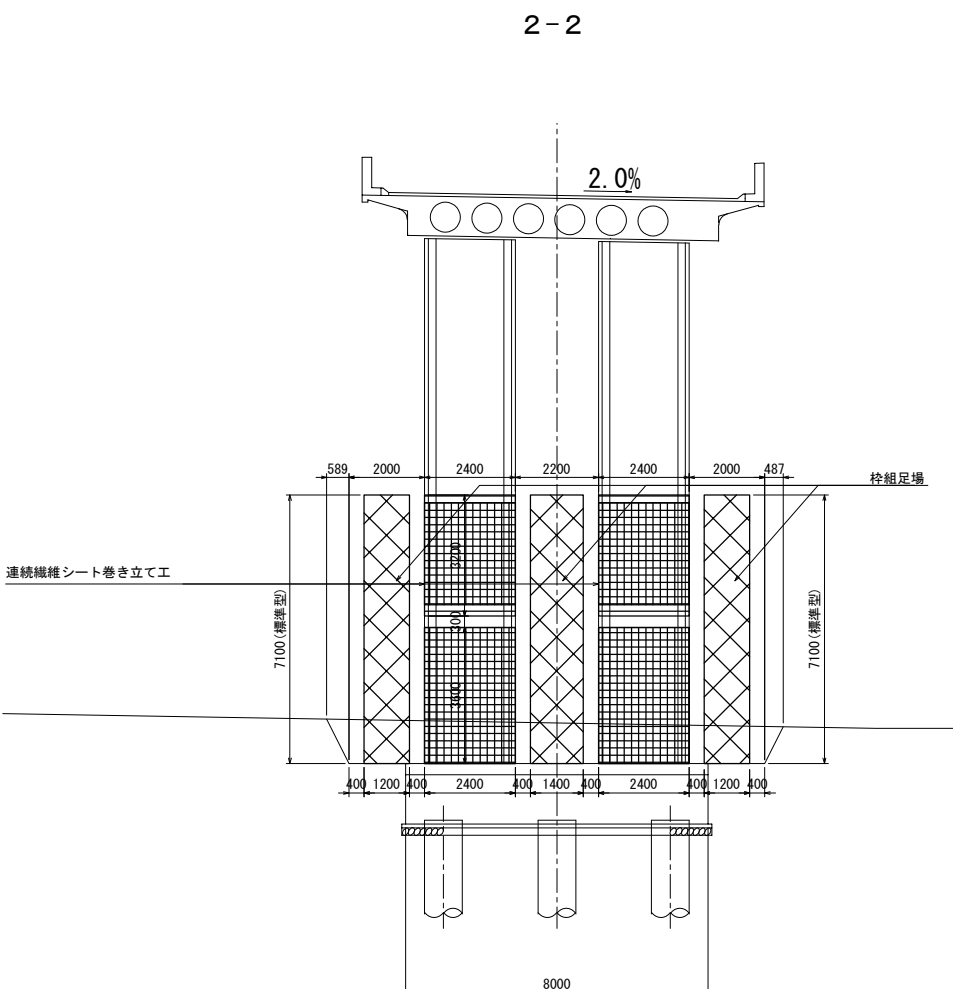
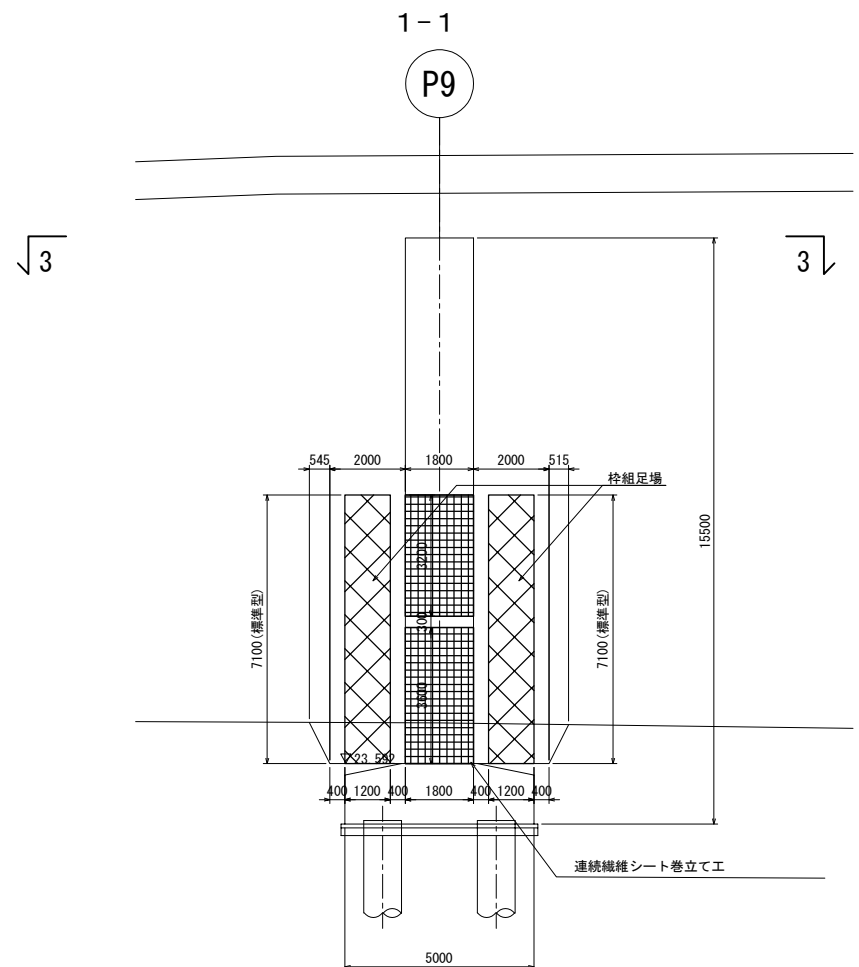
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P7橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 P8橋脚 足場工図（参考図）
（下部工耐震施工時）

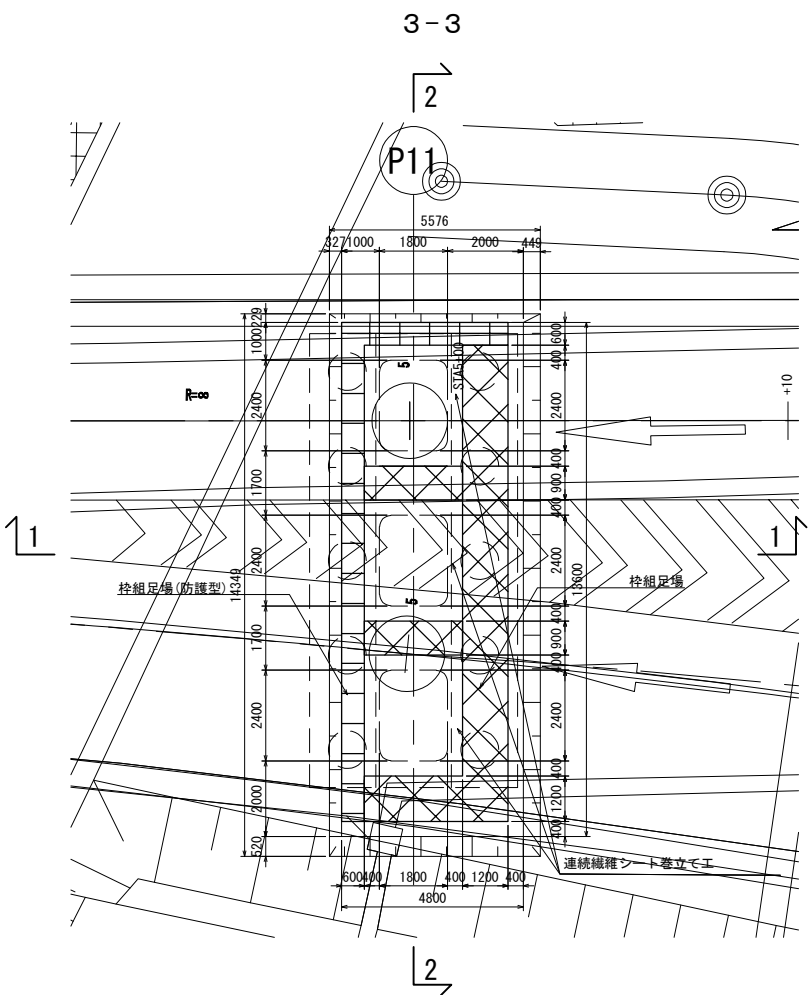
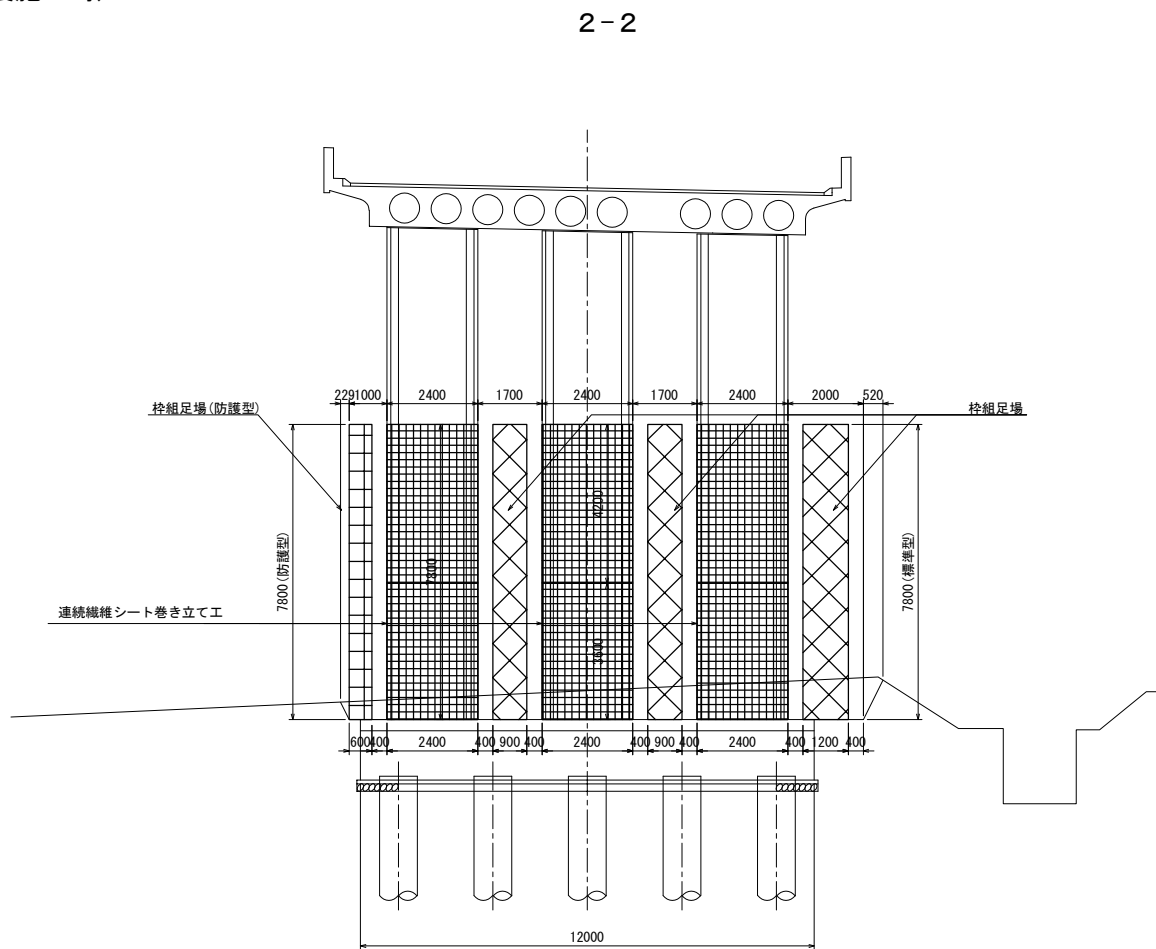
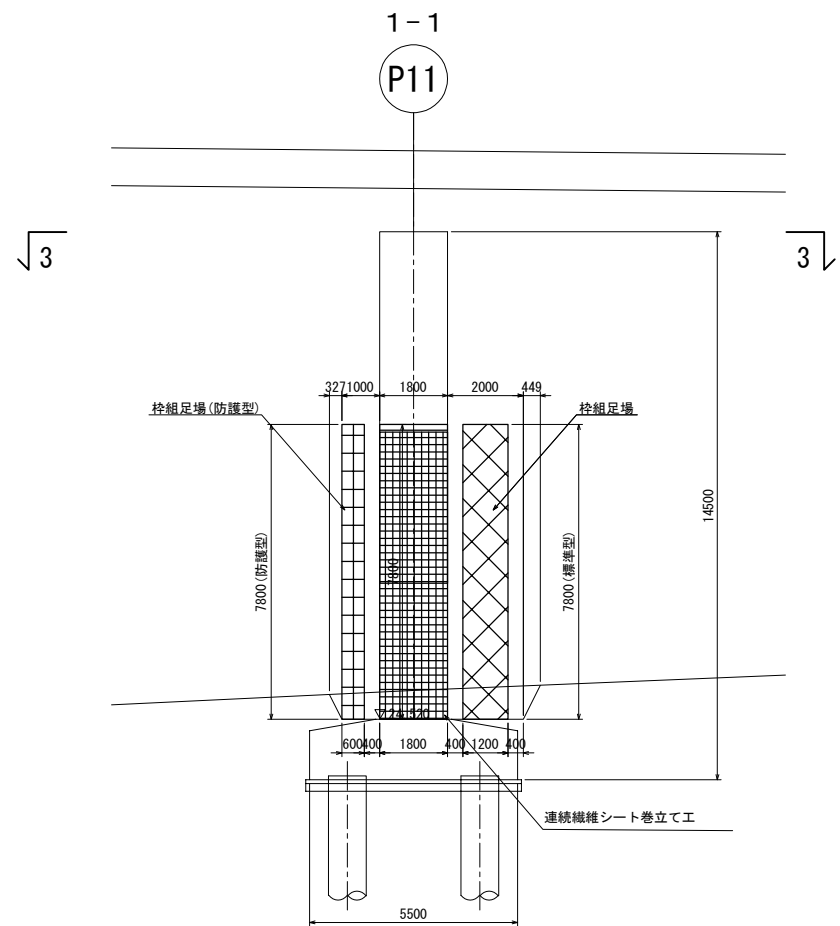
S=1 : 200
2-2



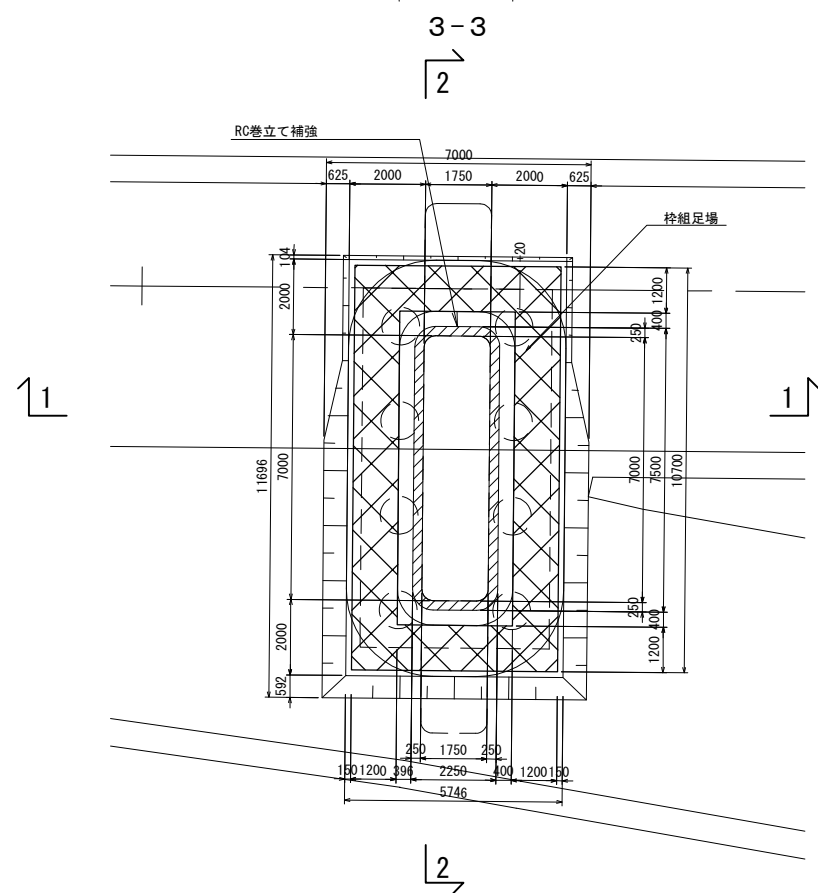
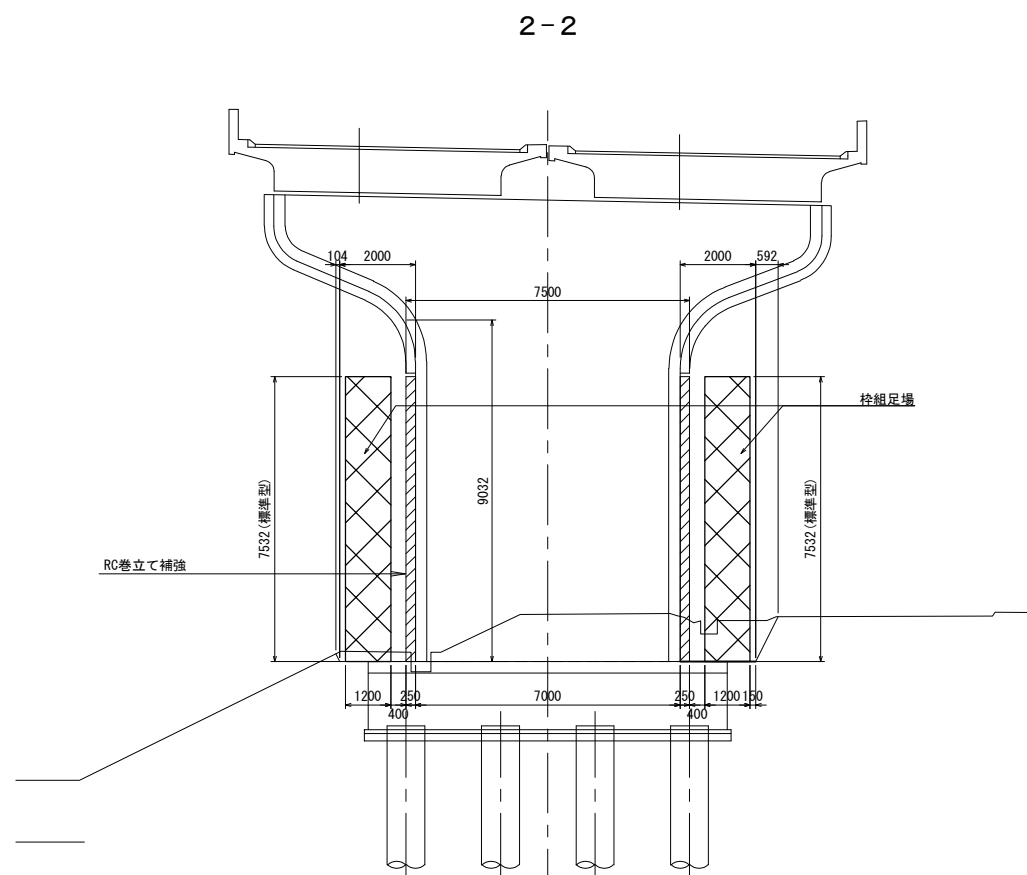
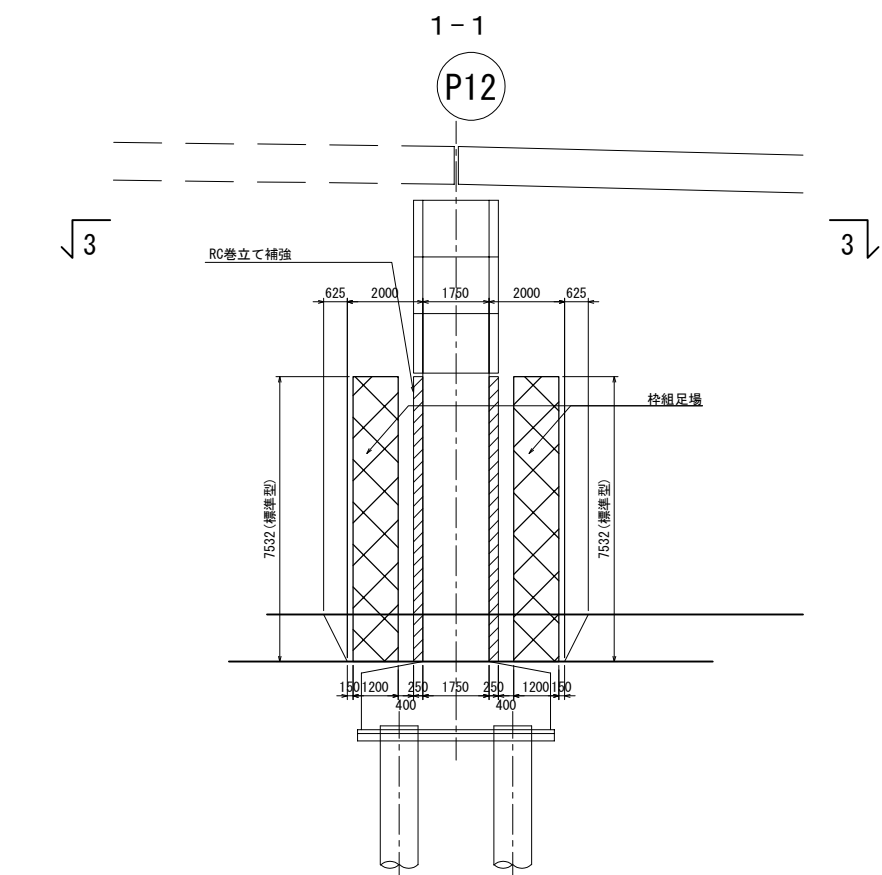
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P8橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



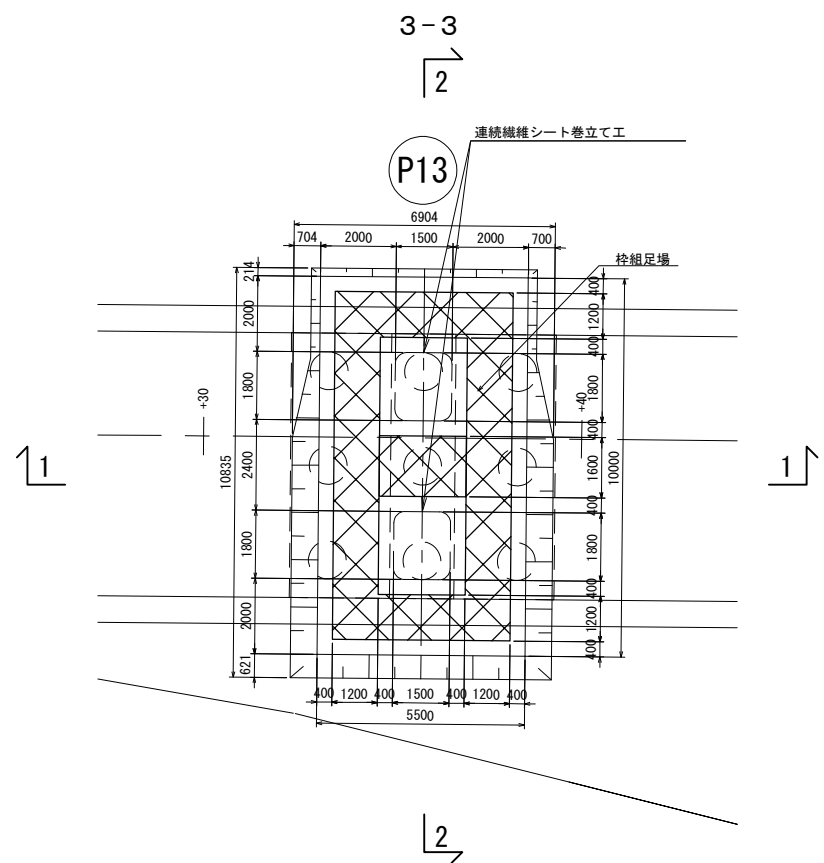
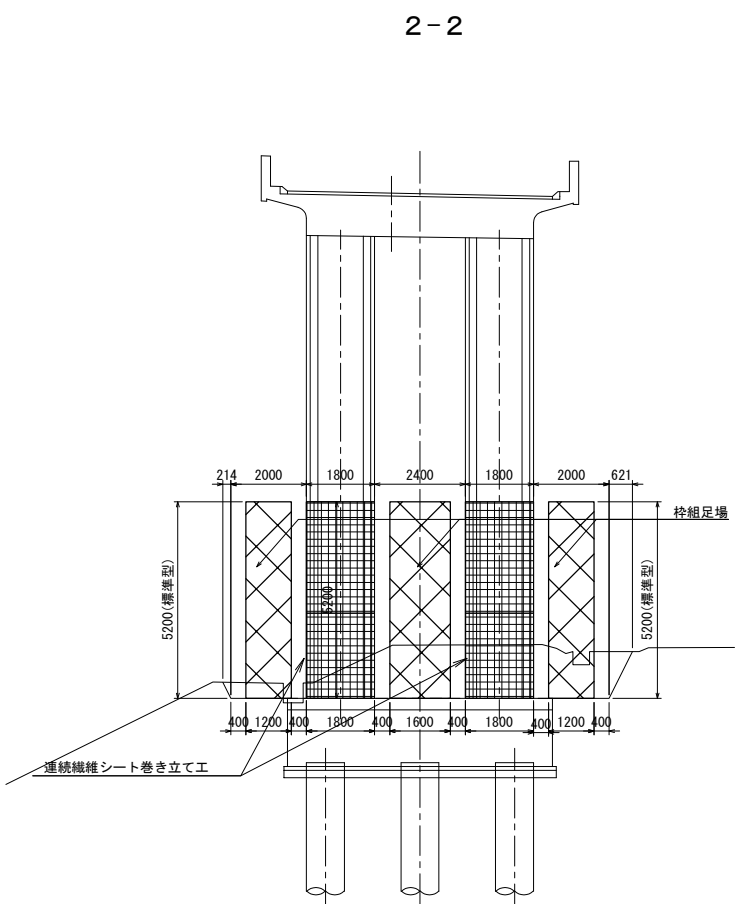
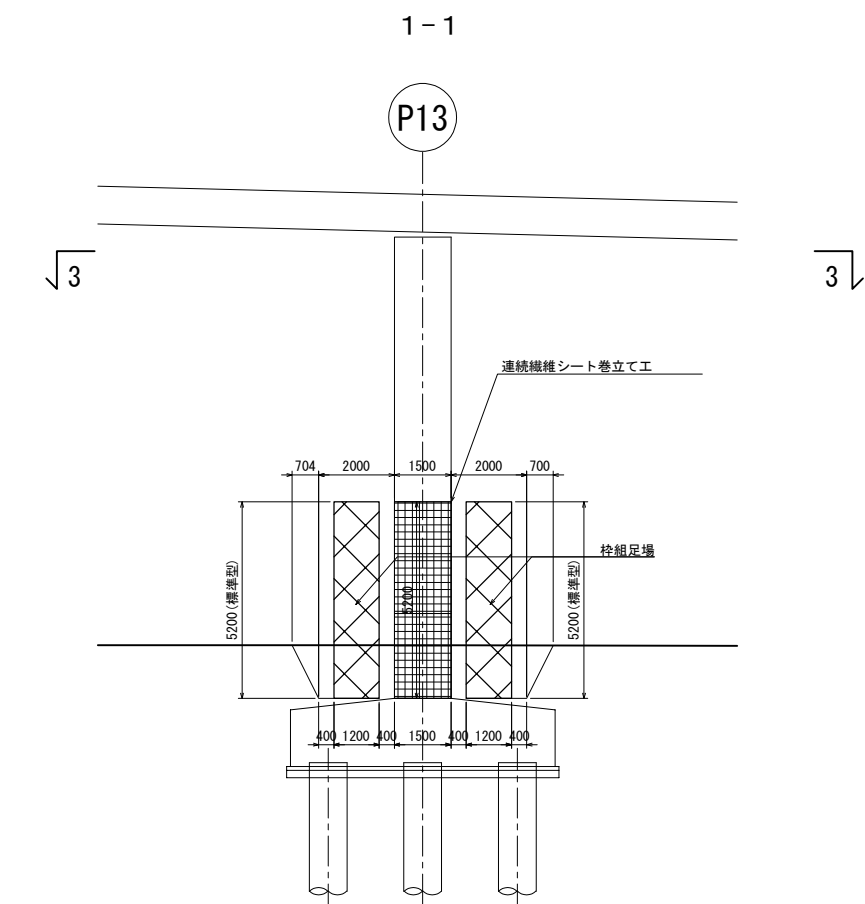
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P9橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



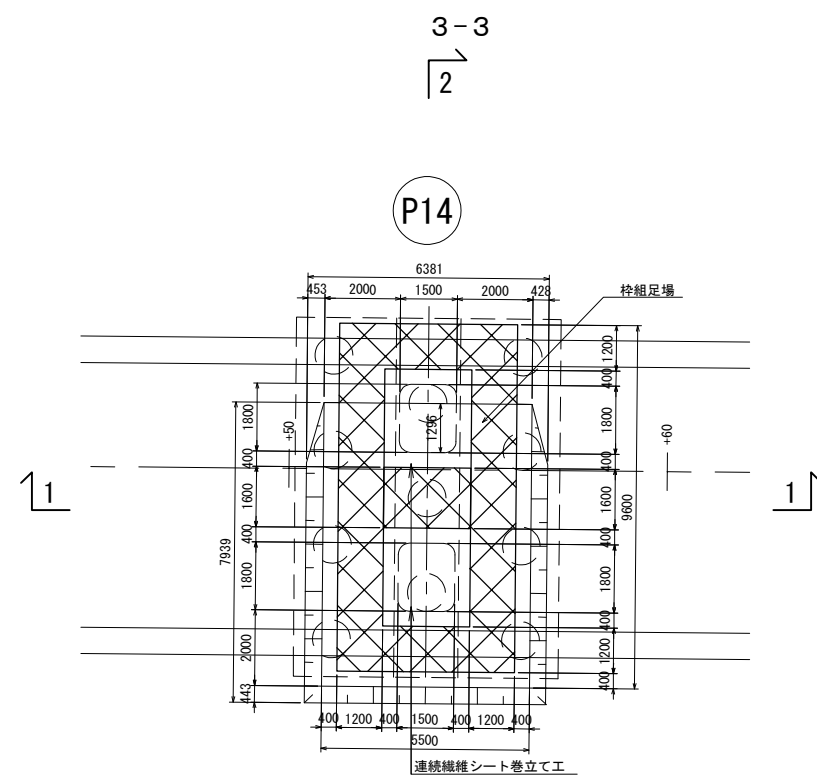
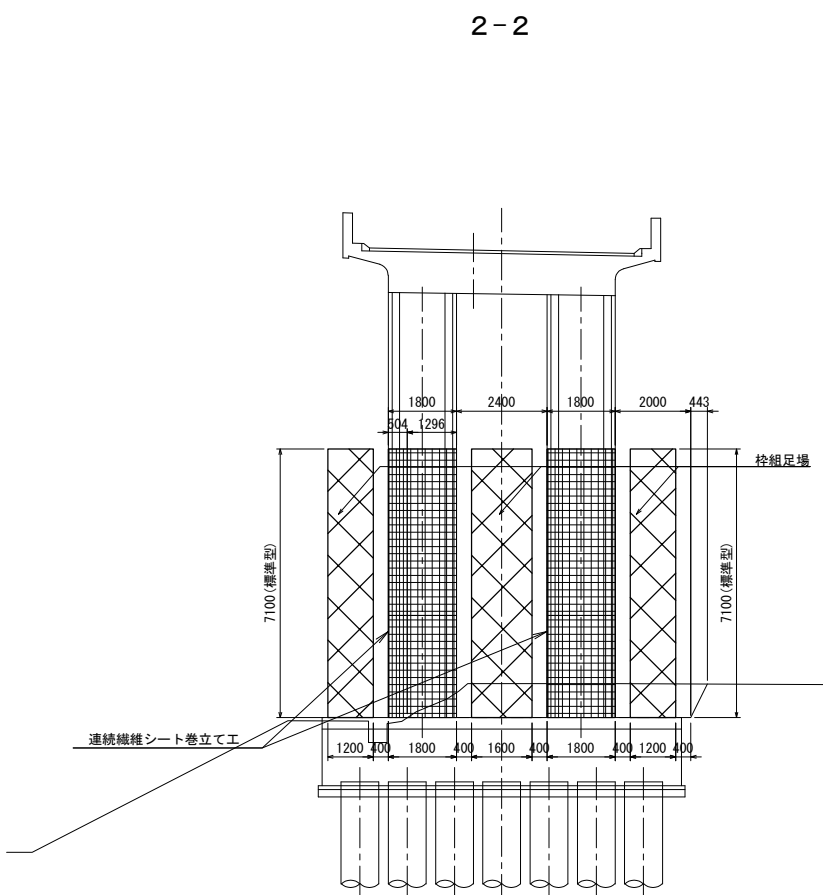
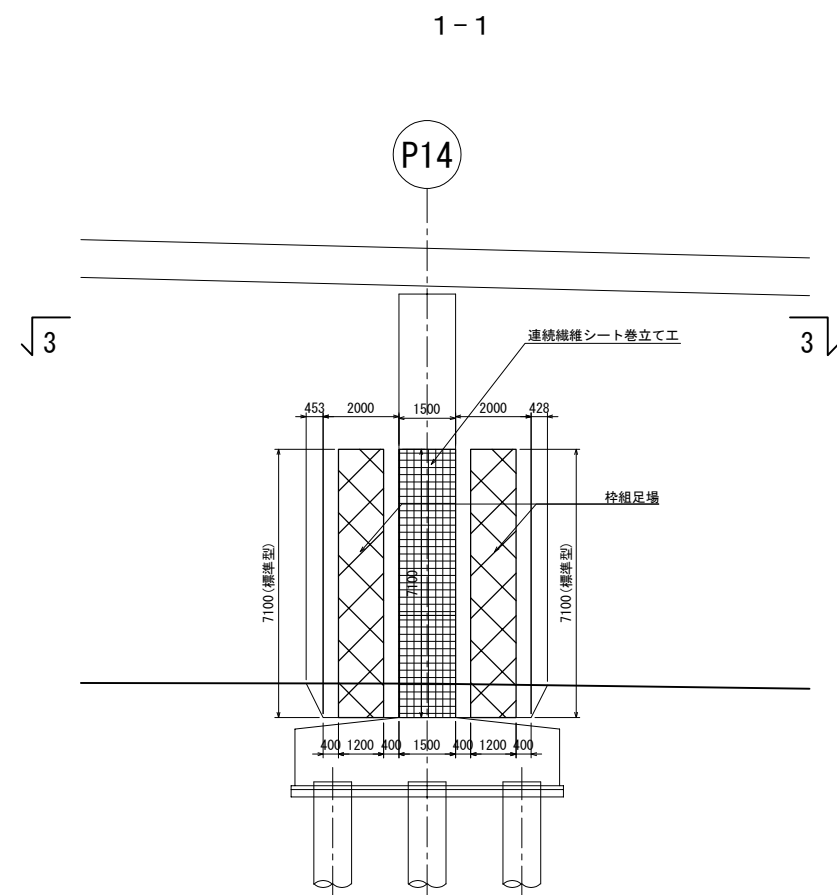
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P11橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



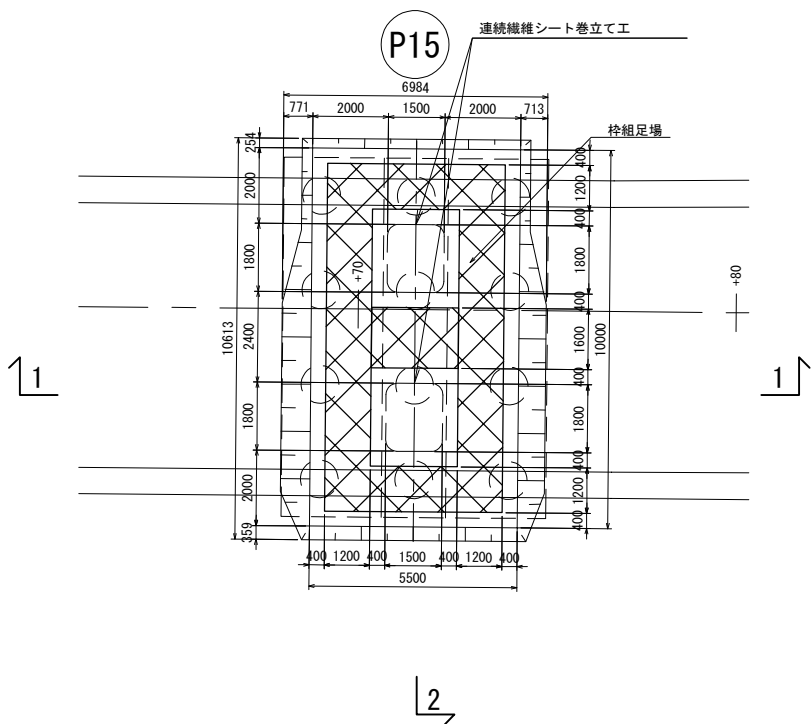
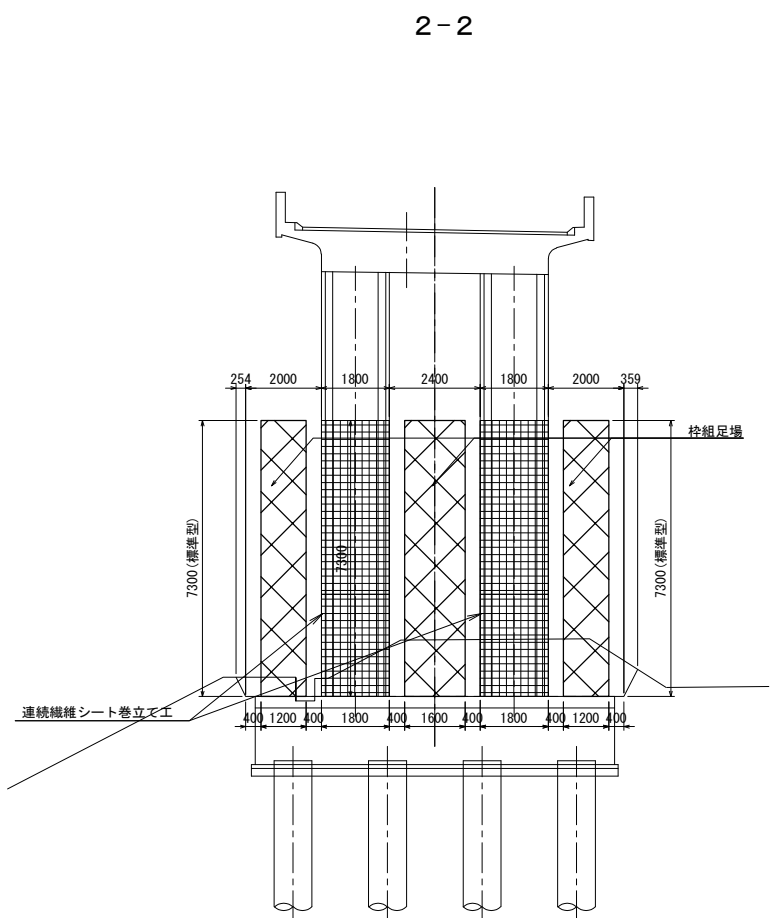
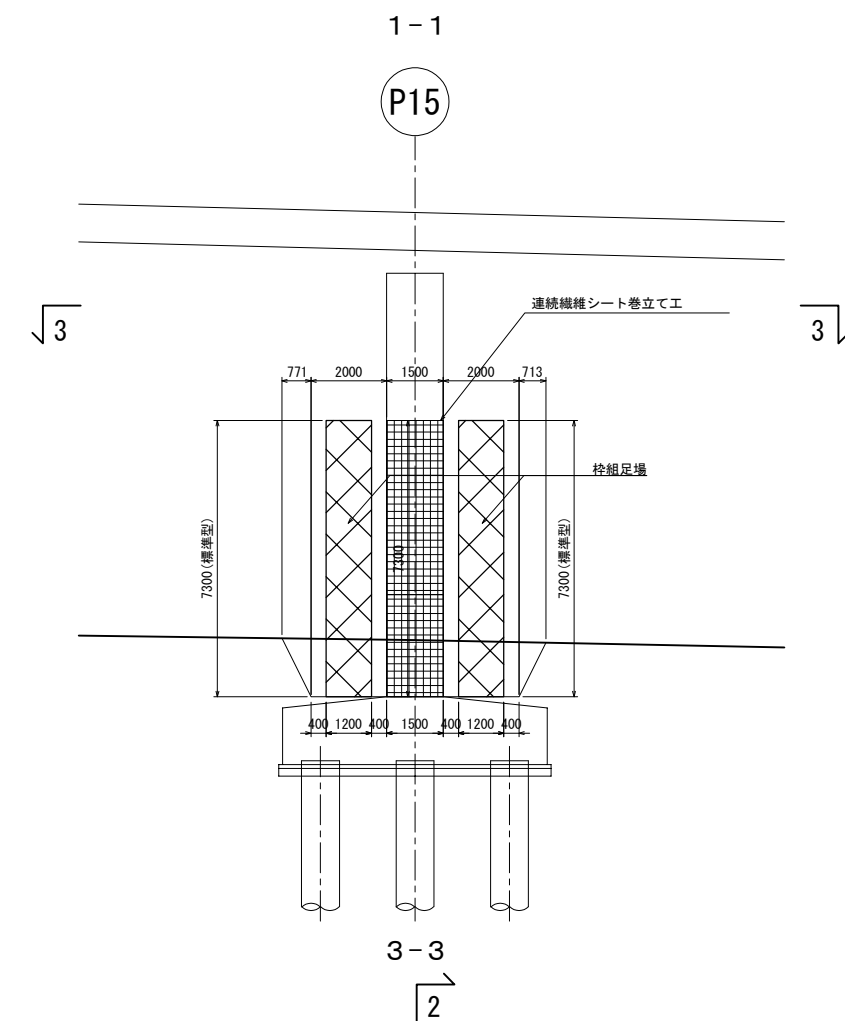
	首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事		
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



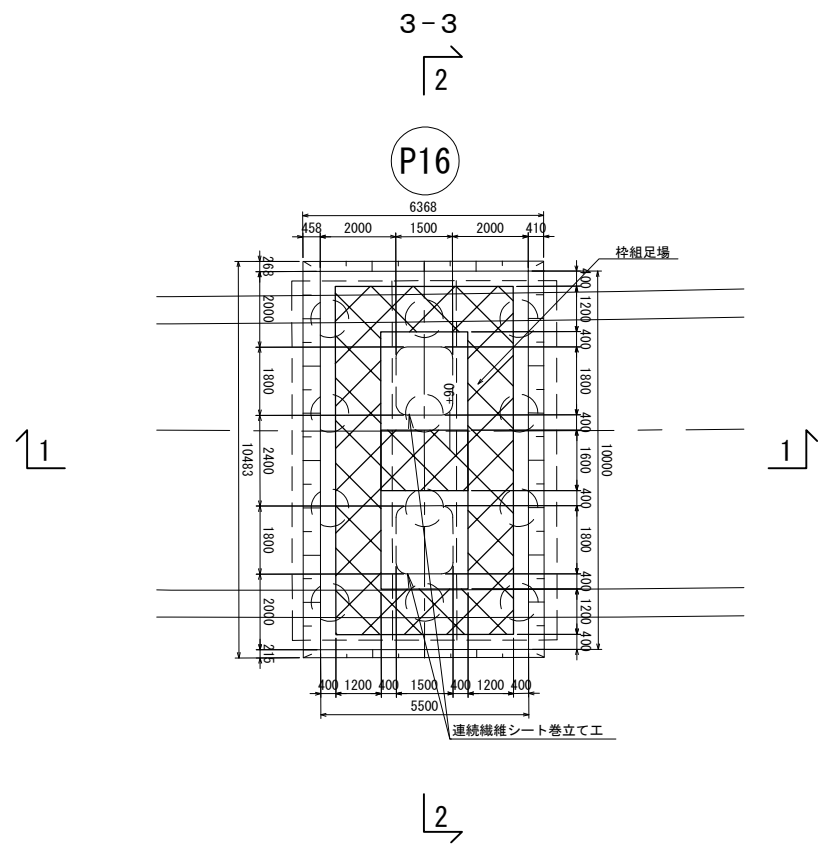
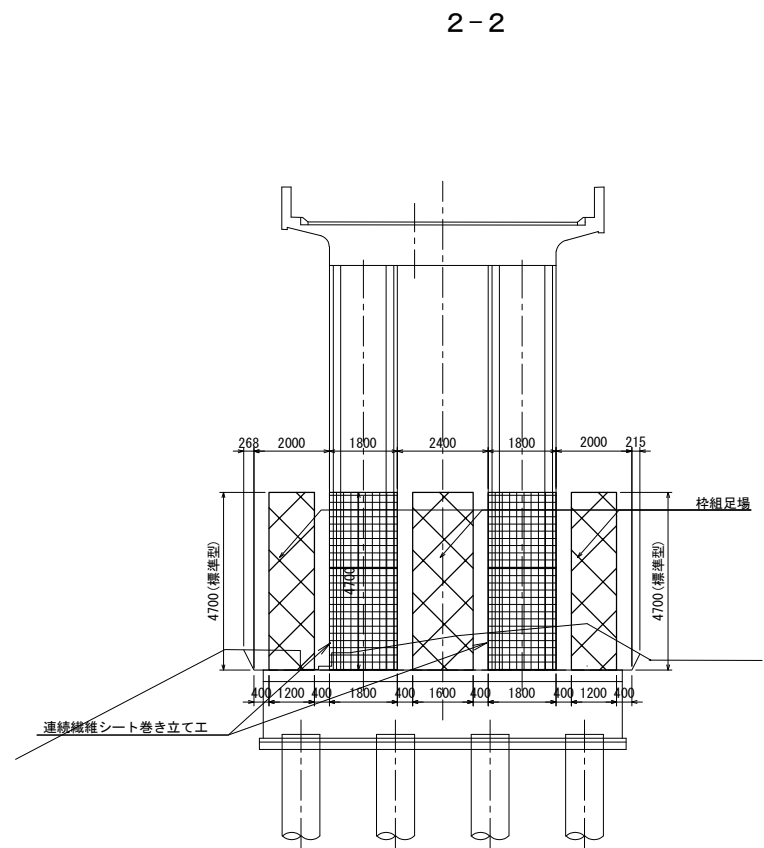
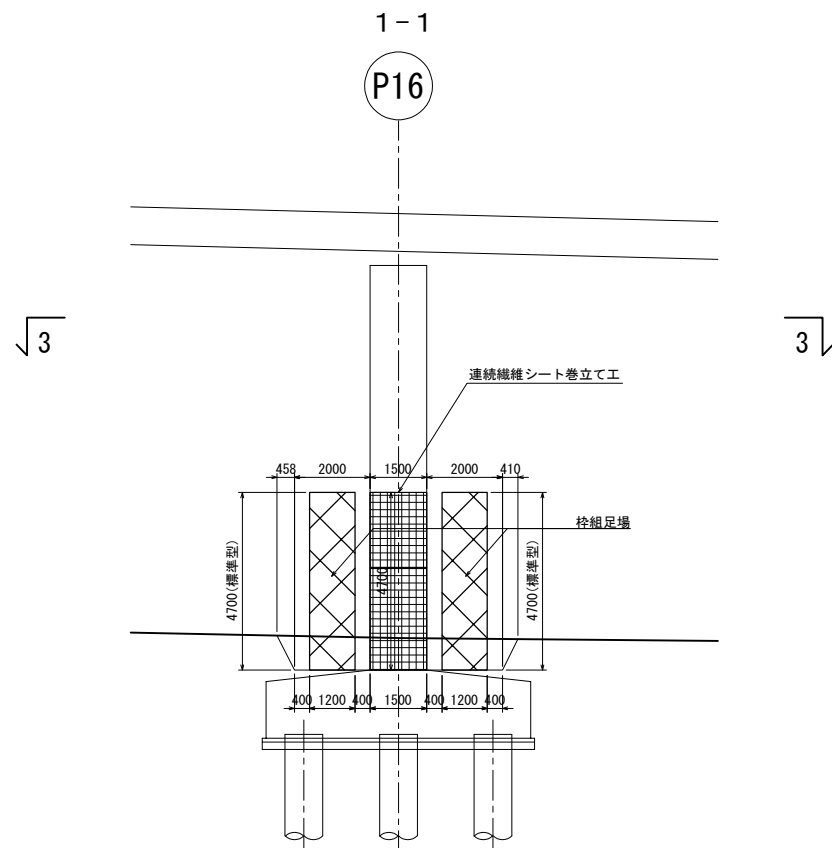
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P13橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



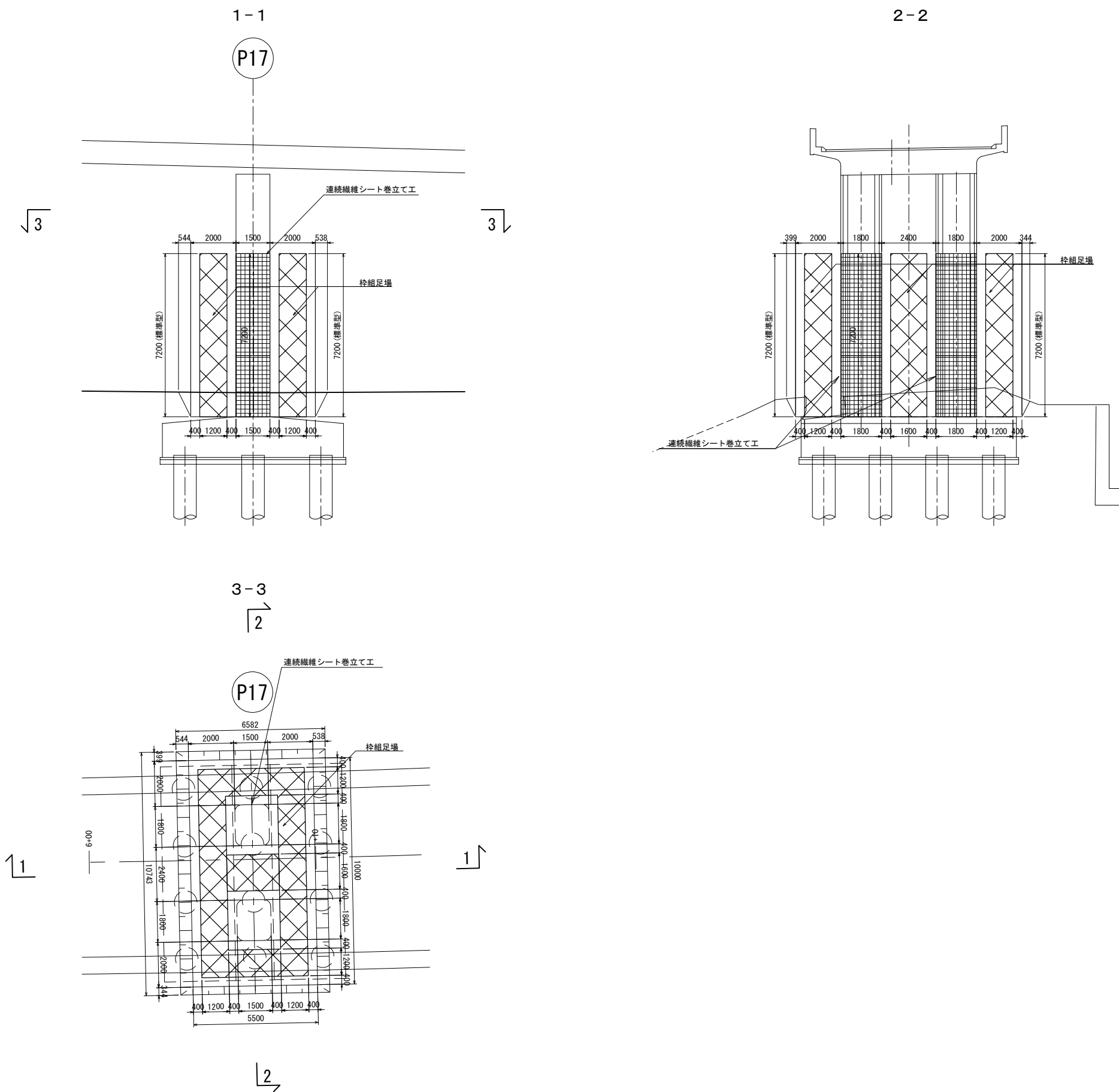
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P14橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



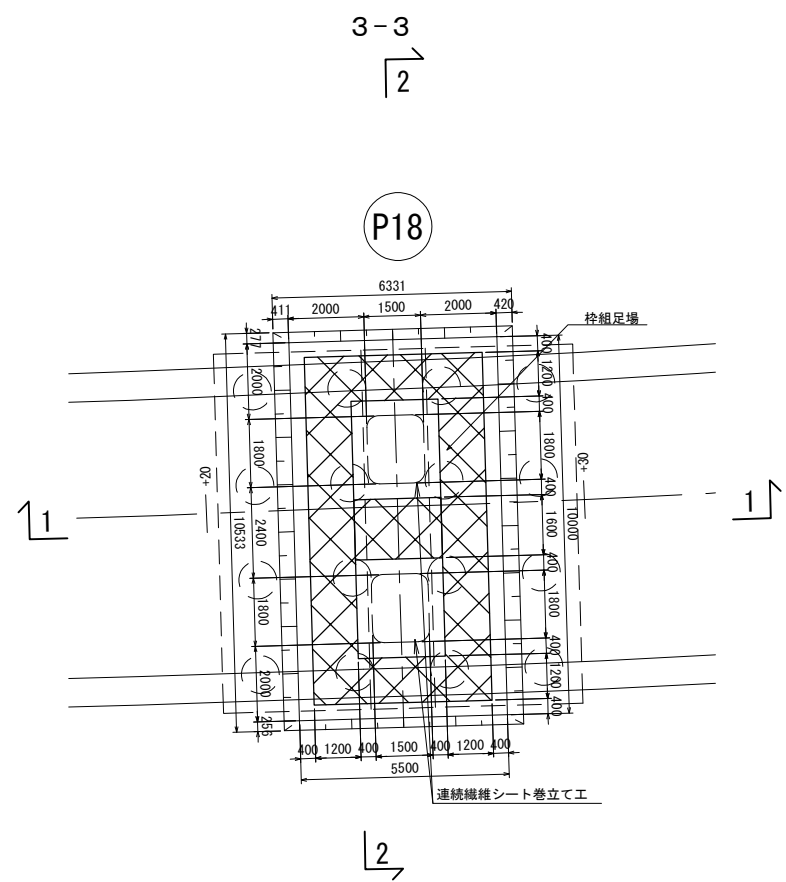
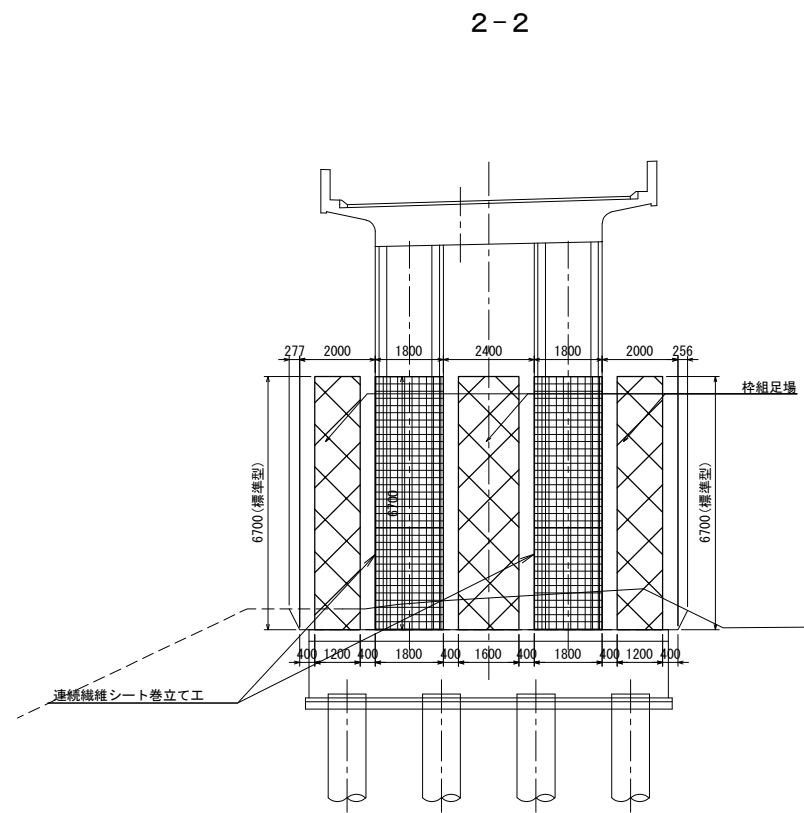
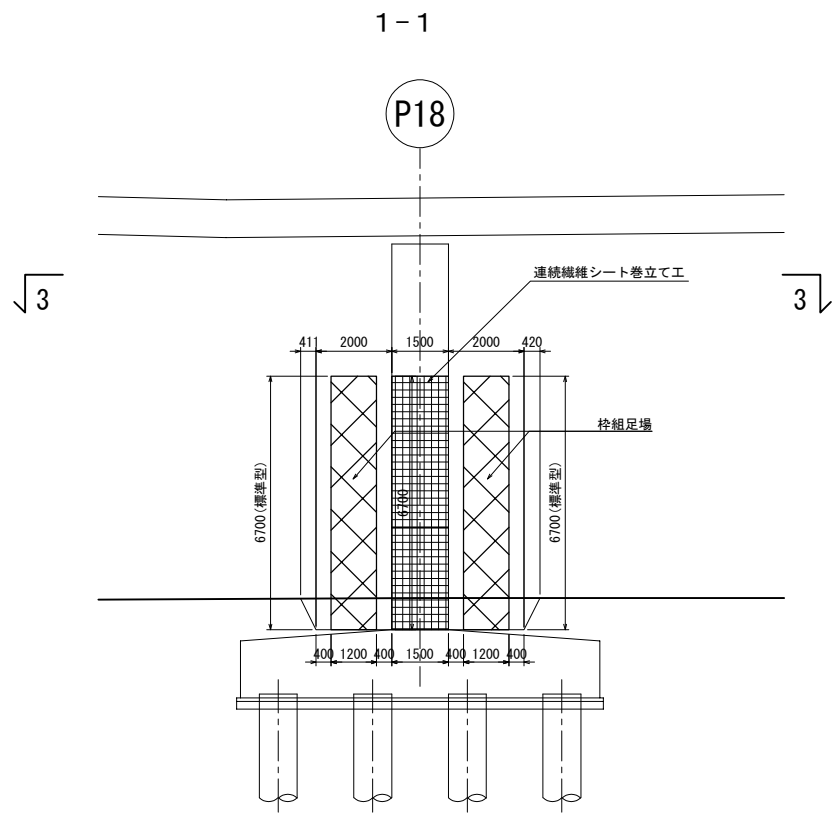
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P15橋脚 足場工図（参考図）		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



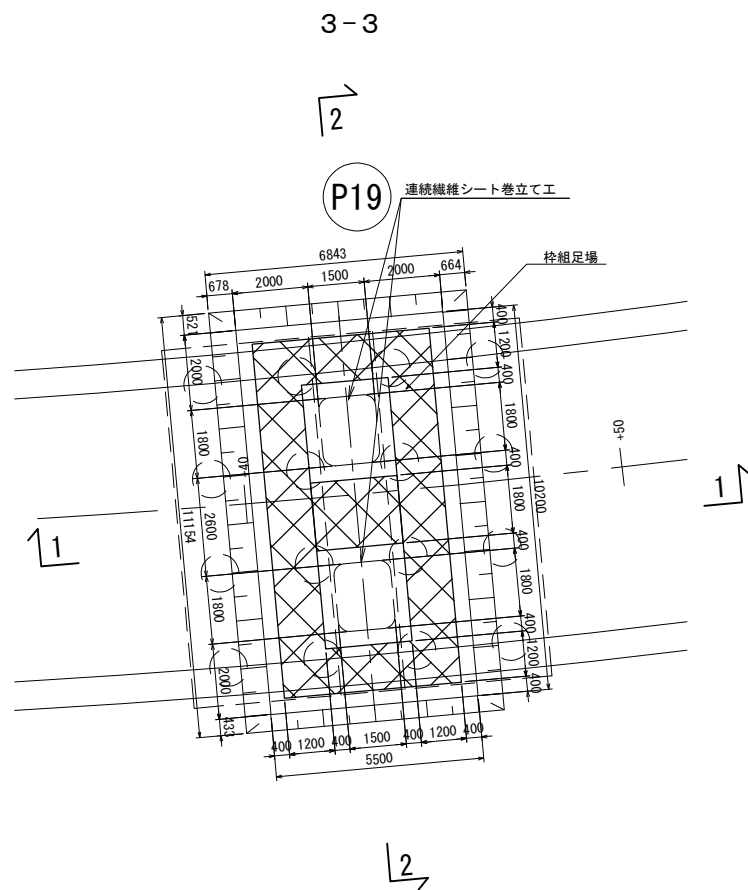
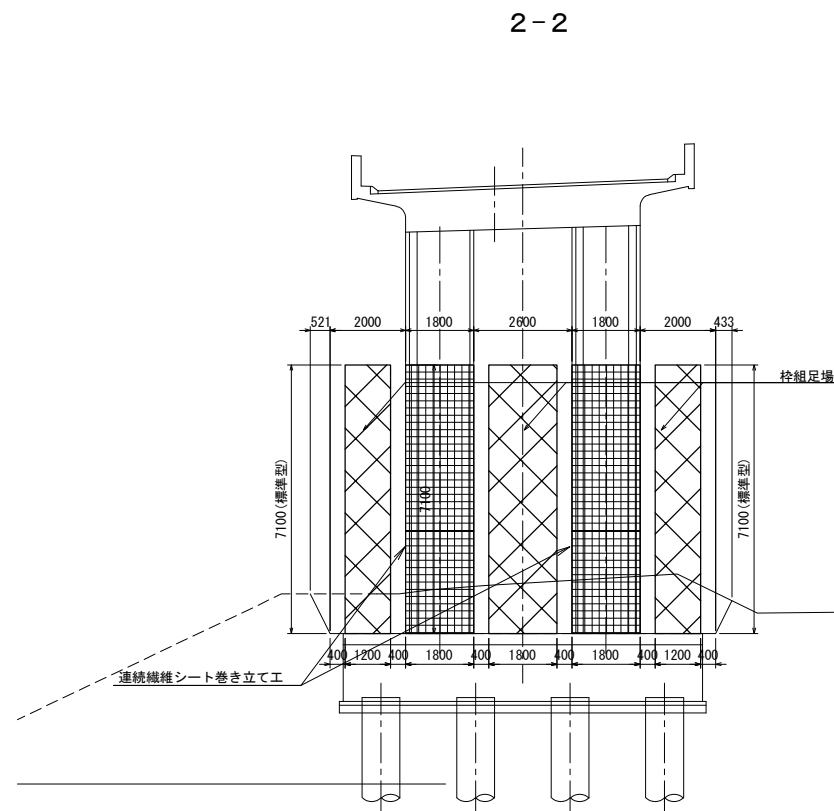
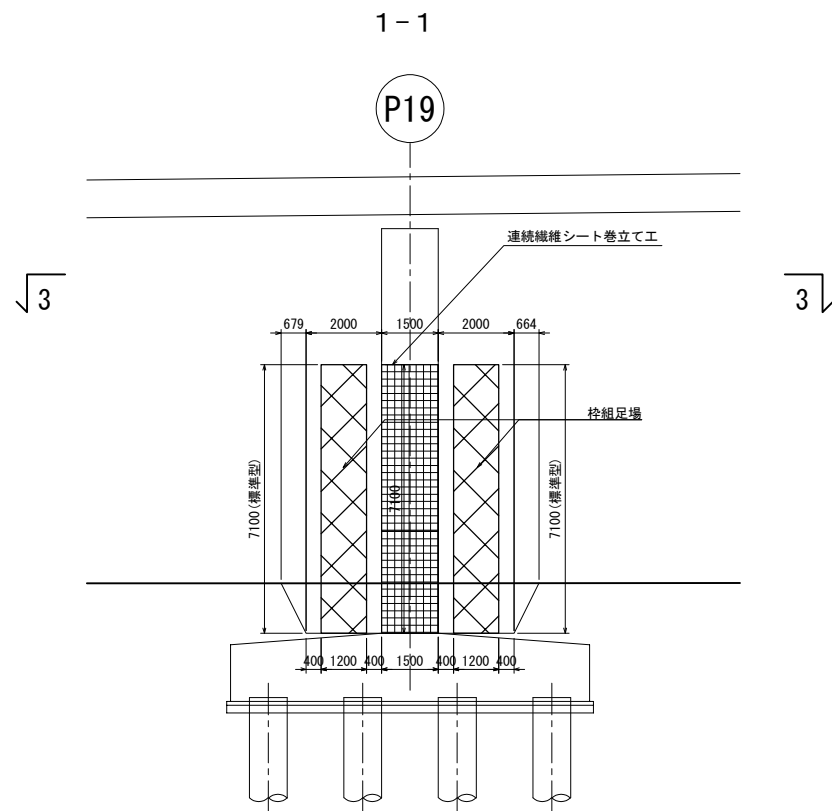
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P16橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



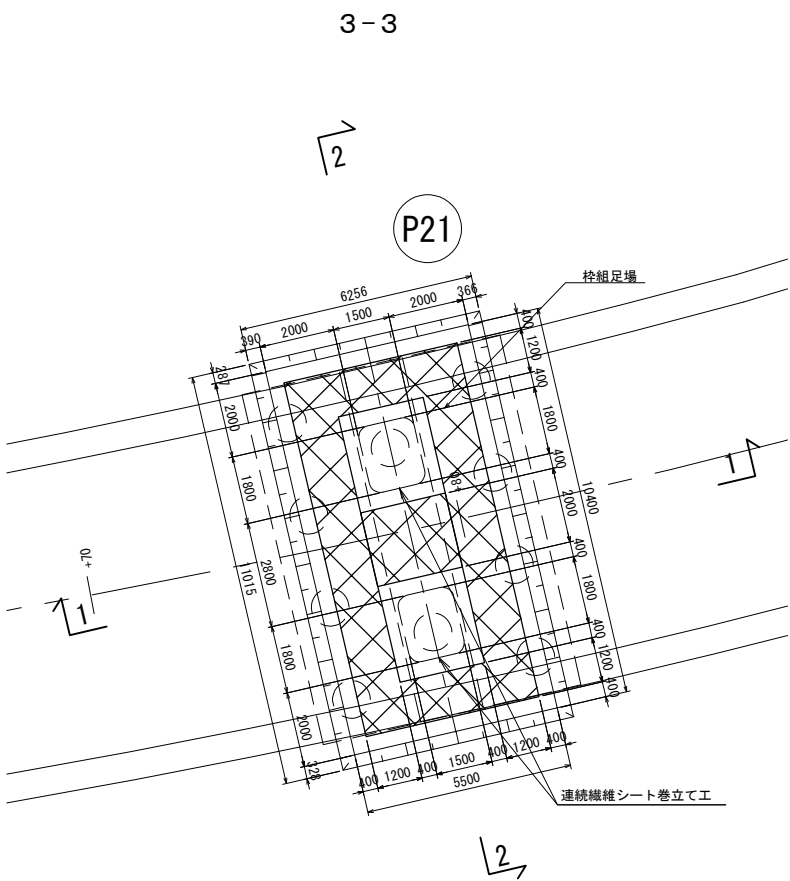
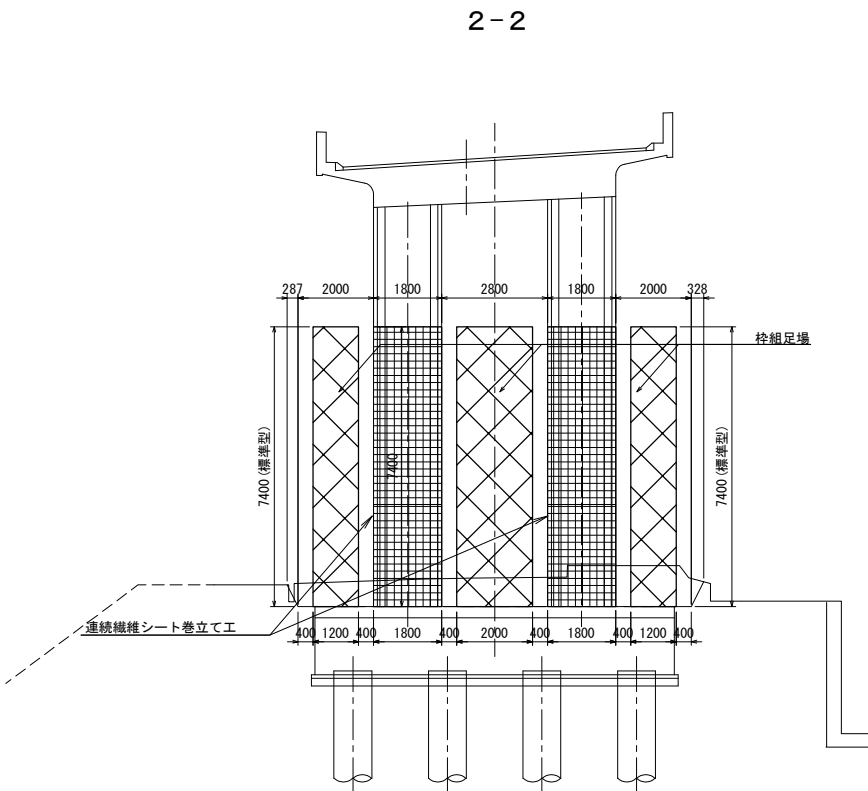
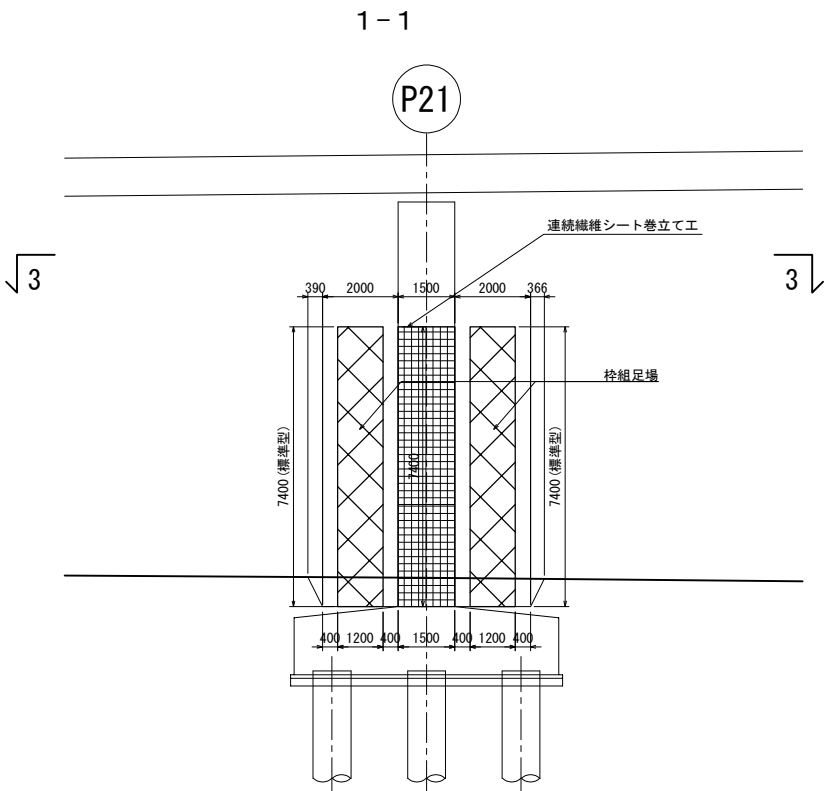
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P17橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P18橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



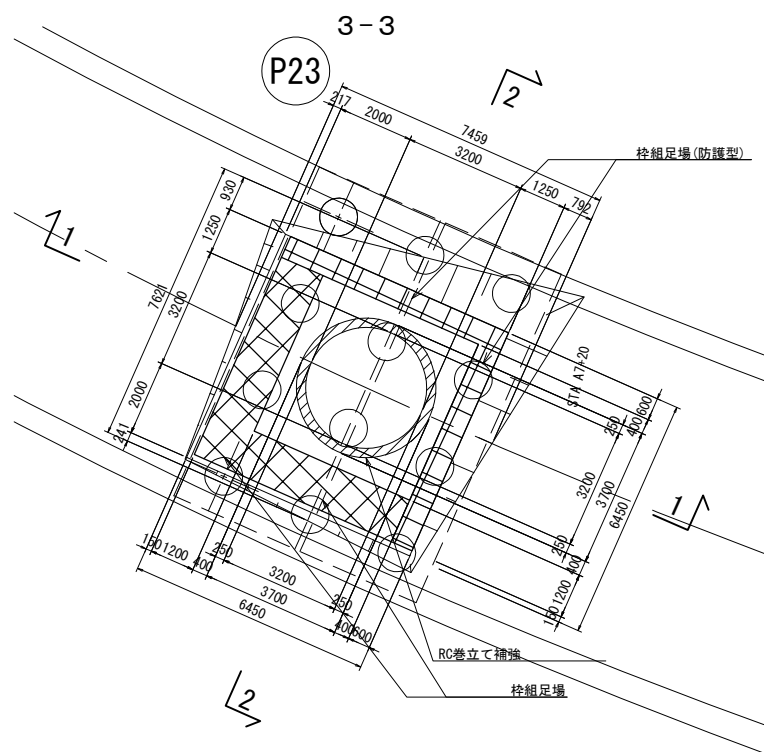
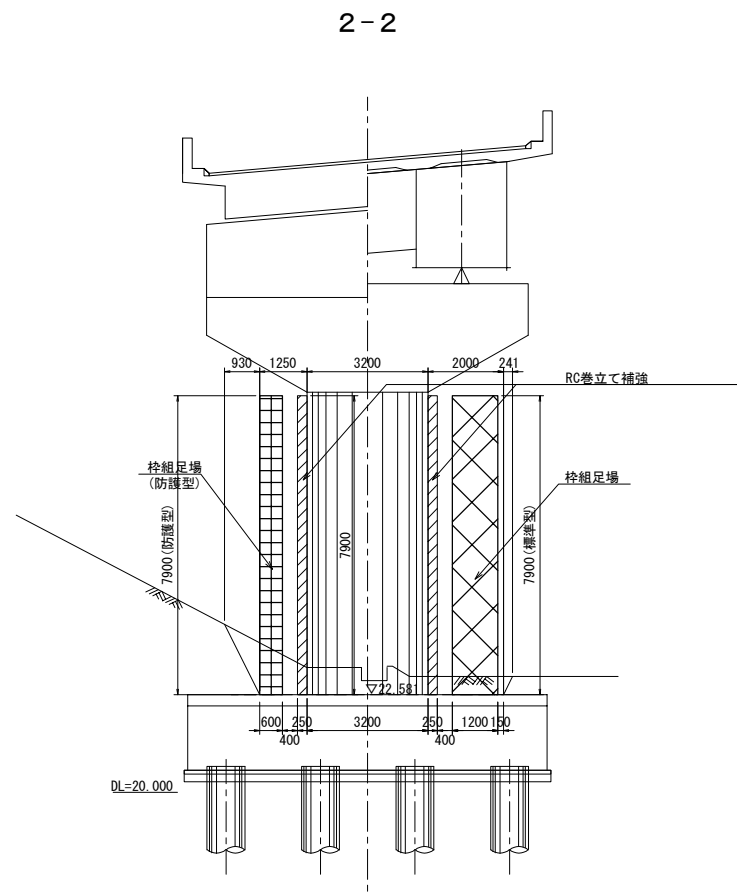
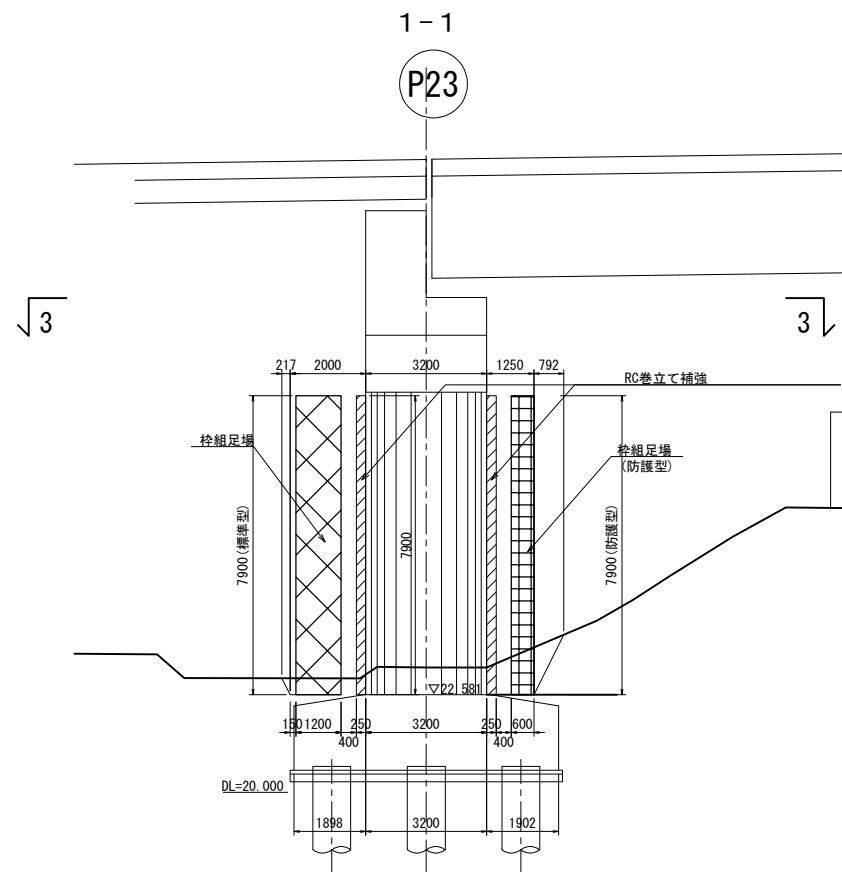
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P19橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



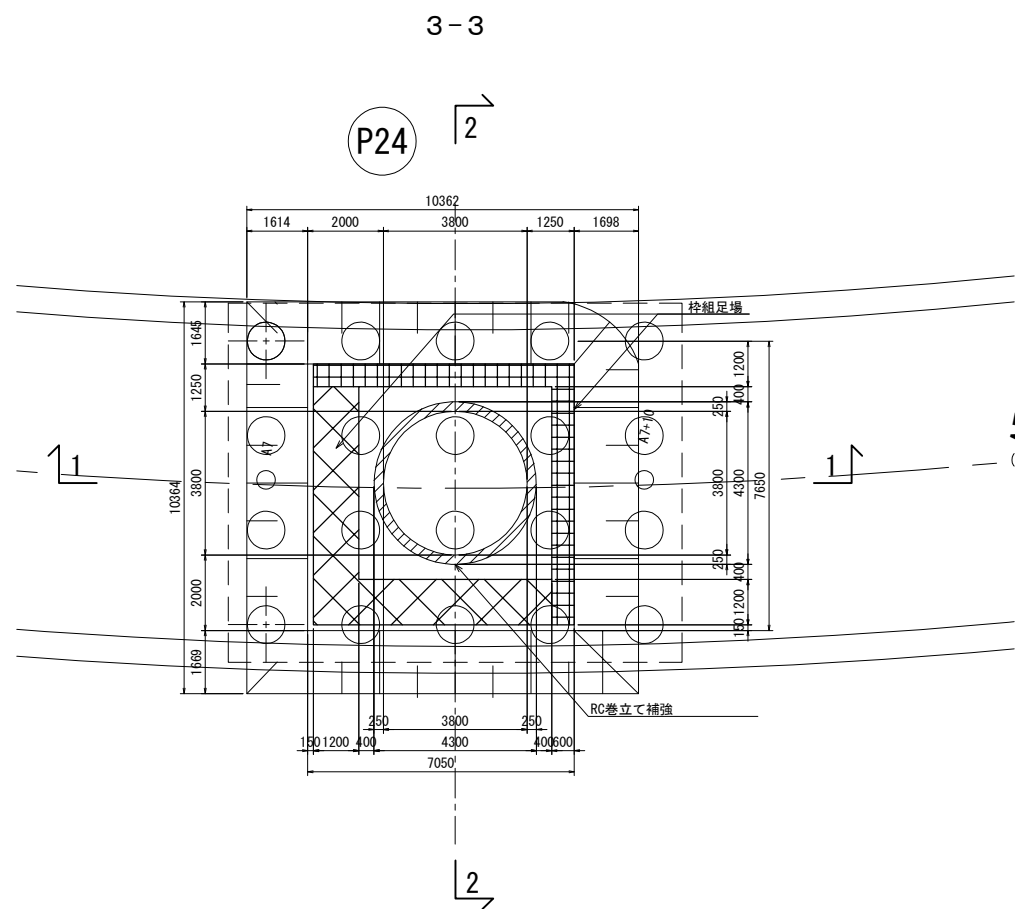
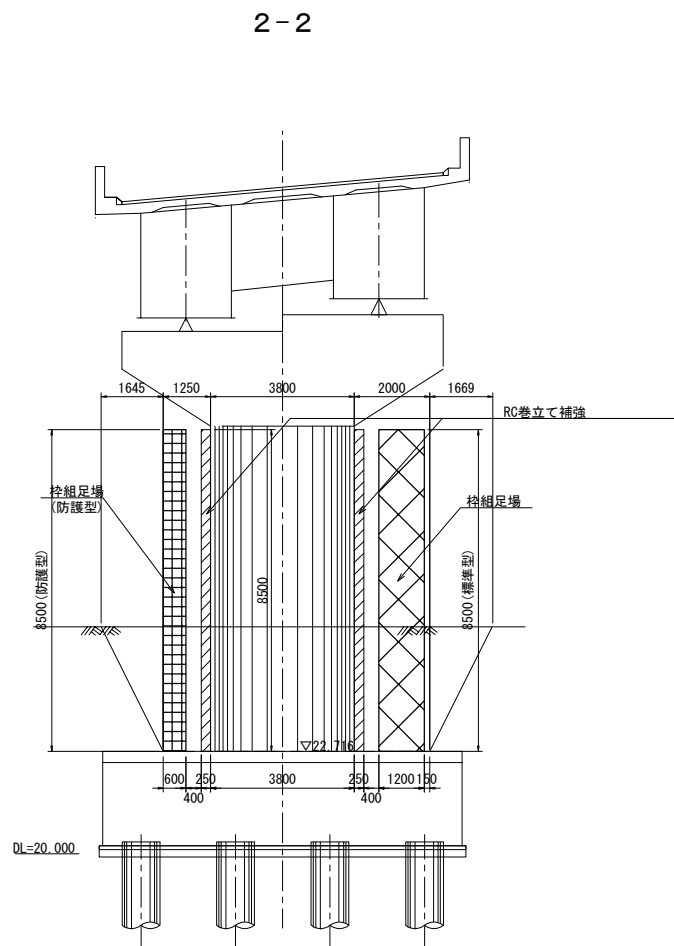
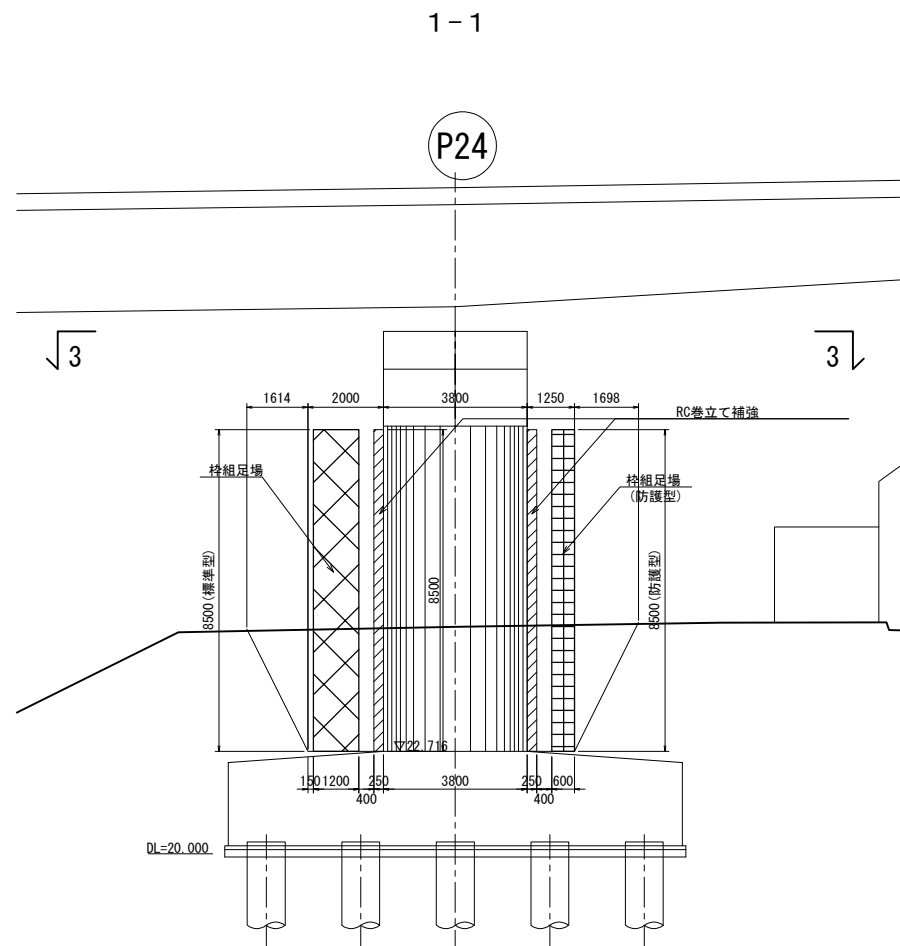
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P21橋脚 足場工図（参考図）		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



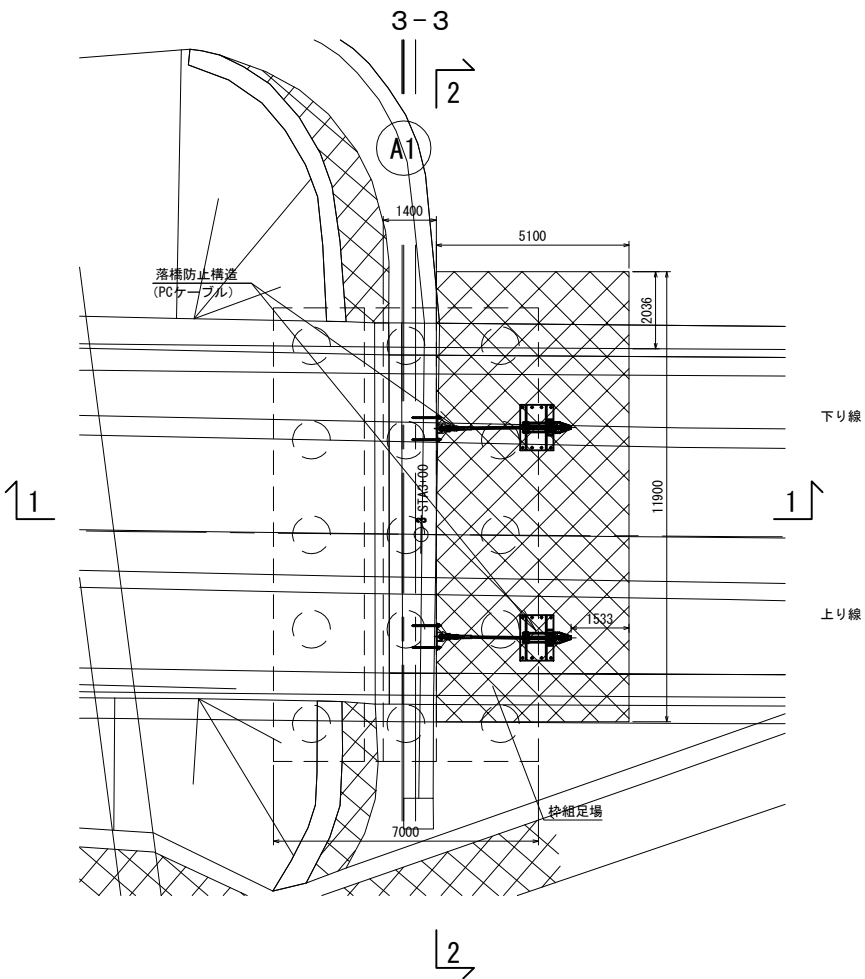
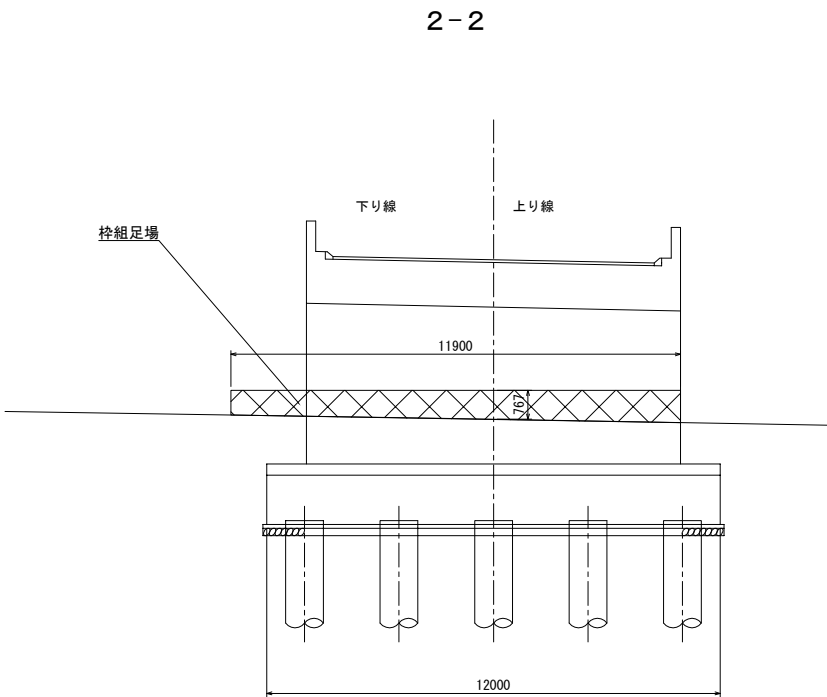
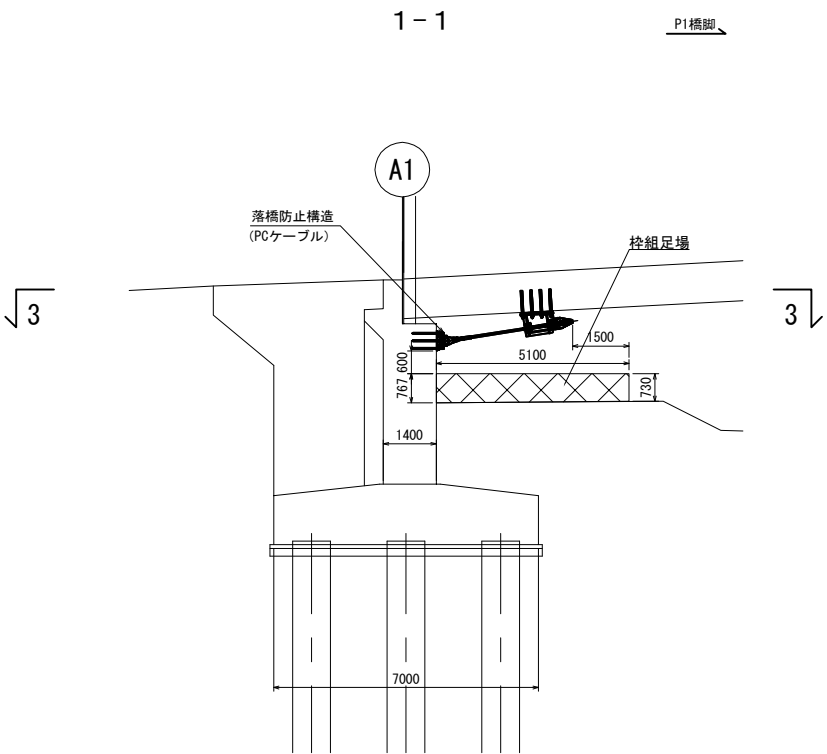
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金ICランプ橋 P22橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



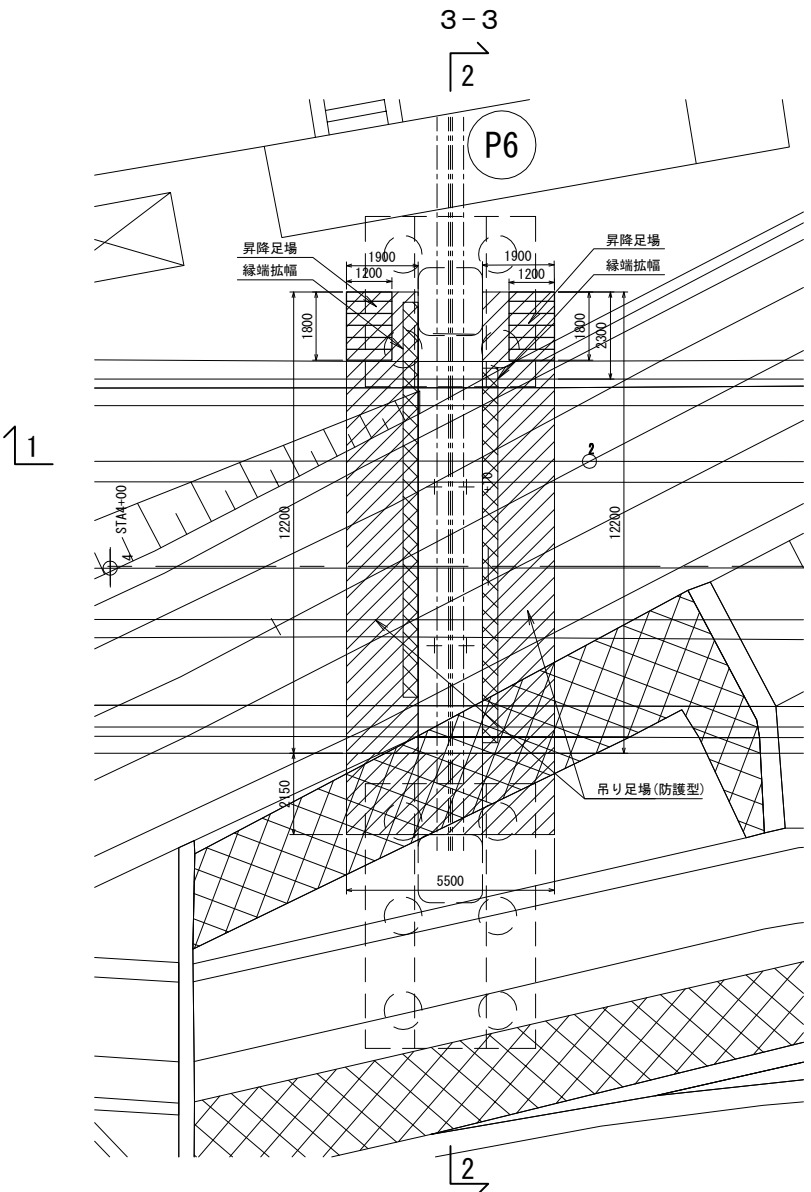
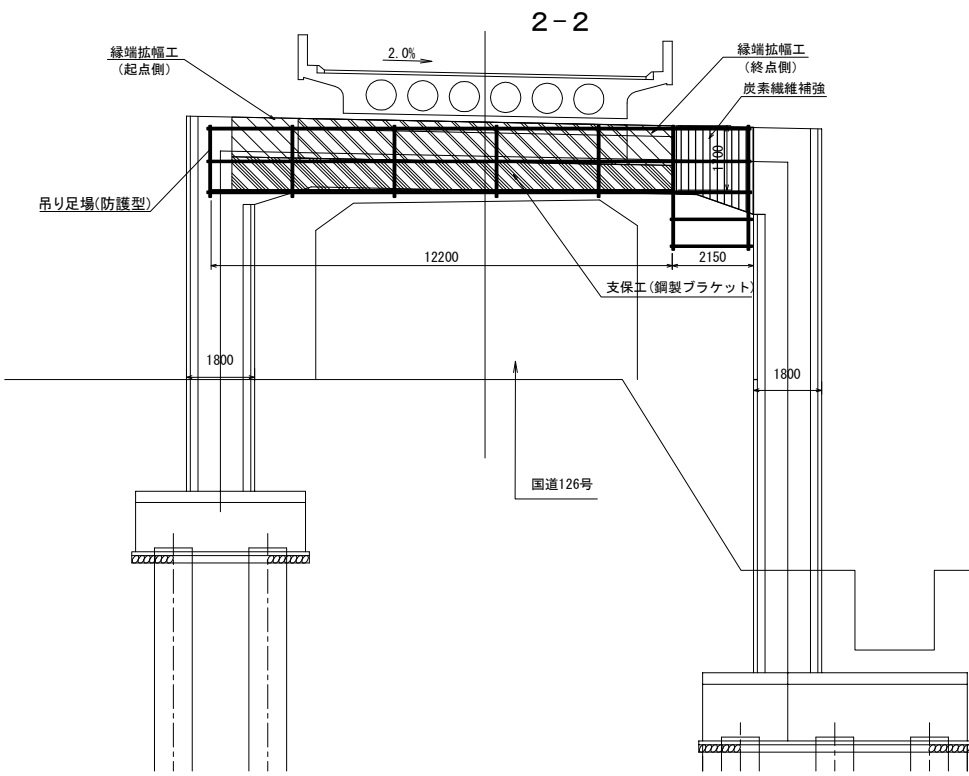
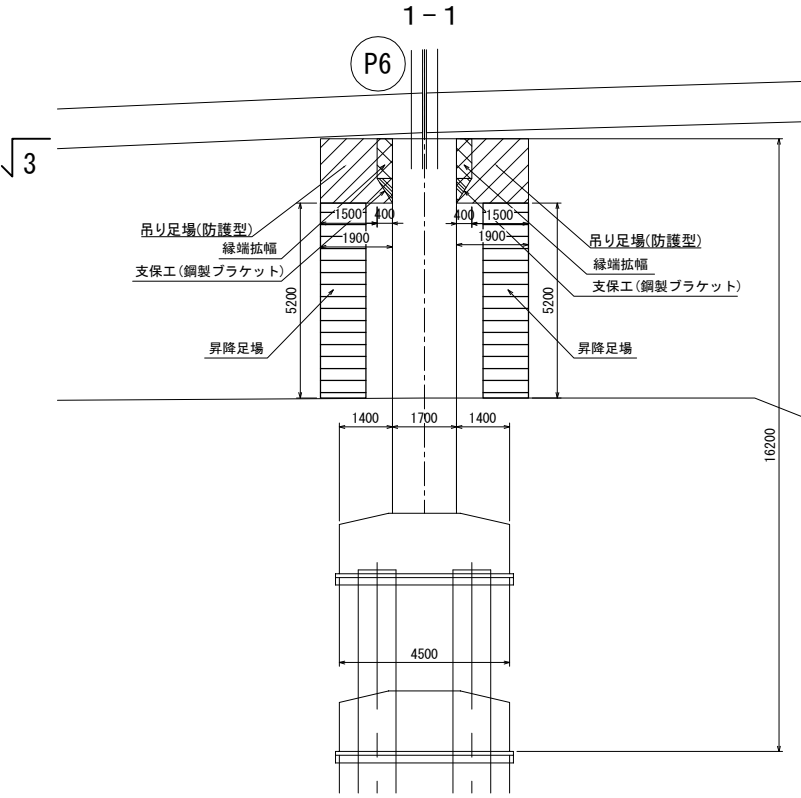
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



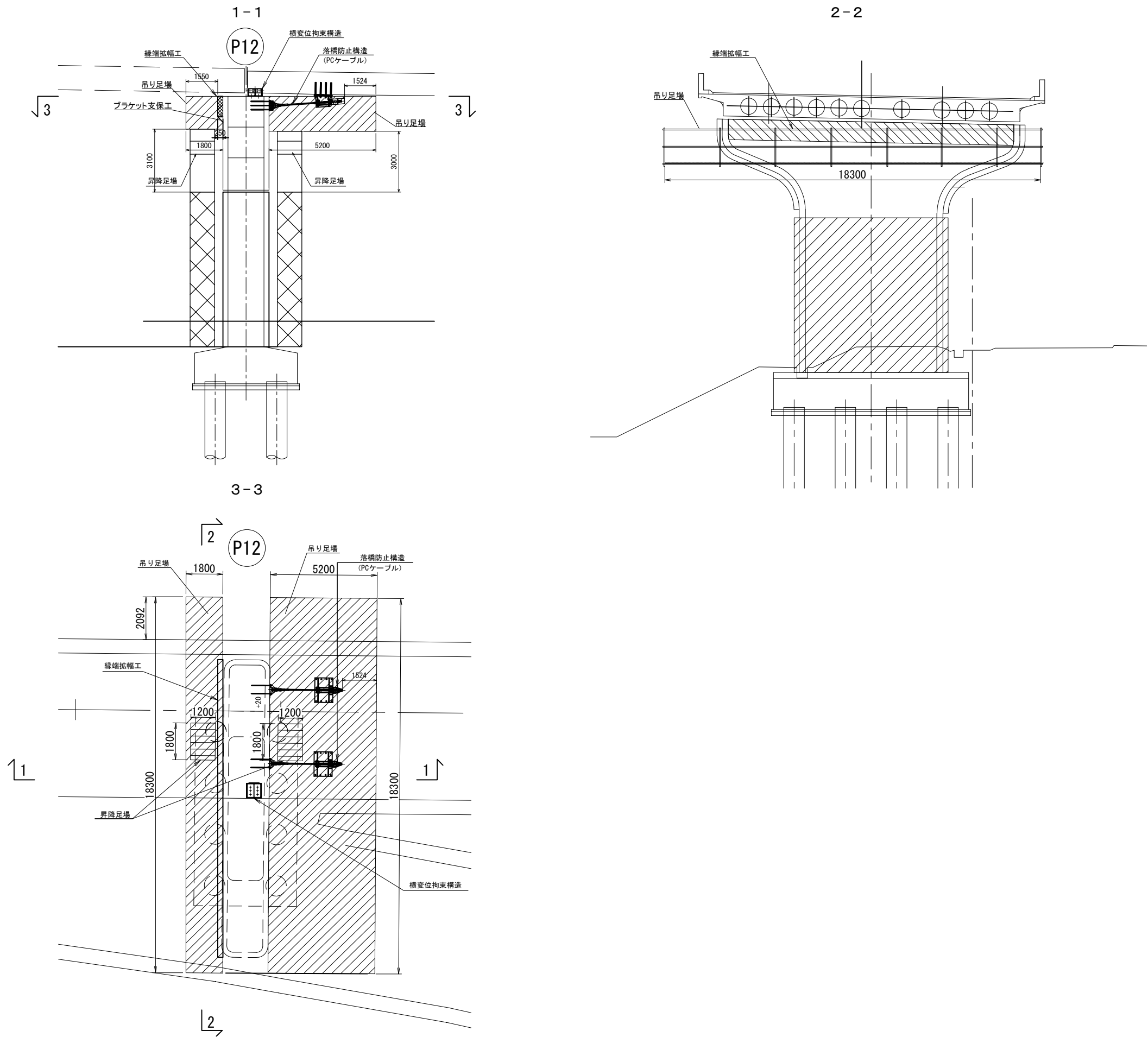
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P24橋脚 足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



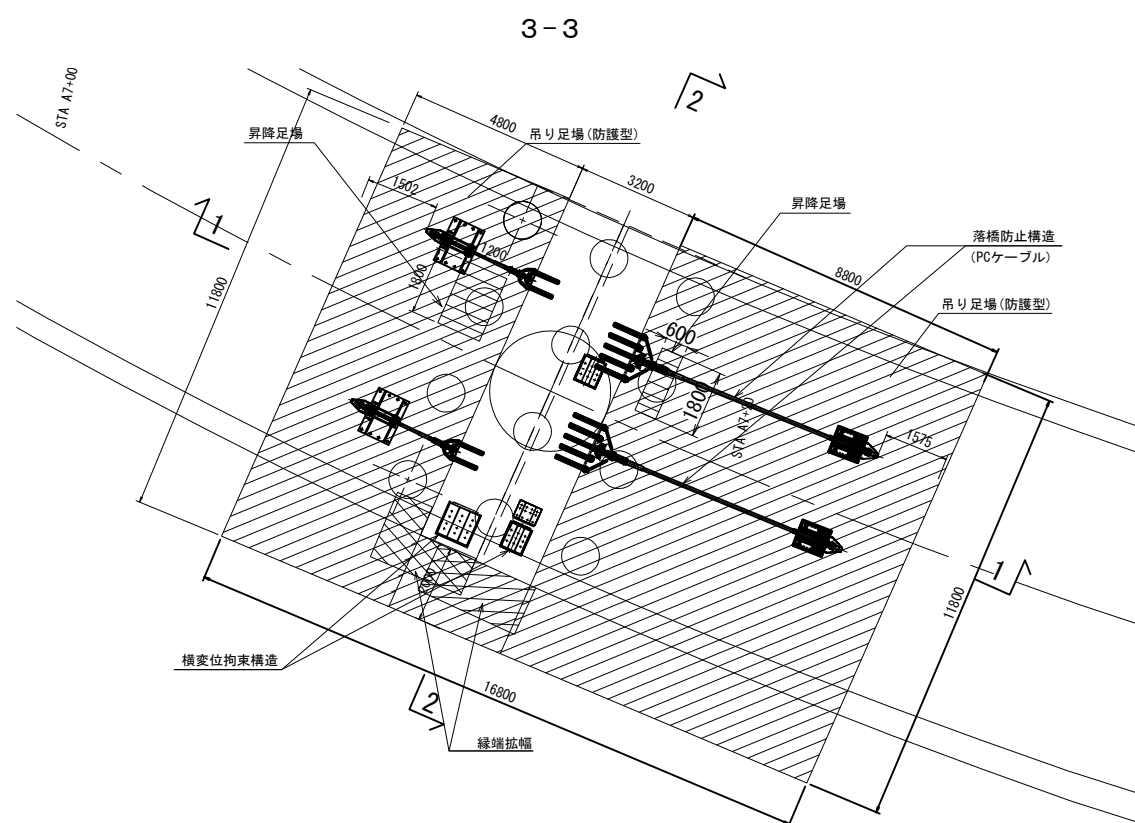
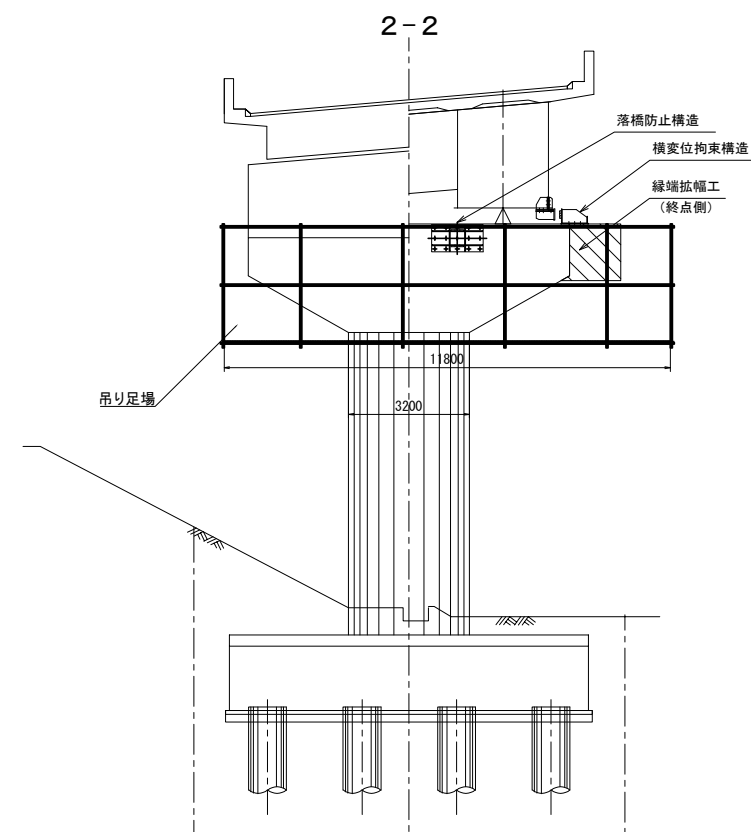
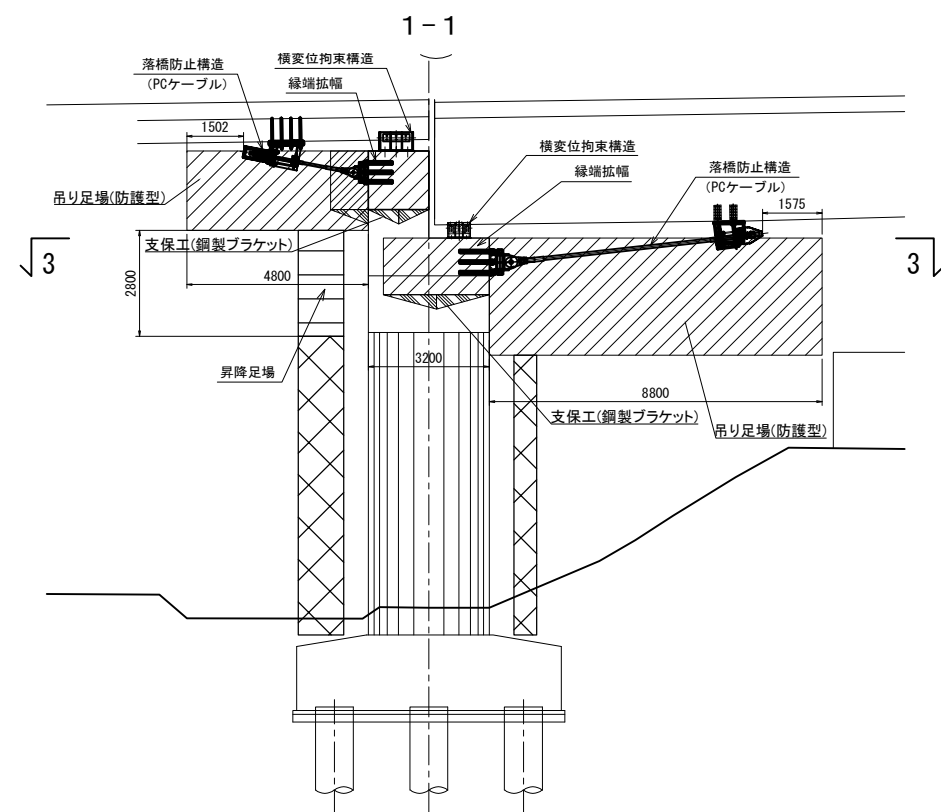
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 A1橋台 上部工施工用足場工図（参考図）		
	縮	尺	図示
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名	東日本高速道路 株式会社		
事務所名	関東支社 市原管理事務所		



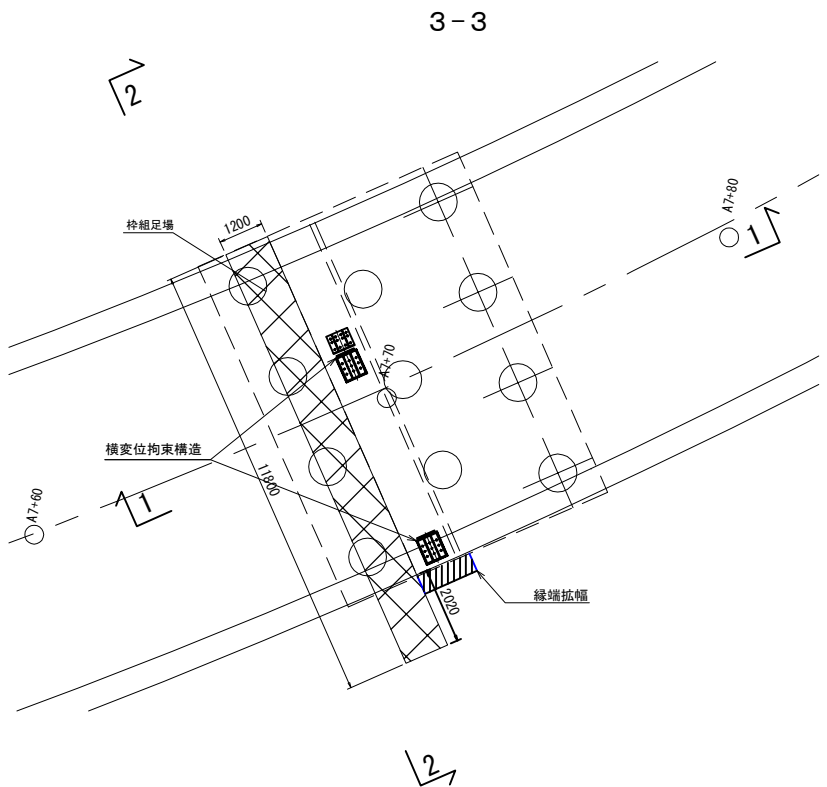
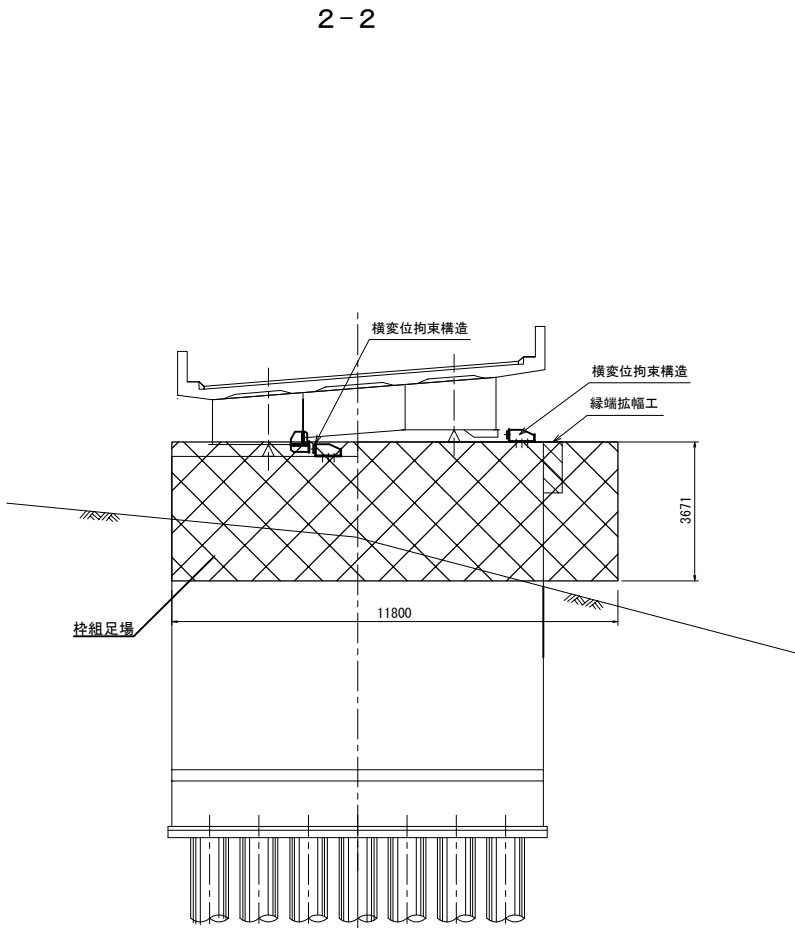
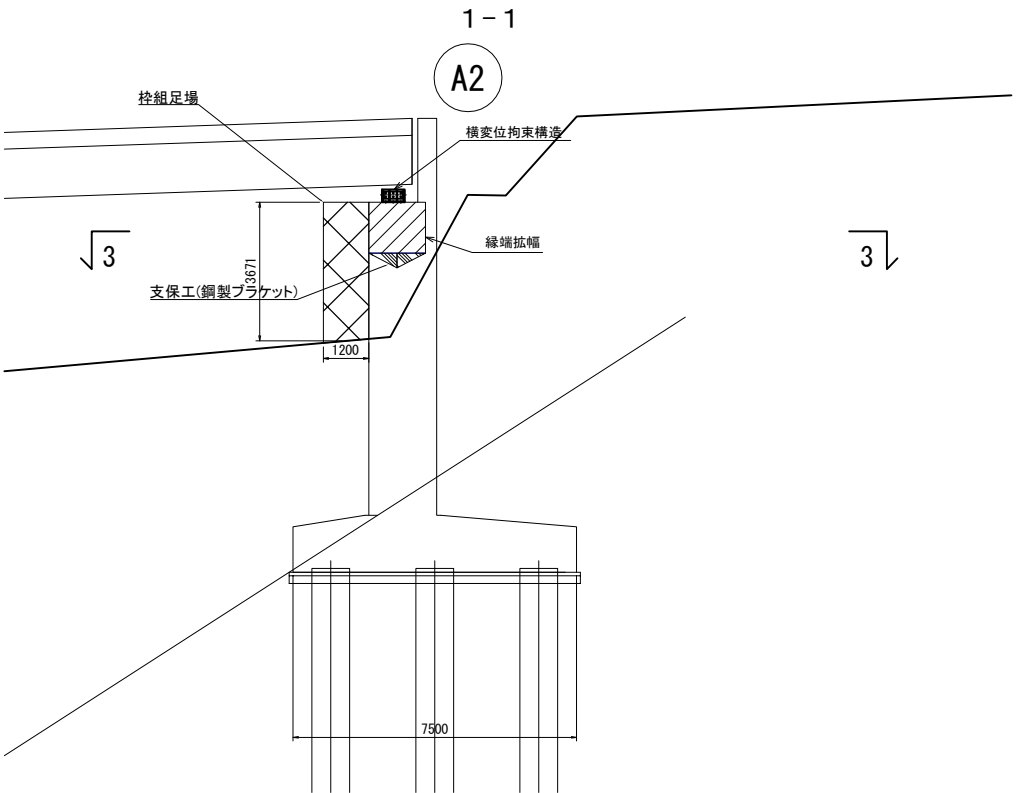
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚		
	上部工施工用足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事				
東金IC Aランプ橋 P12橋脚 上部工施工用足場工図（参考図）				
図面の種類				
縮 尺	図示	図面番号	／	
設計会社名	日本工営株式会社			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所			



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚 上部工施工用足場工図（参考図）		
	縮 尺	図示	図面番号 /
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

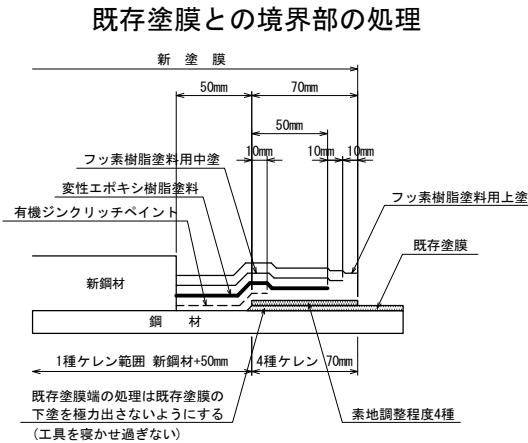
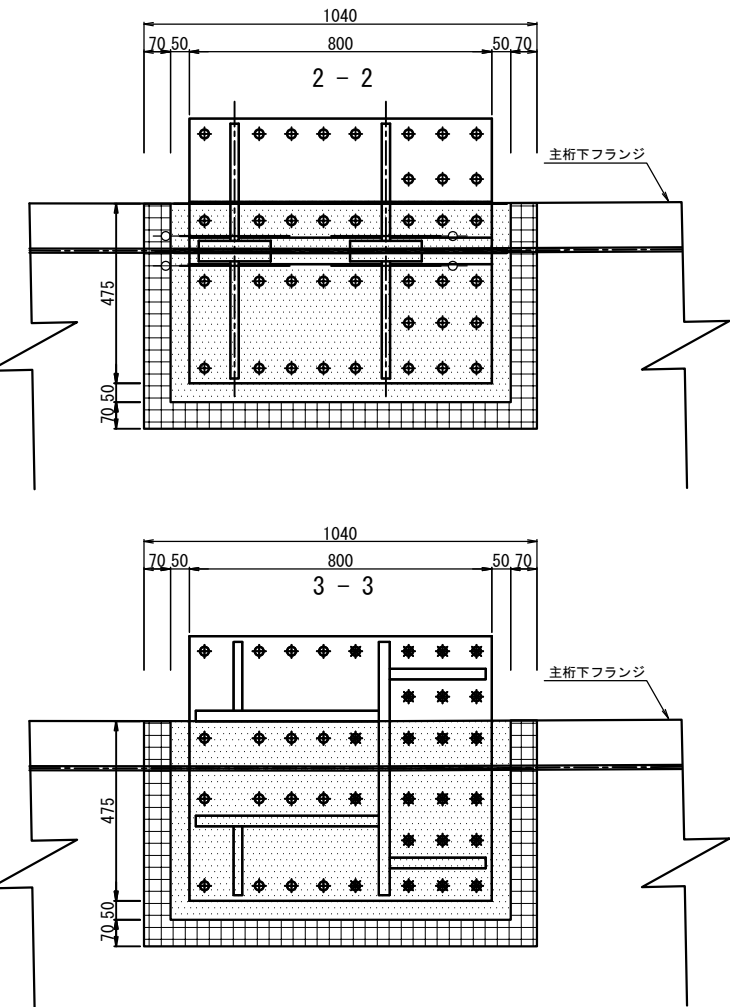
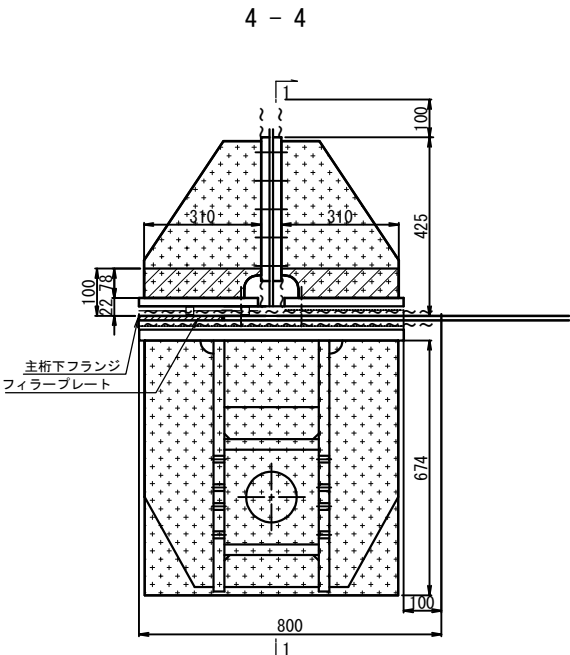
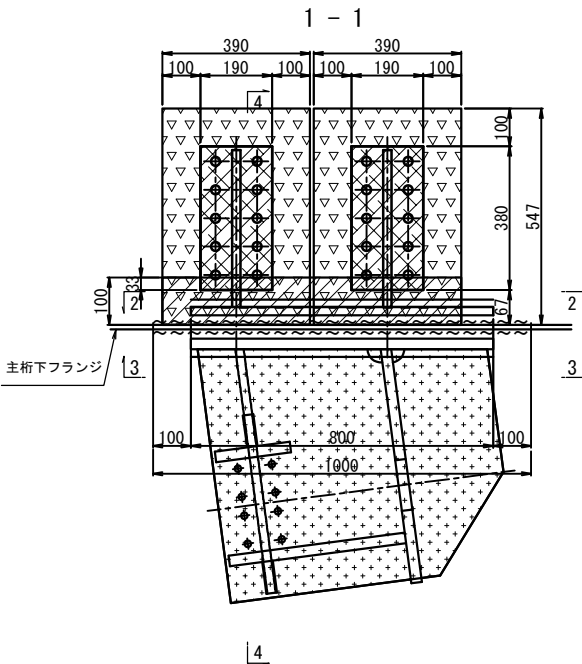
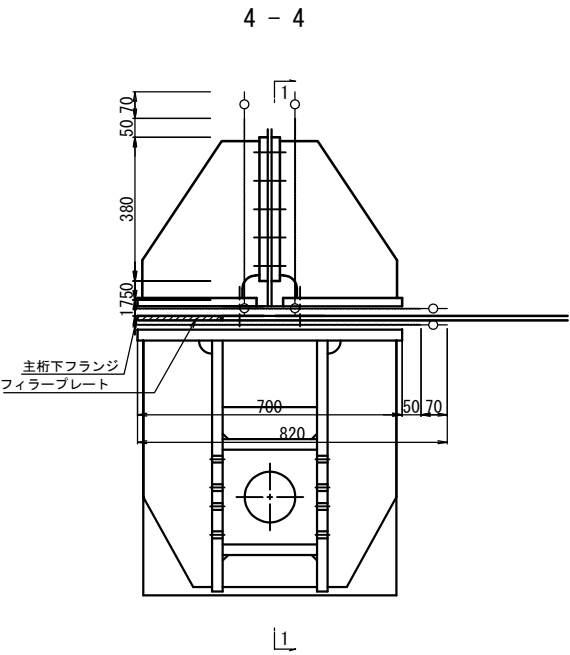
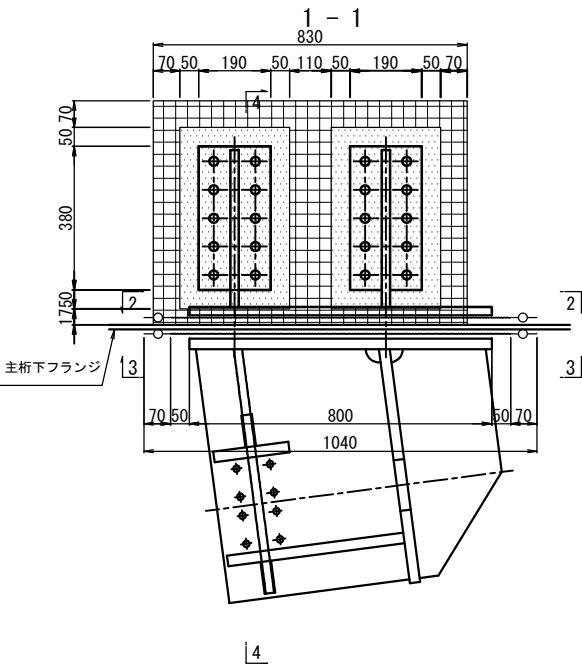


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 A2橋台		
	上部工施工用足場工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

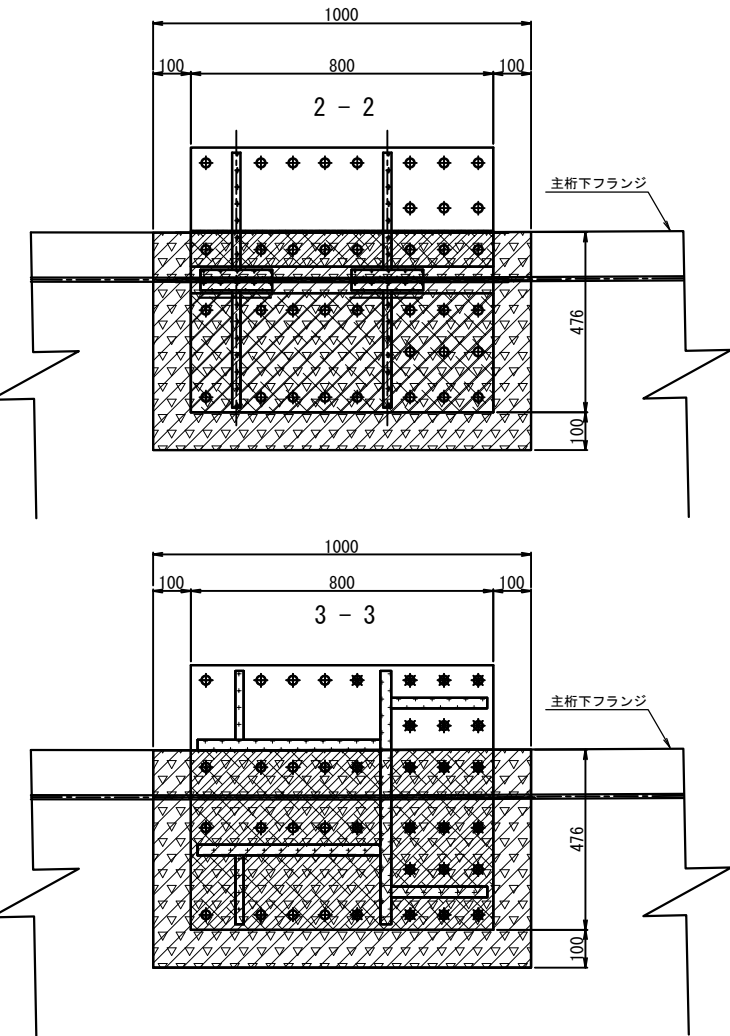
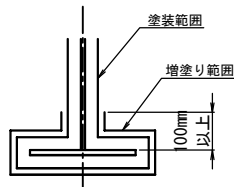
P23橋脚（終点側）：落橋防止構造 上部エブラケット

素地調整範囲

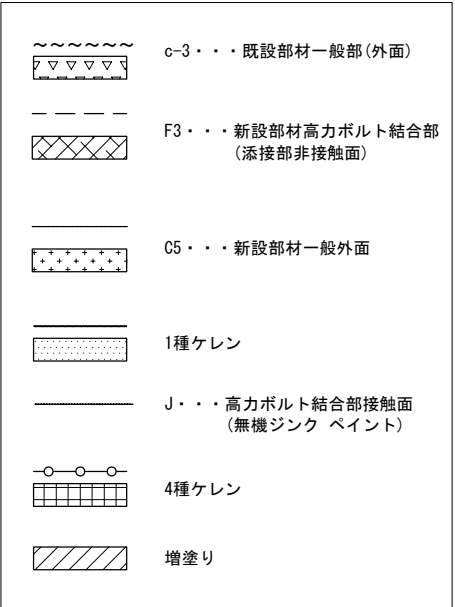
再塗装範囲



増塗り範囲図



凡例



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図（その1）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P23橋脚（終点側）：落橋防止構造 上部エブラケット

塗装仕様 既設部材外面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)		75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2～10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	2～10日	60
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	1～10日	25

塗装仕様 既設部材外面（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3 増塗り	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)		75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2～10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	2～10日	60
		下 塗 3 層 増 塗 り	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1～10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	1～10日	25
					－	

塗装仕様 新設一般部外面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
C (C5)	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
		2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	～ 6か月	－
	工場塗装	下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	2～10日	－
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1～10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1～10日	25
					－	

塗装仕様 新設一般部外面（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
C (C5) 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
		2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	～ 6か月	－
	工場塗装	下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	2～10日	－
		下塗 増塗り	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	2～10日	120
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1～10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1～10日	25
					－	

塗装仕様 新設部材高力ボルト結合部

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
		2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	～ 6か月	－
	工場塗装	下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr以内	75
		ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	2日～12か月	－
	現場塗装	下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1～10日	25
					－	

塗装仕様 新設部材高力ボルト結合部（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
		2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	～ 6か月	－
	工場塗装	下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr以内	75
		ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	2日～12か月	－
	現場塗装	下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1～10日	25
					－	

塗装仕様 高力ボルト結合部接触面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
J	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	～ 6か月	－
		下塗	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr以内	75

細別	記号	P11(起点側)	合計	単位
素地調整1種		1. 1	1. 1	m2
素地調整4種		1. 6	1. 6	m2
既設部材外面	c-3	4. 0	4. 0	m2
既設部材外面(増塗り)	c-3	2. 6	2. 6	m2
新設部材高力ボルト結合部	F3	2. 1	2. 1	m2
新設部材高力ボルト結合部(増塗り)	F3	0. 1	0. 1	m2
高力ボルト結合部接触面	J	2. 1	2. 1	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部(熱影響部)の塗装系	F11	0. 6	0. 6	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部(熱影響部)の塗装系(増塗り)	F11	0. 3	0. 3	m2
新設一般部外面	C5	8. 3	8. 3	m2
新設一般部外面(増塗り)	C5	0. 2	0. 2	m2

塗装仕様 高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St.3)	－	2hr以内	－
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1～10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240		30
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1～10日	25
					－	

塗装仕様 高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系（増塗り）

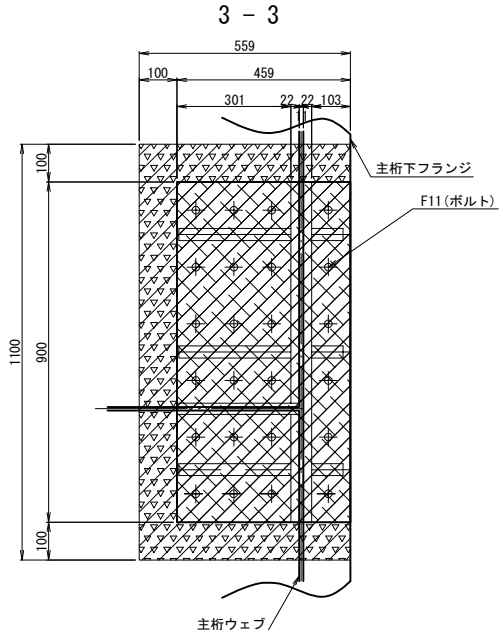
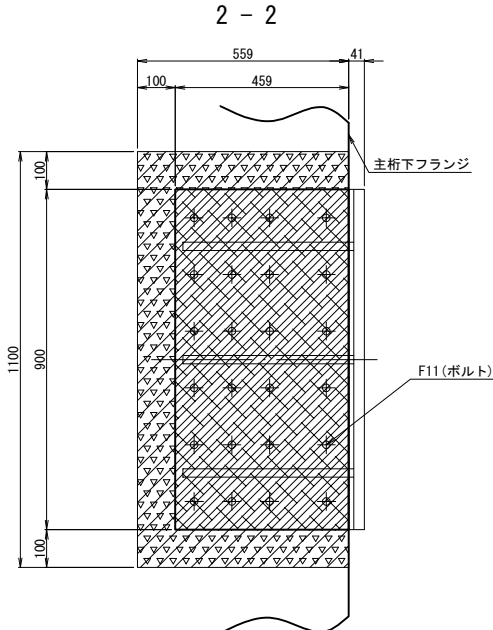
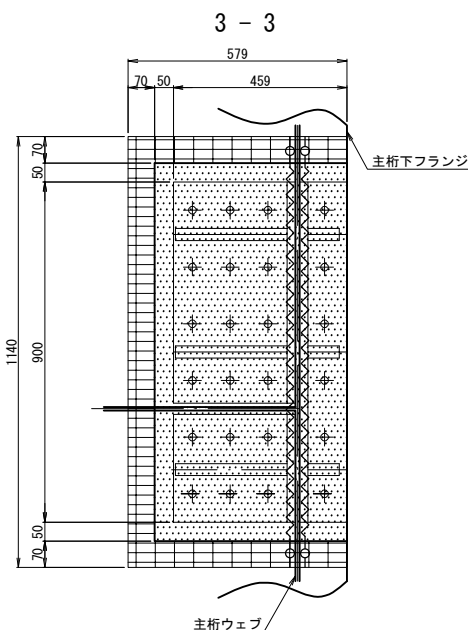
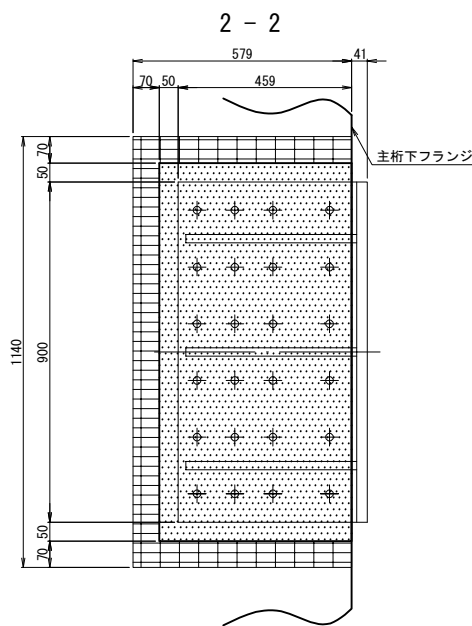
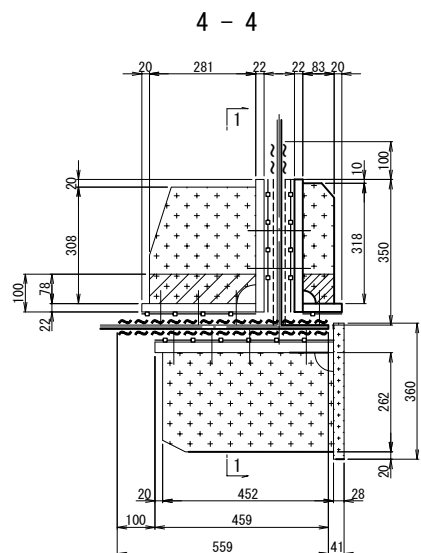
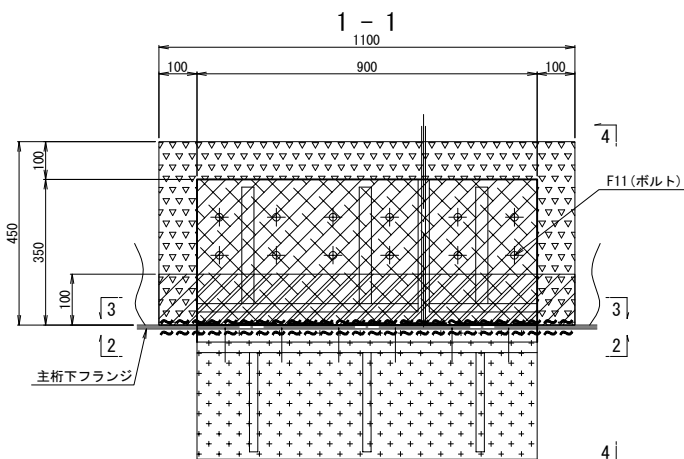
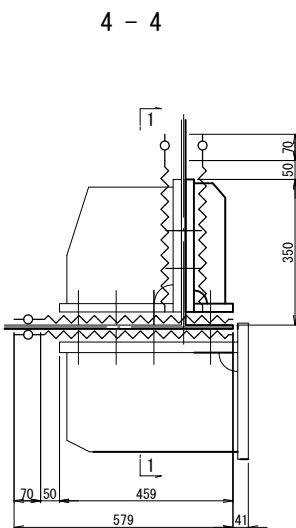
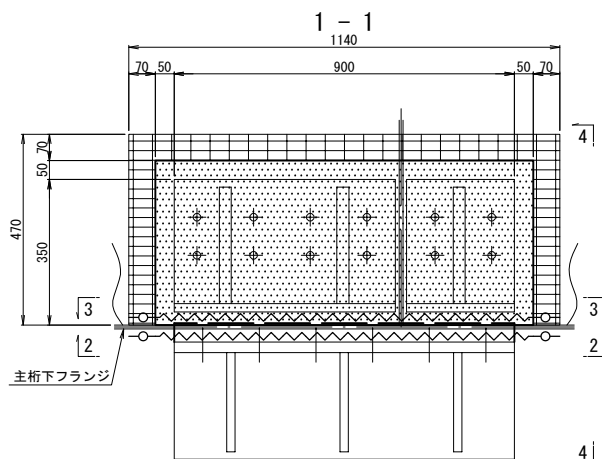
塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11 増塗り	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St.3)	－	2hr以内	－
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1～10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240		30
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1～10日	25
					－	

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図（その2）		
縮 尺	－	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

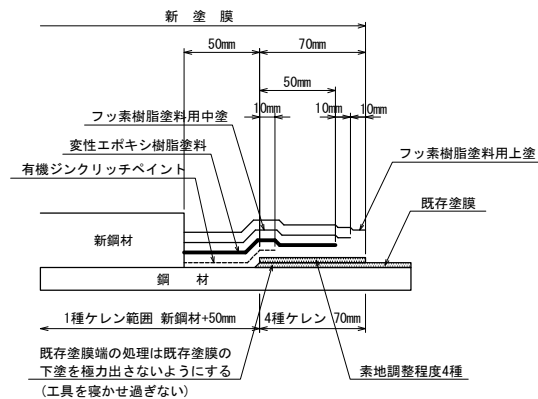
P23橋脚（終点側）：横変位拘束構造 上部エブラケット

素地調整範囲

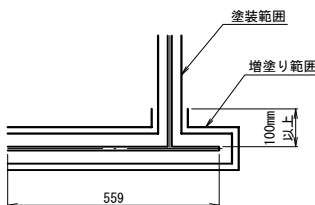
再塗装範囲



既存塗膜との境界部の処理



増塗り範囲図



凡例

	c-3・・・既設部材一般部(外面)
	F3・・・新設部材高力ボルト結合部(添接部非接触面)
	C5・・・新設部材一般外面
	1種ケレン
	J・・・高力ボルト結合部接触面(無機ジンク ペイント)
	4種ケレン
	増塗り

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図（その3）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

P23橋脚（終点側）：横変位拘束構造 上部エブラケット

塗装仕様 既設部材外面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr 以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)	2 ～ 10日	75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2 ～ 10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	60
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	－	25

塗装仕様 既設部材外面（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3 増塗り	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr 以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)	－	75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2～10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	2～10日	60
		下 塗 3 層 増 塗 り	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1～10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	1～10日	25

塗装仕様 新設一般部外面

塗装区分		工 程	塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)	
C (C5)	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-	
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)	
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-	
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2 ～ 10日	75	
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	1 ～ 10日	-	
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120	
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1 ～ 10日	30	
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	-	25	

塗装仕様 新設一般部外面（増塗り）

塗装区分		工 程	塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
C (C5) 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2 ～ 10日	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	1 ～ 10日	-
		下塗 増塗り	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1 ～ 10日	25
					-	-

塗装仕様 新設部材高力ボルト結合部

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2日～12か月	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	1～10日	-
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1～10日	25
					-	-

塗装仕様 新設部材高力ボルト結合部（増塗り）

塗装区分	工 程	塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)	
F3 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	-	-
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr 以内	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	2日～12か月	-
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1～10日 -	25

塗装仕様 高力ボルト結合部接触面

塗装区分	工 程	塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)	
J	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	-	2hr 以内	-
		下塗	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	-	75

塗装仕様 高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

塗装区分		工 程	塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St.3)	-	2hr 以内	-
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1～10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240		30
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120μm)	(スプレー360) ハケ300	1～10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120μm)	(スプレー360) ハケ300		90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1～10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120		25

塗装仕様 高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系（増塗り）

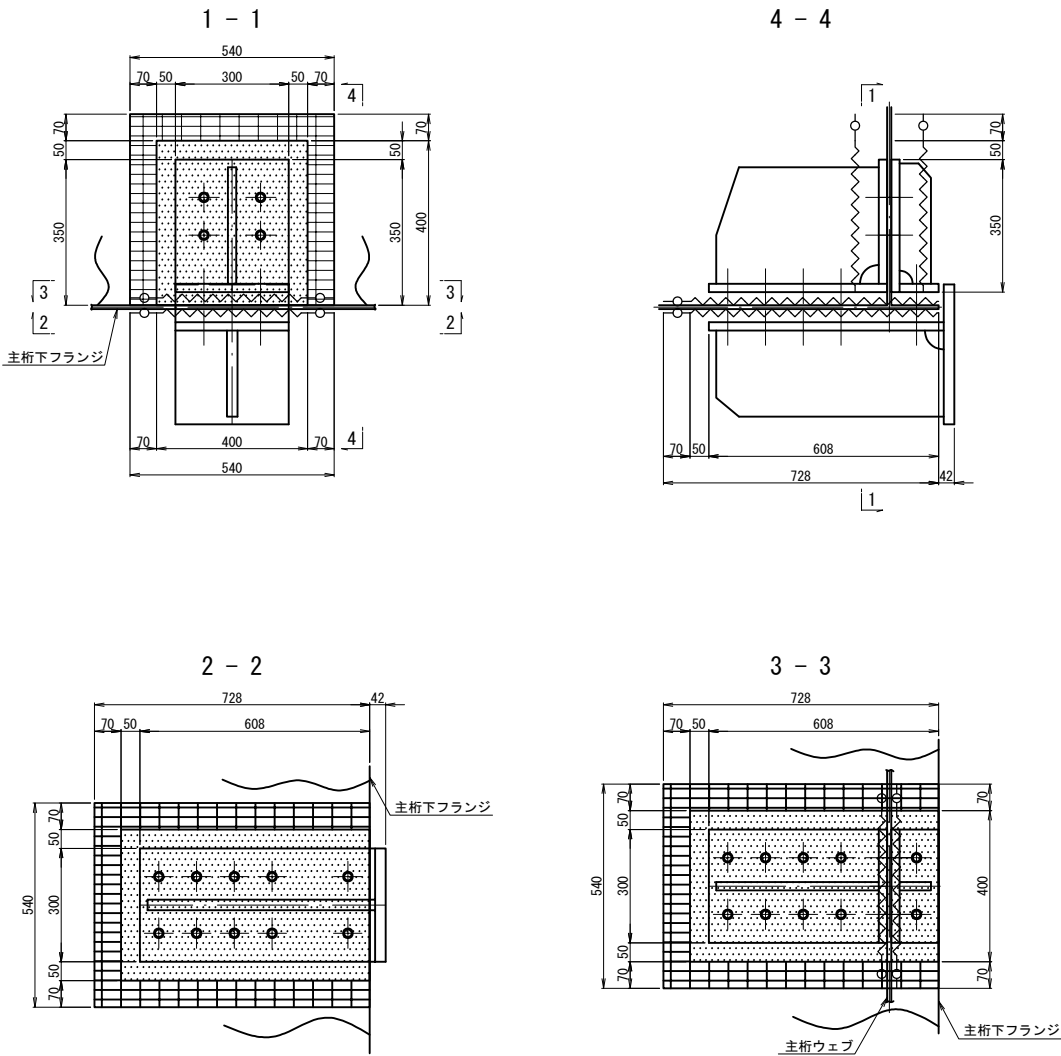
塗装区分		工 程	塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m ²)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11 増塗り	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St.3)	-	2hr 以内	-
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240		30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	-	25

細別	記号	P23	単位
素地調整1種		1. 8	m2
素地調整4種		0. 6	m2
既設部材外面	c-3	2. 2	m2
既設部材外面（増塗り）	c-3	1. 4	m2
新設部材高力ボルト結合部	F3	1. 4	m2
新設部材高力ボルト結合部（増塗り）	F3	0. 2	m2
高力ボルト結合部接触面	J	1. 4	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系	F11	0. 2	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系（増塗り）	F11	0. 1	m2
新設一般部外面	C5	4. 8	m2
新設一般部外面（増塗り）	C5	0. 2	m2

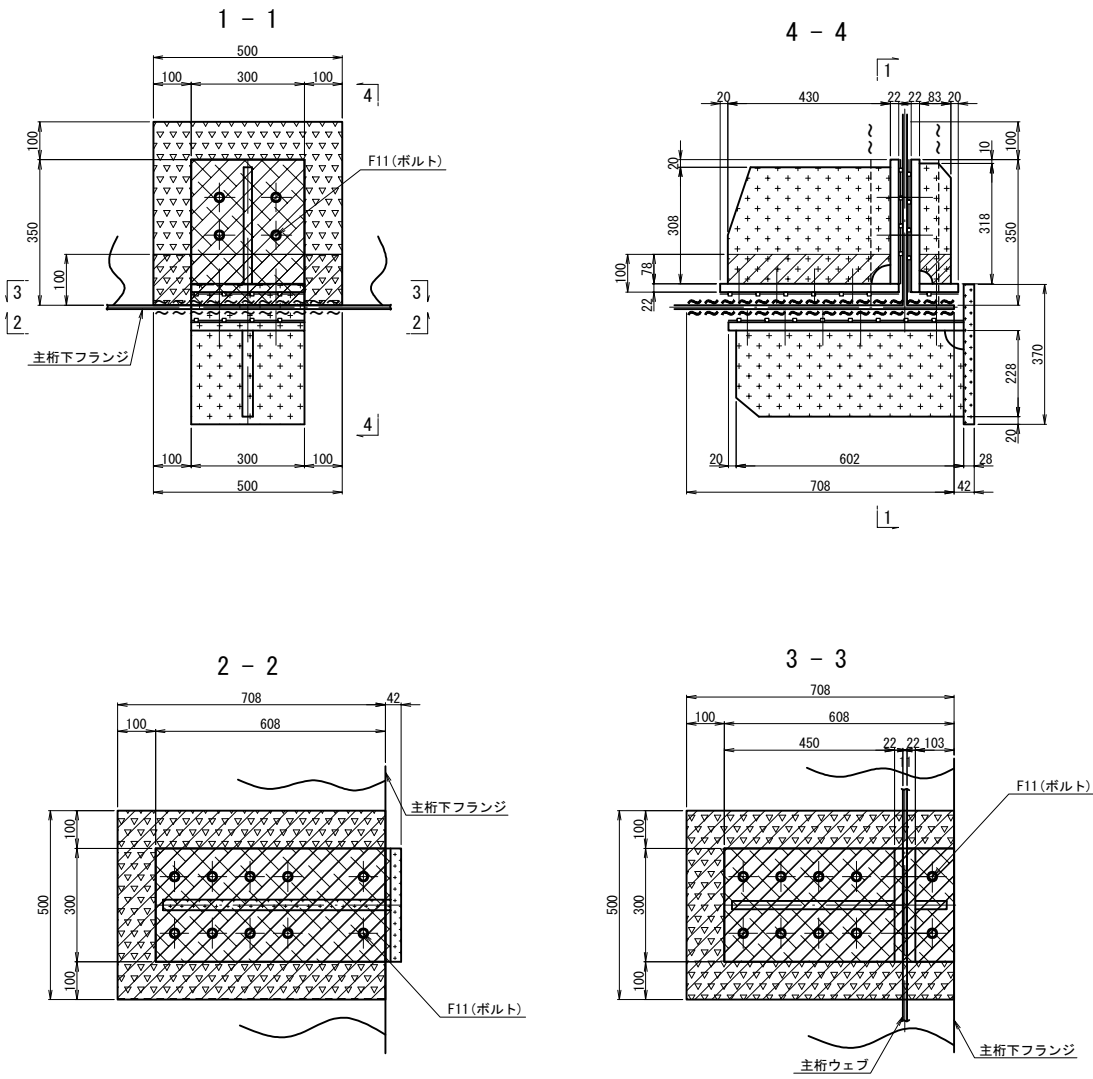
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図（その4）		
縮 尺	－	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

A2橋台：横変位拘束構造 上部エブラケット

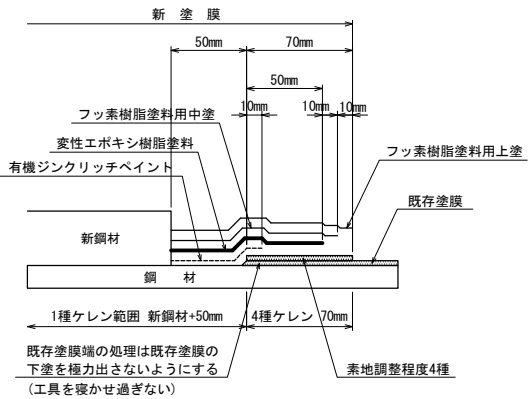
素地調整範囲



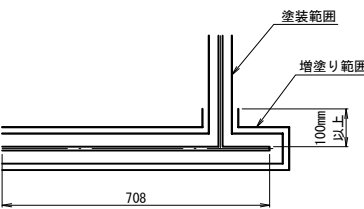
再塗装範囲



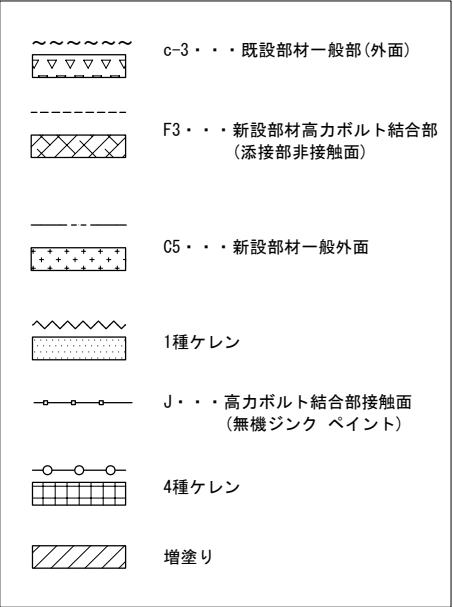
既存塗膜との境界部の処理



増塗り範囲図



凡例



首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図（その5）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

A2橋台：横変位拘束構造 上部エブラケット

塗装仕様 既設部材外面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr 以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)	2 ～ 10日	75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2 ～ 10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	60
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	－	25

塗装仕様 既設部材外面（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c-3 増塗り	現場塗装	素地調整	1種	－	4hr 以内	－
		下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー600)	2 ～ 10日	75
		下 塗 2 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2 ～ 10日	60
		下 塗 3 層	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	60
		下 塗 3 層 増 塗 り	変性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制型変性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	ハケ140 (スプレー170)	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	－	25

塗装仕様 新設一般部外面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr 以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	2 ～ 10日	－
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1 ～ 10日	25

塗装仕様 新設一般部外面（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
c (C5) 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr 以内	75
		ミストコート	エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー160	2 ～ 10日	－
		下塗 増塗り	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		下塗 第2層	厚膜形エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	スプレー540	1 ～ 10日	120
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	スプレー170	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	スプレー140	1 ～ 10日	25

塗装仕様 新設部材高力ボルト結合部

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2hr 以内	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	2日 ～ 12か月	－
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

塗装仕様 新設部材高力ボルト結合部（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F3 増塗り	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	2日 ～ 12か月	75
	現場塗装	ミストコート	変性エポキシ樹脂塗料下塗あるいは 厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー160) ハケ130	1 ～ 10日	－
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第2層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

塗装仕様 高力ボルト結合部接触面

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
J	前処理	素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		プライマー	無機ジンクリッチプライマー	スプレー160	～ 6か月	(15)
	工場塗装	2次素地調整	G - a (プラスト ISO Sa2・1/2)	－	2hr 以内	－
		下塗	無機ジンクリッチペイント	スプレー600	－	75

細別	記号	A2	単位
素地調整1種		0.8	m2
素地調整4種		0.4	m2
既設部材外面	c-3	1.2	m2
既設部材外面（増塗り）	c-3	0.8	m2
新設部材高力ボルト結合部	F3	0.6	m2
新設部材高力ボルト結合部（増塗り）	F3	0.1	m2
高力ボルト結合部接触面	J	0.6	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系	F11	0.1	m2
高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系（増塗り）	F11	0.1	m2
新設一般部外面	C5	1.9	m2
新設一般部外面（増塗り）	C5	0.1	m2

塗装仕様 高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St.3)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

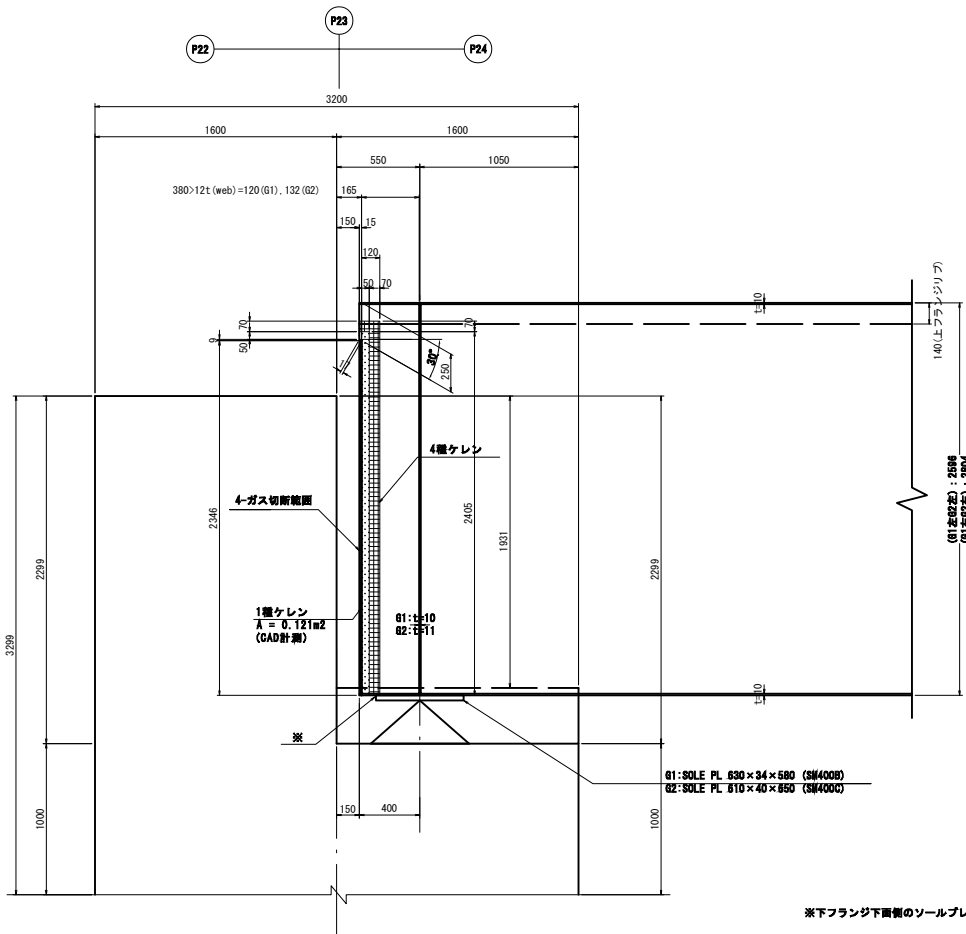
塗装仕様 高力ボルト頭部および現場溶接部（熱影響部）の塗装系（増塗り）

塗装区分	工 程		塗料または素地調整程度	標準使用量 (g/m^2)	塗装間隔	標準膜厚 (μm)
F11 増塗り	現場塗装	素地調整	G - c (動力工具 ISO St.3)	－	2hr 以内	－
		下塗 第1層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 第2層	有機ジンクリッチペイント	ハケ240	1 ～ 10日	30
		下塗 増塗り	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第3層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		下塗 第4層	厚膜形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (120 μm)	(スプレー360) ハケ300	1 ～ 10日	90
		中 塗	ふっ素樹脂塗料用中塗	(スプレー170) ハケ140	1 ～ 10日	30
		上 塗	ふっ素樹脂塗料上塗	(スプレー140) ハケ120	1 ～ 10日	25

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 塗替塗装・塗膜除去工 塗分け区分図（その6）		
縮 尺	－	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

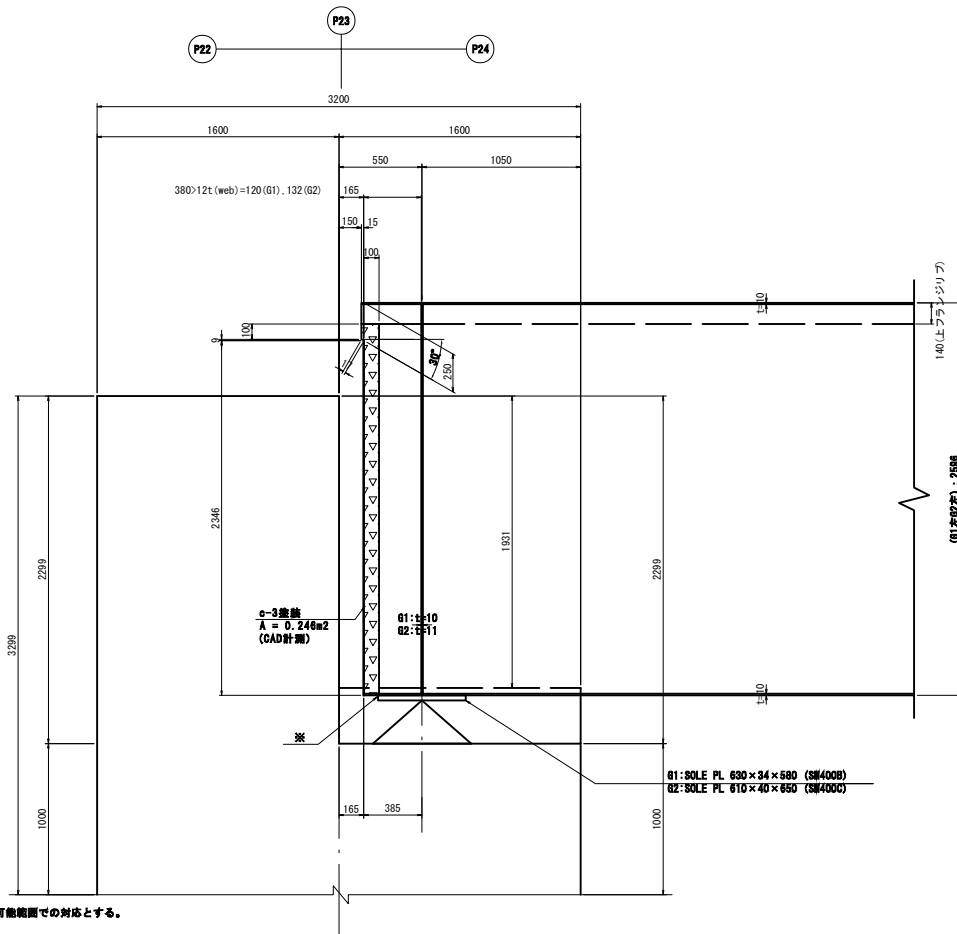
素地調整

側面図 S=1:20

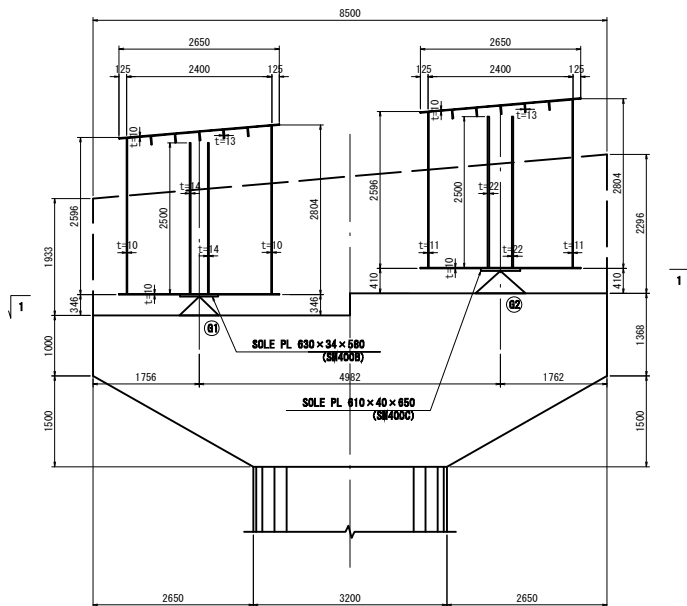


再塗装範囲

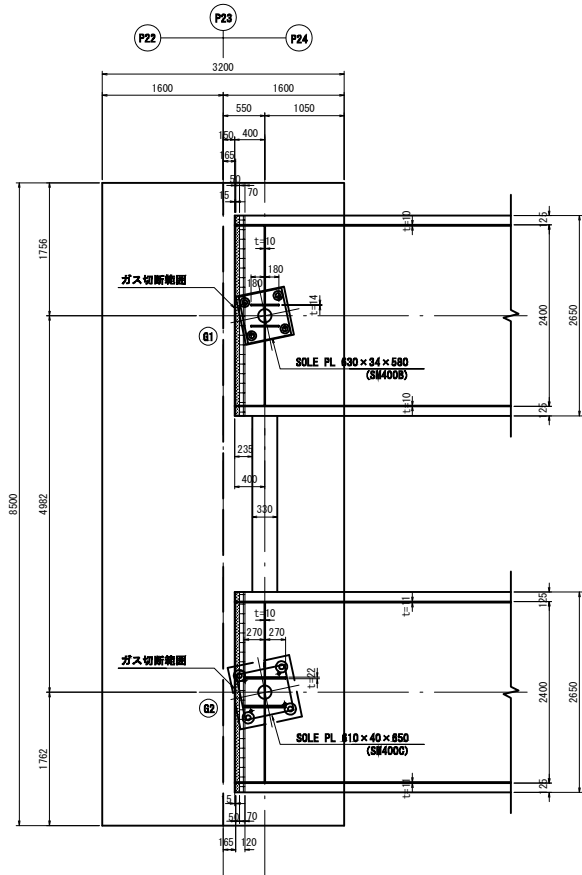
側面図 S=1:20



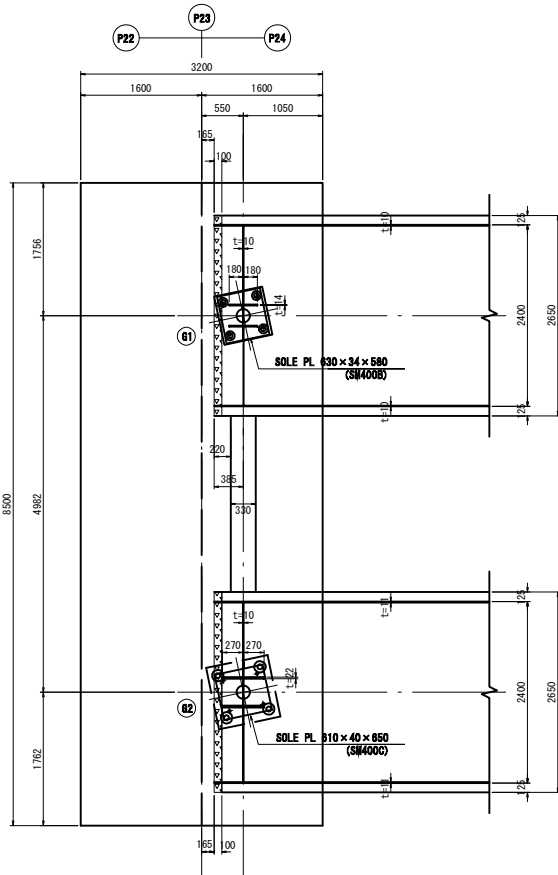
正面図 S=1:50



1-1 平面図 S=1:40



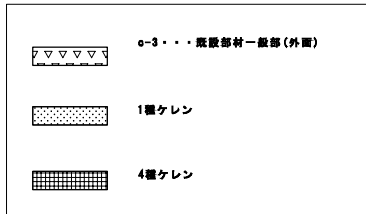
1-1 平面図 S=1:40



P23橋脚(P24側) 桁端切欠き工数量計算

ガス切断
t=10mm : L = (2.346+0.017 + 2.650) x 2 = 10.03 m
t=11mm : L = (2.346+0.017) x 2 = 4.73 m
撤去鋼材 : W = (2.346+0.009) x 0.010 x (0.010x2+0.011x2) x 7850 + 2.650x0.010x0.010x2x7850 = 11.9 kg
1種ケレン : A = 0.121 (CAD圖) x 2x4+2.650x0.050x2x2 = 1.50 m²
4種ケレン : A = (0.120+2.405) x 0.070x2x4+2.650x0.070x2x2 = 2.16 m²
o-3 : A = 0.246 (CAD圖) x 2x4+2.650x0.100x2x2 = 3.03 m²

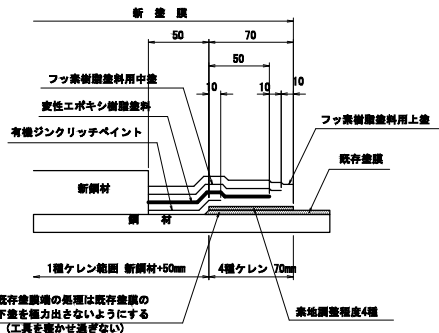
凡例



塗装仕様

塗装区分	工 程	塗料または床材の名称	単位使用量 (g/m ²)	塗面積 (m ²)	単位厚 (μm)
s-3	床面調整	1種	-	-	-
	下 塗 1 層	有機ジンクリッチペイント	ハケ250×2 (スプレー800)	4hr以内	7E
	下 塗 2 層	炭性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制炭性エポキシ樹脂塗料下塗)	スプレー240	2～10日	80
	下 塗 3 層	炭性エポキシ樹脂塗料下塗 (はく離抑制炭性エポキシ樹脂塗料下塗)	ハケ200 (スプレー240)	2～10日	80
	中 塗	珪素樹脂塗料中塗	ハケ140 (スプレー170)	1～10日	30
	上 塗	珪素樹脂塗料上塗	ハケ120 (スプレー140)	-	25

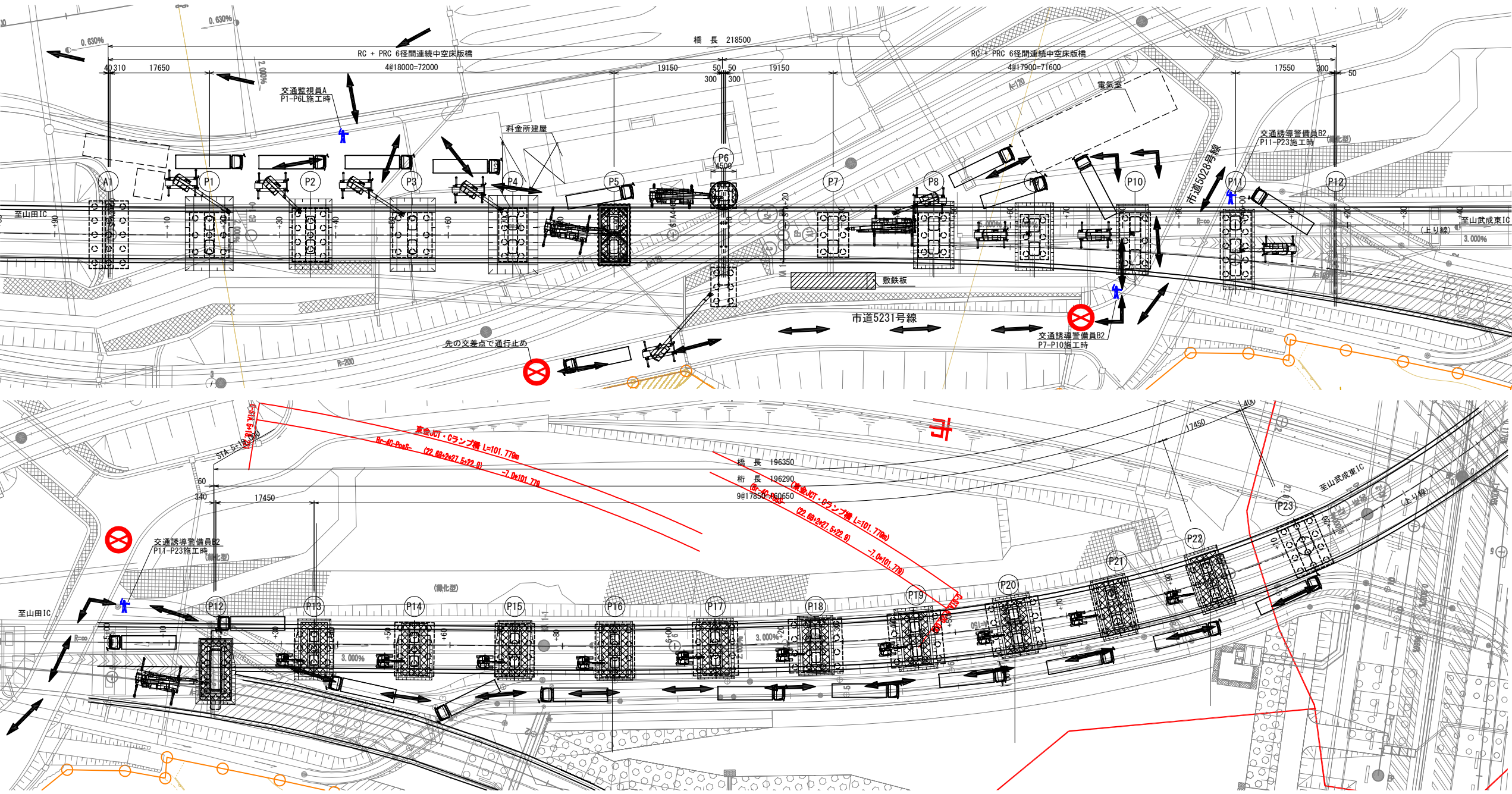
既存塗膜との境界部の処理



注記) 本図は、竣工図書をもとに作成したものである。
寸法値は参考寸法とし、施工の際には現地調査を
実施の上、決定すること。

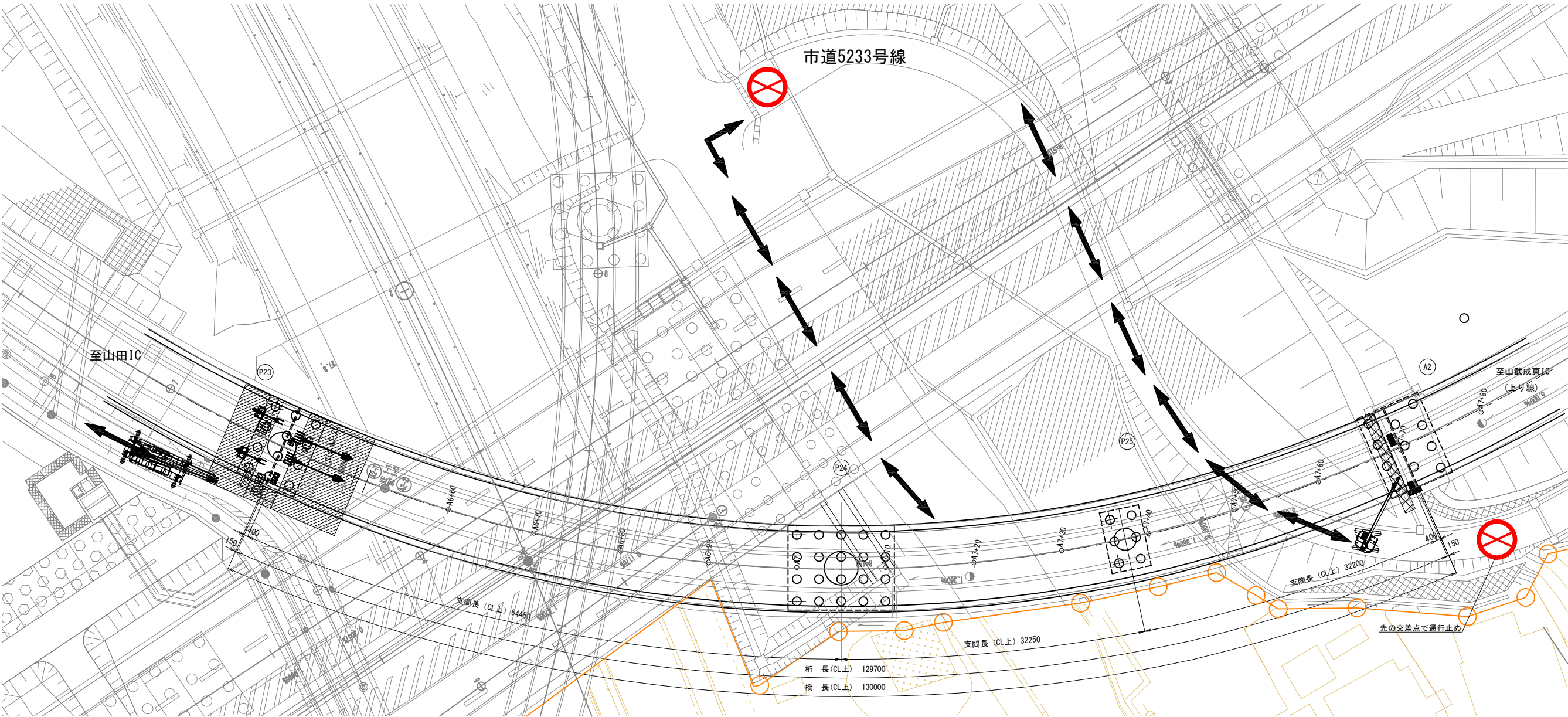
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋附属橋脚施工			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚(P24側) 桁端切欠き工図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 関東支社 市原管理事務所		

下部工補強施工時 S=1 : 800



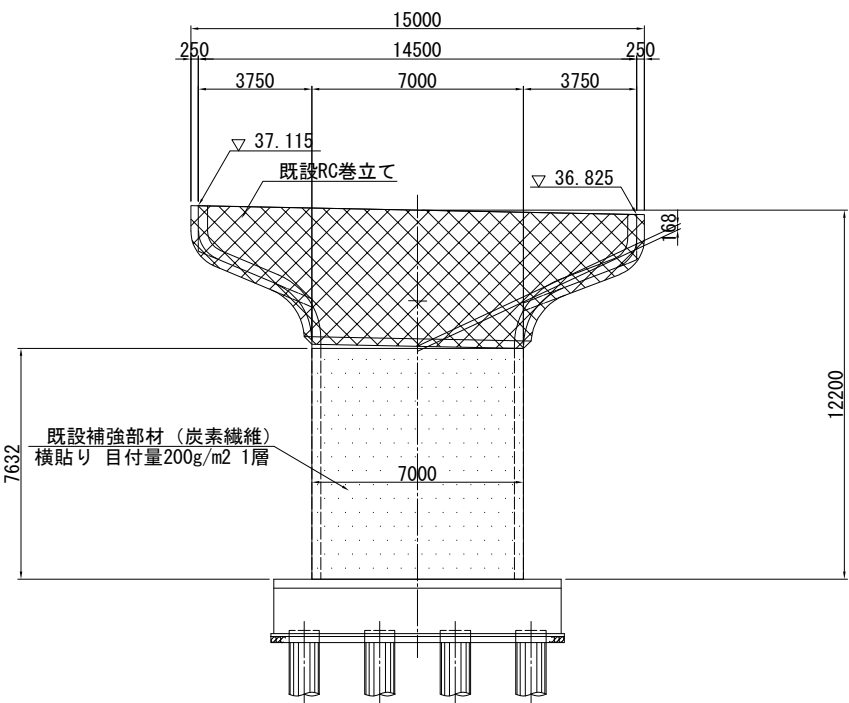
首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	交通保安要員配置図(その1)(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

落橋防止システム設置時 S=1 : 500

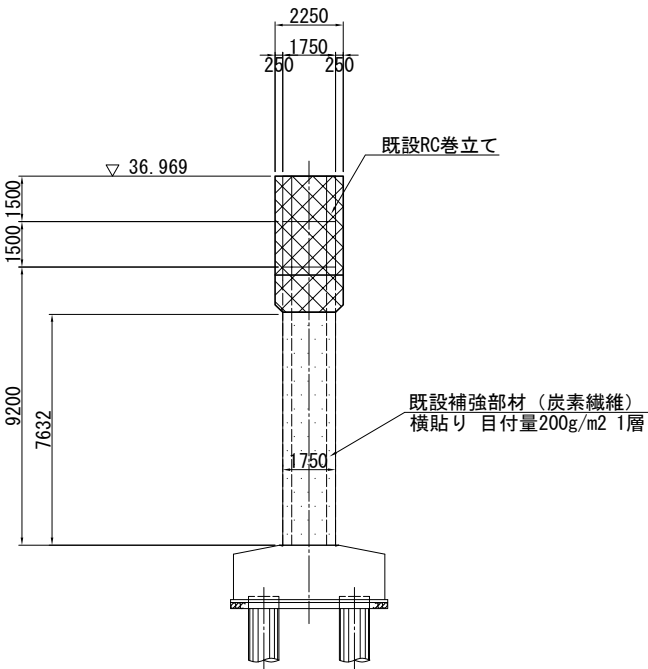


首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋		
	交通保安要員配置図(その4)(参考図)		
縮 尺	図示	図面番号	/
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

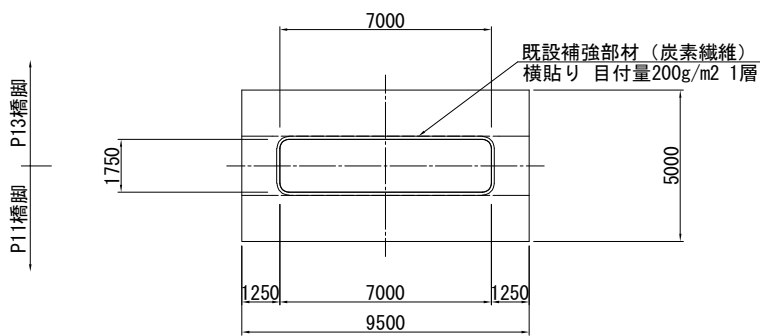
正面図



側面図



平面図

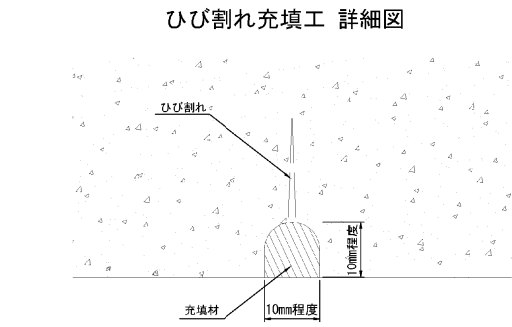
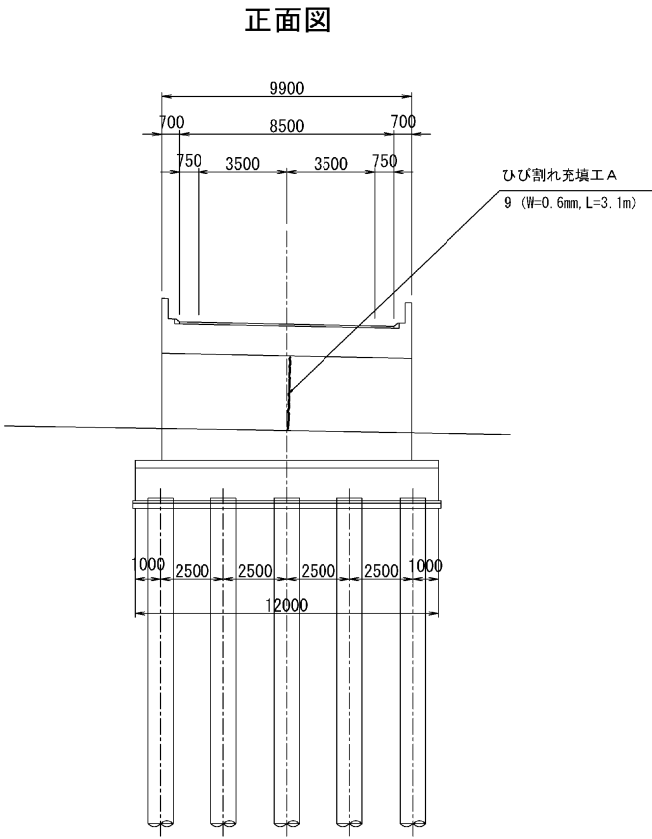


- 凡例
- 既設RC巻立て補強
 - 既設炭素繊維補強

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P12橋脚		
	既設炭素繊維巻立て撤去工図（参考図）		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 A1橋台 補修図

S=1:250



ひび割れ充填工 A 数量内訳表

損傷 番号	部材名	ひび割れ		箇所	ひび割れ 延長 (m)	備考
		幅 (mm)	長さ (m)			
9	橋台前面	0.6	3.1	1	3.1	
合計				1	3.1	

数量表

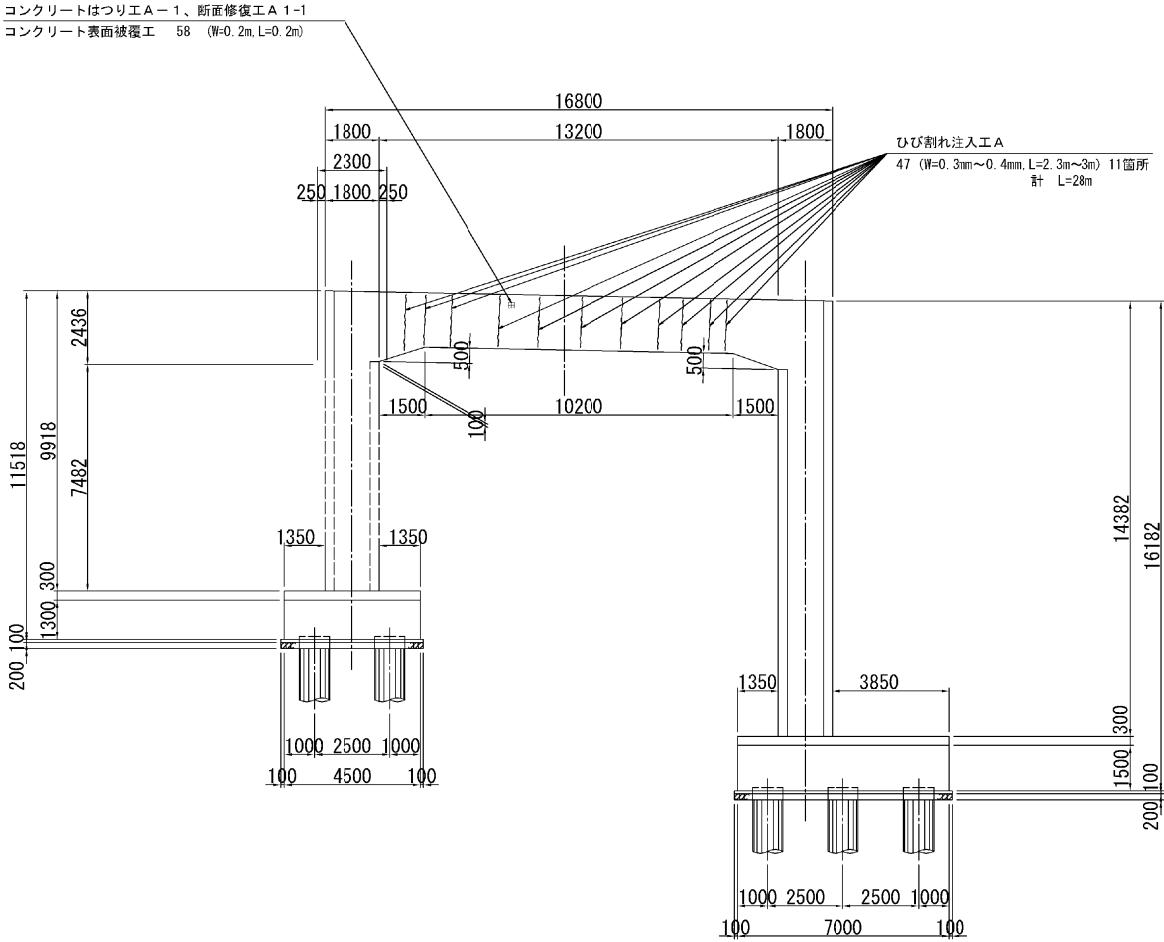
項目	単位	数量
ひび割れ充填工 A	m	3.1

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 A1橋台 補修図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

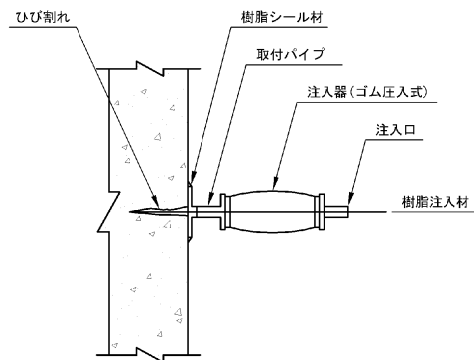
東金IC Aランプ橋 P6橋脚 補修図

S=1：250

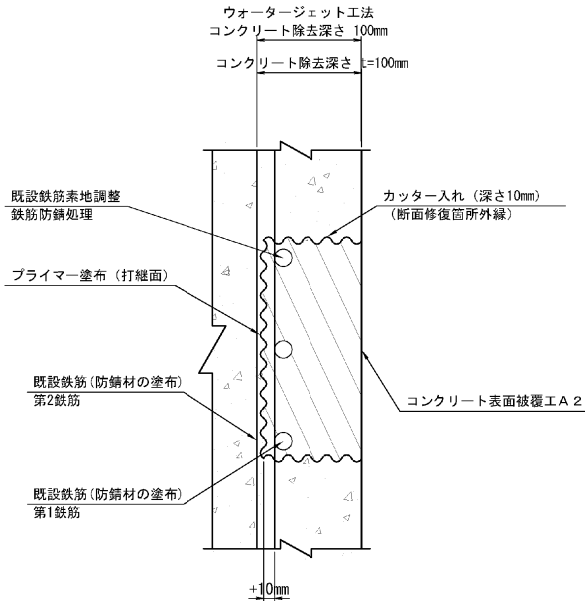
正面図



ひび割れ注入工 詳細図 (参考図)



断面修復工 詳細図



コンクリートはつリエA-1、断面修復工A 1-1、表面保護工 コンクリート表面被覆工 数量内訳表

損傷 番号	部材名	損傷形状	補修寸法			箇所	カッター 延長 (m)	面積 (㎡)	体積 (L)	はつり WJ 工法		備考
			幅 (m)	長さ (m)	深さ (m)					数量 (㎡)		
										数量 (㎡)	深さ (m)	
58	橋脚受梁	200×200	0.200	0.200	0.100	1	0.800	0.040	4.000	0.040	0.100	
合計						1	0.800	0.040	4.000	0.040	0.100	

合計	箇所	1
	カッター延長 (m)	0.800
	コンクリートはつリエA-1 (m3)	0.004
	断面修復工A 1-1 (L)	4.000
	コンクリート表面被覆工 (㎡)	0.040

ひび割れ注入工A 数量内訳表

損傷 番号	部材名	ひび割れ		箇所	ひび割れ 延長 (m)	備考
		幅 (mm)	長さ (m)			
47	橋脚受梁	0.3~0.4	2.3~3.0	11	28.0	
合計					11	28.0

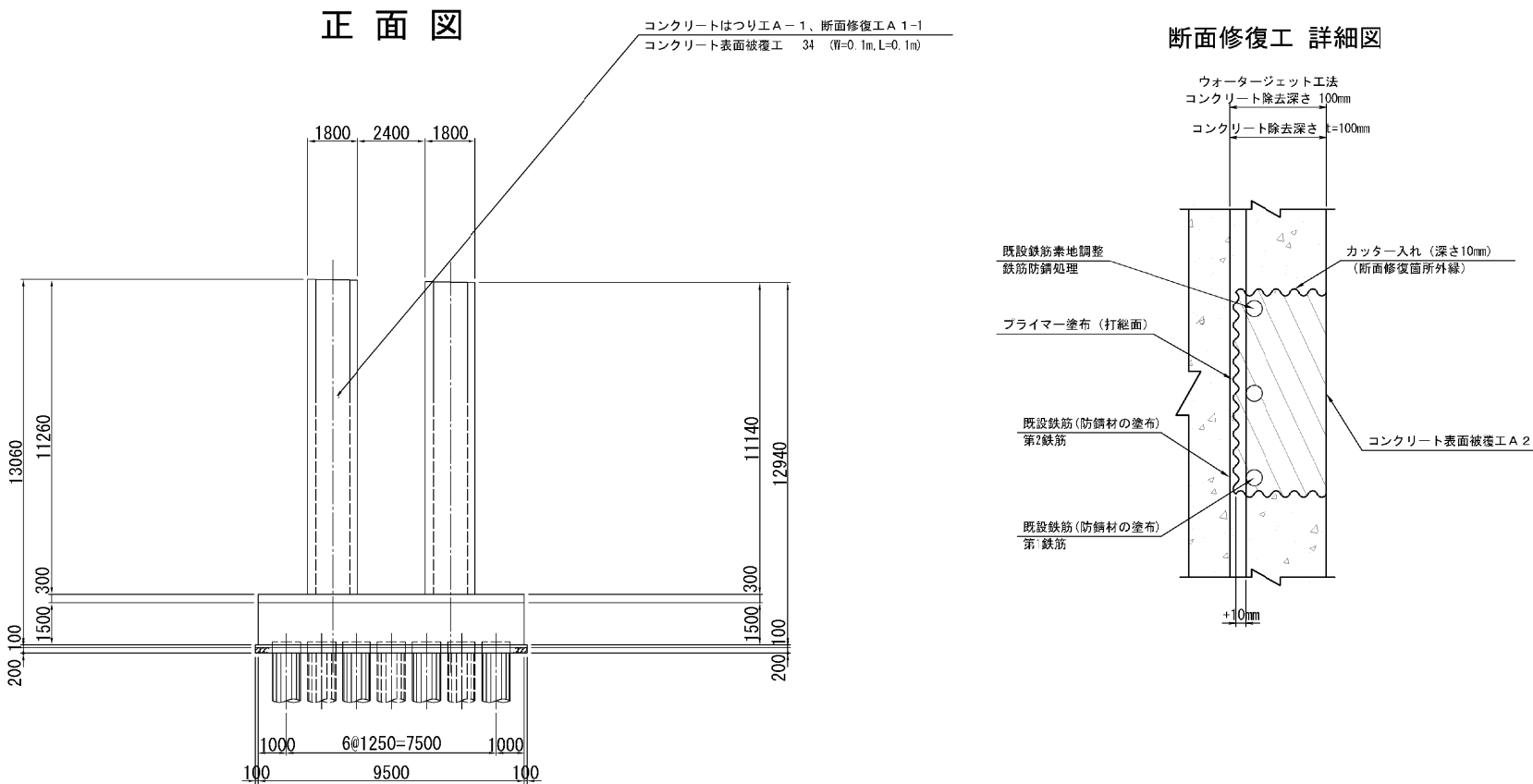
数量表

項目	単位	数量
ひび割れ注入工A	m	28.0
コンクリートはつリエA-1	m3	0.004
断面修復工A 1-1	L	4.000
表面保護工 コンクリート表面被覆工	㎡	0.040

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P6橋脚 補修図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

東金IC Aランプ橋 P14橋脚 補修図

S=1:250



コンクリートはつり工 A-1、断面修復工 A 1-1、表面保護工 コンクリート表面被覆工 数量内訳表

損傷 番号	部材名	損傷形状	補修寸法			箇所	カッター 延長 (m)	面積 (m ²)	体積 (L)	はつり WJ 工法 数量 (m ²)		備考
			幅 (m)	長さ (m)	深さ (m)					数量 (m ²)	深さ (m)	
34	橋脚	100×100	0.100	0.100	0.100	1	0.400	0.010	1.000	0.010	0.100	
合計						1	0.400	0.010	1.000	0.010	0.100	

合計	箇所	1
	カッター延長 (m)	0.400
	コンクリートはつり工 A-1 (m ³)	0.001
	断面修復工 A 1-1 (L)	1.000
	コンクリート表面被覆工 (m ²)	0.010

数量表

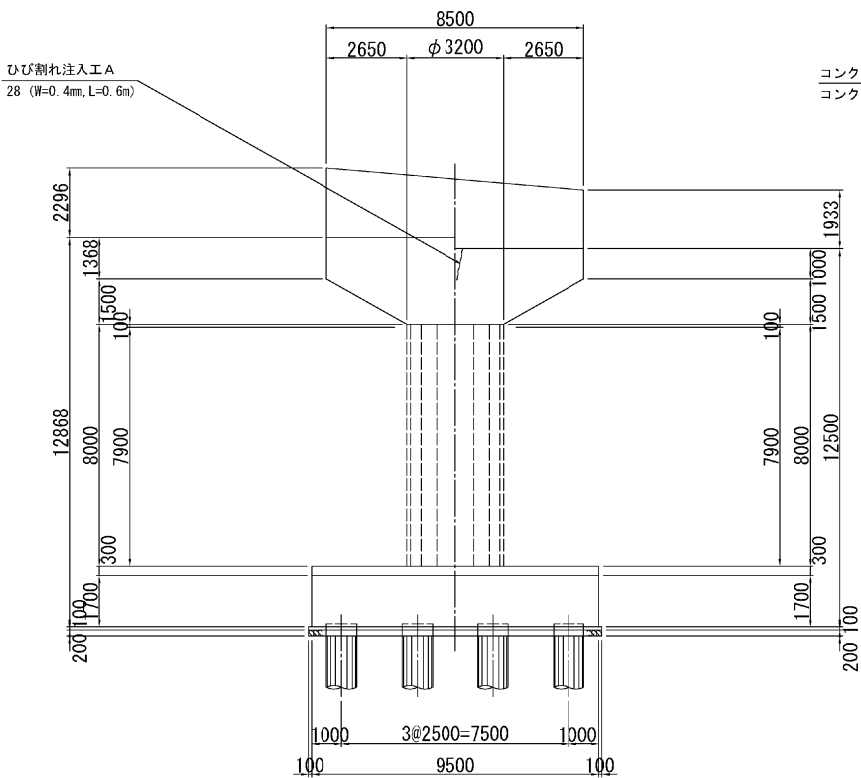
項目	単位	数量
コンクリートはつり工 A-1	m ³	0.001
断面修復工 A 1-1	L	1.000
表面保護工 コンクリート表面被覆工	m ²	0.010

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P14橋脚 補修図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		

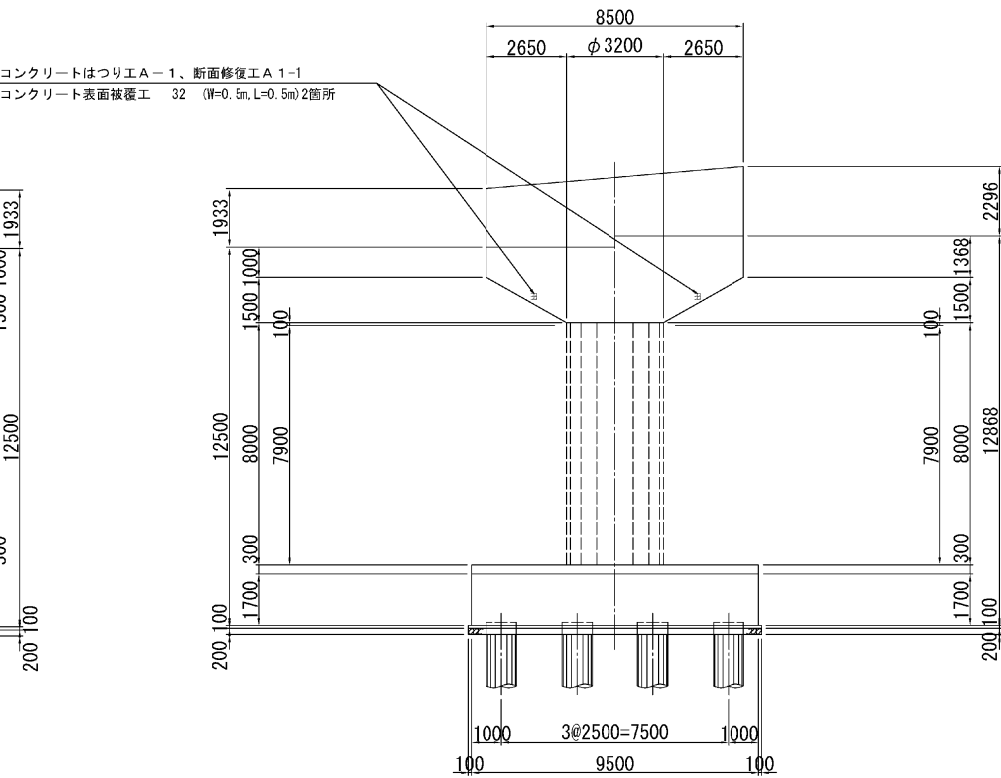
東金IC Aランプ橋 P23橋脚 補修図

S=1:250

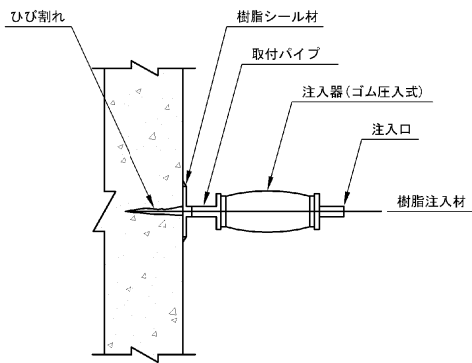
正面図



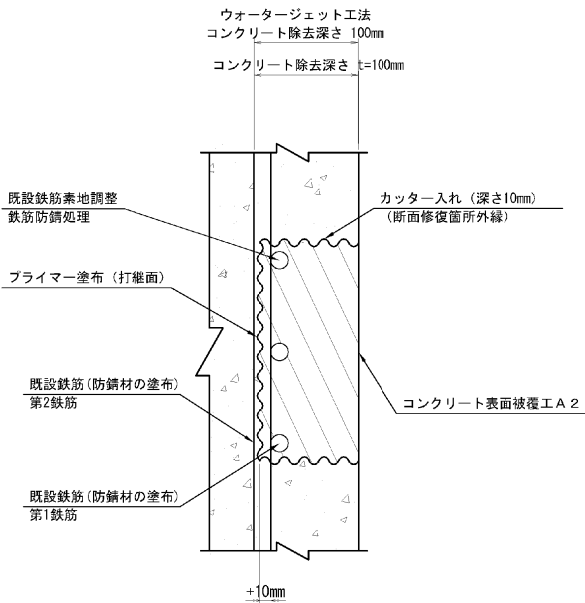
背面図



ひび割れ注入工 詳細図 (参考図)



断面修復工 詳細図



コンクリートはつり工A-1、断面修復工A1-1、表面保護工 コンクリート表面被覆工 数量内訳表

損傷番号	部材名	損傷形状	補修寸法			箇所	カッター延長 (m)	面積 (㎡)	体積 (L)	はつり WJ 工法 数量 (㎡)		備考
			幅 (m)	長さ (m)	深さ (m)					数量 (㎡)	長さ (m)	
15	橋脚張出梁	500×500	0.500	0.500	0.100	2	2.000	0.250	25.000	0.250	0.100	
合計						2	2.000	0.250	25.000	0.250	0.100	

合計	箇所	2
	カッター延長 (m)	0.06
	コンクリートはつり工A-1 (m3)	0.025
	断面修復工A1-1 (L)	25.000

ひび割れ注入工A 数量内訳表

損傷番号	部材名	ひび割れ		箇所	ひび割れ延長 (m)	備考
		幅 (mm)	長さ (m)			
28	橋脚前面	0.4	0.6	1	0.6	
合計				1	0.6	

数量表

項目	単位	数量
ひび割れ注入工A	m	0.6
コンクリートはつり工A-1	m3	0.025
断面修復工A1-1	L	25.000
表面保護工 コンクリート表面被覆工	m	0.250

首都圏中央連絡自動車道 戸田高架橋耐震補強工事			
図面の種類	東金IC Aランプ橋 P23橋脚 補修図		
縮 尺	図示	図面番号	／
設計会社名	日本工営株式会社		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路 株式会社 関東支社 市原管理事務所		